

#### 4. 第10b層～第13b層—弥生時代水田の調査—

当地区では、弥生時代の水田面が3面確認されている。それらの作土層は有機物を多く含んだ地層（黒色泥層、暗色帯）で、上から順に、「1黒」、「2黒」、「3黒」と呼ばれていた。これらは、標準層序の第11-2a層、第12-1a層、第13a層にあたり、それぞれの地層上面で検出された水田遺構の時期は、弥生時代後期、中期後半、前期末～中期初頭と推定されている。特に第11-2a面は遺存状況がよく、弥生時代水田の灌漑システムを明らかにできる資料として注目されている。

当地区では、第13a面よりも古い水田遺構は検出されなかった。しかし、第13b層から木製農具や石庖丁が出土したことで、さらに古い水田が周辺に存在すると推定されていた。その後、池島I期地区において第14-2a面で水田遺構が検出され、その想定は裏付けられた。

各面における遺構配置については、調査の進展に合わせて検討が加えられてきたが、地形形成と土地利用との関係は十分に整理されてこなかった。これは、それぞれの面ごとに検討がおこなわれ、地層の検討にもとづく地形形成過程の復原作業がおこなわれなかったことに起因している。

ここでは、各面で確認された人間活動の痕跡について、遺構・遺物、および両者の関係に着目して検討したい。また、第13b層から第10b層堆積に至るまでの地形形成過程を検討し、弥生時代における地形形成と土地利用の関係を整理したい。

##### 4-1. 弥生時代後期

**第10b層** 古墳時代～古代の微地形の成因となった砂礫層である。この砂礫層は、第11-2a面～第11-1面の流路1・2を埋める流路堆積物、流路1からの破堤堆積物、流路1・2から供給された氾濫堆積物によって構成されている。

なお、89-3調査区において第10b面で検出された「自然流路1・2」は、第10b層堆積の最終段階に砂礫層上面が水流によって溝状に削られ、その部分が細粒の堆積物によって埋積されたものであり、第10b層最上部とした。

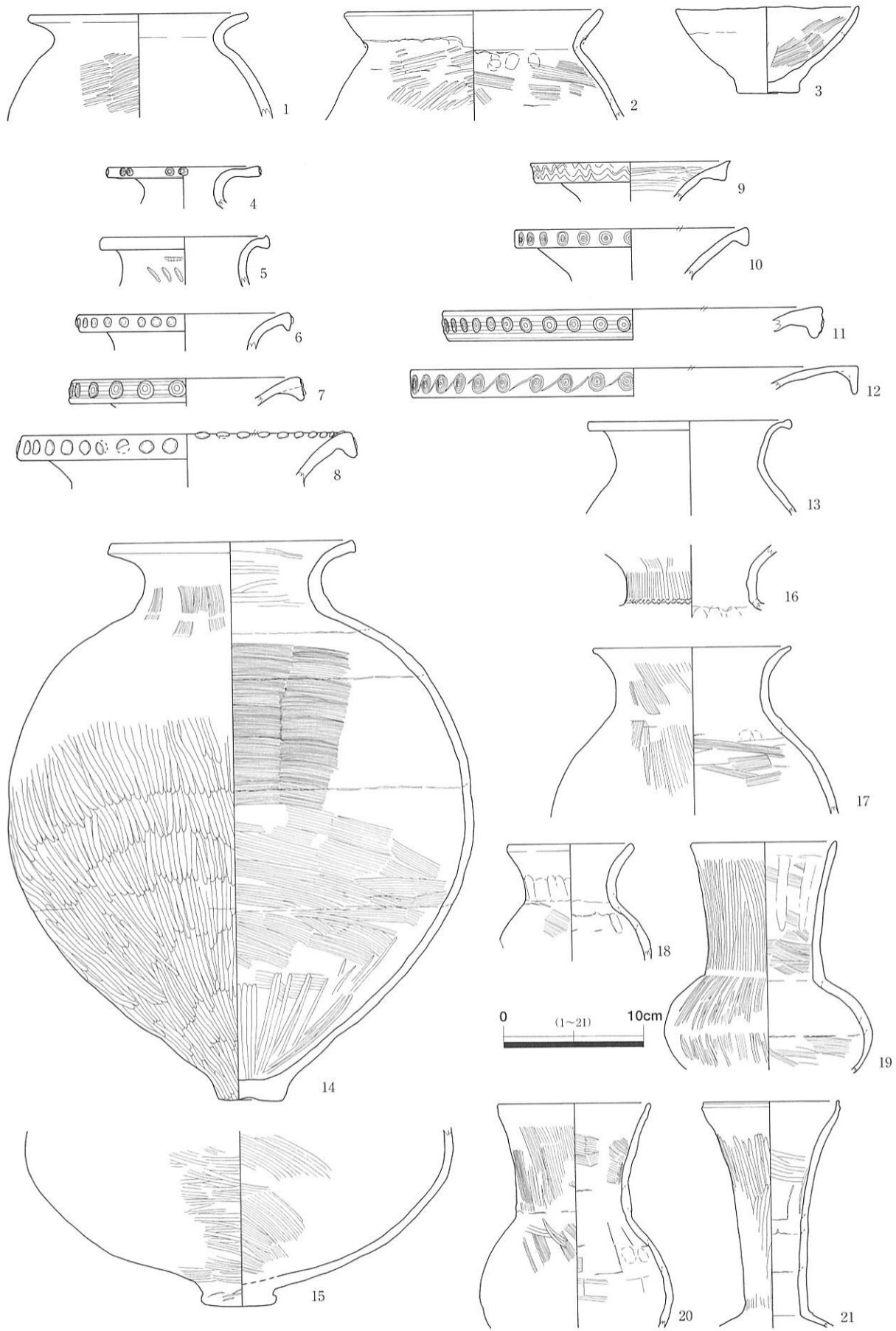
次に、第10b層から出土した遺物を挙げる。

第10b層最上部からは、弥生土器甕（図IV-122：1・2）・鉢（3）等が出土した。第V～VI様式のものである。

第10b層からは多数の遺物が出土した（図IV-122：4～IV-126：103）。その大半は、第11-2a面～第11-1面に存在していた流路1を埋める流路堆積物に含まれていた。流路1出土遺物は第11-2a面の記述のほうにも掲載しているが、ここに掲載したのは流路堆積物の上部から出土したものである。

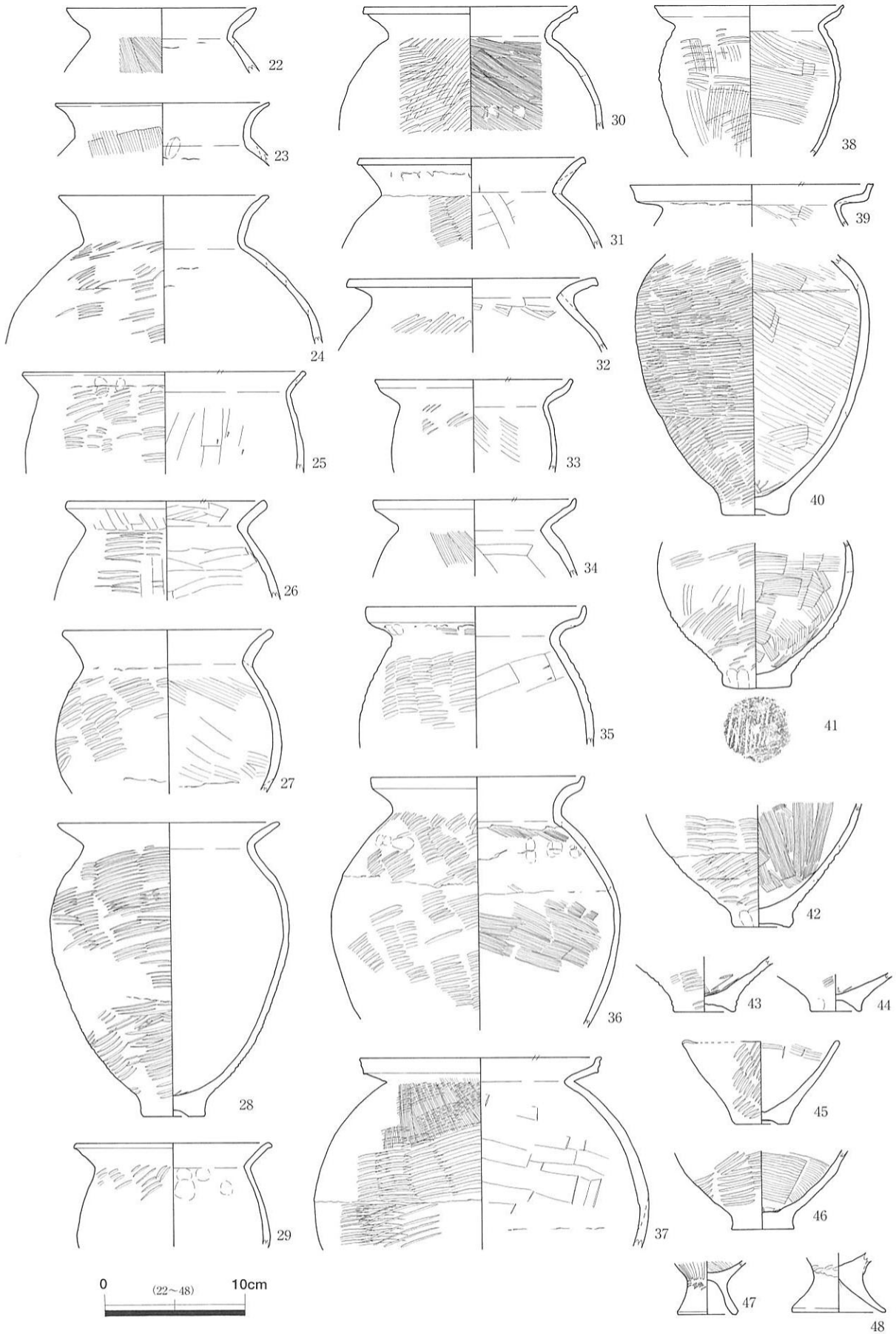
弥生土器壺（4～8、13～16）・短頸壺（17・18）・長頸壺（19・20）・細頸壺（21）・器台ないし壺（9～12）・甕（22～42）・底部（43～46）・甕脚（47・48）・高杯（49～55）・鉢ないし甕（56）・鉢（57～76）・手焙形土器（77・78）・器台（79・80）・ミニチュア鉢（81～83）等が第V～VI様式のもので、第V様式の方がやや多い感じである。それに縄文土器深鉢（長原式）（84・85）、弥生時代前期の壺（86・87）・甕（88～91）・鉢（92）、中期の壺（93）・高杯（94）等が出土した。その他の遺物として、土製紡錘車（95）、サヌカイト剥片（96～98）、木製品（99～103）が出土した。

器台ないし壺（12）の口縁端部には連続渦文が施されている。甕（41）には外底面にもタタキを施している。底部（45）は擬似口縁である。（70）・（74）は有孔鉢であり、（74）は小穿孔が10個施されている。鉢（75）は近江系で、口縁端部に刻目、肩部に直線文（5条）、列点文（4条？）を施している。手

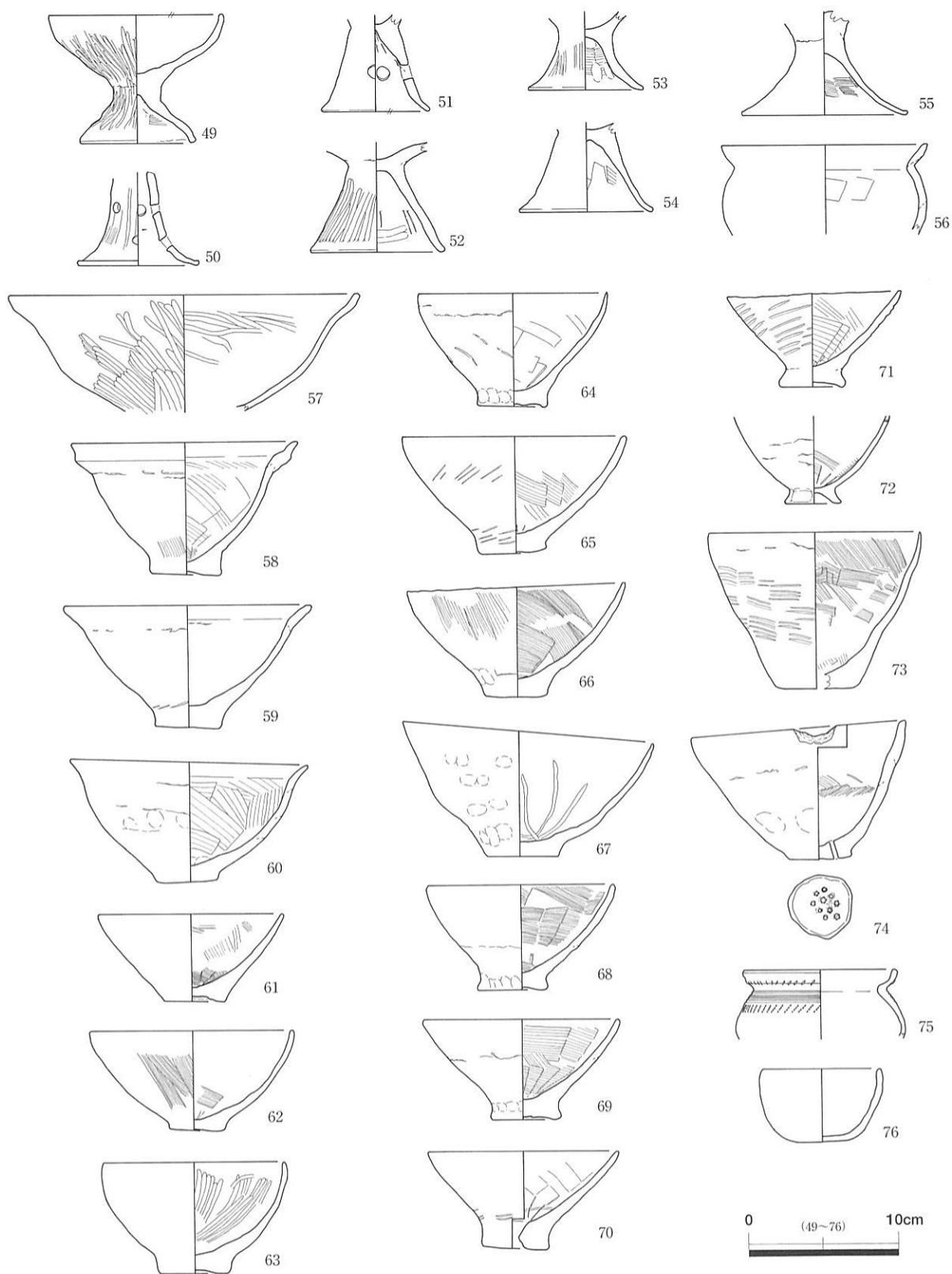


图IV-122 第10b层出土遗物①

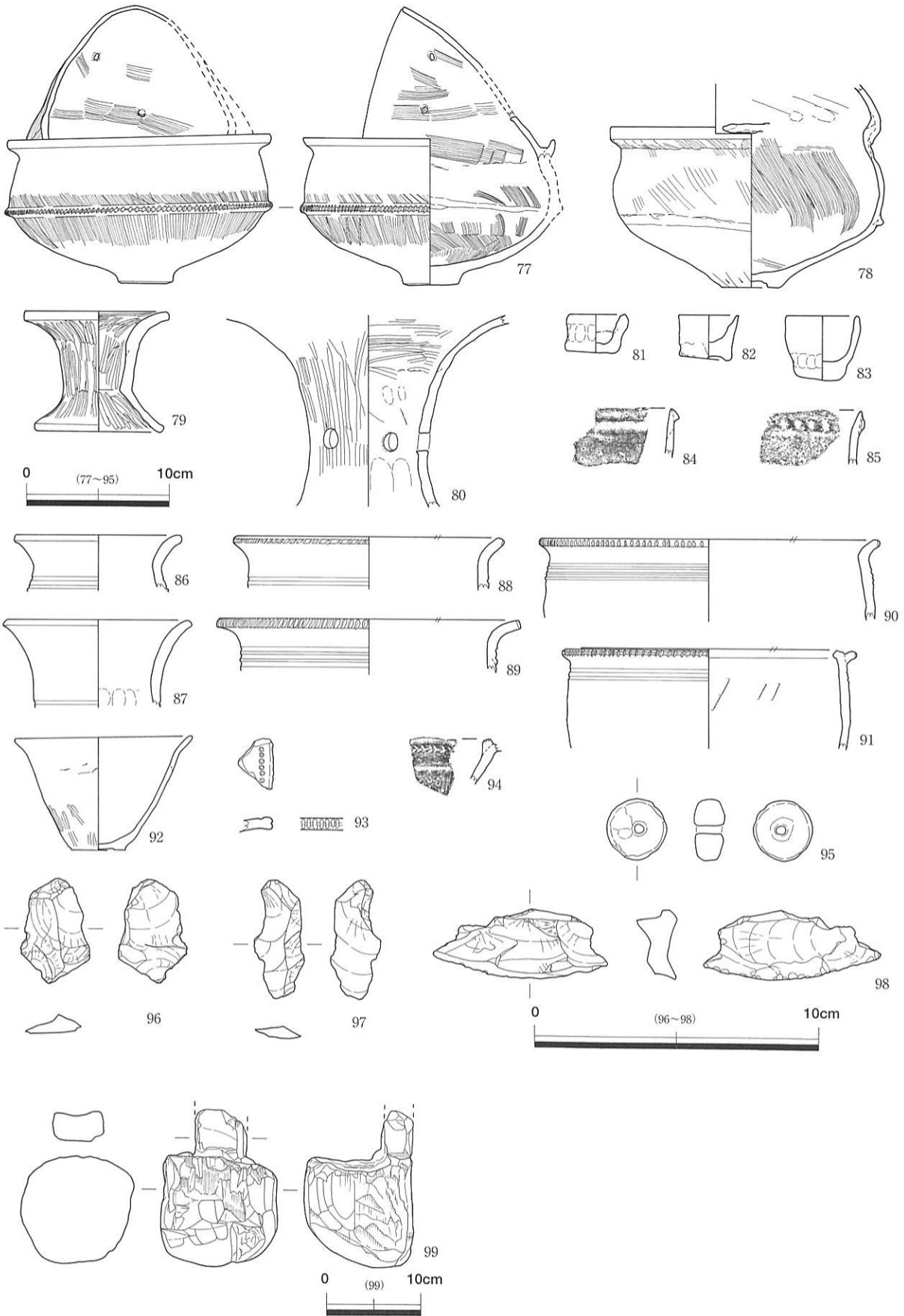




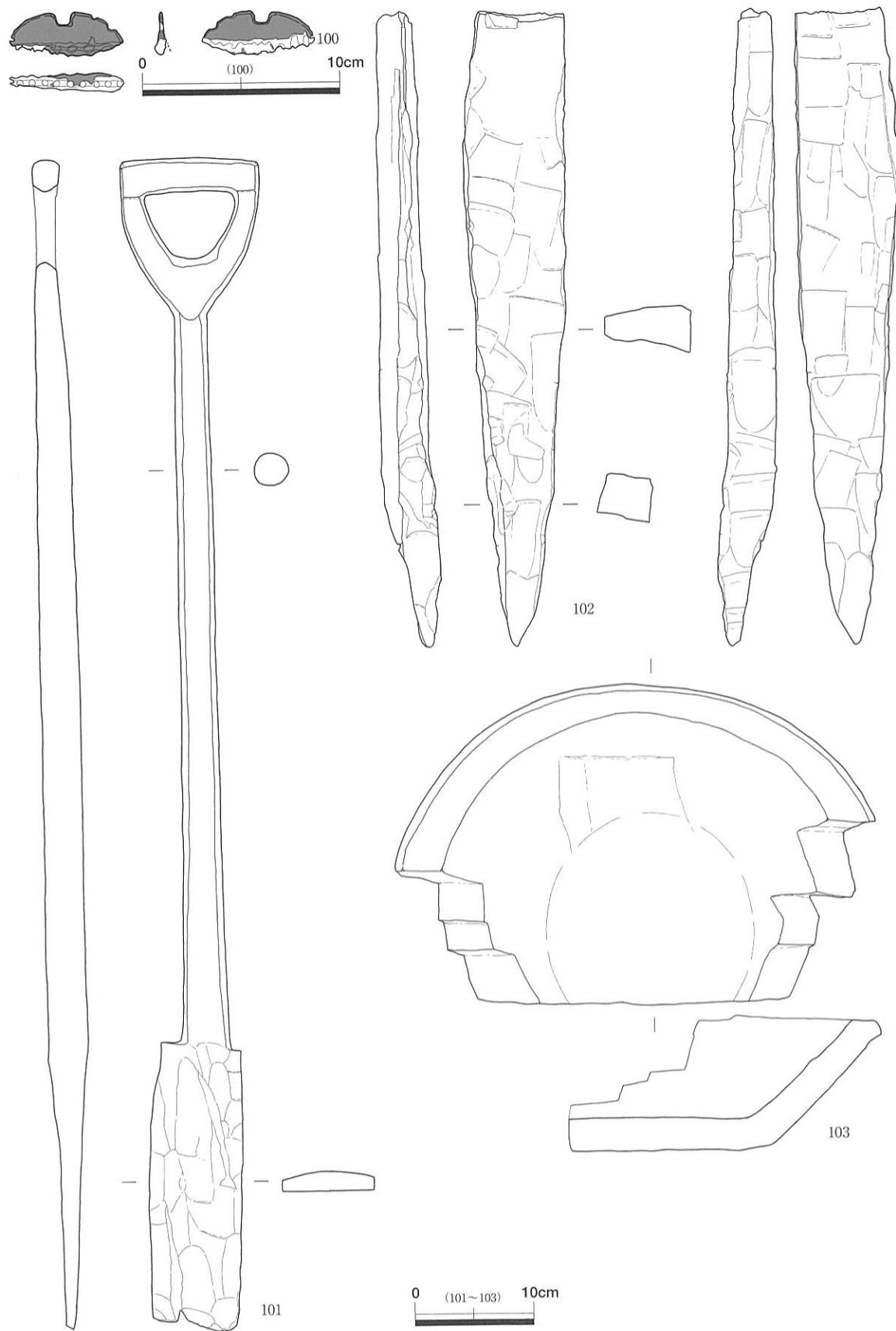
図IV-123 第10b層出土遺物②



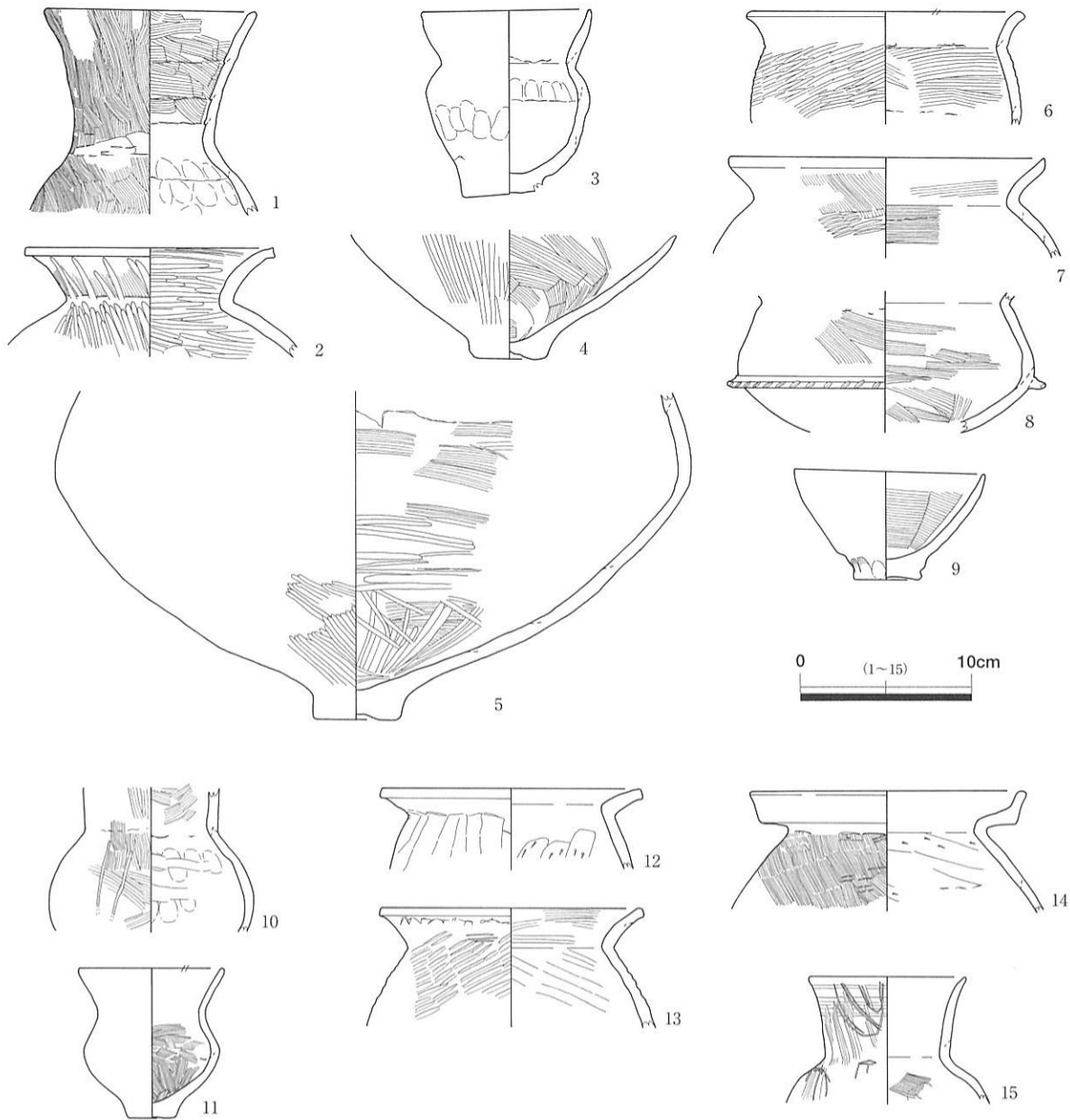
图IV-124 第10b层出土遗物③



図IV-125 第10b層出土遺物④



图IV-126 第10b层出土遗物⑤



図IV-127 第10b層関連出土遺物

1～9：第10b層（砂）ないし流路周辺の微高地、10～14：第10b層（砂）～第11-2a層、15：出土地不明

焙形土器（77）は覆部に穿孔が3個現存していて、内外面に煤が付着している。手焙形土器（78）の内面には覆部をつけた時の粘土痕が残っている。

木製品は杓子状未製品（99）、堅櫛（100）、鋤（101）、杭（102）、鉢（103）である。杓子状未製品の樹種はヤマグワである。堅櫛は結歯式で、櫛歯は10本あり、赤漆が塗られている。鋤は一本作りである。鋤は現在、残念ながら自然乾燥している。

また、第10b面の遺構を探して精査を繰り返した過程で出土し、流路1の両脇に存在する微高地直上ないし第10b層に含まれていたと考えられる遺物には、次のようなものがある（図IV-127: 1～9）。弥生土器長頸壺（1）・小形長頸壺（3）・壺（2・4・5）・甕（6・7）・手焙形土器（8）・鉢（9）等である。第V～VI様式のもので、第VI様式のものの方が多い。

なお、90-1調査区において先行トレンチの掘削中に出土し、第10b層（砂）～第11-2a層のいずれかの地層から出土したと考えられるものには、次のようなものがある（図IV-127：10～15）。弥生土器長頸壺（10）・小形長頸壺（11）・甕（12～14）等で、第V～VI様式のものである。長頸壺胴部にはヘラ記号が施されている。また、（15）には口縁部と肩部に線刻が施されているが、何を表しているのか不明である。

以上のような遺物からみて、第10b層は弥生時代後期後半に堆積したと推定される。

**第11-1面** 第10b層を除去して検出された面である。ただし、第11-2a面で微高地となっていた部分では、第11-1層はほとんど存在していなかった。また、第11-2a面（下）が認識された範囲では、第10b層が直接第11-2a面（上）を覆っており、この層は堆積していなかった可能性が高い。このことからみて、第11-2a面で検出された水田ブロックのいくつかは、この面まで継続していた可能性もある。この面では多くの足跡が検出されているが、上部が土壌化した状況はあまり確認できない。しかしながら、層厚が厚い当地区南東部では、灰色と青灰色のシルトがブロック状に混じる状況が確認されており、第10b層堆積時に上部が侵食された部分もあると思われる。

この面に帰属する遺構は少ないが、いくつか注目すべきものが含まれている。まず、流路1右岸に設けられた護岸杭列1は、従来第11-2a面の遺構とされてきた。この杭列は流路1右岸の破堤によって生じたクレバスの前面に設けられたものであるが、北側のX=-150,240ラインの断面を検討すると、第10b層下部にシルト～粘土のブロックを含む部分がある。クレバスから放射状にのびる侵食痕（図IV-134参照、概要Iでは一部しか図示されていない）からみて、このブロックはクレバスの形成に伴って生じたと考えられる。クレバス形成に伴うと考えられる堆積物はこれ以外には存在しないため、クレバスが生じたのは第11-1面段階ということになる。したがって、護岸杭列1は第11-1面が埋没しつつあった段階に打設されたと考えられる。また、人の足跡列としては、大人のものと考えられる足跡列が3列並び、それを横切る形で子供の足跡と推定される小さな足跡の列が存在する事例が注意される（図版24-3）。これについては、近世の絵画資料をもとにして、子供が農作業を手伝って水田に入る季節を類推し、稲刈りの作業に伴って形成されたものとする推定もなされている（江浦1992a）。

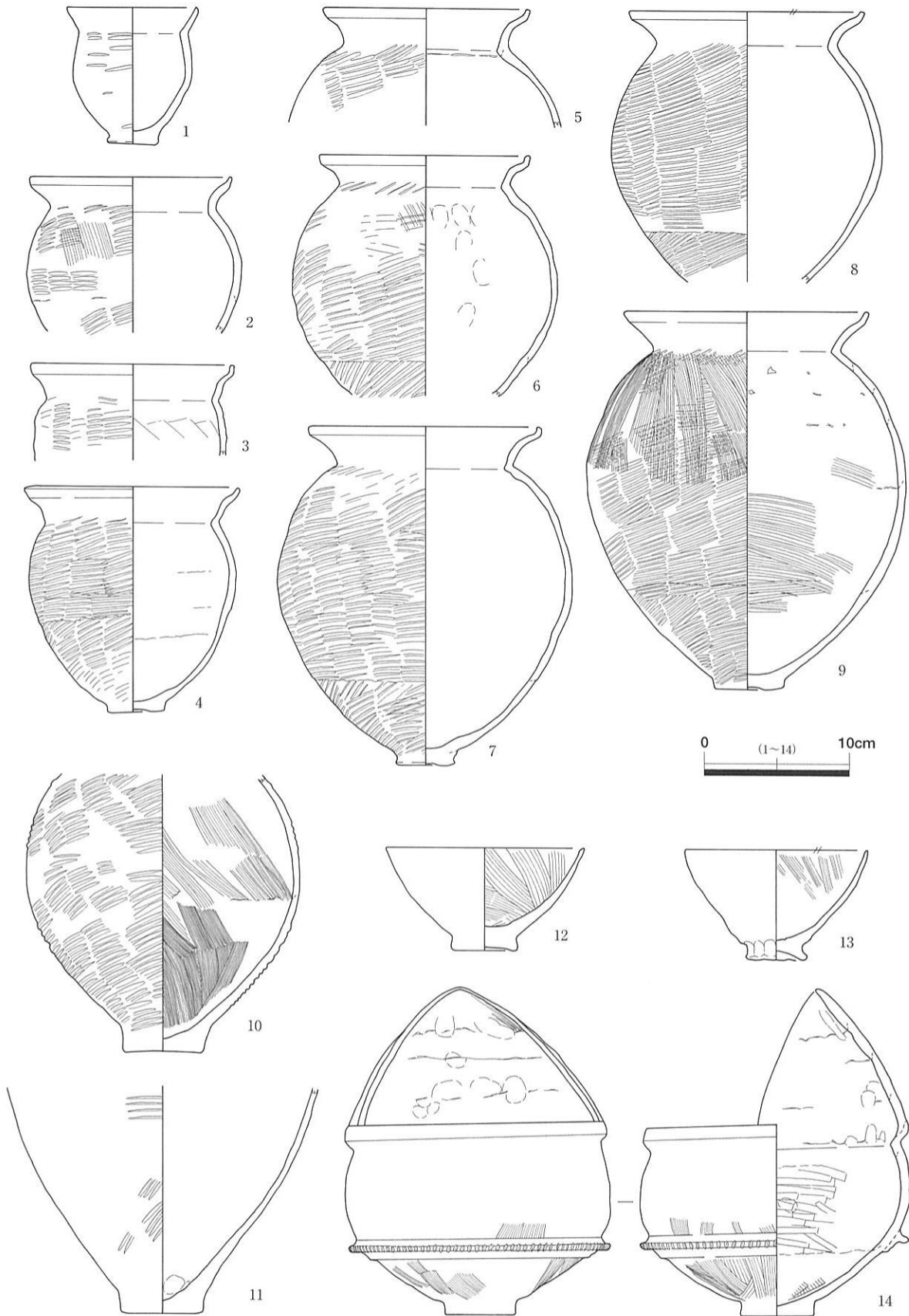
遺物の出土状況としては、92-7調査区出土の土器群が注目される。これは第10b面から出土したとされている（概要XIV, p.57）が、出土状況写真（図版24-2）と隣接地の断面写真（図版24-1）を比較すれば、これらの土器が灰色と青灰色のシルトブロックが混じる地層、すなわち第11-1層上面から出土したことは明らかである。

なお、この面の精査段階に、農耕具痕が検出された場所もあった（江浦1992）。農耕具痕の形成過程については第12-1a面の記述の中で検討するが、これらは第11-1面段階のものではなく、シルトの上に砂が一定程度堆積した段階における人間活動の痕跡と考えられる。

次に、第11-1面に関連する遺物を列挙する。第11-1面直上から出土した土器群には、弥生土器小形甕（図IV-128：1）・甕（2～9）がある。甕は第V-3様式から第VI様式にかけてのもので、同一時期のものと思われる。いずれも平行タタキ（2～3条/cm）を施している。

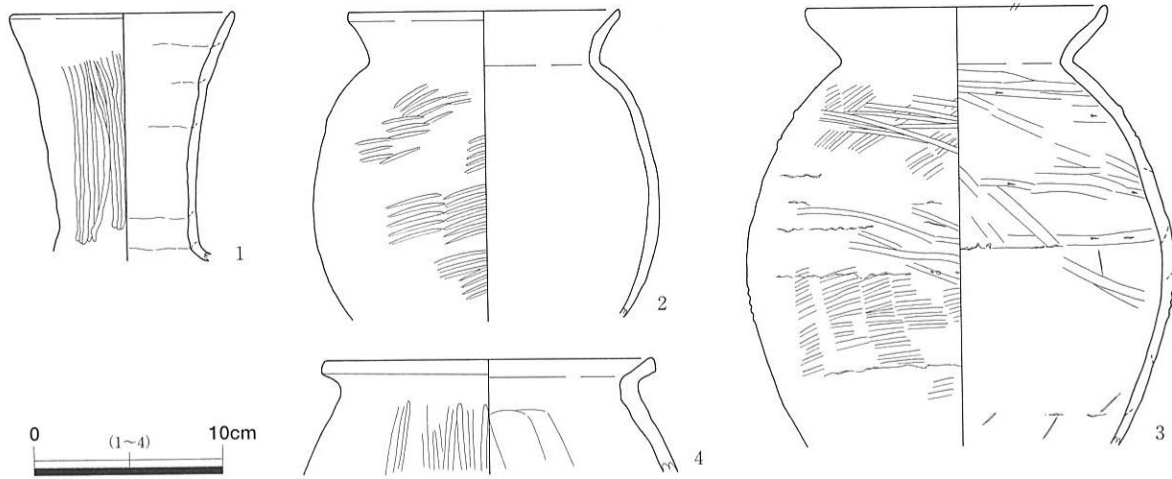
その他、第11-1面精査中に出土した遺物には、弥生土器甕（図IV-128：10・11）・鉢（12・13）・手焙形土器（14）等がある。第V～VI様式のものである。手焙形土器は刻目凸帯を施し、内面に煤が付着している。また第11-1層からは、弥生土器長頸壺（図IV-129：1）・甕（2～4）が出土した。第V-0～VI様式まで、時期幅はやや広い。





図IV-128 第11-1面出土遺物

1~9: 第11-1面直上土器群, 10~14: 第11-1面



図IV-129 第11-1層出土遺物

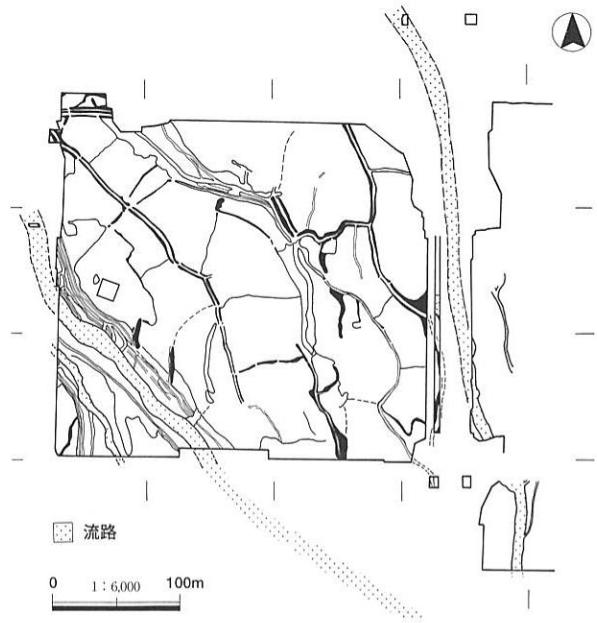
後述するように、第11-2 a面が埋没したのは弥生時代後期後半のことである。そして、第10 b面における最古の遺構（溝9）から出土した器台が弥生時代後期後半のものであること、第11-1面直上土器群も同時期のものと考えられることからみて、第11-1面の時期は弥生時代後期後半代であり、その継続期間はきわめて短かったと考えられる。

**第11-2 a面** 第11-1層ないし第10 b層を除去して検出した面である。従来、『第1黒色泥層（1黒）』の水田面（弥生時代後期水田面）」と呼称されてきた。しかし、「第1黒色泥層」形成後、第11-1層の堆積までに堆積が進行した部分もあり、単純に「第1黒色泥層」上面で遺構が検出されたわけではない。まず、流路1・2の周囲では、「第1黒色泥層」形成後に砂混じりシルトが堆積して微高地が形成された。この微高地は人為的に整形され、その上に水路が掘削された。また、流路2の右岸では砂や泥が堆積し、流路の向きが変化したことが判明した。さらに、当地区南東隅では「第1黒色泥層」の上に暗灰色シルト～粘土が堆積し、その後に水路44が掘削されたことが判明した。その周囲では、「第1黒色泥層」上面と暗灰色シルト～粘土層上面の両方から畦畔が検出された。こうした状況をふまえて、第11-1層ないし第10 b層で覆われた面を第11-2 a面とし、その段階の遺構の状況を図IV-131に示した。なお、「黒色泥層」と呼ばれている地層は、河内平野において弥生時代後期～古墳時代前期に広く形成されたことが判明している。上述したような遺構形成過程や、第11 b面の遺構に第11-2 a面の水田造成以前に属すると考えられるものが含まれていることからみて、「第1黒色泥層」は水田耕作によって形成されたのではなく、黒色泥層形成後、それが水田作土として利用されたと考えられる。

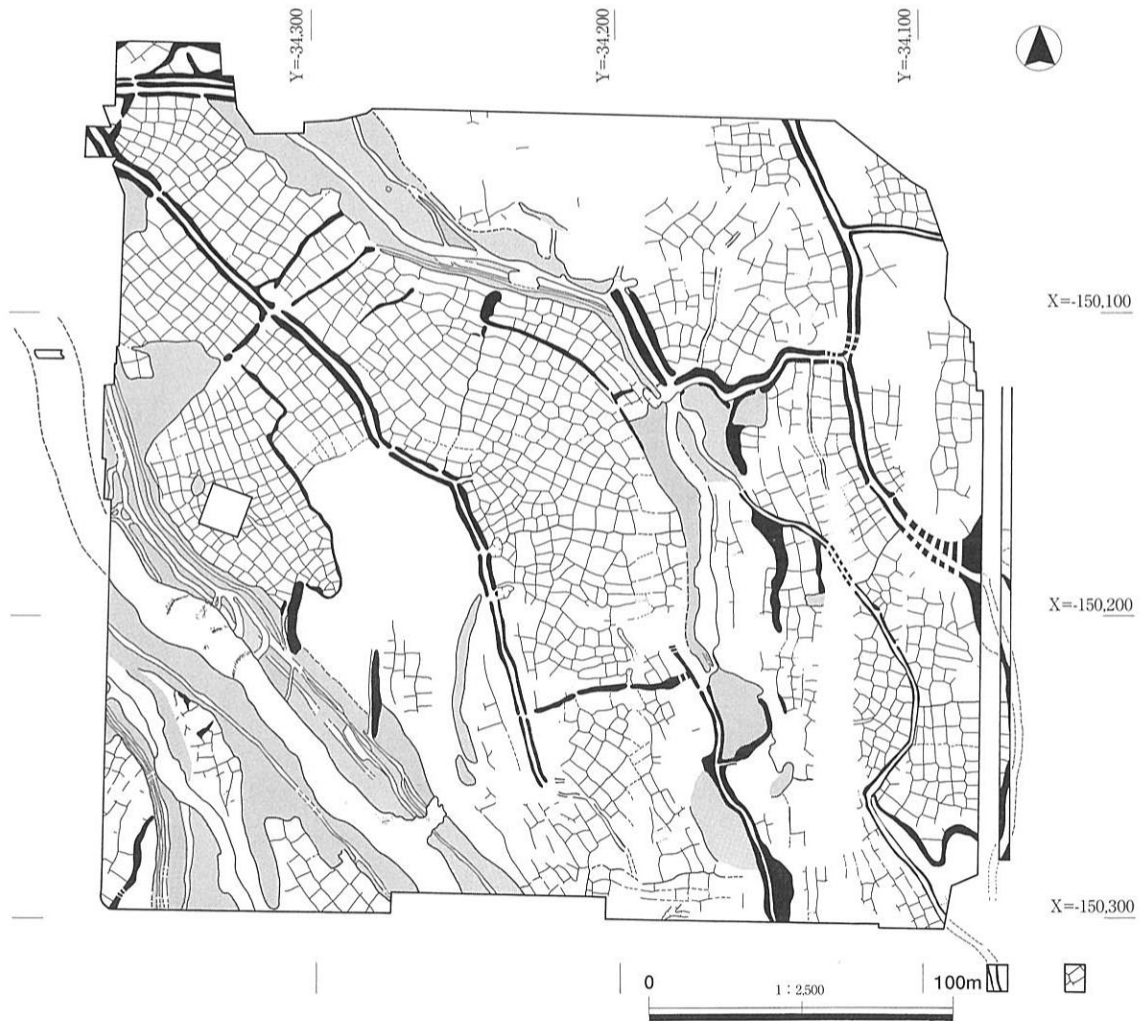
まず、この面における遺構の検出方法について説明する。第11-1層が堆積せず、第10 b層で覆われた部分では、第10 b層の砂を除去することによって、畦畔、水路などの遺構を検出した。しかし、多くの部分では、この面は第11-1層の泥層で覆われていた。第11-1層は攪乱された様子がはっきりせず、有機物の葉層が挟在する部分もあることから、少なくとも下部については人為的な攪乱がおよんでいないと判断した。そこで、第11-1層を中程まで掘削した後、薄く削りながら平面を精査し、第11-2 a面の盛り上がりを検出した（カラー図版11・図版24-6・7）。小畦畔は断面観察では認識しにくい場合も多いが、このような方法を用いることで比較的明瞭に検出できた。

**微地形** 当地区南西部では、南東から北西方向に流れていたと考えられる流路が2つ検出された。この流路の周囲は微高地となっているが、これは流路から供給された砂混じりシルトが「第1黒色泥層」の上に堆積して形成された自然堤防である（図IV-224：⑦）。この微高地は、肩が直線的であることや、

盛土を施した部分も認められることから、人為的に整形されたと考えられる。また、流路2は流路1の埋没に先行して部分的に埋没していた可能性が指摘されている（概要X II, p.121）が、この点については若干の修正が必要である。この部分の断面を示したのが図IV-224:⑧であるが、第11b層中で流路幅が拡大した後、右岸側に砂や泥が堆積し、その上部に「第1黒色泥層」が形成されたことがわかる。これを平面で見ると、右岸側に堆積が生じたことにより、流路の向きがやや西に振ったと推定される。流路2は最終的に砂礫層で埋没しているが、これは第10b層に対比され、流路1・2はほぼ同時に埋没したと思われる。また流路1については、89-3調査区では幅を狭く認識しており、図面上は90-1調査区部分の幅と整合しな



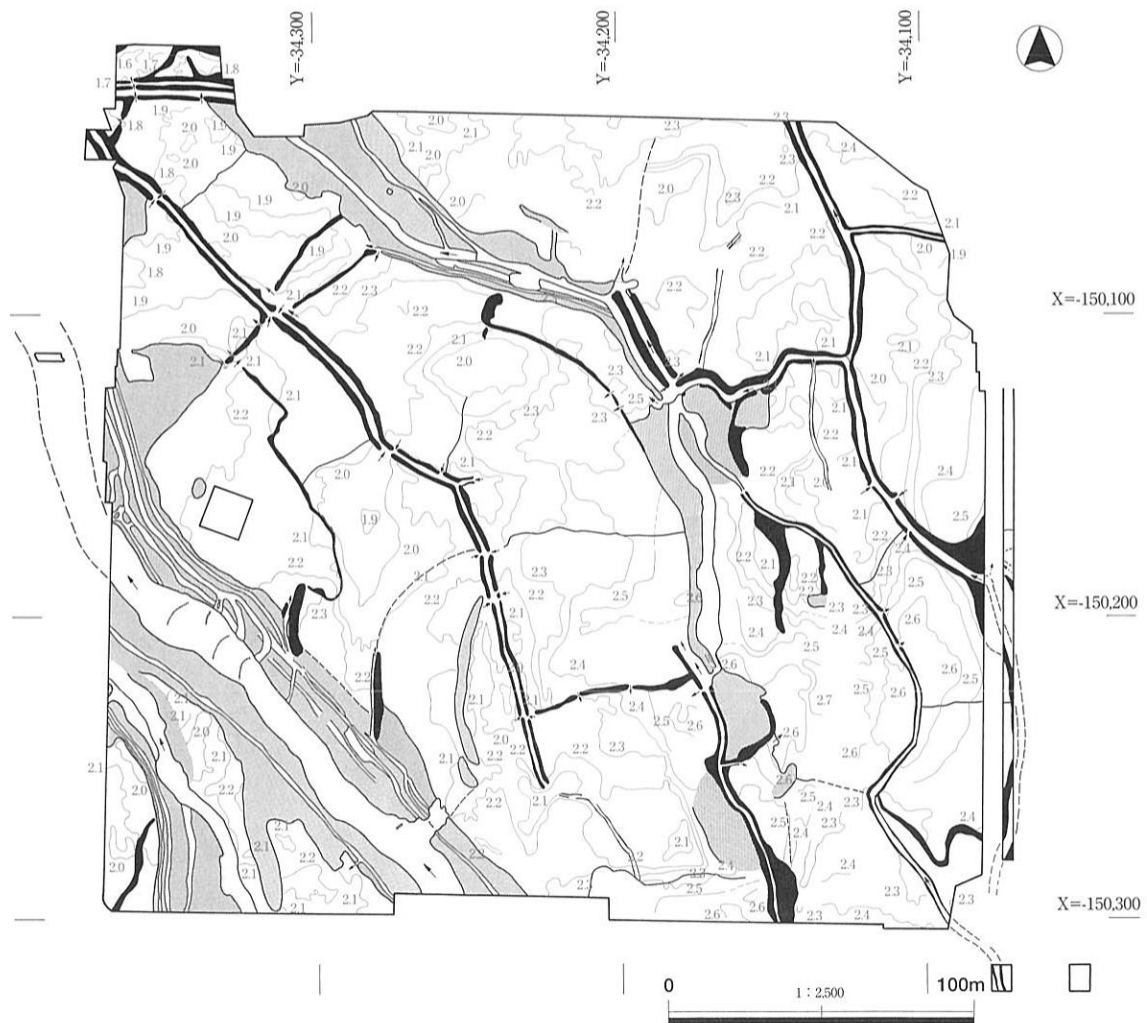
図IV-130 第11-2 a面流路復原図



図IV-131 第11-2 a面平面図

い。図版26-5などを参考にすると、89-3調査区では流路肩部に砂層が側方に付加する形で堆積していたようであり、その砂層の部分掘削しなかったことが原因と考えられる。また、側方に付加する堆積状況からみて、掘削されなかった部分には寄州（ポイントバー）が形成されていた可能性がある。図IV-134には、89-3調査区における流路1の完掘状況と空測時の形状を比較して、寄州が形成されていたと推定される部分を示した。そして、府教委Cトレンチにおける第10b層の断面写真（府発I：図版6下）をみると、西から東に向かって側方に付加する層理が認められ、流路が東側に移動していった様子が読み取れる。しかも、堆積物の傾きから流路の左岸側と考えられるため、これが流路1に連続することは明らかである。その他流路に関連する情報としては、2001年春に実施された恩智川右岸の護岸工事中に、池島高校校舎の西側において観察できた流路断面がある。未調査のため詳細は不明であるが、これも流路1に連続する可能性がある。

遺構配置に不明な点が多かった当地区西端部については、恩智川の対岸にあたる池島I期地区の調査の進展によって、整理の手がかりが得られた。池島I期地区南西部では流路が検出され、右岸側の水田に取水するための堰も確認された。また、この流路は砂礫によって一定程度埋まった後、泥層が堆積して完全に埋没するが、この泥層からは庄内式土器が出土した。これは当地区では検出されていないため、現在の恩智川にあたる部分を横切って、北北西に流れていたと考えられる。さらに、第二寝屋川の北に



図IV-132 第11-2 a面等高線図

表IV-29 第11面遺構名称

(第11-1面)	
遺構番号	概要における遺構番号
護岸杭列1	89-3 木杭護岸
(第11-2a面)	
遺構番号	概要における遺構番号
水路36	86-1 溝9002
水路37	86-1 溝9001
水路38	90-2(H3) 流路1・3
	90-3(B) 水路3
	90-3(C) 水路4
	93-2(A) 溝27
	87-2 溝1501
水路39	90-2(H3) 溝46・80・74・75
水路40	90-3(B) 水路16
水路41	90-3(B)・(C) 水路17
水路42	90-2(H4) 溝160
	93-2(A) 溝26
水路43	90-2(H4) 溝162
	92-6 溝10
水路44	1トレンチ 水路
	88-2 溝1501
	90-6 水路3
	93-2(B) 溝30
	93-2(C) 溝66
水路45	93-2 —
	93-1 水路3
水路46	93-1 水路1
水路47	90-1 流路1
	88-1 溝1301
	90-3(A) 水路5
	89-1 溝32
	89-2 —
89-3 溝76・77	
水路48	90-1 溝1063・721
水路49	90-1 —
水路50	90-1 —
水路51	89-3 溝78
	90-1 —
	90-1 溝724
水路52	89-3 —
水路53	90-1 溝354
水路54	90-1 溝352
水路55	90-1 溝722
水路56	90-1 溝397
	92-7 溝19
水路57	90-1 溝1067
	92-7 溝20
水路58	90-1 溝1069
	92-7 溝21
水路59	90-1 溝1068
	92-7 溝22
流路1	89-3 自然流路
	90-1 流路2
	92-7 流路1
流路2	90-1 流路4
	92-7 流路2
水溜状遺構1	90-3(B) 水溜状遺構1
水溜状遺構2	90-3(B) 水溜状遺構2
水溜状遺構3	90-1 水溜
堰9	90-1 堰3
堰10	90-1 堰2
堰11	90-1 堰1
堰12	90-1 堰4
堰13	89-3 —
堰14	90-2(H3) 堰2
堰15	90-3(B) 堰7
堰16	90-3(C) 堰8
木製導水管1 (ビット16)	90-1 木製導水管
	90-1 ビット2134
大畦畔21	89-2 大畦畔1
	89-3 大畦畔8
大畦畔22	89-3 大畦畔9

あたる92-5調査区では、「第13面」から庄内式甕が出土しており、その平面図に南東-北西方向の破線が記載されている（概要XⅢ，p.24）。これについて詳しい説明はなされていないが、断面写真を検討したところ流路と推定できた。この流路の最終埋没時期は庄内期であると推定されるため、池島Ⅰ期地区で検出された流路に連続する可能性が高い。なお、池島高校東側にあたる池島遺跡第14次調査地点（助東大阪市文化財協会調査）では、古墳時代前期に最終的に埋没する流路が検出されている（井上〔伸〕1996）。不確定要素もあるが、その流路が蛇行して池島Ⅰ期地区の流路に連続する可能性もある。いずれにせよ、この流路の存在からみて、水路38は南東方向にのびるのではなく、府教委87-1調査区の「溝401」に連続すると考えられる。

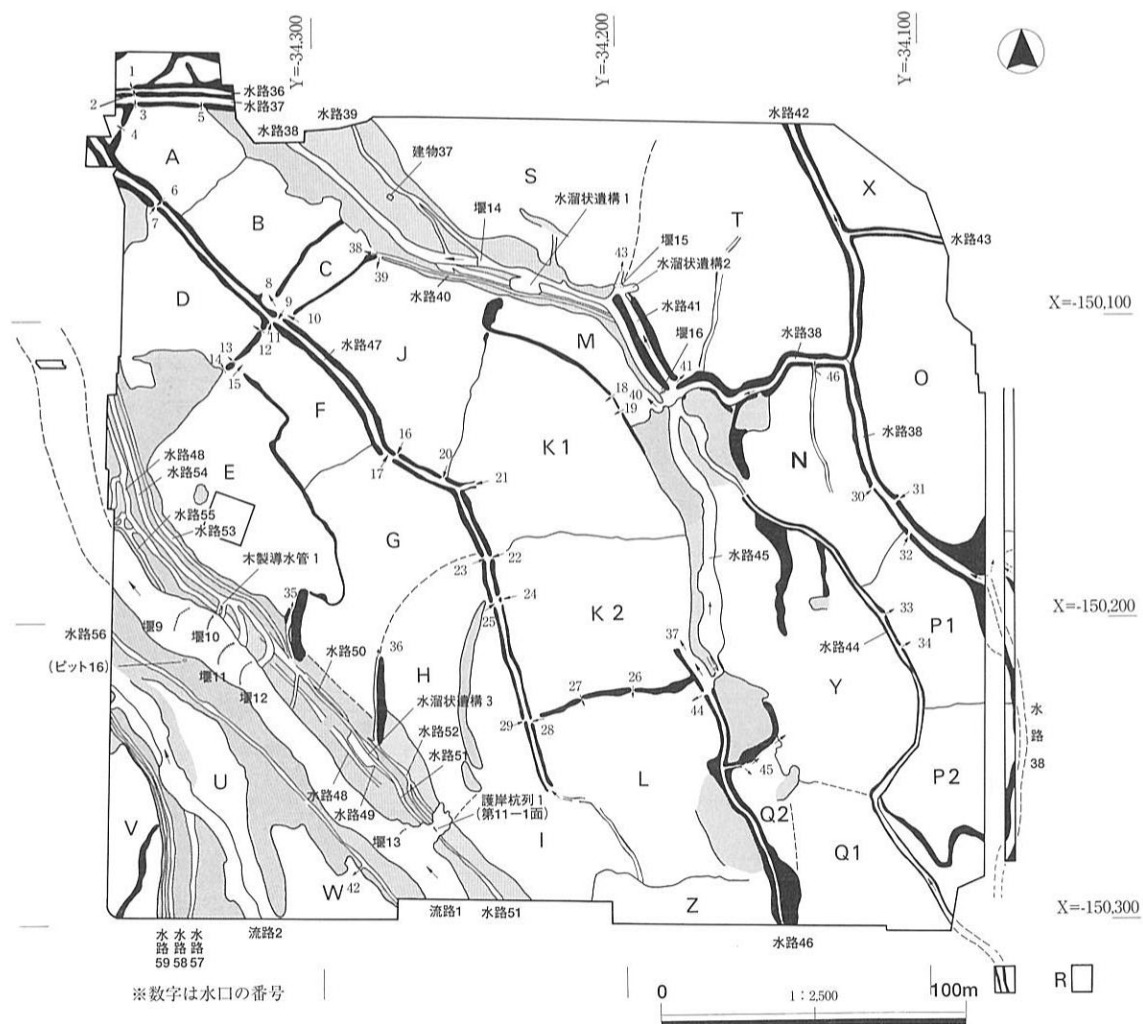
当地区で検出された水田跡の大部分は、流路1と池島Ⅰ期地区で検出された流路に挟まれた区域にあたる。この区域の微地形の特徴は、帯状の微高地と微低地が交互に存在するような形となっていることである。まず、流路1右岸には微高地が存在する。これは、前述のように流路1から供給された堆積物によって形成されたものである。また、当地区南東部から北西部に向かって弓形にのびる微高地も認められる。これは第11b層の砂礫層が厚く堆積して形成された高まりであり、人為的に整形された可能性がある。これらの微高地の上には水路が設けられ、取水の役割を果たしていた。また、2つの微高地の間は低くなっているが、その鞍部には排水路と考えられる水路47が設けられている。この他、水田ブロック内にもわずかな高まりが存在する部分もある。例えば、ブロックT北部には南西から北東にのびる帯状の高まりが存在する。ブロックTの南部では小畦畔に挟まれた南北方向の小溝が検出されているが、これは北側のやや高くなった部分に水を回すためのものと考えられる。また、ブロックP1・P2・Yにまたがって島状に高くなった部分があり、水路44はこの微高地の上を通っている。これらは第13b層の堆積時に形成され、第13a面、第12-1a面段階で顕著な微高地であったものが、この面まで痕跡的に影響を与えた部分である。

なお、微地形の認識に関しては、若干の問題点も残っている。問題があるのはブロックG・Hで、ここでは畦畔がほとんど検出されていない。これについて89-1調査区では、「洪水により流出した可能性が高い」としている（概要I，p.97）。ブロックZやL・Iの南部では、第10b層を除去した段階で第11-2a面の畦畔が検出されており、その部分の地層はブロックQ1など、第11-2a層（上）と第11-2a層（下）が分離された部分とよく似ていた。さらに、



ブロックHにあたる89-2調査区において、第11-1層に対比されている層準は「暗青灰色粘土（植物遺体や青灰色粘土の小ブロックを混入する）」となっており、写真で確認したところ、ブロックZなどの地層のあり方と類似することがわかった。このことからみて、ブロックG・Hにおいても第10b層を除去した面が第11-2 a面であった可能性もある。その場合、ブロックHで検出された小畦畔は第11-2 a面（下）に対比されることになる。この点については写真や断面図だけでは結論を出すことができないので、図IV-222:①には2つの考え方を併記した。また、ブロックGの南部には南北方向にのびる凹地が存在する。この凹地は図IV-221:②に示したとおり、第13 a面からこの面まで存続していたものである。この部分については、凹地の埋積過程が周囲の状況と異なっていたため、層序対比に2つの可能性が想定される（図IV-222:②）。ブロックG・Hの等高線は空測図を参照したが、調査時に第11-1層と認識されたものが第11-2 a層（上）とすれば、異なる面の等高線が書き込まれていることになる。ただし、その場合でも基本的な起伏は共通するため、この面の微地形の検討に利用することは可能である。

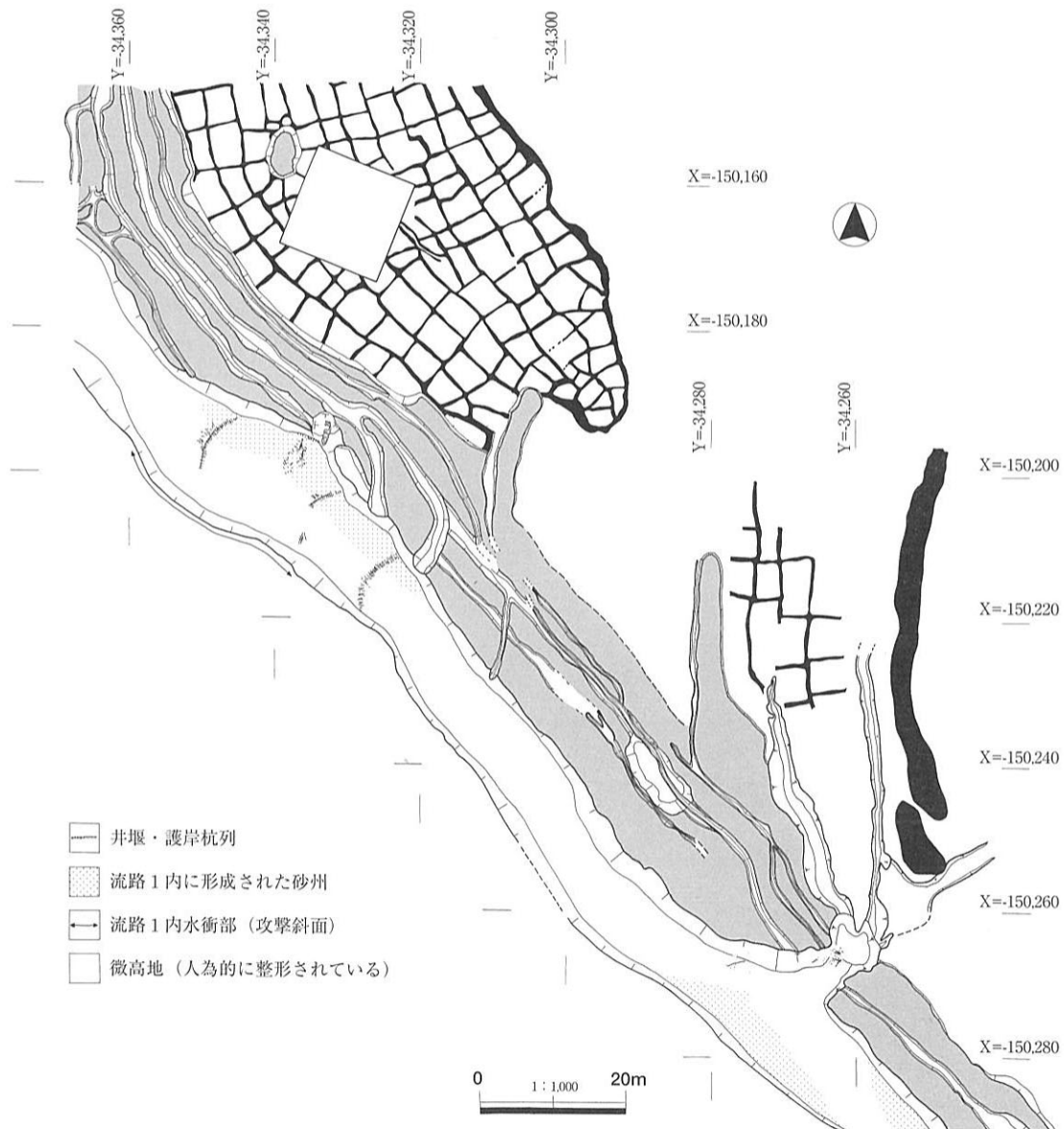
**水利施設** 次に、水利施設について説明したい。流路1からは堰が5基検出されている。図IV-135・136には遺存状況のよかった堰9・12を示した。なお、堰13は江浦（1991c）で初めて指摘されたものである。これは89-3調査区の西端で検出された杭列で（図版26-6）、平面図の記載から、流路1に直交して杭が打設されていたことがわかった。ただし、遺存状況がきわめて悪かったため、本来の形状・規模は不明である。



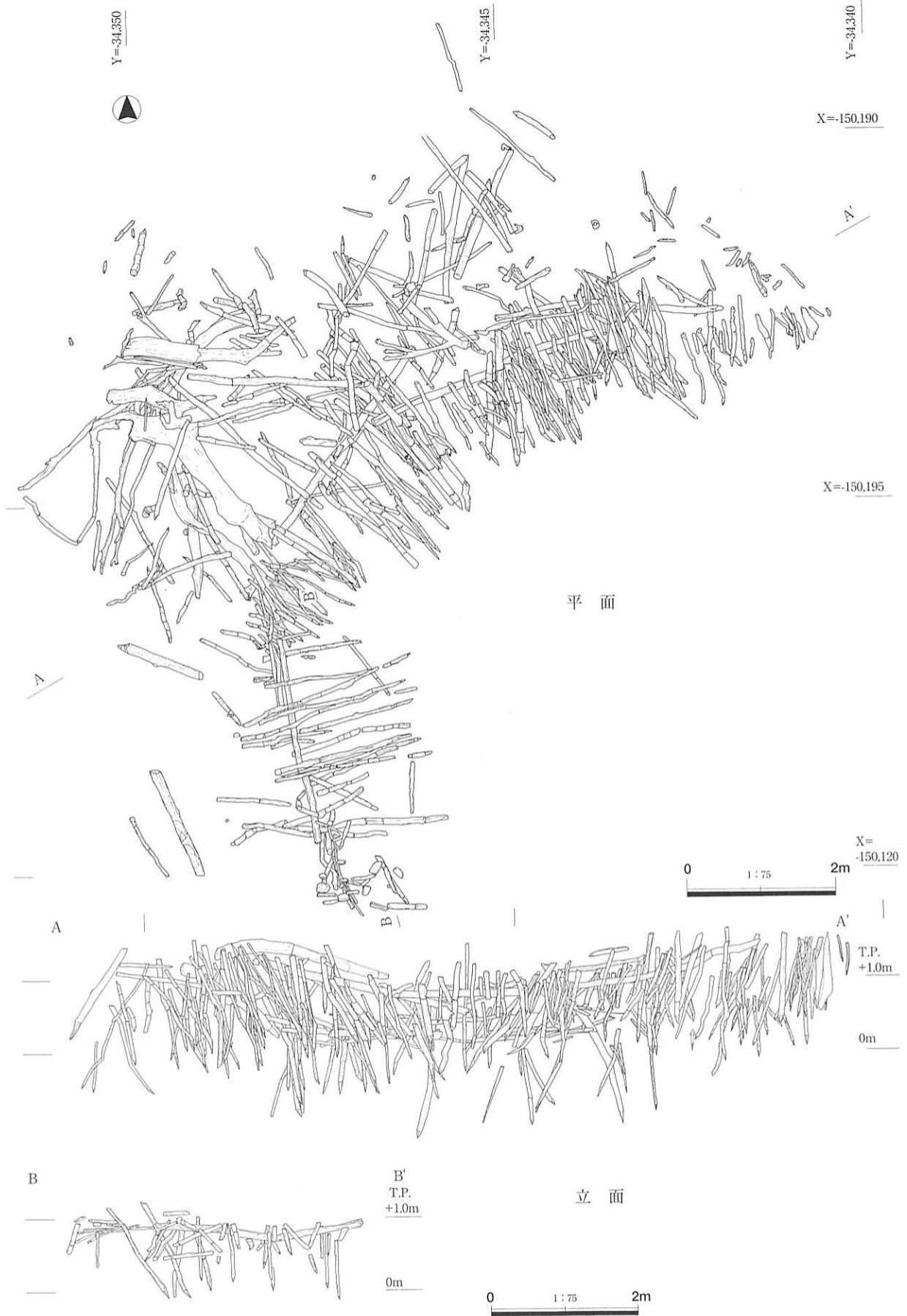
図IV-133 第11-2 a面水田ブロック・遺構名称



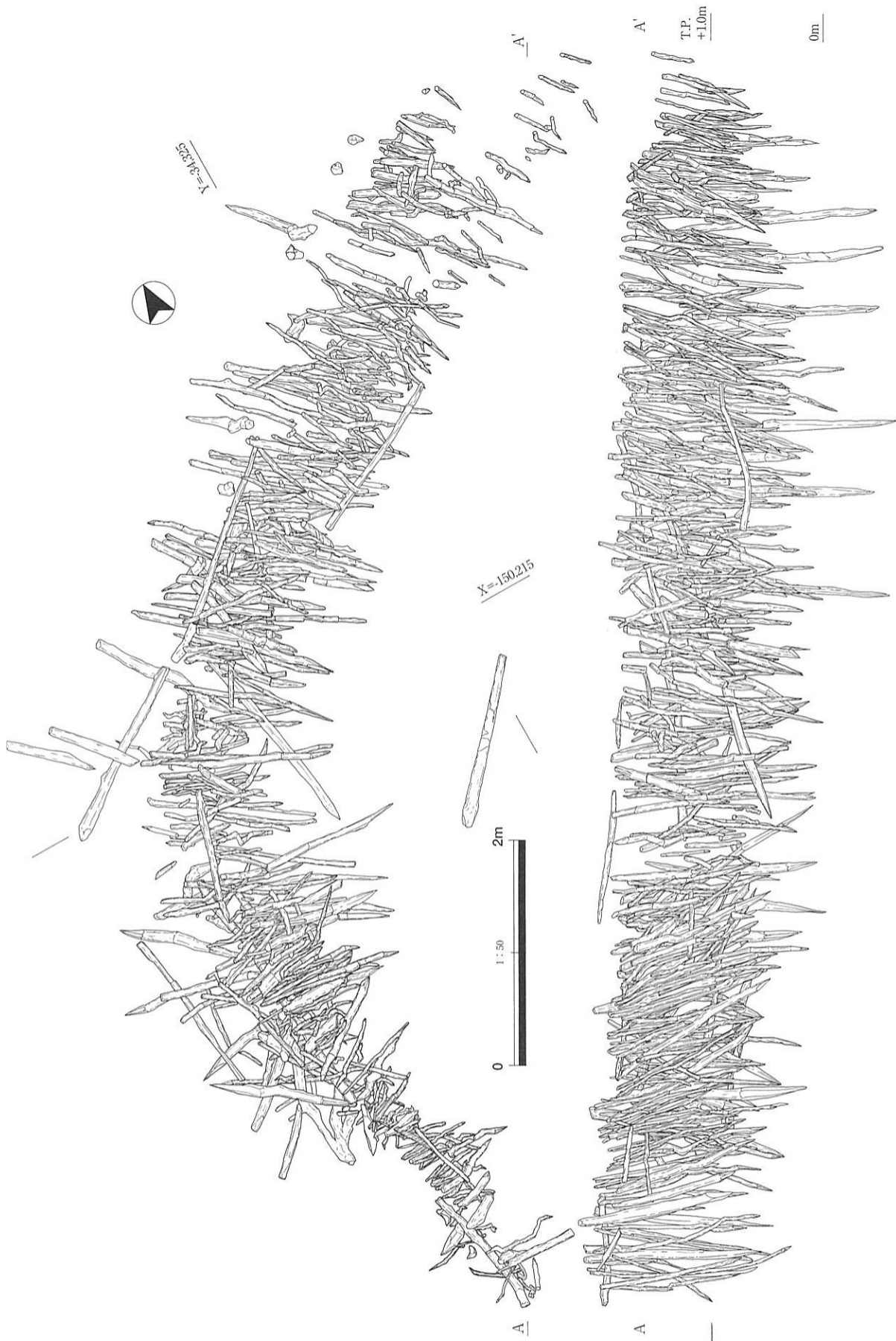
流路1右岸の微高地上からは水路が検出されている(図IV-134)が、これらと堰の関係は十分に検討されてこなかったため、ここでまとめておきたい(図IV-139)。まず、切り合い関係からみて、最も古いのが水路48である。この水路は90-1調査区C地区では明瞭に検出されたが、同A地区では続きが検出されていない。しかし、X=-150,140ラインでは、この水路が存在したと予想される部分に、レンズ状に堆積した砂層が存在していた。そこで、この部分を水路と解釈し、平面図には想定される水路のプランを破線で表現した。この水路の上流部は遺存状況が悪いが、89-3調査区南端の状況からみて、第11-1面段階に形成されたクレバスの上流側には続かない可能性が高い。そうであるとすれば、堰13がこの水路に伴う可能性も考えられる(第1段階)。堰13の遺存状況が悪いのは、比較的古い段階のものであることと関連し、廃絶後下流部に取水施設が設置された際、障害物として人為的に杭が除去されたとも考えられる。次の第2段階には水路49が掘削され、それに水溜状遺構3が伴う。なお、この水路からブロックE・Gに導水された可能性もあるが、水路の切り合い関係が十分に把握されていないため、不明とせざるを得ない。そして、第3段階には水路51と54が掘削される。堰9~13は、後者の水路に伴うものである。また、不確定要素もあるが、水路52は51から分岐していた可能性が考えられる。なお、切り合



図IV-134 流路1右岸水利施設・水田遺構



图IV-135 第11-2 a面堰9平面·立面图

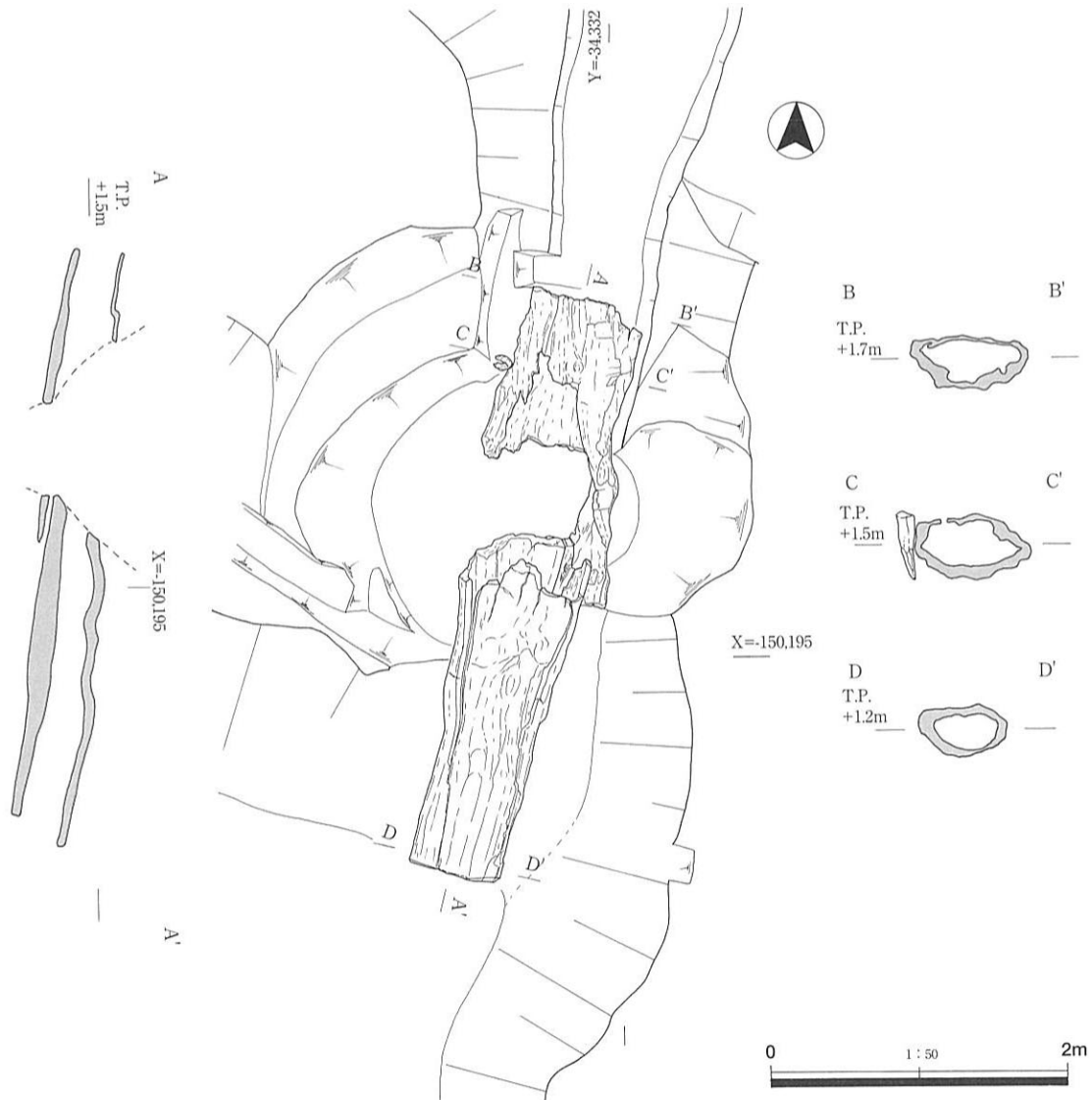


图IV-136 第11-2 a 面堰12平面・立面图

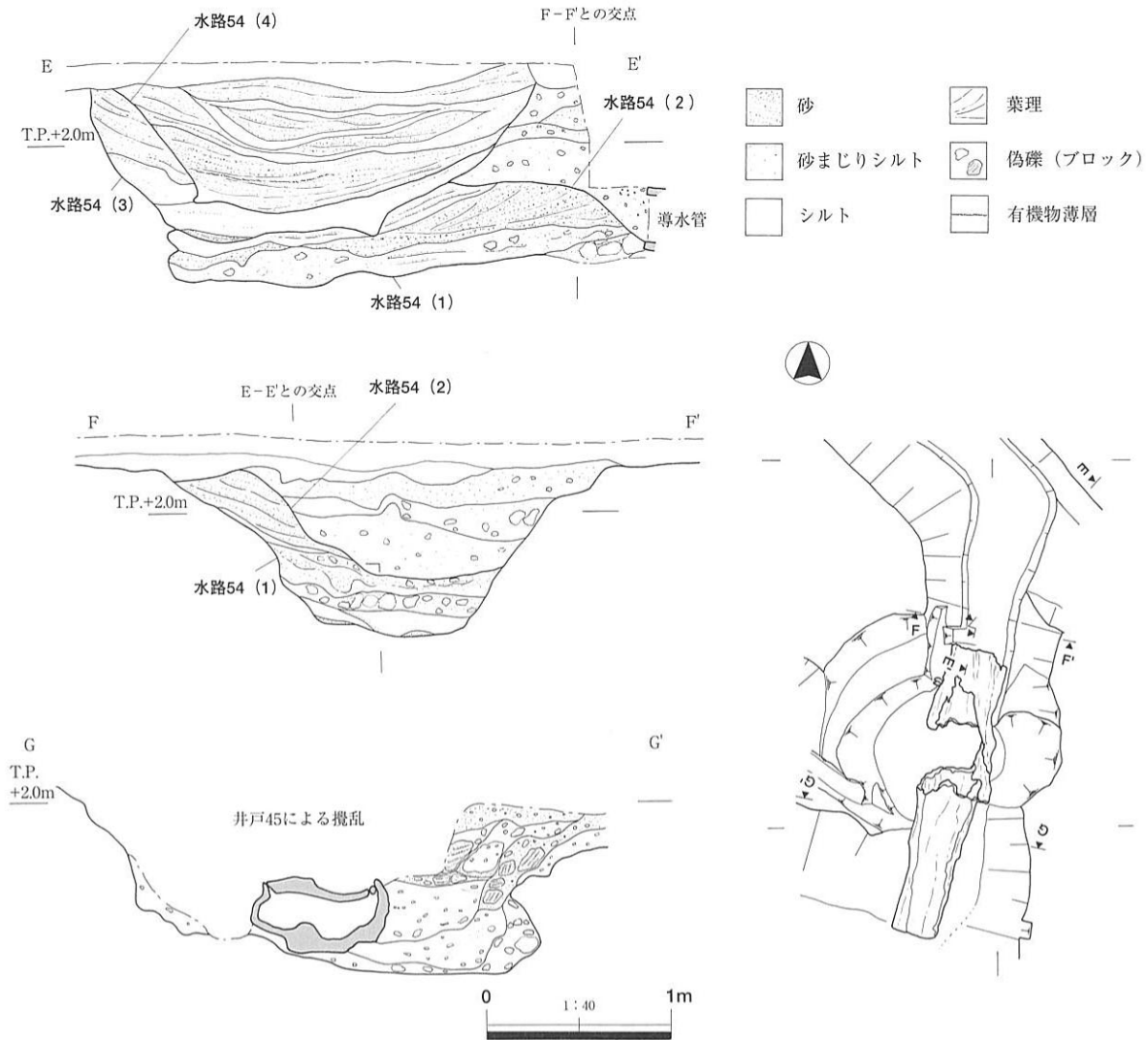
い関係は十分にとらえられていないが、それぞれの水路は何回かの掘り直しがなされたと思われる。特に水路54については、上流側に取水口が移動したことが判明している。概報の記述によると、取水口と堰の関係は、最も下流側のものが堰10に対応し、次が堰11、最も上流側が堰12に対応するが、堰9については不明とされている（概要X II, p.130）。この部分の取水口・水路・堰の関係については、取水口のひとつから検出された木製導水管1周辺の断面図を用いて検証したい。

木製導水管1は、最も上流側の取水口から検出された（図IV-137）。これは中空の導水管を2本連結したものである。流路側のものの樹種はアカガシ亜属で、長さ2.4m、直径0.4~0.6mを測る。内部は著しく炭化していたが、これは内部をくり抜いた際の痕跡と考えられる。端部には一対の穿孔が認められた。また、水路側のものの樹種はヤナギ属で、長さ2.1m、直径0.8mを測る。こちらの方には内部をくり抜いた痕跡は明瞭ではなく、内部が腐って中空となったものが選択された可能性もある。連結にあたっては、流路側のものを水路側のものに差し込んでおり、水路側小口の方が流路側小口よりも高くなるように設置されていた。

木製導水管1と取水口、水路との関係を断面で検討したい。まず、図IV-138：G-G'ライン（図版29-7）では、導水管が砂や泥のブロックを多く含む土で埋設されたことがわかる。このうち、特に上



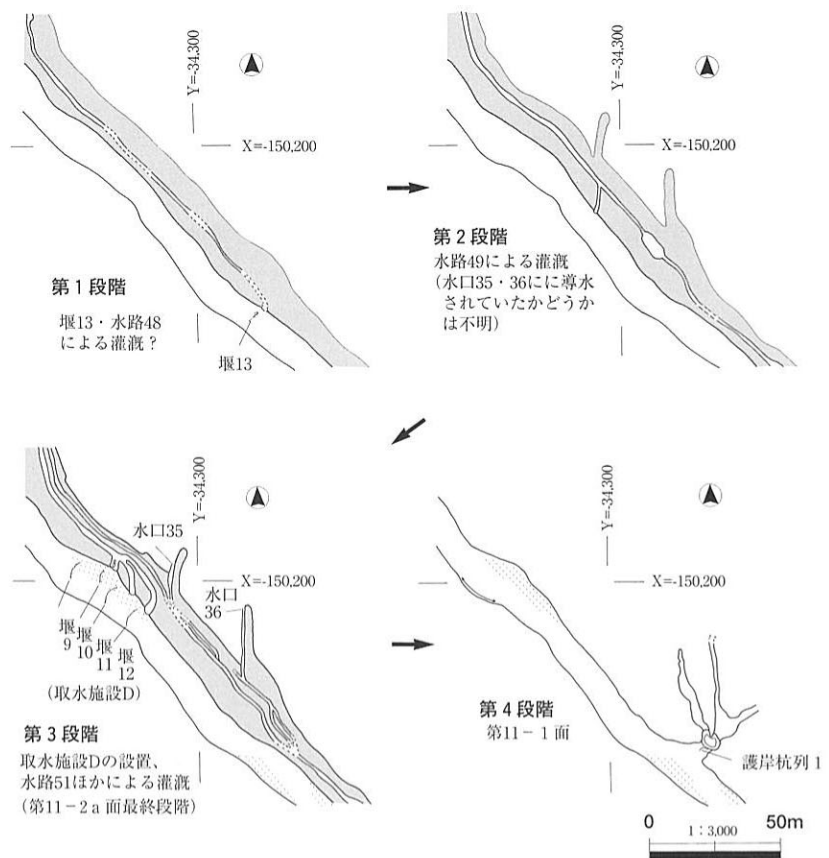
図IV-137 第11-2 a面木製導水管1



図IV-138 木製導水管1断面図

部には、葉理の認められる砂層を起源とする大きなブロックが含まれていた。次に、F-F'ライン（図版29-6）では、導水管を埋めたブロック土の下に葉理の認められる砂層が堆積していた。これは取水口の中で収束するのではなく、水路54の下部（水路54〔1〕）を埋める堆積物に連続する。前述の導水管埋土上部に含まれていたブロックは、粒度からみて、この砂層に起源するものと思われる。また、導水管の外側にもブロック土が堆積していた。これについては人為的な層と思われるが、E-E'ライン（図版29-5）でみると、この層によって導水管の小口が塞がれ、その後水路54が掘り直されたことがわかる。以上のことをまとめると、次のような変遷過程が復原できる。この取水口は導水管埋設以前から存在していたが、流路1から流入した砂で一度埋没した。埋没後この取水口は掘り直され、そこに木製導水管が埋設された。導水管内部には泥が堆積しており（図版29-8）、その堆積によって機能が停止したと思われるが、水路側小口はブロック土で埋められており、最終的には人為的に小口が塞がれたと思われる。次に、こうした所見をふまえて水路と堰の関係を推定したい。堰破壊後の復旧にあたっては、堰の残骸が水を塞ぎ上げる際に障害となるのを避けるため、上流側に作り直したと想定できる。この想定を前提にすると、水路54(1)に堰9が対応し、水路54(2)・木製導水管に堰10が伴う可能性が考えられる。なお、E-E'ラインでは、導水管の機能停止に後水路54は掘り直され、それが砂で埋まった後にも

う一度掘り直されたことがわかる。これを順に、水路54(3)・(4)とする。これらと堰の関係に関しては断定できないが、(3)と堰11、(4)と堰12が対応する可能性もある。なお、導水管上部の地層は第10b面井戸45によって破壊されており、導水管機能時の上部の様子は不明である。そのため、導水管機能時にその上を上流からのびる水路が通り、水路と取水口が「立体交差」をしていたのではないかと、とする意見もある。この考え方は、導水管機能時にも水路48の位置に水路が存在したことを認めるものである。しかし、流路1右岸から始まり水路49に合流する溝が水路48を切っている、との調査所見にもとづけば、水路48は第3段階には存在しなかったことになる。したがって、調査所見にもとづく限り、この「立体交差説」は成り立たない。



図IV-139 流路1右岸水利施設の変遷

次に堰の構造についてみてみたい。この面で検出された堰のうち、残りの悪かった堰10・13を除き、中央部が下流側に膨らむ平面形を呈する。また、堰体は埋没時に下流側に傾いているが、残りの比較的好かった部分において杭の組み合わせ方を観察したところ、合掌形を呈していた。概報では平面形について、上流側に堆積する土砂のため順次上流寄りに増築を重ねた結果であって、構築当初から検出時の形状をしていたわけではないと推定している(概要X II, pp.122-130)。その根拠として、上流側に張り出す部分の杭の先端が比較的上位で止まっていることがあげられている。しかしながら、流路堆積物と杭との関係を検討しなければ、こうした想定を証明することはできない。そこで、最も残りのよい堰12を例として検討したい。最前列の杭を検出した段階の写真を見ると、堰12と流路堆積物の関係が理解できる(図版28-7・8)。図IV-140は近接写真を貼り合わせてトレースしたものであるが、Aの部分に浅い杭が集中することがわかる。写真だけでは打設面を推定することができないが、重要なのは、Aの杭の下に厚く堆積している砂(B)の層位関係であり、堰中央部の杭が打ち込まれている堆積物は、明らかにBの上位に堆積している。したがって、Aの杭の状況は、堰構築以前に流路堆積物によって形成された河床形態に関係するといえる。また、左側の杭が浅いのは、河岸に近い位置にあたることと関連すると考えられる。流路1の遠景写真(カラー図版19)や流路左岸側の侵食のあり方なども参考にすると、堰が構築された部分には流路右岸寄りに砂州が形成され、瀬(riffle)となっていた可能性が高い。また堰9では、左岸側の杭が顕著に下流側に倒れていた(図版28-2)。流路左岸が顕著に侵食されていることも参考にすると、この部分が淵(pool)に面しており、水当たりが強かったためと考えられる。以上





図IV-140 堰12と流路堆積物の関係（南東から、写真トレース）

のことからみて、概報の想定とは異なり、堰9・11・12は流路1内の瀬の部分に構築されたもので、当初から湾曲した平面形態をしていたと思われる。なお、堰10は杭の残存状況からみて、これらとは異なった平面形態をとる可能性がある。これに関連して、この堰が取水口のすぐ近くに構築されていること、取水口に木製導水管が埋設されていることなど、他の堰・取水口のあり方とは異なった特徴を持っている点も注意される。

次に水路について説明する。水路は基本的に、両側に大畦畔が伴う「畝畝」の形態をとる。微高地の上の水路については明瞭な高まりはないが、両側に盛土と推定できる土が堆積しているものが多かった。後述するように、こうした盛土内に土器が埋納された部分も確認されている。

まず、水路44についてみていきたい。90-6調査区では第1黒色泥層上面で畦畔が検出されたが、その上の暗緑灰色泥層上面でも畦畔が検出された(概要Ⅱ, pp.106-107)。水路44が検出されたのは後者であり、これが第11-2 a 面(上)に対応し、前者は第11-2 a 面(下)となる。同様の関係は89-5調査区でも確認されている(概要Ⅰ, p.141, 図128)。なお、水路38と44の関係については不明な点が多いが、水路38が大きく蛇行していなければ、おそらく89-5調査区の南側で水路44と交わる可能性が高い。ここでは、水路38から水路44が分岐したと推定しておきたい。水路38は、ブロックT・S・M・J・C・B・Aに対しては取水の機能を果たしていたが、ブロックP1・N・Oに対しては排水路として機能したと推定される。後者のブロックに取水するのが水路44である。この水路は第11-2 a 層(上)堆積後に掘削された新しい水路であること、後者のブロックが前述した微高地部分に立地することを勘案すると、水路44は水田域内に存在した微高地部分を水田化するために新たに設定されたものであり、新たに設定したブロックの排水を既存の水路38に流したと推定される。また、水路38からは水路42・41・39が分岐していた。そして、水路内からは分水堰である堰14・16が検出された。堰14は水路39の分岐に関わるもので、直立した1列の杭によって構成される(概要Ⅵ, p.48)。また、堰16は水路41の分岐とブロックM・Tの取水に関わるものである。なお、この堰については堰体が横倒しになって埋没しており、杭の間につけられていた植物茎の編物が残存していた(図版26-8)。この堰では2列の杭列が確認されており、その遺存状況から、片合掌形を呈していた可能性が指摘されている(概要ⅩⅠ, pp.44-45)。また、堰15は水口43の手前に位置する2列の杭列であり、ブロックSに送られる水量を調整する機能を果たしていた可能性が高い。なお、この堰は水口43とともに人為的に埋められていたことが判明しており(概要Ⅶ, p.34)、ブロックSは第11-2 a 面の埋没以前に放棄されたと考えられる。ただし、ブロックSでは小畦畔がほとんど検出されていないが、これは第10 b 層(泥層)と第11-2 a 層の間で変形構造が認められることと関連すると思われる、ブロックの放棄とは直接関連しない。なお、水路42も水路38から分岐するが、その分岐点からは分水堰は検出されていない。また、水路42とつながっている水路43の機能は不明であるが、ブロックOの排水か、ブロックXの取水に関わっていた可能性もある。一方、水路46はプロ

ックK 2・Lに導水した後、水路45にも導水される。この水路は最終的にシルト質砂～砂質シルトで埋まっていたが、きわめて浅いものである。これについては、ブロックK 2・Lの灌漑に使用した水路46の余水を、水路38に排水する程度の役割しか持っていなかったと考えられる。

なお、取水路の中には水溜状の土坑を伴うものがあり、水溜状遺構と呼称した。この種の遺構は3基検出されている。水溜状遺構1は水路38の左岸に位置し、周囲の水路底と比べて5～10cm低くなっていた。水溜状遺構2は水口43の手前に位置し、深さ約20cmを測る。水溜状遺構3は水路49の途中に位置し、周囲の水路底と比べて40～50cm低くなっていた。特に、1と3は植物遺体・有機物を多く含む泥で埋積されており、炭酸鉄やピビアナイトも多く認められ、2は有機物を含んだ泥で埋積されていた。これらの遺構の性格については、水路内を流れる水を温めるための施設、水とともに運ばれる泥や植物片を沈殿させ、水口が詰まるのを防ぐための施設などといった想定がなされている。しかし、取水路すべてに水溜状遺構が伴っているわけではなく、立地に規則性があるかどうかわからないなど、実態について不明な点が多いため、性格を明らかにすることはできていない。

また、水路47は流路1右岸の微高地と水路46・38が位置する微高地との間に掘削された排水路である。注目されるのは、水路の両脇にある大畦畔の盛土の下にも第1黒色泥層が連続することであり、この水路が第1黒色泥層形成後に造成されたことを明確に示している。ただし、これは第11-2a面(上)・(下)の関係とは異なるものである。

**水田区画** 水田跡の最小単位は、小畦畔で区画された部分である。水田区画の面積は10～20㎡のものが多く、大きいものは30～50㎡を測る。小畦畔には、長くのびる傾向のあるものと、より小規模で、長くのびるもの間をつなぐように配置されたものがある。調査時には前者が先に確認されることが多かった。ここでは、江浦(1994)に従い、前者を幹線小畦畔、後者を支線小畦畔と呼ぶことにする。この2つの小畦畔の配置によって水田区画がつけられているが、その方法には、4種類の基本形が存在する。まず、幹線小畦畔と支線小畦畔が格子状に直交し、畦畔の接合部分が「+」形を呈するもの(1類、ブロックA・Bなど)、幹線小畦畔は直線的で、その間に支線小畦畔を「あみだくじ」状に配するもの(2類、ブロックEなど)、幹線小畦畔の一部に屈曲部を設け、その部分を支線小畦畔によってつなぐもの(3類、ブロックK 1・Lなど)、幹線小畦畔をジグザグに曲げ、その屈曲部を支線小畦畔でつなぎ、六角形の区画が連続するように設定するもの(4類、ブロックK 1・P 2など)、である。八賀 晋(1979)は水田区画の配置について検討した際、微高地縁辺の傾斜面では水田区画の短辺を傾斜方向に置く傾向があることを指摘している。これを小畦畔の配置という観点で見ると、幹線小畦畔が水を導く方向を考えて設定され、支線小畦畔は幹線小畦畔間に導かれた水を溜めることに主眼を置いて配置されたと思われる。これをふまえて第11-2a面の小畦畔を検討すると、例えばブロックEでは、取水口と排水口の関係からみて、幹線小畦畔が水の流れる方向を意識して配置されていることがわかる。また、ブロックK 1は南東隅を基点として幹線小畦畔を配置していることが明らかである。このブロックのうち、水口21・22周辺のやや起伏のある部分では、畦畔の接合が不規則になっており、東部には4類の畦畔接合も認められる(図版26-4)。江浦が既に指摘しているように、4類が認められる部分は他の部分に比べて起伏が大きく、幹線小畦畔をまたいで他方向に配水することを意識した可能性が高い。このように、1・2類は直線配水型で、幹線小畦畔に沿った水回りを主とするのに対し、3・4類は幹線小畦畔を意図的に曲げることによって、幹線小畦畔をまたいだ水回りを考慮する他方向配水型であるといえる。そして、幹線小畦畔は水の流れる方向を意識して配置されることが基本であるが、起伏が大きい部分では不規則

表IV-30 水田ブロック面積

ブロック	面積 (m <sup>2</sup> )
A	1000
B	1246
C	423
D	1523
E	2820
F	1106
G	(2500)
H	(1686)
I	(2205+ $\alpha$ )
J	2595
K1	3420
K2	3100
L	2615
M	760
N	2020
O	3200+ $\alpha$
P1	1473
P2	1485
Q1	(1665+ $\alpha$ )
Q2	(425+ $\alpha$ )
S	(3310+ $\alpha$ )
T	(4900+ $\alpha$ )
U	(555)
V	590+ $\alpha$
W	710+ $\alpha$
X	860+ $\alpha$
Y	(3865)
Z	822+ $\alpha$

に畦畔を接合したり、幹線小畦畔を意図的に曲げることによって、幹線小畦畔をまたいだ配水を意図した3・4類の接合がおこなわれたと考えられる。

また、この面では大畦畔や微高地に囲まれた水田区画のまとまりが明瞭に認識できる。また、それ以外にも前述した小畦畔の配置のあり方から、小畦畔造成の単位と考えられるまとまりも認められる。ここでは、こうしたものを江浦(1991c)・Inoue(1999)に従い、水田ブロック(field blocks)と呼びたい(図IV-133)。なお、水田ブロックを区画する位置にある小畦畔については、特に「区画小畦畔」(江浦1994)と呼称する。江浦(1991c)では、水田ブロックの面積は1000m<sup>2</sup>前後のものが多くとされていた。しかし、その後の調査成果をもとにすると、1000~1500m<sup>2</sup>前後のものも多いが、2000~3000m<sup>2</sup>程度のものも目立つ。さらに500~1000m<sup>2</sup>の小規模なものもある(表IV-30)。ただし、面積はばらつくとしても、ブロックの境界が明確になっている点には注意すべきである。

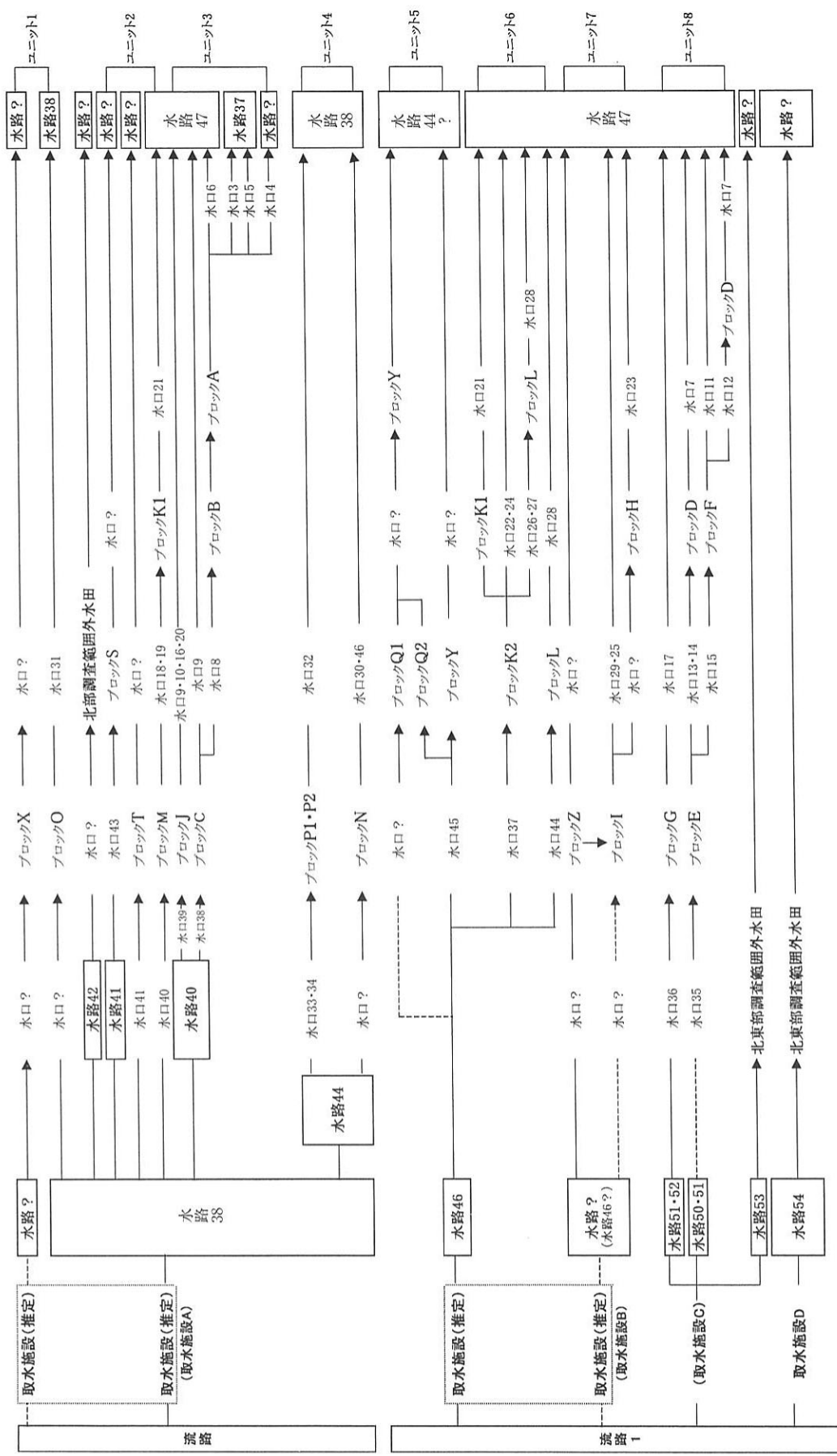
**水利システムの復原** 以上のことを総合して、第11-2a面における水利システムを復原したのが図IV-141である。ちなみに、これは図IV-139の第3段階に対比される。取水施設は1ヶ所しか確認されていない(D)が、取水路のあり方からみて、調査範囲外にさらに3ヶ所存在していたと考えられる。このうち、水路38に関連すると想定される取水施設Aの取水源は不明であるが、池島I期地区の流路よりも流路1から取水していた可能性のほうが高い。

これによると、3~4つの水田ブロックをまとめた単位が灌漑の基本単位となっていることがわかる。この単位をInoue(1999)にもとづき、「灌漑ユニット(irrigation units, 以下、ユニットと略称)」と呼称する。さらに、ユニットは大畦畔や区画小畦畔を挟んで接しており、その間で水のやり取りがある場合も少なくない。このことは、複数のユニットが取・排水路を共有して、一定範囲内に整然と配置されていることを意味し、水田造成が一定範囲内のレイアウトを意識しておこなわれた結果である可能性が高い。こうした水田造成の基礎単位については、「水田ゾーン(field zones)」と呼称することにする(Inoue1999)。当地区の水田が含まれるゾーン1の範囲は、流路1と池島I期地区の流路に挟まれた範囲であるが、調査範囲の制約から北側については不明である。

この他、当地区南西部の流路1左岸側においても、3つの水田ブロックおよび4基の水路が確認されている。また、当地区北西隅の水路36・37の北側にも水田が広がっていた可能性が高い。後者についてはゾーン1に属する可能性が高いが、前者は別のゾーンに属すると思われる。

なお、前述したように、ブロックP1・N・Oは水路44を新たに掘削することによって水田域内の微高地部分を水田化したものである。また、ブロックSは水口を人為的に塞いで最終的には放棄されていた。このように、ゾーン内でも1度に開発が進んだわけではないことや、田面埋没前に放棄された部分もあったことが明らかになっている(第VI章1)。

**遺物と出土状況** 次に、この面の遺物出土状況について整理したい。これについては、山崎・秋山・朝田(2000)で整理が試みられているが、いくつか問題点があるため、今回再整理した(図IV-142・表



※この系には、調査範囲の制約から、抜線で示した部分の他、以下のような不確定要素を含んでいる。  
 1. プロットO-Xの取水経路については不明な点が多い。87-1調査区(河川403)を介してそれを取水源とする考え方もできる。  
 2. プロットGについては、プロットHから5の取水も可能であり、ユニット1に含まれる可能性もある。ここでは、このプロットが流路1右岸の水路から取水することに着目し、ユニット8に含めた。

図IV-141 第11-2 a 面水利系統復原図

IV-31)。

遺物の出土状況は、大きく3つのパターンに分類できる。すなわち、①大畦畔の盛土内から出土したもの、②第11-2 a 面直上ないし第11-2 a 層中から出土したもの、③第11 b 面の遺構から出土したものである。①の中には、図版27-1・2のように、甕や壺が1個体ないし数個体、意図的に埋納されたと考えられるものが含まれている。しかしながら、土器片が盛土内から出土した場合は、意図的な埋納ではないものも多いと考えられる。後者の事例については、表IV-31の出土状況の欄に「埋納かどうか不明」と注記した。また、②のパターンには、第11-2 a 層上面において完形品がつぶれた状態で出土した事例や、第11-2 a 層上面ないし上部から、土器片が平面的、レベル的に一定のまとまりをもって出土した事例が含まれる。そして③の第11 b 面検出遺構の中には、第11-2 a 面の水田跡に関連するものだけでなく、水田が造成される以前の遺構も存在すると考えられる。ここでは、①・②の遺物の時期から考えて、第11-2 a 面の水田に関連する可能性があるもののみを抽出した。

一見してわかるように、遺物は微高地部分から集中して出土している。まず、流路1・2周辺では、第11-2 a 層上面ないし第11-2 a 層中から土器が出土した。中には水路内や流路内から出土したもの



図IV-142 第11-2 a 面関連土器出土状況



表Ⅳ-31 第11-2 a 面関連出土土器一覧

番号	調査区	報告時遺構面	層準・遺構名	出土遺物	出土状況	遺物実測図番号
1	90-2(H2)	第14面	水路38脇盛土内埋納?	長頸壺1点		IV-147:6
2	90-3(A)	第13面	水路47脇大畦畔埋納	甕1点		IV-148:23
3	90-3(A)	第13面	水口11	甕3点	大畦畔上から転落	IV-154:23・24・25
4	90-1	第18面	水路48	甕1点		IV-155:31
5	90-1	第14・15層	流路1北側微高地上	手焙形土器、高杯、長頸壺など	第11-2a面直上ないしは第11-2a層	IV-144:19、145-29・33
6	90-1	第18面	流路1北側微高地上	甕、長頸壺(2個1対)	第11-2a面直上	IV-144:18・22
7	90-1		流路1北側微高地上	鉢1点	第11-2a面直上ないしは第11-2a層	IV-145:32
8	90-1	第18面上自然堤防内流路上面	流路1南側微高地上	甕1点	第11-2a面直上ないしは第11-2a層	IV-144:27
9	90-1	第18面	流路2(古)	壺(2個1対)	流路肩部	IV-162:3・4
10	90-1		流路1南側微高地上	甕など	第11-2a面直上ないしは第11-2a層	IV-145:36・37・39・40・41
11	90-1	第18面	流路2北側微高地上	鉢1点	第11-2a面直上	IV-146:44
12	90-1	第18面	流路2南側微高地上	不明	概要XIIに出土位置のみ記載	—
13	90-1	第18面	流路2?	長頸壺(2個1対)	水路57との合流点付近	IV-155:35・36
14	92-7	第15b層	流路2南側微高地上	長頸壺1点	土坑内?	IV-162:1
15	90-1	第18面	堰10付近	把手付鉢、鉢、甕		IV-150:12~15
16	90-1	第16-2層シルト	流路1北側微高地上	長頸壺など	第11-2a面直上ないしは第11-2a層	IV-145:31、144:17・24・25
17	90-1	第18面	流路1南側微高地上	壺、甕、高杯など	第11-2a面直上ないしは第11-2a層	IV-146:45~47
18	90-1	第16-2層シルト	流路1北側微高地上	甕1点、壺2点	第11-2a面直上ないしは第11-2a層	IV-144:20・21・26
19	89-2	第13面	流路1北側微高地上	甕など	第11-2a面直上	IV-143:5~11
20	89-3	第12-2面	流路1北側微高地上	甕・長頸壺・鉢・高杯など	第11-2a面直上	IV-143:12・13
21	89-3	第12-2面	流路1北側微高地上	鉢、高杯など	第11-2a面直上	IV-143:15・16
22	89-3	第12-2面	流路1北側微高地上	甕1点	第11-2a面直上	IV-143:14
23	90-3(B)	第13面	水路40脇盛土内埋納	甕胴部、手焙形土器破片	胴部の部分を半裁し、伏せた状態	IV-147:14
24	90-3(B)	第13面	水路40脇盛土内埋納	高杯、甕胴部など	甕の胴部をドーナツ状に分割して置き、中に高杯を正置	IV-147:13
25	90-3(B)	第13面	J・M間大畦畔盛土内	甕ほか	埋納かどうか不明	IV-147:15・16
26	89-2	第13面	大畦畔21直上	鉢1点		IV-148:31
27	89-3	第12-2面	大畦畔22埋納	甕1点		IV-148:30
28	90-3(B)	第13面	水溜状遺構1脇	手焙形土器1点	第11-2a面に正置	IV-147:17
29	90-3(B)	第13面	水路38脇盛土内埋納	細頸壺、有孔鉢各1点	細頸壺を正置し、有孔鉢で塞ぐ	IV-147:12
30	90-3(B)	第13面	堰15脇	鉢1点	盛土内に正置	IV-147:18
31	90-3(B)	第13面	水路38	小形広口壺、鉢各1点。杭3本	堰16方向から流れてきたもの	IV-153:1・4
32	90-3(C)	第13面	水口41脇大畦畔埋納	鉢1点		IV-147:7
33	90-3(C)	第13面	水口40脇微高地上	甕底部1点	第11-2a面直上	IV-153:5
34	90-3(C)	第13面	水路38脇大畦畔埋納	鉢1点	大畦畔上から転落	IV-147:8
35	90-3(C)	第13面	水路38脇大畦畔埋納	高杯1点	正置?	—
36	93-1	第10-2面	土器埋納遺構85	甕1点、種子含む。	第11b面	IV-175:6
37	93-1	第10-1面	水路46右岸微高地上	甕底部、高杯脚部各1点	第11-2a面直上	IV-146:50
38	93-1	第10-1面	水路46脇大畦畔盛土内	細頸壺・壺底部など	造成時の紛れ込み	IV-147:20・21
39	93-1	第10-1面	水口45脇微高地上	土器細片	第11-2a面直上	—
40	93-1	第10-1面	水路46東側大畦畔周辺	底部など	第11-2a面直上	IV-146:48・49
41	93-1	第10-1面	Y・Q間微高地上	甕・高杯脚部など	第11-2a面直上	IV-146:51
42	90-2(H4)	第14-1面	水路42脇大畦畔埋納	長頸壺2点		IV-147:1・2
43	92-6	第14面	水路43脇大畦畔埋納	長頸壺1点	破砕	IV-147:5
44	93-2	弥生時代1面	水路42	長頸壺1点		IV-153:9
45	87-2	第15面	水路38脇大畦畔埋納	鉢1点		—
46	Iトレ越流堤部(その1)	第4・5面	水路38脇大畦畔埋納?	長頸壺1点、壺1点		—
47	87-1	第4面	水路38脇大畦畔盛土内	鉢・長頸壺・甕など(すべて破片)	埋納かどうか不明	—
48	90-3(B)	第13面	水路47大畦畔脇	鉢1点	大畦畔上から転落	IV-148:26
49	90-1	第18面	流路1北側肩部	甕(2個1対)	第11-2a面直上	IV-144:23・28
50	90-1	第18面	流路1南側微高地上(ピット16)	鉢1点	第10b層に含まれていた可能性あり	IV-146:43
51	89-2	第13面(側溝内)	流路1北側微高地上	甕2、鉢1など	大畦畔上ないし盛り土中の可能性もあり	IV-143:1~4
52	90-1	第18面	水路56?	甕1		IV-155:34
53	90-3(C)	第13面	水路38南側大畦畔埋納	壺1		IV-147:9
54	90-3(C)	第13面	ブロックN脇高まり上	高杯2	破片	IV-147:10・11
55	90-3(C)	第13面	水路45脇微高地上	鉢	破片	IV-147:19



もある。この微高地部分は第10 a 層～第 8 a 層段階の人間活動による削剥・攪乱の影響で上面の遺存状況は必ずしもよくないが、遺物の集中する部分が点在することからみて、複数回にわたって遺棄されたものと考えられる。特に注目されるのは、完形ないしほぼ完形の甕や壺が 2 個 1 対で出土した事例である（6・49地点、図版27-5・6）。一方、水路46周辺の微高地上からも第11-2 a 層上面ないし層中から土器が出土しており、土器片はある程度のまとまりを持って分布することが確認されている。また、大畦畔に意図的に埋納されたと考えられるものは、水路38やそこから派生する水路の脇の大畦畔に多く認められる（図版27-1・2）。その他、大畦畔盛土内に埋納されたものは、水路47脇大畦畔、大畦畔22で確認されている。

次に、これらの遺物の性格について考えてみたい。まず、①の場合、大畦畔は水田域のレイアウトにおいて重要な施設であり、毎年作り直されるようなものではないから、盛土の下の土器は水田造成時、あるいは大畦畔の修復を伴うような水田改修時に埋納された可能性が高い。また、土器埋納遺構85はブロックYの中に位置するが、微高地に近いこともあり、このブロックの造成に関わって埋納された可能性もある。これらのものについては、水田造成時または改修時における農耕祭祀の痕跡とする考え方が出されている。この面の場合、水路38のように大畦畔に多くの土器埋納が確認された水路と、ほとんど存在しなかった水路があり、土器埋納の多寡が水路の性格を考えるためのひとつの視点になる可能性もある。一方、②の中にも、祭祀に伴うものが含まれている可能性がある。ただし、農耕祭祀としてよく言及される「水口祭」の痕跡の可能性のあるものは、水口11に面する大畦畔上に置かれたと推定される甕 3 個体（3 地点）しか存在しない。また、堰に関連するものについても、流路 1 を埋積する砂礫層中には多くの遺物が含まれていたため、堰に投げ込まれた土器の存在を積極的に抽出することはできない。しかし、49地点のように、2 個 1 対で出土したものについては、取水施設での祭祀の痕跡といえるかもしれない。いずれにせよ、②の事例に祭祀関連の遺物が含まれているとしても、推定される祭祀の性格は大畦畔盛土内の土器埋納とは異なっていたと考えられる。

以上の点をふまえて、第11-2 a 面関連の出土遺物をみていきたい。

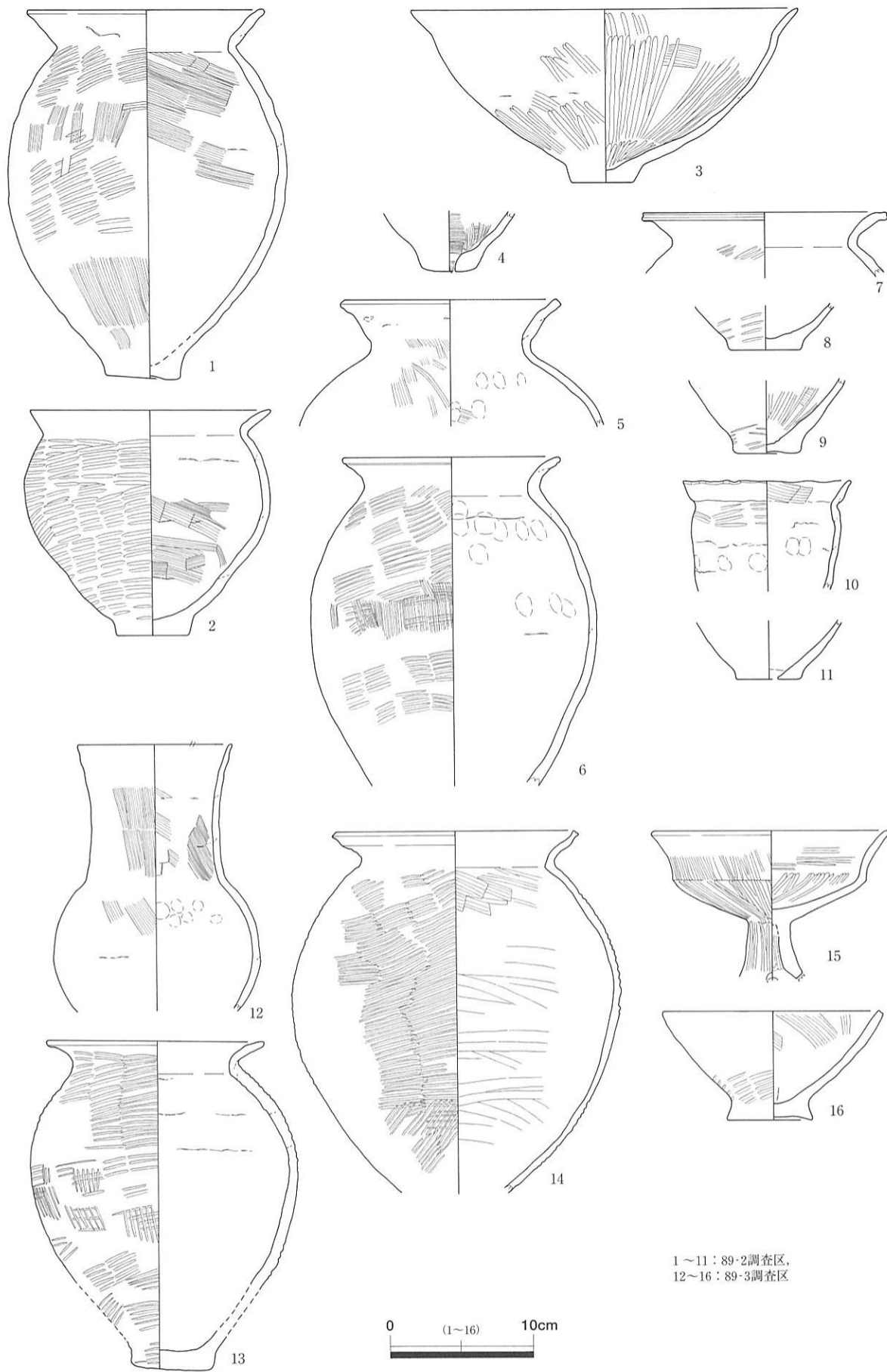
まず、微高地上から出土したものを見ていきたい（図IV-143：1～図IV-146：51）。

（1～4）は、51地点からまとまって出土したものである。弥生土器甕（1・2）・鉢（3）・有孔底部（4）である。第V～VI様式のものである。

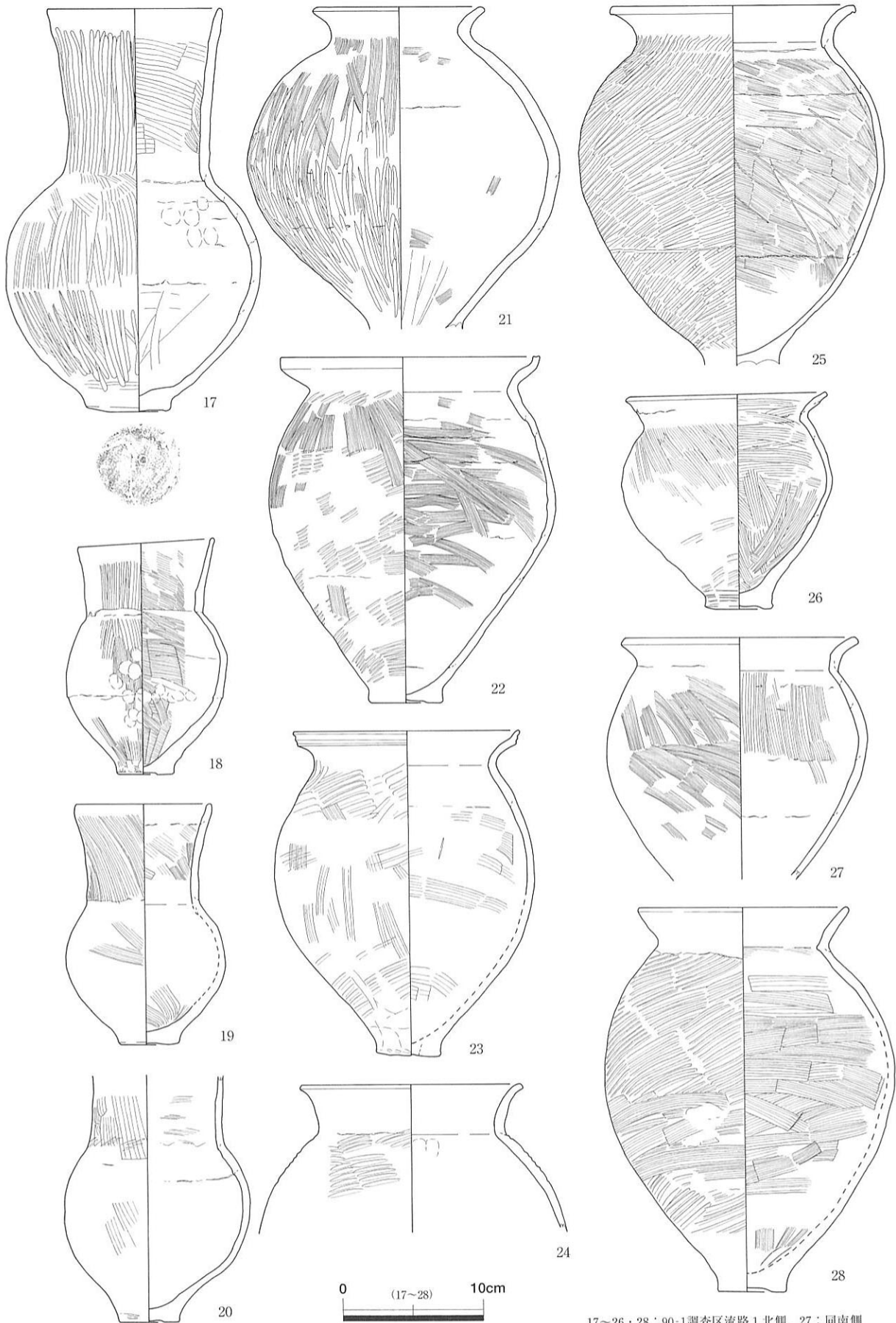
（5～11）は19地点からまとまって出土したものである。弥生土器壺（5）・甕（6・7）・甕底部（8・9）・小形甕（10）・有孔底部（11）である。第V～VI様式のものである。甕（6）・（7）の口縁端部には沈線文 1 条が施されている。小形甕（10）は口縁が波状になっている雑なつくりのものである。

（12・13）は20地点、（14）は22地点、（15・16）は21地点から出土したものである。弥生土器長頸壺（12）・甕（13・14）・高杯（15）・鉢（16）である。第V-3～VI様式のものである。

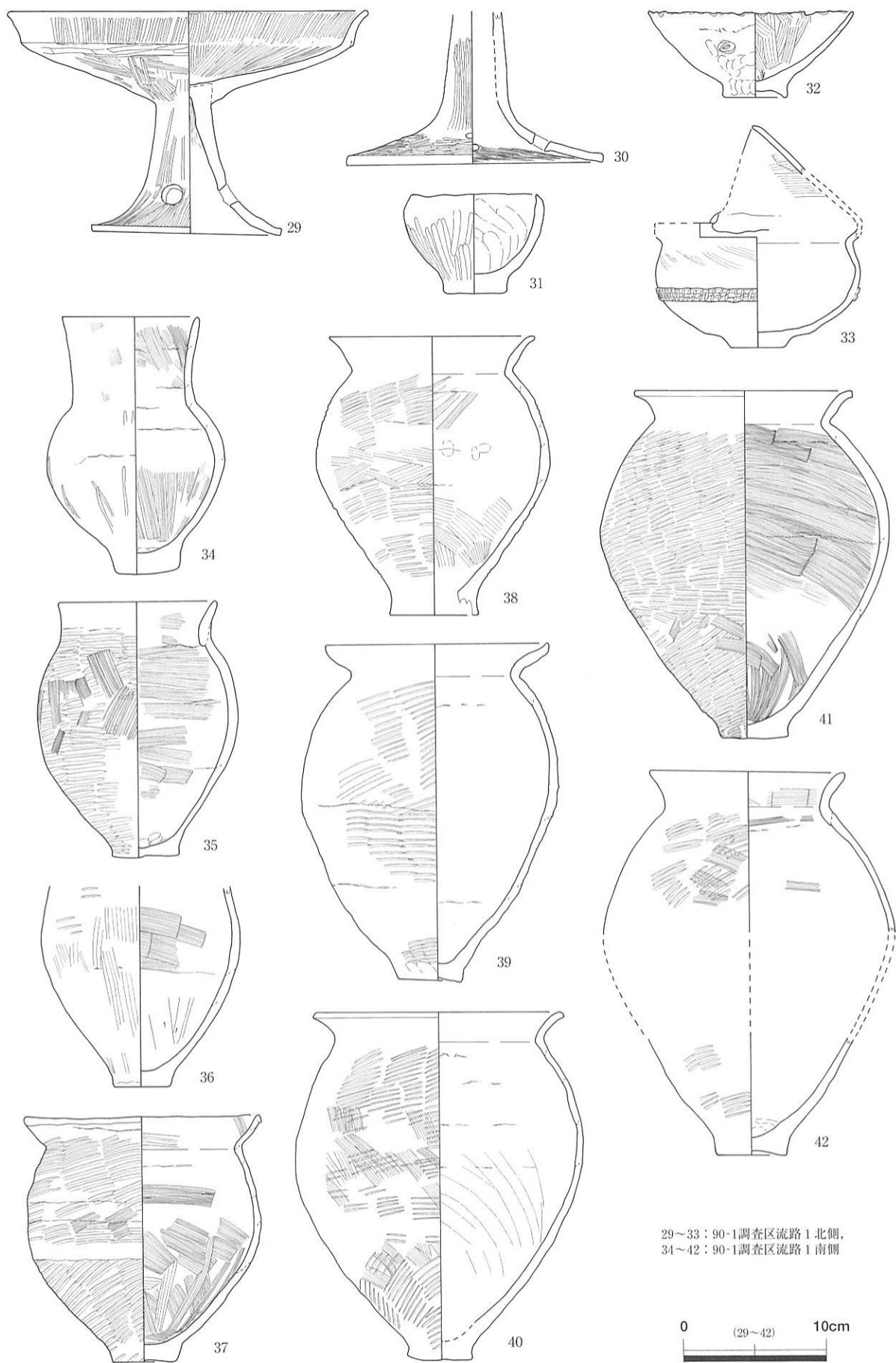
（17～26・28～33）は流路 1 右岸の微高地上から出土したものである。弥生土器長頸壺（17～20）・壺（21）・甕（22～28）・高杯（29・30）・鉢（31・32）・手焙形土器（33）である。第V-2～VI様式のものである。長頸壺（17）は頸部にヘラ記号が施され、外底部にも竹管文が 1 個施されている。甕（23）は口縁端部に沈線文が 2 条施されている。鉢（32）には靱痕がある。手焙形土器（33）は、凸帯の上に沈線を施した後、その上に刻目を施しており、内面には覆部をつけた時の粘土痕が残る。これらのうち、出土状況で注目されるのは、（18）・（22）と（23）・（28）で、前者は 6 地点、後者は 49 地点から並んで出土した（図版27-5）。



図IV-143 第11-2 a面微高地出土遺物①



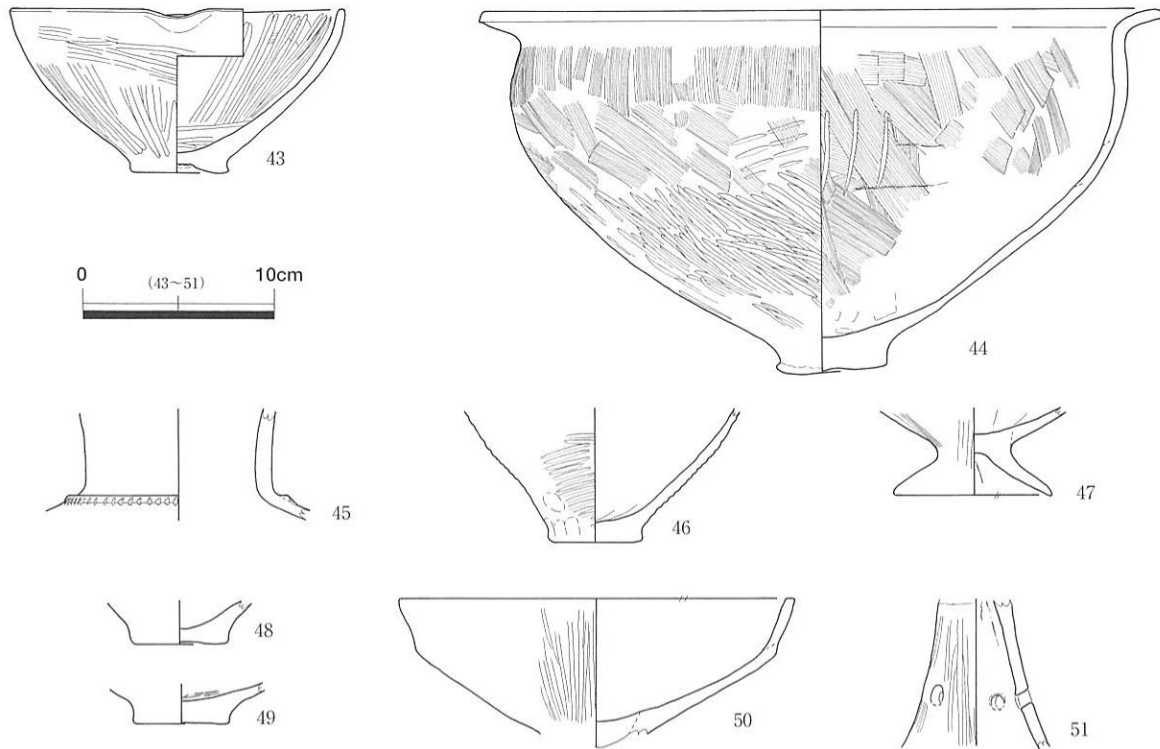
図IV-144 第11-2 a面微高地出土遺物②



29~33 : 90-1調査区流路1 北側,  
 34~42 : 90-1調査区流路1 南側

0 (29~42) 10cm

图IV-145 第11-2 a面微高地出土遺物③



図IV-146 第11-2 a面微高地出土遺物④

43・45～47：90-1調査区流路1南側，44：90-1調査区流路2北側，48～51：93-1調査区

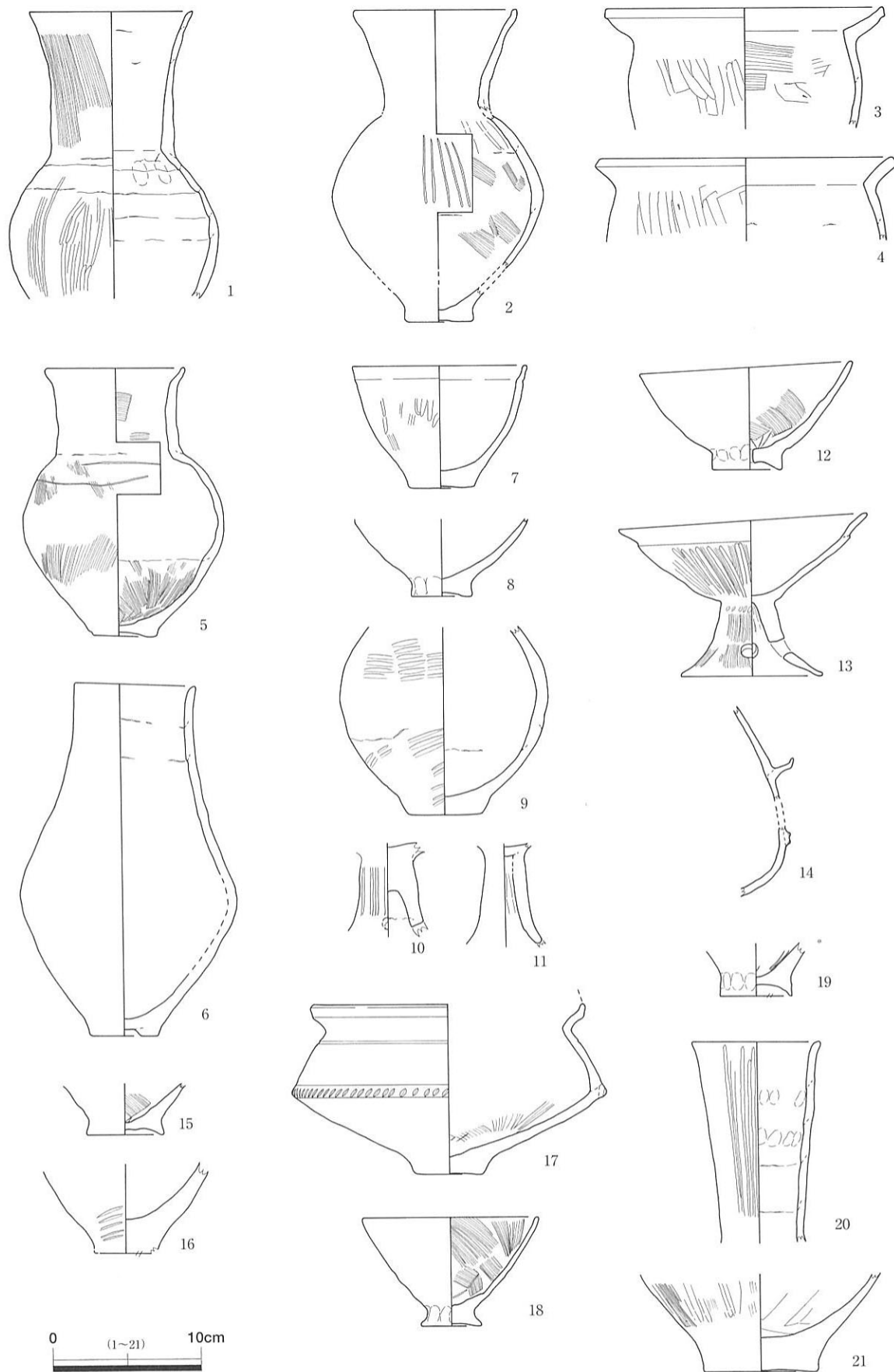
(27・34～47)は流路1左岸の微高地から出土したものである。弥生土器長頸壺(34)・壺頸部(45)・甕(27・35～42・46)・鉢(43・44・47)等であり、第V～VI様式のものである。壺頸部(45)には刻目貼付凸帯が施されている。

(48～51)は37地点や41地点から出土したものである。弥生土器底部(48・49)・高杯(50・51)である。第V～VI様式のものである。高杯(50)は破損後、煤が付着している。

水路42西側大畦畔(42地点)からは、弥生土器長頸壺(図IV-147:1・2)が出土した。第V-2～VI様式のものである。(2)は破片同士が接合できなかったため図上復元したものであるが、肩部に5条のヘラ記号が施されている。これらの土器は大畦畔の上から出土したと報告された(概要X, pp.41-42)が、この認識には問題がある。図版27-3で示したように、この大畦畔は第10b面精査時に既に確認でき、第9a層の耕作によって上部が削られたと考えられる。土器は半周しか残存しなかった(図版27-4)が、これは大畦畔上部が削られた際に土器の半分も削られてしまったためであろう。出土状況からみて、本来は長頸壺を2個体、横倒しにして大畦畔盛土中に埋め込んだものと考えられる。その他、水路42西側大畦畔盛土中からは、弥生土器甕(図IV-147:3・4)も出土した。第V-1様式ぐらいのものである。これらはいずれも破片であり、意図的に埋納されたのではないと思われる。

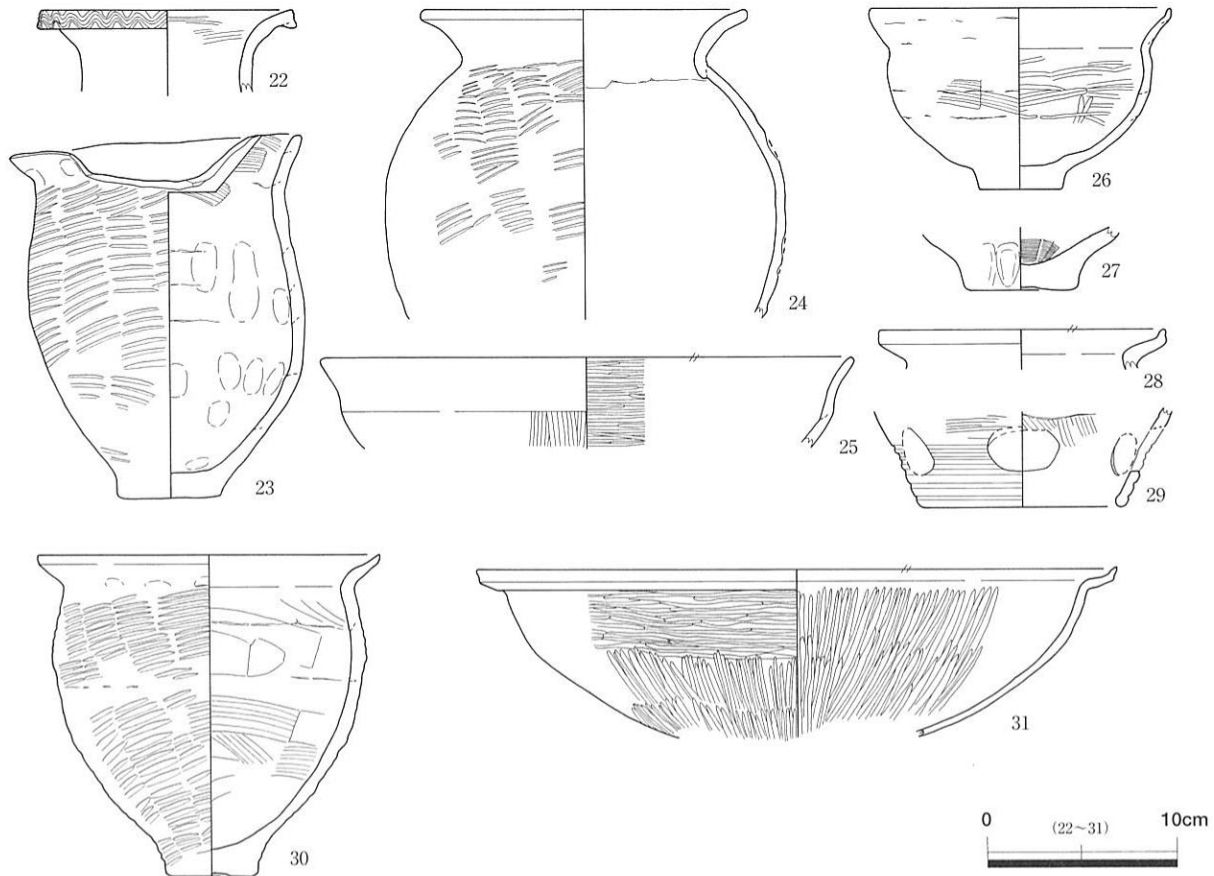
水路43南側大畦畔(43地点)からは、弥生土器長頸壺(図IV-147:5)が出土した。第VI様式である。肩部には、1本の線が1周回ったようなヘラ書きが施されている。盛土内に破片が1ヶ所に集中して出土しており、土器を破砕して埋め込まれた可能性が高い。

水路38東肩(1地点)からは、弥生土器壺(図IV-147:6)が出土した。第V～VI様式である。長頸壺の変形と思われる。これについては出土層準に不明な点が多いが、水路の脇には盛土がなされていたため、この盛土内に横倒しの状態で埋め込まれた可能性が高い。



图IV-147 第11-2 a面哇畔出土遗物①





図IV-148 第11-2 a面畦畔出土遺物②

図IV-147 1・2：水路42西側大畦畔埋納，3・4：水路42西側大畦畔盛土中，5：水路43南側大畦畔，6：水路38西肩，  
7：水路38北側大畦畔，8：水路38南側大畦畔脇，9～11：水路38南肩盛土中，12：水路39北肩盛土中，  
13・14：水路40南肩盛土中，15・16：ブロックJ・M間大畦畔盛土中，17：水溜状遺構1脇，18：堰15脇盛土中，  
19：水路45脇微高地直上，20・21：水路46東側大畦畔盛土中

図IV-148 22・24・25：水路47東側大畦畔盛土中，23：水路47東側大畦畔埋納，26：水路47東側大畦畔脇，27～29：水路47西側大畦畔盛土中，  
30：大畦畔22盛土中，31：大畦畔21直上

水路38北側大畦畔のうち、水口41の脇にあたる部分（32地点）からは、弥生土器鉢（図IV-147：7）が出土した。第V様式ぐらいかと思われる。これについては、大畦畔盛土最下部に口縁を上に向けてやや傾いた状態で埋め込まれていたことが判明している（図版27-1）。

水路38南側大畦畔の脇（34地点）からは、弥生土器鉢（図IV-147：8）が出土した。第V～VI様式のものである。これは第11-2 a層上部から出土したもので、大畦畔上から転落したものの可能性がある。

水路38南側大畦畔（53地点）からは弥生土器壺胴底部（図IV-147：9）、その大畦畔から分岐して微高地部を南北方向にのびる高まり（54地点）からは、高杯脚（10・11）が出土した。第V～VI様式のものである。前者は盛土直下に正置された状態で埋め込まれたもので、上部は大畦畔盛土上部が削られた際に失われている。後者については盛土内から出土したものの、意図的に入れられた可能性は低い。

水路39北肩（29地点）からは弥生土器有孔鉢（図IV-147：12）が出土した。第VI様式のものである。これは、頸部が露出する形で盛土内に埋め込まれた細頸壺の上にかぶせられていたものである（概要Ⅶ，p.38）。細頸壺のほうは遺存状況が悪く、取り上げられなかった。

水路40南肩のうち、24地点からは弥生土器高杯（図IV-147：13）が出土した。第V様式のものである。これは水路脇の盛土内から出土したもので、壺か甕の胴部をドーナツ状に分割したものに脚部を差し込

んで、正置して埋納されたものである（図版27-2）。また23地点からは手焙形土器（14）が出土した。手焙形土器には刻目凸帯が施されている。第Ⅵ様式のものである。この地点では、甕胴部が半裁されて盛土中に埋納されていたが、遺存状況が悪く取り上げることができなかった。手焙形土器の破片は、その付近の盛土中から出土した。

ブロックJ・M間大畦畔（25地点）からは、弥生土器鉢底部（図Ⅳ-147:15）・甕底部（16）等が出土した。第Ⅵ様式のものである。これらは盛土内から出土したが、意図的なものかどうかは不明である。

水溜状遺構1脇（28地点）からは弥生土器手焙形土器（図Ⅳ-147:17）が出土した。第Ⅵ様式のものである。沈線文1条と刻目凸帯が施されている。これは第11-2a面直上に正置されていた。

堰15脇の盛土中（30地点）からは弥生土器鉢（図Ⅳ-147:18）が出土した。第Ⅵ様式のものである。盛土下部から正置された状態で出土しており、意図的に埋め込まれたと考えられる。

水路46東側大畦畔盛土中からは、弥生土器細頸壺（図Ⅳ-146:20）・壺底部（21）が出土した。細頸壺は第Ⅴ-1~2様式ぐらいのもので、壺底部は第Ⅱ様式かと思われるものである。これらは盛土直下に含まれていたものであるが、大畦畔造成中にまぎれこんだ可能性が高い。

水路47東側大畦畔（2地点）からは弥生土器甕（図Ⅳ-148:23）が出土した。第Ⅵ様式のものである。口縁部には打ち欠きかと思われる欠けがある。これは盛土直下から横倒しの状態で出土したもので、意図的に埋め込まれたものと思われる。また、この大畦畔の盛土中からは、弥生土器壺（22）・甕（24）・高杯（25）も出土した。第Ⅴ~Ⅵ様式のものである。壺（22）は口縁端部に波状文（4条）を施している。これらについては出土状況の記録が残されていない。

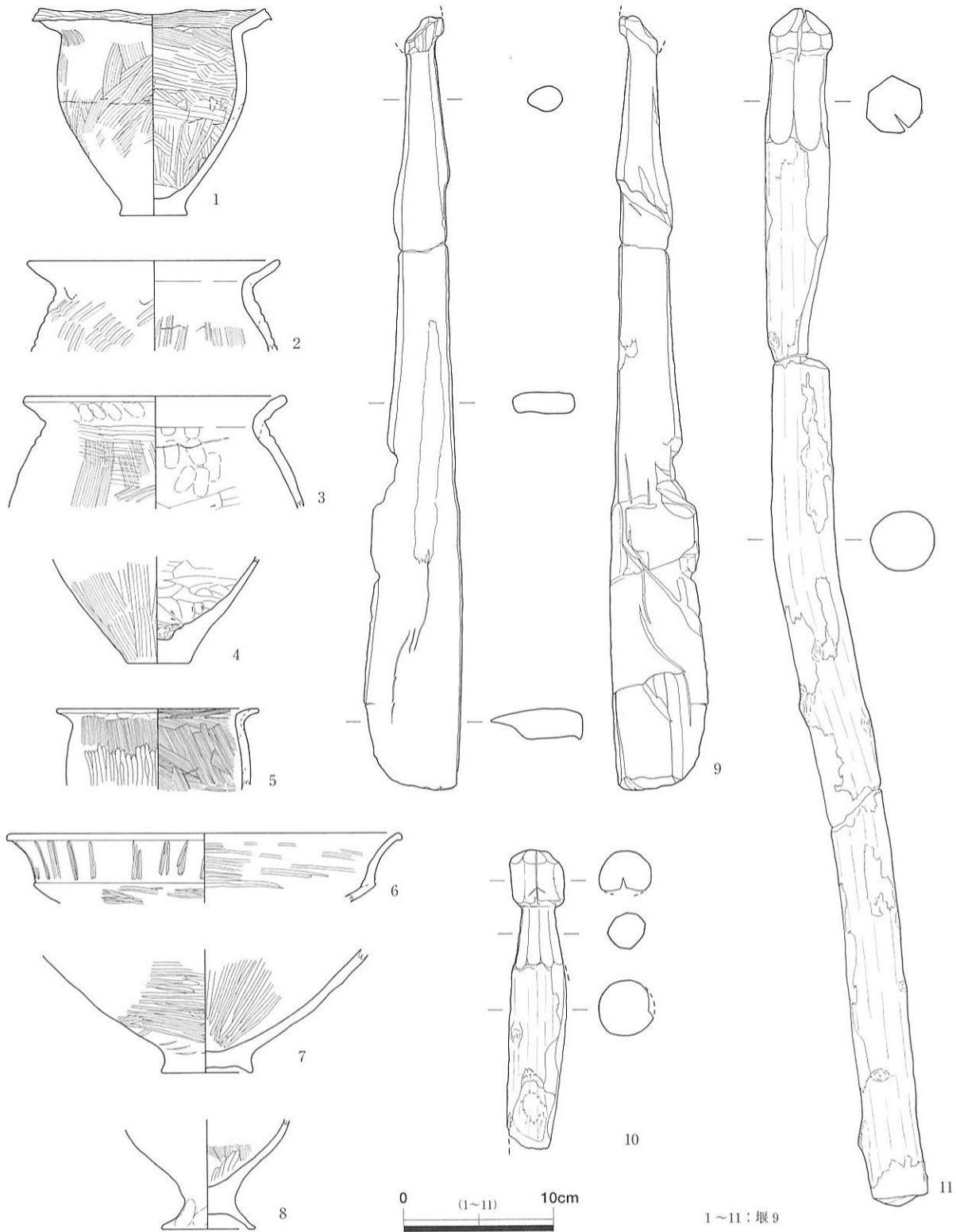
また、水路47東側大畦畔脇（48地点）からは、弥生土器鉢（図Ⅳ-148:26）が出土した。第Ⅵ様式のものである。これは大畦畔脇の第11-2a面から出土したもので、大畦畔上から転落したと考えられる。

その他、水路47西側大畦畔盛土中からは、弥生土器壺底部（図Ⅳ-147:27）・甕（28）・台付鉢（29）が出土した。壺底部と甕は第Ⅴ~Ⅵ様式のものであるが、台付鉢は第Ⅳ-2様式ぐらいのものである。台付鉢は凹線文5条を施し、透かしは円形で5方向にある。内面には体部に接合するためのハケメが残っている。これらはいずれも単独で盛土に含まれており、大畦畔造成時にまぎれこんだ可能性が高い。

ブロックH・I間大畦畔のうち、大畦畔22(27地点)の盛土中からは弥生土器甕（図Ⅳ-148:30）、大畦畔21(26地点)の直上からは鉢が出土した。いずれも第Ⅴ~Ⅵ様式のものである。前者については、出土状況の記録が不十分であるが、大畦畔盛土中に埋納されていた可能性が高い。また、後者は破片が直上から出土したもので、大畦畔の上に置かれていたものの一部である可能性も考えられる。

堰9周辺からは、弥生土器甕（図Ⅳ-149:1~5）・高杯（6）・鉢底部（7・8）、木製品等（9~11）が出土した。土器はほとんど第Ⅴ~Ⅵ様式のものであるが、甕（5）は第Ⅳ-4様式と思われる。木製品は櫛状木製品（9）と有頭棒（10・11）である。櫛状木製品は材質がエノキで、加工痕は不明である。有頭棒（10）は樹種がヤブツバキで、くびれ部は8面加工している。（11）は樹種がオニグルミで、くびれ部は7面加工している。これらは堰9検出作業中に出土したものであるが、堰の伴うものがあるかどうかは不明である。

堰10周辺からは、弥生土器甕（図Ⅳ-150:12・13）・把手付鉢（14）・鉢（15）、木製品（16・17）等が出土した。土器は第Ⅴ~Ⅵ様式のものである。木製品は直柄横鋏（16）と有頭棒（17）である。直柄横鋏は柄の一部が残存しており、炭化が著しい。有頭棒は樹種がスダジイで、くびれ部は9面加工されている。これらについても堰に伴うものがあるかどうか不明であるが、完形品の（12）は堰を構成

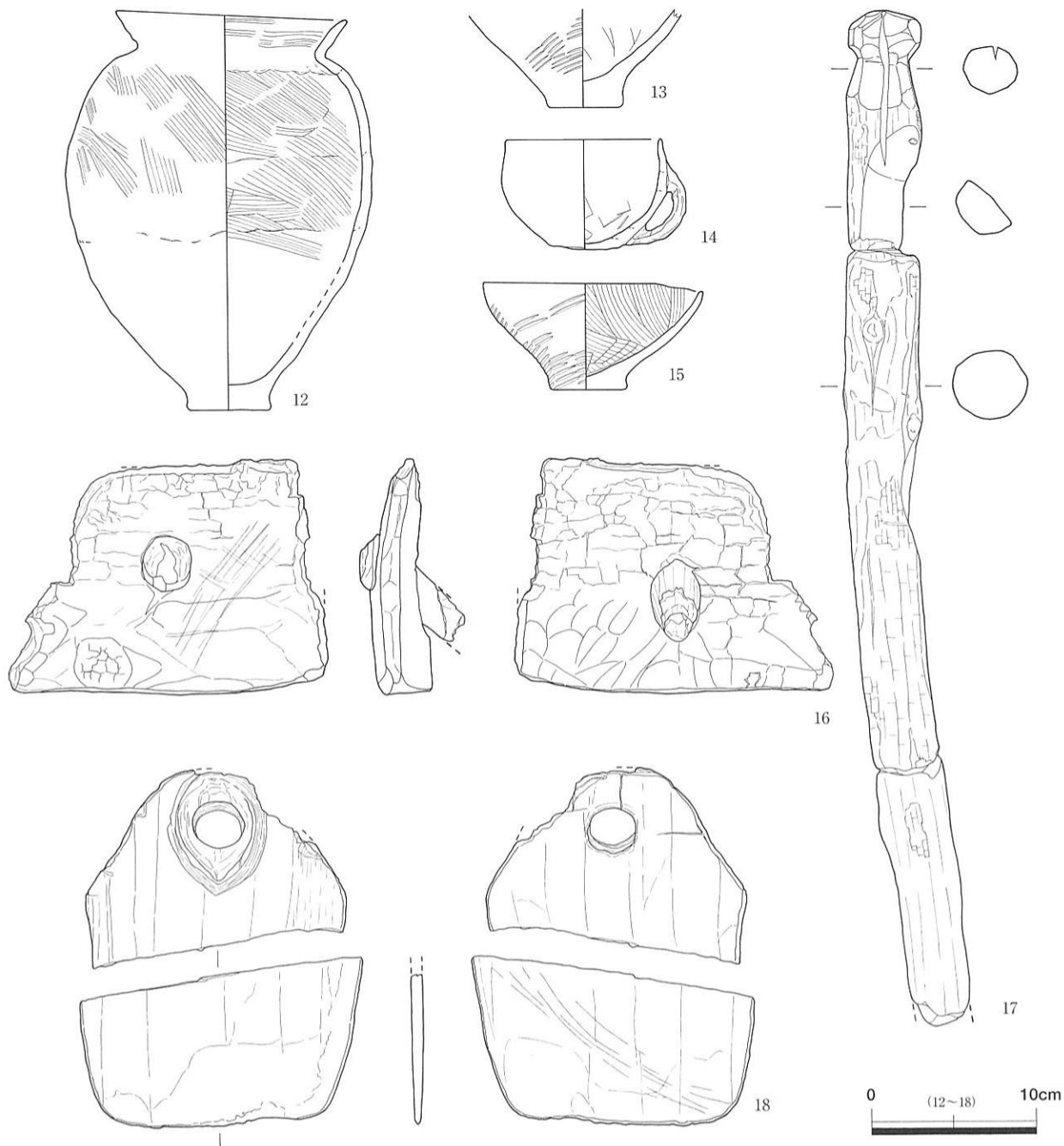


図IV-149 第11-2 a面堰出土遺物①

する杭の上部に接して出土しており、堰の埋没時にその周辺に存在していた可能性もある。

堰11周辺からは、木製広鋏（図IV-150：18）と弥生土器長頸壺（図IV-151：19）が出土した。長頸壺は第VI様式である。広鋏は現在、上半部が乾燥収縮している。これらも堰に伴うかどうかは不明である。

堰12周辺からは、弥生土器壺（図IV-151：20）・甕（21）・小形把手付鉢（22）、木製品（23～26）等



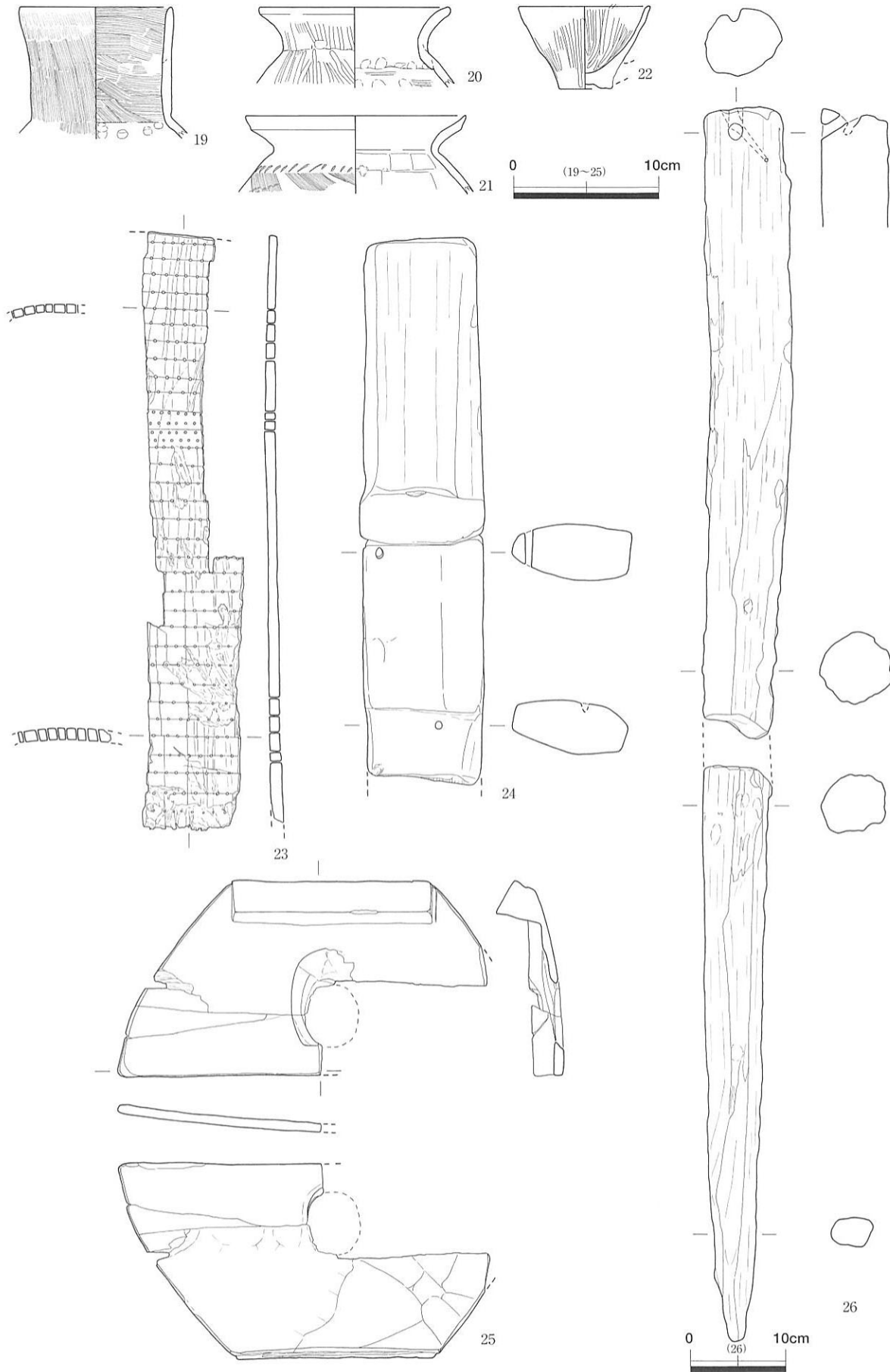
図IV-150 第11-2 a面堰出土遺物②

図IV-150 12~17: 堰10, 18: 堰11

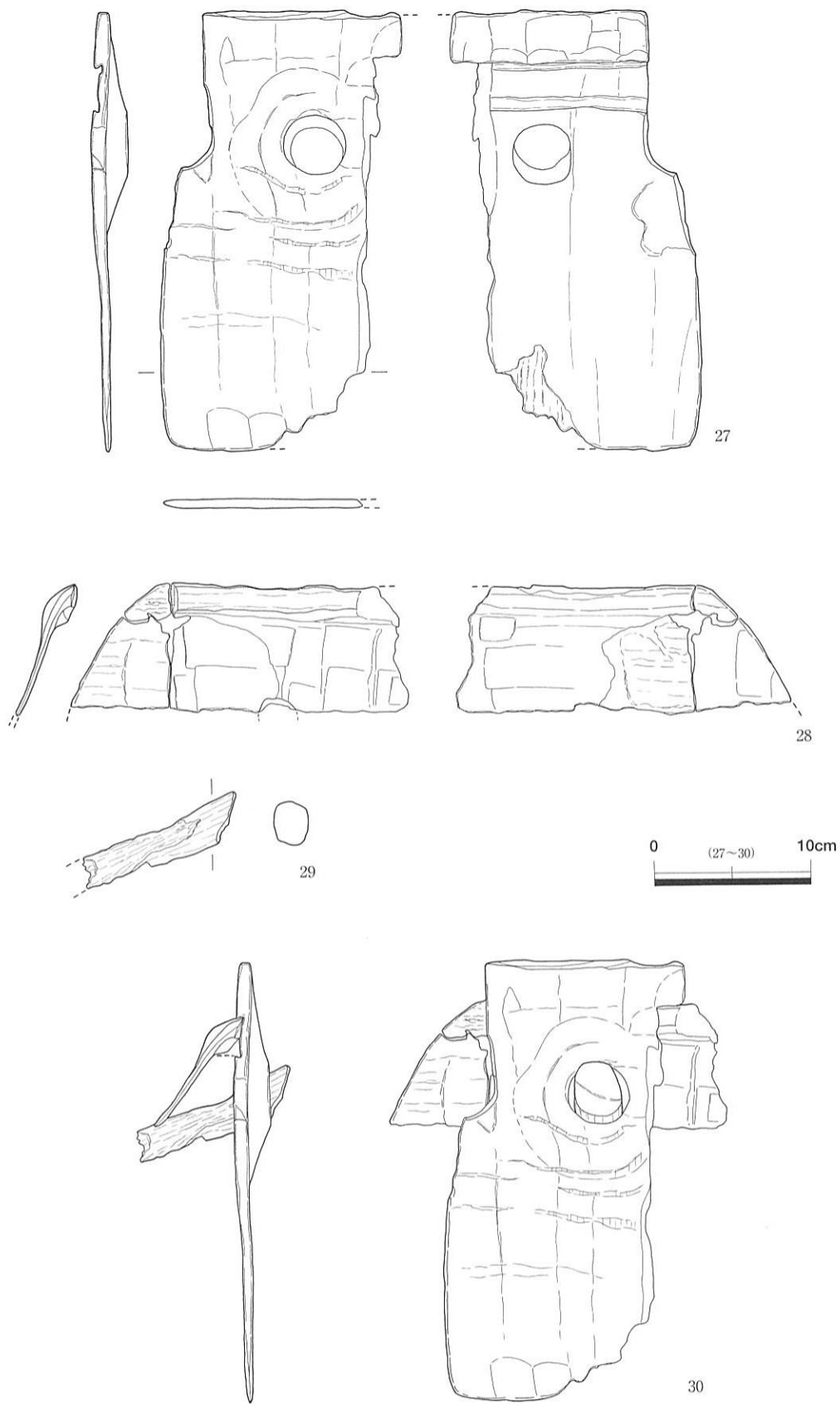
図IV-151 19: 堰11, 20~26: 堰12

が出土した。土器は第V~VI様式のものである。甕は近江系かと思われるもので、肩部に刺突文が施されている。胎土は生駒西麓産である。木製品は楯 (23)、泥除 (25)、不明品 (24)、杭 (26) である。楯は樹種がスギで、上下約1.3cm 間隔にケビキ線に沿って小孔が並ぶが、一部ケビキ線を見逃して密になる所がある。泥除は加工痕が一部残り、部分的に炭化している。不明品は樹種がアカガシ亜属で、上方、下方が凹み、穿孔が2ヶ所見られるが、その内1ヶ所は未穿孔である。杭は樹種がアカガシ亜属で、上端に2重に穿孔されている。これらのうち、楯は堰の杭に接して出土しているが、それも含めて堰に直接関連する遺物が含まれているかどうかは不明である。

堰16の下流側の水路38肩部からは、木製鋏が出土した (カラー図版25、図版27-8)。鋏 (図IV-151:



図IV-151 第11-2 a面堰出土遺物③



27~30：堰16脇

図IV-152 第11-2 a 面堰出土遺物④



27)、泥除 (28)、柄 (29) と揃ったもので、組み合わせると (30) のようになる。残念ながら、泥除の遺存状況は悪く、現在、細かな破片に分かれてしまっている。

水路38のうち、31地点の底面付近からは弥生土器小形壺 (図IV-153:1)・甕底部 (2)・鉢 (3・4)・底部 (5)、木製品 (6~8) 等が出土した。土器は第V~VI様式のものである。小形壺には口縁端部に刻目が施されている。木製品は不明品 (6)、棒状 (7)、杭状 (8) のものである。不明品の樹種はムクノキで穿孔が1個あり、屈曲部内側に加工痕らしきものがある。棒状木製品 (7) の樹種はコナラ亜属で穿孔が1ヶ所ある。杭状木製品 (8) の樹種はサカキで、出土時は穿孔が1ヶ所あったようだが、現在は腐蝕してしまって不明である。この他、この部分からは堰16から流出したと思われる杭も出土した。これらは堰16か、その周辺に存在していた可能性が高い。

水路45脇微高地直上 (55地点) からは、弥生土器鉢底部 (図IV-147:19) が出土した。第VI様式のものである。

水路42を埋める砂層中からは、弥生土器長頸壺 (図IV-153:9)・甕 (10~15)・高杯 (16) 等が出土した。第V~VI様式のものである。甕 (12) の口縁端部には凹線文1条が施されている。

水路44を埋める砂層中からは、木製楯 (図IV-154:17) が出土した。一部間隔の狭い所もあるが、上下1.5cm間隔で小孔が並ぶ。現在は残念ながら自然乾燥してしまっている。

水路47を埋める砂層中からは、弥生土器長頸壺 (図IV-154:18)・壺 (19~22)・甕 (23~25)・高杯脚 (26)、木製品 (27~29) が出土した。土器はほとんど第V~VI様式のものであるが、高杯脚のみ第IV様式後半ぐらいのものである。長頸壺 (18) の肩部には記号文として竹管文が2個施され、凹みに赤色顔料が付着している。壺 (19) の肩部にはヘラ書きが施されているが、何を表すのかは不明である。壺 (20) の頸部には沈線文が1条施されている。木製品は板状 (27)、杭 (28)、杭? (29) である。板状 (27) は樹種がアカガシ亜属で、四角い穿孔が2ヶ所施されている。杭 (28) は樹種がオニグルミで、先端が6面加工されている。杭? (29) は樹種がアカガシ亜属で、先端を2面加工し、方形状小孔が8ヶ所施されている。

これらの遺物のうち、出土状況が注目されるのが甕 (23~25) である。これらはすべて3地点から出土したが、大畦畔上から水口11に転落したと考えられる状況であった (概要II, pp.73-74)。これらは水田が埋没する直前に、水口脇の大畦畔脇に置かれていたと推定される。

水路48を埋める砂層中からは、弥生土器甕 (図IV-155:30・31) 等が出土した。第VI様式のものである。甕 (31) は備前V-4様式と思われるもので、端部に凹線文を2条施している。

水路54を埋める砂層中からは、弥生土器甕 (図IV-155:32) が出土した。第V様式のものである。

水路56を埋める砂層ないしその周辺からは、弥生土器小形長頸壺 (図IV-155:33)・甕 (34) が出土した。第V-3~VI様式のものである。

水路57からは弥生土器長頸壺 (図IV-155:35~37) が出土した。(35)・(36) が第V-1様式、(37) が第VI-1様式のものである。長頸壺 (36) は口頸部と胴底部が接合しないため図上復元したものであるが、肩部にヘラ記号が施されている。このうち、(35)・(36) は13地点において2個1対で出土したものである。これらは意図的に置かれたものである可能性が高いが、この地点は水路の他の部分と比べて幅が広く、深さも深くなっている。流路2と交わる部分でもあり、流路2を埋める堆積物と水路を埋める堆積物を同時に掘削してしまい、流路内の遺物を水路内出土遺物と誤認した可能性が高い。これらの土器の時期が水路南部から出土した (37) と比べて古いことも、その傍証となろう。時期的にみて、13

地点の土器は第11-2 a 面の水田よりも古いと思われる。

当地区南西隅で検出した水路58を埋める砂層中からは、弥生土器甕（図Ⅳ-155：38・39）が出土した。第Ⅴ様式のものである。また、水路57・58を埋める砂層中からは、有茎式石鏝（40）が出土した。サヌカイト製で、両面一部と基部端部に自然面が残る。

次に、流路1から出土した遺物を列挙する（図Ⅳ-156：1～図Ⅳ-161：164）。これらには、流路1下部にあたる第10 b 層に含まれていたものと、第11-2 a 面～第11-1 面段階に形成された砂州を構成する堆積物に含まれていたものがある。遺物が大量に出土したので、89-3調査区、90-1調査区出土遺物を区別して掲載している。

89-3調査区部分からは（1～14）等が出土した。弥生土器壺（1・2）・長頸壺（3）・短頸壺（4）・小形甕（5）・甕（6～8）・高杯脚（9）・（10）・鉢（11）・（12）が、第Ⅴ～Ⅵ様式のものである。また、第Ⅰ様式の壺（13）・甕（14）等も出土している。壺（2）は口縁端部に擬似凹線文が3条施されている。甕（8）は近江系で、口縁端部に列点文（5条）、肩部に直線文（5条、5条）、列点文（6条）を施している。

90-1調査区部分からは（15～164）が出土した。壺類のうち、弥生土器壺（15～32）・複合口縁壺（33）・短頸壺（34・38）・細頸壺（35）・長頸壺（36・37・39～42）・壺底部（43・44）・壺体部片（45・46）が第Ⅴ～Ⅵ様式のもので、第Ⅰ様式のもの（47～50）や第Ⅳ様式のもの（51～54）も含まれている。壺（16）は口縁端部に沈線文1条を施している。（17）は口縁端部の一部に刻目を施している。（25）は口縁端部に沈線文（4条）、頸部に列点文？が施され、口縁端部と内面には赤彩されているのかと見える所がある。

（27）は口縁端部に円形竹管浮文が施され、（28）は口縁端部に凹線文2条と円形竹管浮文、頸部に沈線文1条が施されている。（29）は口縁端部に直線文（3条）と竹管文、肩部に直線文（4条）、部分的に波状文（4条）が施されている。短頸壺（34）は肩部に竹管文が1個残存している。長頸壺（37）は頸部に凸帯を施し、（39）は肩部にヘラ記号を施している。壺体部片（45・46）は吉備系直口壺の影響のあるものと思われ、凸帯2条間に連続渦文を施している。胎土は生駒西麓産である。第Ⅳ様式の壺（52）は口縁部内面にヘラ記号かと思われるものがある。

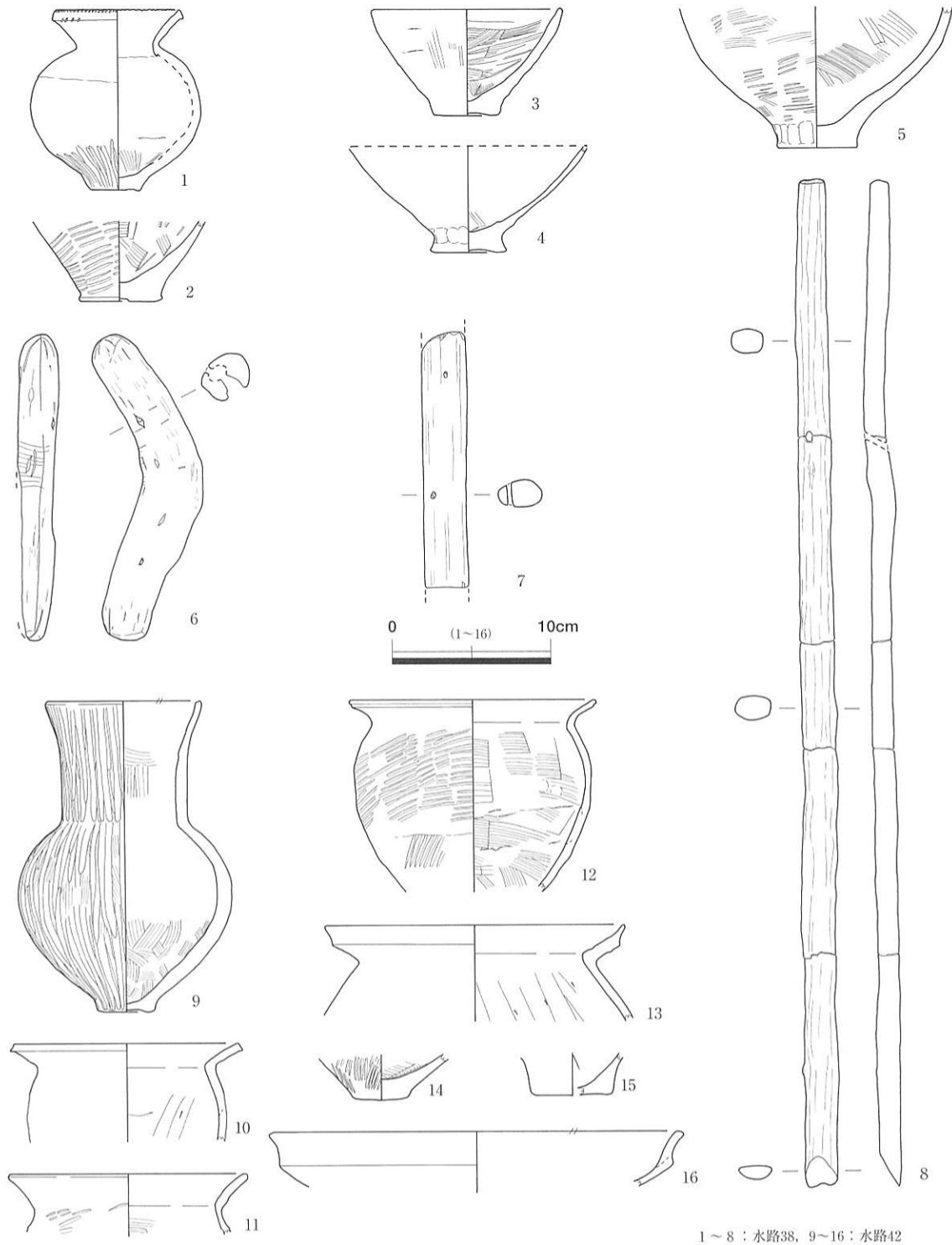
甕のうち、小形甕（甌）（55）・小形甕（56・59）・甕（57・58・60～106）・小形甕底部（107）・甕底部（108～114）が第Ⅴ～Ⅵ様式のもので、第Ⅰ様式のもの（115・116）、第Ⅱ様式のもの（117・118）、第Ⅱ～Ⅲ様式のもの（126）、第Ⅲ～Ⅳ様式のもの（119・120・123）、第Ⅳ様式のもの（121・122・124・125）もある。甕（61）には格子状タタキが施されている。（104～106）は中部瀬戸内系と思われるもので、口縁端部に凹線文が2～3条施されている。胎土は生駒西麓産である。甕底部（114）は擬口縁になるのか、擦れている。第Ⅱ様式の甕（117）・（118）は大和形である。第Ⅳ様式の甕（125）は中部瀬戸内系で肩部に列点文を施している。

高杯（127～138）は、ほとんど第Ⅴ～Ⅵ様式の脚である。その他、第Ⅲ様式のもの（139）もある。（128）は刻目凸帯を施している。高杯脚（131）は刺突文、直線文（4条+a）を施し、（136）には透かしが上部に3方向、下部に4方向ある。

鉢（140～150）は第Ⅴ～Ⅵ様式である。（148）は有孔鉢である。

（151）・（152）は甕か鉢の脚で（151）の端部には凹線文1条が施されている。

他にミニチュア鉢（153～156）、ミニチュア器台？（157）、器台（158～162）も出土した。第Ⅴ～Ⅵ様式のものである。（158）は口縁端部に波状文（4条）、円形竹管浮文、刻目を施し、（159）は口縁端部に凹線文4条、円形浮文が施されている。（160）は口縁端部上下に刻目が施され、（161）は口縁端部に鋸



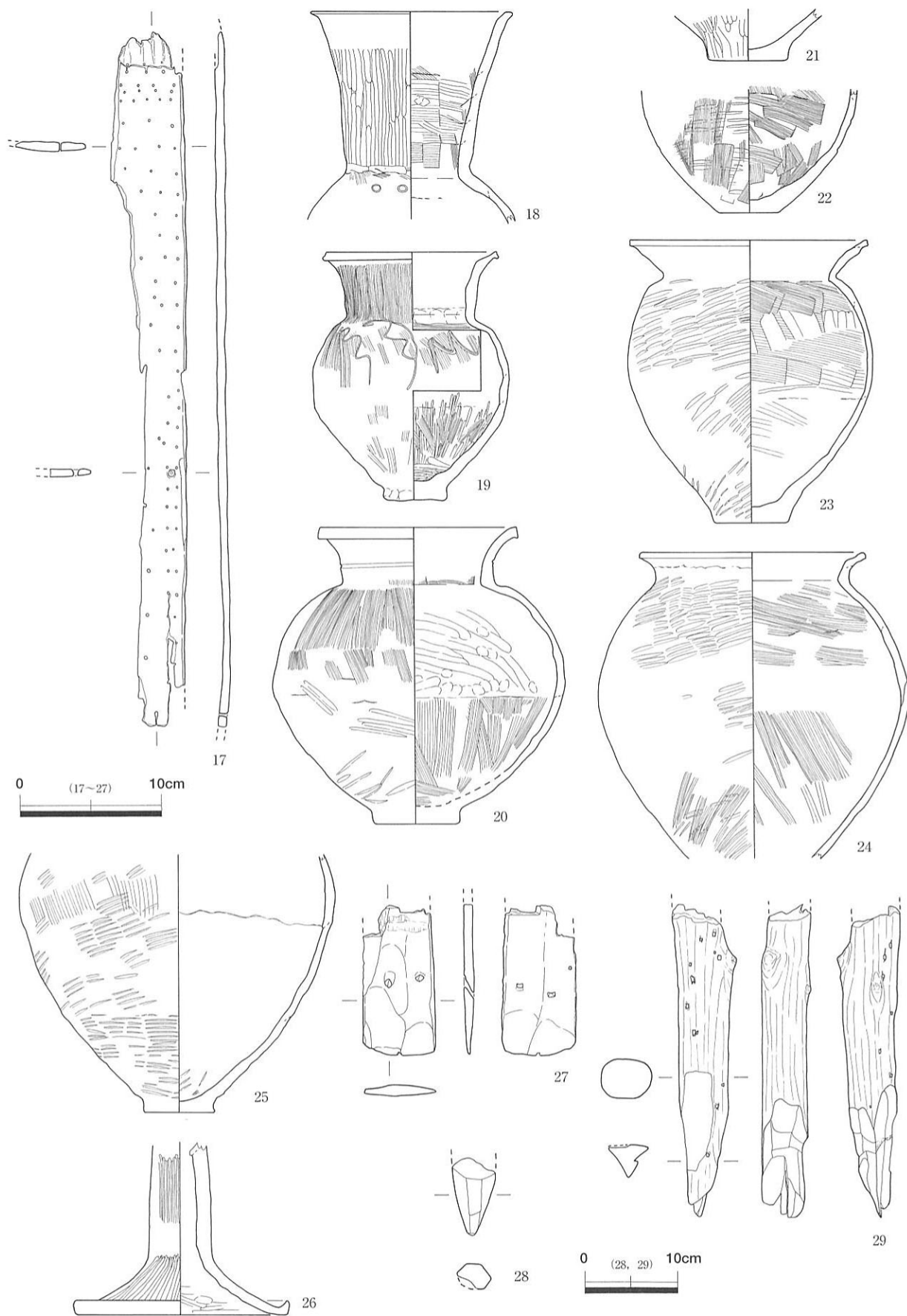
図IV-153 第11-2 a面水路出土遺物①

歯文が施されている。

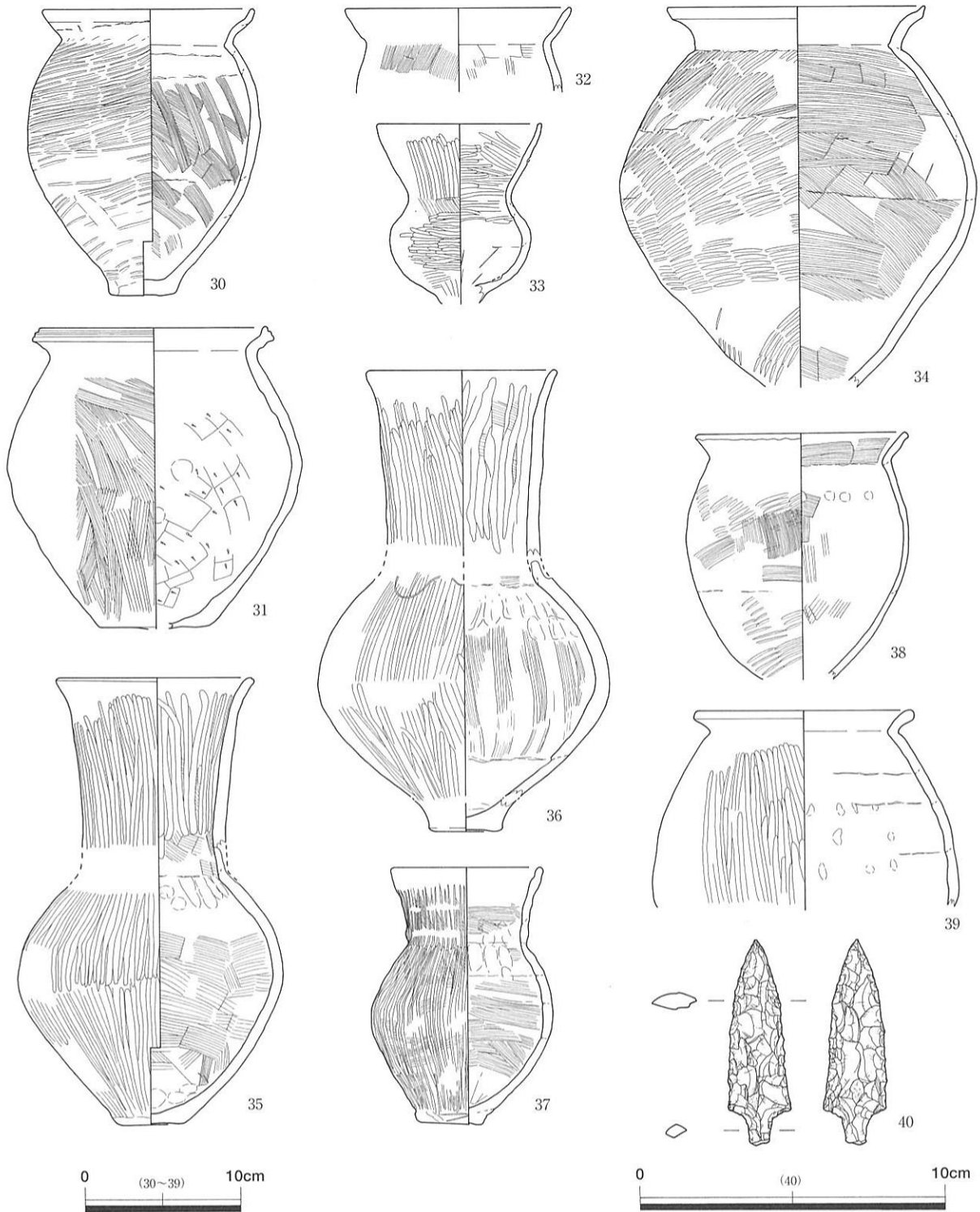
土器全体の時期は第V～VI様式であるが、第V様式のものが多い。

木製品としては、掛矢（163）と盤（164）が出土している。掛矢は樹種がアカガシ亜属で、表裏の凹みは使用痕かもしれない。盤は樹種がヒノキで、脚は欠失して痕跡が残っている。

また、流路2からは次のような遺物が出土した（図IV-162：1～IV-163：24）。弥生土器長頸壺（1・2）・壺（3～6）・短頸壺（7）・甕（8～14）・高杯（15・16）・鉢（17・18・20）・脚（19・21）、木



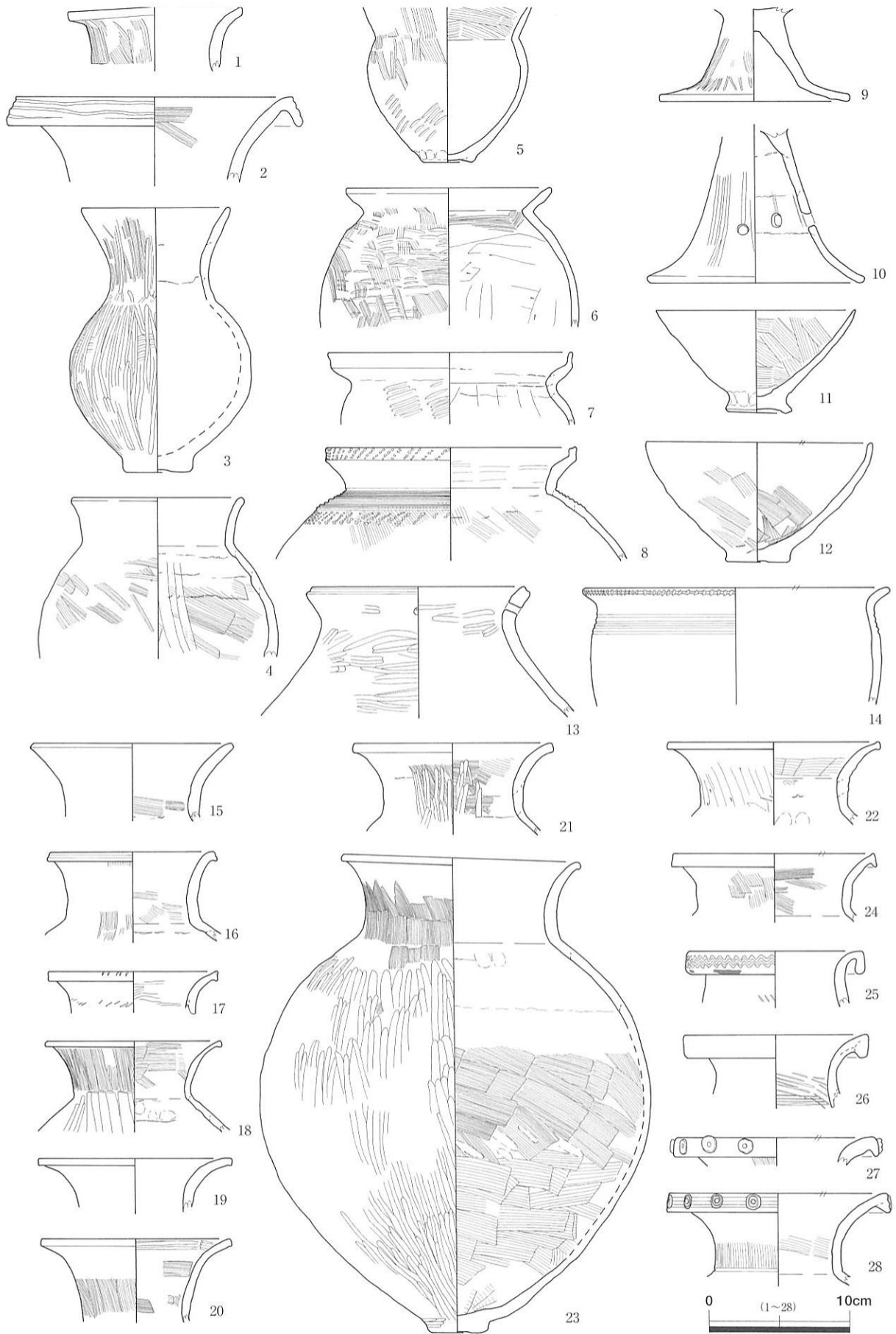
图IV-154 第11-2 a 面水路出土遗物②



図IV-155 第11-2 a面水路出土遺物③

図IV-154 17:水路44, 18~29:水路47

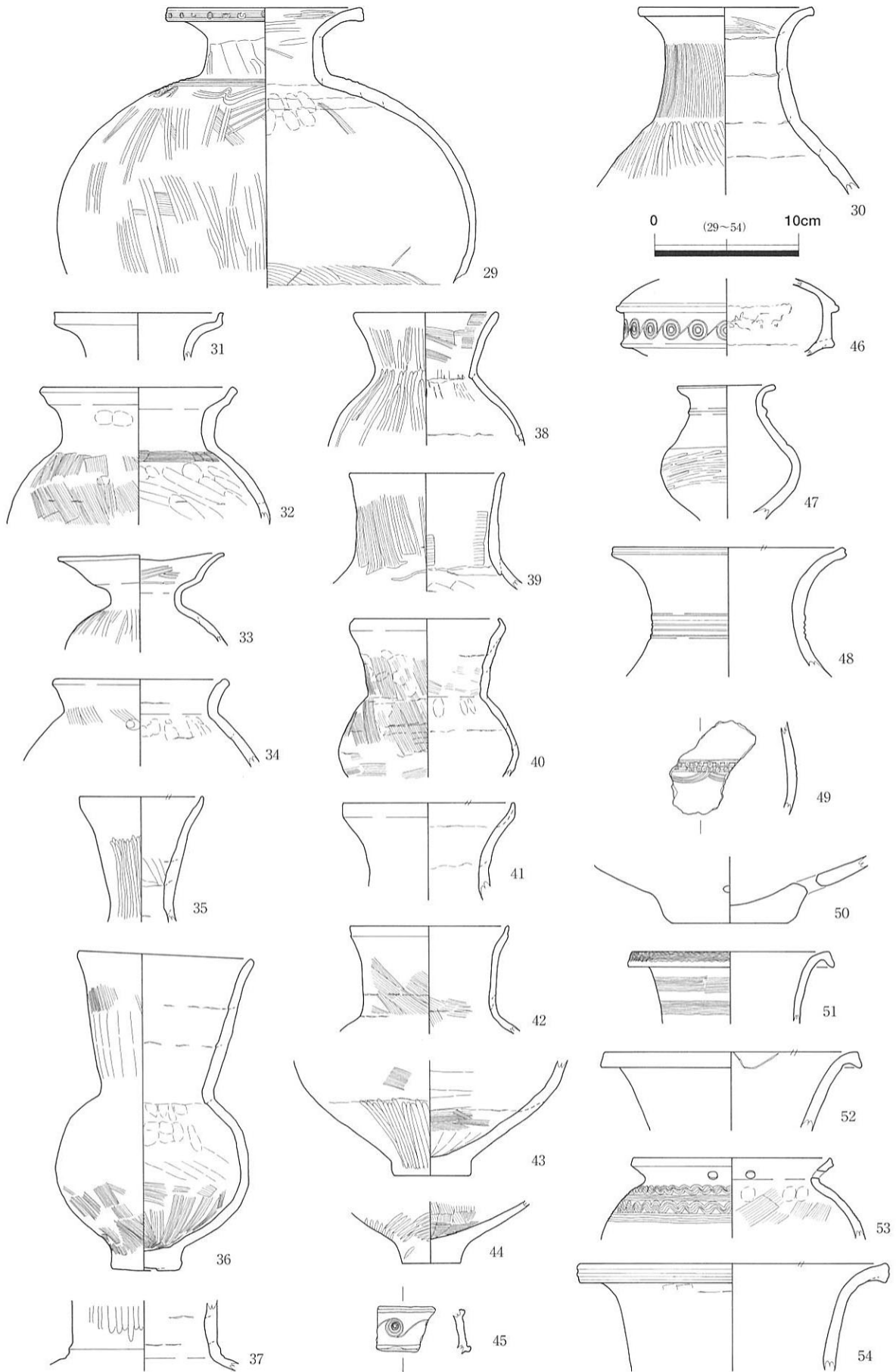
図IV-155 30・31:水路48, 32:水路54, 33・34:水路56, 35~37:水路57, 38・39:水路58, 40:水路57・58を埋める砂層中



图IV-156 第11-2 a面流路1 出土遗物①

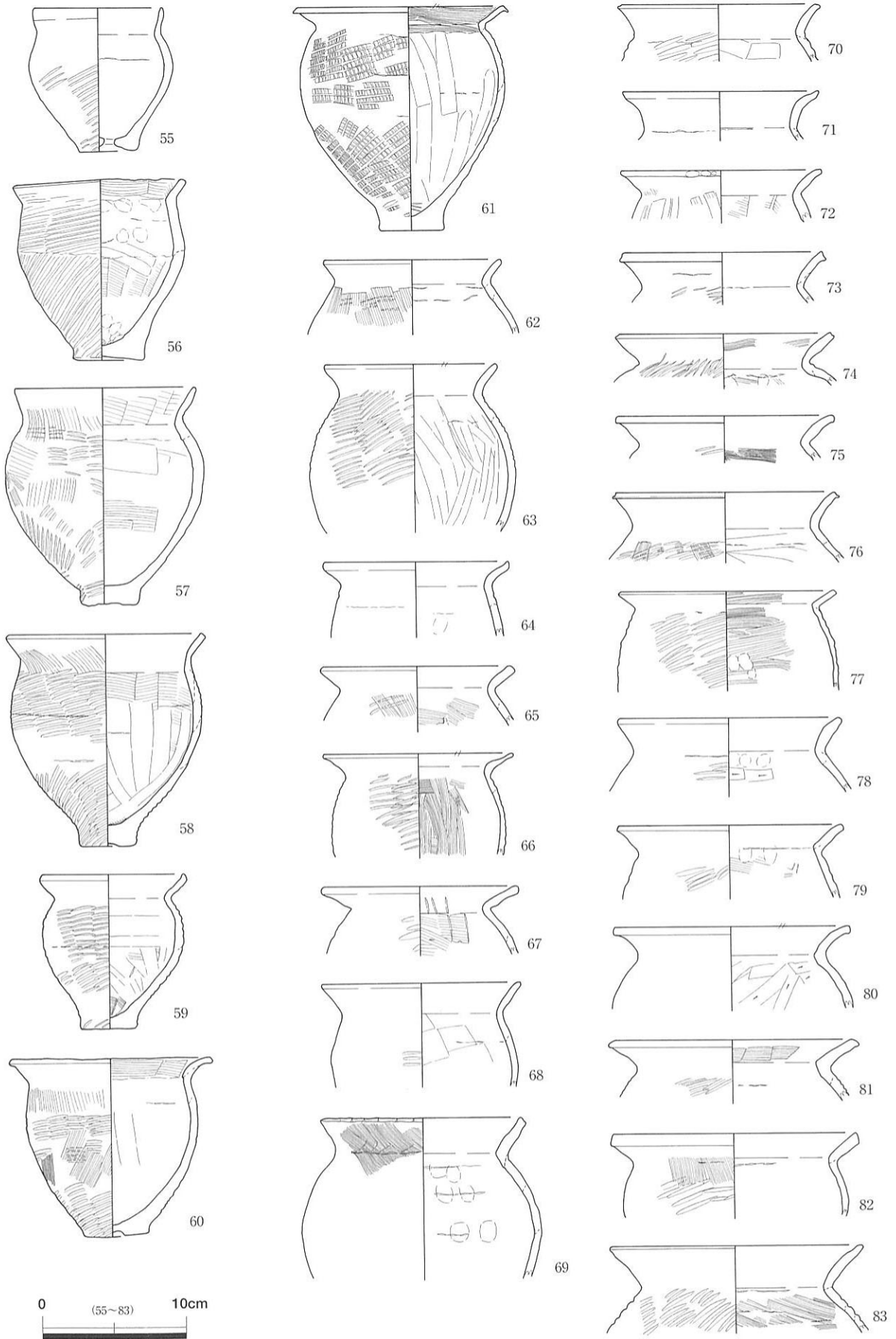
1~14: 89-3调查区, 15~28: 90-1调查区





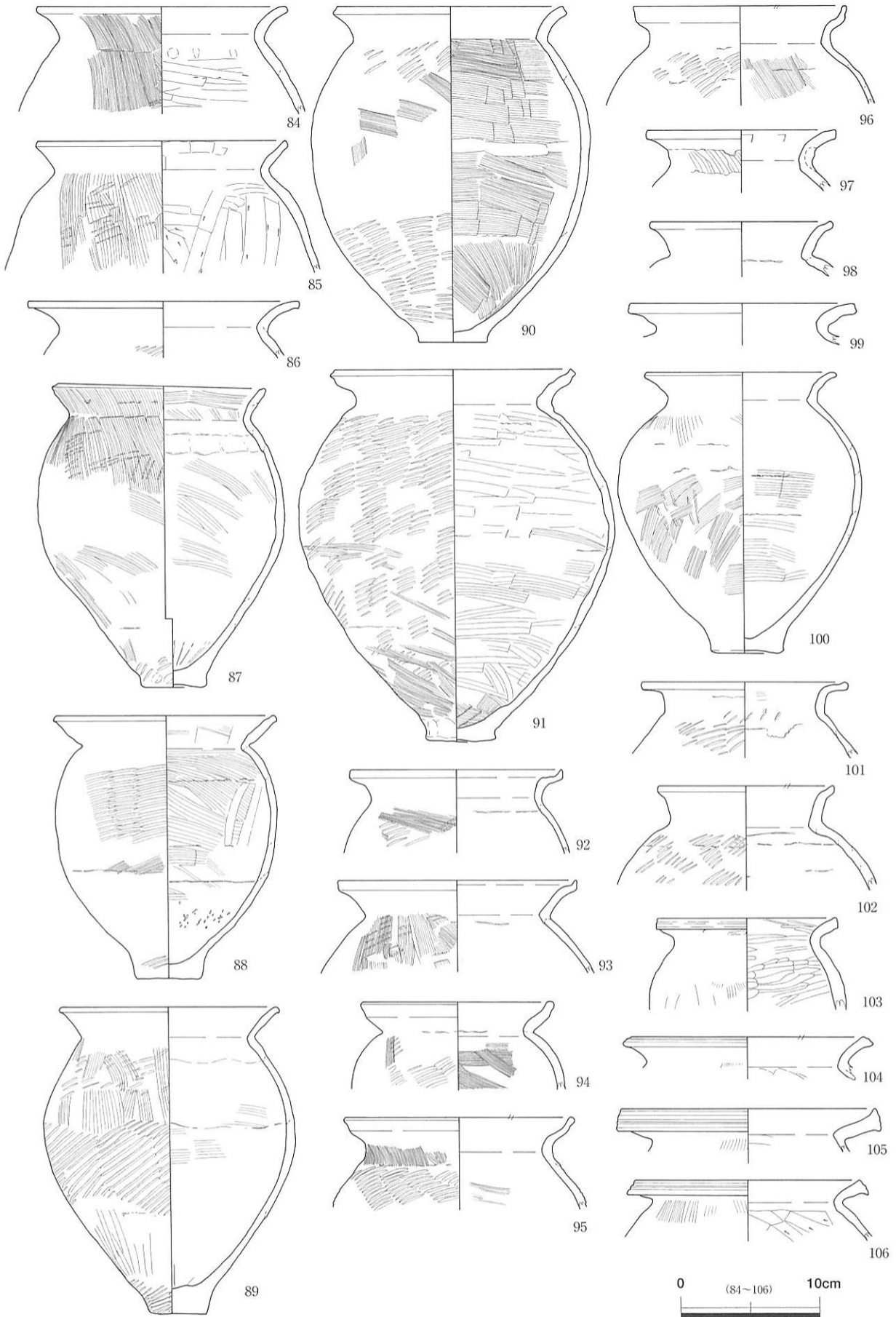
図IV-157 第11-2 a面流路1出土遺物②

29~54: 90-1調査区



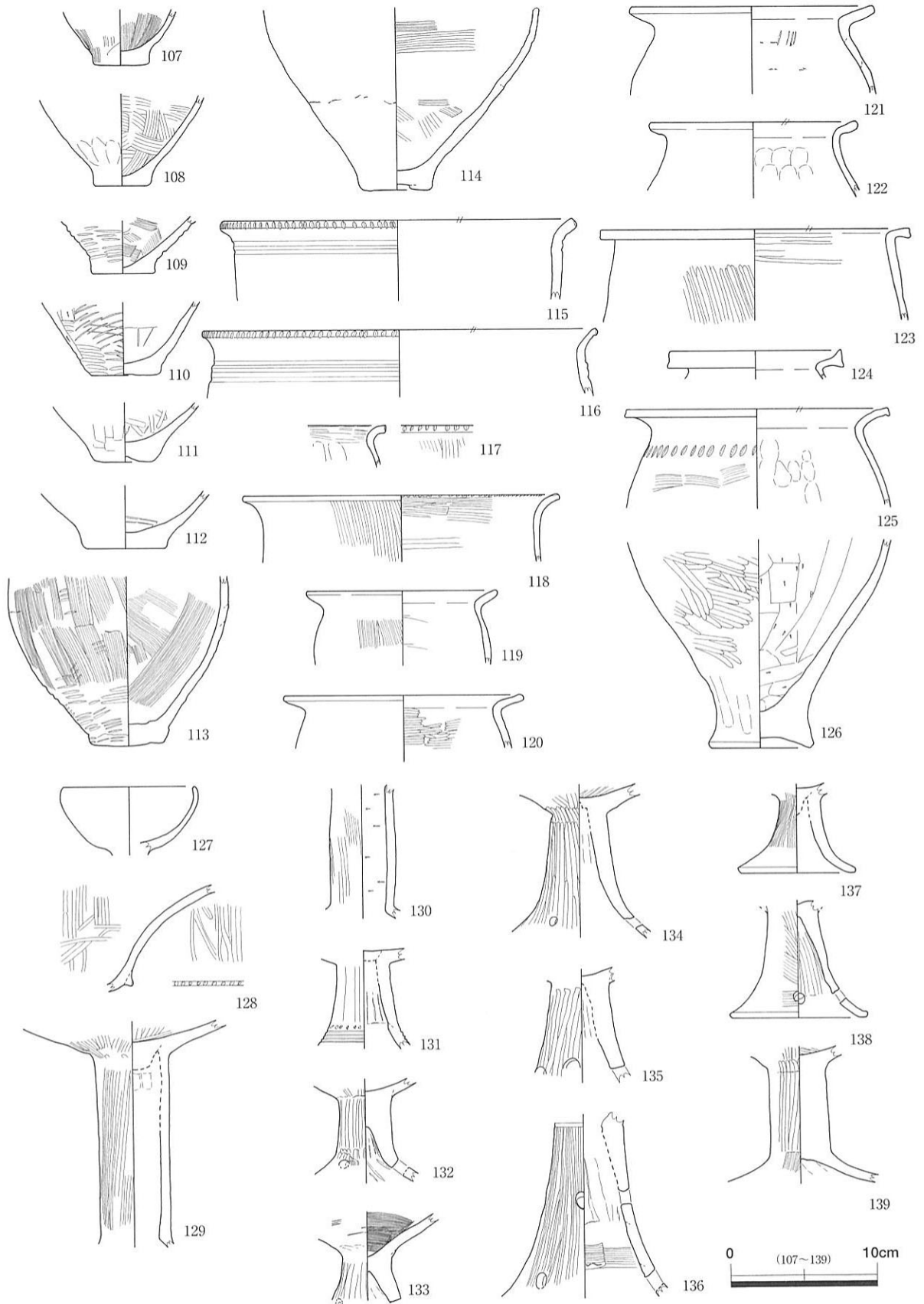
图IV-158 第11-2 a面流路1出土遗物③

55~83: 90-1调查区



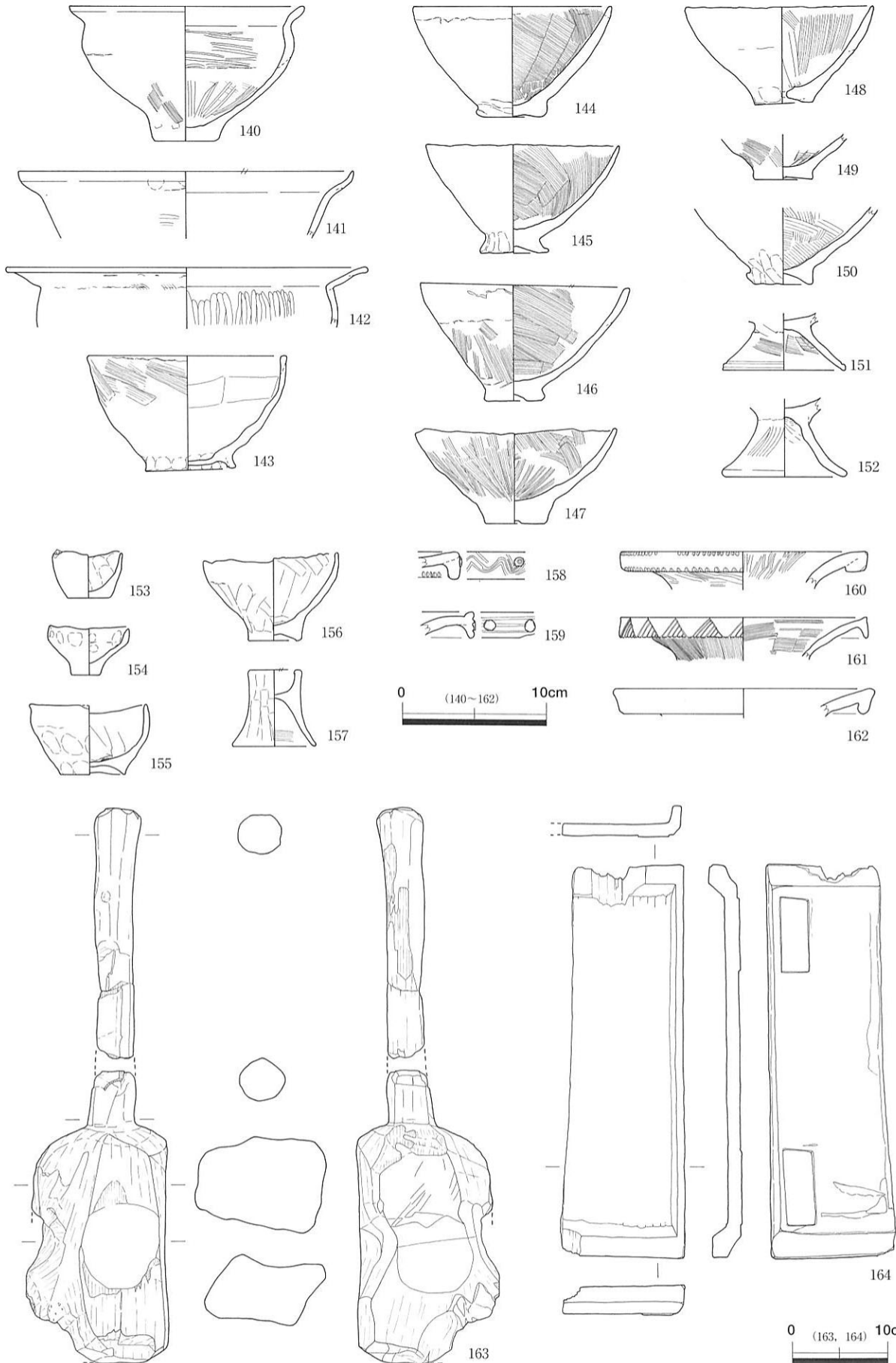
図IV-159 第11-2 a面流路1出土遺物④

84~106: 90-1調査区



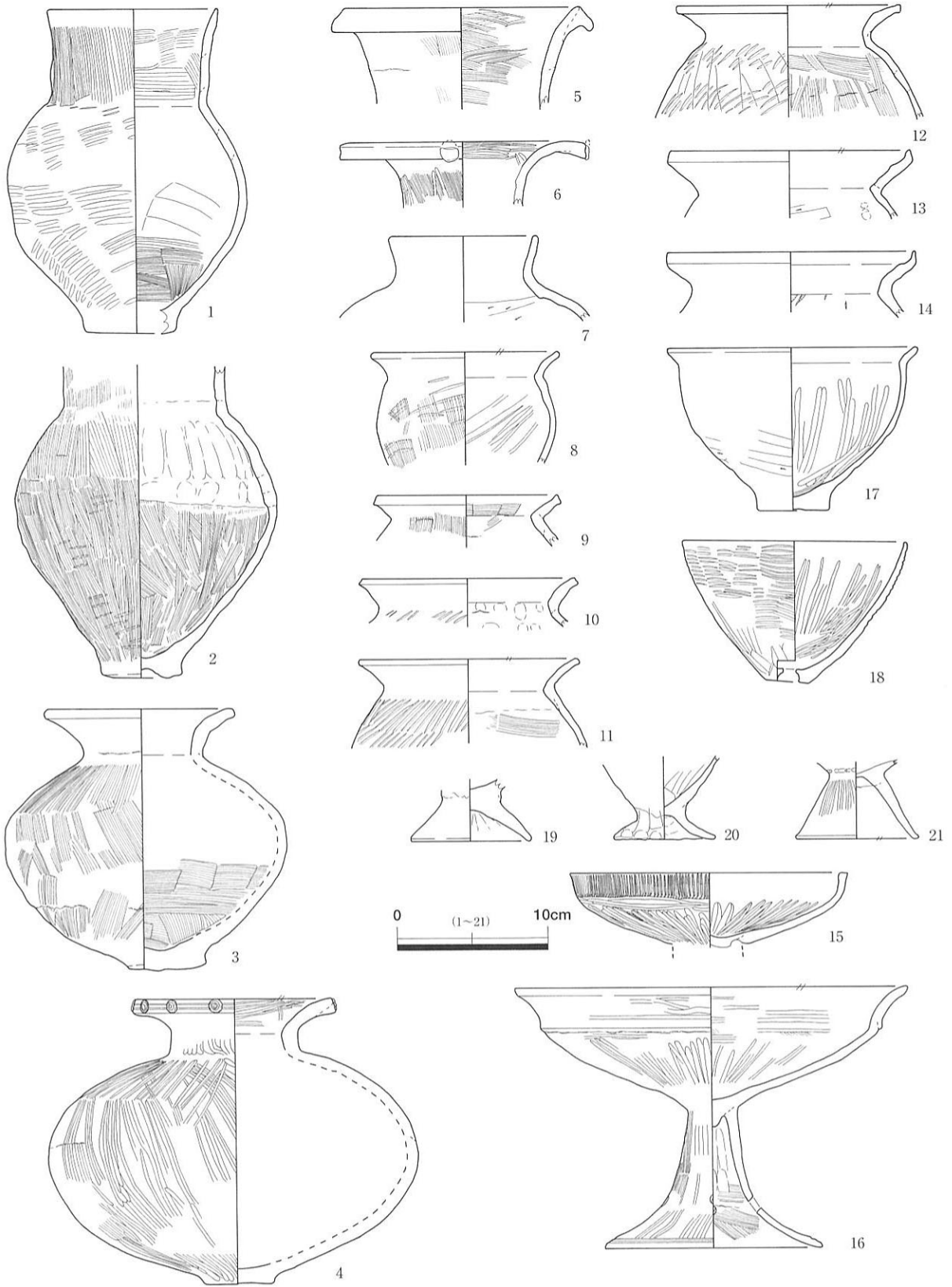
107~139 : 90-1調査区

図IV-160 第11-2 a面流路1出土遺物⑤



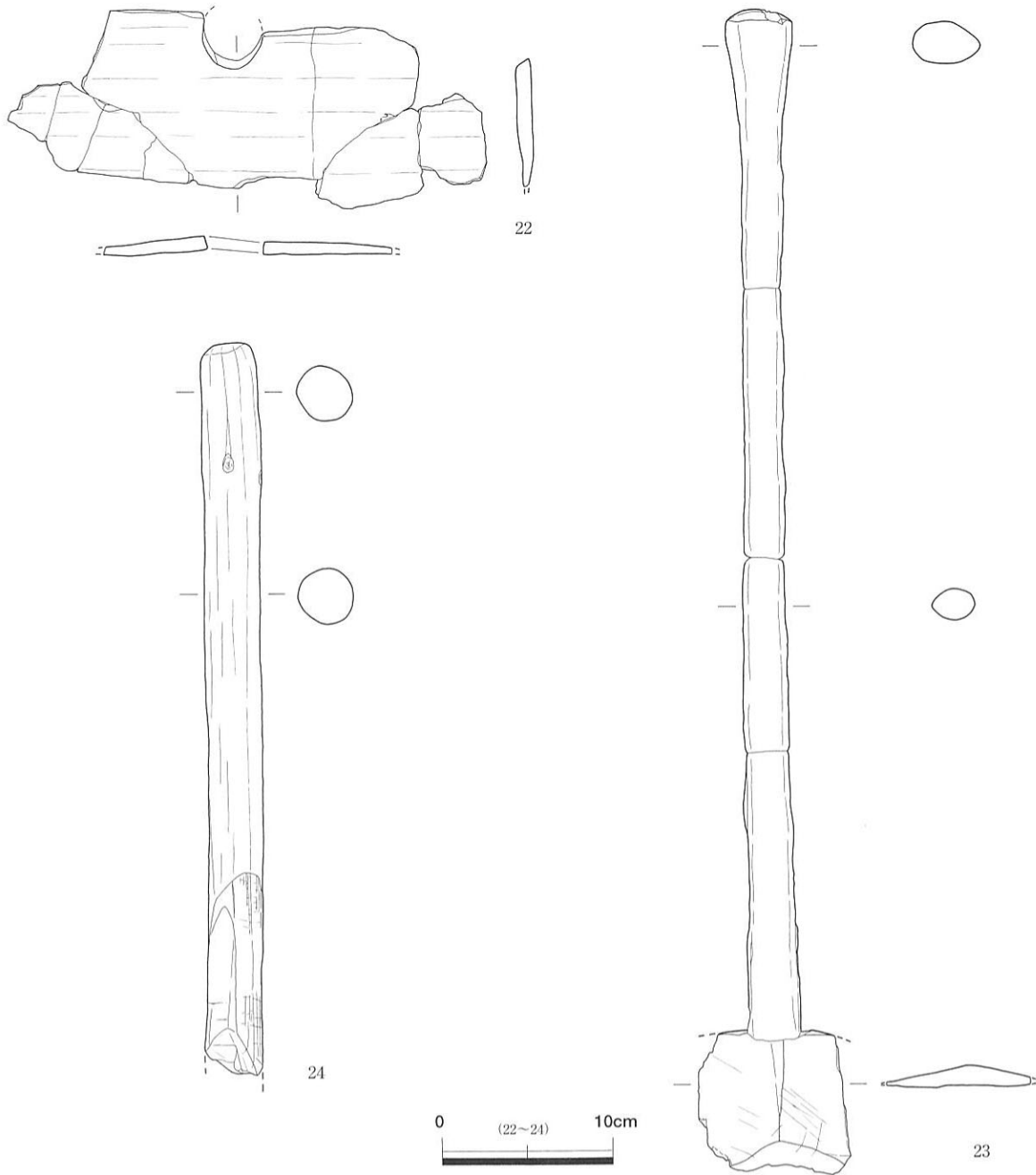
図IV-161 第11-2 a 面流路 1 出土遺物⑥

140~164 : 90-1調査区



图IV-162 第11-2 a面流路2 出土遗物①





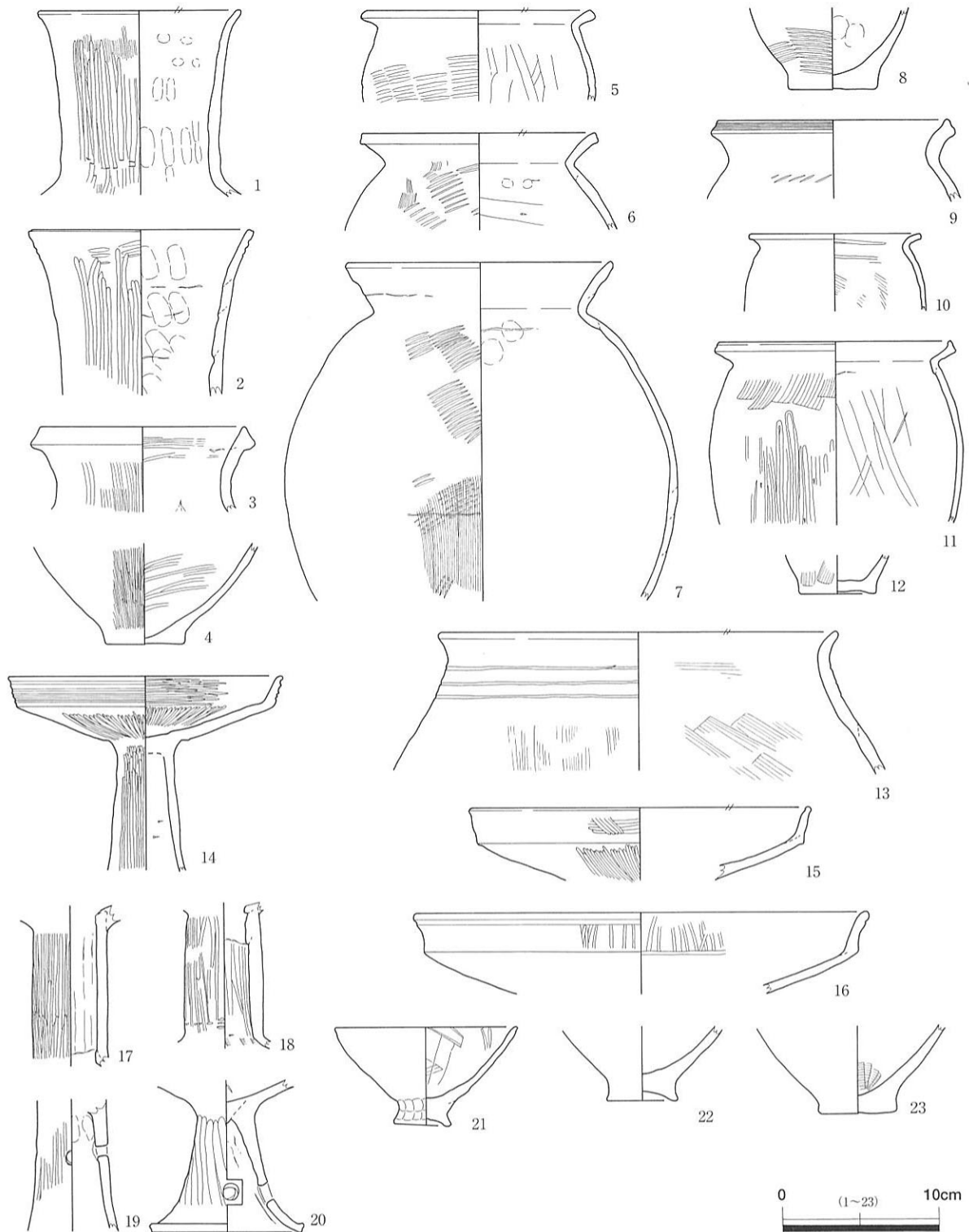
図IV-163 第11-2 a面流路2出土遺物②

製品（22～24）等である。第V～VI様式のものが多いが、高杯（15）は第IV-3様式のものである。

壺（4）の口縁端部は沈線文2条と円形竹管浮文で飾り、（6）も口縁端部に円形浮文が1個残存している。（6）は二次的に被熱している。高杯（16）は脚裾端部に凹線文2条を施す。鉢（18）は有孔鉢である。

木製品は直柄横鋏（22）、鋤（23）、棒状（24）がある。直柄横鋏は樹種がアカガシ亜属で、一部炭化している。鋤は樹種がアカガシ亜属で、一木作りである。棒状木製品は樹種がヒノキで、先端が炭化している。

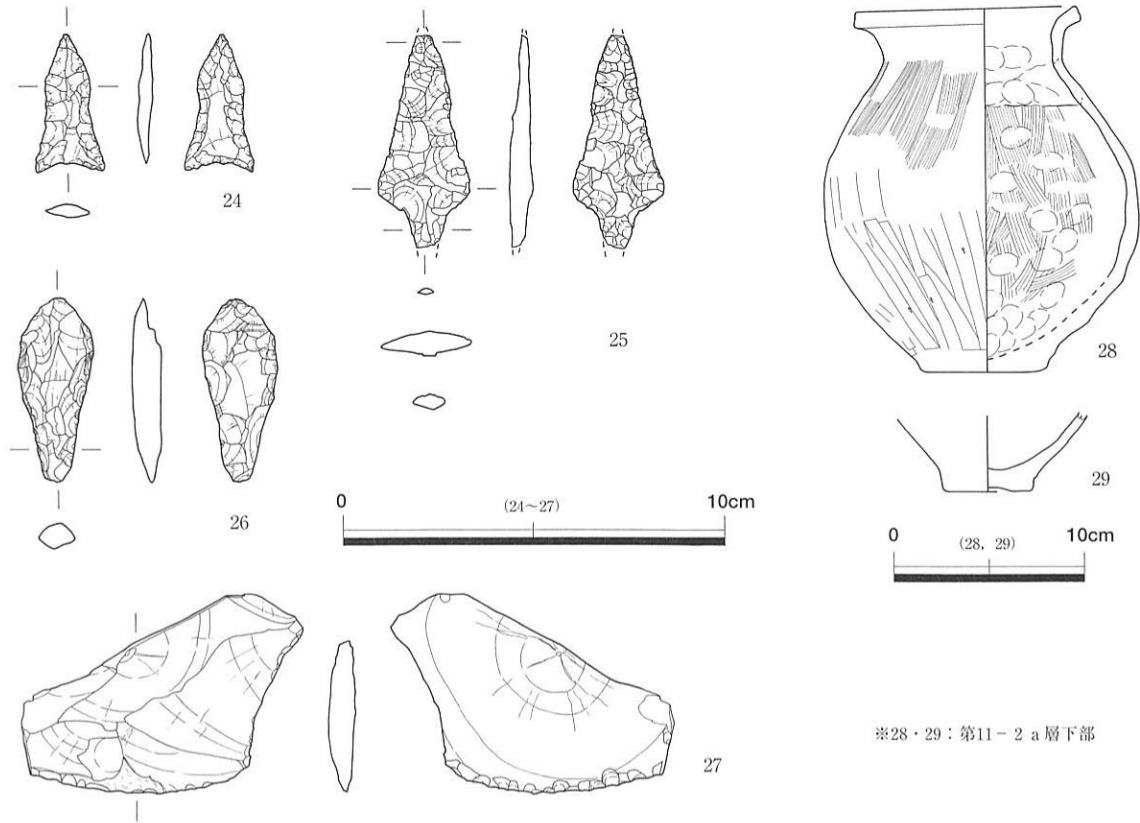
出土状況で注目されるのは、（3）・（4）である。これらは9地点から、重なった状態で出土した（図



図IV-164 第11-2 a層出土遺物①

版27-6)。前述したように、流路2南西部では右岸側に砂や泥が堆積して流路の向きが変わったことが確認されているが、この土器は右岸側の古い段階の肩部から出土したものである。これらは第VI-1様式のものと考えられるが、流路の向きが変わった時期を推定する上で重要な資料といえる。

最後に第11-2 a層から出土した遺物を列挙する(図IV-164: 1~IV-165: 27)。弥生土器長頸壺(1・2)・壺(3)・壺底部(4)・甕(5~9)・高杯(14~16)・高杯脚(17~20)・鉢(21~23)が第V~VI様式のもので、他に第VI様式の甕(10~12)、第I様式の壺(13)と石製品(24~27)が出土し



※28・29：第11-2 a層下部

図IV-165 第11-2 a層出土遺物②

た。

甕（9）は中部瀬戸内系？と思われ、口縁端部にハケメ、肩部に刺突文が施されている。高杯（14）は口縁端部に凹線文5条を施している。

石製品は、凹基石鏃（24）、凸基有茎式石鏃（25）、石錐（26）、スクレイパー（29）で、いずれもサヌカイト製である。凹基石鏃はb面に大剥離面が残る。石錐の錐部の断面はかまぼこ状である。スクレイパーは剥片の一端を微細剥離したもので、a面に自然面が残っている。

また93-2調査区では、第11-2 a層の下部から弥生土器壺（図IV-165：28）・底部（29）が出土した。第V様式のものである。これらは遺構から出土したものではないが、第11 b面で検出された遺構と関連する可能性もある。なお（28）の壺については、土器片および土器内土壌を対象として残存脂肪分析を実施し、後述する溝30出土土器関連のデータと合わせて解析をおこなった（第V章3-2）。

**第11 b面** 第11-2 a層を除去した面である。この面からは、第11-2 a面の水田に伴うと考えられる遺構の他、それ以前の遺構も検出された。

この面では、掘立柱建物が2基検出された（図IV-167）。建物37（図版30-1）は第11-2 a面水路38・39に挟まれた部分にあり、柱根が1つ残存していた。建物の軸が第11-2 a面の水路の方向と合っていることからすれば、第11-2 a面段階に建てられた可能性が高い。また、建物38（図版30-2）はブロックZにあたる位置にあり、第11-2 a面の水田より古い建物という想定と、その水田開発の初期段階のもので、建物廃絶後にこの部分が水田化された、という想定が可能である。

また、第11 b面で検出された土器埋納遺構85は、甕の破片を埋納したものであるが、土器の下20cmのところには有機物の集積層があり、ここからヒョウタン類、ウリ類、マメ類、スミレ属、ブドウ属などの種子が出土した（図版30-3・4、第V章2-3）。土器埋納遺構85から出土したのは弥生土器甕（図IV

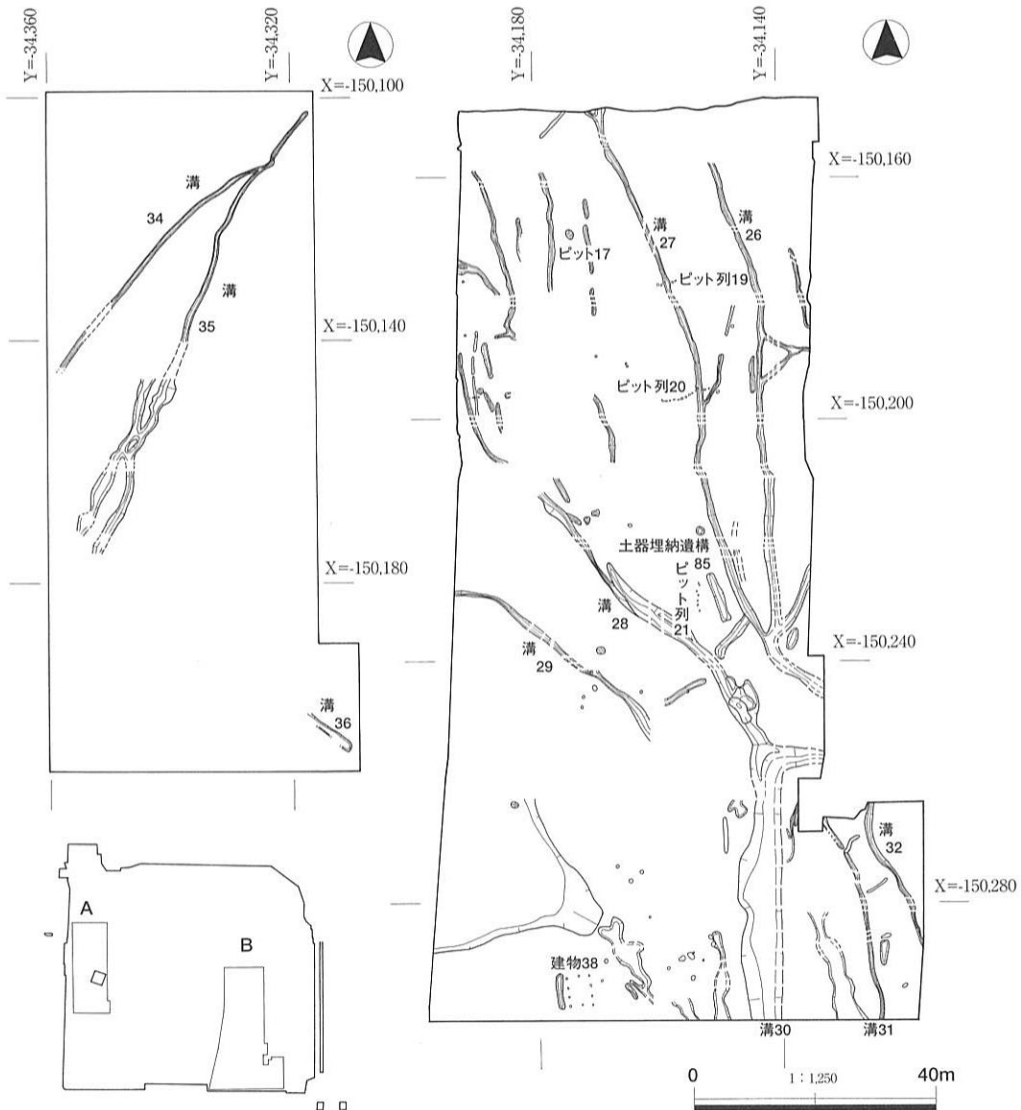
表Ⅳ-32 第11b面遺構名称

遺構番号	概要における遺構番号
溝26	93-1 溝2
	93-2(C) 溝72
溝27	93-1 溝3
	93-2(C) 溝76
	93-2(B) 溝33
溝28	93-1 溝7
ピット列19	93-2(C) 仮称植木列
ピット列20	93-2(C) 仮称植木列
ピット列21	93-1 ピット列3
溝29	93-1 溝8
溝30	93-1 溝6
溝31	93-1 溝33
溝32	93-1 溝32
土器埋納遺構85	93-1 土坑11
建物37	90-2(H3) 掘立柱建物1
建物38	93-1 掘立柱建物1
溝34	90-3 溝
溝35	90-3 溝
溝36	90-1 溝762
ピット17	93-2 ピット225

-175:6)である。中部瀬戸内系で、第V様式のものである。この遺構は微高地縁辺に近い位置にあり、第11-2a面の水田における農耕祭祀に関わる土器埋納の可能性も考えられる。

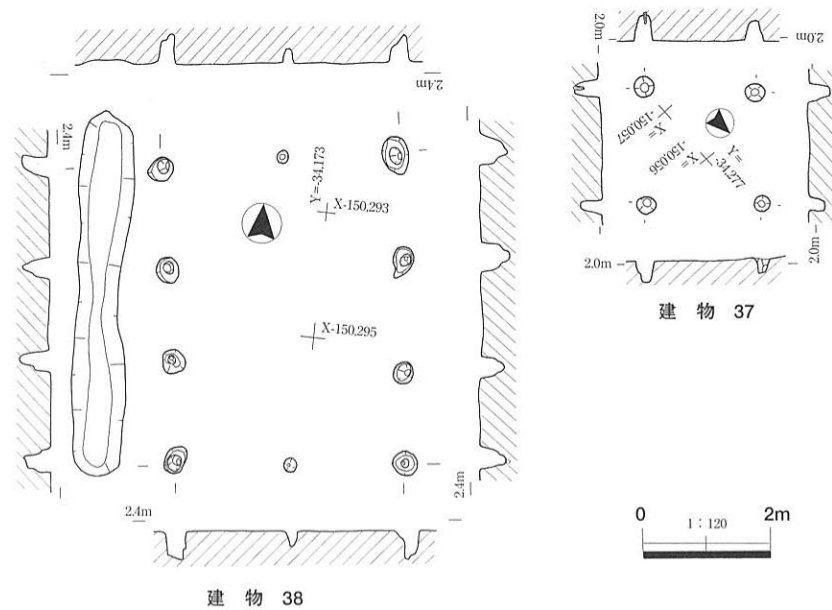
さらに、当地区南東部や西部からは溝が検出されている(図Ⅳ-166)。その位置や向きが第11-2a面の畦畔・水路などとは全く合わないため、それ以前の遺構と考えられる。溝30・35から出土した土器が後期前葉を中心とするものであることも、こうした想定を裏付ける。これらの溝の性格は不明であるが、比較的深い溝も多く、第11-2a面の水田以前にも水田開発が試みられていた可能性もある。

溝30は当地区南東部で検出された。幅約5m、深さ約0.5mを測るもので、ほぼ南北方向にのびるが、北端で東向きを変える。ただし、その東にあたる府教委調査区では確



図Ⅳ-166 第11b面平面図

認されていないため、向きを変えてすぐに収束してしまうものと考えられる。植物遺体を多く含む泥で埋積されており、底面付近を中心に炭酸鉄やビビアナイトが多く認められた。この溝からは、東肩部を中心に大量の土器が出土した（図版30-5～7、詳細は概要X V, pp.87-90参照）。



図IV-167 第11b面建物

次に溝30から出土し

た遺物を列挙する（図IV-168：1～IV-174：100）。器種毎に並べて掲載した。

壺類は長頸壺（1～15）、壺（16～20）、壺底部（21・22）、細頸壺（23）、小形水差形土器（24・25）で第V様式のものである。（26）は波状文（？、7条）と直線文（7条）を施した第III様式のものである。

長頸壺（1）の口縁部内面にはヘラ記号かと思われる2条の線が施されている。（2）・（3）・（4）の肩部には記号文として竹管文3個を施し、（5）は頸部と肩部にヘラ書きを施している。（11）は頸部に刻目貼付凸帯を施し、赤色顔料を塗布している。また、外底面には×のヘラ記号を施している。

壺（20）は口縁端部に凹線文3条、頸部に貼付凸帯を施し、体部にヘラ書き？を施している。細頸壺（23）は吉備系の影響を受けたものと思われ、胴部に凹線文2条を施している。

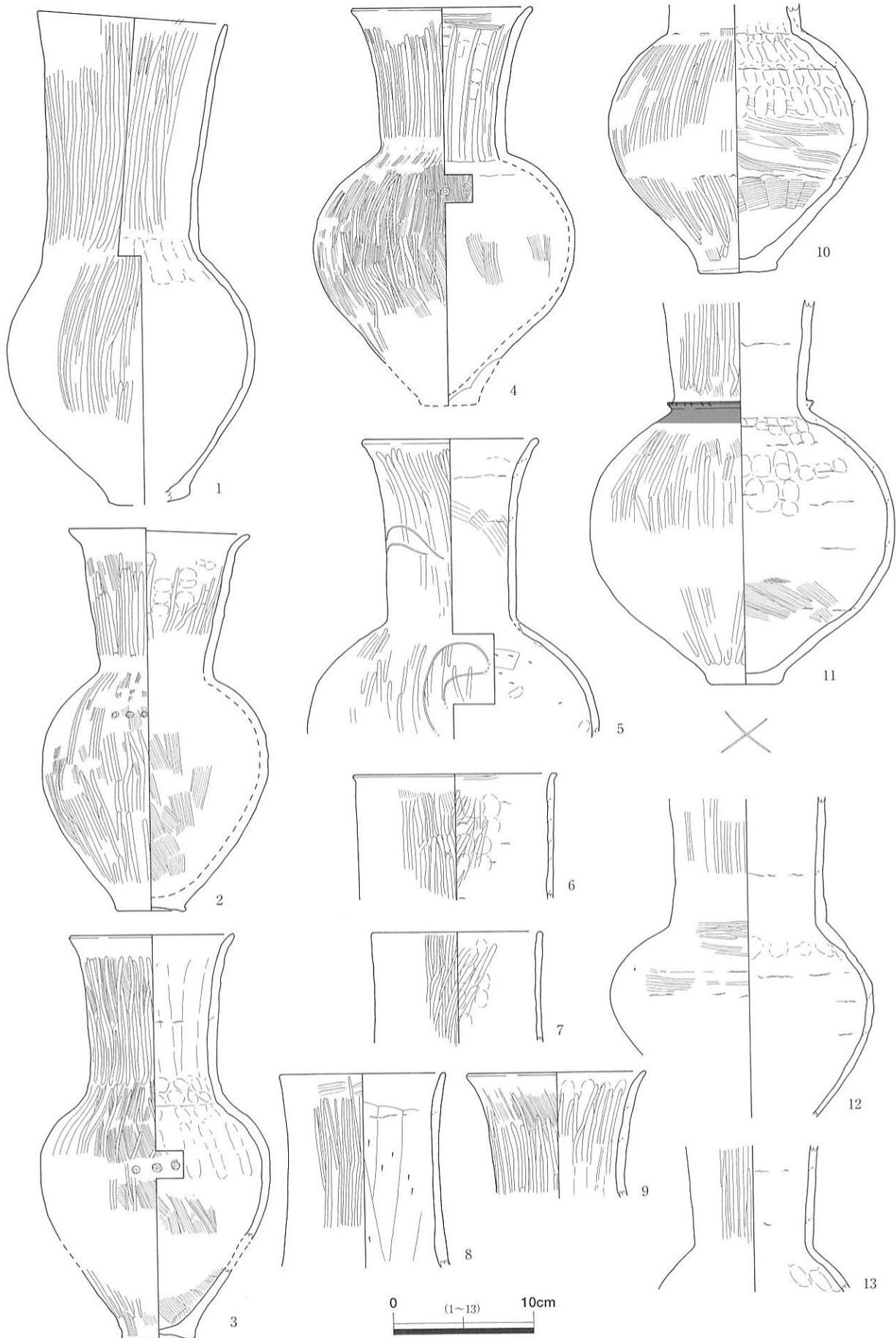
甕は（27～57・59～63）で、ほとんどが第V様式のものであるが、第IV様式と思われるもの（53～57）と第VI様式に含まれるかもしれないもの（59～62）がある。

（40）は、焼成後に穿孔が施されている。（45）は口縁端部に凹線文2条が施されている。（59～62）は近江系かと思われるもので（59）は口縁端部に凹線文2条、肩部に刺突文を施し、（60）は肩部に刺突文、（61）は口縁端部と肩部に刺突文、（62）は口縁端部に列点文、肩部に刺突文を施している。いずれも胎土は生駒西麓産か、その可能性が高いものである。（63）は大形で、肩部にヘラ書き？を施している。

（58）は甕ないし鉢と思われる。中部瀬戸内系のもので、胴部下半に焼成後、中から穿孔がされている。

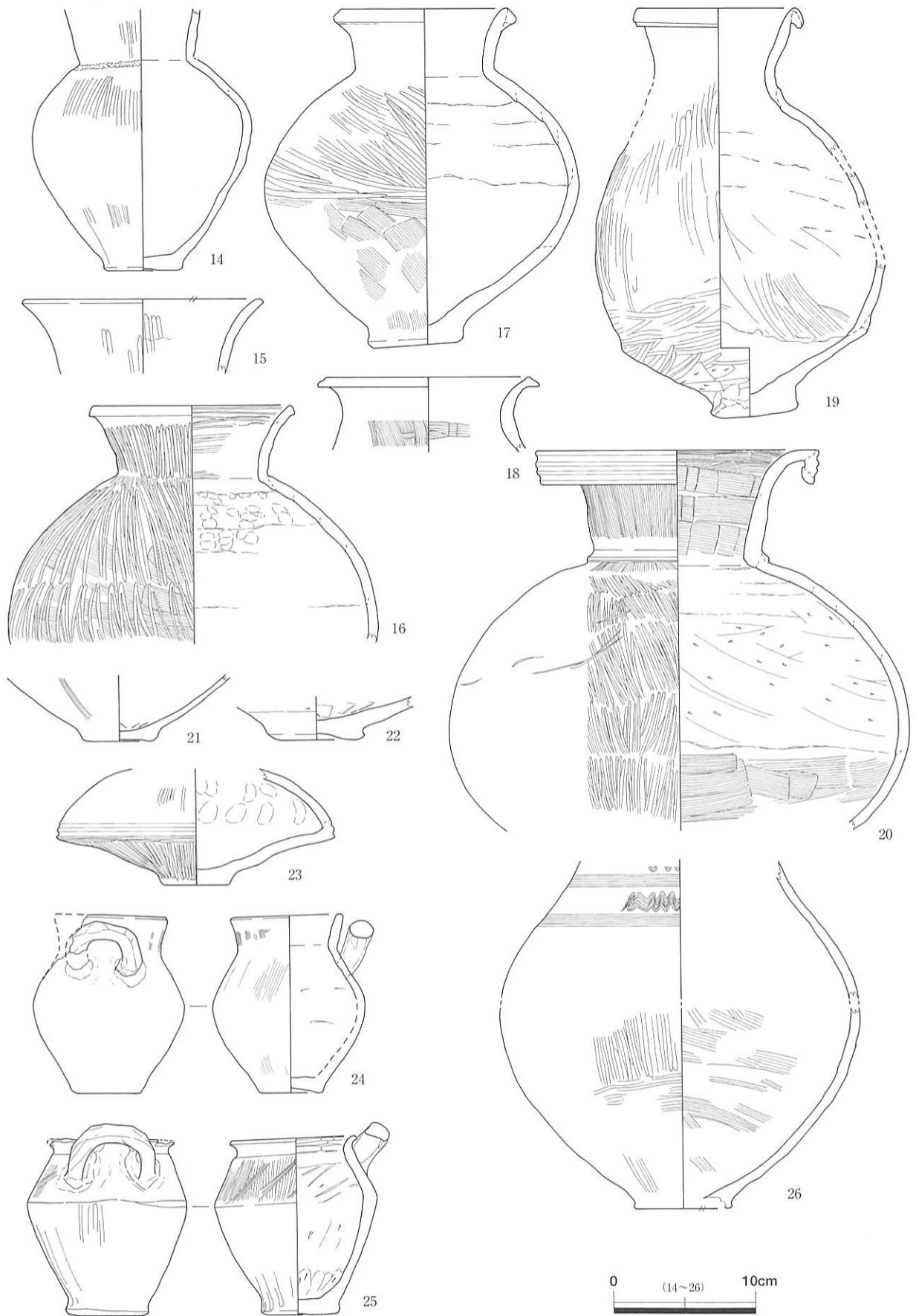
高杯は（64～90）で第V様式のものである。（64）は口縁端部に円形浮文（推定60）を飾る。（65・66）は脚柱部に沈線文を施している。（69）は透かしが上下とも4方向である。（70）は脚柱部に沈線文（5条、5条）、端部に刺突文を施し、透かしは上下とも3方向である。（71～73）は脚柱部に沈線文を施し、透かしは（71）・（72）が4方向、（73）が3方向である。（74）は脚端部に凹線文2条を施し、透かしは3段3方向である。（88～90）は中部瀬戸内系で、屈曲部に凸帯をめぐらしているもので、（88）は鋸歯文2帯を施し、（89）は凸帯と裾端部に刻目を施している。

鉢（91～98）は、第V～VI様式のものである。（95）は口縁部に打ち欠きかと思われる欠けがある。（96）は焼成後内外から穿孔されている。中から途中まで穿けられた孔も存在する。（98）は大1個、小8個の穿孔を施している。

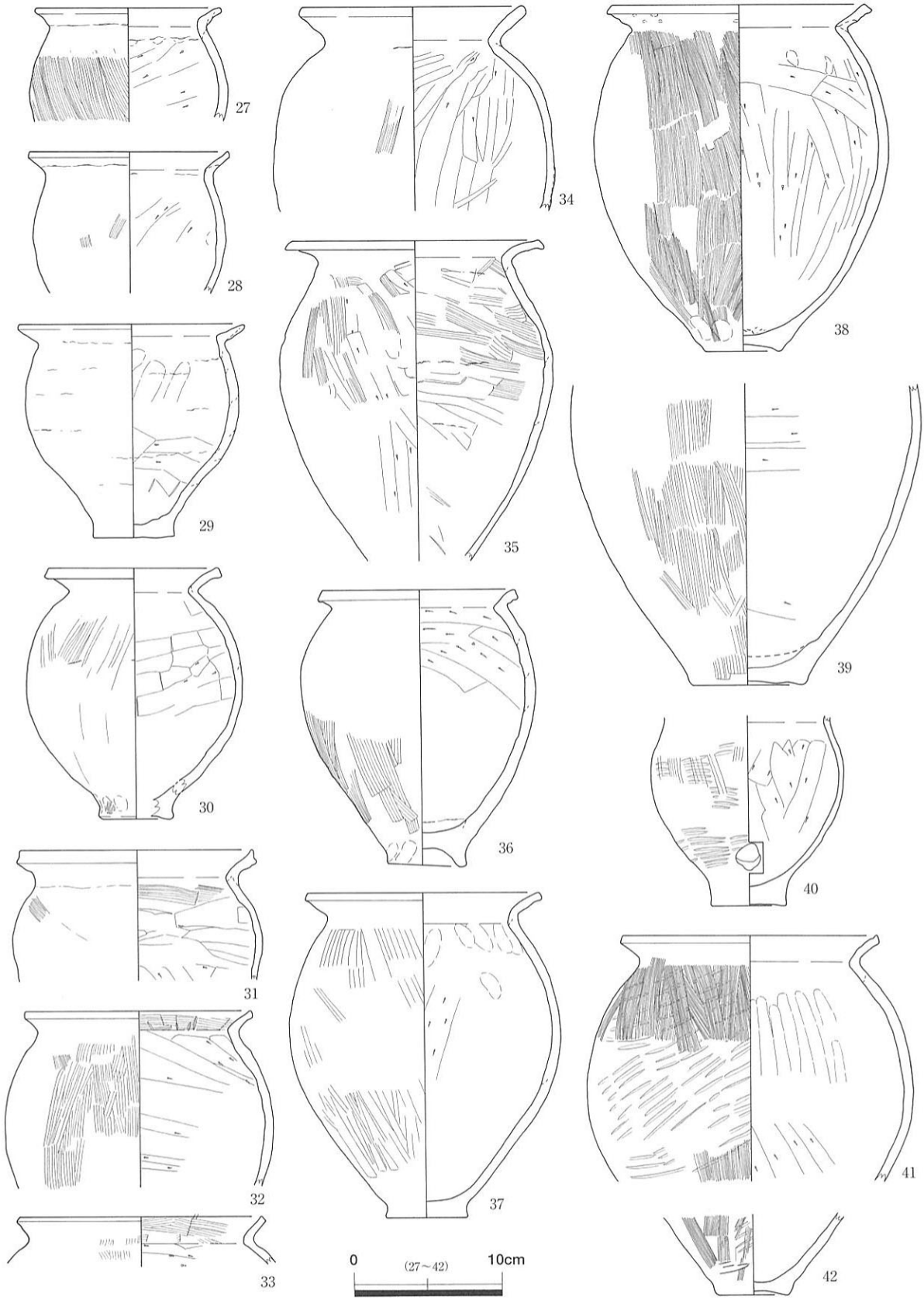


图IV-168 第11b面溝30出土遺物①

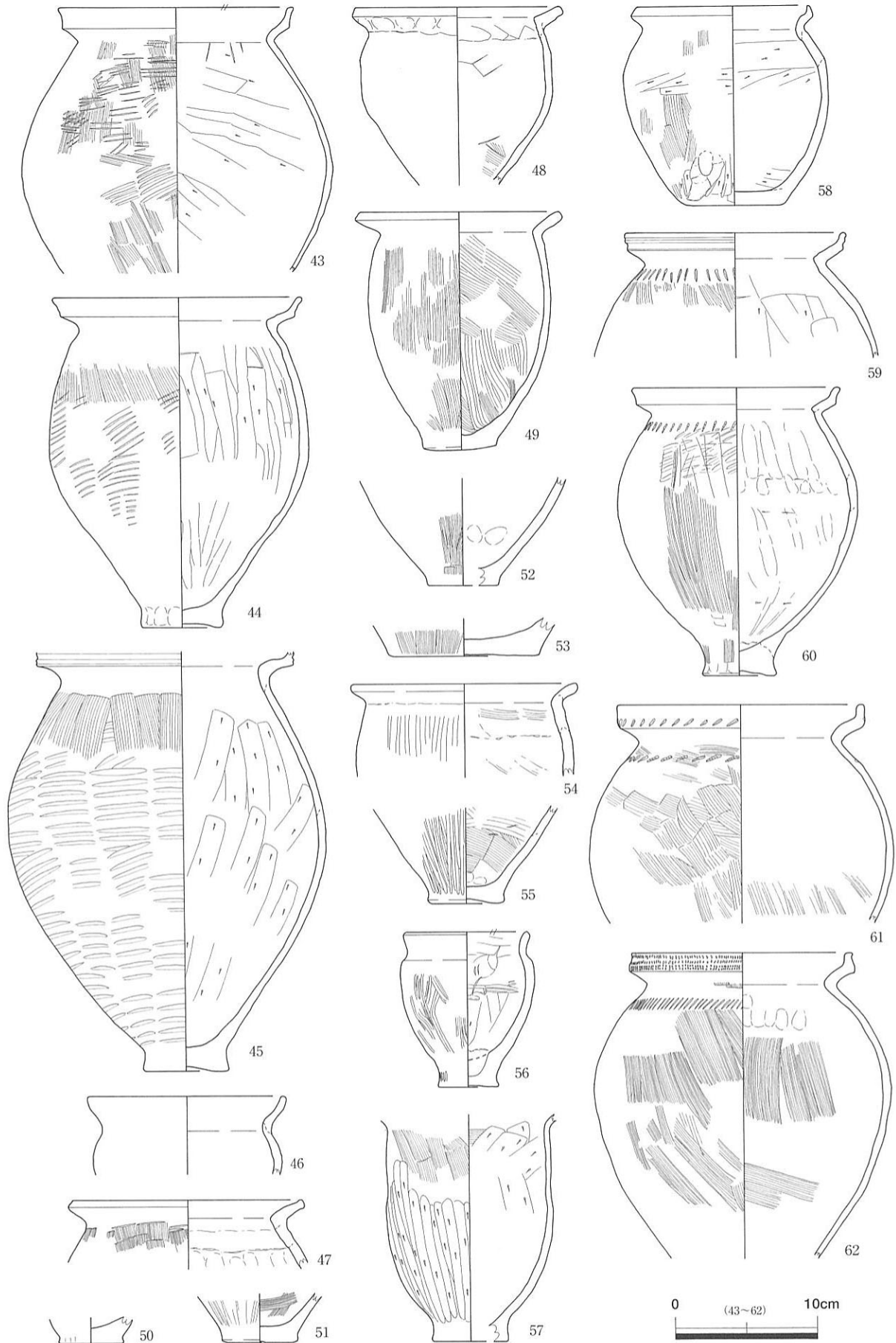




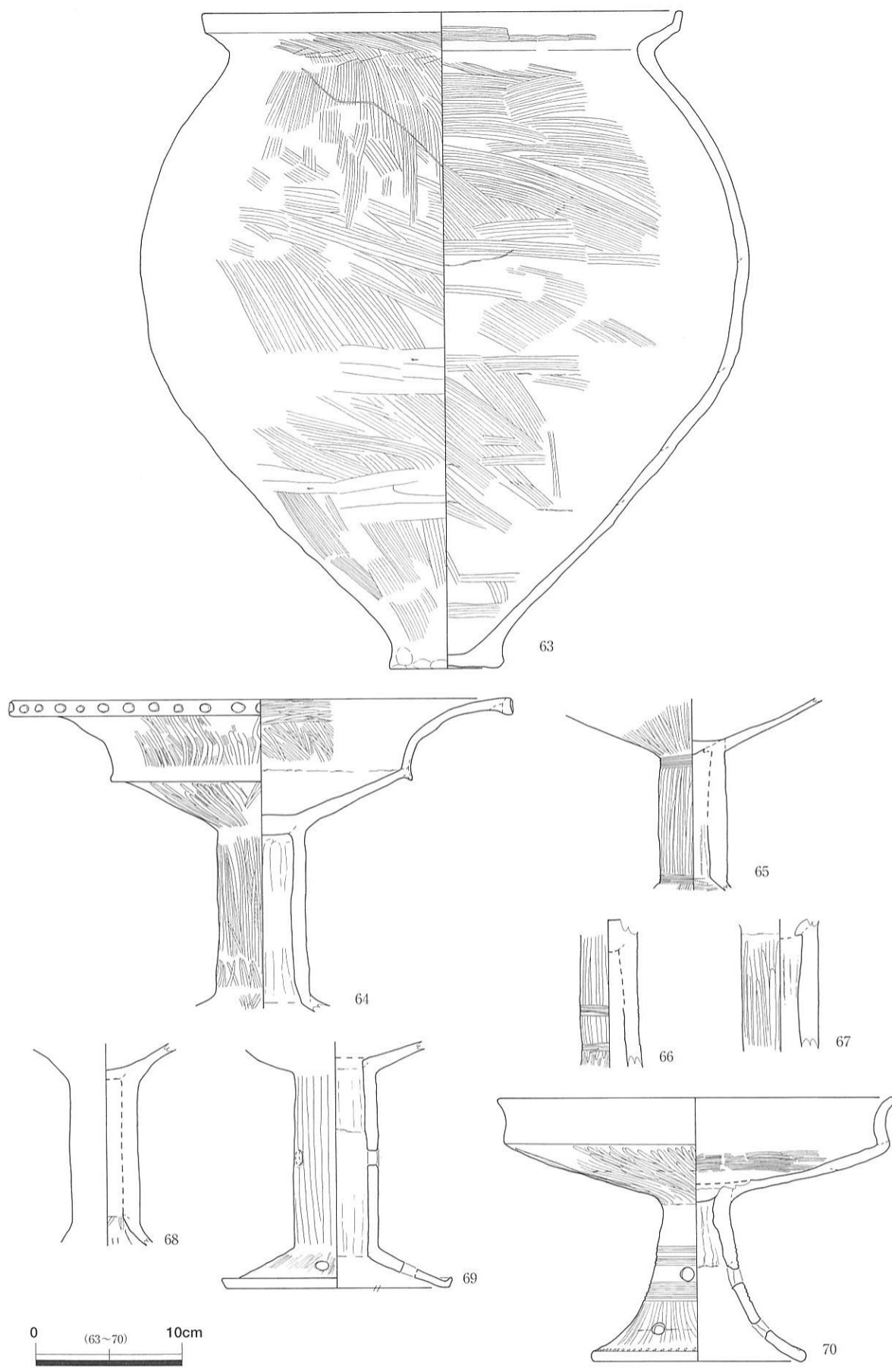
図IV-169 第11b面溝30出土遺物②



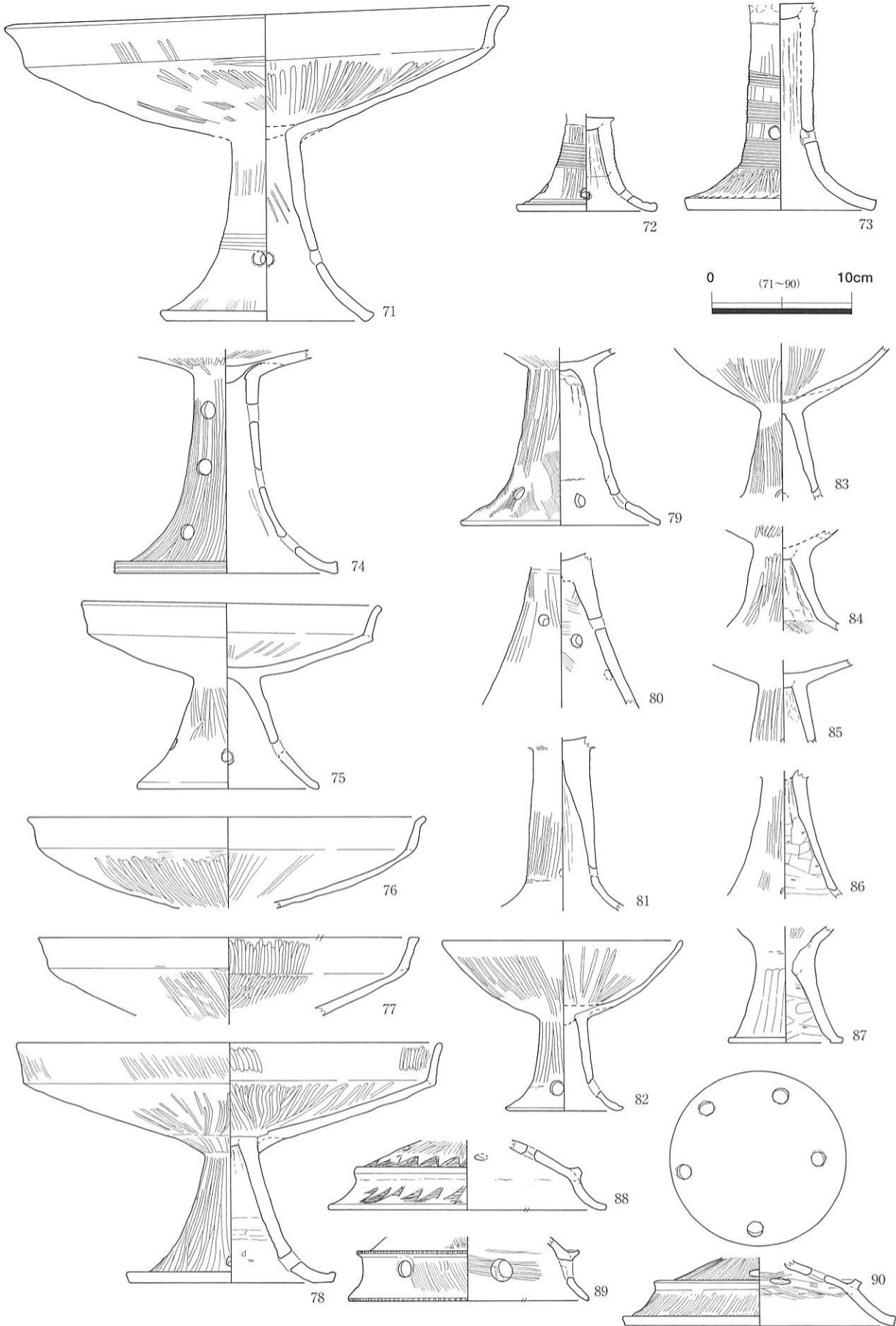
图IV-170 第11b面溝30出土遺物③



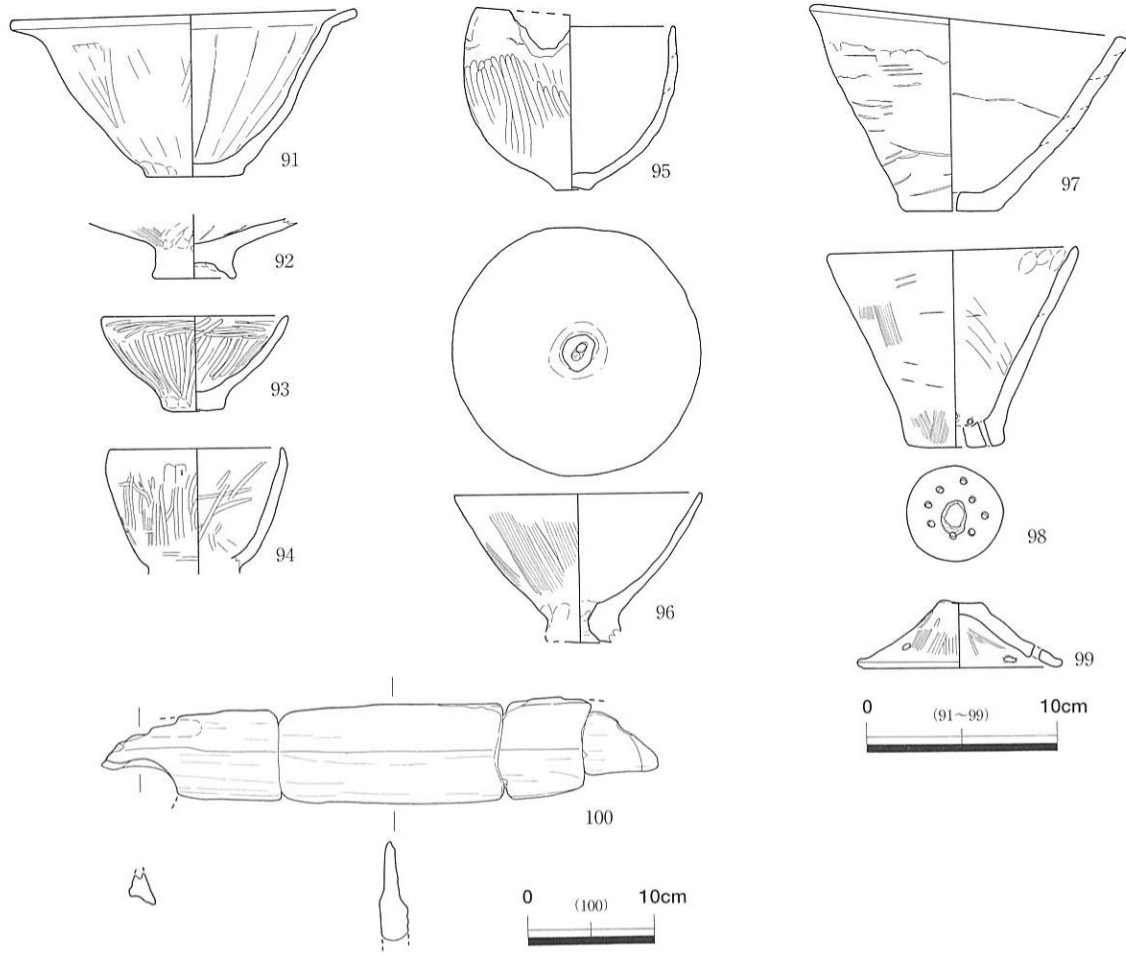
図IV-171 第11 b 面溝30出土遺物④



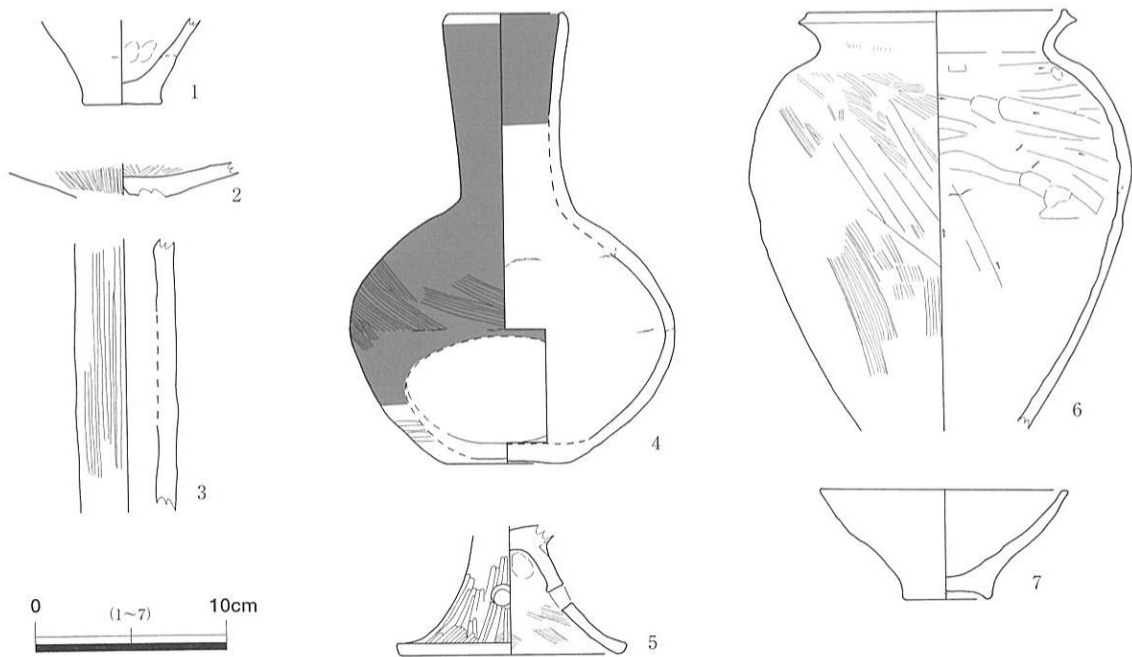
图IV-172 第11 b 面沟30出土遗物⑤



图IV-173 第11 b 面溝30出土遺物⑥



図IV-174 第11 b 面溝30出土遺物⑦



図IV-175 第11 b 面遺構出土遺物

1 : 溝26, 2・3 : 溝28, 4 : 溝35, 5 : 溝36, 6 : 土器埋納遺構85, 7 : ビット17



その他に壺蓋(99)、不明木製品(100)が出土している。

壺蓋には2個1対の孔が2対穿孔されている。不明木製品は樹種がアカガシ亜属で柄孔らしきものがある。

この溝は第11b層の砂礫層を掘り込んだもので、(26)は本来第11b層に含まれていたと考えられる。その他のものについては、1個体分がつぶれた状態で出土するか、複数個体が折り重なって出土したため、比較的短い期間内に廃棄されたと考えられる。比較的变化を追やすい高杯に注目すると、第V様式でも前葉に属すると思われる。その他、第IV様式の特徴を有するものも若干含まれるが、比較的短い期間内での一連の廃棄行為の中で、こうした組み合わせが生じたことは注意される。なお、溝30から出土した土器のうち、60個体を対象にして、胎土分析を実施した(第V章4-1)。この分析では、生駒山西麓、信貴山西麓、旧大和川水系の堆積物などとの比較から、胎土の採取地についての検討をおこなっている。また、長頸壺(図IV-168:5)、甕(図IV-171:60)に関しては、土器片、土器内土壌を対象に残存脂肪分析を実施した(第V章3-2)。

溝30の北では、南南東-北北西方向にのびる溝をいくつか検出した。これらの中にも深さが40cm程度のもが含まれている。これらの溝には、上部が第11-2a層、下部が有機物の葉層を挟在する泥で埋まっているものが多い。

これらの溝のうち、溝26からは弥生土器甕底部(図IV-175:1)が出土した。第V様式のものである。また、溝28からは弥生土器高杯(図IV-175:2・3)が出土した。第V様式のものである。

これらの溝が検出された区域ではピットもいくつか検出されている。そのうち、ピット17からは弥生土器鉢(図IV-175:7)が出土した。第V~VI様式のものである。

なお、93-2調査区で「仮称植木列」と報告されたもの(ピット列19・20)には問題があるため、特にふれておく。これらは30~50cm程度の浅い落ちで、「埋土の断面観察や完掘状態からはピットや足跡とは考えにくい。植木の並んだような状況を想定し植木列と仮称するが、なお性格は不明」と報告されたが、判断の根拠となった具体的な観察所見は示されていない(概要XVI, p.67)。写真(図版30-8)をみると、第11-2a層(第1黒色泥層)と第11b層のシルトがブロック状に混じった状態の埋土であることがわかるが、ピット内およびその外側に根跡は認められない。写真だけでは断定はできないが、人為的に掘られたピットでも完全に土が掘り上げられていなければ、底部付近にブロック土が顕著に認められたり、底面に凹凸がある場合は少なくないため、第11-2a面関連の穴の底面が検出されたものである可能性が高い。なお、これらのピット列は溝27の底部にも連続していたとされているが、その切り合い関係については明らかになっていない。

当地区西部においてはこの面に属する顕著な遺構は少ないが、遺物が出土した遺構が存在していたので説明しておきたい。溝34・35は南西-北東方向に比較的長くのびる溝である(図IV-166)。これらは第11-2a面の微高地上から水田域にわたっており、少なくとも第11-2a面の最終段階よりも古い土地利用の痕跡といえる。この溝のうち、溝35の埋土上部からは弥生土器細頸壺(図IV-175:4)が出土した。第V様式のものと思われる。外面と口縁部内面に赤色顔料を塗布し、焼成後胴底部を穿孔している。また、溝35の南に位置する溝36からは、弥生土器高杯脚(図IV-175:5)が出土した。第V-1~2様式のものである。透かしは4方向である。

最後に、当地区東部にあたる府教委調査区の状況について、若干ふれておきたい。Iトレンチで検出された「河川1」は当初、第11-2a面に属する遺構と考えられていたが、87-2調査区における再検討

により、第11b面の遺構であることが判明した。この遺構は87-2調査区内で収束するもので「河川」と呼べるものではない。その性格については、人為的に掘削されたものと、水流によって形成されたクレバスという2つの可能性があげられている(府発Ⅲ, pp.55-59)が、池島I期地区の調査成果からみて、同地区西部で検出された流路の活動によって形成された侵食地形と考えられる。

第11-2a面の水田の時期については、第10b層・第11-1面の遺物、第11-2a面遺構出土遺物、第11b面遺構出土遺物から推定することができる。それらを総合して考えると、第11-2a面の水田は弥生時代後期中頃には開発が始まり、取水位置の変更・水路の増設などもおこなわれて、後期後半まで継続したといえる。第11-2a面で検出されたのは、第11-1層や第10b層が堆積する直前の最終的な水田景観である。

#### 4-2. 弥生時代中期

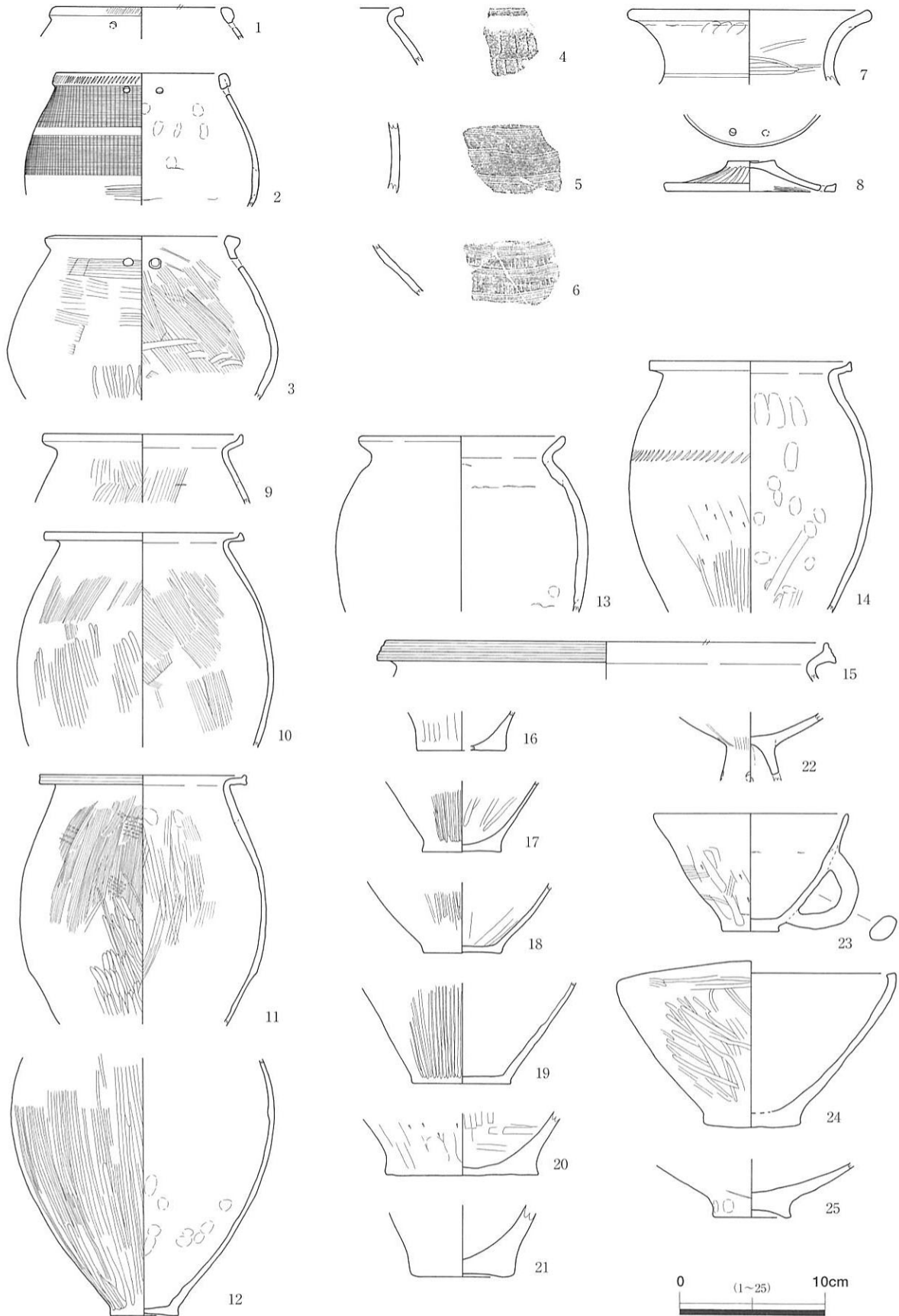
**第11b層** 第11b層は氾濫・破堤堆積物であるが、第12-1a面精査時に、砂礫が若干堆積した段階における人為的攪乱の痕跡が検出されたため、一度に堆積したものではないと考えられる。また、砂礫が厚く堆積した部分においても、最上部には青灰色シルトが堆積した部分が多い。なお、全体がシルト～粘土の部分も存在するが、こうした堆積環境の違いは第11-2a面の微地形に影響を与えている。

この地層から出土した遺物を見ていきたい。なお、概要Ⅱ・Ⅲ・Xでは、第12-1a面大畦畔5の補強杭群周辺から出土した遺物は第12-1a面の記述の中でふれられているが、杭群に伴う盛土の大半は第11b層が堆積した際に流出しており、遺物は第11b層に含まれていた。したがって本書では、これらを第11b層出土遺物に含めている。実測図については、大畦畔5付近から出土したものと、その他の地点から出土したものを分けて掲載している(図Ⅳ-176:1～図Ⅳ-178:42)。第11b層から出土した弥生土器無頸壺(1～4)・壺蓋(8)・甕(9～21)は第Ⅳ様式のもので、高杯(22)、把手付鉢(23)、鉢(24)が第Ⅳ-4様式～第Ⅴ様式にかけてのものと思われる。他に第Ⅲ～Ⅳ様式の壺片(5・6)、第Ⅴ様式と思われる鉢底部(25)と、石製品(26～32)、木製品(33～35)がある。

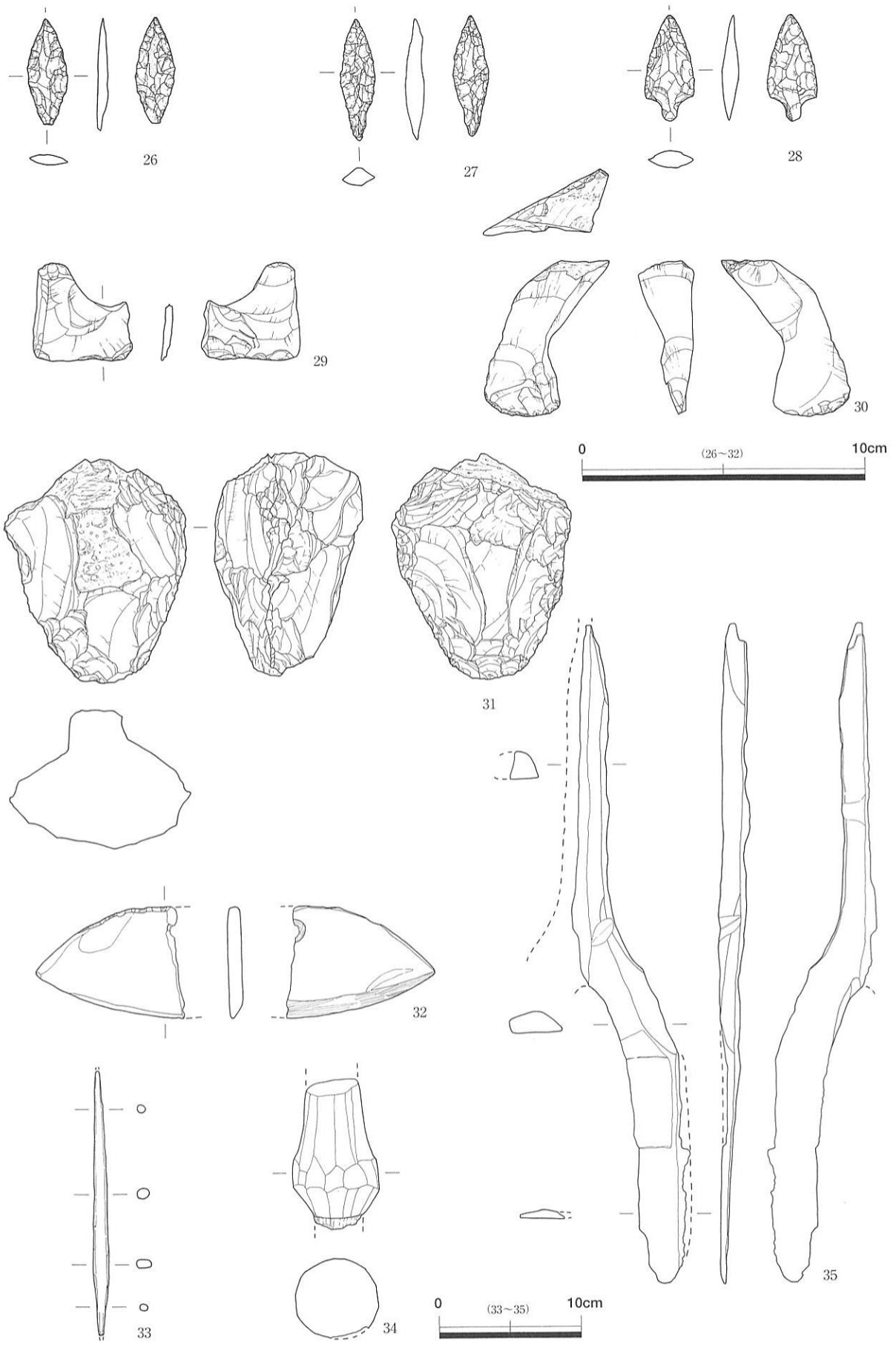
無頸壺は(1)が口縁端部に櫛描列点文、(2)が口縁端部に櫛描列点文、肩～胴部に簾状文(25条)を施している。いずれも穿孔が1個現存している。(3)は無文で2個1対の穿孔が1ヶ所現存している。甕(11)の口縁端部には凹線文1条が施されている。(14)は中部瀬戸内系と思われ、胴部に櫛描刺突文が施されている。(15)は口縁端部に凹線文4条を施している。石製品は凸基式石鏃(26・27)、凸基有茎式石鏃(28)、不定形刃器(29・30)、石核(31)、石庖丁(32)である。(26)～(31)の石材はサヌカイトである。

(25)は、89-2調査区において第12-1a面ブロックEを覆う砂層から出土したとされるが、砂層のどの位置から出土したかは明らかではない。この部分は第11-2a層の下がすぐに砂層となっており、第11-2a層からの混入も否定できない。第11b面の遺構や第12-1a面関連の出土遺物の時期も勘案すると、第11b層の氾濫・破堤堆積物は弥生時代中期末頃に堆積したと考えられる。

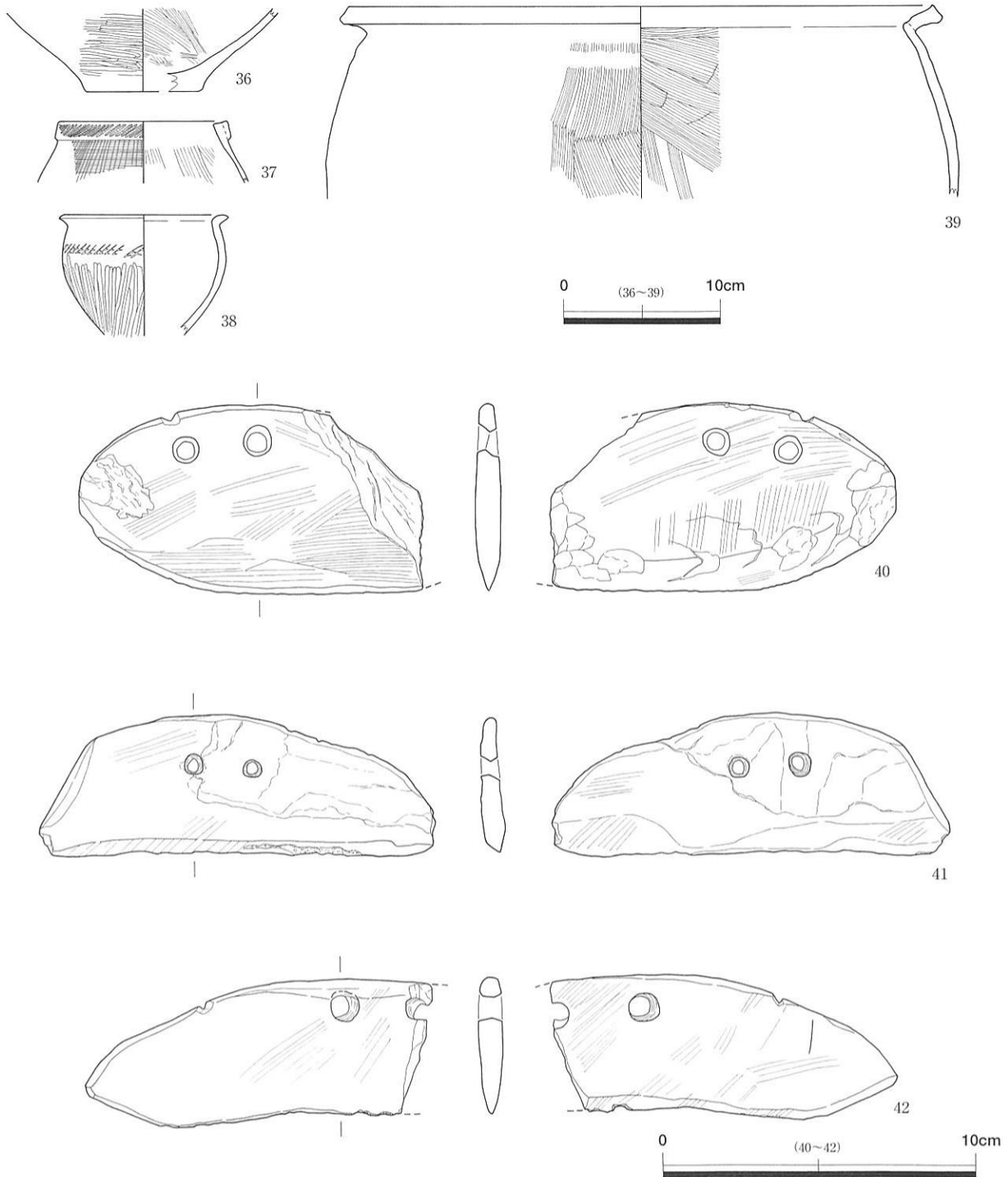
**第11b層下部関連遺構** 第12-1a面の精査段階に検出されたが、この面には帰属しない遺構について、ここで整理しておきたい。農耕具痕は、特に90-3調査区のもの注目される(江浦1992)。まず、図版31-3は鋤または鍬の刃先の痕跡であるが、これをみると、中にレンズ形をした第12-1a層が落ち込んでおり、そのまわりには第11b層の砂礫が入っているのがわかる。レンズ形をした第12-1a層のブロックは農耕具による掘削によって生じたもので、土塊は掘り上げられることなく、刃先の痕跡内に



図IV-176 第11b層出土遺物①



图IV-177 第11b层出土遗物②



図IV-178 第11b層出土遺物③

36~42: 大畦畔5付近

落ち込んだと考えられる。同時に農耕具痕の中には砂礫が入っているから、この農耕具痕は第11b層が一定程度堆積した段階でつけられたものと考えられる。また、図版31-5は3列並んだ農耕具痕を示したものであるが、中央のものが深く、両脇のものは浅い。これらは溝を掘削した際に、その底面についたものと考えられる。この農耕具痕の脇の断面写真が図版31-4であるが、農耕具痕の部分では第12-1a層上面が変形して細長く持ち上がっていることがわかる。さらに、第11b層下部(写真に矢印で示した部分)は葉理がみられないだけでなく、第12-1a層起源のブロックが含まれており、農耕具によ

る攪乱の結果巻き上げられた可能性が高い。以上のことから、この農耕具痕は第11 b層下部の人為的攪乱に伴ってつけられたものであるといえる。

また、図版31-2には「稲株状痕跡」と呼称されていた小穴群を示した。それらは第12-1 a面水田ブロックEの東側にあたる部分で検出されたが、この部分は第11 b層堆積時に侵食されていた(図版31-1)。平面形は円形が基本であり、それが連なった部分もあった。その落ちを埋める堆積物は、平面で見ると礫が中心に存在し周囲に砂が存在したが、断面(概要X V, p.108:写真75)で見ると砂の上に礫が落ち込む形で堆積していた。なお、堆積物の中に第12-1 a層起源の小ブロックが混じるものも認められた。こうした堆積状況からみて、この小穴は、水を含んで柔らかい状態にあった第12-1 a層の上に、砂礫が急激に堆積したことで生じた変形構造(ロードキャスト)と思われる<sup>7)</sup>(松田1994 a)。

水田面精査時に確認される足跡、農耕具痕、小穴群と水田遺構との関連を解釈する試みは、これまで盛んにおこなわれてきた。しかし、こうした痕跡が作土上面に帰属する痕跡であるかどうかについて、吟味して報告された事例は多いとはいえない。例えば、農耕具痕は水田遺構の調査でしばしば検出されるが、江浦(1992 a)において水田埋没後の人間活動の結果残されたものであるという指摘がなされ、その後矢田 勝(1999)によって本書の見方と共通した考え方が提示されるまで、水田遺構と同時期のものとして扱われる傾向があった。また、「稲株痕」とされているものの中にも、水田面が被覆されてから掘り込まれた小動物の生痕などが含まれている場合がある。これらの遺構を正しく評価するためには、水田面を覆う堆積物から水田作土、下層土(芯土)まで一度に観察できる断面を検討して、遺構の帰属や構造を明らかにしなければならない。こうした遺構は平面を精査するまで認識されない場合が多いので、断面と平面を合わせて検討できるように、調査方法を工夫する必要がある。

**第12-1 a面** 第11 b層を除去して検出した面である。「第2 黒色泥層」の上面であり、「2 黒の水田面」(「弥生時代中期水田面」)と呼ばれてきた。この面の認識には混乱が生じており、その評価にあたっては層序対比と遺構認識について、整理が必要である。

池島 I 期地区においても「第2 黒色泥層」の上面で水田遺構が検出されているが、そこからの出土遺物と当地区の「第2 黒色泥層」出土遺物との間には時期差があり、さらに池島 I 期地区で第11 b層と一括されていた層の中に、攪乱を受けた可能性の高い地層が挟まれていることが明らかになった。こうした中で、当地区と池島 I 期地区の両方を視野に入れて層序関係を検討する必要性が生じてきている。また、当地区における第12-1 a面では、遺構の認定に問題のある調査区があり、それが遺構配置復原の障害になっている。

**問題点の検討** 層序対比に関しては、当地区92-6調査区と池島 I 期地区96-2調査区の関係が手がかりとなる。両者は恩智川を挟んで向かい合う位置関係にある。第Ⅲ章で説明したとおり、92-6調査区では第12 a層が砂礫層を挟んで2層に細分された(図版32-7)。これを第12-1 a層・第12-2 a層と呼んだが、当地区全体で確認できるのは前者である。一方、96-2調査区西側の断面をみると、「第2 黒色泥層」と認識された層の上に暗色帯がもう一枚存在することがわかる(図版32-8)。この暗色帯は、池島 I 期地区西部に存在する流路から供給された砂によって覆われていた。この暗色帯と「第2 黒色泥層」の層相は、92-6調査区の第12-1 a層・第12-2 a層に類似しており、これらが対比される可能性が高い。この考え方にもとづけば、池島 I 期地区で第12 a面として検出された水田遺構は第12-2 a面のものであり、当地区の水田遺構よりも層位的に古いことになる。ここで池島 I 期地区の状況について若干ふれると、まず砂礫で埋没していた流路は第12 a面の畦畔を破壊しており、水田よりも新しいものであ



る。また96-2調査区では、第11 b層の中位で水路が検出されており（概要X X III, p.43）、これが第12-1 a面に連続する可能性がある。さらに、95-2調査区で実施されたプラント・オパール分析結果によれば、「第2 黒色泥層」を覆うシルト層からもイネのプラント・オパールが比較的多く検出され、この層準でも水田が営まれた可能性が指摘されている（第V章2-2）。この層準は第12-1 a層に対比されると思われる。こうした点をふまえて、2000～2001年に池島I期地区で断面観察をおこなった。その結果、第12-1 a層に対比される地層は攪乱が顕著な部分も認められたが、砂・シルトの薄層が挟在する部分も少なくなかった。そのため、池島I期地区では「a」をつけずに第12-1層と呼んでおきたいが、この段階の池島I期地区はあまり水田として利用されていなかった可能性がある。

次に、遺構認識の問題について検討したい。当地区における第12-1 a面では、砂礫層で覆われた部分を中心に遺構が検出された。砂礫を除去して検出したため、小畦畔も比較的容易に認識できた（カラー図版10、図版32-1）。しかし、89-3調査区・90-1調査区の平面図には、きわめて小さな区画や整った区画、不整形な区画など、様々な「水田区画」が図示されている。これらは周囲の調査区の状況と合わないだけでなく、同一調査区内でも整合していない部分が多い。こうした検出状況は、第12-1 a面がシルト～粘土に覆われて埋没していた部分で認められた。これについて90-1調査区では、「調査時点から担当者間でコンセンサスの得られた遺構の検出状況ではない」と報告されており（概要X II, p.149）、89-3調査区における遺構認識についても矛盾点が指摘されている（井上1993 a）。畦畔の検出状況写真が



図IV-179 第12-1 a面平面図

表Ⅳ-33 第12-1 a面遺構名称

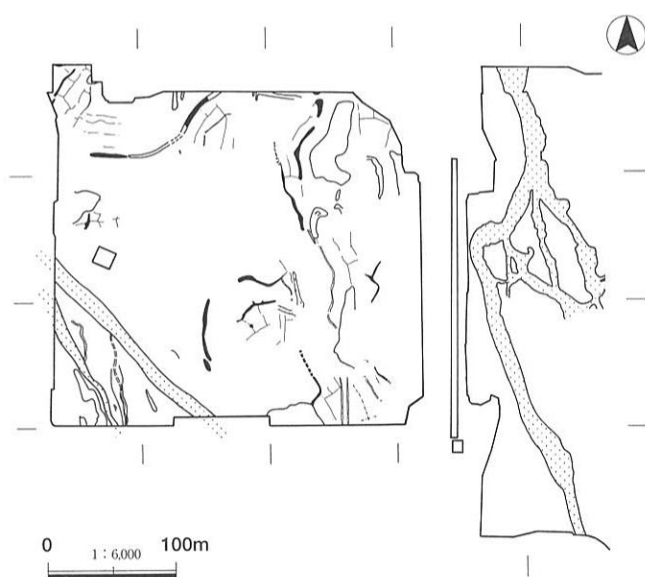
遺構番号	概要における遺構番号
流路3	90-1 流路2
流路4	90-1 流路4
	92-7 流路3
水路60	93-1 水路5
水路62	90-1 溝1082
水路74	93-2 溝94
大畦畔2	86-1 大畦畔12003
大畦畔3	86-1 大畦畔12001・12002
大畦畔4	90-2(H2) 小畦畔
	86-1 大畦畔12004
大畦畔5	90-3(A) 大畦畔4
	90-2(H2) 杭群1
	90-2(H3) 大畦畔17・18
	90-2(H4) 大畦畔49
大畦畔6	90-3(B) 大畦畔
	90-2(H3) 大畦畔16
大畦畔7	90-2(H3) 大畦畔19・20
大畦畔8	90-3(C) 大畦畔7
大畦畔9	90-2(H4) 大畦畔53
	90-3(C) 大畦畔11
大畦畔10	89-1 畦畔18
大畦畔11	89-2 大畦畔5
	89-3 大畦畔8
大畦畔12	93-1 大畦畔2
大畦畔13	88-2 高まり1612
大畦畔19	93-1 —
堰17	93-1 堰8
堰18	93-1 杭列9
	93-2(D) 杭群4・5・6
堰19	90-3(A) 水口部杭列
杭列11	93-1 杭列10
杭列15	90-2(H4) 杭列

残されていないため十分な検証はできないが、89-3調査区に接する93-1調査区では全く畦畔が検出されていないこと（概要ⅩⅤ, pp.111-112）なども考慮すると、遺構認識方法に問題があったと言わざるを得ない。したがって、これら2つの調査区における「畦畔」は、平面図には入れていない。

なお、89-1～3調査区では第13a面との間にほとんど間層がなく、第12-1 a面段階に一部第13a面が露出していた可能性がある（概要Ⅰ, p.118）。しかし、これらの調査区の第13a面では小畦畔が明瞭に検出されており、第12-1 a面段階の攪乱を受けた様子は窺えない。また、断面図では第12層が存在せず、第11b層（シルト）の下に第13a層が堆積しているように描かれた部分もある。これについては、第8a層の認識に関する問題と同様、第12層の色調・粒度が第11b層（シルト）と類似していたため、分層することができなかった可能性が高い。この点も第12-1 a面の遺構認識が混乱した原因のひとつである。

**微地形** 次に、第12-1 a面の地形について説明する。当地区においては、この面の流路の肩は明確に検出されなかった。しかし、当地区西部には帯状の侵食痕が認められ（図Ⅳ-179）、

それがトラフ型斜交層理の認められる砂礫層で埋まっていたことから、破堤堆積の痕跡であると推定される。その位置関係からみて、第11-2 a面流路1とはほぼ同じ位置に流路が存在したと考えられる（流路3）。また、第11-2 a面流路2にあたる場所の周囲では、第12-1 a層が砂層を挟んで細分される部分もあった（例えば図Ⅳ-224：⑨）。このことに注目し、この部分にも小規模な流路が存在した可能性を考え、流路4とした。これらの流路は、いずれも幅が拡大して第11-2 a面まで継続したため、第12-1 a面段階の肩が検出できなかったと考えられる。さらに、池島Ⅰ期地区西部で検出された流路も、これらの流路と同時に存在したと思われる。図Ⅳ-180は、これらの情報をふまえて作成した第12-1 a面の流路復原図である。



図Ⅳ-180 第12-1 a面流路復原図

等高線図（図Ⅳ-183）をみると、当地区東部には南北方向にのびる微高地が存在することがわかる。平面図では微高地が点在するように表現されているが、その間にも段差が存在しており、全体として帯状に高くなっている。また、当地区中部南端にも高くなった部分があり、これと東部の微高地に挟まれた部分が帯状の微低地となっている。また、当地

表IV-34 水田ブロック面積

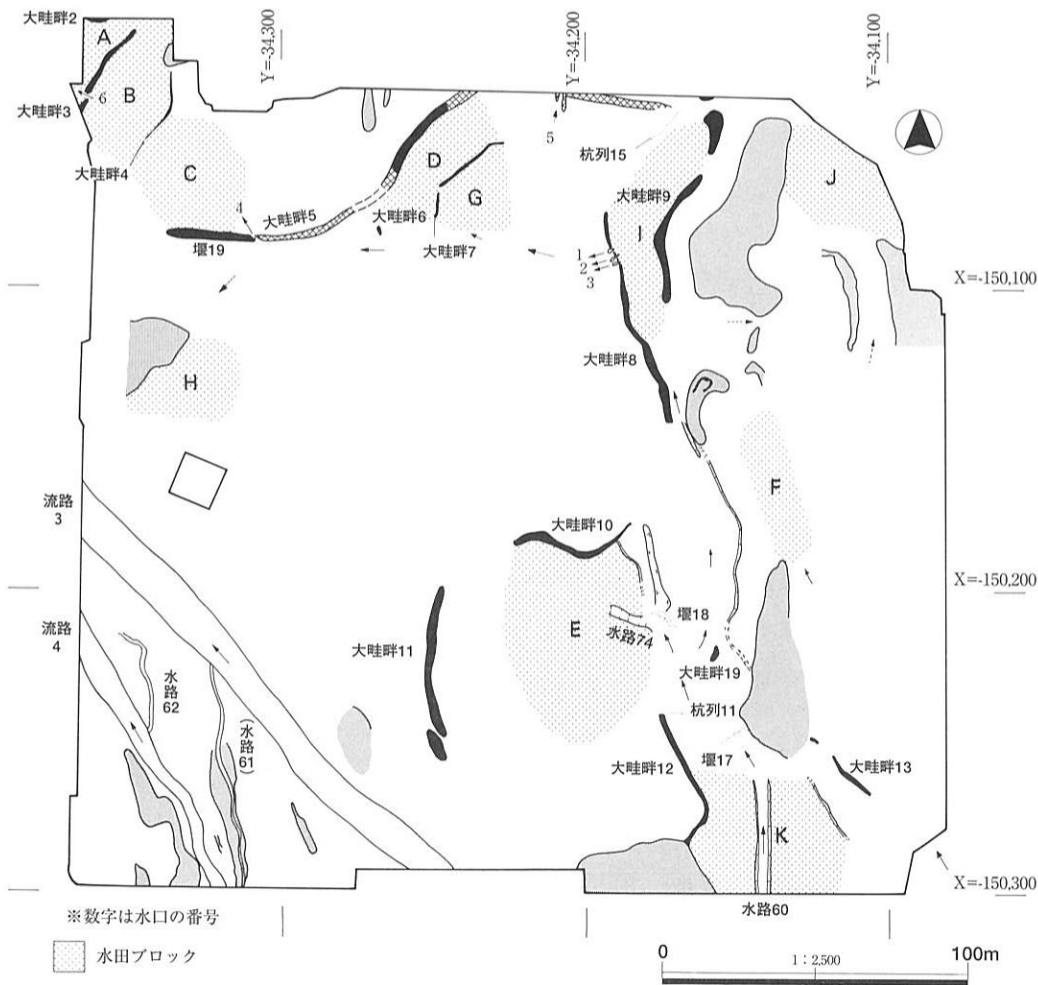
ブロック	面積 (㎡)
A	(210+α)
B	(890+α)
C	(1093)
D	(723)
E	(2543)
F	(625)
G	(465)
H	(700)
I	(1045)
J	(915+α)
K	(1526+α)

区西部には南北方向にのびる微低地が存在する (図IV-222:②)。この微低地の北側は凹地となっているが、これは第11b層堆積時の侵食によるものである。その他、当地区西端中央付近にも微高地が存在する。また、流路4の両脇には微高地が存在するが、これは第13a面埋没時に流路5から溢れた砂や泥が堆積して形成されたものである。

**水田区画** この面では大畦畔を13検出した。それらのうち、大畦畔8・10・11と大畦畔5は、水田域内を細分するように配置されている。前者については、帯状の微低地にあたる部分は途切れていたが、第11b層堆積時の侵食の影響も考慮すると、これが本来の姿であったかどうかは、やや疑問も残る。大畦畔8の東側に位置する高まりの上では、

「コ」の字状に近い平面形態を取る大畦畔状の高まりが検出された (概要Ⅶには未記載)。池島I期地区の第12-2a面では、縁を土手状に盛り上げた高まりが複数検出されており、その類例のひとつと考えられる。また、大畦畔12は帯状の微低地の縁辺付近に存在しており、水田域の区画や水回りに関係すると考えられる。

一方、大畦畔5には杭群で補強した部分が存在する (図版32-5)。杭群が確認された部分は2ヶ所あり、ここでは便宜上、それらを西群と東群と呼んで記述することにする。東群の場合、南北方向にのび



図IV-181 第12-1a面水田ブロック・遺構名称

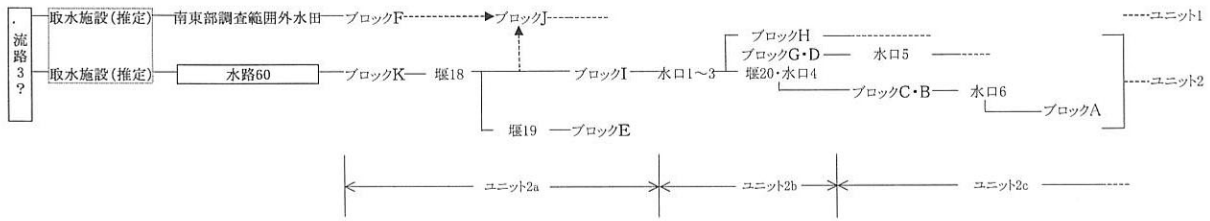
る部分と、それに直交する2本の列が存在する。これらの中には、杭を埋める畦畔の盛り上がりを確認された部分もある(図版32-6)。杭の遺存状況からみて、東西方向の大畦畔に直交するように2本の畦畔が取り付いていたと推定でき、2本の畦畔間は水口となっていた可能性が高い(水口5)。一方、西群に関しては、畦畔盛土は第11b層堆積時に流出して残存していなかった。この杭群の西端は盛土でつくられた大畦畔と接するが、その接点には大畦畔と斜交する小溝が存在し、その溝内では杭列が検出された。この部分は水口であった可能性が高く(水口4)、杭列は水量調整のための調整堰(堰19)と考えられる。大畦畔5は以上のように復原できるが、なぜこの大畦畔だけ部分的に杭で補強されたのかは不明である。西群は第13a面水路63が埋没した部分に存在しており、その痕跡が残存して、やや低くなっていた可能性がある。また東群の立地する場所は、下層の第13b層が植物遺体を多く含むシルト~粘土で、第13a層は第12-1a層と一体となって分離できなかった。このことからみて、砂礫が下層に存在する周囲の地点と比べて地盤が軟弱だった可能性もある。

この面で検出された小畦畔のほとんどは、幹線小畦畔と考えられるものであった。なお、当地区南東隅では、第12-1a層下面で確認した擬似畦畔から畦畔の位置を復原した(図版32-3)。畦畔が検出された区域は大畦畔によって画される場合もあるが、全体として範囲を明示するような区画は存在しなかった。こうした区域を水田ブロックと認識したが、この面では少なくとも10のブロックが確認できる(図IV-181)。それぞれの境界は不明瞭であるため、正確な面積を測ることはできないが、大まかな面積を参考までに示した(表IV-34)。なお、植物珪酸体分析結果(第V章2-1)によれば、ブロックCとHに挟まれた部分から採取した試料からもイネの葉に起源する珪酸体が多産し、水田であったと推定されている。しかし、畦畔は検出されなかったため、水田ブロックを設定しなかった。この分析結果は、畦畔が検出されなかった部分の中にも水田として利用されていた場所が存在した可能性を示唆しており、水田景観の評価にあたっては注意が必要である。

**水利施設** この面では水利施設があまり検出されておらず、一部しか遺存していなかった可能性が高い。しかし、わずかに検出された水路・堰と微地形、幹線小畦畔の向きを勘案すれば、水利系統をある程度復原することができる。

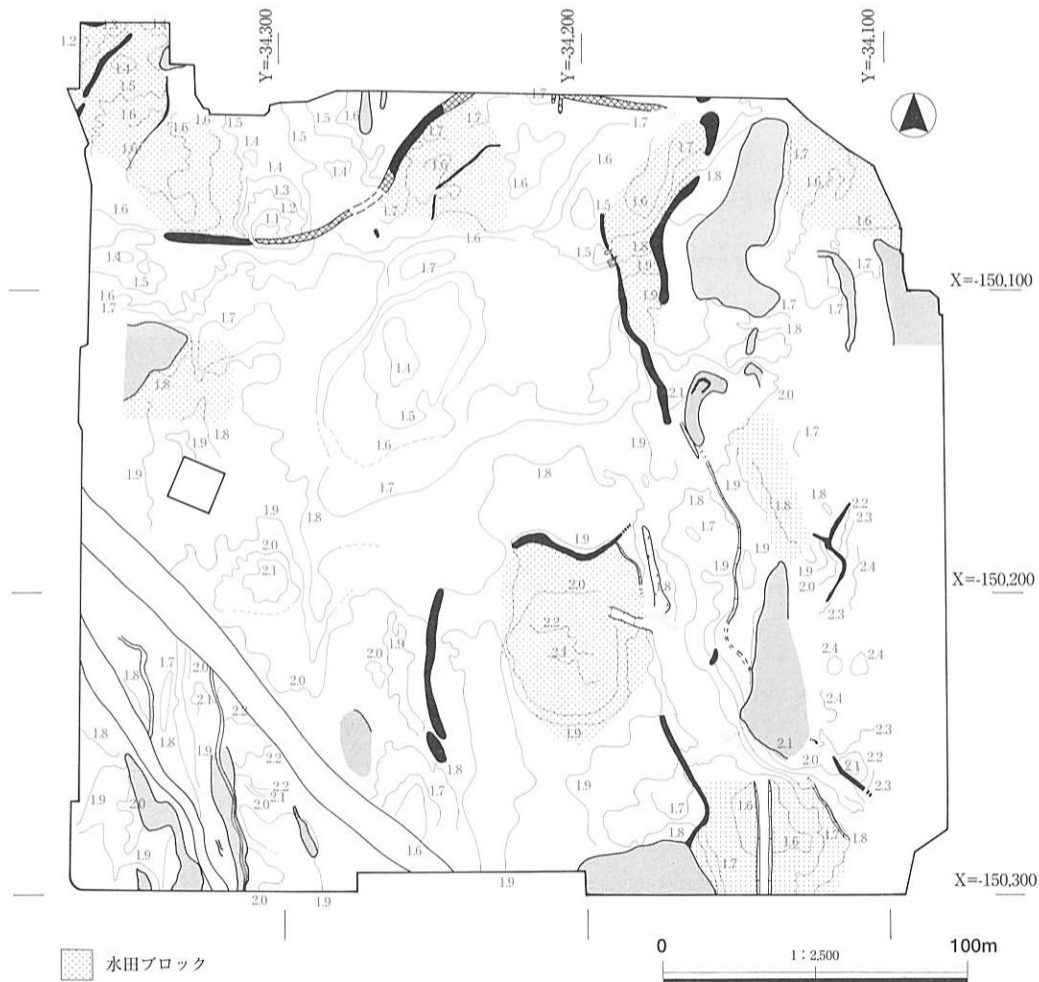
まず、ブロックKが存在する東部の帯状微低地からは、水路や水流を制御するための杭列も検出されており、灌漑経路として利用されたと推定される。南端で検出された水路60は、ブロックKの畦畔の向きとは異なるが、同一の砂礫層で埋積されていたため、最終的には同時に存在したと考えられる。また、水路60の北では微低地の向きに直交する杭列が検出されたが、ブロックKの水量を調整するための堰の可能性を考え、堰17とした。また、その北には2列の杭列からなる堰18が存在するが、その向きと水路74との関係から、ブロックEに導水するための施設と考えられる。その他、この周辺からは杭列11や大畦畔19が検出されたが、その機能については不明である。また、この微低地を通る水は、下流のブロックIにも送られた可能性が高い。その場合、大畦畔8の南端と東側の微高地に挟まれた部分が浅い溝状になっており、ここからブロックIに導水されたことが考えられる。大畦畔8には水口1~3が存在するが、これらはブロックIの排水に関わるものであったと考えられる。

水口1~3の西側の状況については遺構検出に問題があり、整理が必要である。この部分にあたる90-3調査区Bトレンチでは層位関係に混乱が生じ、平面調査に失敗した(概要Ⅶ, pp.43-44)。今回、隣接する90-2調査区と合わせて等高線図・空中写真を再検討し、水口1~3の西側の等高線を復原したが、第11b層堆積時の侵食痕を除くと、90-2調査区にあたる北側がやや高くなっていたようである<sup>8)</sup>。さら



図IV-182 第12-1 a面水利系統復原図

に、大畦畔6周辺に関しては、航空測量写真に第11b層を除去した段階の状態が写ったものがあり、それを実体視したところ、大畦畔6のすぐ南は東西方向に浅く窪んでいたことが確認できた。一方、水口4南東側の植物珪酸体分析(第V章2-1)ではイネ属が高率で検出されており、浅い窪地およびその周囲に本来水田区画が存在し、水口1~3から送られた水によって灌漑された可能性が考えられる。また、その水はブロックD・Gの灌漑にも利用されたと考えられ、大畦畔6はそれに関連していた可能性もある。大畦畔5に設けられた水口5は、これらのブロックの排水に関わったものであろう。また、窪地を通った水は大畦畔5に設けられた水口4を経て、ブロックC・B・Aに導水された可能性が高い。なお、ブロックHの灌漑方法は不明であるが、90-3調査区Aトレンチにおいて、水口4付近から南西方向にのびる畦畔の存在が推定されている(概要II, p.82)ことが注意される。これは等高線が直線的であ



図IV-183 第12-1 a面等高線図



ることから導かれた推定であるが、この考え方が正しいとすると、この畦畔に沿って水が送られた可能性もある。なお、前述のようにブロックCとHに挟まれた部分が水田として利用されていたとすれば、この推定畦畔がブロックの東側を画し、取水のための水口も存在したと考えられる。一方、ブロックFはこうした水利系統から外れており、微高地の北東縁辺沿いに導水された可能性が高い。また、ブロックJについては、ブロックI方向と、ブロックF方向の両方から導水が可能であるため、図IV-181には2つの考え方を表示した。

**水利系統の復原** 以上述べた水利系統の復原案をまとめたのが、図IV-182である。この面における灌漑ユニットは、ブロックFが属し、ブロックJも関連する可能性があるグループ（ユニット1）と、東部の帯状微低地を通して当地区北西部に至るグループ（ユニット2）の2つがある。特に後者の場合、大畦畔に着目することで「ユニット2 a」、「ユニット2 b」、「ユニット2 c」に細分できる。これらの状況から考えると、ひとつの灌漑経路を長くのばして、その経路周辺に造成した水田ブロックを灌漑する水利のあり方が想定できる。また、大畦畔によってユニットが細分される点に注目すれば、水田域内をある程度区分しようとした意図も読み取ることができるように思われる。

**その他の遺構** 当地区南西部には、この面の遺構として水路61・62が存在したとされている。このうち、後者は第12-1 a面の遺構と思われるが、その機能は不明である。また、前者については調査区間で検出層準が整合せず、帰属面に問題がある。

水路61については、92-7調査区において第12-1 a面で検出されたが、第12 b面でも同じ位置から水路が検出された。しかし、90-1調査区においては、第12-1 a面に対応する「第20面」では検出されおらず、第12 b面に対応する「第21面」（概要X IIでは平面図未掲載）で水路が検出された。また、第13 a面に対応する「第22面」の「溝1102」は、「第21面」の水路と同じ位置に存在したとされている。しかし、90-1調査区の断面図を確認したところ、「第21面」に溝があったことは確認できたが、「第22面」に溝が存在した形跡は見出せなかった。確かに、 $X=-150,260$ ライン断面では溝状に落ち込む部分が存在する（概要X II, pp.21-22, 図7:214層）が、写真で確認したところ、これは第13 a層と基本的に同じ層で、「ラミナあり」とされたのは下部に挟在した有機物の薄層のことであると思われる。この落ちは第13 b層の遺構であるが、 $Y=-34,300$ ラインでは確認できないことから、「第21面」の水路とは位置が重ならないと思われる。水路61は、第13 a面埋没時に流路5の脇に形成された微高地の上に位置しており、第13 a面段階から存在したとは考えにくい。以上のことからみて、90-1調査区の「溝1102」は第12 b面で掘り足りなかった部分を第13 a面の遺構と誤認したものと考えられる。ただし、90-1調査区の「第20面」においてこの溝が認識されていないことからすると、第12-1 a面段階には北端部分が埋没していた可能性が考えられる。92-7調査区の断面（図IV-205）を見ると、第12 b面で確認された溝は砂で埋まっており、第12-1 a面のものはシルトで埋まっていたことが確認できた。このことは、水路61が本来第12 b面の遺構であることを示しており、砂で埋積された後も地表面に痕跡が残り、その痕跡が第11 b層のシルトの堆積によって埋没したと推定される。水路61の機能については、流路5で検出された堰21の再検討と合わせて考察する必要があるため、後述することにした。

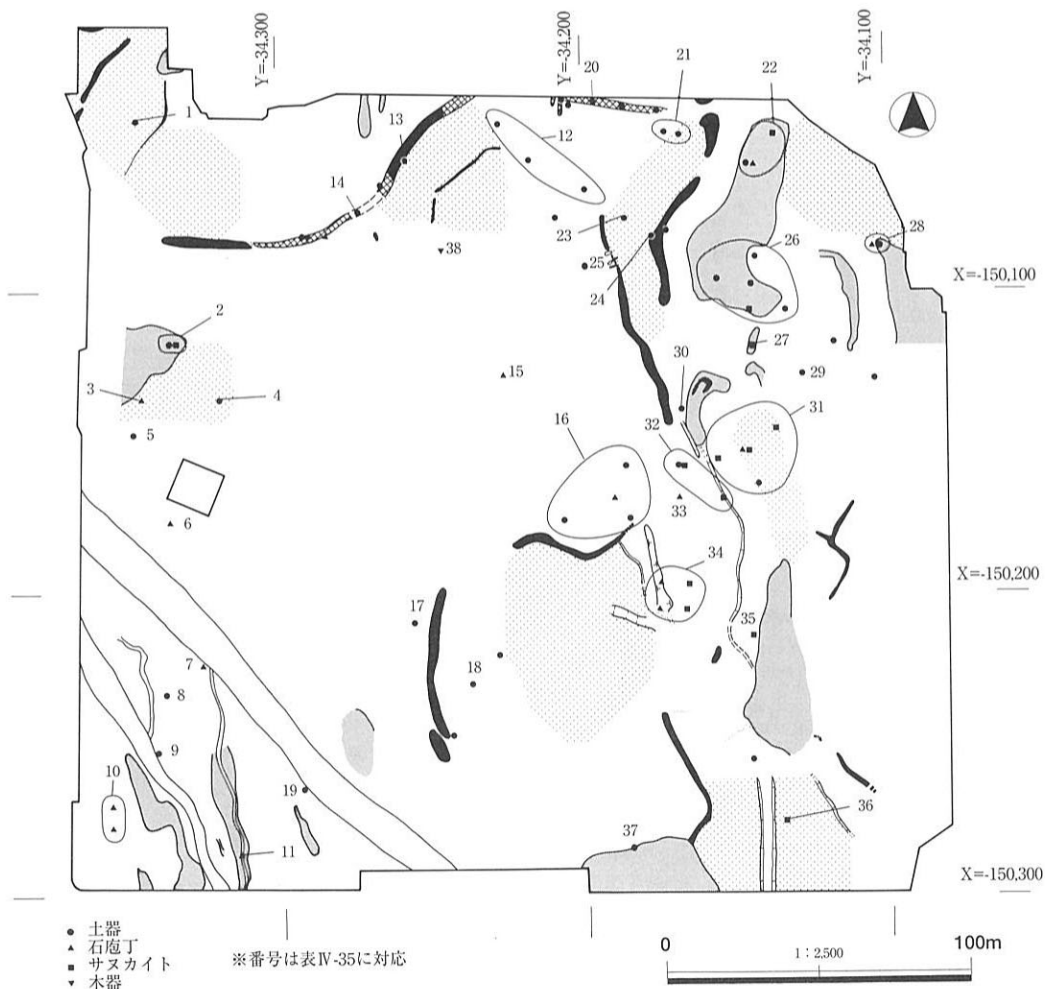
また、ブロックIでは、歩行の状態がわかる人の足跡列（26歩分）が検出されたが、これは第11 b層で埋没しており、第12-1 a面に帰属するものである。この足跡列については、真家利生（1995）によって人類学的見地からの考察がなされている。

**遺物と出土状況** 遺物の出土状況については、①第11 b層の砂礫層に含まれていたもの、②第12-1



a面から若干浮いた状態で、第11b層のシルト～粘土層中に含まれていたもの（表IV-35では第11b層最下部と表記）、③微高地や大畦畔の直上から出土したもの、④第12-1a層中に含まれていたものがある。まず、①の遺物については既に説明したが、それらは第11b層堆積時に砂礫とともに移動してきたもので、本来の位置は不明である。大畦畔5の補強杭群中から出土したものはこれに含まれ、大畦畔5に直接関連する遺物ではない。また、②には土器の大形破片が含まれている。例えば、図IV-184:9地点出土の壺（図IV-186:1）は第11b層中に含まれていたが、堆積後の土壌生成作用によって第11-2a層が形成された結果、土器の上端が第11-2a層に一部食い込むような形になっていた（図版32-4）。土器が含まれている堆積物はシルト～粘土であり、これを運搬してきた営力によって、土器が遠くから運ばれてきたとは考えられない。これらは本来第12-1a面直上に存在していたが、洪水で水没した際に若干動いて、堆積物中に取り込まれた可能性が高い。したがって、その出土地点は本来遺棄されていた位置に比較的近いと思われる。さらに、③の中には土器が正置された状態で出土した事例もあり、人為的に据え置かれたものと考えられる。なお第12-1a面では、大畦畔の盛土中に土器が埋納された事例は存在しなかった。遺物は当地区全体に分布するが、東部の微高地周辺から出土したものが多し。出土遺物には土器だけではなく、石庖丁やサヌカイト製石器などもある。

次に、第12-1a面に関連する遺物を列挙する。大畦畔9直上の24地点からは、弥生土器壺（図IV-185:1）・無頸壺（2）・甕底部（3～5）が出土した。ほとんどが第IV様式のものであるが、（5）の



図IV-184 第12-1a面遺物出土状況

表Ⅳ-35 第12-1 a 面出土遺物一覧

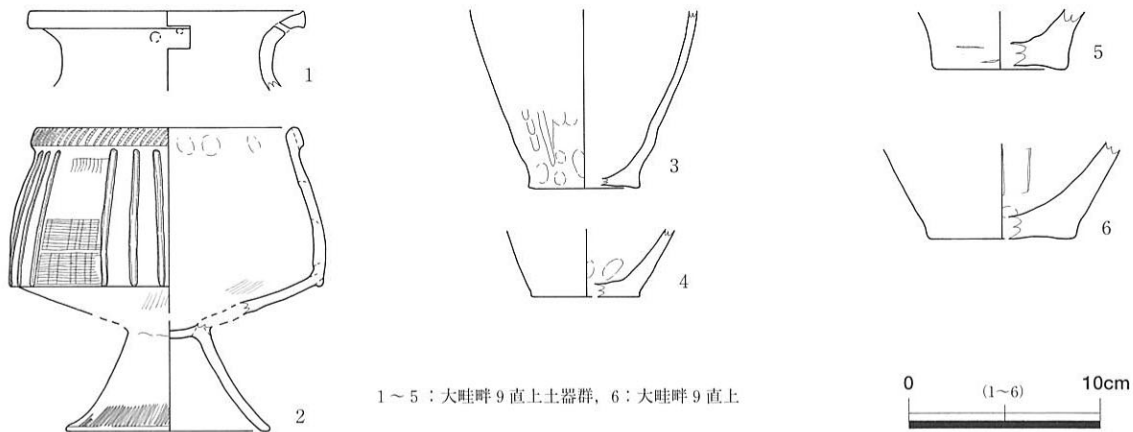
番号	調査区	層準・遺構名	遺物	遺物図番号
1	86-1	第12-1a層	土器片	—
2	90-3(A)	直上(正置)	無頸壺	図Ⅳ-186:12
	90-3(A)	第11b層最下部	石槍状石器	図Ⅳ-188:50
3	90-3(A)	第12-1a層	石庖丁	図Ⅳ-189:68
4	90-3(A)	第11b層最下部	甕	図Ⅳ-186:25
5	87-3		土器片	—
6	86-1		石庖丁(6と接合)	図Ⅳ-189:65
7	86-1		石庖丁(7と接合)	図Ⅳ-189:65
8	86-1	第12-1a層	ミニチュア無頸壺	図Ⅳ-186:15
9	86-1	第11b層最下部	壺	図Ⅳ-186:1
10	86-1	第12-1a面	石庖丁	図Ⅳ-190:69
	92-7	第12-1a面	大型石庖丁	図Ⅳ-190:73
11	92-7	第12-1a層	大型石庖丁	図Ⅳ-190:74
12	90-2(H3)	第12-1a層	甕	図Ⅳ-186:23
	90-2(H3)	第12-1a層	甕底部	図Ⅳ-187:33
	90-2(H3)	第12-1a層	無頸壺	図Ⅳ-186:14
13	90-2(H3)	大畦畔5	甕	図Ⅳ-187:26
14	90-3(A)	第12-1a面	壺	図Ⅳ-186:3
	90-3(A)	第12-1a面	甕底部	図Ⅳ-187:32
15	90-3(B)	第12-1a層	石庖丁	図Ⅳ-189:63
16	89-1	第11b層最下部	甕	図Ⅳ-186:24
	93-2(B)	第12-1a層	壺	図Ⅳ-186:18
	93-2(D)	第12-1a層	石庖丁	図Ⅳ-189:67
	93-2(D)	第12-1a層	底部	図Ⅳ-187:28
17	89-2	第12-1a層	甕底部	図Ⅳ-187:31
18	89-2	第12-1a層	壺底部	図Ⅳ-186:10
19	90-1	第11b層最下部	壺	図Ⅳ-186:4
20	90-2(H4)	第12-1a層	甕	図Ⅳ-186:22
21	90-2(H4)	第12-1a層	壺底部	図Ⅳ-186:7
	90-2(H4)	第12-1a層	無頸壺	図Ⅳ-186:13
22	90-2(H4)	第12-1a層	凸基式石鏃	図Ⅳ-187:41
	90-2(H4)	第12-1a層	壺	図Ⅳ-186:17
	90-2(H4)	第12-1a層	石庖丁未製品	図Ⅳ-190:72
23	90-2(H3)	第12-1a層	壺底部	図Ⅳ-186:19
24	90-3(C)	大畦畔9直上	台付無頸壺	図Ⅳ-185:2
	90-3(C)	大畦畔9直上	壺	図Ⅳ-185:1
	90-3(C)	大畦畔9直上	甕底部	図Ⅳ-185:3
	90-3(C)	大畦畔9直上	甕底部	図Ⅳ-185:4
25	90-3(B)	第12-1a面	底部(甕or甕)	図Ⅳ-187:34
26	93-2(A)	第12-1a面	甕底部	図Ⅳ-187:35
	90-3(C)	第12-1a層	甕底部	図Ⅳ-187:27
	93-2(A)	第12-1a面	壺	図Ⅳ-186:2
	93-2(A)	第12-1a層	小形壺底部?	図Ⅳ-187:38
	93-2(A)	第12-1a層	剥片	図Ⅳ-188:57
	93-2(A)	第12-1a層	剥片	図Ⅳ-188:61
27	93-2(A)	第12-1a層	石鏃	図Ⅳ-187:48
28	92-6	第12-1a層	石庖丁	図Ⅳ-190:71
	92-6	第12-1a層	甕	図Ⅳ-186:21
29	90-5	第12-1a面	壺	図Ⅳ-186:5
	90-5	第12-1a面	甕	図Ⅳ-186:20
	90-5	第12-1a面	壺底部	図Ⅳ-186:9
	90-5	第12-1a面	甕底部	図Ⅳ-187:29
30	90-3(C)	第12-1a層	甕底部	図Ⅳ-185:5
	90-3(C)	第12-1a層	壺底部	図Ⅳ-186:8
31	93-2(B)	第12-1a層	石庖丁	図Ⅳ-190:70
	93-2(B)	第12-1a層	石鏃	図Ⅳ-187:49
	93-2(B)	第12-1a層	剥片	図Ⅳ-188:55
	93-2(B)	第12-1a層	剥片	図Ⅳ-188:56
	93-2(B)	第12-1a層	剥片	図Ⅳ-188:60
	93-2(C)	第12-1a層	凸基式石鏃	図Ⅳ-187:46
	93-2(B)	第12-1a層	凸基式石鏃	図Ⅳ-187:43
	93-2(C)	第12-1a層	底部	図Ⅳ-186:6
	93-2(C)	第12-1a層	凹基式石鏃	図Ⅳ-187:40
32	93-2(C)	第12-1a層	剥片	図Ⅳ-188:59
	93-2(B)	第12-1a面	底部	図Ⅳ-187:35
	93-2(B)	第12-1a層	刃器	図Ⅳ-188:53
	93-2(D)	第12-1a層	石庖丁	図Ⅳ-189:62
34	93-2(D)	第12-1a層	石庖丁	図Ⅳ-189:66
	93-2(D)	第12-1a層	不定形刃器	図Ⅳ-188:54
	93-2(D)	第12-1a層	凸基式石鏃	図Ⅳ-187:45
	93-2(D)	第12-1a面	石庖丁	図Ⅳ-189:64
35	93-1	第12-1a層	凸基式石鏃	図Ⅳ-187:42
36	93-1	第12-1a面	凸基有蓋式石鏃	図Ⅳ-187:47
37	93-1	第12-1a層	粘土塊	図Ⅳ-187:39
38	90-3(B)	第12-1a層	木製ヤス	図Ⅳ-190:75

み第Ⅲ様式のものと思われる。壺は口縁部に2個1対の穿孔が現存する。無頸壺は口縁端部に櫛描列点文、脚部に棒状浮文、裾部に櫛描列点文を施している。大畦畔9の上面は第11-2 a層に接しており、第11-2 a層掘削段階から土器片が比較的多く出土した。こうした状況からみて、大畦畔上に複数の土器が遺棄されていたと推定され、第11 b層の堆積や第11-2 a面段階の耕作の影響によって痕跡的に遺存したと思われる。第Ⅲ様式と思われる土器片は、遺棄された土器の中に混入したものである可能性が考えられる。その他大畦畔9直上からは、弥生土器底部(図Ⅳ-185:6)も単独で出土した。第Ⅲ~Ⅳ様式のものである。

第12-1 a層から出土した遺物としては、以下のようなものがある(図Ⅳ-186:1~図Ⅳ-190:76)。このうち、(1)・(4)・(24)・(25)は第11 b層最下部から出土し、(12)は2地点において、第12-1 a面直上に正置された状態で出土した。

出土した土器のうち、弥生土器壺(1~5・9・10)・無頸壺(11~16)・甕(20~26・31・34)・鉢(36)・蓋(37)等が第Ⅳ様式のものか、そう思われるものである。その他、第Ⅰ様式のもの(19)、第Ⅱ~Ⅲ様式のもの(6~8・17・18・27~30・32・33)等も出土している。その他のものとして、粘土塊(39)、石製品(40~74)、木製品(75・76)が出土した。

壺(2)の脚部の屈曲部には凹線文が2条施され、2個1対の穿孔が残存している。(37)は蓋と思われるもので、櫛目刺突文が3段施されている。



1～5：大畦畔9直上土器群，6：大畦畔9直上

図IV-185 第12-1 a面遺構出土遺物

石製品は、凹基式石鍬（40）、凸基式石鍬（41～46）、凸基有茎式石鍬（47）、石錐（48・49）、石槍状石器（50）、石小刀？（51）、不定形刃器（52～54）、剥片（55～61）、石庖丁（62～71）、石庖丁未製品（72）、大型石庖丁（73・74）がある。凹基式石鍬は、a面には鑄が通っているがb面には入らない。凸基式石鍬（41）は周縁が鋸齒状になっている。（43）は、a面には鑄が通るが、b面には大剥離面をとどめる。（45）はa・b面とも周縁部のみに細部調整が施されている。凸基有茎式石鍬（47）は、a・b面とも鑄が通り、周縁に微細剥離を施している。石錐（48）は、錐部2ヶ所で3辺は丁寧な調整剥離を施している。石槍状石器（50）は、下端部に自然面が残り、側縁はすり落としているかもしれない。（51）は、加工痕のある剥片だが、形から石小刀としてもよいかもしれない。石庖丁については、（71）がサヌカイト製である以外、すべて緑色片岩製である。形態的には直線刃半月形のものが多いが、（62）は外湾刃半月形の可能性がある。（64）の孔には、紐ずれの痕跡がある。（64）・（66）・（71）の背部には敲打痕や加工痕がある。（70）は、下辺に刃部が残り、刃部に直交するように側縁が研磨されているもので、石庖丁の転用品かと思われるものである。

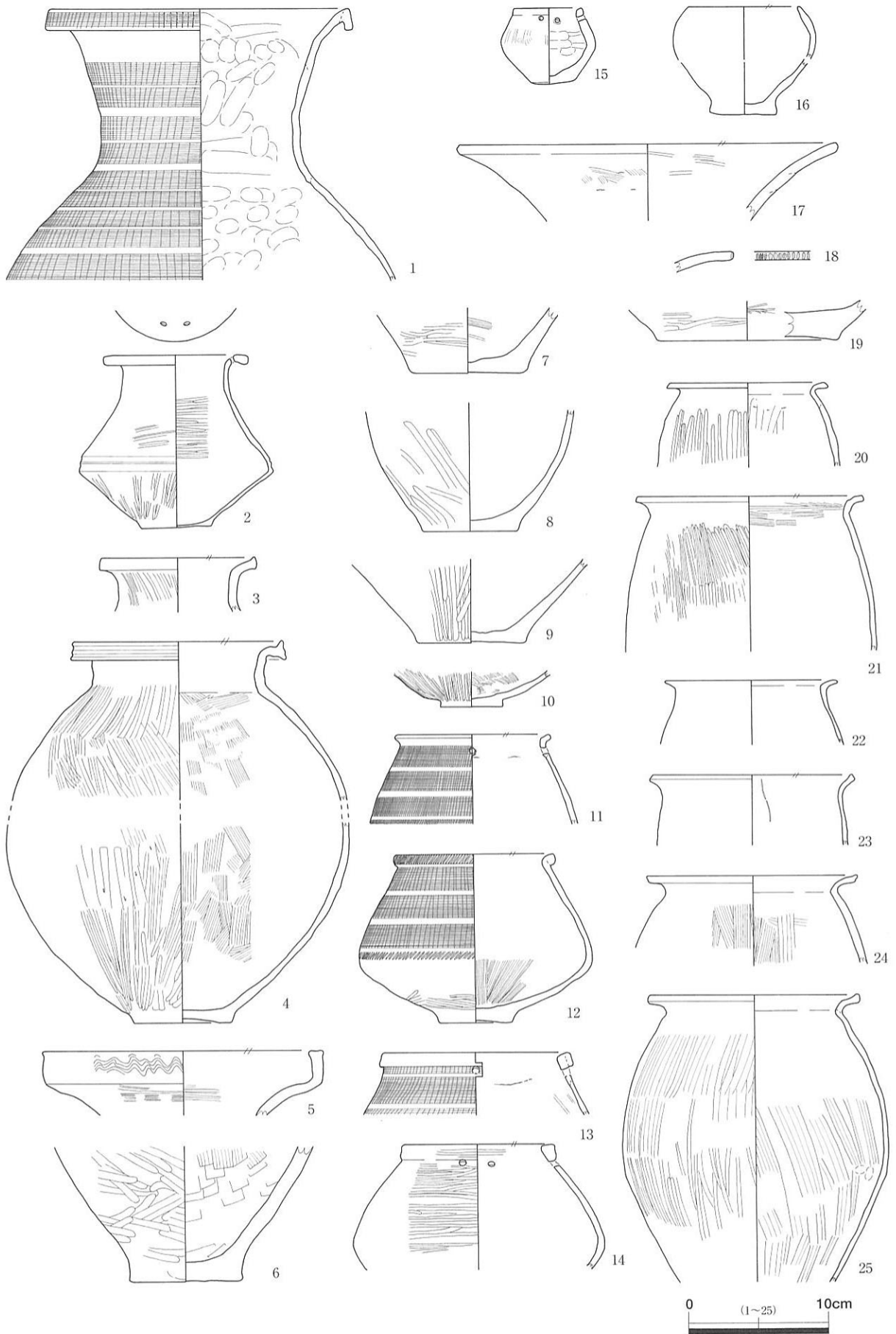
木製品としては、ヤス（75）と不明木製品（76）がある。ヤスは茎を作り出している。不明木製品は樹種がサカキで、穿孔が2個施されている。

なお、第12 b面に帰属する溝38(図IV-192)からは、平基式石鍬(図IV-198:1)が出土した。サヌカイト製で、b面は周縁の細部調整のみで大剥離面が残る。また、92-6調査区で出土した弥生土器壺(図IV-198:2)は、断面観察用の先行トレンチ掘削時に出土したもので、第12 b層から出土したと推定されたが、出土層準は正確には押さえられていない。大形の壺で、第I-3様式のものである。この調査区における第12 b層はシルト～粘土で層厚が薄く、下の第13 a層も遺存状況が悪かったため、第13 a面に関連した遺物の可能性が考えられる。

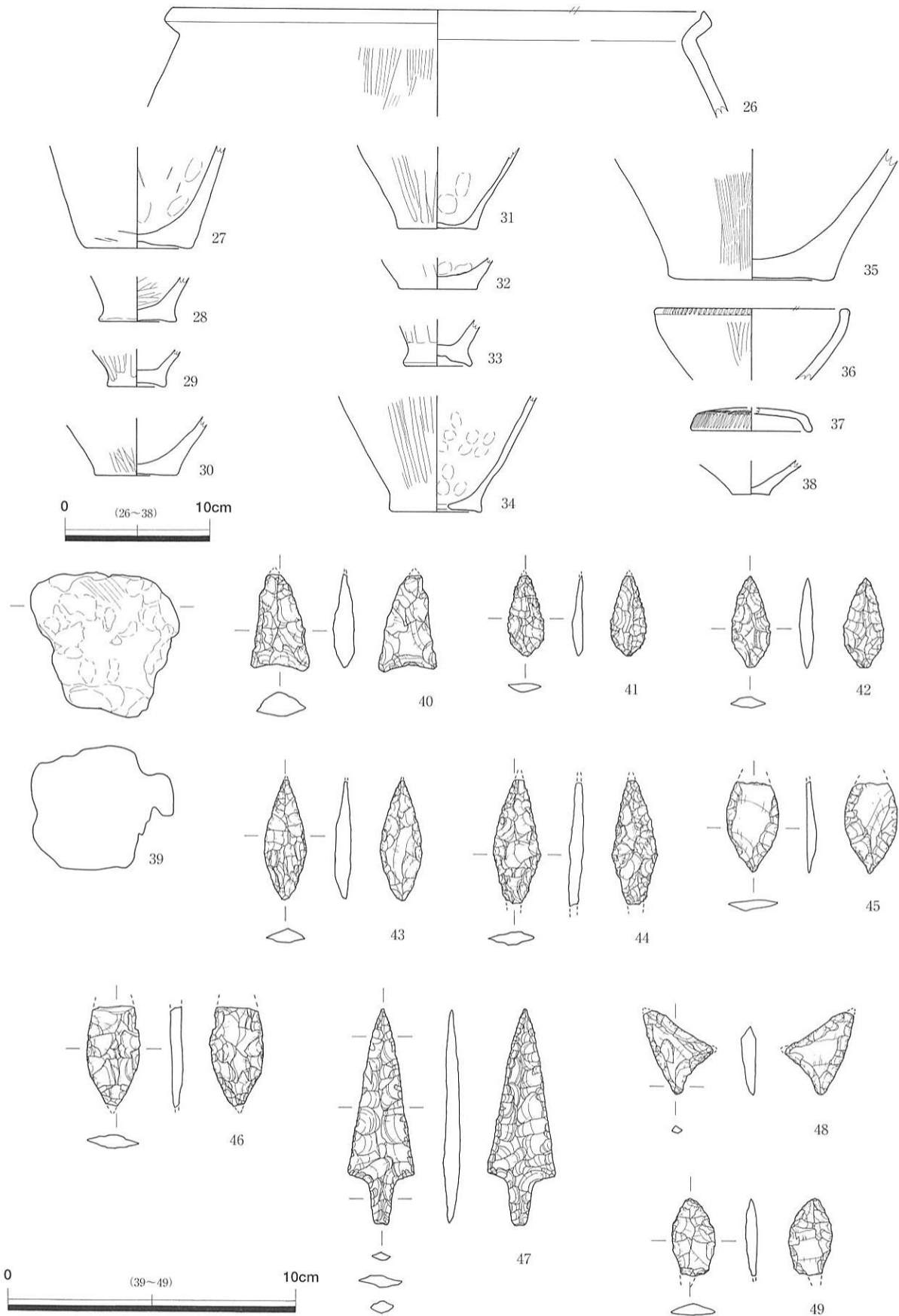
第12-1 a面の水田の耕作時期は、第11 b層最下部・大畦畔直上の土器や第11 b層出土土器からみて、弥生時代中期後葉（第IV様式）であり、中期末頃に第11 b層の堆積によって埋没したと推定される。

#### 4-3. 弥生時代前期～中期

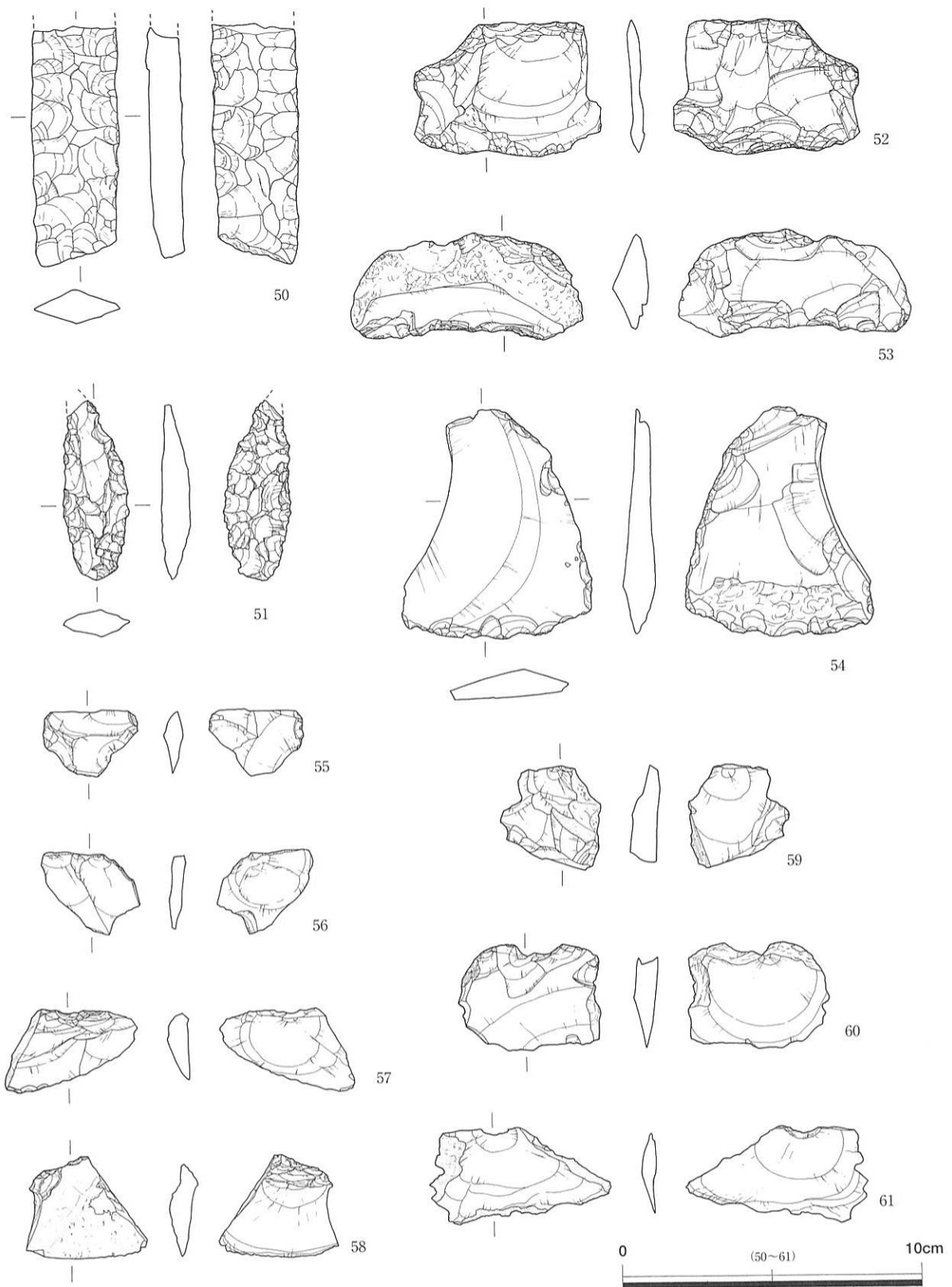
**第13 a面** 第12層を除去して検出された面である。「第3 黒色泥層」上面であり、「3 黒の水田面」（「弥生時代前期末～中期中頭水田面」）と呼ばれてきた。この面のうち、第12 b層のシルトで覆われていた部分では、第11-2 a面と同様の方法を用いて比較的良好に遺構を検出することができた（図版33-1）。



图IV-186 第12-1 a層出土遺物①

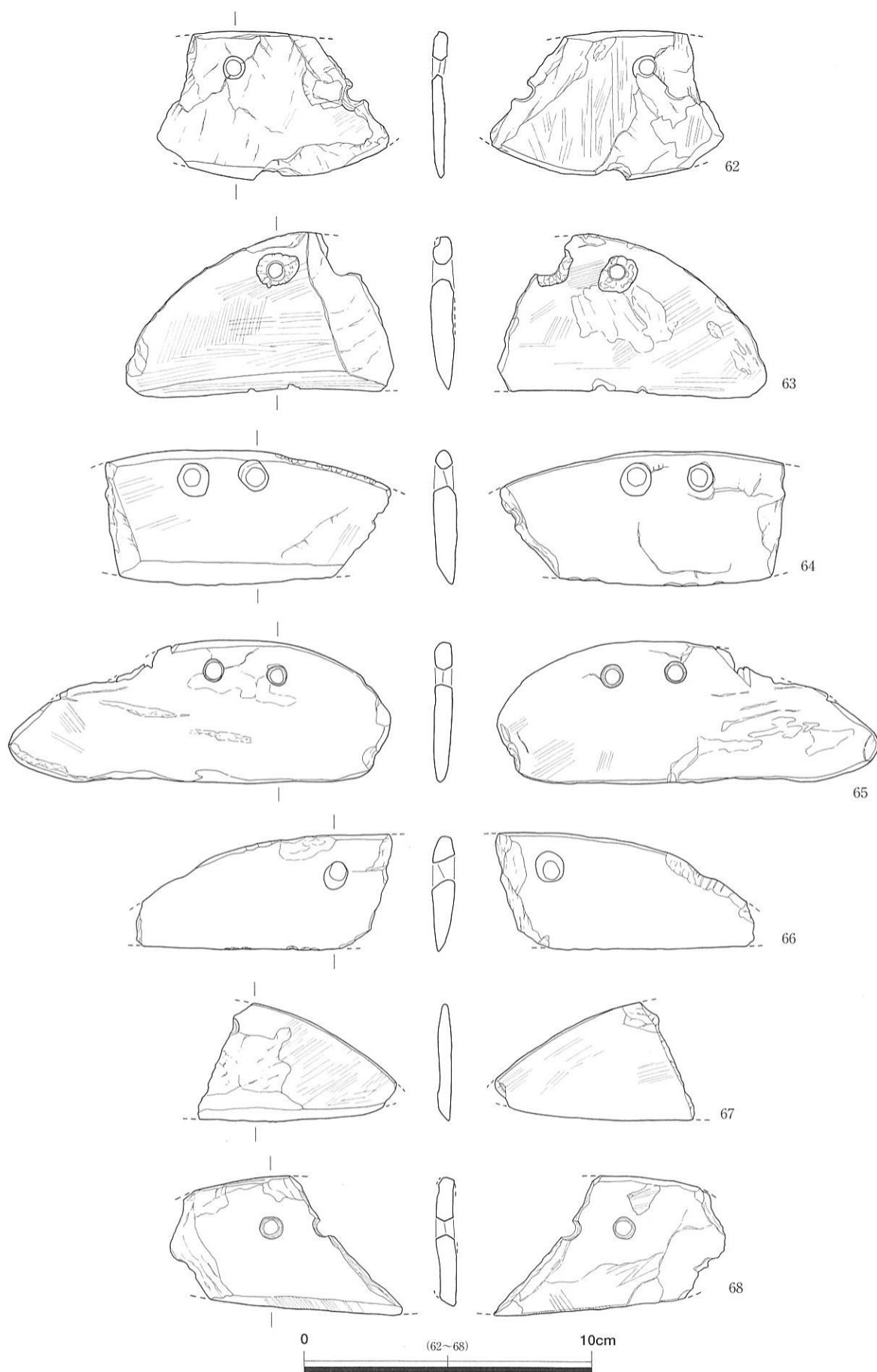


図IV-187 第12-1 a層出土遺物②

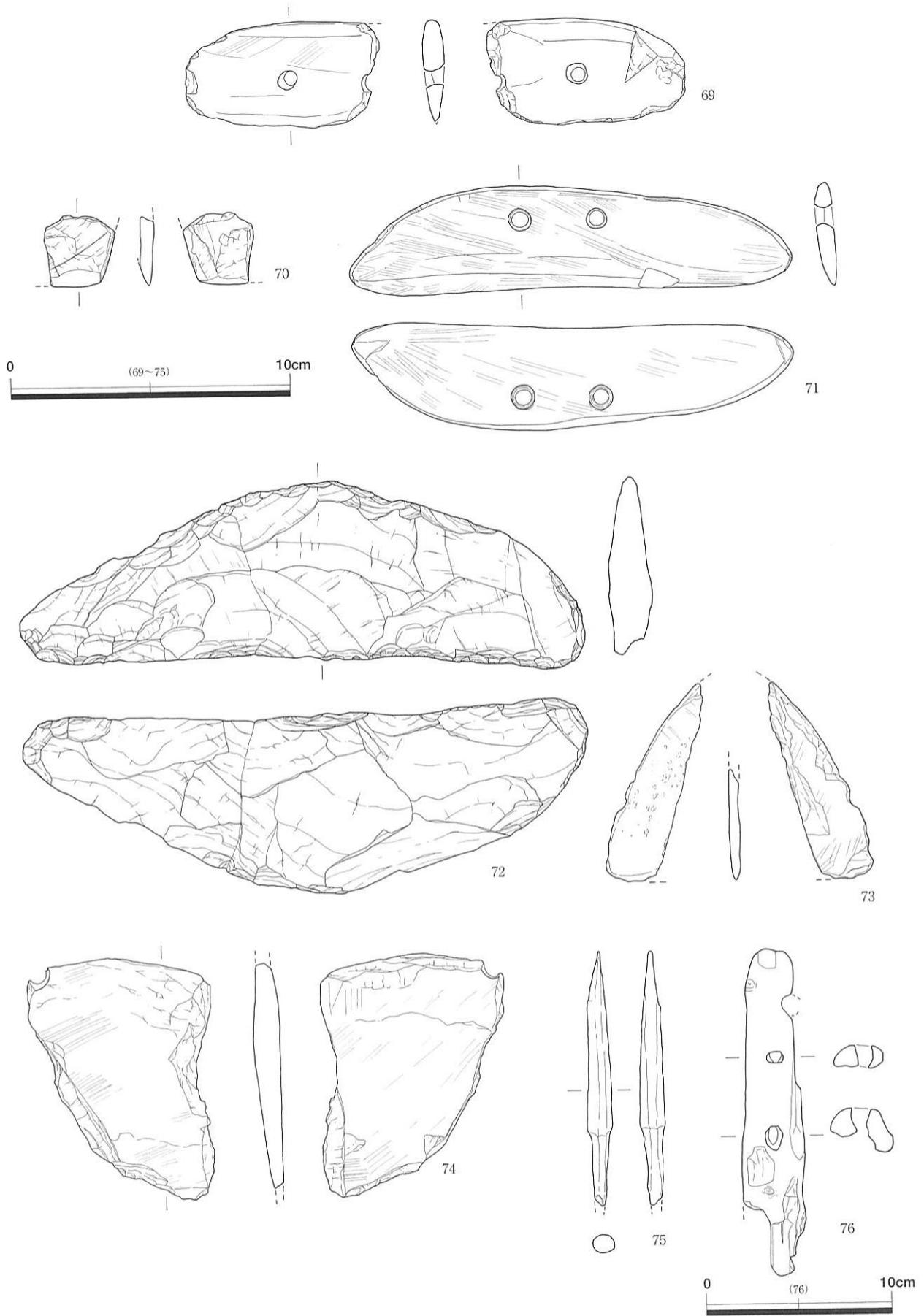


图IV-188 第12-1 a層出土遺物③





図IV-189 第12-1 a層出土遺物④



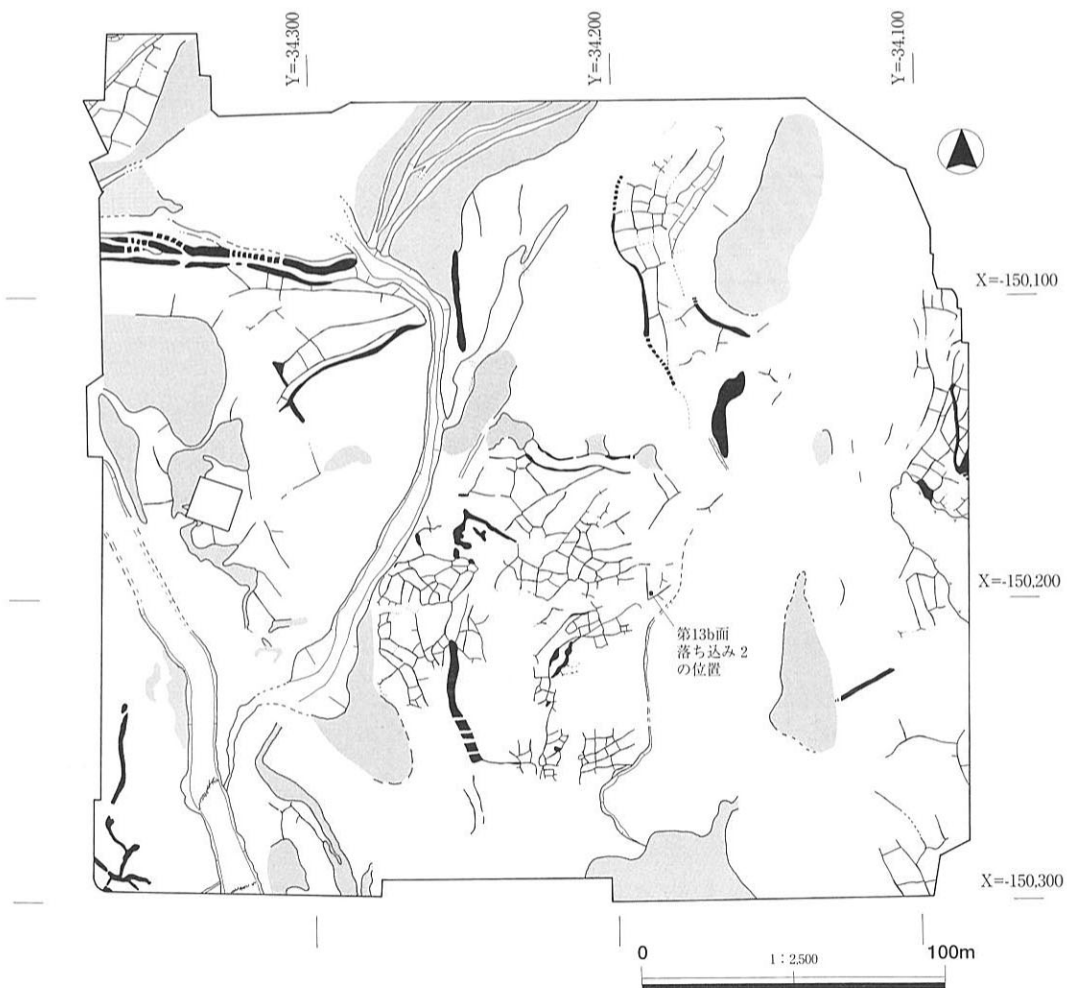
图IV-190 第12-1 a 层出土遗物⑤

ただし、第12b層が薄い部分も多く、第12-1a層と第13a層が接する場所や、第12-1a層の土壌化の影響で第13a層が分離できない場所もあった。

**微地形** ここではまず、この面の全体的な状況を見ておきたい。当地区南西部には流路5が存在する。この流路は第13b層堆積後に形成されたものである。この流路は、基本的にトラフ型斜交層理の認められる砂礫によって埋積されていた(図IV-224:⑨)が、図の左側に小規模な流路が残存したことが読み取れる(図版35-2)。この部分を埋める堆積物は、下部が中砂～粗砂、中部が有機物を含む細砂～中砂、上部が有機物の葉層を挟在するシルトである。こうした状況は、流路5が規模を縮小し、最終的には放棄流路となって埋没した過程を示しているが、最終的に埋没するのは第13a面よりも上層である点に注意される。

また、池島I期地区南西部では第13a面でも流路が検出されている(図VI-1)。当地区の大半はこの2つの流路に挟まれた空間にあたる。

当地区における第13a面の微地形は第12-1a面と共通する部分が多く、基本的にはこの面の起伏が第12-1a面にまで継続したと考えられる(図IV-194)。当地区東部には南北方向にのびる微高地が存在する。また中央部には、南端から北東方向と北西方向にのびる微高地があり、その間がやや低くなっている。さらに、中央部北端や東部にも微高地がある。なお、水路63が存在する部分は微低地であるが、前述のように、これは第12-1a面や第11-2a面に継続する地形である(図IV-222:②)。



図IV-191 第13a面平面図

表Ⅳ－36 第13a面遺構名称

遺構番号	概要における遺構番号
流路5	90-1 流路5
	92-7 流路4
水路63	89-1 自然流路2
	90-1 流路3
	90-3(B) —
水路64	90-3(A) 水路1
	90-3(B) 水路1
水路65	90-2(H2) 溝60
水路66	90-2(H2) —
水路67	90-3(A) 水路2
	90-3(B) 水路2
水路68	90-2(H3) 溝98
水路69	90-2(H3) 溝99・103
水路70	90-2(H3) 溝104
水路71	90-2(H3) 溝100
水路72	90-3(B) 水路5
溝33	92-7 溝24
木樋2	90-1 木樋
大畦畔14	89-2 大畦畔11
大畦畔15	88-2 大畦畔1802
大畦畔16	90-3(B) 大畦畔3
大畦畔17	90-3(A) 大畦畔
大畦畔18	90-3(C) 水路11の東側大畦畔
大畦畔20	90-3(A) —
	90-3(B) —
堰20	90-1 堰5
	92-7 堰1
堰22	90-3(B) 杭列3
杭列12	89-1 杭列
杭列13	90-3(B) 杭列2
杭列14	90-3(B) 杭列4
水路73	86-1 溝14001
溝38	93-2 溝118
ピット18	93-2 ピット246
(第12b面)	
遺構番号	概要における遺構番号
水路61	92-7 溝23
堰21	92-7 堰2

水田区画 この面で小畦畔が検出された部分は大きく10ヶ所あり、これらを水田ブロックとして認識した(図Ⅳ-192)。各ブロックは、微高地や大畦畔で境界が画されるものもあるが、境界が不明瞭なものも多い。全周にわたって境界が明らかになったものはないため、水田ブロックの面積を正確に測ることはできないが、おおまかな面積を参考までに示した(表Ⅳ-37)。

今回の検討の結果、ブロックFに帰属する畦畔の一部を変更しているので説明しておきたい。図Ⅳ-192では、このブロックの南端に2本の平行する畦畔を新たに書き加えた。これらの畦畔は89-3調査区調査時に第12-1a面の遺構と認識されたが、概要Iでは第13a面の遺構として報告された。これらは、89-3調査区「第14-1面」の「極小区画水田畦畔」の中であって、きわめて明瞭に認識できたという。しかしながら、帰属面に混乱が生じてしまったため、十分に評価されていない。断面図を確認したところ、これらの畦畔が存在した部分では、第12層がきわめて薄く、西側の畦畔が検出された部分では第12層は存在しないと認識されていたようである。この認識に関しては前述のように問題があり、それを前提として遺構検出をおこなったために、第12-1a面検出段階で第13a面を出してしまった可能性が高い。このことから、これらの畦畔を第13a面の遺構と理解した。

水田ブロックは、ブロックE・C・Bのように微高地の縁辺に立地したり、ブロックFのように微高地上から縁辺にかけて立地する傾向がある。地形との関係がわかるブロックEをみると、微高地の西側に沿って、やや弧を描くように水田が設定されている。レベルは南から北へ下がっており、幹線小畦畔はこの傾斜方向に合わせて設定されている。また、ブロックFについては2つの微高地の縁辺を中心に畦畔が造成されているが、西側では南東-北西方向に、東側では南西-北東方向に、それぞれ幹線小畦畔が設定されている。これは、2つの微高地間のやや低くなった部分を利用してブロック南端まで導水し、そこから西側と東側の微高地に分けて灌漑するための工夫と考えられる(井上1993a)。大畦畔14やその南側にある2つの小畦畔は、水を西側に送る機能を果たした可能性がある。また、ブロックC・Bについては、取水経路が明らかでないことから、灌漑をおこなわない排水主体の水田と考えられたこともあった。しかし、これらのブロックも微高地の縁辺に造成されており、レベルも特に低いわけではないため、やはり灌漑が必要であったと考えられる。その場合、どこから取水したかが問題となるが、水路63には第11-2a面流路1によって破壊された部分が存在しており、この部分に水口が設定されていた可能性もある。

各ブロックの排水に関しては不明な点が多いが、隣の水田ブロックに送られる場合と、非水田域に排水される場合があったようである。例えば、ブロックFのうち、西側を灌漑した水は水口6から非水田

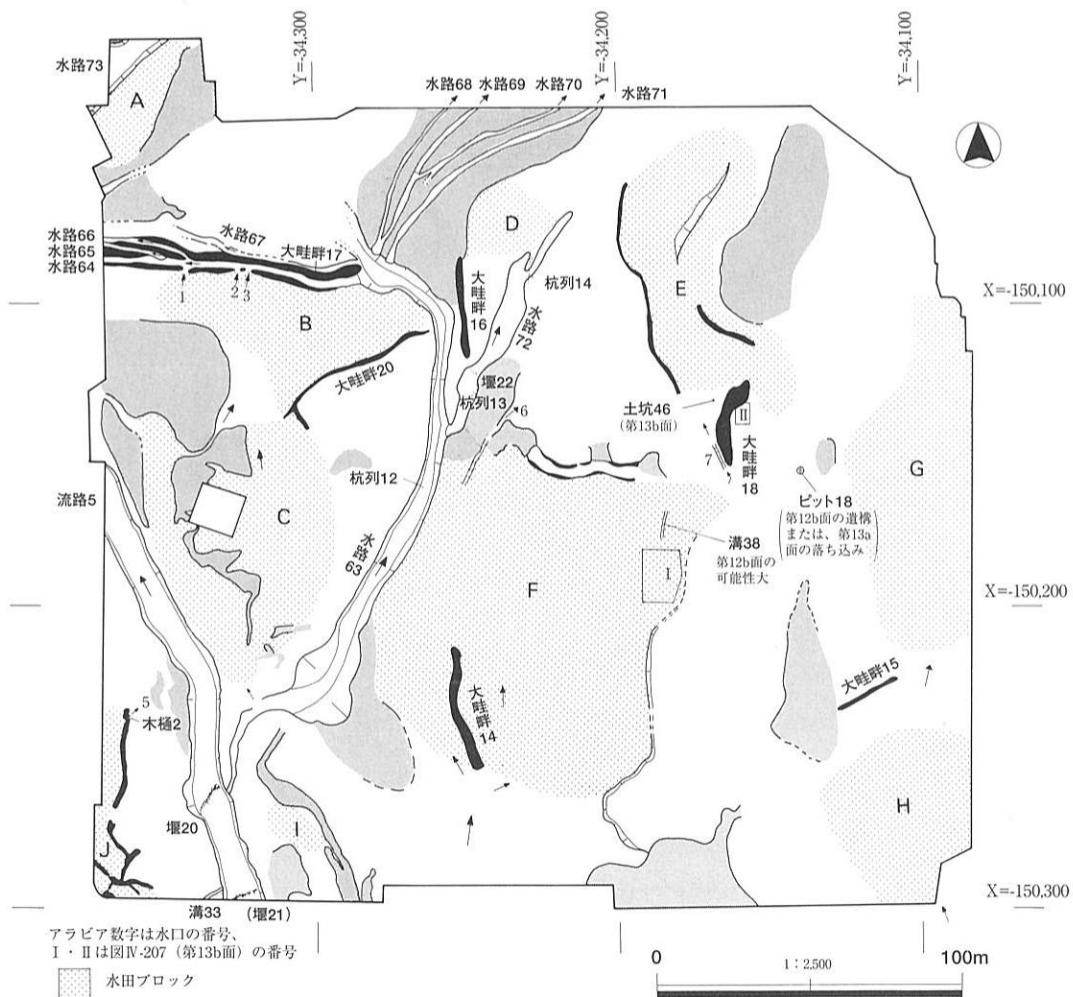
表IV-37 水田ブロック面積

ブロック	面積 (m <sup>2</sup> )
A	(605+α)
B	(2070)
C	(3534)
D	(570)
E	(2980)
F	(9060)
G	(3520+α)
H	(2170+α)
I	(180)
J	(420+α)

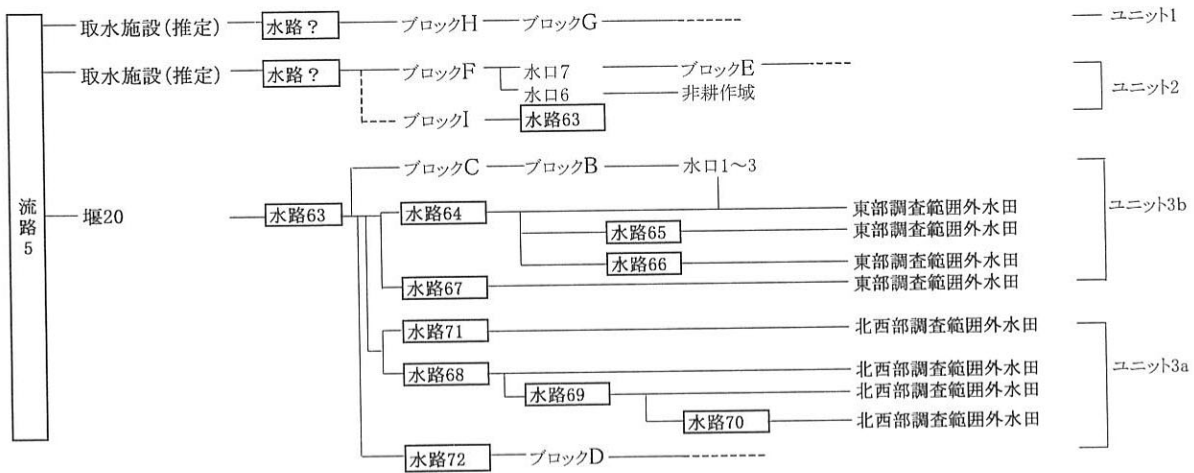
域に排水され、東側を灌漑した水は水口7を通過してブロックEに送られた。また、ブロックBを灌漑した水は、水口1・2・3を通過して水路64に排水されたと思われる。

**水利施設** 流路5からは堰が2基検出された。堰20は水路63に取水するためのものである(図IV-195)。この堰の平面形は緩やかなカーブを描くものである。下流側には、堰体を支えるように木組みが存在していた。これは先端が二股になった木を用いたもので、反対の端に穿孔して、河床に打設した杭に通していた。このようなものが4つ存在していたが、いずれも水流により倒れた状態で検出された。こうした木組みの類例は、埼玉県北島遺跡の事例(弥生時代中期)にみられる

(吉田2001)。この堰を構成する杭が打設された堆積物をみると、堰中央部には砂が盛り上がり堆積しており、それに合わせて杭の下場も高くなっていることがわかる(図版34-2)。この砂層には葉理が認められ、杭との位置関係からみて、杭打設前に堆積したことは明らかである。流路右岸側には河床が緩やかに傾斜した部分が認められ、この砂はその緩傾斜地を中心に堆積していたようである。このことは、前述の木組みがシルトの河床に接して倒れており、この部分には砂がほとんど堆積していなかったと考えられることからわかる(図版34-4)。流路5基底の等高線図(図IV-196)からは、右岸側が緩や

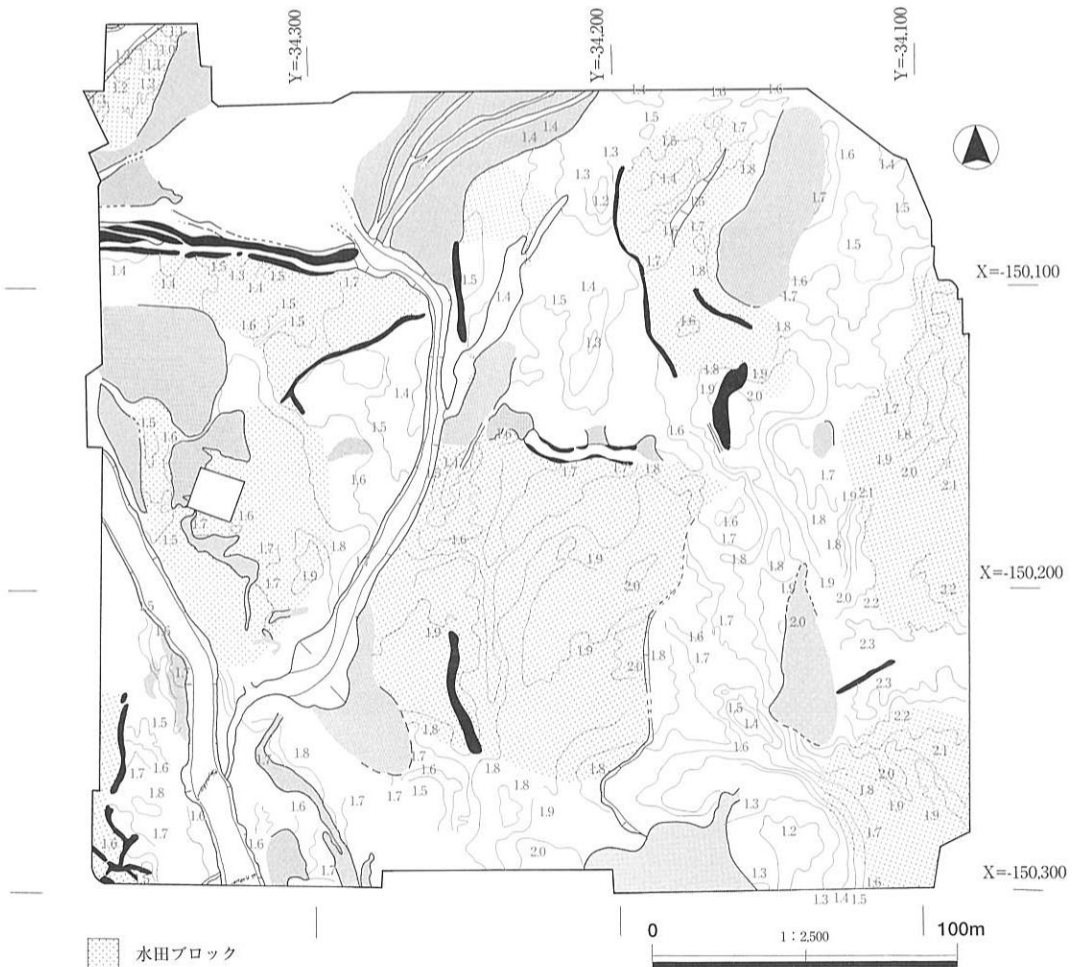


図IV-192 第13a面水田ブロック・遺構名称



図IV-193 第13a面水利系統復原図

かな反面、左岸側は深くなっていることが読み取れる。前者には縁辺に砂が堆積して瀬となっており、その反対側の深くなった部分は淵であったと推定される。この堰が流路の向きに対して斜めであるのは、瀬の形状に合わせたためと思われる(第VI章2)。また、堰21は92-7調査区南端で検出されたもので、流路の向きに対してほぼ直交する。この堰の帰属面や他の遺構との関連については、第13a面から第12-1a面に至る土地利用変遷を考える上で重要な意味を持っているため、後に検討することにした。

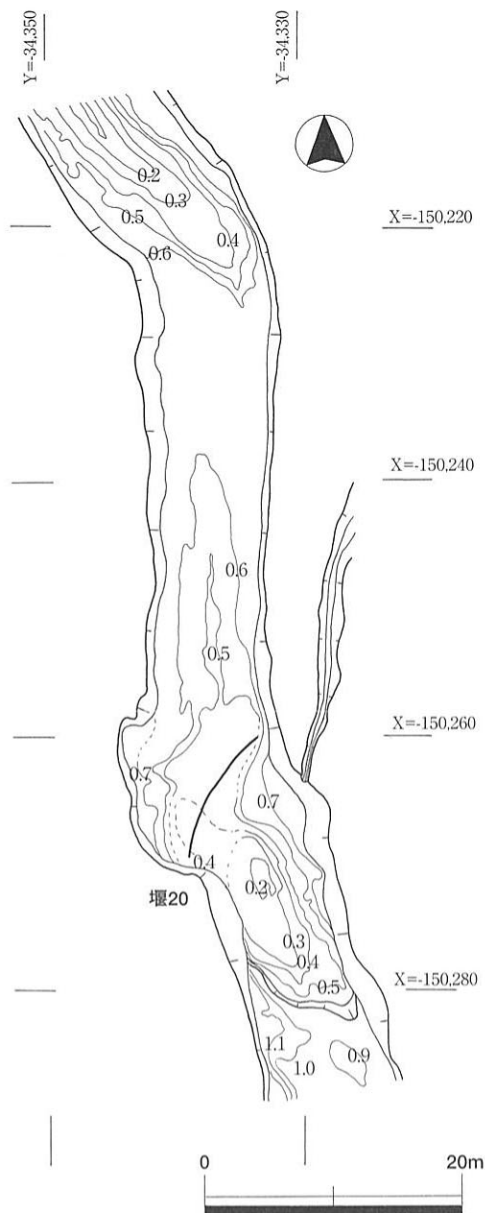


図IV-194 第13a面等高線図





図IV—195 第13 a 面壇20平面・立面図



図IV-196 堰20の立地  
(等高線は流路5 基底のレベル)

水路63北端部では、9つの水路が右岸側と左岸側に分岐していた。右岸側は水路68・69・70・71・72であり、左岸側は水路64・65・66・67である。

このうち、水路72だけは他のものよりも上流で分岐するが、これはブロックDの取水に関わるものと考えられる。水路63との分岐地点からは堰は検出されていないが、水路72の途中には片合掌形に組み込まれていたと考えられる堰22が存在していた(概要Ⅶ, p.50)。堰22周辺の右岸には、護岸のためと思われる杭列13も検出された。さらに、ブロックDの南からは杭列14が検出されたが、これは水路72を流れる水の向きを変えてブロックDに導水するための施設と考えられる。

その他の水路が分岐する地点は第11b層堆積時に侵食されており、水路63からの分水方法や、これらの水路が同時に機能したかは不明である。

**水利システムの復原** 以上のことをふまえて、この面の水利システムを復原したい。まず、本地区東部にはブロックH・Gがあるが、これは南東方向から導水されたと考えられる。この方向にあたる池島I期地区南西部では水路が検出されており、それとの関係が注目される。いずれにせよ、これらはひとつの灌漑ユニットを構成していたと思われる(ユニット1)。また、ブロックFは南側の調査区外から導水されたと考えられる。このブロックの排水は水口6・7を通じておこなわれ、特に水口7を通った水はブロックEに導水された。ブロックIについては不明な点が多いが、やはり南側から導水されたと考えられる。これらの水田ブロックはひとつの灌漑ユニットを構成していた可能性が高い

(ユニット2)。その他、水路63から分岐する水路群によって灌漑される水田群も存在する。調査範囲内からは3つのブロックが検出されたにすぎないが、調査区外の西と北東に水田ブロックが複数存在していると思われる。ここではこれらをユニット3として一括し、さらに右岸側をユニット3a、左岸側をユニット3bと細分したい。こうした推定を整理したのが図IV-193である。この図で示したように、この面では複数の灌漑ユニットが地形に合わせて並存しており、それらが集まって水田域が構成されていたようである。また、灌漑ユニットの特徴は第12-1a面の場合と同じく、灌漑経路の周囲に水田ブロックを造成し、それらに順次水を送っていく形をとっていることである。

また、流路5の左岸からも畦畔が検出されており、ブロックJとしたが、このブロックの大半は調査範囲外にあっている。このブロックの東側は大畦畔によって画されるが、この大畦畔の北端付近の水口には木樋が設置されていた(木樋2, 図版34-6)。遺存状況が悪いため不明な点も多いが、長さが2m以上あるため、中空の樋ではなく断面U字形を呈する開渠の樋であったと推定される。

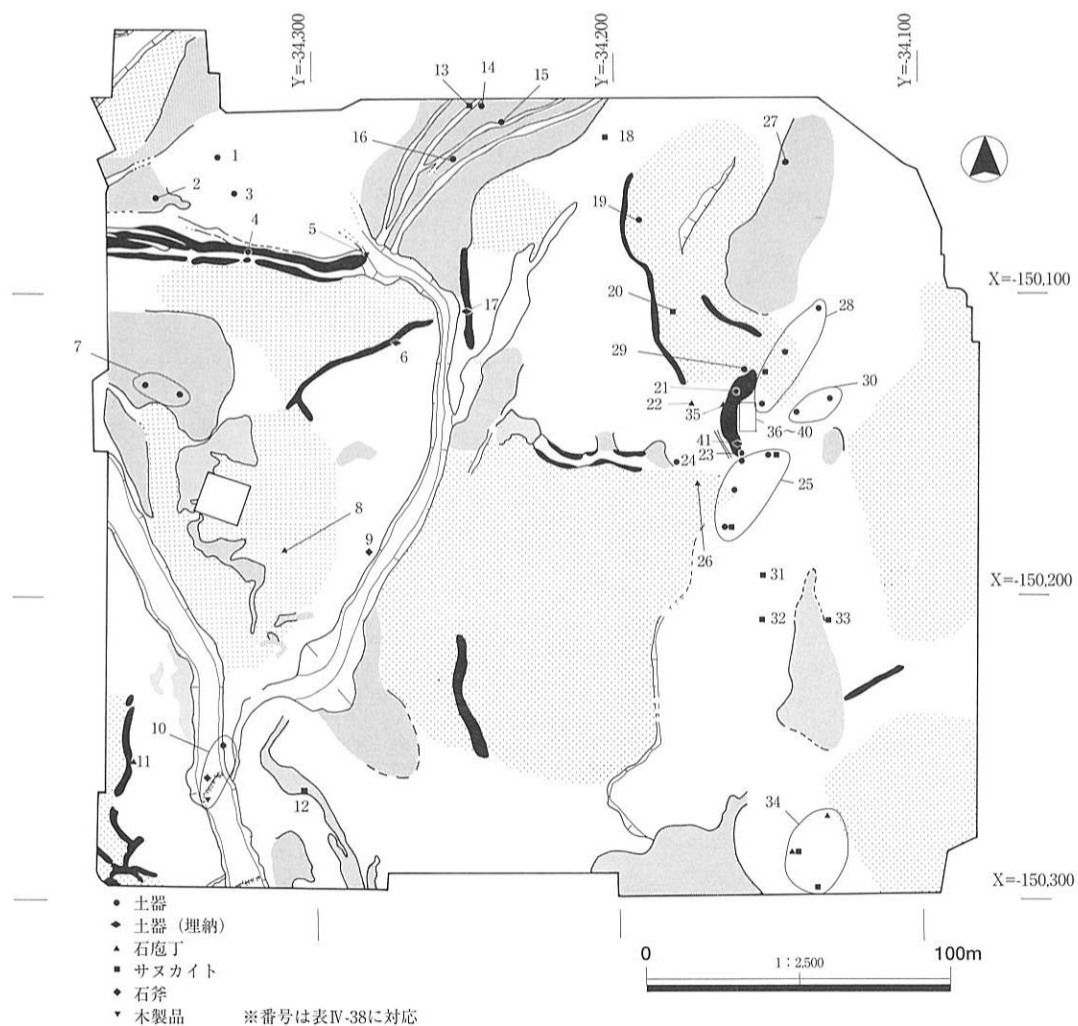
表IV-38 第13a面出土遺物一覧

番号	調査区	層準・遺構名	遺物	出土状況	遺物図番号
1	90-2(H2)		壺底部	第13a面直上	図IV-202:28
2	90-1	第13a層	甕		図IV-202:32
3	90-2(H2)	第13a層	壺		図IV-202:24
4	90-3(A)	水路64脇大畦畔盛土内	壺底部		図IV-199:10
5	90-3(B)	水路63・64・67の分岐地点	木製直柄叉鍬	第13a面直上	図IV-198:8
6	90-3(B)	大畦畔20	壺底部	大畦畔埋納	図IV-199:9
7	90-1	第13a層	壺		図IV-200:2
8	90-1		石庖丁	第13a面直上	図IV-204:54
9	90-1	第12b層最下部	扁平片刃石斧		図IV-200:8
	90-1	流路5	長頸壺・頸部		図IV-199:16
10	90-1	流路5環20	木製小形容器		図IV-199:21
	90-1	流路5	大型蛤刃石斧		図IV-199:20
11	90-1		石庖丁	第13a面直上	図IV-204:53
12	90-1		凸基式石鏃	第13a面直上	図IV-203:45
13	90-2(H3)	水路69	石槍状石器		図IV-198:6
15	90-2(H3)	水路70	壺		図IV-198:7
16	90-2(H3)		壺	第13a面直上	図IV-200:1
17	90-3(B)	大畦畔16	壺	大畦畔埋納	図IV-199:9
18	90-2(H3)	第13a層	石錐		図IV-203:46
19	90-2(H4)	第13a層	壺底部		図IV-202:30
20	90-3(C)	第12b層最下部	剥片		図IV-200:6
	90-3(C)	大畦畔18上	壺	第13a面直上	図IV-199:11
21	90-3(C)	大畦畔18上	壺	第13a面直上	図IV-199:13
22	90-3(C)		石庖丁	第13a面直上	図IV-201:22
23	93-2(B)		鉢か	第13a面直上	図IV-200:4
24	93-2(B)	第13a層	壺		図IV-202:26
	93-2(B)	第13a層	甕		図IV-202:37
	93-2(D)	第13a層	甕		図IV-202:34
	93-2(D)	第13a層	甕(甕)		図IV-202:39
	93-2(D)	第13a層	甕		図IV-202:35
	93-2(D)	第13a層	石錐		図IV-203:47
	93-2(B)	第13a層	甕		図IV-202:36
	93-2(B)	第13a層	甕		図IV-202:33
	93-2(B)	第13a層	壺		図IV-202:25
	93-2(B)	第13a層	凸基式石鏃		図IV-203:43
	93-2(B)	第13a層	剥片		図IV-203:51
26	93-2(D)		石庖丁	第13a面直上	図IV-200:7
27	90-2(H4)		甕	第13a面直上	図IV-200:5
	93-2(A)	第13a層	壺底部		図IV-201:12
	93-2(A)	第13a層	甕		図IV-201:14
28	93-2(A)	第13a層	鉢or甕		図IV-201:20
	90-3(C)		石槍状石器	第13a面直上	図IV-201:21
	90-3(C)	第13a層	甕		図IV-202:38
	93-2(A)	第13a層	甕(甕)		図IV-201:18
	90-3(C)		壺底部	第13a面直上	図IV-201:16
	90-3(C)		朱付簪土器	第13a面直上	図IV-201:19
29	90-3(C)		壺底部	第13a面直上	図IV-201:13
	90-3(C)		甕or甕	第13a面直上	図IV-201:17
	90-3(C)		壺底部	第13a面直上	図IV-201:15
	93-2(A)	第13a層	壺		図IV-201:11
30	93-2(A)	第13a層	壺		図IV-201:10
	93-2(A)	第13a層	壺口縁部		図IV-201:9
31	93-2(C)	第13a層	不定形刃器		図IV-203:49
32	93-2(C)	第13a層	凹基式石鏃		図IV-203:42
33	93-2(C)	第13a層	凹基式石鏃		図IV-203:41
	93-1	第13a層	石庖丁		図IV-204:57
	93-1	第13a層	石槍状石器		図IV-203:48
	93-1	第13a層	剥片		図IV-203:52
	93-1	第13a層	石庖丁		図IV-204:55
35	90-3(C)		石庖丁	第13a面直上	図IV-201:23
	90-3(C)	第13b面土坑15	鉢		図IV-209:2
36	90-3(C)	土坑15	凹基式石鏃	第13b面	図IV-209:3
	90-3(C)	土坑15	石錐	第13b面	図IV-209:4
	90-3(C)	土坑15	甕	第13b面	図IV-209:1
37	90-3(C)	土器埋納遺構86	甕(甕)	第13b面	図IV-209:12
	90-3(C)	土器埋納遺構86	凹基式石鏃	第13b面	図IV-209:13
	90-3(C)	土坑46	甕	第13b面	図IV-209:5
	90-3(C)	土坑46	甕	第13b面	図IV-209:6
38	90-3(C)	土坑46	凹基式石鏃	第13b面	図IV-209:10
	90-3(C)	土坑46	甕	第13b面	図IV-209:7
	90-3(C)	土坑46	甕	第13b面	図IV-209:8
	90-3(C)	土坑46	甕	第13b面	図IV-209:9
	90-3(C)	土坑46	甕	第13b面	図IV-209:11
	90-3(C)	落ち込み3	不定形刃器	第13b面	図IV-209:16
	90-3(C)	落ち込み3	石錐	第13b面	図IV-209:17
	90-3(C)	落ち込み3	剥片	第13b面	図IV-209:21
39	90-3(C)	落ち込み3	石錐	第13b面	図IV-209:17
	90-3(C)	落ち込み3	不定形刃器	第13b面	図IV-209:18
	90-3(C)	落ち込み3	甕	第13b面	図IV-209:14
	90-3(C)	落ち込み3	鉢	第13b面	図IV-209:15
	87-2	落ち込み3	甕	第13b面	—
	90-3(C)	土器群	甕	第13a層下部	図IV-210:23
	90-3(C)	土器群	甕	第13a層下部	図IV-210:24
	90-3(C)	土器群	甕	第13a層下部	図IV-210:27
	90-3(C)	土器群	壺底部	第13a層下部	図IV-210:25
	90-3(C)	土器群	壺底部	第13a層下部	図IV-210:29
	90-3(C)	土器群	壺底部	第13a層下部	図IV-210:28
	90-3(C)	土器群	甕	第13a層下部	図IV-210:26
	90-3(C)	土器群	甕	第13a層下部	図IV-210:22
41	87-3	大畦畔8盛土内	甕	大畦畔埋納	—

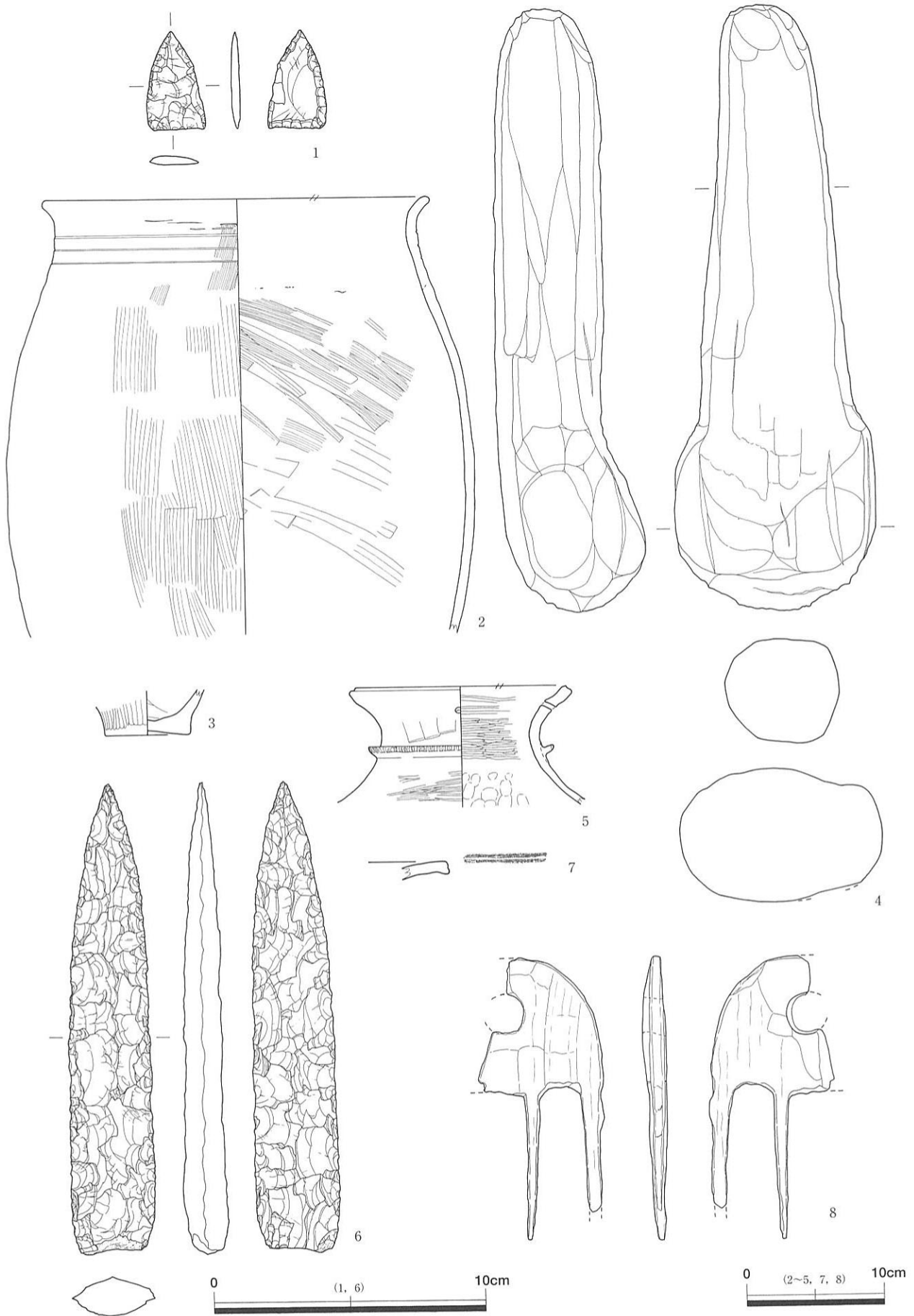
**遺物と出土状況** 第13 a 面に関連する遺物は、①第13 a 面直上から出土したもの、②第13 a 面大畦畔に埋納されたもの、③第13 a 層下部や第13 b 面の遺構から出土したものに分けられる (図IV-198)。遺物の分布をみると、当地区北東部の大畦畔18周辺に集中する傾向が読み取れる。その他、ユニット3に関わる水路や大畦畔、流路5を埋める砂礫中、当地区南東隅の微低地などからも遺物が出土した。

まず、ユニット3に関わる水路・大畦畔等から出土した遺物について見ていくことにする。水路63からは木製杓子未製品 (図IV-198: 4) が出土した。樹種はケヤキで加工痕が残る。水路69からは、弥生土器壺 (図IV-198: 5) と石槍状石器 (6) が出土した。壺は第I-3様式のものである。口縁端部に沈線文1条、頸部に刻目貼付凸帯が1条施され、穿孔は1個残存する。石槍状石器はサヌカイト製で、下端部に自然面が残る。下半部の剥離のタッチが変わっており、柄部をつくり出している<sup>9)</sup>。水路70からは弥生土器壺片 (図IV-198: 7) が出土した。第II-1様式のものである。口縁端部に沈線文1条を施している。水路63・64・67の分岐地点 (5地点) からは、木製直柄又鋏 (図IV-198: 8) が出土した。樹種は不明で加工痕が若干残る。

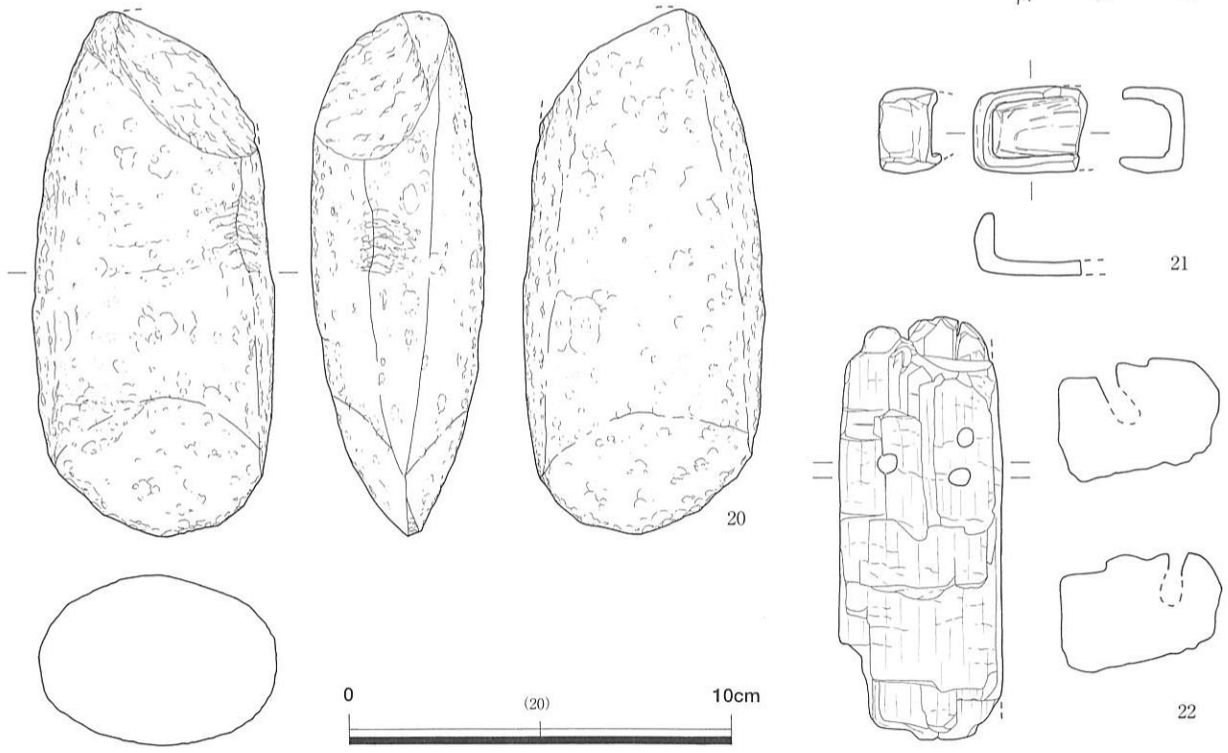
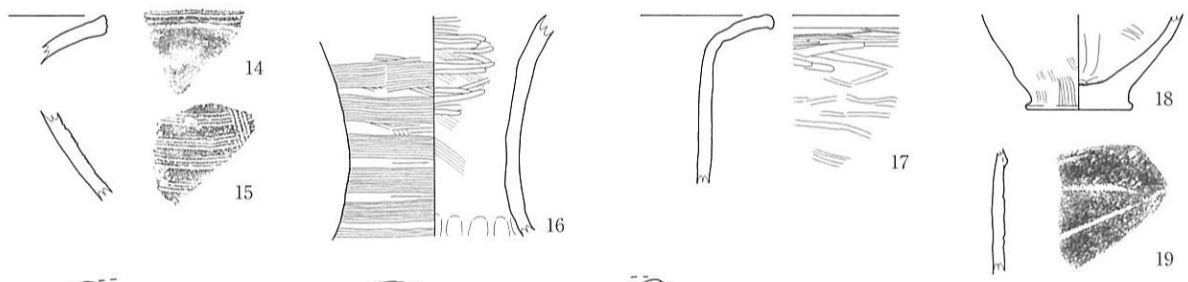
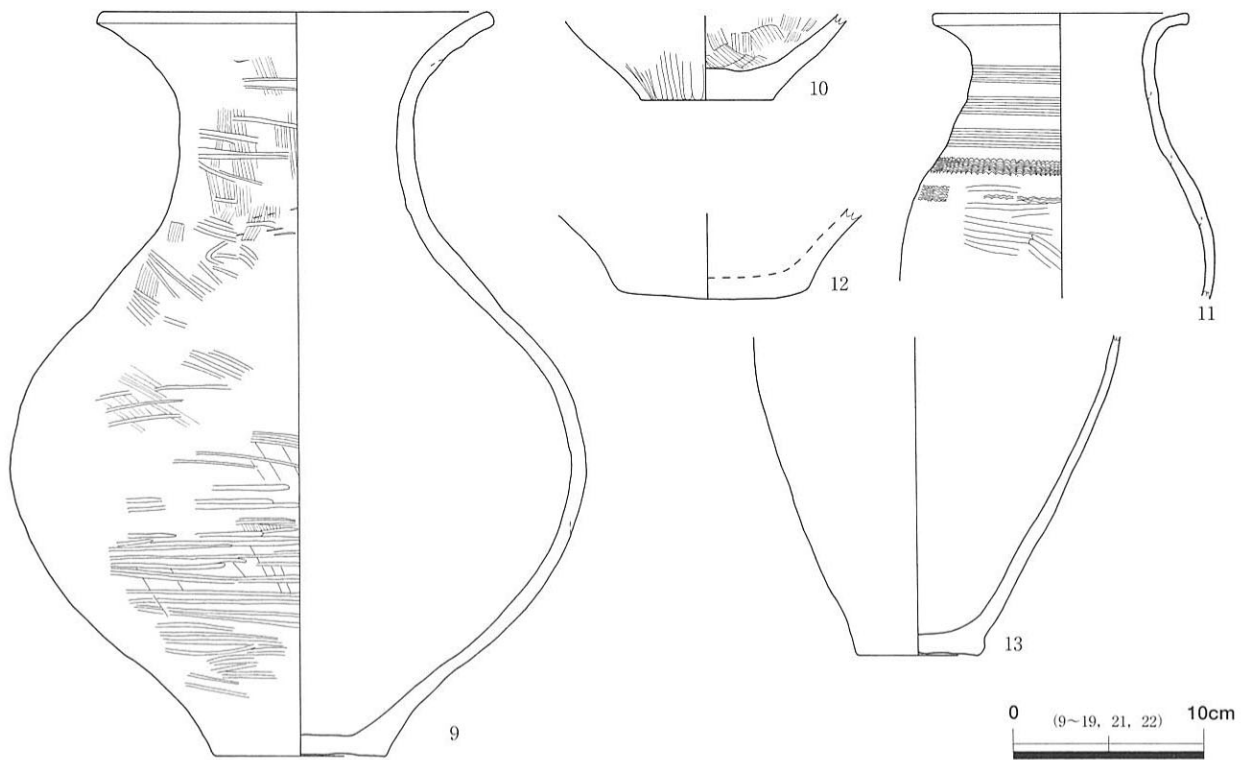
大畦畔16・20 (17・6地点) からは弥生土器壺 (図IV-199: 9) が出土した。大畦畔16では上半部が、大畦畔20では下半部が、それぞれ盛土内に埋納されていた (概要Ⅶ, pp.51-52)。後者については掘削時に誤って大きく破損してしまい、本来どの部分まで存在していたか確認できていない。今回の検討では、両者は同一個体の可能性があるかと判断された。この壺の時期は第II-1様式である。1つの土器を上下



図IV-197 第13 a 面遺物出土状況

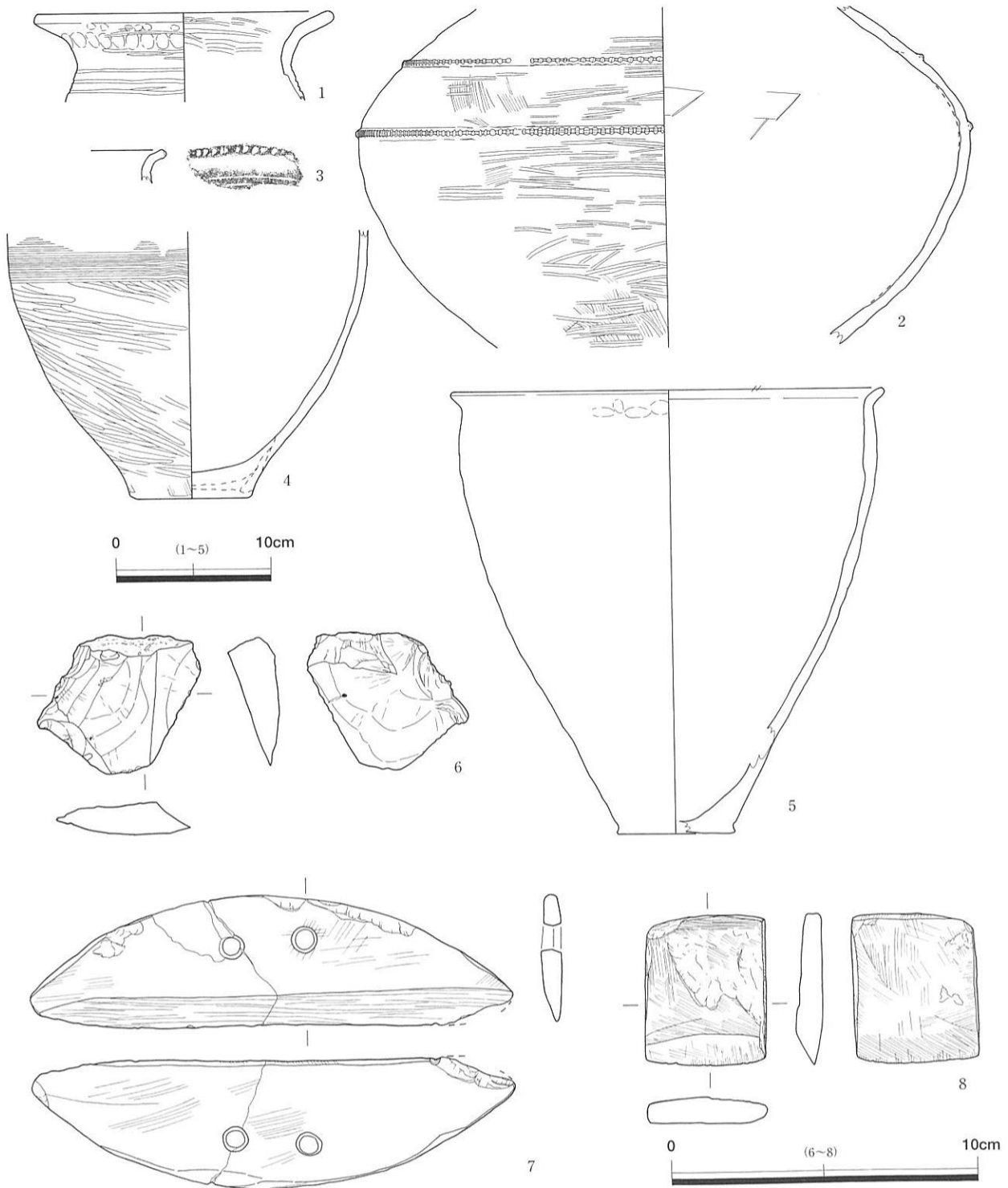


図IV-198 第13 a 面出土遺物① (第12 b 面遺構・第12 b 層含む)



图IV-199 第13 a 面出土遺物②





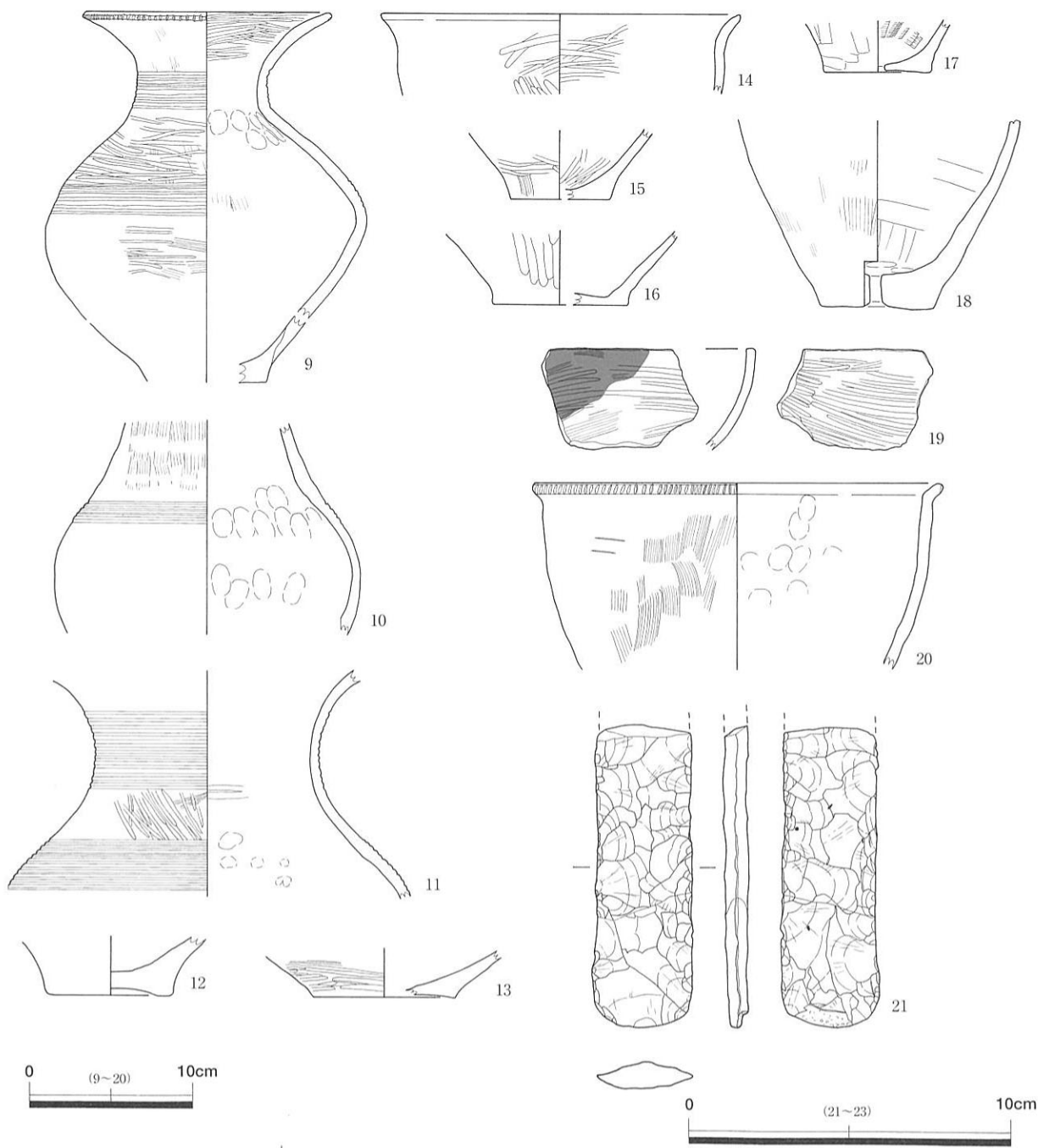
图IV-200 第13a層出土遺物①

图IV-198 1：第12b面溝38，2：第12b層？，3：第13a面溝33，4：第13a面水路63，5·6：第13a面水路69，7：第13a面水路70，

8：第13a面直上水路63·64·67分岐点

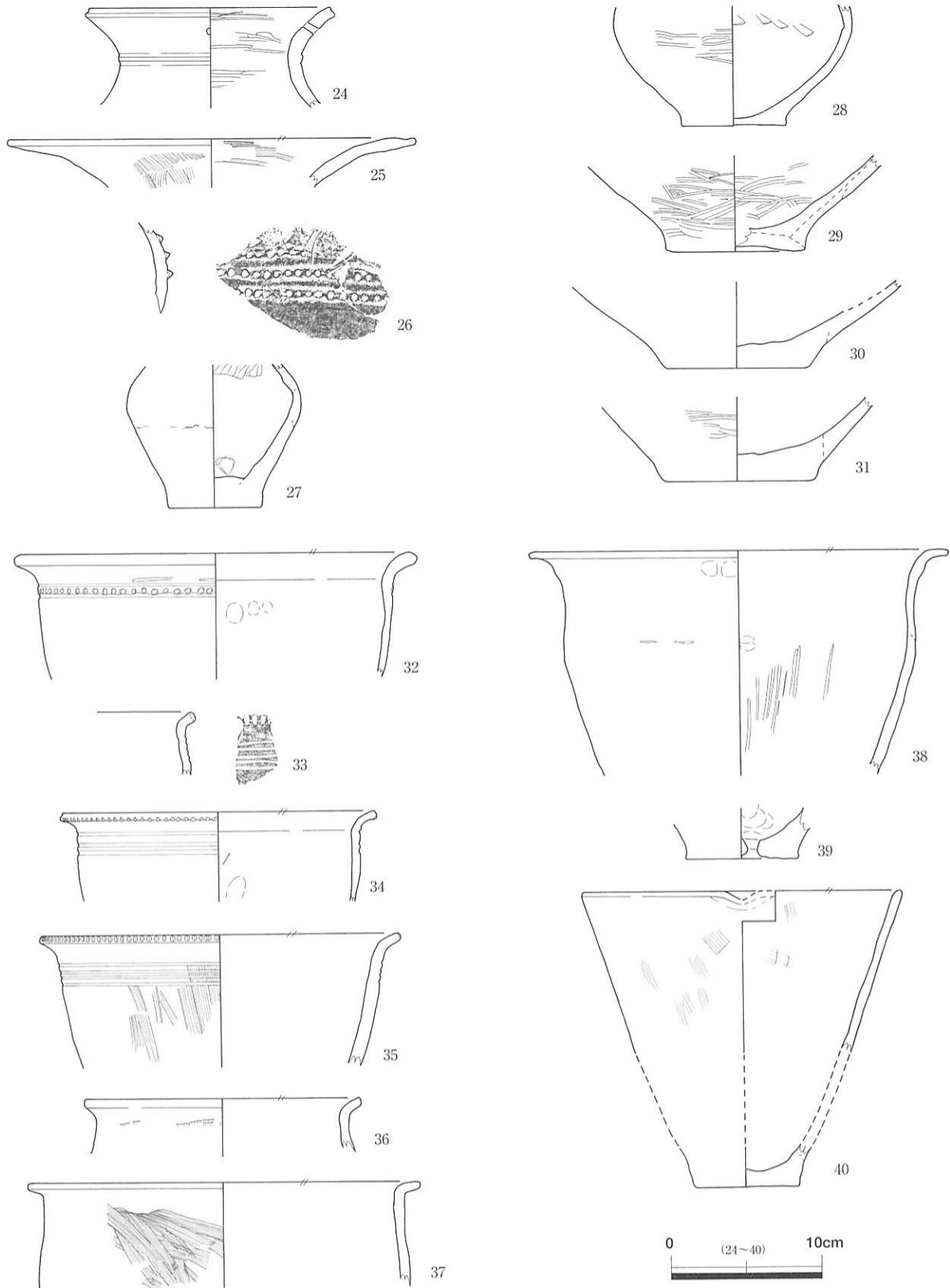
图IV-199 9：大畦畔16·17，10：水路64北側大畦畔盛土中，11~13：第13a面直上大畦畔18附近，14~20：流路5，21：堰20，22：堰21

图IV-200 1~8：第13a面直上

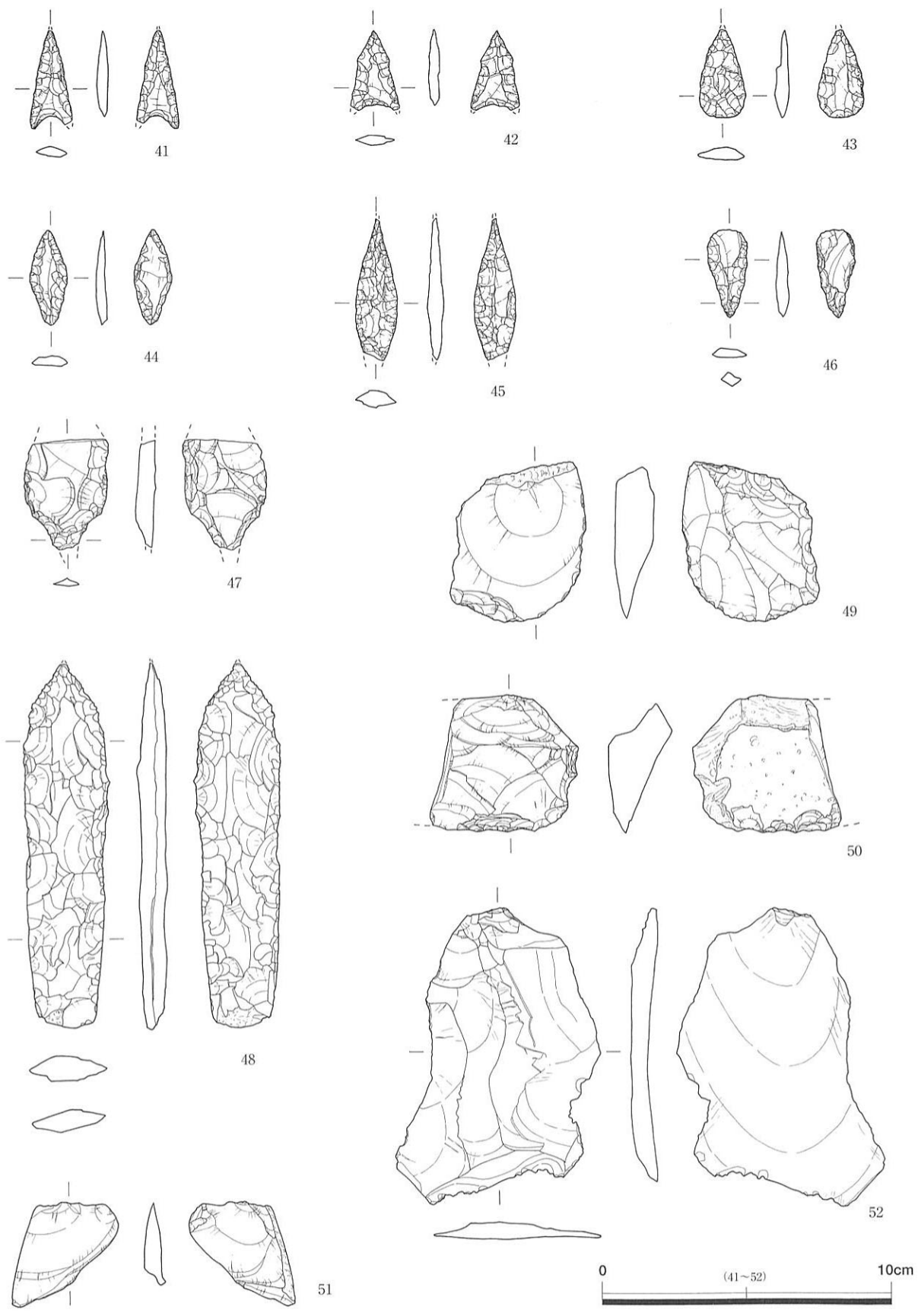


图IV-201 第13a层出土遗物②

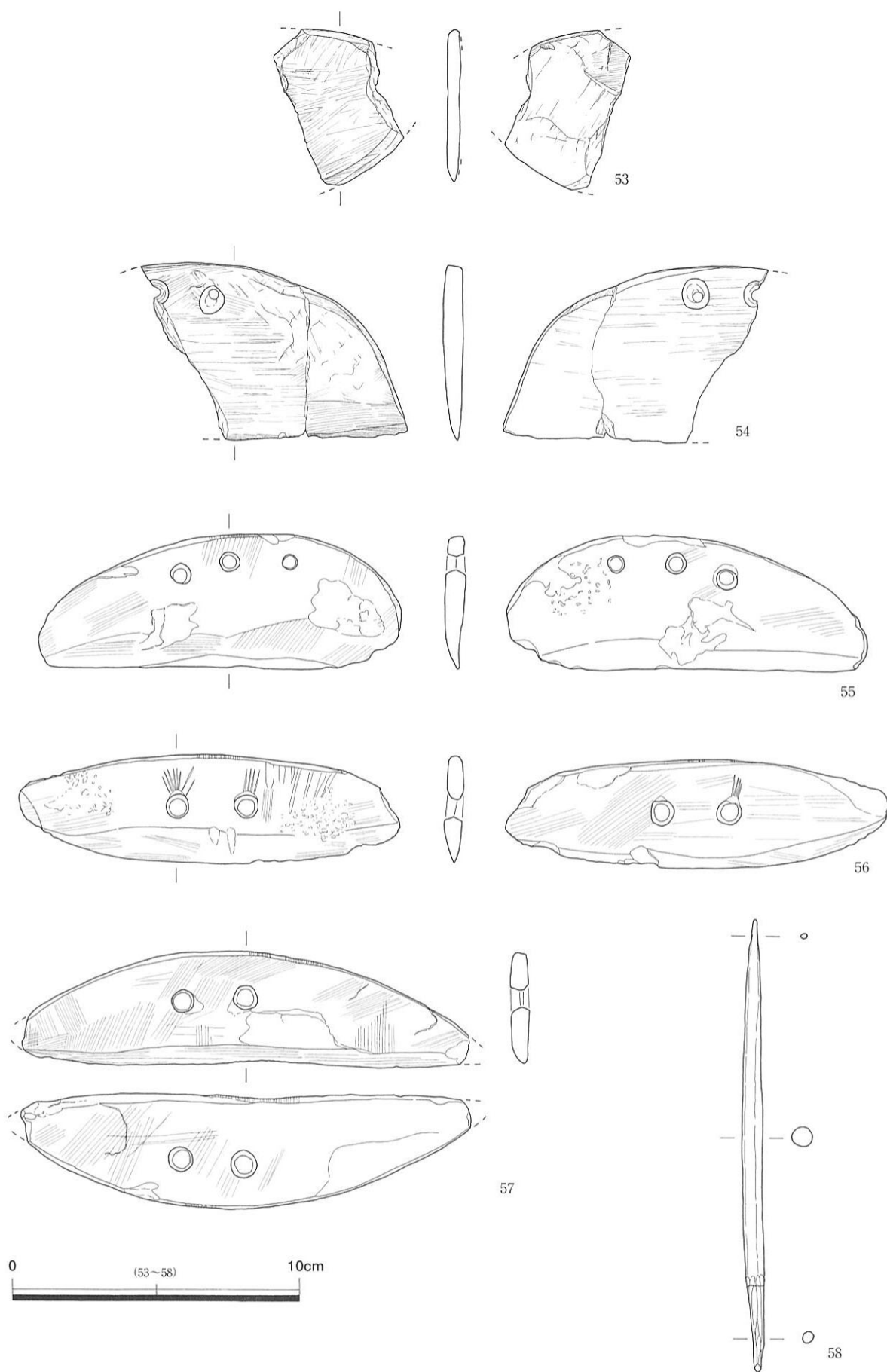
9~23: 微高地遺物群



図IV-202 第13a層出土遺物③



图IV-203 第13a层出土遗物④



图IV-204 第13a層出土遺物⑤

に割って、ユニット3に関連する大畦畔に埋納したとすれば、大畦畔への土器埋納としては珍しい事例といえる。なお、水路64北側大畦畔内から出土したとされるものとして、弥生土器壺底部（図Ⅳ-199:10）がある。第Ⅱ-3～Ⅲ様式のものと思われる。この土器が出土した地点では、第12-1a面大畦畔5の盛土と第13a面大畦畔盛土を区別できず、調査時に混乱が生じてしまった（概要Ⅱ，p.87）。したがって、この資料に関しては出土層準に問題があると思われる。

次に、流路5およびその周辺から出土した遺物を列挙する。流路5からは弥生土器壺（図Ⅳ-199:14～16）・鉢（17）・甕（18）、縄文土器深鉢（19）、太型蛤刃石斧（20）等が出土した。土器はいずれも破片である。弥生土器は第Ⅱ-1～Ⅲ-1様式のものである。（15）の壺破片は直線文（4条）4帯に直交して、直線文（4条）が施されている。甕（18）は外底面をヘラ削りしている。縄文土器は堀之内Ⅱ式である<sup>10</sup>。太型蛤刃石斧は斑糲岩製で風化が著しく、研磨された面がところどころにしか残らない。また、堰20の周辺からは小形の木製容器（図Ⅳ-199:21）が出土した。樹種はヤマゲワである。堰21周辺からは不明木製品（図Ⅳ-199:22）が出土した。樹種はコナラ亜属で、途中まで穿けられた孔が3個存在している。第13b層で出土している不明木製品（例えば図Ⅳ-219:71）と同じようなものと思われる。流路5に合流する溝33からは弥生土器甕底部（図Ⅳ-198:3）が出土した。中期のものである。

流路5から出土した土器のうち、（図Ⅳ-199:15・17）は第Ⅱ-3様式の可能性があるもの、（18）は第Ⅲ-1様式かと思われるものである。前述のように、流路5は第13a面より上層で最終的に埋没することが判明しており、これらの遺物はその最終段階のものである可能性がある。

次に、遺物が集中して出土した大畦畔18のうち、第13a面直上から出土した遺物を見ていくことにする。まず大畦畔18の直上からは、弥生土器壺（図Ⅳ-199:11・12）・甕（13）が出土した。第Ⅱ様式のものと思われる。壺（11）・（12）は折り重なって出土したもので、概要XⅠでは同一個体とされていたが、胎土も違うので別個体とした。（11）は、頸部～体部にかけて直線文（6条）3帯、波状文（6条）2帯が施されている。

大畦畔18の北側には局所的な凹地があったが、その周辺（29地点）の第13a面直上からは、弥生土器壺（図Ⅳ-201:9～13）・甕（14～16）・甕（甑）（17・18）・鉢ないし甕（20）・朱付着土器（19）、石槍状石器（21）、石庖丁（22・23）等が出土した。弥生土器は第Ⅰ-3～Ⅲ様式ぐらいのものである。壺（9）は端部に刻目、頸部と体部に沈線文（7、6条）を施している。（11）は頸部と体部に沈線文（12、11条）を施している。（13）は外底面にもヘラミガキを施している。朱付着土器（19）は概要XⅠ（p.66, 68）で検討されたもので、内面に付着した朱は実体顕微鏡観察によって判定された。石槍状石器はサヌカイト製で、下半側面をすり落として研磨を施している。石庖丁（22）はデイサイト質凝灰岩製である。杏仁形を呈し、紐孔には紐ずれの痕跡がある。（23）は流紋岩製で、杏仁形？である。これらの遺物の評価にあたっては、大畦畔18北側の凹地の成因と埋没過程をふまえる必要があり、後に検討することにした。

なお、府教委87-3調査区では、大畦畔18（41地点）盛土内から弥生土器甕が出土した（府発Ⅳ，p.126）。出土状況からみて、破碎して大畦畔盛土内に埋め込まれた可能性が高い。遺物実測図は掲載されていないが、付近から検出された土器埋納遺構86と同様な甕と思われる。

その他の地点の第13a面直上からは、弥生土器壺（図Ⅳ-200:1・2）・甕（3・5）・鉢？（4）、サヌカイト剥片（6）、石庖丁（7）、扁平片刃石斧（8）等が出土した。弥生土器は第Ⅰ-3～Ⅱ様式ぐらいのものである。壺体部（2）には刻目貼付凸帯2条が施されている。石庖丁は緑色片岩製の直線刃半月形で、片刃である。扁平片刃石斧は蛇紋岩製で、磨きの届かない凹みもあるが、基端部にも研磨



が施されている。

次に、大畦畔18付近以外の第13a層から出土した遺物を列挙する（図IV-202：24～204：58）。

出土したのは、弥生土器壺（24～31）・甕（32～38）・甕（甑）（39）・鉢（40）、石製品（41～57）、木製ヤス（58）等である。

弥生土器は第I-2～Ⅲ様式のものである。このうち、第Ⅲ様式と思われる壺（28）は図IV-197：1地点の第13a面直上から出土したが、この地点では第12-1a層と第13a層が接しており、第12-1a層に含まれていた可能性も否定できない。壺（24）は、端部に沈線文1条、頸部に削出凸帯1条が施されている。（26）には刻目貼付凸帯3条を施している。（29）には外底部にヘラミガキが施されている。甕（32）は、頸部に沈線文2条を施し、間を刺突文で飾る。（39）は焼成後に両側から穿孔している。片口の鉢（40）は、上下が接合しないので器高は不確かである。

石製品は凹基式石鏃（41・42）、凸基式石鏃（43～45）、石錐（46・47）、石槍状石器（48）、不定形刃器（49・50）、サヌカイト剥片（51・52）、石庖丁（53～57）である。石庖丁以外はサヌカイト製である。石槍状石器（48）は、先端部を両面調整で鋸歯状に作り出し、全体の2/5近くの基部は側縁をすり落として研磨している。石庖丁は、（53）がシルト岩製で、他は緑色片岩製である。（53）は外湾刃半月形、（56）は杏仁形と思われるが、他は直線刃半月形である。（55）・（56）・（57）の背部には刃潰し痕が残る。

木製ヤスは、樹種がイヌガヤである。茎部を作り出している。

**第13a面～第12-1a面の層序と遺物・遺構** 第13a面に関連して出土したとされる遺物には、第Ⅱ様式末～第Ⅲ様式初め頃と考えられるものが若干含まれている。また、第12-1a面の記述で評価を保留しておいた水路61は、第13a面埋没後の遺構であることは確実であるが、第12-1a面段階では機能していなかったと思われる。これらのデータは、当地区と池島I期地区との層序対比で明らかになった第12-2a層の存在とも関わって、弥生時代における土地利用変遷を明らかにする上で重要な意味を持つと考えられる。ここでは、流路5・堰21・水路61の関係、大畦畔18北側の凹地周辺の層序と遺物の関係について整理したい。

流路5は第13a層埋没後も残存し、最終的に放棄流路となって埋没した。規模が縮小した段階の流路5は第12b面で確認されるが、平面調査はなされていない。一方、水路61は第12b層の砂を切り込んでいる。図IV-205は図IV-224：⑨の東側にあたる断面図であり、この部分の第12b層は流路5の下半を埋める砂礫層に連続するものである。また、水路61は砂で埋没しているが、この砂の供給源についてはこれまで全く検討されてこなかった。この砂は、第12-1a面流路4から供給されたと推測した砂（図IV-224：⑨）よりも下位の地層であり、その供給源は流路5（規模を縮小した段階）であったと考えられる。この水路は調査区南端で流路5に接近するが、その部分の流路内からは堰21が検出されている。

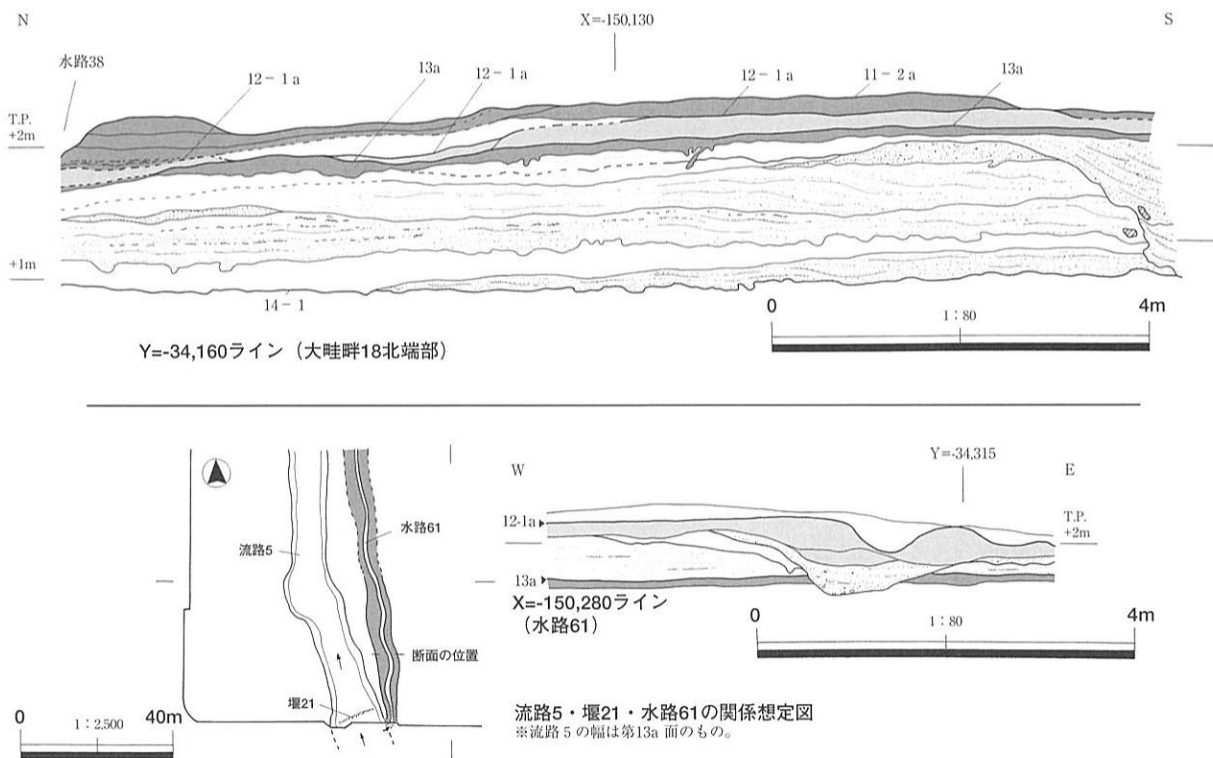
堰21は第13a面に帰属するとされていたが、これは流路5が第13a面埋没と同時に埋まったという想定を前提にしている。前述したように、この前提は誤りである。また、この堰の埋没状況（図版34-5）をみると、堰の直下には下流側に傾く斜交層理が認められる砂礫層が確認され、堰を覆う堆積物は灰色細砂～シルトの葉層を挟在し、植物遺体を含む砂礫層であるようである。このうち、後者については図IV-224：⑨における規模の縮小した段階の堆積物（図版35-2）に類似する。このことは、堰21が流路5の規模縮小後に設置された可能性を示している。そして、調査区外に水路61の取水口が存在し、そこから砂が流入したと推定すれば、ここで指摘した状況をうまく説明することができる。このように、規模縮小段階の流路5を利用して水田が営まれた時期があった可能性は高いが、その耕作面は第12b層よ

りも上位であり、その作土は第12-1 a層と一体化していると思われる。ただし、流路5はすぐに放棄流路となって埋没したため、水田が営まれたのは短期間であったと考えられる。

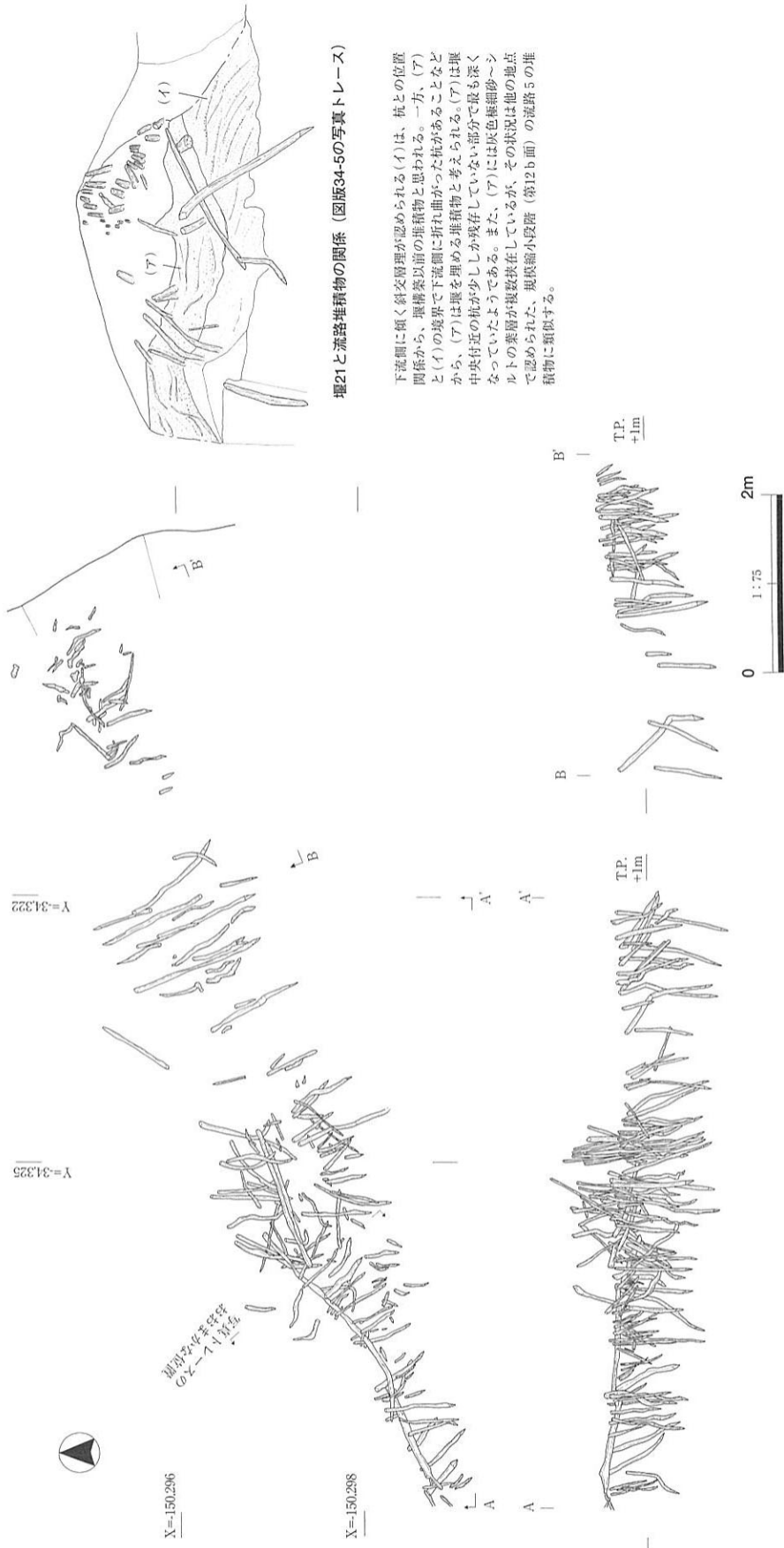
次に、大畦畔18北端部について検討したい。断面図(図IV-205)で示したように、この部分は第13 b層中の流路13の流路堆積物や流路脇に堆積した砂礫によって微高地となり、北側に向かって下がる地形が形成された。大畦畔はこの微高地を利用し、その上に盛土を施すなどの加工をおこなって造成されたものである。図には示していないが、この流路は蛇行して、このラインの北側でも再び確認される。大畦畔18北側の凹地は流路13の堆積物によって高くなった場所に挟まれた部分であり、その東側は第13 b層中流路11の堆積物が形成した微高地によって画されている。この凹地における第13 a層は、第12-1 a層によって直接覆われていた。遺物は、この凹地内とその南側の微高地斜面の第13 a面直上精査時に出土したが、第12 a層関連の最古の遺物の可能性も否定できない。第12 b層の泥層の堆積期間や堆積過程については不明な点が多いものの、遺物の時期が流路5の最新遺物の時期と近接することからみて、それらが廃棄された時点では第13 a面の水田は既に埋没して新たな堆積環境へ移行しつつあった可能性がある。なお、図IV-201:19の朱付着土器も、この段階に遺棄された可能性が考えられる。

**第13 b面** 第13 a層を除去して検出した面である。この面では、第13 a層の継続期間中に掘削されたと考えられる遺構が検出された。

第13 b面で遺構が集中して検出されたのは図IV-192にI・IIとして示した範囲である。まず、I地点はブロックFの縁辺にあたり、落ち込みが多数検出されている。この中で注目されるのは、落ち込み2である(図IV-208)。これは第13 a面で確認したとされ、その面と第13 b面の2回にわけて掘削された(概要X VI, pp.78-80)。形状としては「二段掘り」をなすとされているが、いくつか問題があるので、写真を用いて再検討した(図版34-7・8)。まず検出時に上面に認められたレンズ形のくぼみは農耕具痕



図IV-205 第13 a面～第12 b面の層序と遺構・遺物の関係



堀21と流路堆積物の関係 (図版34-5の写真トレース)

下流側に傾く斜交層理が認められる(イ)は、杭との位置関係から、腰構築以前の堆積物と思われる。一方、(ア)と(イ)の境界で下流側に折れ曲がった杭があることなどから、(ア)は腰を埋める堆積物と考えられる。(ア)は腰になっていたようである。また、(ア)には灰色極細砂〜シルトの層が複数存在しているが、その状況は他の地点で認められた、規模縮小段階(第12b面)の流路5の堆積物に類似する。

図IV-206 堀21平面・立面図

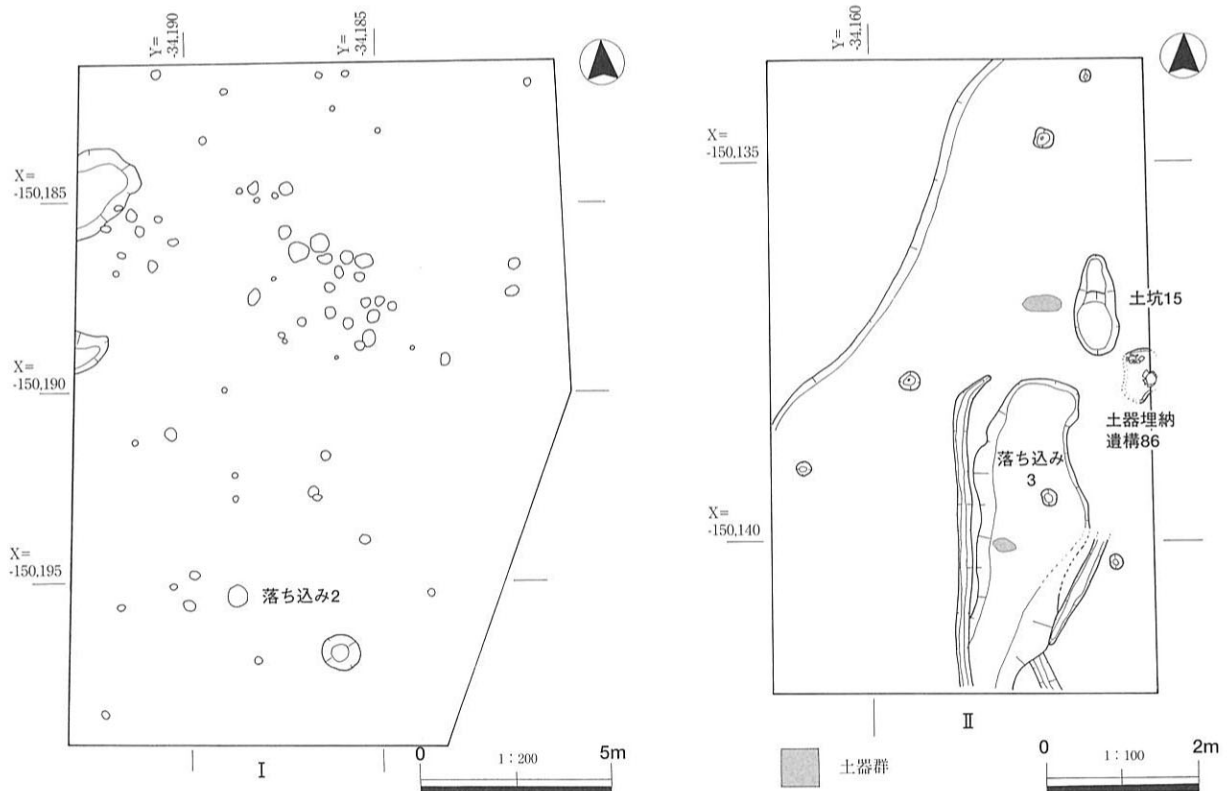
表Ⅳ-39 第13b面遺構名称

遺構番号	概要における遺構番号
落ち込み2	93-2 ビット276・304
落ち込み3	90-3(C) 落ち込み1
土器埋納遺構86	90-3(C) 土坑3
土坑15	90-3(C) 土坑1
土坑46	90-3(C) 土坑2

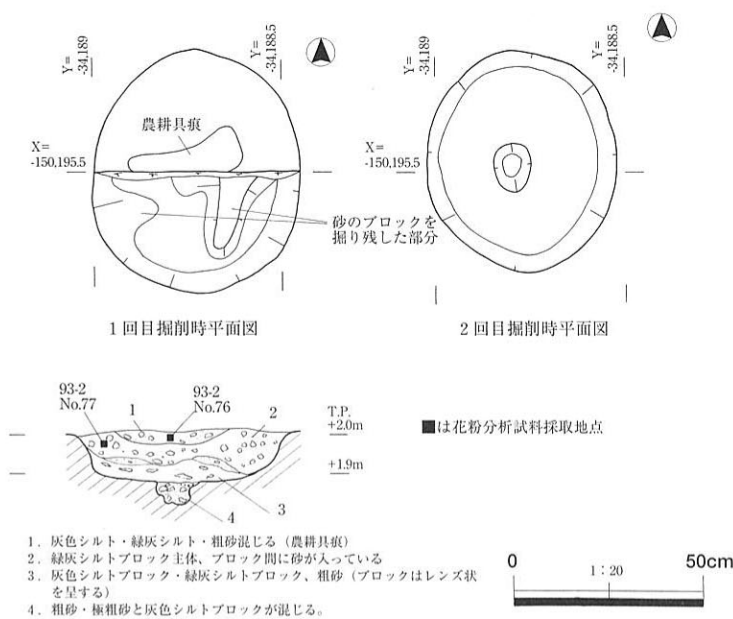
であると思われ、その中には第13a層が落ち込んでいる。したがって、この遺構は第13a層の上面ではなく、下面に近い部分で認識されたといえる。第1回目の掘削時の下場は凹凸が激しいが、埋土に含まれていたブロックのうち、第13b層起源のものを掘り残した結果と考えられる。また、2回目に掘削された部分にもブロックが多く含まれていたが、それらを断面でみるとレンズ状を呈するものが多かった。なお、2回目掘削部分の中央付近では、第13a層が落ち込んだ部分も確認された。注目されるのは、図の2層を中心にして、ヒョウタン仲間の種子494点が出土し、花粉分析をおこなった結果ユウガオ属の花粉が検出されたことである(第V章2-1)。落ち込みの成因については不明とせざるを得ないが、この種子・花粉のあり方からみて、少なくともこの地点付近でヒョウタンが何らかの形で利用されていたと考えられる。周辺ではブロックFの水田畦畔が検出されているが、この遺構は微高地の縁辺に立地しており、水田化される前の微高地の利用方法を示す可能性もある。ただし、果皮が未検出で、種子の数も1個体分より多いことや遺構の状況からみて、この遺構は植栽痕や埋納土坑ではなく、人為的な攪乱に伴って土壌中に含まれていた花粉・種子が落ち込んだ可能性が高いように思われる。

また、II地点は大畦畔18東側の微高地にあたる。ここからは、土器埋納遺構86、土坑15、落ち込み3などが検出され、土器・石器も多く出土した(概要XI, pp.61-68)。

土器埋納遺構86は、土坑の中に甕が1個体分埋納されたものである(図版33-6)。土坑の埋め戻しには2つの段階がある。まず、泥で土坑の下半を埋めながら、分割した甕の上半部を正置し、さらに泥層の上面に甕の下半部を破碎して置いた。その後、土坑は砂で埋め戻された(概要XI, p.64)。なお、正



図Ⅳ-207 第13b面平面図



図IV-208 第13b面落ち込み2平面・断面図

土坑15は青灰色シルトを挟んで埋土が2つにわけられた(概要X I, p.64)。その下層には植物遺体がきわめて多く含まれており、その中には茎の形状をとどめたものも多かった(図版33-8)。そして、上層、下層ともに多くの炭化米が含まれていた。水洗選別によって検出した炭化米は、完形が527個、破片が322個であった。それらは表面に気泡が認められるものが多く、火を受けて炭化した可能性が高い。青灰色シルトは土坑内が冠水して堆積したと思われる、土坑はある程度の期間開いた状態にあったと考えられる。また、出土した植物遺体の多くが稲に関わるもので、火を受けている可能性が高いことからみて、稲の収穫作業に関連した遺構であったと推定される。

土坑15から出土した遺物は、弥生土器甕破片(図IV-209:1)・鉢(2)、凹基式石鏃(3)、石錐(4)である。弥生土器は第I-4~II様式にかけてのものである。石鏃、石錐ともサヌカイト製で、石鏃はb面に大剥離面が残る。

落ち込み3(図版33-7)の埋土にも植物遺体や炭化物が多く含まれ、完形490個、破片367個の炭化米が出土した。これらも表面に気泡が認められるものが多く、火を受けて炭化した可能性が高い。これは隣接する土坑15と関連した遺構と考えられる。

落ち込み3から出土した遺物は、弥生土器甕破片(図IV-209:14)・鉢?(15)、石製品(16~21)等である。弥生土器は第I-3~4様式~第II様式くらいのものである。石製品は、石錐(16・17)、不定形刃器?(18~20)、剥片(21)である。いずれもサヌカイト製で、石錐(16)の先端は摩滅している。

土坑15の西側には、土器がまとまって出土した部分がある(土器群)。土器は第13b面精査時に検出され、第13a層最下部に含まれていたものであるが、掘り込みは確認できなかった。ここから出土したのは、すべて甕(図IV-210:22~29)である。第II-1様式のものである。(27)・(28)は同一個体かと思われるものである。(28)は外底面をヘラ削りしている。

なお、これらの遺構・遺物群とはやや離れるが、ブロックEの南側にあたる部分から土坑46が検出された(概要X I, p.68)。ここからは、弥生土器甕(図IV-209:5~9)、凹基式石鏃(10)が出土した。弥生土器は小片のものが多く、第I-3~4様式~第II様式と思われるものである。凹基式石鏃はサヌカイト製で、b面に大剥離面が残る。

置された甕上半部付近とその内部からは、石鏃とチャートの中礫が1つずつ出土した。また、下半部の破片の出土面からは、別個体の甕の口縁部破片も出土した。

土器埋納遺構86から出土した遺物は、弥生土器甕(図IV-209:11)・甕(甑)(12)、凹基式石鏃(13)である。弥生土器は(11)が第I-2様式、(12)が第I-4~II様式のものである。(12)は端部に刻目、肩部に沈線文を7条施し、底部には焼成後に表から穿孔している。凹基式石鏃はサヌカイト製で、a・b面に主要・大剥離面が残る。

大畦畔18東側の微高地上から検出された遺構・遺物には、祭祀に関わると考えられるもの（土器埋納遺構86）や、農作業に関わると考えられるもの（土坑15・落ち込み3）などがある。この地点は、農作業をはじめとする作業空間として利用されていた可能性が考えられる。

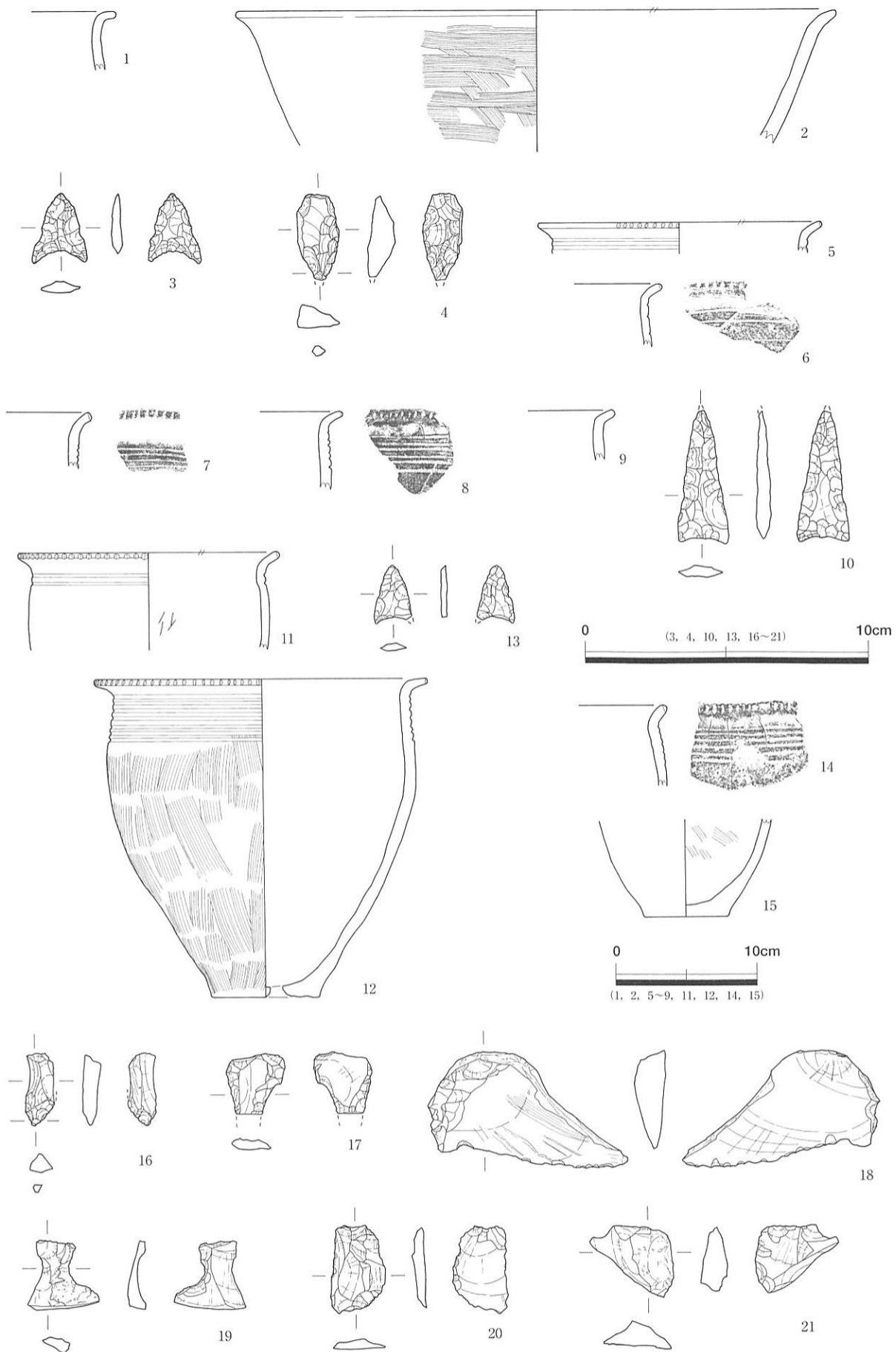
**第13 a 面の継続期間と埋没過程** 以上、第13 a 層に関連するとされてきた遺構・遺物について説明した。それらには、第12 b 面（第12-2 a 面に対応？）に関連すると考えられるものと、第13 a 面の耕作に関連するものの2つに分けることができる。これまで両者の関係が認識されてこなかったのは、第13 a 面の埋没過程が十分に理解されていなかったためである。ここでは最後に、第13 a 面の水田の耕作時期とその埋没過程をまとめておきたい。

大畦畔や土坑に埋納された土器や微高地上からまとめて出土した土器、さらには後述する第13 b 層出土土器の時期からみて、第13 a 面の水田は弥生時代前期末～中期初頭に開田されたと考えられる。その埋没時期には不確定要素もあるが、流路5の最新遺物などからみて、第Ⅱ様式末頃までには第12 b 層の堆積によって埋没したと推定される。しかし、流路5から溢れた砂は流路周辺にしか堆積しておらず、それ以外の部分の第12 b 層はシルトであった。第12 b 層のシルトを対象にした珪藻分析結果（第Ⅴ章2-1）によれば、化石の保存状況が悪く、陸生珪藻が約60%含まれる試料も認められた。このことから、第12 b 層は後背湿地の環境で堆積したが、しばしば干上がる状況にあったと推定されている。第12 b 層堆積後、それを母材として土壌が形成されたが、その段階にも流路5から取水して水田が営まれた可能性が高い。流路5の最新遺物から、その時期は第Ⅱ様式末～第Ⅲ様式初め頃と推定される。水路61の向きからみて、この段階の水田域は当地区西端から西側の調査区外にあったと考えられる。また、大畦畔18の北側から出土した土器にも同時期のものが含まれており、その周囲でも何らかの人間活動がおこなわれた可能性がある。しかしながら、流路5はその後、比較的早く埋没した可能性が高く、この段階の水田は短期間で放棄されたと思われる。この推定は、当地区における第11-2 a 層～第13 a 層の出土土器の中に、第Ⅲ様式のもの少ないこととも整合する。

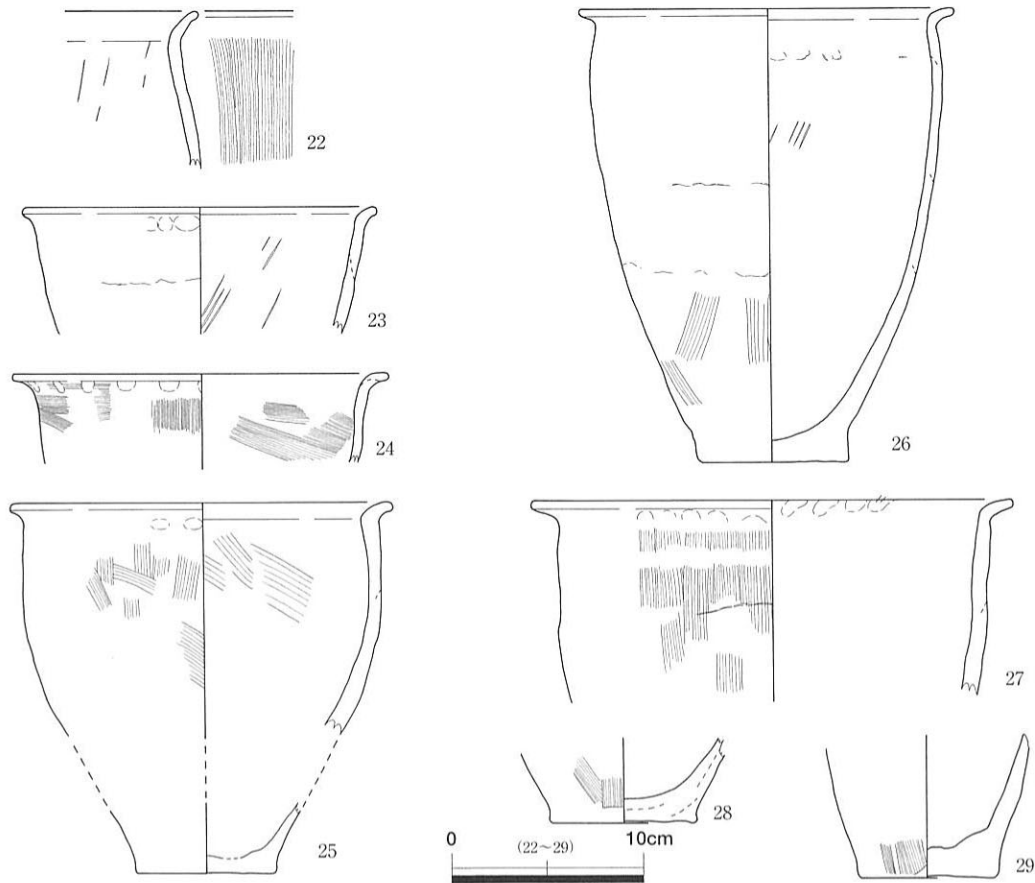
**第13 b 層** この層は従来、「弥生時代前期洪水砂層」と呼称されてきた。しかし、この層の途中から打設された杭列や、第13 b 層と一括された中に確認できる層理面から正置された状態で出土した大形の壺（図Ⅳ-212：3、図版36-2）からみて、一気に堆積した地層ではないことは早くから認識されていた。そこで今回、断面を再検討したところ、この層が流路堆積物と氾濫・破堤堆積物からなることが明らかになり、流路の移動や氾濫・破堤によって堆積が進行したと推定できた。この層の途中から打設された杭列は、従来第14-2 a 層（第4 黒色泥層）との関連で取り上げられることもあったが、これは第13 b 層の評価が十分になされなかったため、取り扱いに苦慮したという側面もある。また、この層の堆積によって第13 a 面・第12-1 a 面の微地形が形成されたが、その一部は第10 b 面にまで影響を及ぼしており、その後の微地形変遷を理解する上で重要な意味を持つ点も明らかになった。

図Ⅳ-211には、第14-1 面の遺構として認識されたものを示した。この中の流路6・8・9は、断面の検討によって第13 b 層下部段階の流路であり、最も深い部分が第14-1 層の上面を侵食していたため、第14-1 面精査時に確認されたことが判明した。また、杭列17～20周辺の流路は府教委調査区で検出されたものであるが、杭列は第13 b 層中から打設されたことが明らかになっているため、これらの流路も第13 b 層下部段階のものである可能性が高い。なお、流路10は92-7調査区の断面で確認されたものであるが、掘削深度の都合で平面の調査はおこなわれなかったため、十分な評価がなされていなかった。断面写真を検討すると（図版35-7）、第14-2 a 面段階に既に存在したことが明らかであり、第14-1 層





図IV-209 第13b面遺構出土遺物①



図IV-210 第13b面遺構出土遺物②

図IV-209 1~4:土坑15, 5~10:土坑46, 11~13:土器埋納遺構86, 14~21:落ち込み3  
 図IV-210 22~29:土器群

も流路に向かって下がっていくことから、第14-1面段階にも存在していたことがわかる。さらに、この流路を埋める砂層は流路外側の第13b層に連続していた。ただし、流路10を埋める堆積物の上には、別の流路から供給されたと考えられる氾濫堆積物が堆積しており、この流路は第13b層の最終段階には既に埋没していたと思われる。流路10の平面形態に関しては不明であるが、90-1調査区の断面では確認できないため、流路の向きを図IV-211のように復原した。なお、図IV-211の中央部に濃いアミで表したものは、南西-北東方向に分布する破堤堆積物で、93-2調査区ではその末端部の平面形が確認された(図版35-4)。その供給源は流路10の可能性もある。また、90-1調査区A地区の断面でも、破堤堆積物と考えられる砂の堆積が確認されており、推定される分布を図に示した。

また、第13a面の微高地を形成した堆積物を断面で確認した結果、これらとは異なった流路の存在が明らかになった。すなわち、93-1・93-2・90-2調査区を貫くもの(流路11, 図IV-223:④)、89-3調査区のX=-150,280ライン断面で確認でき、おそらく90-3調査区BトレンチのX=-150,080ライン断面で確認できたものにつながると考えられるもの(流路12, 図IV-223:⑥)、90-2(H4)調査区・90-3調査区Cトレンチで確認され、93-2調査区西端でも一部が確認されたもの(流路13, 図IV-205:上・図IV-223:⑤)の3つである。流路11と流路13の関係については、前者が埋没した後に後者が掘り込まれたことを、90-2・93-2調査区の断面で確認している。また、流路11から供給された氾濫堆積物は、流路10から供給された可能性のある破堤堆積物を覆っていた(図版35-3)。流路12についても、89-3調査区の断面写真の検討によって破堤堆積物を切り込んで形成されたと判断された。このことから、破堤堆積物→

表IV-40 第13b層中遺構名称

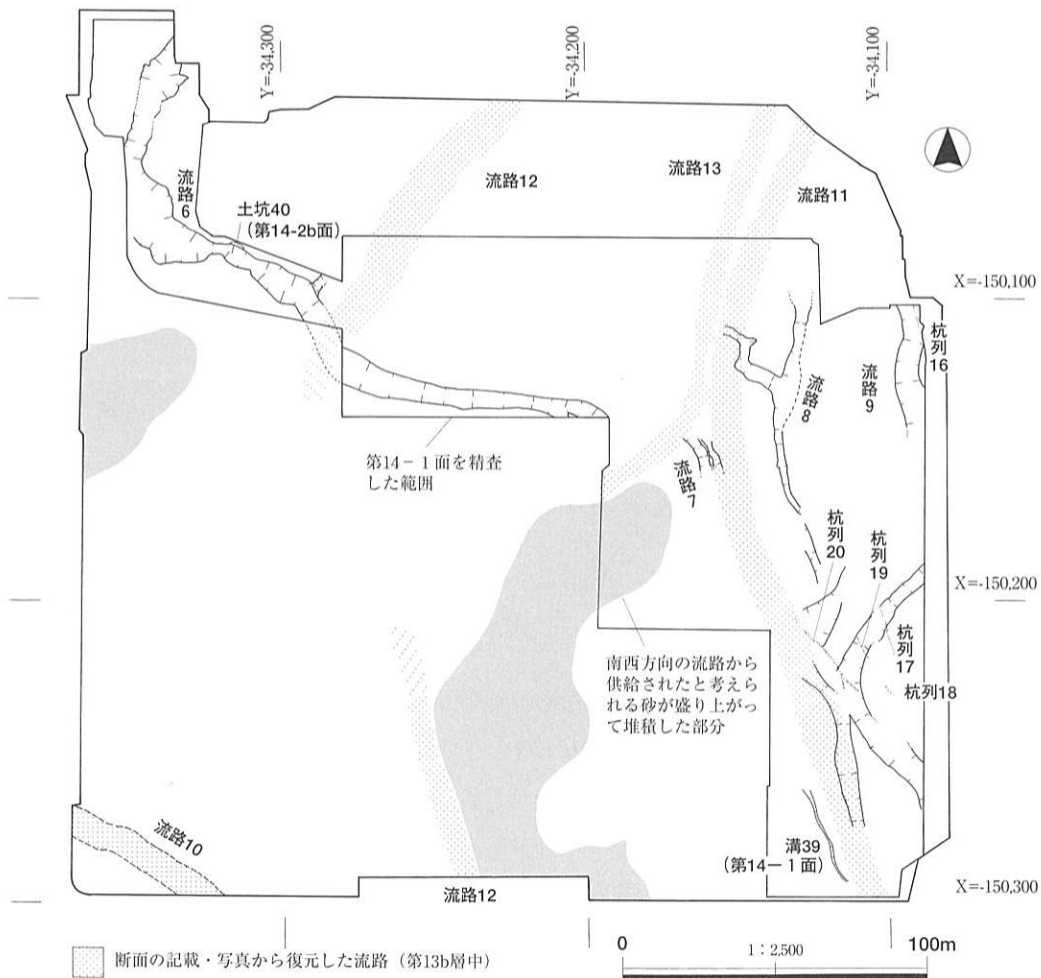
遺構番号	概要における遺構番号
杭列16	90-5 しがらみ1
杭列17	86-3 しがらみ701
杭列18	86-3 しがらみ702
杭列19	88-2 しがらみ1
杭列20	Dトレンチ しがらみ
	88-2 しがらみ2-2
流路6	90-2 流路2
	90-3(A) 流路
	90-3(B) 流路
	86-1 自然流路
流路7	93-2(B) 流路
流路8	93-2(A) 流路
	93-2(B) 流路
	93-2(C) 流路
流路9	90-5 溝78
流路10	92-7 流路
流路11	—
流路12	—
流路13	—

流路11→流路12という関係が想定できる。流路13と流路12の関係は断面の記載が不十分であり、不明とせざるを得ないが、後者から前者が分岐していた可能性もある。ここでは、これらの流路を第13b層上部の流路と呼んでおきたい。

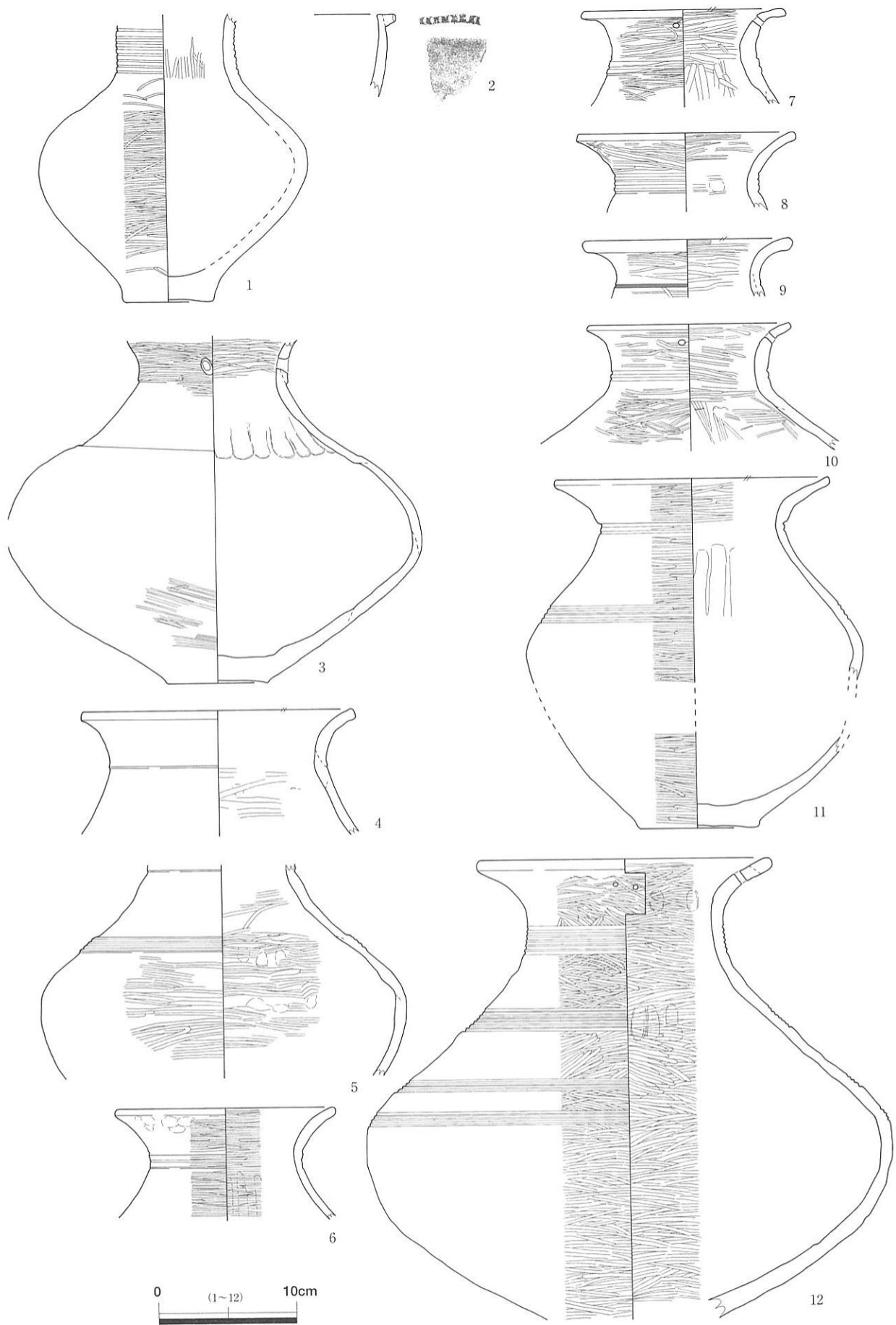
この層の途中から打設された杭列は、当地区東部で検出された。このうち、当センター調査区で検出されたのは杭列16(図版36-1)のみである。これを含めて、すべての杭列が南東-北西方向にのびる傾向がある。その性格については明らかではないが、この周辺には、第13b層下部・上部ともに流路が存在しており、流路の動きに対応してつくられ続けた可能性も考えられる。

次に、第13b層から出土した遺物を見ていきたい。

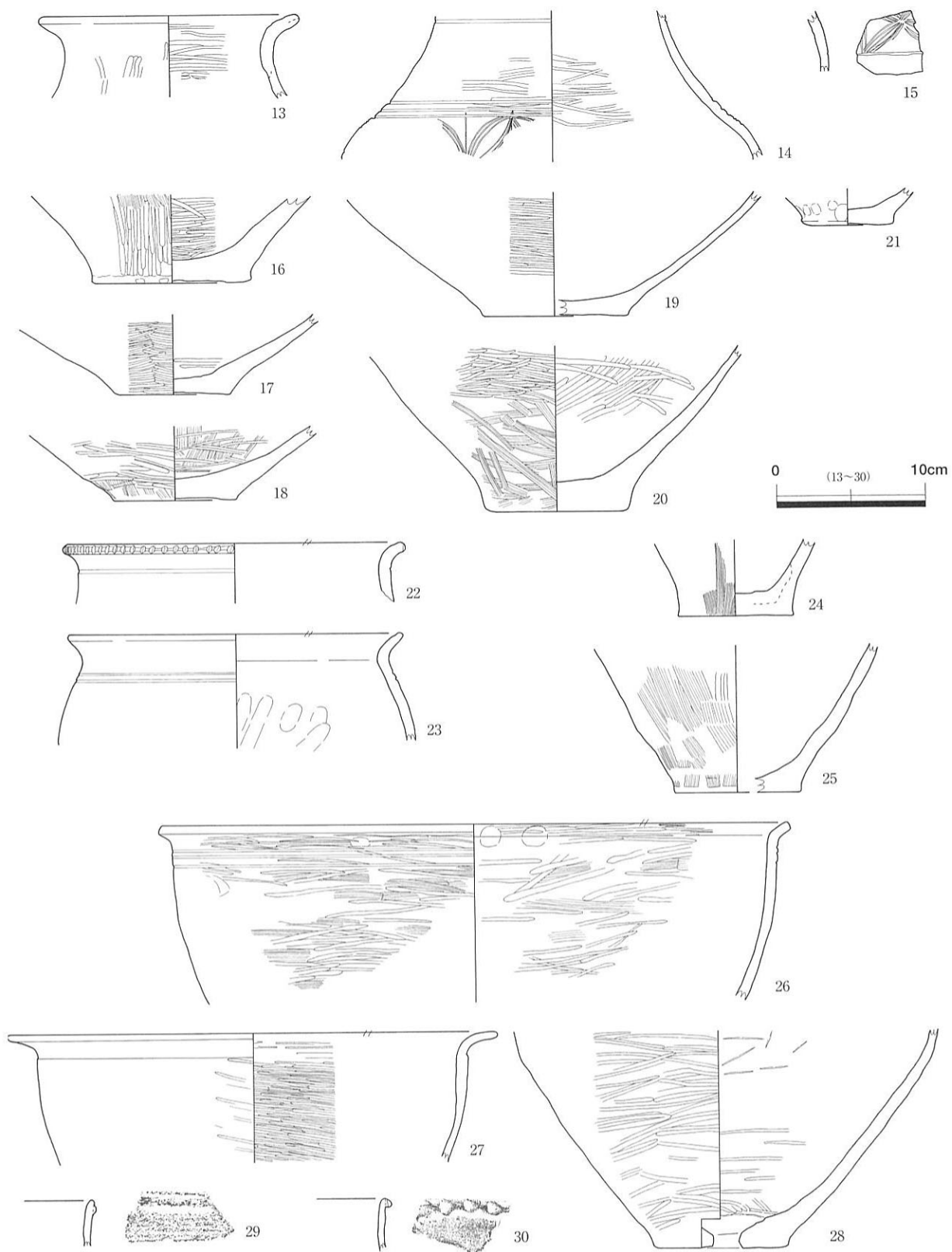
この層は層厚約1mを測るが、大半の遺物が一括で取り上げられている。その中であって、第13b層最上部のシルトから出土したことが確実なものとして、弥生土器壺(図IV-212:1)・甕破片(2)がある。第I-3~4様式のものである。壺は頸部に沈線文を10条以上施し、外面に黒色物質を塗布している。甕の破片は、口縁端部に刻目貼付凸帯を1条施すもので、中部瀬戸内系のものと思われる。



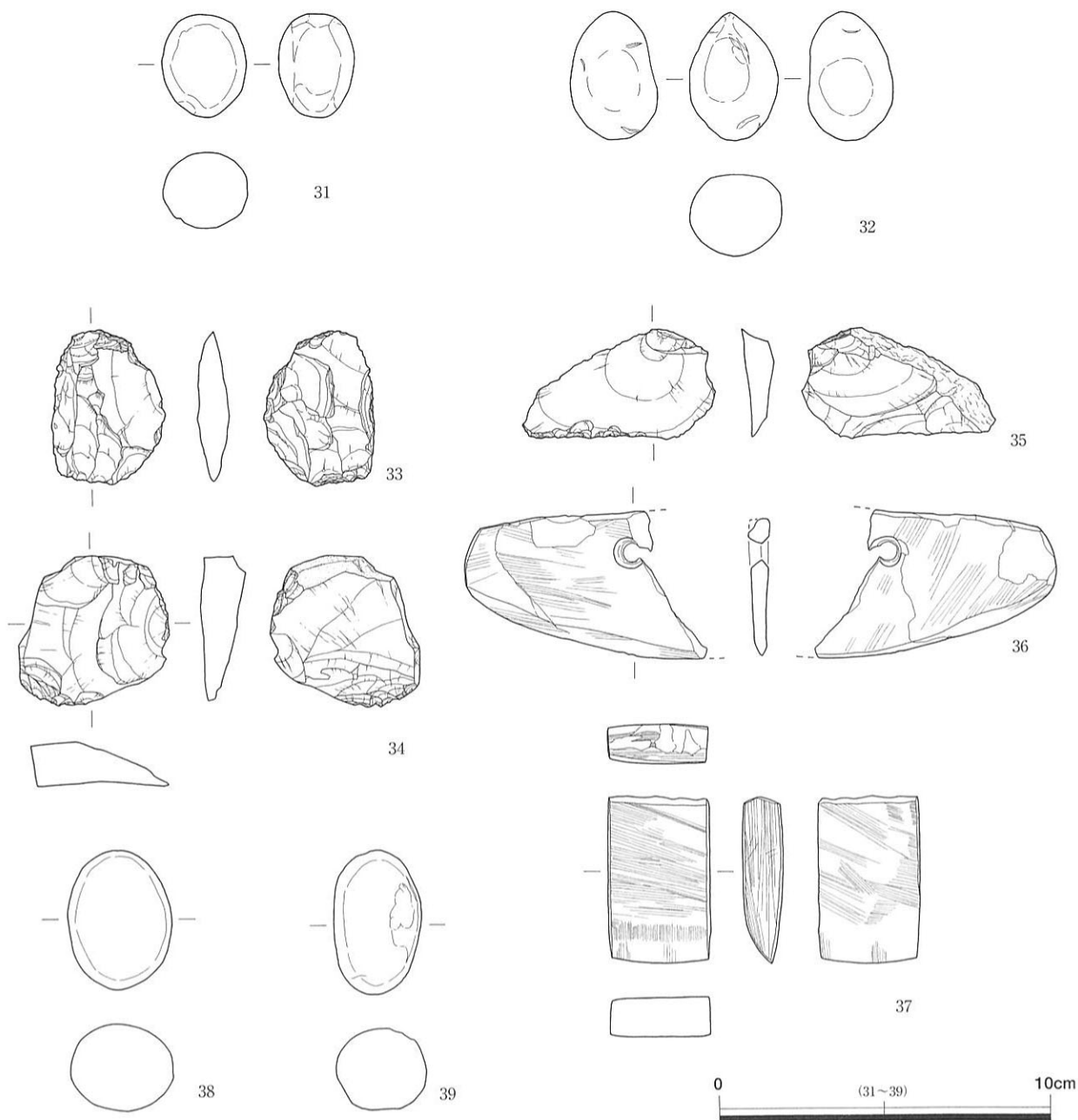
図IV-211 第13b層～第14-1面平面図



图IV-212 第13b层出土遗物①



図IV-213 第13b層出土遺物②

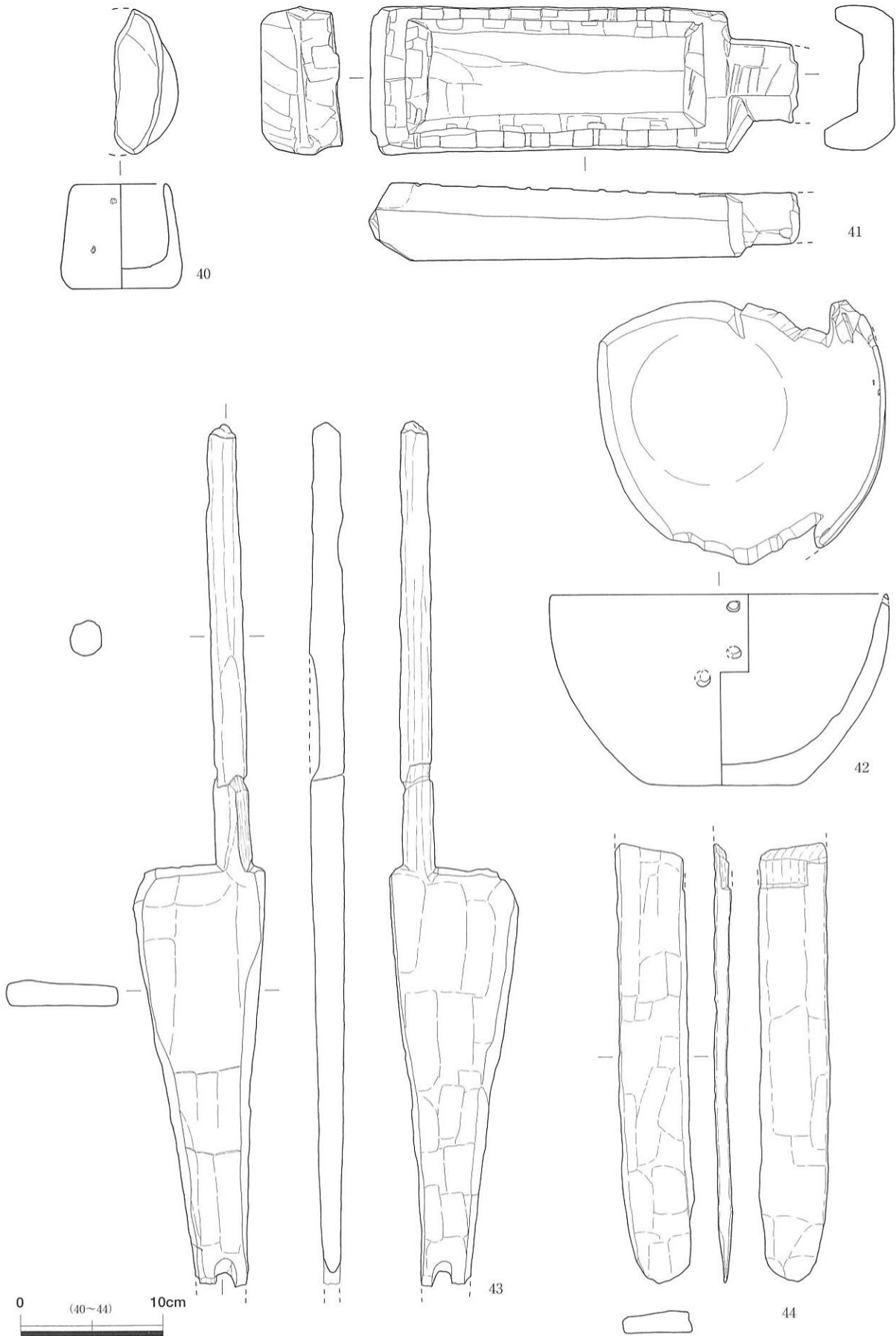


図IV-214 第13b層出土遺物③

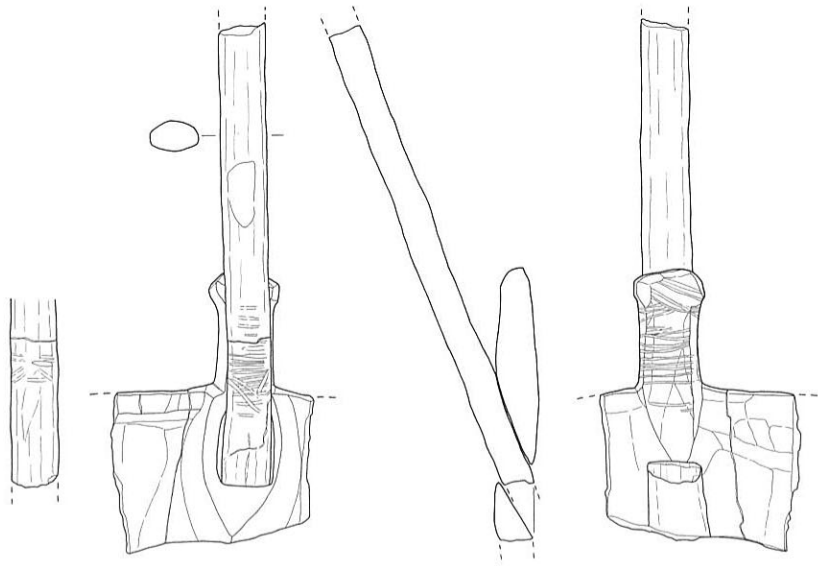
第13b層の遺物として取り上げられたものには、以下のようなものがある(図IV-212:3~IV-220:72)。弥生土器壺(3~21)・甕(22~25)・鉢(26~28)、縄文土器深鉢(29・30)、土製投弾(31・32)、石製品(33~39)、木製品(40~72)である。このうち、木製品の大半は砂礫層中から出土したが、土器については第13b層最上部から出土した可能性が高いものも存在する。

弥生土器は第I-2~4様式のものほとんどであるが、底部片に若干第II様式のものかと思うものがある。壺(3)は頸部と体部に段をもつもので、焼成後に穿孔を1個施している。(4)も段をもつ壺である。(5)は、頸部に段か削出凸帯、体部に削出凸帯を有するもので、体部の削出凸帯の上は沈線文3条を施す。外面体部下半と内面に黒色物質が塗布されている。(6)は、頸部に削出凸帯を有し、その上に沈線文1条が施され、内外面に黒色物質が塗布されている。(7)は、頸部に削出凸帯を有し、その上に沈線文1条が施されるもので、穿孔が1個残存している。(8)は段の上に沈線文3条を施すもので、

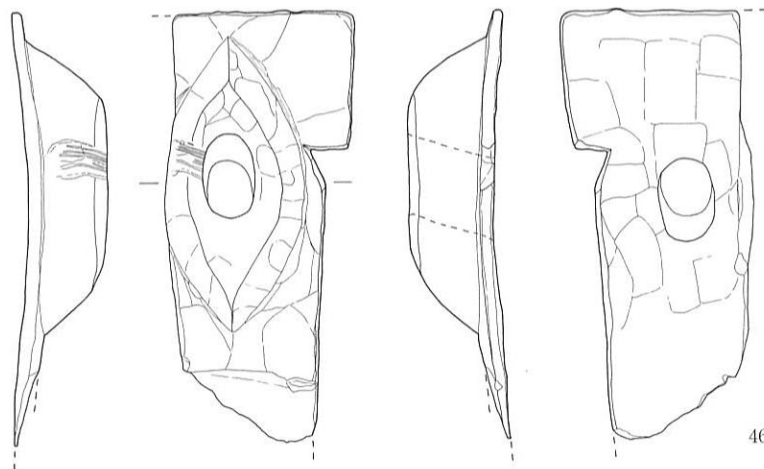
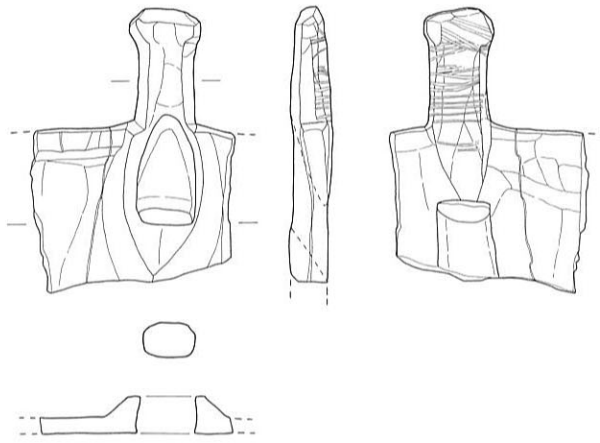




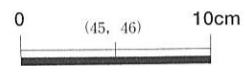
図IV-215 第13b層出土遺物④



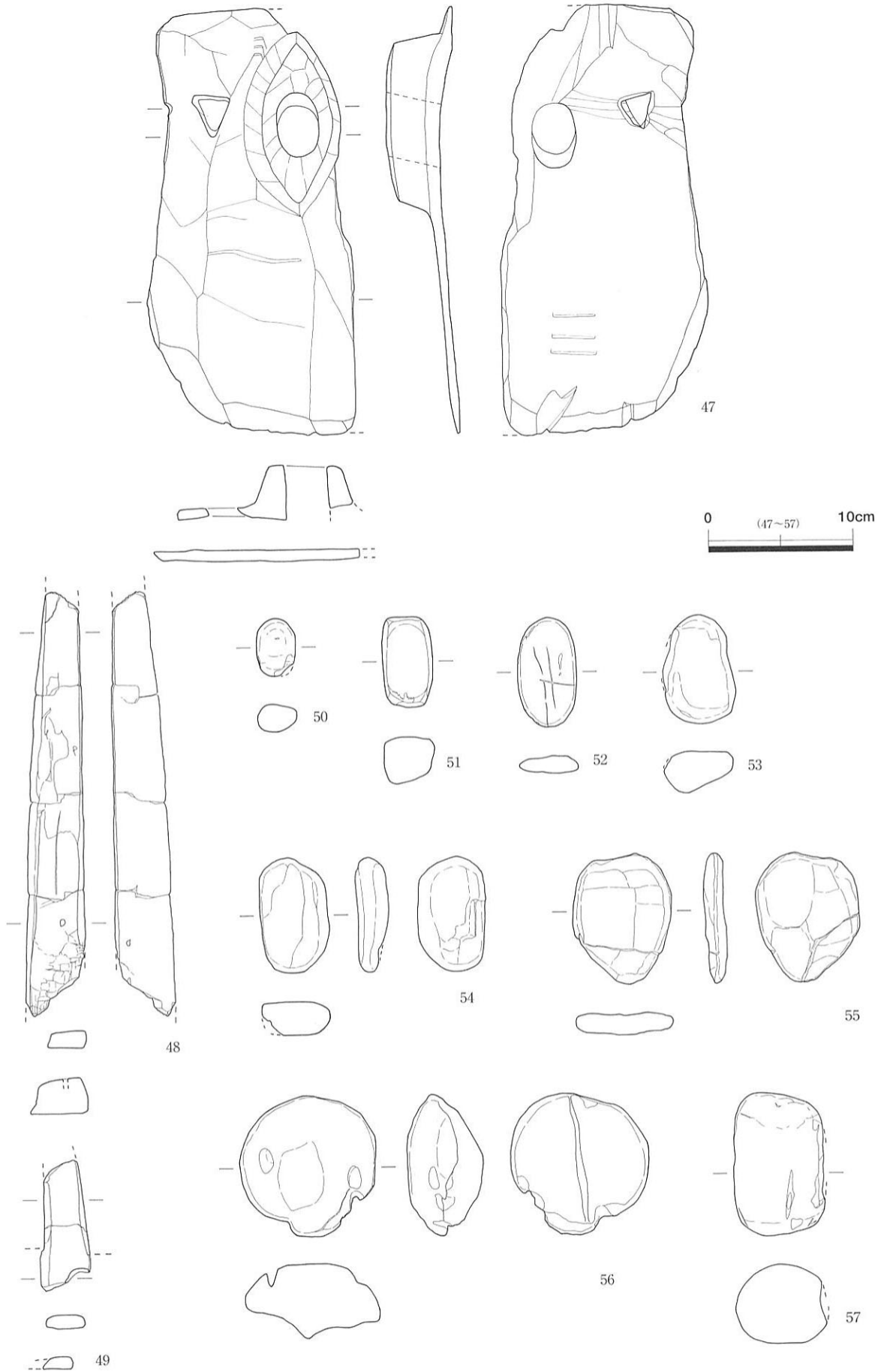
45



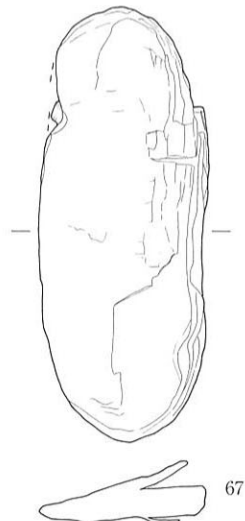
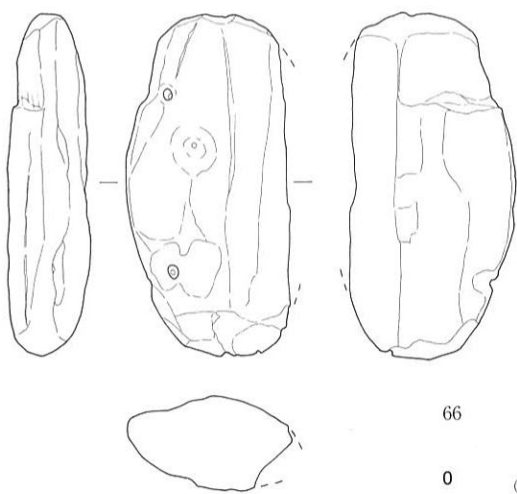
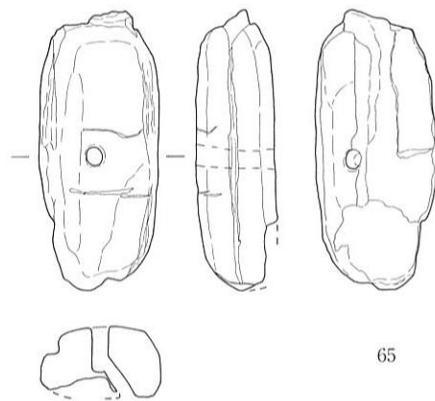
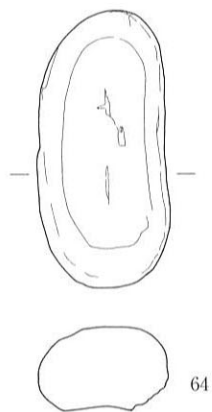
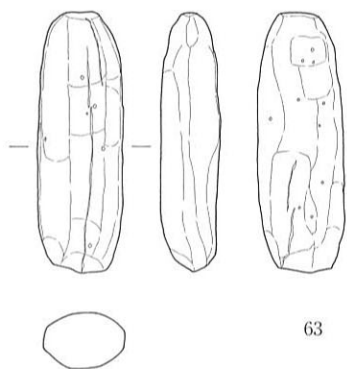
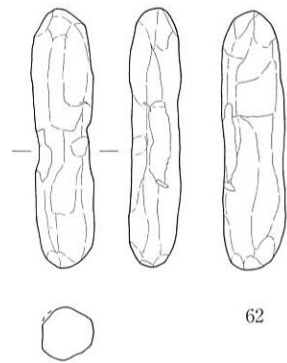
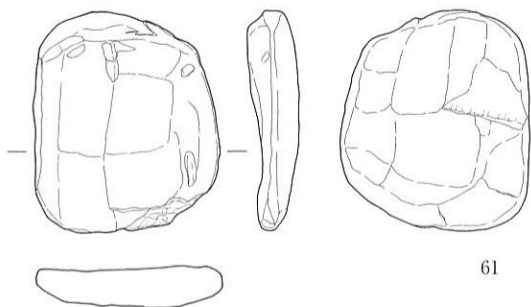
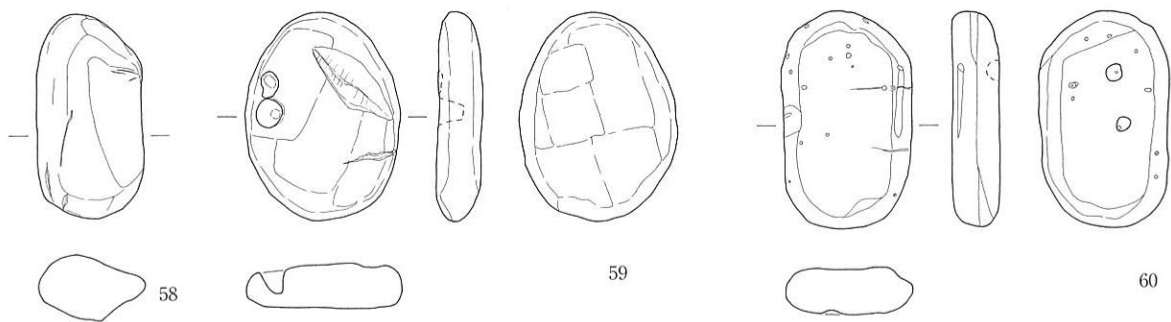
46



图IV-216 第13b层出土遗物⑤

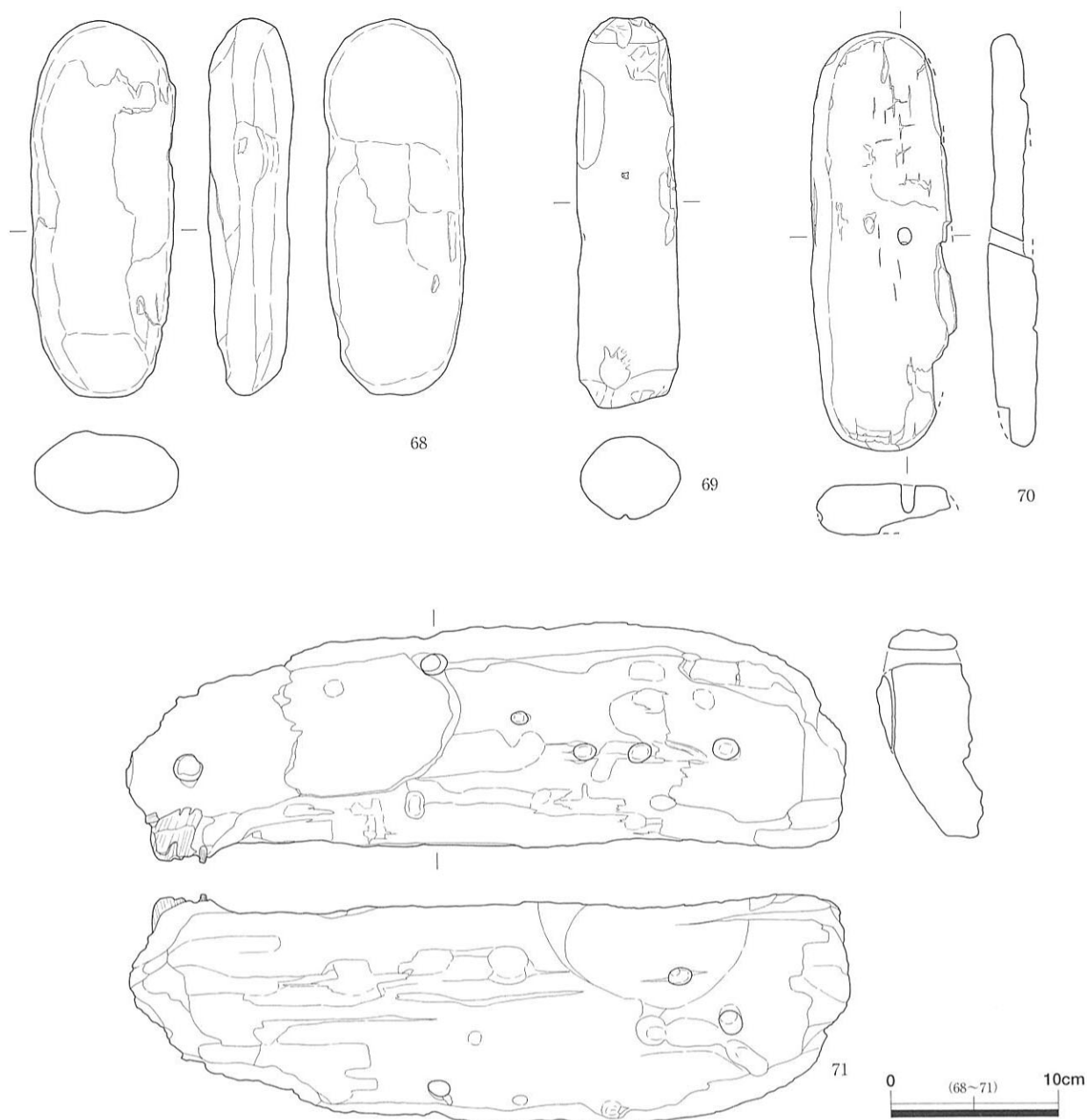


图IV-217 第13b層出土遺物⑥



0 (58~67) 10cm

图IV-218 第13b层出土遗物⑦

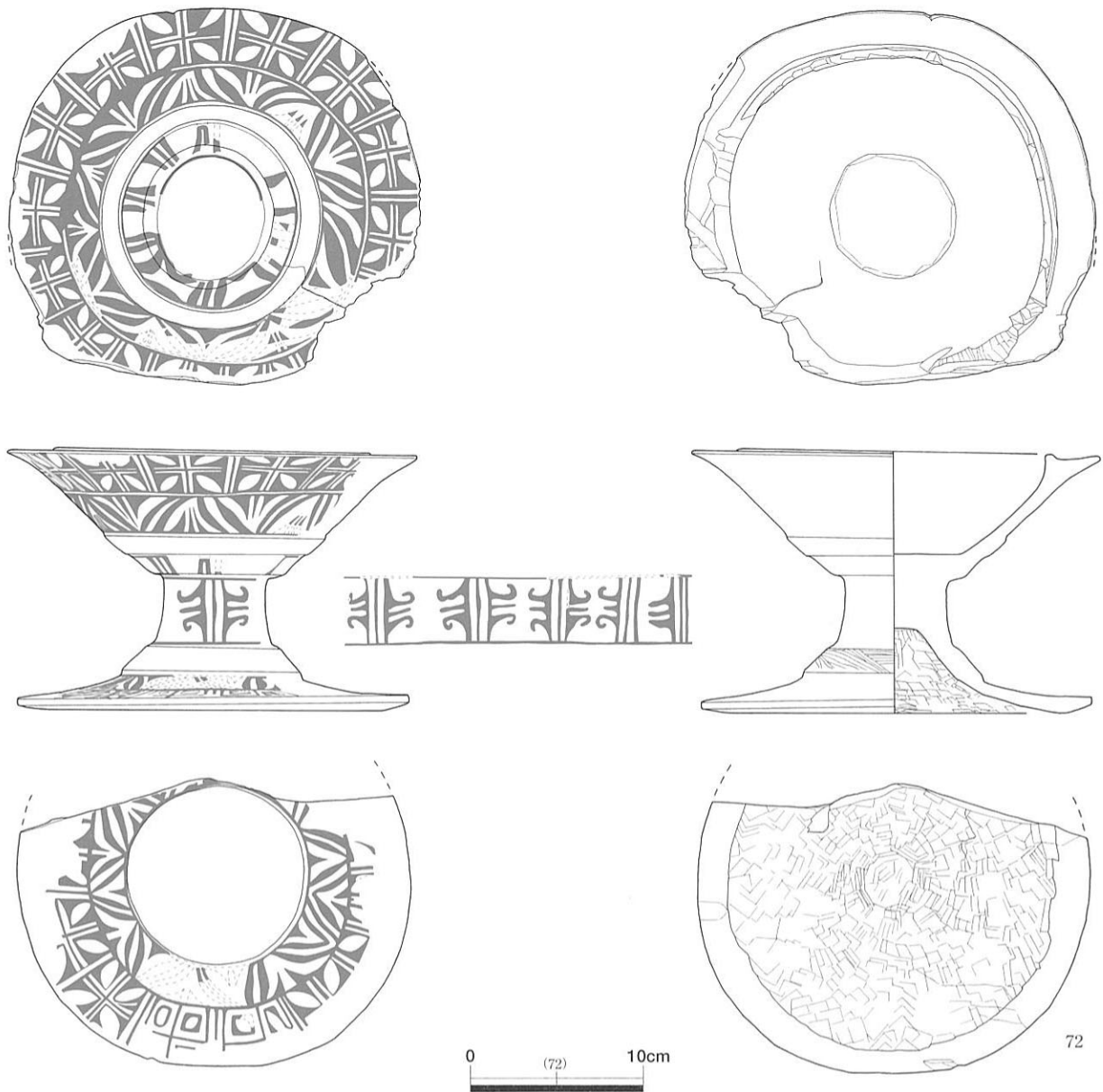


図IV-219 第13b層出土遺物⑧

内面に糊痕が残る。(9)は頸部に沈線文1条を施すもので、その沈線内には赤色顔料が付着している。

(10)は、頸部に沈線文2条を施すものである。穿孔1個が残存し、黒色物質が塗布されている。(11)は段の下に沈線文1条を施している。(12)は、頸部に沈線文6条、体部に沈線文7条、4条、4条を施すもので、2個1対の穿孔が1対残存している。(14)には単位文に軸のない木葉文、(15)には斜軸のある木葉文を施している。(16)・(18)は、内外面に黒色物質を塗布している。(17)は外底面へら削りで、外面に黒色物質を塗布している。鉢(27)は逆段を有している。(28)は、焼成後に表から穿孔を施している。

土器のうち、新しい時期と思われるものとしては、(21)・(25)などがある。(21)は、90-5調査区において(1)の壺より若干下位から出土したが、最上部に含めたほうがよいかもしれない。また(25)は、第13a面大畦畔18東側微高地部にあたる地点から、第13b層掘削開始直後に出土した。この状況か



図IV-220 第13b層出土遺物⑨

らみて、本来第13a層に含まれていた可能性も否定できない。

投弾と思われるもののうち、(31・32)が土製のもので、(38・39)が石製のものである。

石製品は楔形石器(33)、サヌカイト剥片(34・35)、石庖丁(36)、扁平片刃石斧(37)がある。楔形石器はサヌカイト製で、a・b面上・下片にはステップ状剥離が認められ、両面に主要・大剥離面が残る。石庖丁は緑色片岩製で、外湾刃半月形である。扁平片刃石斧は頁岩製で、研磨を丁寧に行っている。上端は欠損した後に研磨し直したように見える。

木製品には、容器(40)、把手付槽(41)、鉢(42)、高杯(72)、組合せ鋤(45)、直柄平鋤(46・47)、不明木製品(43・44・48~71)がある。容器は樹種がヤマグワで、竹管状の凹みと小孔(未貫通?)1個が施されている。鉢は樹種がヤマグワで、穿孔?が5個確認できる。高杯は樹種がヤマグワで、横木取りの一木造りである。杯部と脚部に低い削出凸帯、杯部内面に凸帯を施している。杯部内面と外面全体に黒漆を塗った後、凸帯を除く外面全体に赤彩で3種類の木葉文と双頭渦文で、6つの文様帯を描いている(概要I, pp.129-133)。組合せ鋤は柄付で着柄軸に結束痕が残っている。直柄平鋤(46)は側縁に扶



りがあり、隆起の片側に7～8条、幅1mmの溝があり、どちらも着柄のためのものかもしれない。(47)は隆起の横に三角形の穿孔が1個残存している。泥除装着のためかもしれない。不明木製品(43)は、樹種がヤマグワで片側を欠失した一本平鋤かと思われるものであるが、先端部に両面から抉りを施している。全面炭化している。(44)は樹種がアカガシ亜属で、曲柄又鋤の刃かと思われるものである。これについては第13b層上部のシルト層中から斜めに突き刺さったような形で出土した(概要X V, pp.116, 118)。上層から打ち込まれたものが折れた可能性もあり、第13b層の遺物としてよいか、問題も残る。(48)は樹種がサカキで、裏表に小孔が1個ずつあるが、厚みがあるため両者の関係は完全には観察できない。(49)は樹種がアカガシ亜属で、上方の2/3の両側は生きており、下方に穿孔が施されている。(50)～(71)は長さ4～43cmと大小ある楕円形状のもので、穿孔(貫通していないものも含む)があるものとないものがある。この孔に関しては自然のものかもしれないが、自然にこのような穿孔ができるのか問題が残る。樹種はヒノキ・スギ・サカキ・ムクノキ・ヤブツバキ・コナラ亜属・ケヤキとさまざまである。(71)とよく似たものは、流路5から検出された堰21(図IV-199:22)からも出土している。

第13b層出土土器、第13a面の水田跡の時期、第14-1層出土土器からみて、第13b層は弥生時代前期後葉を中心とする時期に堆積したと考えられる。ただし、この層は一気に堆積したのではなく、流路の移動、氾濫・破堤堆積物の堆積が繰り返されたものであり、一定の時間幅を考慮する必要がある。特に、図IV-212:3の壺の出土状況からすれば、場所によっては堆積開始時期が遡る可能性が高い。また、最上部のシルトの堆積時期は、第13a層の土壌形成開始時期に近接すると思われる。

**小結** 以上、第11～13b層に関わる調査成果について説明してきた。今回の検討では、弥生時代における土地利用変遷の概要が明らかにできた。ただし、従来の考え方とは異なる部分も多いため、ここで問題点を整理しておきたい。ここで主に整理するのは、第13b層～第11-1層の堆積過程と微地形変遷、弥生時代水田の変遷である。水田の構成や灌漑システムについては、第VI章1で検討したい。

#### a. 弥生時代の微地形変遷過程

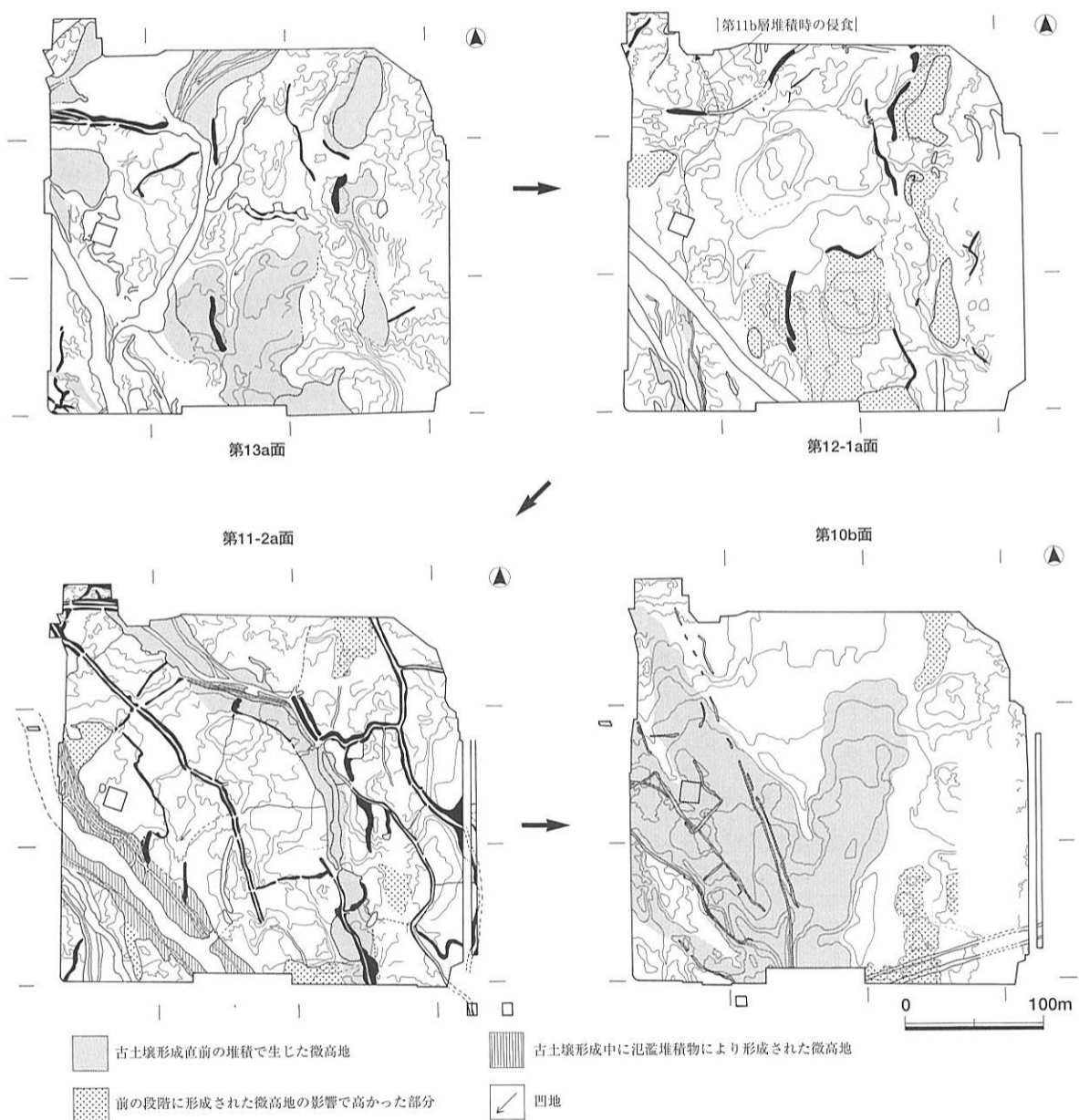
ここでは、第13b層～第10b層における微地形変遷を4つの段階にわけて説明したい。

第1段階は第13a面の微地形である(図IV-221:左上)。これは第13b層の堆積によって形成されたものである。第13a面の東側微高地は流路11・13の流路堆積物によって形成されており(図IV-223:④・⑥)、ブロックFの西側の高まりは流路12の流路堆積物、東側の高まりは流路10から供給された可能性がある破堤堆積物によって形成された。さらに、当地区西端中央部の微高地は第13b層の破堤堆積物によって形成されたと考えられ、水路68～71が立地する微高地は流路12の堆積物と関連があるように思われる。また、第13a面の東側微低地は、砂礫堆積後に侵食によって生じた低地が、泥で一定程度埋積されたものである(図IV-222:③)。水路63の周辺も同様な侵食によって形成されたと思われる凹地であり、その部分が人為的に加工され水路に利用された可能性が高い。一方、流路5は第14b面～第13b層中位の流路10が埋没した後、第13b層や第14層を侵食して形成されたものである。

第2段階は第12-1a面の微地形であるが、第12b層の層厚が全体として薄かったため、基本的に第13a面のものと共通する(図IV-221:右上)。ただし、第12b層は流路5の両側に厚く堆積し、自然堤防状の微高地を形成した。流路4は、この微高地間を流れていたと考えられる。また、第11b層の砂礫の分布(図に矢印で表示)から、流路3の存在も推定できる。

第3段階は第11-2 a面の微地形である（図IV-221：左下）。その形成に関わったのが第11 b層であるが、この層には層厚の厚い部分と薄い部分が認められる。堆積が顕著であった部分としては、第12-1 a面東側微低地部分がある。この部分には、調査区外の南側に存在する流路（流路3？）から流入した砂礫が厚く堆積した。また、当地区西部には、流路3から供給された破堤堆積物が堆積した部分もある。さらに、東側微高地北端部の西側にも第11 b層が比較的厚く堆積し、比高差は小さくなったものの、微高地の範囲は広がった（図IV-223：⑤）。こうして形成されたのが、第3段階の微地形である。第11-2 a面には、当地区南東部から北西部にのびる弓形の微高地が存在するが、これは第12-1 a面の東側微低地を埋めた砂礫層と、流路3からの破堤堆積物によって形成されたものである。また、当地区北東部は水田となったが、この部分は周囲と比べて高くなっており、第13 b層堆積によって形成された微高地の影響がこの段階まで残存したことがわかる。

第11-2 a面流路2は流路4の幅が拡大したものであり、流路埋没までに砂や泥が堆積して流路の向



図IV-221 第13 a面～第10 b面の微地形

きが変わった部分がある（図IV-224：⑧）。また、流路1も流路3が幅を拡大したものである。これらの流路は「第1黒色泥層」形成後も周囲に砂混じりシルトを堆積させ、自然堤防を形成した（図IV-224：⑦）。この自然堤防は人為的に加工され、その上に水路が掘削された。なお、第13a面水路63が立地していた微低地のうち、北部は第11b層の堆積により埋没したが、南半部においてはその影響が第11-2a面まで残存した（図IV-222：②）。この微低地は第10b層の堆積までに完全に埋没した。

第4段階は第10b面の微地形である。第11-1面を覆う第10b層のうち、流路1・2の流路堆積物や、流路1から供給された破堤堆積物が新たな微高地を形成した。ただし、層厚が薄かった当地区東側では、第11-2a面水路46が立地した微高地やブロックT北側の微高地が、第10b面にまで影響を与えた（図IV-221：右下）。この段階の微地形はその後、第8a面まで影響を与えた。

このように、各面の微地形は流路堆積物や流路から供給された氾濫・破堤堆積物によって形成されたものである。各面における水利系統や水田ブロックの設定にあたっては、こうした微地形が十分に考慮されたとと思われる。

#### b. 弥生時代水田の変遷と問題点

当地区における弥生時代水田の時期については、第13a面が前期末～中期初頭、第12-1a面が中期後葉、第11-2a面が後期中頃～後半と推定されてきた。水田に直接伴う土器からみて、その推定は妥当であると考えられる。また、第13b層の最新遺物と第13a面の遺物、第12-1a面・第11b面の遺物・第11-2a面の遺物を比較すると、それぞれ連続性が認められる。しかし、第13a面と第12-1a面の間には時間的なギャップが存在する。このことは早くから認識されていたが、その意味について積極的に検討されることはなかった。ところが池島I期地区の調査が進むにつれて、両地区で「第2黒色泥層」上面の水田と認識された面の遺物に時期差があることがわかってきた。それをふまえて福万寺II期地区にあたる98-3調査区では、従来の「第2黒色泥層」を、池島I期地区の水田に対比される「上部2黒」と、当地区の水田に対比される「下部2黒」に細分することが提案されている（新倉・朝田・秋山2000）。これらに関しては、今回設定した第12-1a層・第12-2a層にそれぞれ対比される可能性がある。なお、98-3調査区においては「3黒」が侵食されて残存しなかったか、もともと形成されなかった可能性があるとされているが、「下部2黒」とされた古土壌と一体化している可能性も考えられる。

さらに今回、当地区の水路61と堰21に関して調査段階の所見を否定し、これらを第13a面～第12-1a面の間の時期における取水施設と推定した。その時期については、流路5の最新遺物から第II様式末～第III様式初め頃と考えられる。ただし、堆積物からみて流路5は、すぐに規模を縮小して放棄流路となった可能性が高く、この段階の水田耕作は短期間であったと思われる。しかも、この段階の流路5は第13a面段階よりも縮小し、利用可能な水量も少なくなったと考えられるため、水田に利用されたのは当地区周辺の一部であった可能性がある。このことは、当地区において第III様式の土器が前後の時期に比べて少ないことも整合する。当地区が次に水田化されるのは流路3の形成後であり、流路5の埋没後、第12-1a面の水田開発に至るまでに土地利用の不活発な時期が存在すると思われる。こうした水田開発の動向は、水源となる流路の変化と密接に関わっていたと推定される。

#### c. 遺物の出土状況

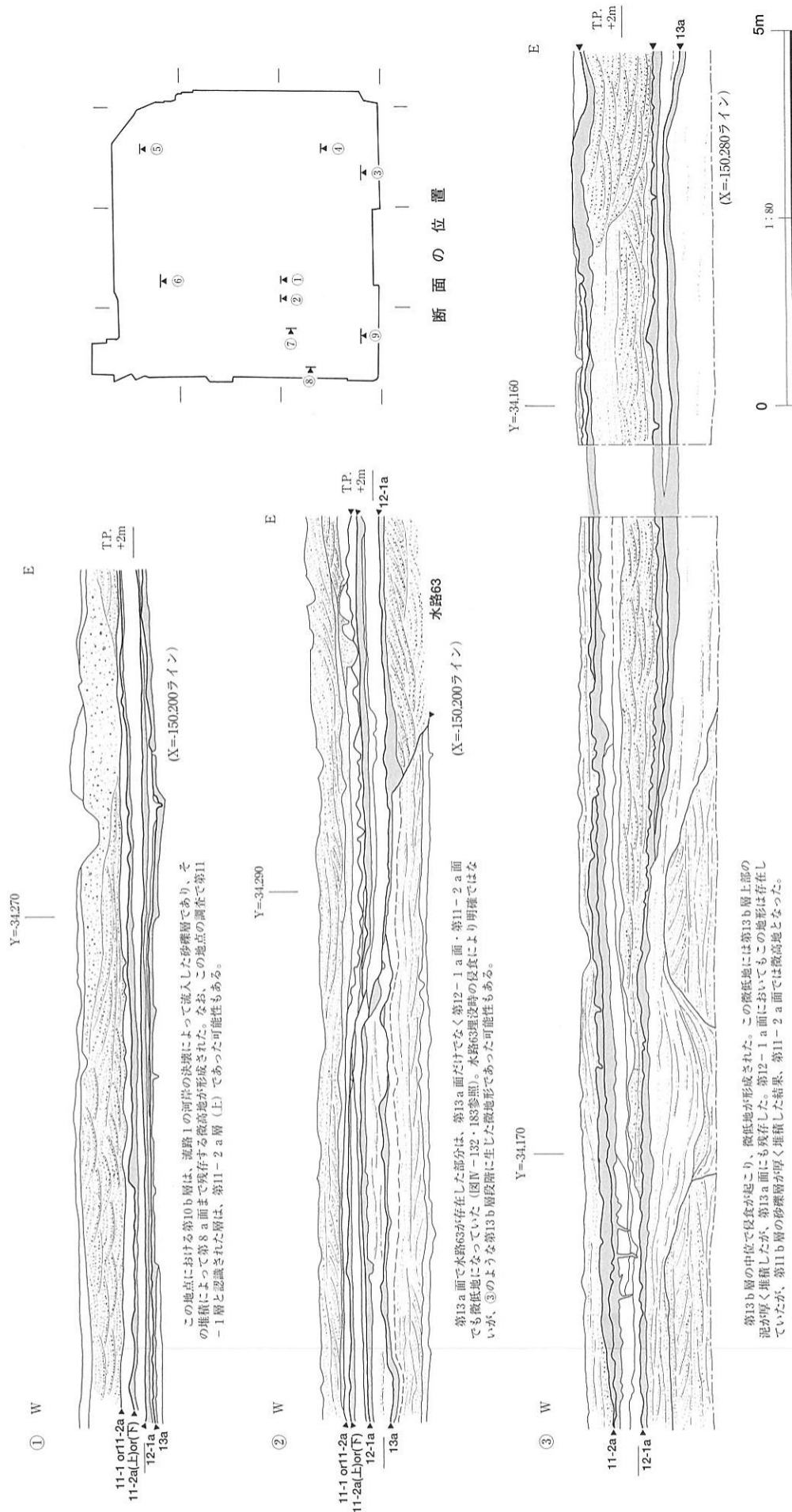
当地区で検出された弥生時代の3面の水田面では、土器・石器をはじめ、遺物も多く出土している。

その中で、まず注目されるのが土器である。第13 a 面・第11-2 a 面では大畦畔に埋納された土器が見つかっており、大畦畔造成・修築の際におこなわれた祭祀の痕跡と考えられている。また、土坑に土器を埋納する事例も第13 b 面と第11 b 面で検出されているが、数は少ない。大畦畔への土器埋納に関しては第13 a 面から認められ、第11-2 a 面では多数確認されている。こうした土器埋納は、他の遺跡においても弥生時代後期～古墳時代の事例が多数確認されている。ちなみに、第9 a 面土器埋納遺構49も同様な事例であるが、古代以降は大畦畔への埋納は少なくなる。代わりに、土坑に土器を埋納する事例が増加するが、このような祭祀の変遷やその背景も今後の検討課題である。その他、微高地上や大畦畔上に据え置かれたり、遺棄された土器群も確認されており、この中にも祭祀に関わるものが存在する可能性が想定されている。なお、水田における祭祀として言及されることの多い、「水口祭」の痕跡を思わせる出土状況を示すものは、ほとんど存在しない。ただし、遺物の遺存状況は最終的に遺棄・廃棄・埋納された姿であり、これによって祭祀の性格をすべて理解することは難しいと考えられる。しかしながら、例えば第11-2 a 面の場合、特定の水路に土器埋納が集中する傾向も認められ、水田域内における水路の位置づけなど、水田の実態を理解する上で興味深い資料となる可能性を持っている。今後は、出土状況の観察を詳細におこない、どの段階で遺物が残されたのかを明確にした上で議論する必要がある。

また、第13 a 面の水田では、大畦畔18周辺に遺物が集中していた。この中には土器埋納遺構86のような祭祀に関連するものもあるが、炭化米が多量に出土した土坑や落ち込みなど、農作業に関連する遺構も存在することが注意される。こうした微高地の空間は作業空間として利用されたと考えられる。この周辺から出土した「不定形刃器」などの石器の存在も、作業空間における活動の痕跡として、今後注意すべきであろう（井上1993 b・村田1995）。また石鏃など、耕作とは別の活動を示唆するものも存在する。このような遺構・遺物を整理することによって、水田化された後背湿地における人間活動の詳細を議論でき、そうした活動と水稻農耕の関係についても具体的な想定が可能になるかもしれない。

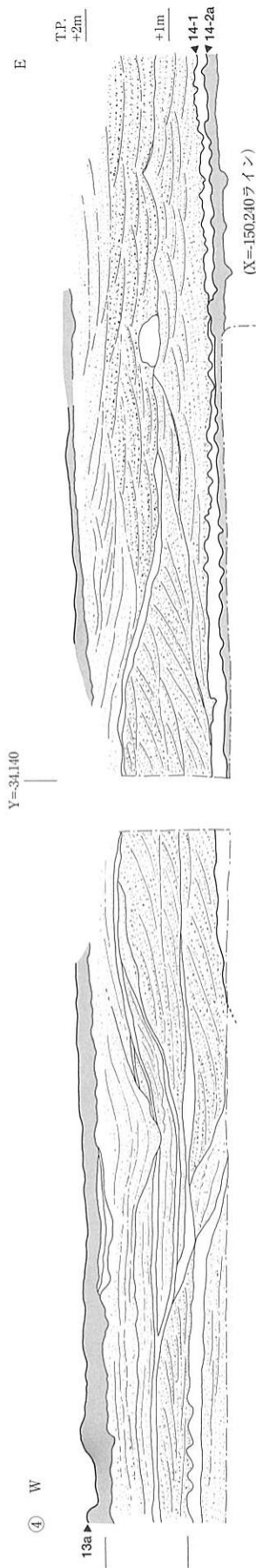
#### 註

- 7) 松田順一郎氏（財東大阪市文化財協会）に御教示いただいた。
- 8) 概要 X I, p.54に示された等高線図は、第11-2 a 面水路38の痕跡をひろっており、誤りである。今回はこの痕跡を無視して、等高線を復原した。
- 9) 栗田 薫氏（富田林市教育委員会）に御教示いただいた。
- 10) 泉 拓良氏（奈良大学）に鑑定していただいた。

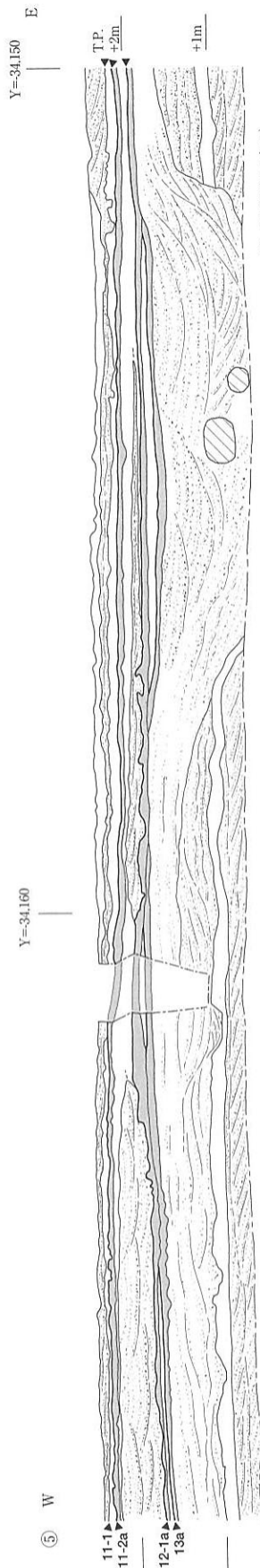


図IV-222 第10b層～第14-2a層断面図①

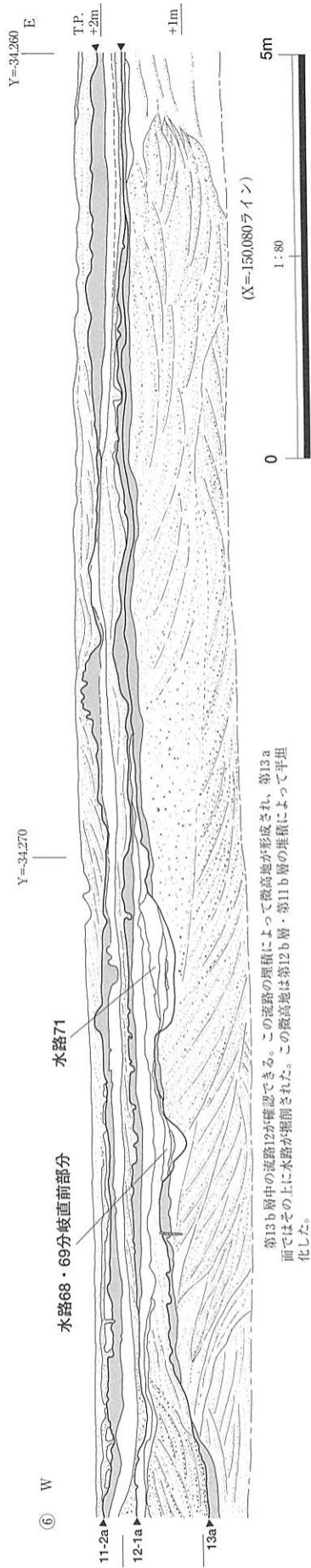




図の右側に見られるトラフ型斜交層理の部分は、流路11の一部と考えられる。この部分には第13b層の砂礫が厚く堆積し、第13a面では帯状にのびる微高地となった。



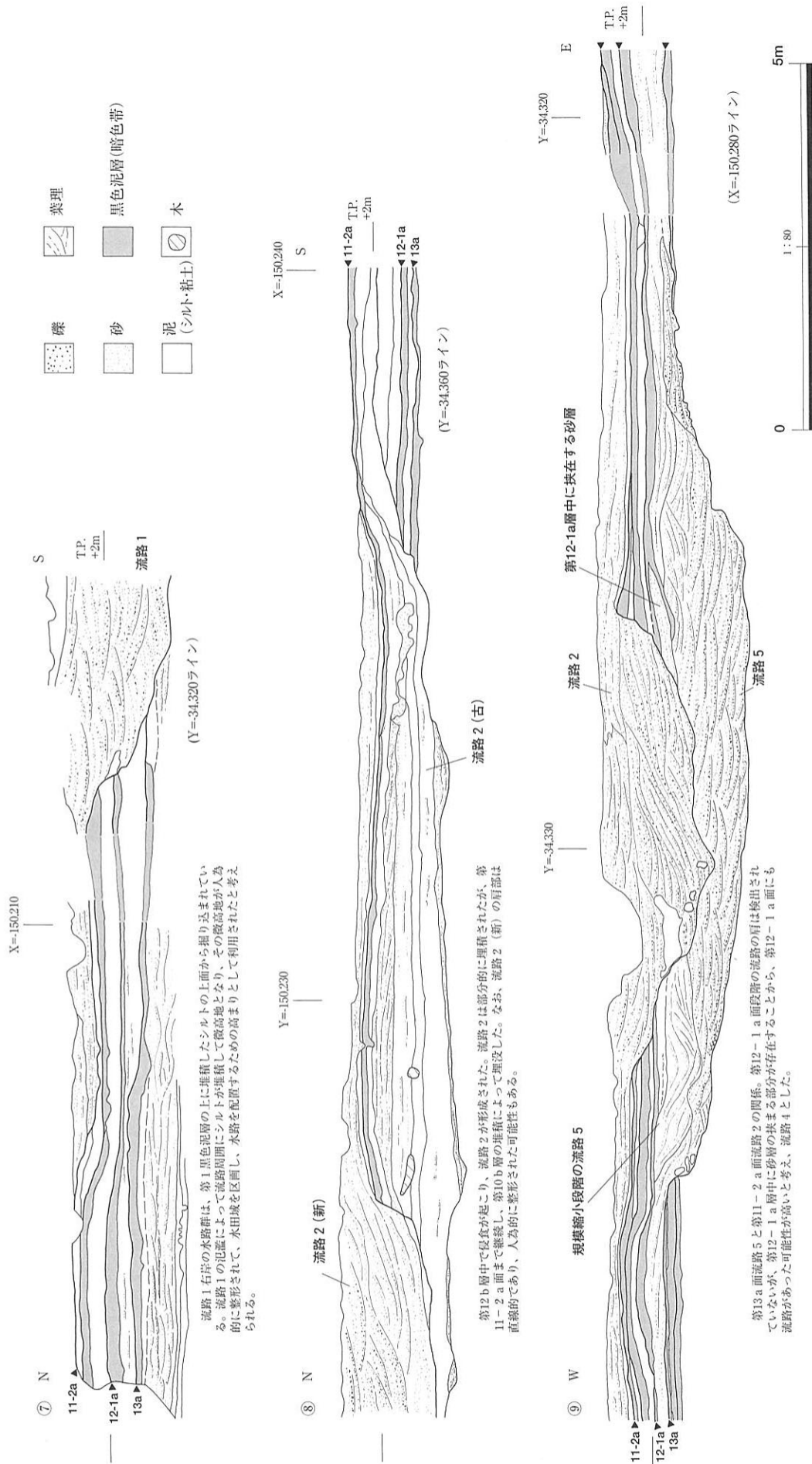
図の右側には流路13が確認できる。この流路は第13b層上部のもので、その埋積に伴って微高地が形成された。その後、第11b層が厚く堆積し、第11-2a面では微高地の形状が変化した。第11-2a面ではこの部分は水田化され、微高地部分にも水が回るように小規模な溝が掘削されていた。



第13b層中の流路12が確認できる。この流路の埋積によって微高地が形成され、第13a面ではその上に水路が掘削された。この微高地は第12b層・第11b層の埋積によって平坦化した。

図IV-223 第10b層～第14-2a層断面図②





図IV-224 第10b層～第14-2a層断面図③

## 5. 第14-1面～第17層—縄文時代～弥生時代前期の古環境と人間活動—

第13b層の下には、第14-2a層、第15-2a層という2つの明瞭な古土壌が存在しており、それぞれ「第4黒色泥層」、「第5黒色泥層」と呼称されていた。当地区では掘削深度の関係で、これらの地層は一部しか調査しなかった。ちなみに池島I期地区では、第14-2a面において弥生時代前期中葉の水田跡が検出され、第15層からは縄文土器や石器が出土するなど、人間活動の痕跡が確認されている。

当地区においても第14-1面で多数の人の足跡が検出されたが、第14-1層は「弥生時代前期洪水砂層」の一部に含められ、足跡の帰属も「第4黒色泥層」上面と誤解されることが多かった。これは、第14層以深の堆積環境変遷が理解されていなかったことに原因がある。そこで、ここでは面的な調査がおこなわれた第14-1層～第15-2a層だけでなく、第15b～17層の状況についても言及し、この段階の古環境と人間活動を理解するためのデータを整理したい。

**第14-1面** 第14-1層はヒシの種実や抽水植物の茎などの植物遺体が多く含まれる地層で、この層と第14-2a層上部の間には変形構造が認められる(カラー図版9)。また、当地区の状況と類似する池島I期地区95-2調査区では珪藻分析が実施されており、その成果から沼沢地の堆積環境であったと推定される(概要XXI, pp.99-107)。

第14-1面は一部の調査区で調査をおこなった。それらの調査区では、ヒト、シカ、イノシシ、大型の鳥類(図版36-8)などの足跡が多数検出された。また、93-1調査区では、第14-1層上部から土器数個体とシカの角が出土した(図版36-3・5)。このシカの角は基部が存在しないが、残存する端部付近に鉄器によると思われる加撃痕が認められ(図版36-4)、人為的に切断されたと考えられる<sup>11)</sup>。その他、第13b層の記述でふれた流路10は、この面の段階にも存在していたことが判明している。

次に、第14-1面・第14-1層から出土した遺物を列挙する。

溝39からは木製蓋(図IV-225:1)が出土した。樹種はヤマグワである。穿孔が4個残存し、未貫通の小孔が5個残存している。黒漆が塗られていたかもしれない。

第14-1面直上から出土したのものとして、弥生土器壺体部(図IV-225:2)・甕(3)がある。第I-2～3様式ぐらいのものである。壺は体部に段を有し、その上に沈線文5条を施す。内外面に黒色物質を塗布している。なお、前述のシカの角は、これらの土器の近くから出土した。

第14-1層から出土した遺物には、弥生土器壺底部(図IV-225:4)・壺蓋(5・6)、凹基式石鏃(7・8)、サヌカイト剥片(9)、釣針状未製品(10)等がある。土器は第I-2～4様式ぐらいのものである。壺蓋はどちらも頂部に穿孔が施され、内外面に黒色物質が塗布されている。凹基式石鏃はどちらもサヌカイト製で、(7)は逆刺が左右非対称である。(8)は刃縁に鋸歯状の細かい凹凸がある。

第14-1層の時期は、当地区出土土器と池島I期地区第14-2a面の水田遺構の時期からみて、弥生時代前期中頃～後半と考えられる。ただし、層相からみて、その存続期間は短かったと推定される。

**第14-2a・b面** 第14-2a層は、従来「第4黒色泥層」と呼ばれてきた腐植を多く含む古土壌である。池島I期地区ではこの層の上面から弥生時代前期中葉の水田遺構が検出されており、層内からは縄文時代後期末～晩期の遺物も出土している。

当地区では調査面積が限られていたこともあり、平面で検出された遺構は第14-2b面土坑40のみである。この遺構は、概要II(p.99)において流路6の右岸に掘削された「テラス状遺構」として報告さ

表IV-41 第14面遺構名称

(第14-1面)

遺構番号	概要における遺構番号
溝39	93-1 溝44

(第14-2b面)

遺構番号	概要における遺構番号
土坑40	90-3(A) テラス状遺構

れた。しかし、流路6は第13b層の途中で形成されたものであるため、流路6によって細長い土坑の一辺が破壊されたと考えるべきである。

その他、断面で観察された遺構として、流路10がある。この流路の肩部付近の地層をみると、砂が堆積する以前に泥で一定程度埋積されたことがわかる(図版35-8)。最も外側の肩は下層を侵食して形成されたものであるが、その肩部の外にみられる地層は、層相からみて第15b層で

あり、第15-2a層は侵食されて残存しなかったと思われる。この侵食によって形成された開析谷が泥で一定程度埋積された後、その上に第14-2a層が形成されたが、その段階にも流路として残存し、砂礫で埋積されていた。こうした層位関係からみて、開析谷が形成された時期は第14-2a層形成前であり、当地区や池島I期地区の第14・15層出土土器をもとにすれば、縄文時代後期後葉～晩期前半頃のことであったと推定される。

なお、池島I期地区におけるプラント・オパール分析結果をみると、第14-2a層最上部ではイネのプラント・オパールが検出されているが、それよりも下位からは検出されていない(第V章2-1・2)。したがって、当遺跡で水田が営まれ始めたのは第14-2a面の段階と考えられるが、この段階の水田遺構は池島I期地区南半部を中心とする範囲で検出されている。当地区の状況は調査範囲が狭かったこと、第14-1層段階に生じた変形構造により、上面の残りが悪かったため不明な点が多いが、水田耕作を窺わせる遺構は検出されていない。池島I期地区において畦畔が検出された部分は、第14b層の中に砂礫層を挟み、その層厚が厚かった範囲にほぼ対応する。これは、第14b層がシルトで、層厚も10~20cm程度であった当地区の状況とは異なっており、第14-2a面の水田の立地を考える上で重要な意味を持っていると予想される。この点は、池島I期地区の整理作業における課題のひとつといえる。

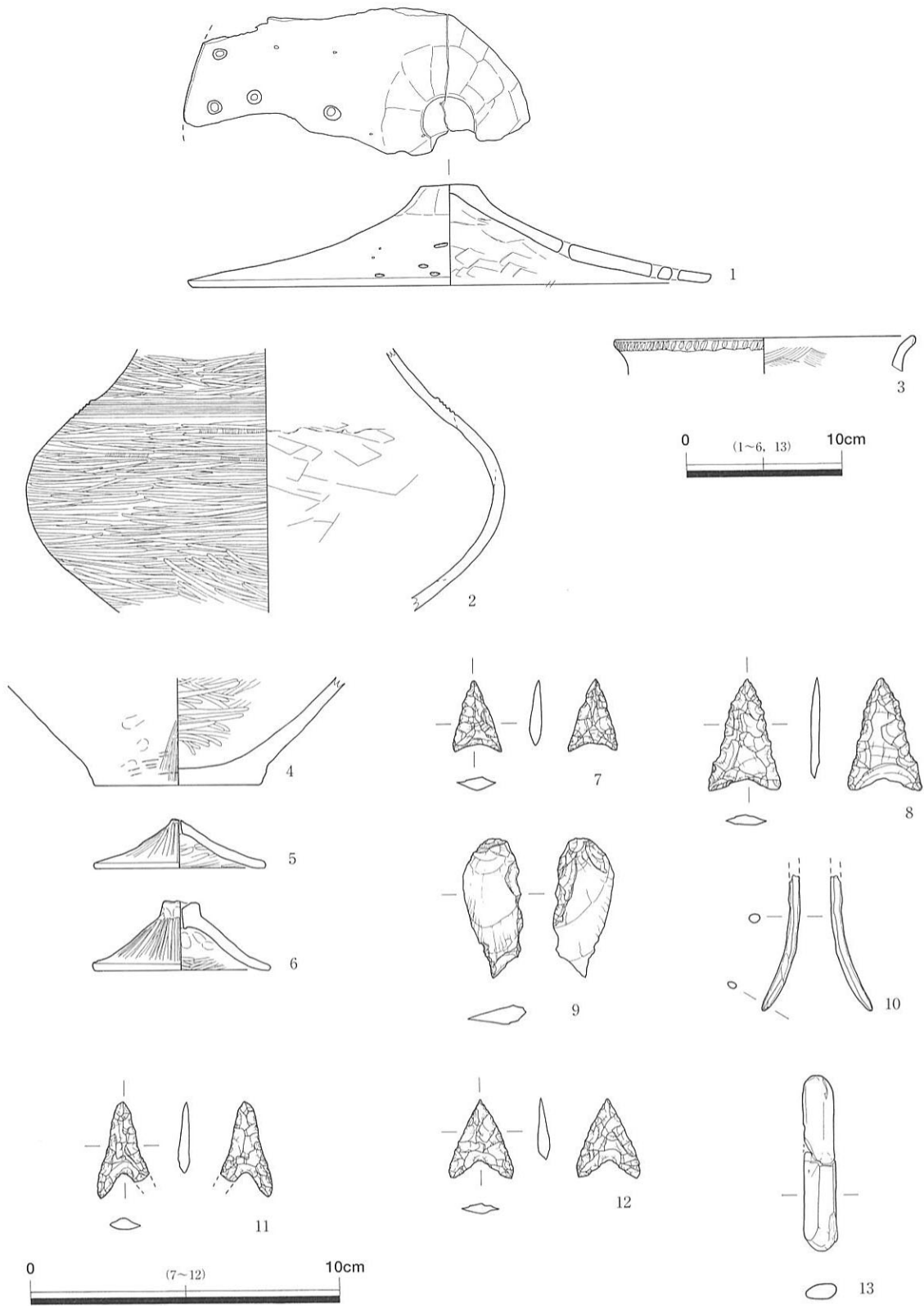
次に、第14-2a層に関連する遺物を列挙する。第14-2a面直上からは不明木製品(図IV-226:1・2)が出土した。どちらも丸太棒に加工を加えて、頭部を作り出しているものである。下端は炭化している。山賀遺跡(下村1990)でよく似た形のものが出土しているが、山賀遺跡のものは裏面が平らで、下も加工を施しているようなので、同様のものとは言えない。残念ながらこれらの遺物は現在所在が不明となっている。

第14-2a層からは、凹基式石鏃(図IV-225:11・12)、不明木製品(13)が出土した。凹基式石鏃はどちらもサヌカイト製である。不明木製品の樹種はコナラ亜属である。

**第15-2a面** 従来「第5黒色泥層」と呼ばれてきた、腐植を多く含む古土壌である。この層の上にシルトが薄く堆積し、その上面でシカなどの足跡が検出された部分もある。池島I期地区92-3調査区では、そこから元住吉山I式土器が出土した(概要XIII, pp.16-17)。ここでは、この層を第15-1層と呼称したい。ただし、この層はきわめて薄く、存在しない場所も少なくない。また、その上で検出された流路は第15-2a面から存在していたと考えられる。

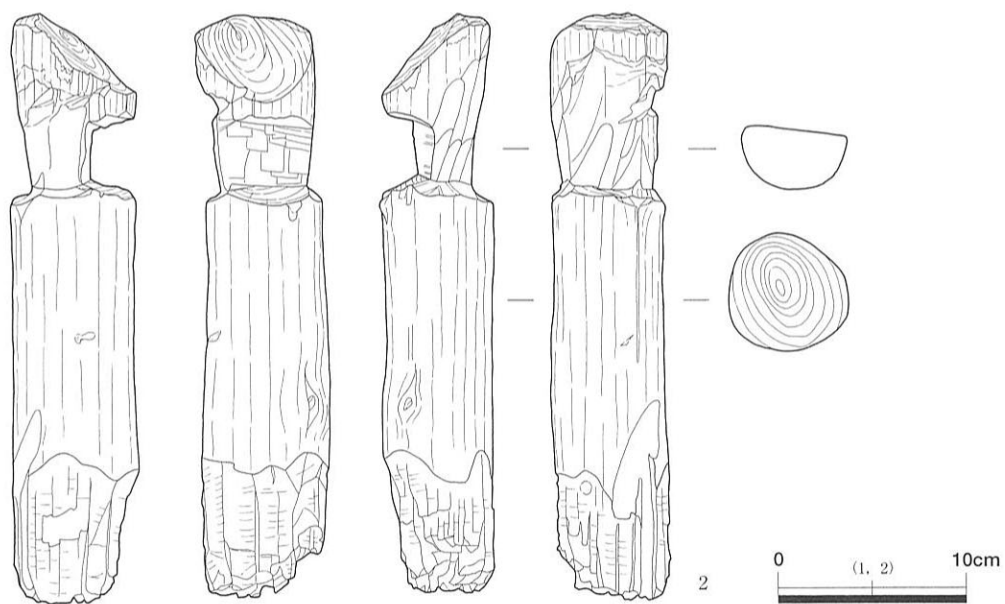
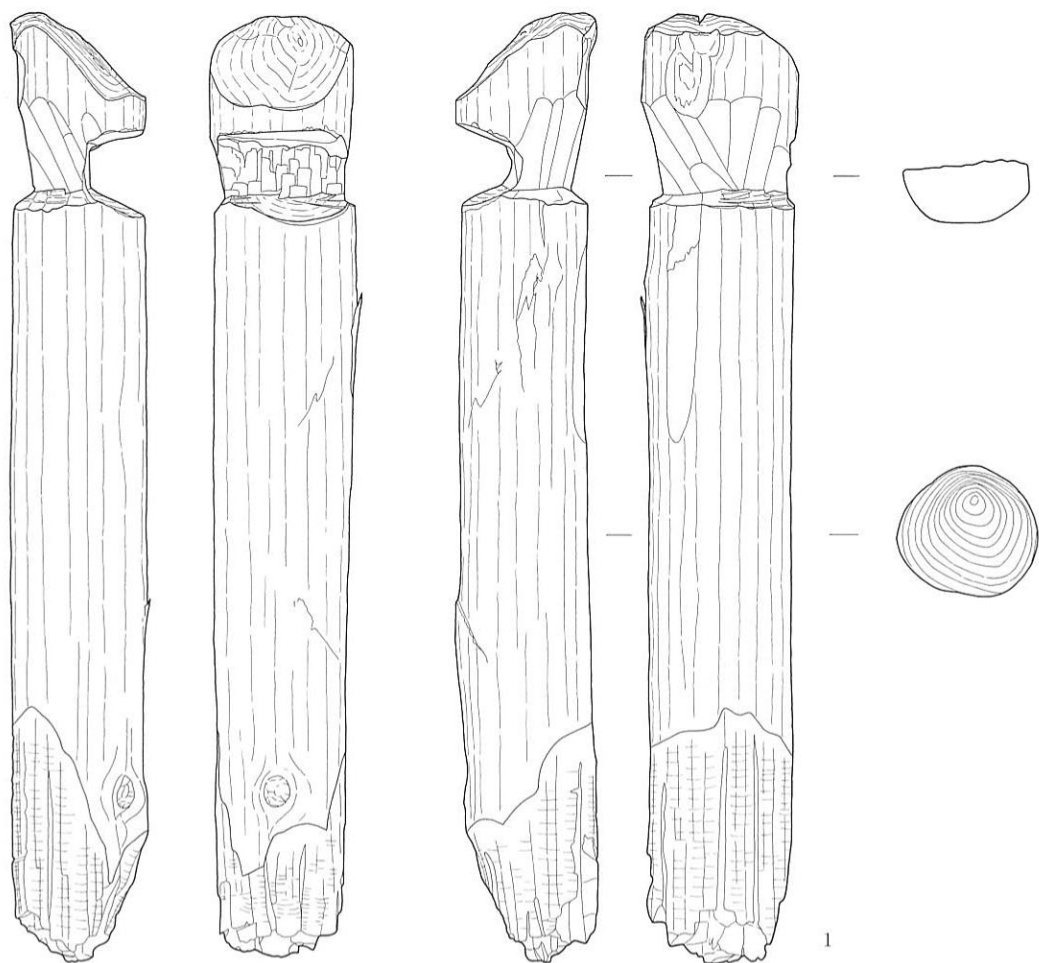
当センター調査区では、90-6調査区・93-2調査区などで流路状の落ちが検出されているのみで、顕著な人間活動の痕跡は確認されていない。しかし、府教委86-1調査区では、第15-2a層最下部から縄文時代後期末の宮滝式土器が出土している(府発III, p.19, 図版30)。出土状況写真を見ると、第15-2a層の下面は植物の根によるとと思われる凹凸が激しく、土器片は植物による擾乱の結果、落ち込んだ可能性が考えられる。

なお最後に、第14・15層に関して、当地区と池島I期地区の間での層序対比の問題についてふれてお



図IV-225 第14-1面遺構・第14-2a層出土遺物

1: 溝39, 2・3: 第14-1面直上, 4~10: 第14-1層, 11~13: 第14-2a層



图IV-226 第14-2 a面出土遺物

きたい。府教委86-1調査区では第15-2 a層から宮滝式土器が出土しているが、池島 I 期地区の94-2調査区では第14-2 a層下部から宮滝式土器が出土している（概要 XⅧ，pp.20-23）。また、池島 I 期地区92-3調査区の元住吉山 I 式土器は第15-1面から出土しており、池島 I 期地区では土器の時期と層位は整合している。こうしてみると、86-1調査区の遺物だけが他の調査区と整合しない。この理由については、連続した断面観察がおこなわれていないため難しいが、池島 I 期地区の第14 b層が先に堆積し始めた可能性も考えられる。この点は、池島 I 期地区における第14 b層の堆積過程や、両地区における第14 b層の層相の違いとも関連するため、今後の検討課題としておきたい。

**第15 b～17層** 第15-2 a層以深の情報は、府教委86-1調査区や90-3調査区（スワン部）などから得られている。それによると、地層の様子は池島 I 期地区の状況と同じであり、堆積環境も共通していたと考えられる。当遺跡における最古の遺物は、池島 I 期地区95-2調査区において第15 b層から出土した、縄文時代中期末の北白川 C 式土器である（概要 X X I，p.97）。これはシルト～粘土層中に含まれていたもので、さほど摩滅もしていないことから、遠くから流れてきたのではなく、人間によって付近まで運ばれてきたと考えられる。

第15 b層以深からは人工遺物は出土していないが、府教委86-1調査区では第17層上面付近から、セタシジミ、ヤマトシジミ、カワザンショウなどの貝殻がブロック状にまとまって出土した（府発Ⅲ，p.23，図版31）。これについては自然の堆積と判断されたが、写真によれば貝殻が折り重なるように存在していたようであり、少なくとも現地性の貝殻ではなく、二次的に移動して堆積したものと考えられる。

## 註

11) シカの角にみられる加撃痕については、松井 章氏（奈良文化財研究所）に御教示いただいた。

## 参考文献（遺物関係）

寺沢 薫・森岡秀人編1989『弥生土器の様式と編年』近畿編1，木耳社，336p.

寺沢 薫・森岡秀人編1990『弥生土器の様式と編年』近畿編2，木耳社，445p.

正岡睦夫・松本岩雄編1992『弥生土器の様式と編年』山陰・山陽編，木耳社，529p.

原田昌則1993「久宝寺遺跡」『八尾市埋蔵文化財発掘調査報告』(財)八尾市文化財調査研究会報告37，pp.54-136.

辻 美紀1999「古墳時代中・後期の土師器に関する一考察」『国家形成期の考古学』大阪大学考古学研究室10周年記念論集，pp.351-365.

川西宏幸1978「円筒埴輪総論」『考古学雑誌』第64巻第2号，日本考古学会，pp.1-70.

古代の土器研究会編1992『古代の土器 1 都城の土器集成』，131p.

古代の土器研究会編1993『古代の土器 2 都城の土器集成Ⅱ』，132p.

古代の土器研究会編1994『古代の土器 3 都城の土器集成Ⅲ』，127p.

古代の土器研究会編1996『古代の土器 4 煮沸具（近畿編）』，299p.

積山 洋1993「律令制期の製塩土器と塩の流通」『ヒストリア』第141号，大阪歴史学会，pp.69-93.

菅原正明1983「畿内における土釜の製作と流通」『文化財論叢』奈良国立文化財研究所創立30周年記念論文集，pp.725-758.

(財)古代学協会・古代学研究所編1994『平安京提要』，角川書店，pp.689-758.

森島康雄1990「河内の羽釜」『中近世土器の基礎研究』Ⅵ，日本中世土器研究会，pp.55-62.

鋤柄俊夫1988「畿内における古代末～中世の土器－模倣系土器生産の展開－」『中近世土器の基礎研究』Ⅳ，日本中世土器研究会，



pp.11-85.

中世土器研究会編1995『概説 中世の土器・陶磁器』, 真陽社, 590p.

江戸遺跡研究会編2001『図説 江戸考古学研究事典』, 柏書房, pp.166-278, pp.280-402.

#### 参考文献 (文中引用分)

井上伸一1996「池島遺跡第14次調査概要」『東大阪市下水道事業関係発掘調査概要報告1994年度』, (財)東大阪市文化財協会, pp.9-16.

井上智博1993 a 「池島・福万寺遺跡における水稲農耕のはじまり－水稲農耕の定着過程を考えるための基礎研究 1－」『大阪文化財研究』第4号, (財)大阪文化財センター, pp.1-18.

井上智博1993 b 「水田に残された石器」『大阪文化財研究』第5号, (財)大阪文化財センター, pp.1-8.

井上智博1995「八尾市福万寺地区における現景観の形成過程－池島・福万寺遺跡(福万寺I期地区)の調査から－」『大阪文化財研究』第9号, (財)大阪府文化財調査研究センター, pp.29-54.

井上智博1999「池島・福万寺遺跡の形成過程と景観変遷」『研究報告』第2集, (財)大阪府文化財調査研究センター, pp.197-213.

磯貝富士男2002『中世の農業と気候－水田二毛作の展開－』, 吉川弘文館, 342p.

江浦 洋1991 a 「河内玉作り遺跡と甕形土器」・羽釜・甌『韓式系土器研究』Ⅲ, 韓式系土器研究会, pp.138-150.

江浦 洋1991 b 「古墳時代集落の変遷と特質－池島・福万寺遺跡の古墳時代集落の評価をめぐる予察－」『池島・福万寺遺跡発掘調査概要』Ⅱ, (財)大阪文化財センター, pp.127-136.

江浦 洋1991 c 「弥生時代水田の総合的理解のための基礎作業 1」『大阪文化財研究』第2号, (財)大阪文化財センター, pp.1-10.

江浦 洋1992 a 「水田面に残る足跡と農耕具痕－池島・福万寺遺跡における若干の事例－」『大阪文化財研究』20周年記念増刊号, (財)大阪文化財センター, pp.1-22.

江浦 洋1992 b 「条里型水田面をめぐる諸問題」『池島・福万寺遺跡発掘調査概要』Ⅶ, (財)大阪文化財センター, pp.77-104.

江浦 洋1994「小区画水田造成技術の変革－六角形小区画水田の提唱－」『文化財学論集』, 文化財学論集刊行会, pp.125-134.

江浦 洋1996「古代の土地開発と地鎮め遺構」『帝京大学山梨文化財研究所研究報告』第7集, pp.53-86.

小野久隆1995「古墳時代河内に於ける玉生産について」『研究紀要』vol.2, (財)大阪文化財センター, pp.58-100.

金原正明・井上智博・金原正子1997「池島・福万寺遺跡IFJ95-2調査区の花粉層序と植生と環境の検討」『池島・福万寺遺跡発掘調査概要』X X I, (財)大阪府文化財調査研究センター, pp.116-129.

久保和士1999『動物と人間の考古学』, 真陽社, pp.85-133.

河野通明1994『日本農耕具史の基礎的研究』, 和泉書院, pp.540-546.

佐藤甲二1998「畑跡の畝間と耕作痕について－仙台市域の考古学的事例から－」『人類誌集報1998』東京都立大学考古学報告3, pp.43-61.

佐藤甲二1999「水田址に関する擬似畦畔Bと連続耕作－仙台市富沢遺跡の事例から－」『人類誌集報1999』東京都立大学考古学報告4, pp.231-255.

三宮昌弘1991「1989年度調査の成果と課題に関する一私見」『池島・福万寺遺跡発掘調査概要』89-1～6調査区の概要, (財)大阪文化財センター, pp.167-170.

信田真美世1995「453 墨書土器」『摂河泉発掘資料精選』, (財)大阪府文化財調査研究センター, p.132.

下村晴文1990『山賀遺跡発掘調査概要－付弥刀・瓜生堂・縄手・若江遺跡発掘調査概要－』, 東大阪市教育委員会, p.19.

辻本裕也2002「98-1調査区の花粉・珪藻分析」『池島・福万寺遺跡発掘調査概要』X X VIII, (財)大阪府文化財調査研究センター, pp.88-101.

八賀 晋1979「水田区画にみる水稲耕作技術」『日本の黎明 考古資料にみる日本文化の東と西』, 京都国立博物館, pp.226-231.

- 別所秀高・井上伸一2001「糸界線に相当する畦畔の築造・維持・廃棄過程とその微細形態学的特徴－大阪府意岐部遺跡第5次調査の事例－」『日本文化財科学会第18回大会研究発表要旨』,日本文化財科学会, pp.54-55.
- 真家和生1995「池島・福万寺遺跡出土の足跡痕からの体格および歩容の推定について」『池島・福万寺遺跡発掘調査概要』XI, (財大 阪文化財センター, pp.105-112.
- 松井 章1995 a 「古代・中世の村落における動物祭祀」『国立歴史民俗博物館研究報告』第61集, pp.55-71.
- 松井 章1995 b 「池島・福万寺遺跡の動物遺存体」『池島・福万寺遺跡発掘調査概要』X I, (財大 阪文化財センター, pp.99-104.
- 松田順一郎1994 a 「足跡とは似而非なるロードキャストについて」『東大阪市文化財協会ニュース』vol.6, No2, (財大 阪市文化財協会, pp.1-5.
- 松田順一郎1994 b 「池島遺跡第11次発掘調査報告」『東大阪市下水道事業関係発掘調査概要報告1992年度』, (財大 阪市文化財協会, pp.49-68.
- 松田順一郎1995「池島遺跡第12次調査報告」『東大阪市下水道事業関係発掘調査概要報告1993年度』, (財大 阪市文化財協会, pp.23-30
- 松田順一郎2001「大阪府布市遺跡の中世畑耕作地にみられた微細堆積相」『日本文化財科学会第18回大会研究発表要旨』,日本文化財科学会, pp.56-57.
- 松田順一郎・バリノ・サーヴェイ(株)1996『北島遺跡の耕作地跡と古環境』, (財大 阪市文化財協会, 157p.
- 新倉 香・朝田公年・秋山浩三2000「98-3調査区における調査成果 (2) 基本層序」『池島・福万寺遺跡』1, (財大 阪府文化財調査研究センター, pp.36-38.
- 能登 健1997「中近世の農業」大塚初重ほか編『考古学による日本歴史』2 産業 I, 雄山閣出版, pp.71-84.
- 宮路淳子2001「遺跡土壌の微細形態学的解析」松井 章編『日本の美術』No.423 環境考古学, 至文堂, pp.28-31.
- 宮地良典・田結庄良昭・吉川敏之・寒川 旭1998「大阪東南部の地質」地域地質研究報告(5万分の1地質図幅),地質調査所, p.88.
- 宮本 誠1994『奈良盆地の水土史』, 社団法人農山漁村文化協会, 309p.
- 村田幸子1995「水田域における石器の製作と利用について－池島・福万寺遺跡出土の石器から－」『大阪文化財研究』第7号, (財大 阪文化財センター, pp.29-44.
- 森本 徹1997「古墳時代送葬儀礼專業集落についての覚書」『大阪文化財研究』第12号, (財大 阪府文化財調査研究センター, pp.11-18.
- 若月利之1997「水田土壌」久馬一剛編『最新土壌学』, 朝倉書店, pp.157-178.
- 渡辺典子1995「銅鈴二例」『大阪文化財研究』第8号, (財大 阪文化財センター, pp.77-80.
- 矢田 勝1999「水田跡と表層地形」『水田跡・畑跡をめぐる自然科学』第9回東日本の水田跡を考える会資料集, p.5.
- 山川 均1995「書評 宮本 誠著『奈良盆地の水土史』」『古代学研究』第131号, 古代学研究会, pp.44-51.
- 山崎頼人・秋山浩三・朝田公年2000「池島・福万寺遺跡における土器埋納遺構ほかの集成とその特質」『池島・福万寺遺跡』1, (財大 阪府文化財調査研究センター, pp.112-128.
- 吉田 稔2001「北島 きたじま遺跡・埼玉県熊谷市」文化庁編『発掘された日本列島 2001新発見考古速報』,朝日新聞社, pp.26-27.
- Inoue, T. 1999. Early irrigation systems of rice paddy fields in Japan. Coles, B., Coles, J. & Jørgensen, M. (eds.) *Bog bodies, Sacred Sites and Wetland Archaeology*. WARP Occasional Paper 12, pp.115-120.

## 掲載遺物一覧表

1. 記述項目の違いから、古墳時代の滑石製品・玉類とそれ以外にわけて表を作成した。
2. 遺構・層名は、本書の遺構・層名である。
3. 土器の時期については主に、古代～近世は暦年代で示し、須恵器は中村 浩編年、古式土師器は原田昌則編年、弥生土器は寺沢 薫・森井貞雄編年による型式・様式名で示した。
4. 土器の法量については、口径、底径（高台径）を記入し、それが何分の1残存しているかを括弧内に示した。上から下まで残存しているもののみ、器高を記入している。
5. 土器の特徴において（生）と示したものは、生駒西麓産と思われる角閃石の入った胎土の土器であることを示す。
6. 掲載番号の欄には、概報番号－挿図番号－挿図内番号を記入した。
7. 滑石製玉類の特徴の欄に記入した数字は、第VI章3の表VI-1に記載した分類基準に準拠している。

図版番号	写真番号	器種	層序	遺構	時期	法量 (cm)	特徴	調査年度	標要掲載番号
7 1	37	磁器碗	第1a層	17C後半～18C前半	高台径: 4.6(1/4)	波佐見焼 染付 一重綱目・裏付袖なし	89-2(C)	XW-9-5	
7 2	37	磁器碗	第1a層	17C後半～18C前半	高台径: 4.6(底干のみ)	波佐見焼 染付 一重綱目・裏付袖なし、内面貫入あり	89-1	1-27-1	
7 3	37	磁器碗	第1a層	17C後半	口径: 10.0(1/3) 底径: 4.4(1/3) 現高: 6.2	波佐見焼 染付 一重綱目・裏付袖なし	90-2(H4)	X-5	
7 4	37	磁器碗	第1a層	180719C	口径: 4.2(1/4) 現高: 7.0	一重綱目 染付	89-3	1-34-4	
7 5	37	磁器碗	第1a層	17C後半	口径: 12.0(1/4)	波佐見焼 染付	92-7	未掲載	
7 6	37	磁器碗	第1a層	18C	口径: 11.8(1/5)	波佐見焼 染付	89-3	1-34-2	
7 7	37	磁器碗	第1a層	17C	口径: 9.7(1/4) 底径: 4.05(1/2) 器高: 5.5	波佐見焼 染付 鳥文 (中国のものを模倣している?)、内外面貫入あり	93-2(A)	XW-9-3	
7 8	37	磁器鉢	第1a層	18C	口径: 13.6(1/7)	波佐見焼 染付 鳥文	90-6	未掲載	
7 9	37	磁器鉢	第1a層	18C	口径: 4.6(1/5)	波佐見焼 染付 鳥文	90-5	未掲載	
7 10	37	磁器鉢	第1a層	18C	口径: 8.8(1/8)	波佐見焼 染付 鳥文	90-6	未掲載	
7 11	37	磁器鉢	第1a層	19C	口径: 10.8(1/4) 高台径: 3.4(2/5) 器高: 5.5	波佐見焼 染付 中国の熟語?」を描く	89-1	1-27-2	
7 12	37	磁器鉢	第1a層	19C	口径: 9.0(1/8)	波佐見焼 染付	93-2(A)	未掲載	
7 13	42	磁器重ね鉢	第1a層	18C	口径: 9.2(1/4) つまみ径: 3.6(2/5) 器高: 2.9	伊万里窯系 五彩	90-2(H2)	III-8	
7 14	37	磁器碗	第1a層	17C後半	高台径: 4.0(1/3)	伊万里窯系 染付 若の字・鳥・宝・空・くしのくずしが?	90-3(B)	未掲載	
7 15	37	磁器碗	第1a層	1620年代	高台径: 4.2(1/2) 現高: 3.4	唐津窯系 刷毛目・鳥・鳥目あり	90-3(A)	未掲載	
7 16	37	磁器碗	第1a層	1620年代	高台径: 4.2(1/2) 現高: 3.4	唐津窯系 刷毛目・鳥・鳥目あり	89-1	1-34-1	
7 17	37	磁器碗	第1a層	16C末～17C初	口径: 11.0(1/5) 底径: 4.2(1/5) 現高: 3.2	唐津窯系 総袖	93-2(D)	未掲載	
7 18	37	磁器碗	第1a層	18C	口径: 6.0(1/4) 底径: 2.6(1/4) 現高: 1.3	産地不明 内面貫入あり	93-2(A)	XW-9-1	
7 19	37	磁器碗	第1a層	17C後半～18C前半	高台径: 5.6(2/3)	肥前窯系 京都系碗 (刷印は清水) 内外面貫入あり	90-2(H3)	VI-8-2	
7 20	38	瓦質円板	第1a層	?	口径: 28.0(1/2)	陶子か?	93-2(A)	XW-9-6	
7 21	38	瓦質円板	第1a層	?	最大径: 3.2	陶子か?	90-3(C)	未掲載	
7 22	38	瓦質円板	第1a層	?	直径: 1.65	面子か?	92-6	XW-6-2	
7 23	38	ニチュア土製品	第1a層	18～19C	最大径: 2.0	泥面子 梅花文	92-6	XW-6-1	
7 24	38	ニチュア土製品	第1a層	18～19C	最大径: 1.8	泥面子 亀甲文	92-6	XW-6-3	
7 25	38	ニチュア土製品	第1a層	18～19C	最大長: 1.95	泥面子 亀か?	92-6	XW-6-4	
7 26	38	ニチュア土製品	第1a層	18～19C	最大幅: 2.6	泥人形 馬か?	90-2(H3)	VI-6	
7 27	38	ニチュア土製品	第1a層	18～19C	最大長: 4.7	泥人形 馬比壽	92-7	XW-25-1	
7 28	38	ニチュア土製品	第1a層	18～19C	最大幅: 5.0	泥人形 馬	92-7	XW-25-2	
7 29	38	ニチュア土製品	第1a層	18～19C	最大長: 4.65	泥人形 獅子	93-2(A)	XW-9-4	
7 30	37	軒平瓦	第1a層	近世	瓦当幅: 13.8(1/3)	巴文	89-1	1-34-3	
7 31	37	軒平瓦	第1a層	近世	瓦当幅: 4.2	唐草文	90-2(H2)	未掲載	
7 32	39	木製下駄	第1a層	18C後半～16C	長さ: 15.7 幅: 8.7 高: 3.5～3.8	割り下駄か?	90-2(H3)	VI-8-1	
7 33	39	木製下駄	第1a層	18C後半～?	身長: 6.0 最大径: 0.9	吸い口	90-2(H3)	VI-8-1	
7 34	39	金属製キセル	第1a層	18～19C	現長: 6.5 最大径: 1.1	吸い口	92-6	未掲載	
7 35	39	金属製キセル	第1a層	?	現長: 9.3 幅: 0.85 厚: 0.05	全具?	92-6	XW-5-4	
7 36	38	銭貨	第1a層	?	径: 2.5 重さ: 2.0g	寛永通寶	92-6	XW-5-3	
7 37	38	銭貨	第1a層	?	径: 2.2 重さ: 1.8g	寛永通寶	92-6	XW-5-2	
7 38	38	銭貨	第1a層	?	径: 2.4 重さ: 2.2g	寛永通寶	89-2	1-22	
7 39	38	銭貨	第1a層	?	径: 2.3 重さ: 1.6g	寛永通寶	89-1	1-19	
7 40	38	銭貨	第1a層	?	径: 2.8 重さ: 6.6g	寛永通寶	89-1	1-19	
7 41	38	銭貨	第1a層	?	径: 3.2 重さ: 13.1g	2銭銅貨 明治8年	89-1	1-19	
8 1	39	井戸枠瓦	第1b層	近世	長さ: 24.5 幅: 24.0 厚さ: 2.4～4.0	外: すべり止めのタタキ 内: ナデ	93-2(B)	XW-12-1	
8 2	39	磁器蓋	第1b層	18C	口径: 10.0(1/7)	波佐見焼 染付	93-2(B)	XW-12-4	
8 3	39	磁器蓋	第1b層	18C	口径: 31.8(1/8)	波佐見焼 染付	93-2(B)	XW-12-5	
8 4	39	磁器蓋	第1b層	江戸時代	口径: 5.0(1/2弱) 口径: 9.8(1/2) 現高: 2.8	おそく壺蓋鉢 1庫付3cm幅10袋	93-2(B)	XW-12-2	
8 5	40	硯	第1b層	18C中頃～後半	現長: 15.15 幅: 7.5 最大厚: 2.6	高麗石 外面以外黒色物質塗布、窪みは砥石としての使用痕か?	93-2(B)	XW-12-3	
8 6	39	磁器椀	第1b層	?	口径: 10.4(1/8) 高台: 4.6(1/4) 現高: 5.8	波佐見焼 染付 裏付袖なし、内底面袖か取り	92-7	未掲載	
8 7	40	漆器椀	第1b層	?	口径: 11.6(1/6)	外面: 黒塗 内面: 朱塗	92-7	未掲載	
8 8	40	磁器鉢蓋	第1b層	17C後半～18C前半	口径: 11.0(1/4)	唐津窯系 灰釉無文、内外面貫入あり	90-1	未掲載	
8 9	40	磁器鉢蓋	第1b層	18C	口径: 10.65(2/3) 高台径: 5.9(完) 器高: 2.8	伊万里窯系 内外面貫入?	90-1	未掲載	
8 10	40	磁器血	第1b層	?	口径: 13.8(1/2) 高台径: 8.2(1/2) 器高: 2.1	波佐見焼 染付 外底面、□の中に「福」を渦巻状に	90-1	未掲載	
8 11	40	磁石	第1b層	?	現長: 9.7 最大幅: 7.7 最大厚: 6.9 重さ: 663.0g	漆絞着質凝灰岩 4面使用	90-1	XW-78-1	
8 12	40	錠石	第1b層	?	現長: 5.0 幅: 0.5 厚さ: 0.5	外: 指押さえるナデ 内: 指押さえるナデ	90-2(H2)	未掲載	
8 13	—	土師器皿	第1b層	17C?	口径: 7.4(1/2) 器高: 1.9	土人形 鬚 棒状の差し込み孔あり	92-7	未掲載	
8 14	40	木製下駄	第1b層	18～19C	現長: 2.0 現幅: 2.8 現厚: 1.1	唐津窯系灰釉 茶入れの蓋	90-1	未掲載	
8 15	40	木製椀	第1b層	16C末～17C	口径: 4.0(1/2) 器高: 1.55	無縁下駄	92-7	XW-24-3	
8 16	—	木製椀	第1b層	?	長さ: 22.8 最大幅: 0.7	耳かきが付く、金メッキ	92-7	XW-24-2	
8 17	40	木製椀	第1b層	?	長さ: 19.3 幅: 7.2 高さ: 3.2	外: ナデ 内: ナデ	92-7	XW-24-1	
8 18	40	木製椀	第1b層	?	長さ: 19.5 最大幅: 1.4 鍍金: 1.4	肥前窯系黒釉 高台部袖なし	89-2	1-37-2	
9 19	41	木製椀	第1b層	?	径: 14.3(完) 最大高: 10.0	瀬戸・美濃窯系黒釉 天目	90-6(D)	未掲載	
9 20	41	瓦質土器	第1b層	?	径: 13.3～13.7 最大高: 8.8	唐津窯系灰釉 高台部袖なし	92-7	未掲載	
9 21	—	土師器鉢	第1b層	?	径: 14.3～14.5(完)	唐津窯系灰釉 高台部袖なし	90-1	未掲載	
9 22	42	磁器鉢	第1b層	19C	口径: 約6.0(1/6) 高台径: 6.7(一説欠) 現高: 20.5	外: ナデ 内: ナデ	89-2	1-37-2	
10 1	41	磁器鉢	第1b層	16C中頃	口径: 12.2(1/5)	肥前窯系黒釉 高台部袖なし	90-6(D)	未掲載	
10 2	41	磁器鉢	第1b層	17C前半	口径: 6.8(1/3)	瀬戸・美濃窯系黒釉 天目	92-7	未掲載	
10 3	41	磁器重ね鉢	第1b層	18C	口径: 8.2(1/7) 高台径: 7.4(1/4) 現高: 3.1	唐津窯系 灰釉 (残存部の袖は内面のみ) 砂目あり	90-1	XW-23-1	
10 4	41	磁器碗	第1b層	18C	高台径: 4.3(1/4)	伊万里窯系染付 銅唐草文	90-1	未掲載	
10 5	41	磁器碗	第1b層	18C	口径: 8.4(1/3)	波佐見焼染付 裏付袖なし、内外面貫入あり、冷め割り	90-1	XW-23-2	
10 6	41	磁器碗	第1b層	16C末～17C初	口径: 9.8(1/2) 高台径: 5.3(1/2) 器高: 2.2	備前焼 美濃窯系 灰釉 割れ口、底部にス	90-3(A)	未掲載	

図版番号/写真番号 図版	器種	層序	遺構	時期	法量 (cm)	特徴	調査年度	概要掲載番号
10 7	土師器皿	第1b層	16~17Cか?	口径: 8.9(1/2) 器高: 2.1	へそ系 外面: 指押さえナデ 内面: ナデ、工具痕あり	90-3(A)	未掲載	
10 8	土師器皿	第1b層	16~17Cか?	口径: 9.6(1/3) 器高: 2.4	外面: 指押さえナデ 内面: ナデ	90-3(A)	未掲載	
10 9	土師器羽釜	第1b層	15Cか?	口径: 31.0(1/6)	外面: 楕円ナデ 内面: ハケメ、スス付着	92-7	未掲載	
10 10	木製椀	第1b層	?	高さ: 4.4 幅: 9.3 最大厚: 1.3	彫刻61本か	93-1(B)	未掲載	
14 1	陶器杯	第2-1a層	17C	高台径: 3.4(突)	三日月高台、貫入あり	90-2(H3)	未掲載	
14 2	陶器碗	第2-1a層	15C前半	高台径: 3.85~4.0(一部欠)	龍泉窯系	90-2(H2)	未掲載	
14 3	中国青磁碗	第2-1a層	17C前半	高台径: 6.2(1/4)	龍泉窯系 印蓮文、内外面貫入あり	89-1	未掲載	
14 4	中国白磁碗	第2-1a層	17C中	高台径: 8.0(1/5)	景德鎮窯系 書簡底、裏付けに砂付着	89-1	未掲載	
14 5	陶器青磁碗	第2-1a層	16~17C	口径: 12.0(1/10) 高台径: 4.8(1/4) 器高: 4.0	龍泉窯系 胎土目あり、貫入あり	93-2(C)	未掲載	
14 6	陶器青磁碗	第2-1a層	1620年代	口径: 11.8(1/6)	龍泉窯系	89-2	未掲載	
14 7	陶器青磁碗	第2-1a層	16C末~17C初	高台径: 3.9(突)	景徳鎮窯系 裏付に砂付着	89-3	未掲載	
14 8	土師器碗	第2-1a層	16C後半	高台径: 5.9(1/4)	景徳鎮窯系 裏付に砂付着	92-7	未掲載	
14 9	中国磁器皿	第2-1a層	18C	口径: 32.2(1/8)	明隆 口径目2.8cmで8条	90-1	XI-23-3	
14 10	陶器襷鉢	第2-1a層	?	径: 2.8	皿か? 凹縁を際している	89-1	I-36-6	
14 11	瓦質円板	第2-1a層	?	真(三)径: 16.5 刃部最大幅: 3.7	皿か? 凹縁を際している	89-1	I-36-7	
14 12	鉄貨	第2-1a層	?	径: 2.45 重さ: 3.5g	祥符元寶 北宋銭で初鋳1099年	93-1	XV-19	
14 13	鉄貨	第2-1a層	?	径: 2.45 重さ: 3.2g	政和通寶 北宋銭で初鋳1111年	93-1(B)	VII-6	
14 14	鉄貨	第2-1a層	?	径: 2.2 重さ: 1.7g	弘武通寶 明銭で初鋳1368年、天正~元禄(1580年~)の摩滅跡か?	92-6	XIV-8-1	
14 15	鉄貨	第2-1a層	?	高台径: 4.5(2/5)	弘武通寶 明銭で初鋳1368年、天正~元禄(1580年~)の摩滅跡か?	90-2(H3)	VI-2-13	
16 1	磁器碗	第2-2a層	17C前半	口径: 7.9(1/2) 器高: 2.0	波佐見焼 五彩 裏付露胎	92-7	未掲載	
16 2	磁器鉢	第2-2a層	16C後半~17C初	口径: 14.6(1/6)	肥前系 重ねの痕跡	90-3(A)	未掲載	
16 3	陶器鉢	第2-2a層	16C前半	口径: 14.6(1/6)	瀬戸・美濃窯系 鉄泥(釉) 建窯のまね	89-2	I-36-3	
16 4	陶器大目茶碗	第2-2a層	16~17C	口径: 7.9(1/2) 器高: 1.8	瀬戸・美濃窯系 鉄泥(釉) 内: ナデ	93-1(A)	XV-25-2	
16 5	土師器皿	第2-2a層	16C?	口径: 32.6(1/10)	外: 指押さえナデ 内: 楕円目あり	93-2	未掲載	
16 6	瓦質襷鉢	第2-2a層	14C後半~15C後半	最大径径: 37.8(1/10)	2集1対の唐草文スタンプ	93-1(B)	XV-23-2	
16 7	瓦質火鉢	第2-2a層	14C前半	口径: 14.4 幅: 5.8 現厚: 0.5	半載菊唐草文、ナデ	90-3(A)	未掲載	
16 8	軒平瓦	第2-2a層	?	瓦当幅: 4.3	半載菊唐草文、ナデ	90-3(A)	未掲載	
16 9	瓦質土管	第2-2a層	18C	口径: 15.0(1/2強)	外: ナデ 内: 指押さえナデ	93-1(A)	XV-22-4	
16 10	丸瓦	第2-2a層	?	長: 34.2 幅: 15.1 高: 7.9	凸面: 楕円目タタキ、一部布目、ヘラ削り 凹面: 布目	89-2	I-37	
16 11	丸瓦	第2-2a層	?	長: 40.0 幅: 15.2 高: 8.3	凸面: 楕円目タタキ、一部布目、ヘラ削り 凹面: 布目の後一部破ナデ	93-1	XV-22-2	
16 12	丸瓦	第2-2a層	?	長: 39.8 幅: 14.7 高: 8.0	凸面: 楕円目タタキの後一部ナデ 凹面: 布目の後破ナデ	93-1	XV-22-1	
16 13	丸瓦	第2-2a層	?	現長: 16.0 幅: 15.2 高: 8.0	凸面: 楕円目タタキの痕跡として残る	93-1	XV-22-3	
16 14	鉄製鍋	第2-2a層	?	現長: 5.9 現幅: 3.9 現厚: 0.3	楕円蓋	93-1(B)	XV-23-2	
17 16	鉄製鍋	第2-2a層	?	現長: 14.4 幅: 5.8 現厚: 0.5	楕円蓋	90-2(H3)	VI-16-1	
17 17	木製の平底板	第2-2a層	?	口径: 14.1 厚: 0.7	不詳か	90-3(A)	II-10	
17 18	漆器椀	第2-2a層	?	径: 2.5 重さ: 2.84g	内外面黒漆	90-1	未掲載	
17 19	鉄貨	第2-2a層	?	径: 2.45 重さ: 3.79g	祥符元寶 北宋銭 初鋳1099年	90-2(H3)	VI-16-2	
17 20	鉄貨	第2-2a層	?	径: 2.45 重さ: 3.79g	天聖元寶 北宋銭 初鋳1023年	90-1	XII-29-1	
17 21	鉄貨	第2-2a層	?	径: 2.45 重さ: 3.39g	天聖元寶 北宋銭 初鋳1023年	92-6	XIV-8-2	
17 22	鉄貨	第2-2a層	?	径: 2.3 重さ: 2.4g	天聖通寶 明銭 初鋳1368年	90-3(C)	XI-10	
17 23	鉄貨	第2-2a層	?	口径: 25.6(1/10)	外: ナデ 内: ナデ (楕円目タタキ少し痕跡として残る) 凹面: 布目後一部破ナデ	90-2(H4)	未掲載	
18 1	瓦質羽釜	第2b層	15Cか?	口径: 7.9(1/4) 器高: 2.0	外: 指押さえナデ、ヘラ削り、スス付着 内: ヨコナデ、ハケメ	89-1	I-39-1	
18 2	土師器皿	第2b層	15C後半か?	口径: 10.0(1/6) 高台径: 5.0(1/3) 器高: 2.4	外: 指押さえナデ、口縁露胎スス付着 内: ナデ	90-1	未掲載	
18 3	磁器皿	第2b層(混入)	17C末	口径: 11.7(突) 高台径: 4.6(突) 器高: 3.1	伊万里窯系 染付 鉢袖による口紅、裏付露胎	90-1	未掲載	
18 4	中国製磁器棧花皿	第2b層	?	現長: 20.4 最大幅: 3.0 最大厚: 1.5	龍泉窯系青磁 内底面: 山形の袖切り、外底面: 露胎、貫入あり	90-1	未掲載	
18 5	瓦状木製品	第2b層	?	現長: 14.0 最大幅: 3.0 最大厚: 1.5 孔径: 1.1		90-1	未掲載	
18 6	木製茶壺	第2b層	?	現長: 9.7 幅: 2.2 厚: 0.1		89-2	I-39-3	
18 7	柿殻	第2b層	?	径: 8.0 最大厚: 0.9		93-1	XV-24	
18 8	漆器蓋?	第2b層	?	口径: 13.6(1/4)	内外面: 黒漆	93-1	XV-25-3	
24 1	瓦器椀	第3-2a層	13C前半	口径: 19.8(1/10)	外: 指押さえナデ 内面: 雑なヘラミガキ	90-2(H2)	III-15-2	
24 2	石鍋	第3-2a層	14Cか?	口径: 7.5~7.8(突) 器高: 1.5	滑石製 外: 削り、スス付着 内: 削り、ミガキ	90-2(H2)	III-15-3	
24 3	土師器皿	第3-2a層	14Cか?	口径: 9.0(1/4)	外: ヨコナデ、指押さえナデ 内: ヨコナデ、ナデ	92-7	XIV-32-1	
24 4	土師器皿	第3-2a層	16Cか?	口径: 12.0(1/7)	外: ヨコナデ、指押さえナデ 内: ヨコナデ、指押さえナデ	90-2(H3)	VI-20	
24 5	土師器皿	第3-2a層	14Cか?	口径: 8.2(突) 器高: 1.3~1.9	外: ヨコナデ、指押さえナデ 内: ヨコナデ、ナデ	93-2(D)	XVI-16-1	
24 6	磁石	第3-2a層	16~17C	現長: (31+8.7) 幅: 2.4	流紋岩 4面使用	93-2(A)	XVI-16-2	
24 7	柿殻	第3-2a層	?	現長: 21.0 最大幅: 10.2 最大厚: 3.1 重さ: 233.8g	運樹下駄(器) 右足か?	90-1	未掲載	
24 8	木製下駄	第3-3a~3-4a層	?	現長: 19.4 最大幅: 2.0 厚: 1.3	[生故然] 刀得成足	90-3(C)	XI-12	
24 9	鉄製馬塚の唐	第3b層	14Cか?	口径: 6.0~8.3(一部欠)	外: ヨコナデ、指押さえ 内: ヨコナデ、ナデ	90-3(C)	II-13-2	
25 1	土師器皿	第3b層	13C末~14C初	口径: 12.3(1/2) 器高: 1.3	外: ヨコナデ、指押さえ 内: ナデ、ラセン状ヘラミガキ	90-3(A)	II-13-1	
25 2	瓦質茶碗	第3b層	15C後半	口径: 13.4(3/4) 器高: 5.6	瀬戸窯系灰釉 糸切川底、トチン跡	90-1	XII-23-5	
25 3	瓦質羽釜	第3b層	15Cくらい	口径: 23.0(1/5)	外: 2段ヨコナデ、ナデ 内: ヨコナデ、指押さえナデ	90-3(A)	II-13-4	
25 4	瓦質羽釜	第3b層	15Cくらい	口径: 25.8(1/8)	外: 2段ヨコナデ、ナデ 内: ヨコナデ、指押さえナデ	90-3(A)	II-13-3	
25 5	瓦質羽釜	第3b層	15C前半	口径: 30.0(1/11)	外: ヨコナデ、ヘラ削り 内: ハケメの上をスリ目(1単位28本)	90-3(A)	II-13-5	
27 1	瓦器椀	第4a層	14C前半	口径: 10.2(1/2) 器高: 2.7	外: ヨコナデ、指押さえ 内: ナデ、ラセン状ヘラミガキ	90-2(H3)	VI-22-2	
27 2	瓦器椀	第4a層	14C前半	口径: 11.0(1/6)	外: ヨコナデ、指押さえ 内: ナデ、1条のヘラミガキ	90-2(H3)	VI-22-3	
27 3	瓦器椀	第4a層	13C末~14C初	口径: 11.6(1/6)	外: ヨコナデ、指押さえ 内: 雑なヘラミガキ	93-2	未掲載	



図版番号/写真番号 図版 番号	器種	層序	遺構	時期	法量 (cm)	特徴	調査年度	概要記載番号
27 4	瓦器椀	第4a層		12C前半	口径：15.2(2/3) 高台径：4.5~4.6(突) 器高：5.4	外：ヨコナデ、指押さえの後へラミガキ、見込み格子 内：密なへラミガキ	93-2(B)	X V - 20 - 2
27 5	瓦器椀	第4a層		12C中頃	口径：15.0~15.3(2/3) 高台径：4.5~4.6(突) 器高：5.4	外：ヨコナデ、指押さえの後へラミガキ、見込み平 行暗文	93-2(B)	X V - 20 - 3
27 6	土師器皿	第4a層		14~15C	口径：7.3~7.5(2/3) 器高：1.1	外：ヨコナデ、指押さえ 内：ヨコナデ、ナデ	90-2(H4)	X - 15 - 1
27 7	土師器皿	第4a層		14~15C	口径：7.5(7/8) 器高：1.1~1.5	外：ヨコナデ、指押さえ 内：ヨコナデ、ナデ	90-1	未掲載
27 8	土師器皿	第4a層		14~15C	口径：8.3~8.5(2/3) 器高：1.1~1.8	外：ヨコナデ、指押さえ 内：ヨコナデ、ナデ	90-2(H3)	V - 22 - 1
27 9	土師器皿	第4a層		14~15C	口径：8.5(2/5) 器高：1.3	外：ヨコナデ、指押さえ 内：ヨコナデ、ナデ、スス付蓋	90-1	未掲載
27 10	土師器皿	第4a層		14~15C	口径：9.0(1/3)	外：ヨコナデ、指押さえ 内：ヨコナデ、ナデ	90-2(H2)	X IV - 32 - 2
27 11	土師器皿	第4a層		14~15C	口径：9.8(1/4) 器高：1.4	外：ヨコナデ、指押さえ 内：ヨコナデ	92-7	X IV - 32 - 3
27 12	土師器皿	第4a層		13Cか?	口径：10.8(1/6)	外：ヨコナデ、指押さえ 内：ヨコナデ	93-2(C)	X - 15 - 2
27 13	土師器皿	第4a層		14Cか?	口径：12.7(1/6) 器高：1.7	外：ヨコナデ、指押さえ 内：ヨコナデ、ナデ、口縁部スス付蓋	93-2(C)	未掲載
27 14	土師器皿	第4a層		14Cか?	口径：18.6(1/7)	外：ヨコナデ、指押さえ 内：ヨコナデ、ナデ	89-1	1 - 43 - 1
27 15	瓦器椀	第4a層	島島179	小片		東播磨 外：矢羽状タタキ 内：ナデ	89-1	1 - 43 - 2
27 16	須恵器椀	第4a層		14C後半~15C前半	口径：27.2(1/8)	東播磨 外：ナデ 内：ナデ	90-3(A)	未掲載
27 17	須恵器椀	第4a層		12C末~13C中頃か?	口径：27.6(1/12)	東播磨 外：ナデ 内：ナデ	90-2(H4)	X - 15 - 3
27 18	須恵器椀	第4a層		12C末~13C初か?	口径：30.0(1/10)	東播磨 外：ヨコナデ 内：ヨコナデ、ナデ	90-2(H3)	V - 22 - 4
27 19	須恵器椀	第4a層		13C前半~後半か	口径：37.2(1/9)	東播磨 外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	93-2(D)	X V - 20 - 1
27 20	須恵器椀	第4a層		13C前半~後半か	口径：37.2(1/9)	東播磨 外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	92-7	X IV - 32 - 3
27 21	瓦質播磨鉢	第4a層		14Cか?	口径：31.4(1/10)	外：ヨコナデ、ヘラ削り 内：ヨコナデ、ナデ、スリ目	92-7	X IV - 32 - 4
27 22	瓦質播磨鉢	第4a層		14C末頃か?	口径：32.8(1/16)	外：ヨコナデ、ヘラ削り 内：ハケメの後スリ目 (1単位9条)	92-7	未掲載
27 23	瓦質播磨鉢	第4a層		15C前半か?	口径：34.2(1/13)	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、スリ目	93-1(B)	X V - 29 - 1
27 24	瓦質羽釜	第4a層	島島184	15Cぐさい	口径：25.5(1/12)	即面：布目痕の上をナデ 凸面：ヘラ削り	89-1	未掲載
27 25	瓦?	第4a層		?	現長：9.9 最大厚：2.3		93-1(A)	X V - 29 - 2
27 26	砥石	第4a層		?	現長：5.05 現幅：3.25 現厚：2.4 重さ：61.0g	流紋岩：4面使用	90-3(C)	未掲載
27 27	不明木製品	第4a層		?	現長：19.8 現幅：5.6 現厚：1.3 孔径：1.2	榎樹：スギ	90-2(H3)	V - 22 - 5
28 28	鉄製釘	第4a層		?	現長：12.5 現幅：0.7 現厚：1.08	さっぽろ釘?	90-3(C)	X I - 14 - 1
28 29	鉄製品	第4a層		?	現長：12.5 現幅：2.0 現厚：0.4		90-1	X I - 14 - 2
28 30	鉄製品	第4a層		?	現長：7.5 現幅：0.65 現厚：0.5		90-2(H4)	X - 15 - 4
28 31	鉄製馬拵の歯	第4a層		?	現長：20.0 最大幅：2.2 最大厚：1.5		90-5	III - 50 - 1
28 32	鉄製馬拵の歯	第4a層		?	現長：20.0 最大幅：2.7 最大厚：1.6		90-5	III - 50 - 2
28 33	銭貨	第4a層		?	径：2.5 重さ：3.6g	開元通寶 唐銭：初朝621年	90-5	III - 50 - 3
28 34	銭貨	第4a層		?	径：2.4 重さ：3.4g	至道元寶 北宋銭：初朝965年	90-5	III - 50 - 4
28 35	銭貨	第4a層		?	径：2.45 重さ：4.2g	景德元寶 北宋銭：初朝1004年	90-5	III - 50 - 5
28 36	銭貨	第4a層		?	径：2.5 重さ：3.4g	祥符元寶 北宋銭：初朝1009年	90-5	III - 50 - 6
28 37	銭貨	第4a層		?	径：2.45 重さ：3.0g	天聖元寶 北宋銭：初朝1023年	90-5	III - 50 - 7
28 38	銭貨	第4a層		?	径：2.5 重さ：4.1g	大聖元寶 北宋銭：初朝1023年	90-5	III - 50 - 8
28 39	銭貨	第4a層		?	径：2.5 重さ：3.6g	景祐元寶 北宋銭：初朝1038年	90-5	III - 50 - 9
28 40	銭貨	第4a層		?	径：2.4 重さ：3.2g	至和元寶 北宋銭：初朝1054年	90-5	III - 50 - 10
28 41	銭貨	第4a層		?	径：2.35 重さ：2.8g	嘉祐通寶 北宋銭：初朝1056年	90-5	III - 50 - 11
28 42	銭貨	第4a層		?	径：2.4 重さ：3.0g	熙寧元寶 北宋銭：初朝1068年	90-5	III - 50 - 12
28 43	銭貨	第4a層		?	径：2.45 重さ：3.9g	熙寧元寶 北宋銭：初朝1068年	90-5	III - 50 - 13
28 44	銭貨	第4a層		?	径：2.35 重さ：2.8g	元豐通寶 北宋銭：初朝1078年	90-5	III - 50 - 14
28 45	銭貨	第4a層		?	径：2.35 重さ：3.8g	元豐通寶 北宋銭：初朝1078年	90-5	III - 50 - 15
28 46	銭貨	第4a層		?	径：2.5 重さ：3.4g	元豐通寶 北宋銭：初朝1078年	90-5	III - 50 - 16
28 47	銭貨	第4a層		?	径：2.4 重さ：3.8g	元豐通寶 北宋銭：初朝1078年	90-5	III - 50 - 17
28 48	銭貨	第4a層		?	径：2.45 重さ：4.0g	元祐通寶 北宋銭：初朝1086年	90-5	III - 50 - 18
28 49	銭貨	第4a層		?	径：2.5 重さ：3.4g	元祐通寶 北宋銭：初朝1086年	90-5	III - 50 - 19
28 50	銭貨	第4a層		?	径：2.45 重さ：2.9g	聖宋元寶 北宋銭：初朝1101年	90-5	III - 50 - 20
28 51	銭貨	第4a層		?	径：2.35 重さ：4.1g	聖宋元寶 北宋銭：初朝1101年	90-5	III - 50 - 21
28 52	銭貨	第4a層		?	径：2.4 重さ：3.1g	聖宋元寶 北宋銭：初朝1107年	90-5	III - 50 - 22
28 53	銭貨	第4a層		?	径：2.45 重さ：3.2g	宣和通寶 北宋銭：初朝1119年	90-5	III - 50 - 23
28 54	銭貨	第4a層		?	径：2.4 重さ：3.6g	宣和通寶 北宋銭：初朝1119年	90-5	III - 50 - 24
28 55	銭貨	第4a層		?	径：2.4 重さ：3.0g	嘉慶通寶 南宋銭：初朝1208年	90-5	III - 50 - 25
28 56	銭貨	第4a層		?	径：2.4 重さ：3.0g	嘉慶通寶 南宋銭：初朝1208年	90-5	III - 50 - 26
30 1	瓦器椀	第5a層		12C前半	口径：15.6(1/4) 高台径：5.6(1/2) 現高：5.0	外：ヨコナデ、指押さえナデ 内：密なへラミガキ、見込み格子状暗文	93-2(D)	X V - 22 - 2
30 2	瓦器椀	第5a層		12C末~13C初	口径：14.2(1/6) 高台径：4.4~4.5 器高：1.7	外：ヨコナデ、指押さえナデ 内：密なへラミガキ、見込み平行暗文か?	93-2(D)	X V - 22 - 1
30 3	中国製白磁皿	第5a層		13C	口径：7.7~7.8(一部欠) 底径：4.4~4.5 器高：1.7	区別C 口差げ	93-2(C)	未掲載
30 4	瓦器椀	第5a層		13C末~14C初	口径：12.2(2/5)	外：ヨコナデ、指押さえナデ 内：密なへラミガキ	93-2(C)	未掲載
30 5	瓦器椀	第5a層		13C中頃	口径：21.4(1/4)	外：ヨコナデ、指押さえナデ 内：ヨコナデ、ナデ	93-1(A)	X V - 34 - 1
30 6	瓦器椀	第5a層		14C	口径：21.4(1/4)	外：ヨコナデ、指押さえナデ 内：ヨコナデ、ナデ	93-1(B)	X V - 34 - 2
30 7	土師器羽釜	第5a層		?	現長：18.7 現幅：2.1 現厚：1.3	脊?	93-1(A)	X V - 35
30 8	鉄製馬拵の歯	第5a層		?	現長：6.2 現幅：5.0 現厚：0.5		90-6(D)	未掲載
30 9	鉄製馬拵の歯	第5a層		?	長：13.6 幅：1.1 厚：1.5		93-1(B)	X V - 34 - 2
30 10	不明木製品	第5a層		?	現長：25.4 最大幅：4.3 最大厚：2.4		93-1(A)	X V - 35
30 11	土師器皿	第5a層		?	口径：8.8(2/3) 器高：1.4	外：ヨコナデ、指押さえ 内：ヨコナデ、ナデ	93-1(B)	X V - 40 - 6
32 1	瓦器椀	第6a層		13C中頃	口径：13.7(1/6) 高台径：2.9~3.0(一部欠) 現高：4.5	外：ヨコナデ、指押さえ 内：ラテ状へラミガキ	93-2(H4)	X - 17
32 2	瓦器椀	第6a層		13C前半	底径：4.3(一部欠)	外：指押さえ、ナデ、ヘラ痕 内：密なへラミガキ、見込み平行状暗文、重凸状痕	93-1(B)	X V - 40 - 5



図版番号/写真番号 図版 番号	器種	層序	遺構	時期	法量 (cm)	特徴	調査年度	概要掲載番号
32 4	瓦器椀	第6a層	水路10	13C前半	口径：14.8(1/2) 高台径：3.6(1/2) 器高：3.8-4.8	外：ヨコナデ 指押さえナデ 内：雌なへらミカキ、見込み平行状陶文 外：ヨコナデ 指押さえ 内：ヨコナデ、ナデ 外：ヨコナデ 指押さえの雌雄なへらミカキ 内：やや密なへらミカキ、見込み平行状陶文	93-3(C) 90-3(A) 93-1(A)	XI-23-3 XV-40-3 XV-40-1
32 5	瓦器椀	第6a層	四・五ノ坪間坪壇跡群	12C中頃	口径：15.2(1/6) 高台径：5.6(実) 現高：5.0	外：ヨコナデ 指押さえの雌雄なへらミカキ 内：密なへらミカキ、見込み平行状陶文 外：ヨコナデ、指押さえナデ 内：密なへらミカキ、見込み平行状陶文	93-1(A) 93-1(A)	XV-40-2
32 7	瓦器椀	第6a層	四・五ノ坪間坪壇跡群	12C後半	口径：15.0(1/2強) 高台径：5.4 現高：5.3くらゐ	外：ヨコナデ、指押さえの雌雄なへらミカキ 内：密なへらミカキ、見込み平行状陶文 外：ヨコナデ、指押さえナデ 内：雌なへらミカキ、見込み平行状陶文	93-1(A) 93-1(A)	XV-40-4
32 8	瓦器椀底部	第6a層	四・五ノ坪間坪壇跡群	12C後半	底径：5.1-5.2(5/6)	外：ヨコナデ、指押さえの雌雄なへらミカキ 内：密なへらミカキ、見込み平行状陶文 外：ヨコナデ、指押さえ 内：密なへらミカキ	93-1(B) 93-1(A)	XV-40-11
32 9	瓦器椀	第6a層	四・五ノ坪間坪壇跡群	13C	高台径：8.4(1/4) 現高：1.8	外：ヨコナデ、指押さえ 内：密なへらミカキ 外：ヨコナデ、指押さえ 内：密なへらミカキ	93-1(A) 93-1(A)	XV-40-9
32 10	瓦器椀底部	第6a層	四・五ノ坪間坪壇跡群	12C前半	口径：5.8(1/3)	外：ヨコナデ、指押さえ 内：密なへらミカキ 外：ヨコナデ、指押さえ 内：密なへらミカキ	93-2(C) 93-2(D)	未掲載
32 11	瓦器椀	第6a層	12C中頃	12C中頃	口径：15.1(1/5)	外：ヨコナデ、指押さえの雌雄なへらミカキ 内：密なへらミカキ、見込み平行状陶文 外：ヨコナデ、指押さえの雌雄なへらミカキ 内：密なへらミカキ、見込み平行状陶文	93-2(C) 93-2(D)	未掲載
32 12	瓦器椀	第6a層	12C前半	12C後半	口径：16.6(1/6)	外：ヨコナデ、指押さえの雌雄なへらミカキ 内：密なへらミカキ、見込み平行状陶文 外：ヨコナデ、指押さえの雌雄なへらミカキ 内：密なへらミカキ、見込み平行状陶文	93-2(C) 93-2(D)	未掲載
32 13	瓦器椀	第6a層	12C後半	12C後半	口径：15.0(1/4)	外：ヨコナデ、指押さえの雌雄なへらミカキ 内：密なへらミカキ、見込み平行状陶文 外：ヨコナデ、指押さえの雌雄なへらミカキ 内：密なへらミカキ、見込み平行状陶文	93-2(D)	XVI-24-2
32 14	瓦器椀底部	第6a層	12C末~13C初	12C末~13C初	高台径：4.6(1/2)	外：ヨコナデ、指押さえナデ 内：雌なへらミカキ、見込み平行状陶文 外：ヨコナデ、指押さえ 内：雌なへらミカキ	93-2(A) 93-2(A)	XVI-24-3 XI-23-6
32 15	瓦器椀	第6a層	13C前半	13C前半	口径：15.2(1/6)	外：ヨコナデ、指押さえ 内：雌なへらミカキ 外：ヨコナデ、指押さえ 内：雌なへらミカキ	90-1 90-2(H3)	XVI-24-3
32 16	瓦器椀	第6a層	13C前半	13C前半	口径：15.0(7/8)	外：ヨコナデ、指押さえ 内：雌なへらミカキ 外：ヨコナデ、指押さえ 内：雌なへらミカキ	93-1(A) 93-1(A)	XV-40-8
32 17	瓦器椀底部	第6a層	13C前半	13C前半	高台径：4.7(2/3)	外：ヨコナデ、指押さえナデ 内：見込み平行状陶文 外：ヨコナデ、指押さえ 内：見込み平行状陶文	93-2(A) 93-2(D)	XVI-22-3
32 18	瓦器椀	第6a層	13C中頃	14C初	口径：14.0(1/7) 高台径：4.0(1/4) 現高：3.7くらゐ	外：ヨコナデ、指押さえ 内：ラセン状へらミカキ 外：ヨコナデ、指押さえ 内：ラセン状へらミカキ	93-2(A) 93-2(B)	XVI-22-4
32 19	瓦器椀	第6a層	14C初	14C初	口径：11.4(2/5) 器高：2.5	外：ヨコナデ、指押さえ 内：ラセン状へらミカキ 外：ヨコナデ、指押さえ 内：ラセン状へらミカキ	92-7 93-1(A)	未掲載
32 20	瓦器椀	第6a層	14C初	14C初	口径：11.2(1/5)	外：ヨコナデ、指押さえ 内：ラセン状へらミカキ 外：ヨコナデ、指押さえ 内：ラセン状へらミカキ	93-1(A) 93-1(A)	XV-40-10
32 21	瓦器椀	第6a層	14C初	14C初	口径：11.3(1/2) 器高：2.9	外：ヨコナデ、指押さえ 内：ラセン状へらミカキ 外：ヨコナデ、指押さえ 内：ラセン状へらミカキ	90-1 93-2(C)	未掲載
32 22	瓦器椀	第6a層	14C初	14C初	口径：12(1/6) 現高：2.5	外：ヨコナデ、指押さえ 内：ラセン状へらミカキ 外：ヨコナデ、指押さえ 内：ラセン状へらミカキ	93-2(D) 93-2(D)	XVI-24-4
32 23	瓦器椀	第6a層	14C後半	14C後半	口径：9.2(1/7)	外：ヨコナデ、指押さえナデ 内：ヨコナデ、ナデ 外：2段ヨコナデ、指押さえナデ 内：ヨコナデ、ナデ	93-1(A) 93-2(D)	XVI-40-12
32 24	土師器皿	第6a層	12Cくらゐ	12Cくらゐ	口径：10.2(1/2弱) 器高：1.6	外：ヨコナデ、指押さえナデ 内：ヨコナデ、ナデ 外：2段ヨコナデ、指押さえナデ 内：ヨコナデ、ナデ	93-2(A) 93-2(A)	未掲載
32 25	土師器皿	第6a層	12Cくらゐ	12Cくらゐ	口径：10.6(1/4) 現高：2.0	外：ヨコナデ、指押さえナデ 内：ヨコナデ、ナデ 外：2段ヨコナデ、指押さえナデ 内：ヨコナデ、ナデ	90-2(H4) 90-2(H4)	XI-18-1
32 26	土師器皿	第6a層	13Cくらゐ	12Cくらゐ	口径：9.2~9.6(2/3) 器高：1.1-2.0	外：ヨコナデ、指押さえナデ 内：ヨコナデ、ナデ 外：ヨコナデ、指押さえナデ 内：ヨコナデ、ナデ	93-2(C) 90-2(H4)	XI-18-2
32 27	土師器皿	第6a層	14Cくらゐ	14Cくらゐ	口径：7.1(1/4) 現高：1.3	外：ヨコナデ、指押さえ 内：ヨコナデ、ナデ 外：ヨコナデ、指押さえ 内：ヨコナデ、ナデ	93-3(C) 93-2(C)	未掲載
32 28	土師器皿	第6a層	14Cくらゐ	14C後半	口径：7.0(1/8) 現高：1.3	外：ヨコナデ、指押さえ 内：ヨコナデ、ナデ 外：ヨコナデ、指押さえ 内：ヨコナデ、ナデ	90-3(C) 90-3(C)	XVI-24-5
32 29	土師器皿	第6a層	11C後半	11C後半	口径：15.0(1/5)	外：ヨコナデ、指押さえ 内：ヨコナデ、ナデ 外：ヨコナデ、指押さえ 内：ヨコナデ、ナデ	90-3(C) 90-3(C)	未掲載
32 30	土師器皿	第6a層	11C後半	11C後半	口径：15.0(1/4) 現高：3.3	外：ヨコナデ、指押さえ 内：ヨコナデ、ナデ 外：ヨコナデ、指押さえ 内：ヨコナデ、ナデ	90-3(A) 90-3(A)	XI-18-3
32 31	土師器皿	第6a層	13Cくらゐ	13Cくらゐ	口径：15.8(1/4) 現高：2.4	外：ヨコナデ、指押さえ 内：ヨコナデ、ナデ 外：2段ヨコナデ、指押さえ 内：ヨコナデ、ナデ	92-7 90-2(H4)	XI-18-4
32 32	土師器皿	第6a層	13Cくらゐ	13C後半	口径：11.7(3/4) 器高：2.15	外：ヨコナデ、指押さえ 内：ヨコナデ、ナデ 外：2段ヨコナデ、指押さえ 内：ヨコナデ、ナデ	90-3(A) 90-3(A)	XI-18-3
32 33	土師器皿	第6a層	13C後半	13C後半	口径：12.4(1/6)	外：ヨコナデ、指押さえ 内：ヨコナデ、ナデ 外：2段ヨコナデ、指押さえ 内：ヨコナデ、ナデ	92-7 90-2(H4)	XI-18-4
32 34	土師器皿	第6a層	13C後半	13C後半	口径：12.4(1/6)	外：ヨコナデ、指押さえ 内：ヨコナデ、ナデ 外：2段ヨコナデ、指押さえ 内：ヨコナデ、ナデ	90-3(A) 90-3(A)	XI-18-3
32 35	土師器皿	第6a層	13C後半	13C後半	口径：4.65(実)	外：ヨコナデ、指押さえ 内：ヨコナデ、ナデ 外：2段ヨコナデ、指押さえ 内：ヨコナデ、ナデ	92-7 90-2(H4)	XI-18-4
32 36	中国製青磁焼高台	第6a層	水路11	12C末~13C初	口径：31.6(7/8)	龍鳳蓋系磁焼15号 内底面：陰刻蓮花文	93-2(D) 93-2(D)	XVI-24-5
32 37	瓦質ノ片口鉢	第6a層	12C前半	14C前半	口径：29.4(7/9)	外：回縁ナデ 内：回縁ナデ、ナデ 外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ	93-2(C) 93-2(C)	未掲載
32 38	須恵器片口鉢	第6a層	14C	14C	口径：30.0(1/2)	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ 外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ	93-2(C) 93-2(C)	未掲載
32 39	平瓦	第6a層	奈良後半~平安前半	奈良後半~平安前半	現長：13.5 現幅：8.1 厚：1.5	外：ヨコナデ、指押さえ 内：ヨコナデ、ナデ 外：ヨコナデ、指押さえ 内：ヨコナデ、ナデ	90-1 93-1(A)	XI-23-11
32 40	鉄製笠先	第6a層	?	?	現長：8.6 現幅：7.1 現厚：0.7	外：ヨコナデ、指押さえ 内：ヨコナデ、ナデ 外：ヨコナデ、指押さえ 内：ヨコナデ、ナデ	89-2 90-1	Ⅰ-45 XI-23-8
33 41	鉄製馬塚の楯	第6a層	?	?	現長：13.2-1.1 最大幅：1.6 最大厚：0.9	外：ヨコナデ、指押さえ 内：ヨコナデ、ナデ 外：ヨコナデ、指押さえ 内：ヨコナデ、ナデ	92-7 93-1(A)	XIV-32-7
33 42	鉄製馬塚の楯	第6a層	?	?	現長：17.1 最大幅：2.1	外：ヨコナデ、指押さえ 内：ヨコナデ、ナデ 外：ヨコナデ、指押さえ 内：ヨコナデ、ナデ	92-7 93-1(A)	XIV-32-7
33 43	鉄製馬塚の楯	第6a層	?	?	現長：18.8 最大幅：2.3	外：ヨコナデ、指押さえ 内：ヨコナデ、ナデ 外：ヨコナデ、指押さえ 内：ヨコナデ、ナデ	92-7 93-1(A)	XIV-32-7
33 44	鉄製馬塚の楯	第6a層	?	?	現長：16.7 最大幅：0.95 重さ：15.2g	外：ヨコナデ、指押さえ 内：ヨコナデ、ナデ 外：ヨコナデ、指押さえ 内：ヨコナデ、ナデ	92-7 93-1(A)	XIV-32-8
33 45	鉄製楯	第6a層	?	?	現長：8.2 現幅：2.7 最大厚：0.5	外：ヨコナデ、指押さえ 内：ヨコナデ、ナデ 外：ヨコナデ、指押さえ 内：ヨコナデ、ナデ	92-7 93-1(A)	XIV-32-9
33 46	鉄製楯止	第6a層	?	?	現長：11.5 最大幅：1.45 現厚：0.7	外：ヨコナデ、指押さえ 内：ヨコナデ、ナデ 外：ヨコナデ、指押さえ 内：ヨコナデ、ナデ	90-2(H3) 90-3(C)	XI-24-1
33 47	鉄製釘	第6a層	?	?	現長：4.8 現幅：4.7 厚：0.7	外：ヨコナデ、指押さえ 内：ヨコナデ、ナデ 外：ヨコナデ、指押さえ 内：ヨコナデ、ナデ	93-1(B) 93-1(B)	XV-41
33 48	鉄製品	第6a層	?	?	径：2.55 重さ：4.2g	外：ヨコナデ、指押さえ 内：ヨコナデ、ナデ 外：ヨコナデ、指押さえ 内：ヨコナデ、ナデ	90-3(A) 90-3(A)	XI-16-4
33 49	鉄製品	第6a層	?	?	径：10.4(1/6) 現高：2.6	外：ヨコナデ、指押さえ 内：ヨコナデ、ナデ 外：ヨコナデ、指押さえ 内：ヨコナデ、ナデ	90-3(A) 90-3(A)	XI-16-4
35 1	瓦器皿	第6a層	水路12(古)	11C後半	口径：14.6~14.9(一部欠) 高台径：5.2 器高：4.8	外：ヨコナデ、指押さえナデ 内：まばらなへらミカキ、見込み平行状陶文 外：ヨコナデ、指押さえナデ 内：まばらなへらミカキ、見込み平行状陶文	90-3(A) 90-3(A)	XI-16-3
35 2	瓦器椀底部	第6a層	水路12(新)	12C前半	口径：5.7(3/4)	外：ヨコナデ、指押さえ 内：見込み格子状陶文 外：ヨコナデ、指押さえ 内：見込み格子状陶文	90-3(A) 90-3(A)	XI-16-3
35 3	中国製白磁皿	第6a層	水路12(新)	13C前半	口径：5.8(1/2弱)	V型 図様あり、高台跡跡、割入あり	90-3(A) 90-3(A)	XI-16-1
35 4	土師器台付皿	第6a層	水路12(新)	12C前半	口径：5.5(1/2)	外：ヨコナデ、ナデ 内：ナデ 外：ヨコナデ、ナデ 内：ナデ	90-3(A) 90-3(A)	XI-16-2
35 5	土師器皿	第6a層	水路12(新)	12C前半	口径：15.8(1/7)	外：ヨコナデ、指押さえ 内：ナデ 外：ヨコナデ、指押さえ 内：ナデ	90-3(A) 90-3(A)	XI-16-5
35 6	土師器皿	第6b層	水路12(新)	?	口径：5.7 最大幅：1.3 高台径：1.4 孔径：0.6	棒状有孔	92-7 90-3(A)	XI-16-6
35 7	瓦器椀	第6b層	土器埋納溝跡6	13C初	口径：14.6~14.9(一部欠) 高台径：5.2 器高：4.8	外：ヨコナデ、指押さえナデ 内：まばらなへらミカキ、見込み平行状陶文 外：ヨコナデ、指押さえナデ 内：まばらなへらミカキ、見込み平行状陶文	92-7 90-3(A)	XIV-3-1
35 8	土師器皿	第6b層	水路12(新)	11C後半	口径：9.3~9.7(一部欠) 器高：1.0-1.7	外：ヨコナデ、指押さえ 内：ヨコナデ、ナデ 外：ヨコナデ、指押さえ 内：ヨコナデ、ナデ	93-1(A) 90-2(H4)	XV-40-7
35 9	土師器皿	第7面	水路12(新)	12C後半	口径：13.9(1/2) 器高：2.7	外：ヨコナデ、指押さえナデ 内：ヨコナデ、ナデ 外：ヨコナデ、指押さえの雌雄なへらミカキ 内：密なへらミカキ	90-2(H4) 90-2(H4)	XI-19-5
39 2	瓦器椀	第7面	水路12(新)	11C後半	口径：16.0(1/4)	外：ヨコナデ、指押さえナデ 内：密なへらミカキ、見込み平行状陶文 外：ヨコナデ、指押さえの雌雄なへらミカキ 内：密なへらミカキ、見込み平行状陶文	90-2(H4) 90-2(H4)	X-19-1
39 3	瓦器椀	第7面	水路12(新)	12C初	口径：15.0(1/3) 高台径：5.6~5.85(一部欠) 現高：5.6	外：ヨコナデ、指押さえの雌雄なへらミカキ 内：密なへらミカキ、見込み平行状陶文 外：ヨコナデ、指押さえの雌雄なへらミカキ 内：密なへらミカキ、見込み平行状陶文	90-2(H4) 90-2(H4)	未掲載
39 4	瓦器椀	第7面	水路12(新)	12C末~13C初	口径：15.0(7/5)	外：ヨコナデ、指押さえの雌雄なへらミカキ 内：密なへらミカキ、見込み平行状陶文 外：ヨコナデ、指押さえの雌雄なへらミカキ 内：密なへらミカキ、見込み平行状陶文	90-2(H4) 90-2(H4)	未掲載
39 5	瓦器椀	第7面	水路12(新)	13C前半	口径：15.8(1/4)	外：ヨコナデ、指押さえ 内：密なへらミカキ 外：ヨコナデ、指押さえ 内：密なへらミカキ	90-2(H4) 90-2(H4)	未掲載
39 6	刀子形木製品	第7面	水路12(新)	?	現長：26.5 現幅：2.55 最大厚：1.4	指種：ヒノキ	90-2(H4) 90-2(H4)	X-23-28
39 7	刀子形木製品	第7面	水路12(新)	?	現長：45.2 現幅：4.8 最大厚：2.0	指種：ヒノキ	90-2(H4) 90-2(H4)	X-23-27
39 8	土師器皿	第7面	水路12(古)	11C後半	口径：9.6(1/2弱) 器高：1.6	「L」の字状、外：ヨコナデ、指押さえナデ 内：ヨコナデ、ナデ 「L」の字状、外：ヨコナデ、指押さえナデ 内：ヨコナデ、ナデ	90-2(H4) 90-2(H4)	X-23-3

図版番号	写真番号	器種	層序	遺構	時期	法量 (cm)	特徴	調査年度	概要掲載番号
39	9	土師器皿	第7面	水路12(占)	11C後半か	口径: 9.8(1/1) 現高: 1.7	【テ】の字状 外: ヨコナテ、指押さえナテ 内: ヨコナテ、ナテ	90-2(H4)	X-23-5
39	10	土師器皿	第7面	水路12(占)	11C後半か	口径: 10.0(1/10)	【テ】の字状 外: ヨコナテ、指押さえナテ 内: ヨコナテ、ナテ	90-2(H4)	X-23-4
39	11	土師器皿	第7面	水路12(占)	12C初めか	口径: 9.8(1/4) 現高: 1.16	【テ】の字状 外: ヨコナテ、指押さえナテ 内: ヨコナテ、ナテ	90-2(H4)	X-23-10
39	12	土師器皿	第7面	水路12(占)	12C初めか	口径: 9.2(1/5) 現高: 1.14	【テ】の字状 外: ヨコナテ、指押さえナテ 内: ヨコナテ、ナテ	90-2(H4)	X-23-7
39	13	土師器皿	第7面	水路12(占)	12Cくらい	口径: 8.8(1/7) 現高: 1.15	【テ】の字状 外: ヨコナテ、指押さえナテ 内: ヨコナテ、ナテ	90-2(H4)	X-23-8
39	14	土師器皿	第7面	水路12(占)	12Cくらい	口径: 9.1~9.3(密) 現高: 1.2~1.7	外: 2段ヨコナテ、指押さえナテ 内: ヨコナテ、ナテ	90-2(H4)	X-23-8
39	15	土師器皿	第7面	水路12(占)	12Cくらい	口径: 10.0(1/8) 現高: 1.7	外: 2段ヨコナテ、指押さえナテ 内: ヨコナテ、ナテ	90-2(H4)	X-23-12
39	16	土師器皿	第7面	水路12(占)	12Cくらい	口径: 9.6(1/12弱) 器高: 1.7	外: 2段ヨコナテ、指押さえナテ 内: ヨコナテ、ナテ	90-2(H4)	X-23-12
39	17	土師器皿	第7面	水路12(占)	12Cくらい	口径: 8.8(1/5)	外: ヨコナテ、指押さえナテ 内: ヨコナテ、ナテ	90-2(H4)	未掲載
39	18	土師器皿	第7面	水路12(占)	12Cくらい	口径: 9.6(1/4)	外: ヨコナテ、指押さえナテ 内: ヨコナテ、ナテ	90-2(H4)	X-23-6
39	19	土師器皿	第7面	水路12(占)	12~13C	口径: 8.5(1/5) 現高: 1.16	外: ヨコナテ、指押さえナテ 内: ヨコナテ、ナテ	90-2(H4)	X-23-11
39	20	土師器皿	第7面	水路12(占)	12~13C	口径: 9.4(2/5) 現高: 1.19	外: ヨコナテ、指押さえナテ 内: ヨコナテ、ナテ	90-2(H4)	X-23-13
39	21	土師器皿	第7面	水路12(占)	12~13C	口径: 9.8(2/5)	外: ヨコナテ、指押さえナテ 内: ヨコナテ、ナテ	90-2(H4)	X-23-15
39	22	土師器碗	第7面	水路12(占)	11C中頃か	口径: 14.8(1/5) 高台径: 7.4(1/3+1/4)	外: 2段ヨコナテ、指押さえナテ 内: ヨコナテ、ナテ	90-2(H4)	X-23-17
39	23	瓦器皿	第7面	水路12(占)	11C後半	口径: 11.0(2/5) 現高: 2.5	外: ヨコナテ、指押さえナテ 内: ヨコナテ、ナテ	90-2(H4)	X-23-2
39	24	瓦器皿	第7面	水路12(占)	11C後半	口径: 9.4~9.6(密) 器高: 2.4	外: ヨコナテ、指押さえナテ 内: ヨコナテ、ナテ	90-2(H4)	X-23-1
39	24	瓦器皿	第7面	水路12(占)	11C後半	口径: 16.4(2/5) 高台径: 7.1(2/3) 器高: 6.1	大和型 外: ヨコナテ、指押さえの後へラミガキ、見込み密なへラミガキ	90-2(H4)	X-23-19
39	25	瓦器碗	第7面	水路12(占)	11C後半~12C初	口径: 15.4(1/7)	楠葉型 外: ヨコナテ、指押さえの後へラミガキ 内: 密なへラミガキ	90-2(H4)	未掲載
39	26	瓦器碗	第7面	水路12(占)	12C後半	口径: 15.0(1/6)	大和型 外: ヨコナテ、指押さえの後まばらなへラミガキ 内: 密なへラミガキ	90-2(H4)	未掲載
39	27	瓦器碗	第7面	水路12(占)	12C後半	高台径: 6.1~6.2(4/5)	外: ヨコナテ、指押さえの後へラミガキ 内: 見込み密なへラミガキ	90-2(H4)	未掲載
39	28	瓦器碗	第7面	水路12(占)	11C後半	高台径: 6.0(1/7)	外: ヨコナテ、指押さえ 内: 密なへラミガキ 見込みナテ	90-2(H4)	未掲載
39	29	瓦器碗	第7面	水路12(占)	11C末~12C初	口径: 15.2(1/3) 巾がみあり	外: ヨコナテ、指押さえの後へラミガキ 内: ヨコナテ、指押さえ、見込み平行暗文、密なへラミガキ	90-2(H4)	X-23-20
39	30	瓦器碗底部	第7面	水路12(占)	12C初	高台径: 6.1~6.2(4/5)	外: ヨコナテ、指押さえの後へラミガキ 内: 密なへラミガキ、見込み密なへラミガキ	90-2(H4)	未掲載
39	31	瓦器碗	第7面	水路12(占)	12C前半	口径: 15.4(1/2)高台径: 5.2~5.3(密) 器高: 5.75	外: ヨコナテ、指押さえの後へラミガキ 内: ヨコナテ、指押さえ、見込み密なへラミガキ	90-2(H4)	X-23-25
39	32	瓦器碗	第7面	水路12(占)	12C中頃	口径: 14.8(1/6) 高台径: 4.6~5.1(一部欠) 現高: 4.7	外: ヨコナテ、指押さえの後へラミガキ 内: ヨコナテ、指押さえ、見込み密なへラミガキ	90-2(H4)	X-23-23
39	33	瓦器碗	第7面	水路12(占)	12C中頃	口径: 若平 高台径: 5.2~5.4(密) 器高: 5.55(推定)	外: ヨコナテ、指押さえの後へラミガキ 内: 見込み密なへラミガキ	90-2(H4)	X-23-24
39	34	瓦器碗	第7面	水路12(占)	12C中頃	口径: 15.2(1/2)	外: ヨコナテ、指押さえの後へラミガキ 内: 密なへラミガキ、見込み密なへラミガキ	90-2(H4)	未掲載
39	35	瓦器碗	第7面	水路12(占)	12C中頃	口径: 14.7(1/6)	外: ヨコナテ、指押さえの後へラミガキ 内: ヨコナテ、指押さえ、見込み密なへラミガキ	90-2(H4)	未掲載
40	36	土師器皿	第7面	水路12	11C後半	口径: 9.5(1/2) 器高: 1.1~1.55	【テ】の字状 外: ヨコナテ、指押さえ 内: ヨコナテ、ナテ	90-3(C)	X-1-24-6
40	37	瓦器皿	第7面	水路12	11C末	口径: 9.5(1/3) 器高: 2.0	外: ヨコナテの後へラミガキ、指押さえ 内: ヨコナテ、ナテ	90-3(C)	X-1-23-8
40	38	瓦器碗	第7面	水路12	11C末~12C初め	口径: 15.4~15.6(3/4) 高台径: 6.7~6.8(密) 器高: 5.7~6.6	外: ヨコナテ、指押さえの後へラミガキ 内: ヨコナテ、指押さえ、見込み密なへラミガキ	90-3(C)	X-1-23-1
40	39	瓦器碗	第7面	水路12	12C前半	口径: 14.6~15.0(一部欠) 高台径: 5.3~5.5 器高: 4.9	外: ヨコナテ、指押さえの後へラミガキ 内: ヨコナテ、指押さえ、見込み密なへラミガキ	90-3(C)	X-1-23-2
40	40	瓦器碗底部	第7面	水路12	12C前半	高台径: 6.1(一部欠)	外: ヨコナテ、指押さえの後へラミガキ 内: 見込み密なへラミガキ	90-3(C)	X-1-23-7
40	41	瓦器碗底部	第7面	水路12	12C前半	高台径: 7.1(1/3)	外: ヨコナテ、指押さえの後へラミガキ 内: 見込み密なへラミガキ	90-3(C)	X-1-23-4
40	42	土師器羽釜	第7面	水路12	12C後半	口径: 27.6(1/5)	外: ヨコナテ、指押さえの後へラミガキ 内: ヨコナテ、ナテ	90-3(C)	X-1-24-1
40	43	土師器皿	第7面	水路12(占)	12Cくらい	口径: 9.0(2/5) 現高: 1.5	外: ヨコナテ、指押さえナテ 内: ヨコナテ、ナテ	90-3(C)	X-1-24-5
40	44	瓦器碗底部	第7面	水路12(占)	12C中頃	高台径: 5.7(一部欠)	外: ヨコナテ、指押さえの後へラミガキ 内: ヨコナテ、指押さえ、見込み密なへラミガキ	90-3(C)	X-1-23-5
40	45	木製品	第7面	水路12	?	現長: 18.7 現幅: 3.6 最大厚: 2.4	内: 密なへラミガキ、見込み密なへラミガキ	90-3(C)	未掲載
40	46	木製品	第7面	水路12	?	現長: 37.6 最大現幅: 6.7 最大厚: 3.9	頸部状に榫通した後穿孔ヶ所 榫: スキ	90-3(C)	未掲載
40	47	瓦器碗	第7面	水路7/5	12C中頃	口径: 16.8(1/8)	外: ヨコナテ、指押さえの後まばらなへラミガキ 内: ヨコナテ、指押さえ、見込み密なへラミガキ	90-3(C)	X-1-23-6
41	48	土師器皿	第7面	水路12	11C	口径: 8.7~9.0(一部欠) 器高: 1.0	【テ】の字状 外: ヨコナテ、指押さえ 内: ヨコナテ、ナテ	93-2(D)	XW-27-12
41	49	土師器皿	第7面	水路12	11C	口径: 9.0(1/4) 現高: 1.2	【テ】の字状 外: ヨコナテ、指押さえ 内: ヨコナテ、ナテ	93-2(D)	未掲載
41	50	土師器皿	第7面	水路12	11C	口径: 9.6(1/6)	【テ】の字状 外: ヨコナテ、指押さえナテ 内: ヨコナテ、ナテ	93-2(B)	XW-27-7
41	51	土師器皿	第7面	水路12	11C	口径: 9.8(1/5)	【テ】の字状 外: ヨコナテ、指押さえナテ 内: ヨコナテ、ナテ	93-2(B)	XW-27-13
41	52	土師器皿	第7面	水路12	11C	口径: 9.4(1/5)	【テ】の字状 外: ヨコナテ、指押さえナテ 内: ヨコナテ、ナテ	93-2(D)	XW-27-14
41	53	土師器皿	第7面	水路12	11C後半	口径: 8.8(1/6) 現高: 1.5	部付蓋	93-2(D)	XW-27-15
41	54	土師器皿	第7面	水路12	12C初	口径: 8.9(1/2) 器高: 1.8	【テ】の字状 外: ヨコナテ、指押さえナテ 内: ヨコナテ、ナテ	93-2(D)	XW-27-6・16
41	55	土師器皿	第7面	水路12	12C	口径: 8.6(1/5) 現高: 1.8	外: ヨコナテ、指押さえナテ 内: ヨコナテ、ナテ	93-2(D)	XW-27-8
41	56	土師器皿	第7面	水路12	12Cくらい	口径: 9.6(1/5) 現高: 1.8	外: ヨコナテ、指押さえナテ 内: ヨコナテ、ナテ	93-2(D)	XW-27-10
41	57	土師器皿	第7面	水路12	12Cくらい	口径: 9.4(1/5)	外: ヨコナテ、指押さえナテ 内: ヨコナテ、ナテ	93-2(D)	XW-27-9
41	58	土師器付皿	第7面	水路12	11C後半	口径: 10.2~10.4(2/3) 高台径: 5.2(1/4) 器高: 3.6	外: ヨコナテ、指押さえナテ 内: ヨコナテ、ナテ	93-2(D)	XW-27-5
41	59	土師器皿	第7面	水路12	11C後半	口径: 13.6(1/3)	外: ヨコナテ、指押さえナテ 内: ヨコナテ、ナテ	93-2(D)	未掲載
41	60	土師器皿	第7面	水路12	12C初	口径: 14.5~14.7(密) 器高: 3.1	外: ヨコナテ、指押さえナテ 内: ヨコナテ、ナテ	93-2(D)	XW-27-2
41	61	土師器皿	第7面	水路12	12C初	口径: 15.6(1/10) 現高: 5.4	外: ヨコナテ、指押さえナテ 内: ヨコナテ、ナテ	93-2(D)	XW-27-3
41	62	土師器皿	第7面	水路12	11C末~12C初め	口径: 15.0(2/5) 現高: 2.7	外: 2段ヨコナテ、指押さえナテ 内: ヨコナテ、ナテ (ハケ状)	93-2(D)	XW-27-4

図版番号 図版番号	写真番号 図版	器種	層序	遺構	時期	法量 (cm)	特徴	調査年度	標要掲載番号
41 63	49	瓦器椀	第7面	水路12	12C前半	口径：15.3(ゆがみあり) 高台径：5.6(突) 器高：5.9~6.2	柳葉型 外：ヨコナテ、指押さえ後継なヘラミガキ 内：沈1、密なヘラミガキ 見込み平行状跡文	93-2(D)	XVI-27-19
41 64	49	瓦器椀	第7面	水路12	11C後半	口径：15.4~15.7(一部欠) 高台径：6.8~7.3(突) 器高：5.6~6.1	外：密なヘラミガキ、外底面×印 内：密なヘラミガキ	93-2(D)	XVI-27-23
41 65	—	瓦器椀	第7面	水路12	11C後半	口径：16.6(1/4) 高台径：7.0(若干のみ) 現高：5.9	外：密なヘラミガキ、内：ヘラミガキ	93-2(D)	XVI-27-18
41 66	—	瓦器椀	第7面	水路12	11C末~12C初	口径：15.0(1/8)	外：ヘラミガキ 内：ヘラミガキ	93-2(D)	未掲載
41 67	—	瓦器椀	第7面	水路12	12C前半	口径：15.2(1/4) 高台径：6.0(1/4) 現高：5.8	外：ヨコナテ、指押さえ後継なヘラミガキ 内：密なヘラミガキ、見込み平行状跡文	93-2(D)	XVI-27-21
41 68	50	瓦器椀	第7面	水路12	12C中頃	口径：15.3~15.6(3/4) 高台径：4.8(一部欠) 器高：4.6~5.3	外：ヨコナテの後ヘラミガキ、指押さえナテ 内：密なヘラミガキ、見込み格子状跡文	93-2(D)	XVI-27-22
41 69	—	瓦器椀底部	第7面	水路12	12C後半	高台径：6.0(2/5)	大和型? 外：ヨコナテ、指押さえ 内：密なヘラミガキ、見込みラセン状跡文	93-2(D)	XVI-27-20
41 70	—	土師器皿	第7面	水路12	11C	口径：8.6(1/3) 現高：1.5	〔テ〕 字状 外：ヨコナテ、指押さえナテ 内：ヨコナテ、ナテ	93-1	XV-52-16
41 71	—	土師器皿	第7面	水路12	11C	口径：9.0(1/4+1/4) 現高：1.7	〔テ〕 字状 外：ヨコナテ、指押さえナテ 内：ヨコナテ、ナテ	93-1	XV-53-35
41 72	—	土師器皿	第7面	水路12	11C	口径：8.6(1/4) 現高：1.6	〔テ〕 字状 外：ヨコナテ、指押さえナテ 内：ヨコナテ、ナテ	93-1	XV-53-33
41 73	—	土師器皿	第7面	水路12	11C	口径：9.0(1/7) 現高：1.15	〔テ〕 字状 外：ヨコナテ、指押さえナテ 内：ヨコナテ、内外口縁端一部にスス付着	93-1	XV-53-34
41 74	—	土師器皿	第7面	水路12	11C	口径：9.2(1/5) 現高：1.5	〔テ〕 字状 外：ヨコナテ、指押さえナテ 内：ヨコナテ	93-1	XV-53-36
41 75	—	土師器皿	第7面	水路12	11C	口径：9.7(1/5) 現高：1.4	〔テ〕 字状 外：ヨコナテ、指押さえナテ 内：ヨコナテ	93-1	XV-53-38
41 76	50	土師器皿	第7面	水路12	11C末ぐらいか	口径：9.6(2/5) 現高：1.2~2.0	〔テ〕 字状 外：ヨコナテ、指押さえナテ 内：ヨコナテ、ナテ	93-1	XV-52-15
41 77	—	土師器皿	第7面	水路12	11C末ぐらいか	口径：9.4(1/6)	〔テ〕 字状 外：ヨコナテ、指押さえナテ、器部スス付着 内：ヨコナテ、スス付着	93-1	XV-52-19
41 78	—	土師器皿	第7面	水路12	12C初	口径：8.9(1/3) 現高：1.7	外：ヨコナテ、指押さえナテ 内：ヨコナテ、ナテ	93-1	XV-52-20
41 79	—	土師器皿	第7面	水路12	12C初	口径：10.8(1/4) 現高：1.8	外：ヨコナテ、指押さえナテ 内：ヨコナテ、ナテ	93-1	XV-52-28
41 80	—	土師器皿	第7面	水路12	12C前半	口径：9.5(2/5) 現高：1.3~1.5	外：面取り、ヨコナテ、指押さえナテ 内：ヨコナテ、ナテ	93-1	XV-52-25
41 81	—	土師器皿	第7面	水路12	12C	口径：8.9(1/2弱) 現高：1.8	外：面取り、ヨコナテ、指押さえナテ 内：ヨコナテ、ナテ	93-1	XV-52-22
41 82	—	土師器皿	第7面	水路12	12C	口径：10.0(1/3) 現高：1.7	外：ヨコナテ、指押さえナテ 内：ヨコナテ、ナテ、スス付着	93-1	XV-52-21
41 83	—	土師器皿	第7面	水路12	12C	口径：9.8(1/4) 現高：1.5	外：ヨコナテ、指押さえナテ 内：ヨコナテ、ナテ	93-1	XV-52-27
41 84	50	土師器皿	第7面	水路12	12C後半	口径：9.5~9.8(一部欠) 器高：1.4~2.0	外：ヨコナテ、指押さえナテ 内：ヨコナテ、ナテ	93-1	XV-53-39
41 85	50	土師器皿	第7面	水路12	12C後半	口径：9.2(1/4) 現高：1.5	外：ヨコナテ、指押さえナテ 内：ヨコナテ、ナテ	93-1	XV-52-6
41 86	50	土師器皿	第7面	水路12	12C後半	口径：9.6~10.0(3/4) 器高：1.4~1.65	外：ヨコナテ、指押さえナテ 内：ヨコナテ、ナテ	93-1	XV-52-24
41 87	—	土師器皿	第7面	水路12	12C末	口径：8.7(1/3) 現高：1.4	外：ヨコナテ、指押さえナテ 内：ヨコナテ、ナテ	93-1	XV-52-23
41 88	—	土師器皿	第7面	水路12	12C末	口径：8.8(2/5) 現高：1.9	外：ヨコナテ、指押さえナテ 内：ヨコナテ、ナテ	93-1	XV-52-26
41 89	—	土師器皿	第7面	水路12	12C末	口径：8.8(2/5) 現高：1.3	外：ヨコナテ、指押さえナテ 内：ヨコナテ、ナテ	93-1	XV-52-7
41 90	50	土師器鉢	第7面	水路12	11~12C?	口径：14.8(1/3) 器高：3.8	外：回転ナテ、ヘラ切り底 内：回転ナテ (生)	93-1	XV-52-29
41 91	—	土師器皿	第7面	水路12	12Cか	口径：15.1(1/3) 現高：3.0	外：ヨコナテ、指押さえナテ 内：ヨコナテ、ナテ	93-1	XV-53-43
41 92	50	土師器皿	第7面	水路12	12Cか	口径：14.8(5/6) 器高：3.6	外：ヨコナテ、指押さえナテ 内：ヨコナテ、ナテ	93-1	XV-52-14
41 93	—	土師器皿	第7面	水路12	12C	口径：14.0(1/7) 現高：2.4	外：ヨコナテ、指押さえナテ 内：ヨコナテ、ナテ	93-1	XV-53-44
41 94	50	土師器皿	第7面	水路12	12C	口径：14.7~15.8(一部欠) 器高：3.1	外：ヨコナテ、指押さえナテ 内：ヨコナテ、ナテ、一部スス付着	93-1	XV-52-1
41 95	50	土師器台付皿	第7面	水路12	11C後半	口径：10.0(一部欠) 高台径：5.2(突) 器高：4.0~4.2	外：ヨコナテ、ナテ 内：ヨコナテ、ナテ、一部スス付着	93-1	XV-52-2
41 96	50	土師器台付皿	第7面	水路12	11C後半	口径：9.8~10.0(一部欠) 高台径：5.4(1/4) 器高：3.8	外：ヨコナテ、ナテ 内：ヨコナテ、ナテ	93-1	XV-52-4
41 97	50	土師器台付皿	第7面	水路12	11C後半	口径：10.2~10.3(2/3) 高台径：4.8~5.3(1/2) 器高：3.4	外：ヨコナテ、ナテ 内：ヨコナテ、ナテ、一部赤変	93-1	XV-52-3
41 98	—	土師器台付皿	第7面	水路12	11C後半	口径：10.2~10.4(1/2)	外：ヨコナテ、ナテ 内：ヨコナテ、ナテ、一部スス付着	93-1	XV-52-3
41 99	50	土師器台付皿	第7面	水路12	11C後半	口径：10.9(3/4) 高台径：5.5~5.6(一部欠) 器高：3.3~3.9	外：ヨコナテ、ナテ、故意に欠か?ヘラ痕 内：ヨコナテ、ナテ	93-1	XV-52-11
41 100	—	土師器台付皿	第7面	水路12	11C後半	口径：10.9(1/5)	外：ヨコナテ、ナテ、ヘラ痕 内：ヨコナテ、ナテ、一部スス?	93-1	XV-52-5
41 101	—	土師器台付皿	第7面	水路12	11C後半	口径：8.7~8.8(突)	外：ヨコナテ、ナテ、爪跡 内：ヨコナテ、ナテ (生)	93-1	XV-52-17
41 102	—	土師器台付皿	第7面	水路12	11C後半	口径：8.9~9.1(1/2)	外：ヨコナテ、ナテ 内：ヨコナテ、ナテ、一部スス (生)	93-1	XV-52-18
42 103	—	瓦器皿	第7面	水路12	12C後半	口径：8.8(1/5) 現高：1.5	外：ヨコナテ、指押さえナテ 内：まぼらのヘラミガキ、見込み平行状跡文	93-1	XV-52-30
42 104	—	瓦器椀	第7面	水路12	12C前半	口径：15.0(1/4)	柳葉型 外：密なヘラミガキ、内：沈1、密なヘラミガキ、見込み平行状跡文?	93-1	XV-52-31
42 105	—	瓦器椀	第7面	水路12	12C中頃	口径：15.4(1/8)	柳葉型 外：ヨコナテ、指押さえナテの後継なヘラミガキ 内：沈1、密なヘラミガキ、見込み平行状跡文	93-1	XV-52-32
42 106	—	瓦器椀	第7面	水路12	11C後半	口径：15.1(3/4) 高台径：7.0(突) 現高：6.4	外：密なヘラミガキ 内：密なヘラミガキ、見込みヘラミガキ	93-1	XV-53-40
42 107	50	瓦器椀	第7面	水路12	11C末~12C初め	口径：15.1(3/4) 高台径：6.0(突) 器高：5.9	外：密なヘラミガキ、見込み格子状跡文	93-1	XV-52-13
42 108	—	瓦器椀底部	第7面	水路12	12C前半	高台径：6.4(1/3)	外：ヨコナテ、ナテ 内：見込み格子状跡文	93-1	XV-52-12
42 109	—	瓦器椀底部	第7面	水路12	12C中頃	高台径：5.4(1/5(6))	外：ヨコナテ、指押さえナテの上継なヘラミガキ	93-1	XV-52-10
42 110	—	瓦器椀底部	第7面	水路12	12C後半	高台径：5.2~5.3(突)	外：ヨコナテ、ナテ 内：見込み平行状跡文	93-1	XV-52-9
42 111	50	木製杓子	第7面	水路12	?	現長：7.0 最大幅：2.95 孔径：0.9 重さ：32.4g	外：ナテ? (生)	93-1	XV-53-54
42 112	51	木製腹玉球	第7面	水路12	?	現長：16.0 最大幅：10.3 最大厚：2.1	黒漆塗布?	93-1	XV-54-58
42 113	50	鉄製馬紐の骨	第7面	水路12	?	現長：19.1 最大幅：4.1		93-1	XV-54-59
42 114	51	鉄製馬紐の骨	第7面	水路12	?	現長：19.0 最大幅：2.25 最大厚：1.1		93-1	XV-54-61
42 115	51	鉄製馬紐の骨	第7面	水路12(下層)	?	現長：8.7~9.1(3/4)		93-1	XV-54-60
42 116	50	土師器台付皿	第7面	水路12(下層)	11C後半	口径：8.7~9.1(3/4)	〔テ〕 字状 外：ヨコナテ、指押さえナテ 内：ヨコナテ、ナテ	93-1	XV-53-53
42 117	—	土師器台付皿	第7面	水路12(下層)	11C後半	口径：9.1~9.3(3/4)	外：ヨコナテ、ナテ 内：ヨコナテ、ナテ	93-1	XV-53-49
42 118	—	土師器台付皿	第7面	水路12(下層)	11C後半	口径：9.8(1/2)	外：ヨコナテ、ナテ 内：ヨコナテ、ナテ	93-1	XV-53-50



図版番号	写真番号	器種	層序	遺構	時期	法量 (cm)	特徴	調査年度	概要掲載番号
42 119	—	土師台付皿	第7面	水路12(下層)	11C後半	口径: 10.0(1/4)	外: ヨコナデ, ナデ 内: ヨコナデ, ナデ, スズ? 付蓋	93-1	XV-53-51
42 120	—	土師台付皿	第7面	水路12(下層)	11C後半	口径: 6.0~9.0(2/5)	外: ヨコナデ, ナデ 内: ヨコナデ, ナデ	93-1	XV-53-52
42 121	—	黒色土器A類鉢	第7面	水路12(下層)	11C	口径: 19.2(1/9)	外: ヨコナデ, ヘラ削りの後ヘラミガキ 内: ヘラミガキ	93-1	XV-53-56
42 122	90	瓦器焼	第7面	水路12(下層)	11C後半	口径: 15.6~15.8(一部欠) 高台径: 6.9(完) 器高: 5.8~6.3	外: ヨコナデ, ヘラ削りの後ヘラミガキ 内: 不定方向のヘラミガキ 見込みヘラミガキ	93-1	XV-53-55
42 123	—	土師器薬	第7面	水路12(下層)	11C?	口径: 29.0(1/4+1/6)	外: ハケナデ, スズ付蓋 内: ハケナデ (生)	93-1	XV-53-57
43 1	—	土師器皿	第7層	—	12Cか	口径: 9.2(1/4)	「C」の字状 外: ヨコナデ, 指押さえナデ, スズ付蓋 内: ヨコナデ, ナデ, スズ付蓋	89-1	I-51-1
43 2	—	土師器皿	第7層	—	12C	口径: 9.9(1/9) 現高: 1.85	外: ヨコナデ, ナデ, ヘラ切り 内: ヨコナデ, ナデ	92-7	XIV-32-12
43 3	—	土師器皿	第7層	—	12C	口径: 8.0(1/3) 現高: 1.55	外: ヨコナデ, ナデ 内: ヨコナデ, ナデ, スズ付蓋	92-7	XIV-32-11
43 4	—	土師器皿	第7層	—	12C	口径: 9.2(1/2) 器高: 1.5	外: 面取り ヨコナデ, ナデ 内: ヨコナデ, ナデ	90-3(C)	XI-24-4
43 5	—	土師器皿	第7層	—	12Cか	口径: 8.5(1/8) 現高: 1.6	外: ヨコナデ, 指押さえナデ 内: ヨコナデ, ナデ	90-2(H3)	VI-27-2
43 6	—	土師器皿	第7層	—	12C後半	口径: 9.0(1/5)	外: ヨコナデ, 指押さえナデ 内: ヨコナデ, ナデ	93-2(C)	XVI-27-11
43 7	—	土師器皿	第7層	—	12Cか	口径: 8.3(1/6) 現高: 1.4	外: ヨコナデ, ナデ 内: ヨコナデ, ナデ	89-1	I-47-1
43 8	—	土師器皿	第7層	—	13Cか	口径: 9.2(1/4)	外: ヨコナデ, 指押さえナデ 内: ヨコナデ, ナデ	89-1	I-51-3
43 9	—	土師器皿	第7層	—	13C	口径: 7.5(1/7) 現高: 1.1	外: ヨコナデ, 指押さえナデ 内: ヨコナデ, ナデ	90-2(H3)	VI-27-1
43 10	—	土師器皿	第7層	—	13C	口径: 7.8(1/7) 現高: 1.0	外: ヨコナデ, ナデ 内: ヨコナデ, ナデ	90-2(H4)	X-19-4
43 11	—	土師器皿	第7層	—	12C	口径: 14.2(1/7) 現高: 2.8	外: ヨコナデ, 指押さえナデ 内: ヨコナデ, ナデ	90-2(H2)	III-20-2
43 12	—	土師器三脚盤	第7層	—	12Cか	—	外: ナデ, スズ付蓋 内: ナデ, 爪跡痕	90-2(H3)	VI-27-4
43 13	—	瓦器焼	第7層	—	11C後半	口径: 9.6(1/3) 器高: 2.2	外: ヨコナデ, ナデの後継なヘラミガキ ラミガキ	93-2(D)	XVI-27-17
43 14	—	瓦器皿	第7層	—	13Cか	口径: 8.1(1/2脚) 器高: 1.16	外: ヨコナデ, 指押さえナデ 内: ヨコナデ, 見込みラセン状暗文	90-2(H4)	X-19-3
43 15	—	瓦器小椀	第7層	—	12C初めか	口径: 8.8(1/4)	内外ともヘラミガキ	90-1	XII-28-6
43 16	—	瓦器椀?	第7層	—	11C後半	口径: 15.7(1/4) 高台径: 7.4(2/3) 現高: 6.0	黒色土器B類か? 内外ともヘラミガキ	89-2	未掲載
43 17	—	瓦器焼	第7層	—	11C後半	口径: 14.6(1/10) 高台径: 6.5(1/2)	上下接合せず 外: 密なヘラミガキ 内: 密なヘラミガキ, 見込み密なヘラミガキ	89-1	I-47-3
43 18	—	瓦器焼	第7層	—	12C前半	口径: 16.0(1/4) 高台径: 6.0(1/2)	上下接合せず 外: ヨコナデ, 指押さえの後継なヘラミガキ 内: ヘラミガキ 下, 見込み格子状暗文	90-1	未掲載
43 19	—	瓦器焼	第7層	—	12C前半	口径: 14.4(1/5)	外: ヨコナデ, 指押さえの後継なヘラミガキ 内: ヘラミガキ, 見込み格子状暗文	90-2(H4)	X-19-2
43 20	—	瓦器焼	第7層	—	12C後半	口径: 13.9(1/4+1/5)	外: ヨコナデ, 指押さえの後まばらなヘラミガキ 内: 雑なヘラミガキ	92-7	未掲載
43 21	52	中国製白磁焼	第7層	—	11C前半	口径: 16.2(1/6)	廈門窯系12C後半	92-7	XIV-32-13
43 22	53	軒平瓦	第7層	—	12Cくらい	瓦当径: 4.4	黒面: 布目痕, ヘラ削り 凸面: ナデ	92-7	未掲載
43 23	51	砥石	第7層	—	?	現長: 13.8 現最大幅: 3.2 現最大厚: 3.5 重さ: 167.7g	黒雲母デイスイト 1面のみ使用	90-2(H3)	VI-27-6
43 24	52	鉄製唾叉	第7層	—	?	現長: 31.1 現厚: 9.4	素環式鏡板付	90-2(H2)	III-20-1
43 25	52	鉄製唾叉	第7層	—	?	現長: 20.5 最大幅: 5.3 重さ: 26.0g	—	93-2(A)	XVI-27-25
43 26	52	鉄製唾叉	第7層	—	?	現長: 15.5 最大幅: 3.9 重さ: 15.7g	—	90-2(H4)	X-24-1
43 27	52	鉄製唾叉	第7層	—	?	現長: 15.1 最大幅: 4.4 重さ: 22.1g	—	90-2(H4)	X-24-2
43 28	52	鉄製唾叉	第7層	—	?	現長: 8.0 現最大幅: 2.5 重さ: 4.8g	—	92-6	XIV-11-2
43 29	52	鉄製唾叉	第7層	—	?	現長: 10.7 現最大幅: 1.2 現最大厚: 0.6	—	93-1	XV-55-3
43 30	52	鉄製釘	第7層	—	?	現長: 18.1 現最大幅: 1.65 現最大厚: 0.6	—	90-1	XII-28-10
43 31	52	鉄製馬狭の釘	第7層	—	?	現長: 15.2 最大幅: 2.3 最大厚: 1.1	—	90-3(A)	II-17
43 32	51	木製人形	第7層	—	?	現長: 18.2 現最大幅: 1.3 現最大厚: 1.0	目?と口を表現	90-2(H3)	VI-27-5
45 1	—	瓦器椀	第7b面	土器埋納遺構5	12C中頃	口径: 14.7(1/4脚) 高台径: 5.0(完) 器高: 5.0	外: ヨコナデ, 指押さえナデの後一部ヘラミガキ 内: ヘラミガキ, 見込み平行状暗文	90-2(H3)	VI-29
45 2	53	黒色土器B類椀	第7b面	土器埋納遺構7	11C中頃	口径: 15.4(2/5) 高台径: 6.0(完) 器高: 6.0	外: ヨコナデ, 指押さえ, ヘラ削りの後ヘラミガキ 内: 密なヘラミガキ	92-7	XIV-35-4
45 3	53	瓦器椀	第7b面	土器埋納遺構8	12C中頃	口径: 15.0(3/4) 高台径: 5.2(一部欠) 器高: 6.05	本和製 外: ヨコナデ, 指押さえ後継なヘラミガキ 内: 密なヘラミガキ	92-7	XIV-35-3
45 4	53	瓦器椀	第7b面	土器埋納遺構9	12C初	口径: 15.2~15.4(一部欠) 高台径: 5.7(完) 器高: 6.1	ミガキ, 見込みラセン状暗文	92-7	XIV-35-2
45 5	53	瓦器椀	第7b面	土器埋納遺構10	12C中頃	口径: 15.2(1/2) 高台径: 4.0(1/7) 器高: 5.5	外: ヨコナデ, 指押さえ後継なヘラミガキ 内: ヘラミガキ, 見込み平行状暗文	92-7	XIV-35-5
45 6	—	瓦器椀	第7b面	土器埋納遺構11	12C後半	口径: 14.7(1/4)	大和型 外: ヨコナデ, 指押さえ後継なヘラミガキ 内: 密なヘラミガキ	92-7	XIV-35-6
45 7	53	黒色土器A類椀	第7b面	土器埋納遺構87	11C前半	口径: 14.7(1/2) 高台径: 7.1(一部欠) 器高: 6.1~6.5	外: ヨコナデ, 指押さえの後ヘラミガキ 内: ヘラミガキ	90-2(H2)	III-21-1
45 8	53	瓦器椀	第7b面	土器埋納遺構93	12C中頃	口径: 16.0(1/3) 高台径: 6.2~6.6(完) 器高: 6.35	大和型 外: ヨコナデ, 指押さえ後継なヘラミガキ, 底部: 線刻? 内: 密なヘラミガキ, 見込みジグザグ状暗文	89-3	未掲載
45 9	53	黒色土器A類椀	第7b面	落ち込み	?	口径: 14.0(1/4) 高台径: 7.2(3/4) 現高: 6.0	沈: ハラミガキ, 見込みジグザグ状暗文	90-1	XII-28-1
45 10	52	板状木製品	第7b面	—	?	現長: 21.1 最大幅: 3.7 厚: 0.4~0.5	穿孔3ヶ所現存 孔径: 0.4~0.5 榫: スギ	90-3(C)	未掲載
45 11	52	板状木製品	第7b面	—	?	現長: 35.8 最大幅: 3.1 厚: 1.05	穿孔: 2 孔径: 0.5 榫: スギ	90-3(C)	未掲載
53 1	54	土師器皿	第8a面	水路15	10C後半~11C初	口径: 13.6(1/2) 器高: 2.2	「C」字状 外: ヨコナデ, 指押さえナデ 内: ヨコナデ, ナデ	90-1	XII-28-3
53 2	54	土師器皿	第8a面直上	—	10C後半~11C初	口径: 11.1(1/2) 器高: 1.4	「C」字状 外: ヨコナデ, 指押さえナデ 内: ヨコナデ, ナデ	92-7	XIV-38-2
53 3	54	土師器皿	第8a面直上	—	10C後半~11C初	口径: 13.7~13.9(4/5) 器高: 2.2	「C」字状 外: ヨコナデ, 指押さえナデ, スズ一部付蓋	93-1	未掲載
53 4	—	土師器皿	第8a層	—	11C前半	口径: 10.0(1/10)	外: ヨコナデ, 指押さえナデ 内: ヨコナデ, ナデ, スズ一部付蓋 (生)?	89-1	I-56-13
53 5	—	土師器皿	第8a層	—	11C	口径: 9.6(1/7)	「C」字状 外: ヨコナデ, 指押さえナデ 内: ヨコナデ, ナデ	89-2	I-60-4
53 6	54	土師器皿	第8a層	—	11C初	口径: 10.8(1/2) 器高: 1.4	「C」字状 外: ヨコナデ, 指押さえナデ 内: ヨコナデ, ナデ	89-2	I-60-5
53 7	54	土師器皿	第8a層	—	11C初	口径: 14.8(2/5)	「C」字状 外: ヨコナデ, 指押さえナデ 内: ヨコナデ, ナデ	90-2(H3)	VI-31-3
53 8	54	土師器皿	第8a層	—	11C?	口径: 14.6(1/2) 器高: 3.5	外: ヨコナデ, 指押さえナデ 内: ヨコナデ, ナデ	90-2(H3)	VI-31-3

図版番号	写真番号	器種	層序	遺構	時期	法量 (cm)	特徴	調査年度	概要掲載番号
53	9	土師器血	第8a層	11C	口径：14.2(1/4) 現高：2.7	外：ヨコナテ、指押さきナテ 内：ヨコナテ、指押さきナテ	90-2(H)	未掲載	
53	10	土師器血	第8a層	9C?	口径：15.6(1/6) 現高：1.8	外：ヨコナテ、? 内：ヨコナテ、?	93-1(B)	未掲載	
53	11	土師器血	第8a層	9C	口径：20.0(1/4) 現高：2.4	外：ヨコナテ、指押さきナテ 内：放射状明文	90-3(B)	未掲載	
53	12	土師器杯A	第8a層	8C末?	口径：14.3(1/6)	外：ヨコナテ、指押さきナテ 内：ヨコナテ	90-1	未掲載	
53	13	土師器杯C	第8a層	8C末~9C初?	口径：14.6(1/10)	外：ヨコナテ、指押さきナテ 内：ヨコナテ	93-1	未掲載	
53	14	土師器杯C	第8a層	8C末~9C初?	口径：14.4(1/4)	外：ヨコナテ、指押さきナテ 内：ヨコナテ、ナテ	90-2(H)	未掲載	
53	15	土師器杯C	第8a層	8C末~9C初?	口径：15.8(1/8)	外：ヨコナテ、指押さきナテ 内：ヨコナテ、ナテ	90-1	未掲載	
53	16	土師器杯	第8a層	10C中?	口径：11.4(1/5)	外：ヨコナテ、指押さきナテ 内：ヨコナテ、ナテ	90-2(H)	未掲載	
53	17	土師器杯	第8a層	10C中?	口径：11.7(1/12) 高台径：5.0(1/8) 器高：3.5	外：ヨコナテ、指押さきナテ 内：ヨコナテ、ナテ	90-1	未掲載	
53	18	土師器杯	第8a層	10C中?	口径：12.4(1/7) 高台：若干	外：ヨコナテ、指押さきナテ 内：ヨコナテ、ナテ	90-2(H)	未掲載	
53	19	土師器杯	第8a層	9C後半	口径：18.0(1/4) 高台：若干	上下接合部、外：ヨコナテ、ヘラ削りの後一部ヘラミガキ 内：密なヘラミガキの後半、土師器血	89-1	未掲載	
53	20	土師器杯	第8a層	9C後半	口径：16.7(1/2) 高台径：6.4(1/5) 器高：6.0	外：ヨコナテ、指押さきナテ 内：密なヘラミガキ	89-3	未掲載	
53	21	土師器杯	第8a層	10C前半	口径：6.6(1/3)	外：ヨコナテ、指押さきナテ 内：ハケメ、指押さきナテ、一部スエ	89-2	未掲載	
53	22	土師器杯	第8a層	10C後半?	口径：19.8(3/4)	外：ヨコナテ、ハケメ、スエ付着	90-1	未掲載	
53	23	土師器杯	第8a層	10C	高台径：7.4(1/6)	外：ヨコナテ、ナテ 内：ヘラミガキ	93-1(B)	未掲載	
53	24	土師器杯	第8a層	10C	口径：14.4(1/10) 現高：4.0	外：ヨコナテ、ヘラ削り (砂：→) 内：ヨコナテ	89-1	未掲載	
53	25	土師器杯	第8a層	10C	口径：14.0(1/6)	外：ヨコナテ、ヘラ削り (砂：→) 内：ヨコナテ	89-1	未掲載	
53	26	土師器杯	第8a層	10C	口径：14.9(1/10) 現高：4.5	外：ヨコナテ、ヘラ削り (砂：→) 内：ヨコナテ	92-7	未掲載	
53	27	土師器杯	第8a層	10C	口径：13.8(1/4) 現高：4.9	外：ヨコナテ、ヘラ削り (砂：→) 内：ヨコナテ	90-3(A)	未掲載	
53	28	土師器杯	第8a層	10C	口径：14.8(1/6)	外：ヨコナテ、ヘラ削り (砂：→) 内：ヨコナテ	90-1	未掲載	
53	29	土師器杯	第8a層	10C	口径：14.1(1/6)	外：ヨコナテ、ヘラ削り (砂：→) 内：ヨコナテ	89-1	未掲載	
53	30	土師器杯	第8a層	10C	口径：15.2(1/3) 現高：4.8	外：ヨコナテ、ヘラ削り (砂：→) 内：ヨコナテ	90-1	未掲載	
53	31	土師器杯	第8a層	10C	口径：14.4(1/10) 現高：4.0	外：ヨコナテ、ヘラ削り (砂：→) 内：ヨコナテ	90-3(A)	未掲載	
53	32	土師器杯	第8a層	10C	口径：14.0(1/6)	外：ヨコナテ、ヘラ削り (砂：→) 内：ヨコナテ	90-1	未掲載	
53	33	土師器杯	第8a層	10C	口径：15.0(1/6)	外：ヨコナテ、ヘラ削り (砂：→) 内：ヨコナテ	90-1	未掲載	
53	34	土師器杯	第8a層	10C	口径：12.2(1/16) 現高：2.9	外：ヨコナテ、ヘラ削り (砂：→) 内：ヨコナテ	93-2(D)	未掲載	
53	35	土師器杯	第8a層	10C	口径：15.0(1/6)	外：ヨコナテ、ヘラ削り (砂：→) 内：ヨコナテ	90-1	未掲載	
53	36	土師器杯	第8a層	10C	口径：14.4(1/10) 現高：4.0	外：ヨコナテ、ヘラ削り (砂：→) 内：ヨコナテ	89-1	未掲載	
53	37	土師器杯	第8a層	10C	口径：14.0(1/6)	外：ヨコナテ、ヘラ削り (砂：→) 内：ヨコナテ	89-1	未掲載	
53	38	土師器杯	第8a層	10C	口径：14.9(1/10) 現高：4.5	外：ヨコナテ、ヘラ削り (砂：→) 内：ヨコナテ	92-7	未掲載	
53	39	土師器杯	第8a層	10C	口径：13.8(1/4) 現高：4.9	外：ヨコナテ、ヘラ削り (砂：→) 内：ヨコナテ	90-3(A)	未掲載	
53	40	土師器杯	第8a層	10C	口径：14.8(1/6)	外：ヨコナテ、ヘラ削り (砂：→) 内：ヨコナテ	90-1	未掲載	
53	41	土師器杯	第8a層	10C	口径：14.1(1/6)	外：ヨコナテ、ヘラ削り (砂：→) 内：ヨコナテ	89-1	未掲載	
53	42	土師器杯	第8a層	10C	口径：15.2(1/3) 現高：4.8	外：ヨコナテ、ヘラ削り (砂：→) 内：ヨコナテ	90-1	未掲載	
53	43	土師器杯	第8a層	10C	口径：11.6(1/2) 現高：4.3	外：ヨコナテ、ヘラ削り (砂：→) 内：ヨコナテ	89-1	未掲載	
53	44	土師器杯	第8a層	10C	口径：12.4(1/4) 現高：4.3	外：ヨコナテ、ヘラ削り (砂：→) 内：ヨコナテ	90-1	未掲載	
53	45	土師器杯	第8a層	10C	口径：14.1(1/4) 現高：4.5	外：ヨコナテ、ヘラ削り (砂：→) 内：ヨコナテ	90-2(H)	未掲載	
53	46	土師器杯	第8a層	10C	口径：14.2(1/10) 現高：4.6	外：ヨコナテ、ヘラ削り (砂：→) 内：ヨコナテ	93-2(C)	未掲載	
53	47	土師器杯	第8a層	10C	口径：11.7(2/3) 器高：4.5	外：ヨコナテ、ヘラ削り (砂：→) 内：ヨコナテ	90-1	未掲載	
53	48	土師器杯	第8a層	10C	口径：12.4(1/9) 現高：5.9	外：ヨコナテ、ヘラ削り (砂：→) 内：ヨコナテ	90-1	未掲載	
53	49	土師器杯	第8a層	10C	口径：10.8(1/2) 器高：3.1	外：ヨコナテ、ヘラ削り (砂：→) 内：ヨコナテ	93-2(D)	未掲載	
53	50	土師器杯	第8a層	10C	口径：10.8(1/4) 器高：4.0	外：ヨコナテ、ヘラ削り (砂：→) 内：ヨコナテ	90-1	未掲載	
53	51	土師器杯	第8a層	10C	口径：11.6(1/4) 現高：4.0	外：ヨコナテ、ヘラ削り (砂：→) 内：ヨコナテ	89-2	未掲載	
53	52	土師器杯	第8a層	10C	口径：13.5(1/3) 現高：4.0	外：ヨコナテ、ヘラ削り (砂：→) 内：ヨコナテ	90-3(A)	未掲載	
53	53	土師器杯	第8a層	10C	口径：10.3(若干のみ) 現高：3.4	外：ヨコナテ、ヘラ削り (砂：→) 内：ヨコナテ	92-7	未掲載	
53	54	土師器杯	第8a層	10C	口径：11.9(1/9) 現高：3.0	外：ヨコナテ、ヘラ削り (砂：→) 内：ヨコナテ	90-1	未掲載	
53	55	土師器杯	第8a層	10C	口径：7.9~8.3(一部欠) 器高：3.1	外：ヨコナテ、ヘラ削り (砂：→) 内：ヨコナテ	89-3	未掲載	
53	56	土師器杯	第8a層	10C	口径：10.2(1/4) 現高：3.1	外：ヨコナテ、ヘラ削り (砂：→) 内：ヨコナテ	90-1	未掲載	
53	57	土師器杯	第8a層	10C	口径：9.5(1/4) 現高：3.1	外：ヨコナテ、ヘラ削り (砂：→) 内：ヨコナテ	89-3	未掲載	
53	58	土師器杯	第8a層	10C	口径：10.0(1/9)	外：ヨコナテ、ヘラ削り (砂：→) 内：ヨコナテ	90-2(H)	未掲載	
53	59	土師器杯	第8a層	10C	口径：10.8(1/5)	外：ヨコナテ、ヘラ削り (砂：→) 内：ヨコナテ	90-2(H)	未掲載	
53	60	土師器杯	第8a層	10C	口径：11.2(1/6)	外：ヨコナテ、ヘラ削り (砂：→) 内：ヨコナテ	90-2(H)	未掲載	
53	61	土師器杯	第8a層	10C	口径：12.0(1/8)	外：ヨコナテ、ヘラ削り (砂：→) 内：ヨコナテ	90-2(H)	未掲載	
53	62	土師器杯	第8a層	10C	口径：15.4(1/4)	外：ヨコナテ、ヘラ削り (砂：→) 内：ヨコナテ	93-2(D)	未掲載	
53	63	土師器杯	第8a層	10C	口径：12.5(3/4) 器高：4.8	外：ヨコナテ、ヘラ削り (砂：→) 内：ヨコナテ	90-1	未掲載	
53	64	土師器杯	第8a層	10C	口径：13.2(1/5) 現高：4.5	外：ヨコナテ、ヘラ削り (砂：→) 内：ヨコナテ	90-1	未掲載	
53	65	土師器杯	第8a層	10C	口径：13.0(若干のみ)	外：ヨコナテ、ヘラ削り (砂：→) 内：ヨコナテ	90-1	未掲載	
53	66	土師器杯	第8a層	10C	口径：13.6(1/3) 現高：5.4	外：ヨコナテ、ヘラ削り (砂：→) 内：ヨコナテ	90-3(A)	未掲載	
53	67	土師器杯	第8a層	10C	口径：13.4(2/5) 現高：5.2	外：ヨコナテ、ヘラ削り (砂：→) 内：ヨコナテ	90-1	未掲載	
53	68	土師器杯	第8a層	10C	口径：11.2(1/6)	外：ヨコナテ、ヘラ削り (砂：→) 内：ヨコナテ	90-1	未掲載	
53	69	土師器杯	第8a層	10C	口径：11.9(1/4) 現高：4.9	外：ヨコナテ、ヘラ削り (砂：→) 内：ヨコナテ	90-1	未掲載	
53	70	土師器杯	第8a層	10C	口径：13.6(1/9)	外：ヨコナテ、ヘラ削り (砂：→) 内：ヨコナテ	92-7	未掲載	
53	71	土師器杯	第8a層	10C	口径：11.4(若干のみ)	外：ヨコナテ、ヘラ削り (砂：→) 内：ヨコナテ	90-1	未掲載	
53	72	土師器杯	第8a層	10C	口径：12.6(1/3)	外：ヨコナテ、ヘラ削り (砂：→) 内：ヨコナテ	93-2(D)	未掲載	





図版番号	写真番号	器種	層序	遺構	時期	法量 (cm)	特徴	調査年度	概要掲載番号
58-12	59	土師器皿	第8b面	土器埋納遺構21	10C後半～11C初	口径：13.7(1/4) 現高：2.1	〔テ〕零状 外：ヨコナデ、指押さえナデ 内：ヨコナデ、ナデ	89-3	I-52-2
58-13	—	土師器皿	第8b面	土器埋納遺構21	10C後半～11C初	口径：14.2(1/6) 現高：2.0	〔テ〕零状 外：ヨコナデ、指押さえナデ 内：ヨコナデ、ナデ	89-3	I-52-3
58-14	59	黒色土器A類椀	第8b面	土器埋納遺構22	11C前半	口径：15.6(2/5) 高台径：7.4(一部欠) 現高：5.5	外：ヨコナデ、指押さえ後へラミガキ 内：端凹み、へラミガキ、重ね焼	89-3	I-76-1
58-15	59	土師器杯	第8b面	土器埋納遺構25	11C前半か	口径：14.4～14.5(一部欠) 器高：4.2	裏書〔下〕外：ヨコナデ、指押さえナデ 内：ヨコナデ	90-3(A)	II-54-5
58-16	59	土師器杯	第8b面	土器埋納遺構26	11C前半か	口径：13.4(完) 器高：4.0	外：ヨコナデ、指押さえナデ 内：ヨコナデ	90-3(A)	II-54-3
58-17	59	土師器碗	第8b面	土器埋納遺構27	10C中	口径：13.5(完) 高台径：4.0(完) 器高：4.1	外：ヨコナデ、指押さえナデ 高台：粘土貼り付けただけのもの 内：ヨコナデ、ナデ、へラ	90-3(A)	II-54-4
58-18	59	黒色土器A類椀	第8b面	土器埋納遺構28	11C前半～中	口径：15.4(1/2) 高台径：6.0(完) 器高：6.2	外：口縁打ち欠ぎ、密へラミガキ 内：へラミガキ (方向一定せず)	90-1	XII-28-2
58-19	59	土師器杯	第8b面	土器埋納遺構29	10C前半	口径：13.0(一部欠) 器高：3.9	外：ヨコナデ、指押さえナデ 内：ヨコナデ、ナデ	90-1	XII-71-9
58-20	59	土師器碗	第8b面	土器埋納遺構30	10C中	口径：13.4(1/2) 高台径：3.8(3/4で終結) 器高：4.2	外：ヨコナデ、指押さえナデ 高台：粘土貼りを付けただけのもの	92-7	XIV-48-4
58-21	59	黒色土器A類椀	第8b面	土器埋納遺構31	10C後半	口径：15.4(完)	外：ヨコナデ、指押さえの密へラミガキ 内：密へラミガキ	92-7	XIV-48-8
58-22	59	土師器杯	第8b面	土器埋納遺構32	10C後半か	口径：13.2(一部欠) 器高：5.6	口縁打ち欠ぎ 外：ヨコナデ、指押さえナデ 内：ヨコナデ	92-7	XIV-48-3
58-23	60	土師器杯	第8b面	土器埋納遺構33	11C前半か	口径：15.2(一部欠) 器高：3.9	裏書〔上〕外：ヨコナデ、指押さえナデ 内：端凹み、ヨコナデ	92-7	XIV-48-5
58-24	60	土師器杯	第8b面	土器埋納遺構34	10C前半	口径：12.3～12.6(完) 器高：3.8	外：ヨコナデ、指押さえナデ 内：ヨコナデ、ナデ	89-2	I-60-2
58-25	60	黒色土器A類椀	第8b面	土器埋納遺構35	10C前半	口径：14.5(1/2) 高台径：6.2(完) 器高：5.2	裏書〔下〕外：ヨコナデ、へラナデ？ 内：端凹み、密へラミガキ	89-2	I-60-6
58-26	60	土師器杯	第8b面	土器埋納遺構36	10C前半	口径：13.4～13.8(一部欠) 器高：3.8	外：ヨコナデ、指押さえナデ 内：ヨコナデ、ナデ	89-2	I-60-3
58-27	60	土師器碗	第8b面	土器埋納遺構37	10C中	口径：13.7～14.0(完) 高台径：5.9～6.5(完) 器高：4.4	外：ヨコナデ、指押さえの密へラミガキ 高台：粘土貼りを付けただけのもの 内：ヨコナデ、ナデ、へラ	89-3	I-76-4
58-28	60	黒色土器A類椀	第8b面	土器埋納遺構39	10C後半	口径：14.9(2/5) 高台径：7.8(一部欠) 器高：5.7	外：ヨコナデの後へラミガキ、指押さえナデ 内：へラミガキ	89-1	I-58-3
58-29	—	土師器杯	第8a層	土器埋納遺構91	11C前半？	口径：13.6(3/4) 器高：3.4	外：2段ヨコナデ、指押さえナデ 内：端凹み、ヨコナデ、ナデ、へラ	89-3	I-76-6
58-30	60	土師器碗	第8a層	土器埋納遺構92	10C中	口径：13.6(1/4) 高台径：4.6～5.4(完結しない) 器高：3.6～4.1	外：ヨコナデ、指押さえナデ 高台：粘土貼りを付けただけのもの	90-3(A)	未掲載
59-1	—	弥生土器壺	第8b面	溝19	V様式	口径：17.8(1/4)	外：ヨコナデ、平行タタミの後ハケメ 内：ヨコナデ、工具痕ナデ	90-1	未掲載
59-2	—	土師器杯	第8b面	溝19	5C中～6C	口径：29.8(1/8)	外：指押さえ、一部ハケメ 内：ハケメ、ナデ(生)	90-1	未掲載
59-3	—	黒色土器A類椀	第8b面	溝3	10C後半	口径：15.4(1/3+1/4) 高台径：8.0(1/3) 器高：5.0～5.7	外：ヨコナデ、指押さえの後へラミガキ 内：端凹み、へラミガキ	89-3	I-76-2
59-4	—	木製甕	第8b面	落ち込み5	?	径：27.0 高：7.5	目釘ヶ所(内2本線) 粗皮による結束3ヶ所(上段と下段を粗皮によっ	90-3(C)	XI-1-29
59-5	60	木製埴？	第8b面	落ち込み5	?	現長：35.3 現最大幅：5.7 現最大厚：2.5	て結束した後、下段にさらに板を当て、目釘ととめる	90-3(C)	未掲載
59-6	61	木製埴？	第8b面	落ち込み5	?	現長：205.5 現最大幅：13.5	履足鉢 断面7角形、ホソ孔15、一部流化	90-3(C)	未掲載
59-7	60	銅製鈴	第8b面	九、十六ノ坪間坪埴畦畔	?	径：2.7 高さ：3.1	玉も残存	89-2	I-50
59-8	60	銅製鈴	第8b面	九、十六ノ坪間坪埴畦畔	?	径：3.0 高さ：3.0	外：回転ナデ、へラ切り、へラ記号？ 内：回転ナデ	92-7	XIV-39
65-1	60	須恵器杯	第8a面	水路35(周辺)	II-6	口径：9.4(1/3) 現高：3.3	外：回転ナデ、へラ切り 内：回転ナデ、ナデ	90-3(B)	VII-28-10
65-2	—	須恵器杯	第8a面	水路35(周辺)	III-2	口径：13.0(1/6) 現高：4.3	外：ナデの後へラミガキ、へラ削り 内：斜線状噴文、ラセン状噴文	90-3(B)	VII-28-6
65-3	—	須恵器杯	第8a面	水路35(周辺)	III-2	口径：12.6(1/4) 現高：4.7	外：ナデの後へラミガキ、へラ削り 内：斜線状噴文、ラセン状噴文	90-3(B)	VII-28-8
65-4	—	土師器杯A	第8a面	水路35(周辺)	8C中	口径：13.0(1/8) 現高：2.7	外：ヨコナデ、内ヨコナデ	90-3(B)	VII-28-7
65-5	61	土師器杯C	第8a面	水路35(埋土)	8C前半	口径：13.2(4/5) 器高：3.3	外：ヨコナデ、指押さえ 内：段、斜線状噴文	90-3(B)	VII-28-11
65-6	61	土師器杯C	第8a面	水路35(埋土)	8C中	口径：13.8(1/7)	外：内：—	90-3(B)	VII-28-11
65-7	61	土師器杯A	第8a面	水路35(埋土)	8C後半か	口径：13.2(1/4) 現高：4.1	黒色土器A類か？内面黒色 外：ヨコナデ、指押さえ 内：ヨコナデ、ナ	90-3(B)	VII-28-13
65-8	—	土師器杯C	第8a層	第8a層	8C後半	口径：13.5(1/6)	外：ヨコナデ、指押さえナデ 内：段、ヨコナデ、ナデ	90-1	未掲載
65-9	—	土師器杯C	第8a層	第8a層	8C初	口径：12.2(1/4弱)	外：ヨコナデ、内：段、放射状噴文	90-1	XII-74-7
65-10	—	土師器杯C	第8a層	第8a層	8C初めか	口径：16.2(1/3)	外：ヨコナデ、指押さえナデ 内：へラ記号、段、斜線状噴文	90-1	未掲載
65-11	—	土師器杯C	第8a層	第8a層	8C初めか	口径：11.5(1/5)	外：ヨコナデ、指押さえナデ 内：段、放射状噴文	90-2(H3)	VI-39-4
65-12	—	土師器杯C	第8a層	第8a層	7C中	口径：11.4(1/7)	外：ヨコナデ、指押さえナデ 内：段、ヨコナデ、放射状噴文	90-3(A)	未掲載
65-13	—	土師器杯C	第8a層	第8a層	7C中	口径：16.5(1/9) 現高：4.9	外：ヨコナデ、多分へラ削りの後へラミガキ 内：段、放射状噴文	93-1(B)	XV-67-3
65-14	—	土師器杯	第8a層	第8a層	7C初	口径：12.2(1/5)	外：ヨコナデ、指押さえ、へラ削りの後へラミガキ 内：暗文あり	90-3(B)	未掲載
65-15	—	土師器杯	第8a層	第8a層	8C初	口径：22.8(1/12) 現高：3.1	外：ヨコナデ、へラ削り 内：斜線状噴文、ハケメ	90-1	未掲載
65-16	—	土師器杯高台	第8a層	第8a層	8C後半か	高台径：15.4(1/6)	外：ヨコナデ、ナデ？ 内：ナデ	90-1	未掲載
65-17	—	土師器杯B蓋	第8a層	第8a層	8C中	口径：17.4(1/5) 現高：2.8	外：4回転へラミガキ 内：ラセン状噴文	89-3	I-76-7
65-18	—	土師器杯A	第8a層	第8a層	8C前半	口径：18.8(1/4) 現高：4.3	外：ヨコナデ、タテハ字後ヨコナデ、スス付蓋 内：斜線状噴文、連弧状噴文	89-3	I-76-8
65-19	—	土師器蓋	第8a層	第8a層	6C	口径：11.6(1/6) 現高：12.1	外：ヨコナデ、ハケメ、スス付蓋 内：ハケメ(生)	90-1	未掲載
65-20	61	土師器蓋	第8a層	第8a層	6C	口径：11.6(1/2)	外：ハケメ、スス付蓋 内：ハケメ(生)	90-1	未掲載
65-21	61	土師器蓋	第8a層	第8a層	6C後半	頸部径：9.5(完)	外：ハケメ、スス付蓋 内：ハケメ(生)	90-1	未掲載
65-22	—	土師器蓋	第8a層	第8a層	6C	口径：15.2(1/3)	外：ヨコナデ、ハケメ、スス付蓋 内：ハケメ(生)	90-1	未掲載
65-23	—	土師器蓋	第8a層	第8a層	6C	口径：11.8(1/5)	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ	90-1	未掲載
65-24	—	土師器高杯	第8a層	第8a層	6C	口径：16.8(1/4)	外：ヨコナデ、指押さえナデ 内：ハケメ、スス付蓋、穿孔？	90-1	未掲載
65-25	62	土師器高杯	第8a層	第8a層	6C	口径：15.8(1/4弱)	外：ヨコナデ、指押さえナデ 内：ヨコナデ	90-1	XII-77-58
65-26	62	土師器小型丸底甕	第8a層	第8a層	布留IV～V	口径：8.1(完) 器高：7.6	外：ヨコナデ、指押さえナデ、へラ削り 内：ヨコナデ、ナデ、指押さえ	90-1	XII-77-60
65-27	62	土師器小型丸底甕	第8a層	第8a層	布留V	口径：9.8(完) 器高：10.2	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ナデ	90-1	未掲載
65-28	—	土師器小型丸底甕	第8a層	第8a層	布留IV～V	口径：11.7(1/2) 器高：12.5	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ナデ	90-1	未掲載
65-29	—	土師器小型丸底甕	第8a層	第8a層	布留III	口径：11.4(1/8)	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ナデ	92-7	未掲載
65-30	62	土師器小型丸底甕	第8a層	第8a層	5C中～	口径：24.0(1/5)	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ナデ	89-3	II-47-4-1
65-31	62	土師器蓋	第8a層	第8a層	5C中～	小片	裏書き部分 外：向心円文スタンプ 内：ナデ、スス付蓋(生)	89-3	未掲載
65-32	62	土師器蓋	第8a層	第8a層	5C中～	小片	裏書き部分 外：向心円文スタンプ 内：ナデ、スス付蓋(生)	89-3	未掲載
65-33	—	土師器蓋	第8a層	第8a層	5C中～	破片	裏書き部分 外：ハケメ、ナデ 内：ハケメ、ナデ	89-3	未掲載
65-34	—	土師器蓋	第8a層	第8a層	5C末～6C	体部径(一番下)：21.0(1/3)	底部分 外：ハケメ、スス付蓋 内：ナデ、ハケメ	90-1	未掲載
65-35	62	土師器羽釜	第8a層	第8a層	7C？	口径：30.5(1/5)	外：ヨコナデ、ハケメ、スス付蓋 内：ハケメ、指押さえナデ	90-1	未掲載

図版番号	写真番号	器種	層序	遺構	時期	法量 (cm)	特徴	調査年度	概要掲載番号
67	36	土師器高杯	第9a層		布留V	口径：28.5(若干のみ)	外：ヨコナデ、ハケメ、ヘラ痕 内：ハケメ	90-1	未掲載
67	37	土師器高杯	第9a層		布留V	口径：27.4(1.6)	外：ナデ 内：ナデ	90-1	未掲載
67	38	土師器高杯	第9a層		布留IV	口径：14.8(1.7)	外：ヨコナデ、ナデ、ヘラ削り 内：ヨコナデ、ナデ	90-1	XII-77-59
67	39	土師器高杯	第9a層		布留IV	屈曲部径：9.6(1.5)	外：ヨコナデ、ナデ、ヘラ削り 内：ヨコナデ (生)	90-5	III-56
67	40	土師器高杯胴部	第9a層		6C?	胴径：9.5(1.3)	外：ナデ 内：しぼり目、指押さへナデ	90-1	未掲載
67	41	土師器高杯胴部	第9a層		6C?	胴径：2.0(完)	外：ハケメ、ナデ 内：しぼり目、ヘラ痕	90-1	未掲載
67	42	土師器高杯胴部	第9a層		布留V	胴径：10.0(1.2強)	外：ナデ、布目痕、ハケメナデ 内：しぼり痕、布目痕	90-1	未掲載
67	43	土師器高杯胴部	第9a層		布留III	胴径：10.4(3.5)	外：ハケ、ヘラナデ、ヘラ痕、指押さへナデ 内：しぼり痕、指押さへナデ	92-7	未掲載
67	44	弥生土器高杯胴部	第9a層		弥生VI~庄内	胴径：10.0(1.8)	外：透かし5方筒 内：(生)	92-7	未掲載
67	45	弥生土器高杯胴部	第9a層		弥生VI~庄内	胴径：8.6(9.10)	外：ヘラミナガキ、透かし3方筒 内：ナデ (生)	92-7	未掲載
67	46	土師器現今口縁部	第9a層		布留I	口径：25.4(1.9)	外：ヨコナデ、ナデ、ヘラ削り 内：ヨコナデ、ヘラ削り	92-7	未掲載
67	47	弥生土器短頸壺	第9a層		V様式	口径：13.7(1.3)	外：ヘラミナガキ? 内：ヨコナデ、指押さへナデ (生)	92-7	未掲載
67	48	弥生土器短頸壺	第9a層		庄内II~III	口径：15.1(1.4)	根張系? 外：ヘラ削り? 内：指押さへ、ナデ、ヘラ痕	93-2(A)	XVI-35-3
67	49	土師器短頸壺	第9a層		庄内II~III	口径：21.6(1.9)	外：ヨコナデ 内：ハケメ	92-7	未掲載
67	50	弥生土器壺	第9a層		V-3~V様式	口径：11.5(1.6)	外：ヨコナデ、指押さへナデ、ヘラ削り 内：ヨコナデ	90-1	未掲載
67	51	土師器鉢	第9a層		庄内?	口径：11.6(1.5)	外：(生)	90-3(A)	II-46-1
67	52	土師器鉢	第9a層		庄内?	口径：22.7(1.6)	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ハケメ	90-1	未掲載
67	53	土師器鉢	第9a層		弥生VI~庄内	口径：16.6(1.8)	外：凸縁 内：生	92-7	XIV-47-1
67	54	弥生土器鉢	第9a層		?	口径：18.4(2.3) 現高：32.5	外：斜格子状タタキ 内：(生)	92-7	XIV-47-2
67	55	軟質土器片	第9a層		?		陶質 外：凸縁、回転ナデ、平行タタキ (5条0m) 後沈線 内：回転ナデ、板ナデ、ナデ	90-3(A)	II-49-23
67	56	韓式系甕	第9a層		IV-1(MT21)	口径：15.4(1.3)	外：回転ヨコナデ、回転ヘラ削り 内：回転ヨコナデ	90-3(B)	未掲載
67	57	須恵器杯蓋	第9a層		III-2	小片	外：回転ナデ 内：回転ナデ、一部自然袖付蓋	90-3(A)	未掲載
67	58	須恵器杯蓋	第9a層		III-2	小片	外：回転ナデ 内：回転ナデ	90-1	XII-74-1
67	59	須恵器杯蓋	第9a層		III-1(TK217)	口径：8.2(1.4)	外：回転ナデ、ヘラ削り 内：回転ナデ、ナデ	90-2	VI-39-3
67	60	須恵器杯蓋	第9a層		III-1(TK217)	口径：13.0(3.8) 現高：3.9	外：回転ヨコナデ、ヘラ切り未調整 内：ヘラ記号、回転ナデ(杯身かも)	90-2(H3)	未掲載
67	61	須恵器杯蓋	第9a層		II-4(TK43)	口径：14.4(1.8)	外：回転ナデ、回転ヘラ削り (砂：→) 内：回転ナデ	89-2	未掲載
67	62	須恵器杯蓋	第9a層		II-3	口径：14.0(4.5) 器高：4.3	外：回転ナデ、回転ヘラ削り (砂：→) 自然袖付蓋 内：段、回転ナデ	90-6(D)	II-88-2
67	63	須恵器杯蓋	第9a層		II-2(TK10)	口径：14.0(4.5) 器高：4.3	外：回転ナデ、回転ヘラ削り (砂：→) 自然袖付蓋 内：段、回転ナデ	89-3	I-76-14
67	64	須恵器杯蓋	第9a層		60前半	口径：14.1(1.3)	外：回転ナデ 内：当て具痕	90-1	XII-75-12
67	65	須恵器杯蓋	第9a層		II-2(TK10)	口径：14.1(1.3)	外：回転ナデ、回転ヘラ削り (砂：→) 中：回転ナデ、ナデ	90-1	未掲載
67	66	須恵器杯蓋	第9a層		II-2(TK10)	口径：14.7(1.7)	外：回転ナデ、回転ヘラ削り 内：段、回転ナデ	90-1	未掲載
67	67	須恵器杯蓋	第9a層		II-2(TK10)	口径：14.8(1.4)	外：回転ナデ、回転ヘラ削り (砂：→) 内：段、回転ナデ	90-1	XIV-49-6
67	68	須恵器杯蓋	第9a層		II-2(TK10)	口径：16.0(1.8)	外：回転ナデ、回転ヘラ削り 内：段、回転ナデ	90-1	未掲載
67	69	須恵器杯蓋	第9a層		II-2(TK10)	口径：17.4(1.6)	外：回転ナデ、回転ヘラ削り 内：段、回転ナデ	92-7	XIV-49-1
67	70	須恵器杯蓋	第9a層		II-2(TK10)	口径：16.0(1.8)	外：回転ナデ、自然袖付蓋 内：段、回転ナデ	90-3(A)	II-49-12
67	71	須恵器杯蓋	第9a層		II-2(TK10)	口径：14.0(1.5)	外：回転ナデ、回転ヘラ削り (砂：→) 内：段、回転ナデ	90-3(A)	II-49-1
67	72	須恵器杯蓋	第9a層		II-2(TK10)	口径：16.8(1.72) 現高：5.1	外：回転ナデ、回転ヘラ削り (砂：→) 内：段、回転ナデ	90-1	未掲載
67	73	須恵器杯蓋	第9a層		II-2(TK10)	口径：15.8(1.6)	外：回転ナデ、回転ヘラ削り (砂：→) 内：段、回転ナデ	90-1	未掲載
67	74	須恵器杯蓋	第9a層		II-2(TK10)	口径：15.4(1.72) 現高：4.8	外：ヘラ記号、赤色顔料?付蓋、回転ナデ、回転ヘラ削り (砂：→)	90-1	未掲載
67	75	須恵器杯蓋	第9a層		II-2(TK10)	口径：15.0(1.5)	外：回転ナデ、当て具痕	90-3(A)	未掲載
67	76	須恵器杯蓋	第9a層		II-2(TK10)	口径：13.2(1.4強)	外：ハケ状刻目、回転ナデ、回転ヘラ削り (砂：→) 内：段、回転ナデ	90-3(A)	未掲載
67	77	須恵器杯蓋	第9a層		II-1(MT15)	口径：16.8(1.2) 器高：5.3	外：回転ナデ、回転ヘラ削り (砂：→)、自然袖付蓋 内：段、回転ナデ、ナデ	90-3(A)	未掲載
67	78	須恵器杯蓋	第9a層		II-1(MT15)	口径：11.4(1.4)	外：回転ナデ、回転ヘラ削り、自然袖付蓋 内：段、回転ナデ	90-1	未掲載
67	79	須恵器杯蓋	第9a層		II-1(MT15)	口径：12.0(1.6)	外：回転ナデ、回転ヘラ削り 内：段、回転ナデ	92-7	XIV-49-1
67	80	須恵器杯蓋	第9a層		II-1(MT15)	口径：12.6(1.2強)	外：回転ナデ、回転ヘラ削り (砂：→) 内：段、回転ナデ、当て具痕	90-1	未掲載
67	81	須恵器杯蓋	第9a層		II-1(MT15)	口径：13.1(1.9)	外：回転ナデ、回転ヘラ削り、自然袖付蓋 内：段、回転ナデ	90-1	未掲載
67	82	須恵器杯蓋	第9a層		II-1(MT15)	口径：14.6(1.4強)	外：ハケ状刻目、回転ナデ、回転ヘラ削り、自然袖付蓋 内：段、回転ナデ、ナデ	90-1	未掲載
67	83	須恵器杯蓋	第9a層		II-1~2	口径：13.0(1.4)	外：ナデ	90-1	未掲載
67	84	須恵器杯蓋	第9a層		II-1(MT15)	口径：12.6(1.2強)	外：回転ナデ、自然袖付蓋、透蓋 内：段、回転ナデ	90-1	未掲載
67	85	須恵器杯蓋	第9a層		II-1(MT15)	口径：13.5(1.4)	外：回転ナデ、回転ヘラ削り (砂：→) 内：段、回転ナデ、ナデ、当て具痕	90-1	未掲載
67	86	須恵器杯蓋	第9a層		II-1(MT15)	口径：11.8(1.3)	外：回転ナデ、回転ヘラ削り (砂：→)、自然袖付蓋 内：段、回転ナデ	90-1	XII-75-14
67	87	須恵器杯蓋	第9a層		II-1(MT15)	口径：12.2(1.3) 器高：4.8	外：回転ナデ、回転ヘラ削り (砂：→) 内：段、回転ナデ	90-1	XII-75-16
67	88	須恵器杯蓋	第9a層		1-5~II-1	口径：11.8(1.4強) 現高：5.0	外：回転ナデ、回転ヘラ削り 内：段、回転ナデ?、赤色顔料?付蓋	90-1	未掲載
67	89	須恵器杯蓋	第9a層		1-5~II-1	口径：11.3(1.7)	外：回転ナデ、回転ヘラ削り 内：段、回転ナデ	92-7	XIV-49-2
67	90	須恵器杯蓋	第9a層		1-5~II-1	口径：12.3(1.3)	外：回転ナデ、回転ヘラ削り (砂：→) 内：段、回転ナデ	90-1	XII-75-13
67	91	須恵器杯蓋	第9a層		1-5(TK47)	口径：12.0(1.2) 器高：4.6	外：回転ナデ、回転ヘラ削り (砂：→) 内：段、回転ナデ、ナデ	90-1	未掲載
67	92	須恵器杯蓋	第9a層		1-5(TK47)	口径：11.5(1.4)	外：回転ナデ、回転ヘラ削り (砂：→) 内：段、回転ナデ、ナデ	90-1	未掲載
67	93	須恵器杯蓋	第9a層		1-5(TK47)	口径：10.8(3.4)	外：回転ナデ、回転ヘラ削り (砂：→) 内：段、回転ナデ	90-1	未掲載
67	94	須恵器杯蓋	第9a層		1-5(TK47)	口径：11.9(1.5)	外：回転ナデ、内：段、回転ナデ	92-7	XII-68-19
67	95	須恵器杯蓋	第9a層		1-4~5	口径：11.4(1.2強) 器高：5.0	外：回転ナデ、回転ヘラ削り (砂：→) 内：段、回転ナデ、ナデ	90-1	未掲載

図版番号/写真番号	器種	層序	遺構	時期	法量 (cm)	特徴	調査年度	概要掲載番号
68 100	須恵器杯蓋	第9a層		I-4(TK23)	口径：11.5(1/6) 現高：5.3	外：凸線2、連続楕圓刻突文、回転ナデ、カキ目、自然袖付蓋 内：段、回転ナデ	90-3(A)	II-49-17
69 101	須恵器杯	第9a層		III-2(TK46)	口径：12.2(1/5) 現高：3.7	外：回転ナデ、ヘラ切り未調整 内：回転ナデ	90-2(H3)	VI-36
69 102	須恵器杯	第9a層		III-2(TK46)	底径：7.0(1/2)	外：回転ナデ、朱調整、粘土飛付蓋 内：回転ナデ	90-1	未掲載
69 103	須恵器杯	第9a層		III-1(TK217)	口径：8.4(1/4) 現高：3.2	外：回転ナデ、ヘラ切り未調整 内：回転ナデ	90-3	未掲載
69 104	須恵器杯	第9a層		III-1(TK217)	口径：12.0(1/3)	外：回転ナデ、ナデ	89-3	未掲載
69 105	須恵器杯	第9a層		II-6	口径：9.6(2/5) 現高3.3	外：回転ナデ、ヘラ切り、自然袖付蓋 内：回転ナデ、ナデ	90-2(H2)	I-76-15
69 106	須恵器杯	第9a層		II-6	口径：8.6(1/2) 器高：3.5	外：回転ヨコナデ、ヘラ切り未調整 内：回転ナデ	90-1	未掲載
69 107	須恵器杯	第9a層		II-6	口径：8.6~8.9(一部欠) 器高：3.0	外：回転ヨコナデ、自然袖付蓋 内：回転ナデ	92-7	XIV-49-9
69 108	須恵器杯	第9a層		II-6	口径：10.4(1/8)	外：回転ナデ 内：回転ナデ	92-7	XI-74-2
69 109	須恵器杯	第9a層		II-4(TK43)	口径：13.4(1/4)	外：回転ナデ 内：回転ナデ、ナデ	89-1	未掲載
69 110	須恵器杯	第9a層		II-4(TK43)	口径：10.4~10.6(完) 器高：3.4	外：回転ナデ、回転ヘラ削り(砂：→) 内：回転ナデ、ナデ	90-1	未掲載
69 111	須恵器杯	第9a層		II-3	口径：若干のみ、変径径：14.5(1/4) 現高：4.1	外：回転ナデ、回転ヘラ削り(砂：→) 内：回転ナデ	90-3(A)	II-49-3
69 112	須恵器杯	第9a層		II-3	口径：12.2(1/5) 現高：3.8	外：回転ナデ、回転ヘラ削り(砂：→) 内：回転ナデ	90-3(C)	XI-33-2
69 113	須恵器杯	第9a層		II-3	口径：12.4(1/7)	外：回転ナデ、回転ヘラ削り 内：回転ナデ	92-7	未掲載
69 114	須恵器杯	第9a層		II-3~4	口径：12.4(1/7)	外：回転ナデ、回転ヘラ削り 内：回転ナデ	90-1	未掲載
69 115	須恵器杯	第9a層		II-3	口径：13.6(1/9)	外：回転ナデ、回転ヘラ削り(砂：→) 内：回転ナデ	90-1	未掲載
69 116	須恵器杯	第9a層		II-2~3	口径：14.0(2/5)	外：回転ナデ、回転ヘラ削り 内：回転ナデ	90-2(H3)	IV-39-2
69 117	須恵器杯	第9a層		II-2~3	受部径：15.8(1/9)	外：ヨコナデ、回転ヘラ削り(砂：→) 内：回転ナデ	90-1	未掲載
69 118	須恵器杯	第9a層		II-2(TK10)	口径：13.0(1/4)	外：回転ナデ、回転ヘラ削り(砂：→) 内：回転ナデ	90-1	未掲載
69 119	須恵器杯	第9a層		II-2(TK10)	口径：12.4(1/4) 現高：4.3	外：回転ナデ、回転ヘラ削り(砂：→) 内：回転ナデ、ナデ、スズ付蓋	90-1	未掲載
69 120	須恵器杯	第9a層		II-2~3	口径：12.8(1/4)	外：回転ナデ、回転ヘラ削り(砂：→) 内：回転ナデ	90-1	未掲載
69 121	須恵器杯	第9a層		II-2(TK10)	口径：11.8(1/6)	外：ヘラ記号、回転ナデ、回転ヘラ削り(砂：→) 内：回転ナデ	90-1	未掲載
69 122	須恵器杯	第9a層		II-2(TK10)	口径：13.4(1/6)	外：回転ナデ、回転ヘラ削り(砂：→) 内：段、回転ナデ	90-3(C)	XI-33-1
69 123	須恵器杯	第9a層		II-1(MT15)	口径：11.4(1/9)	外：回転ナデ、回転ヘラ削り、自然袖付蓋、滑溝 内：回転ナデ、当て具痕	90-1	未掲載
69 124	須恵器杯	第9a層		II-1(MT15)	口径：11.1(1/2) 器高：3.8	外：回転ナデ、回転ヘラ削り、自然袖付蓋、滑溝 内：段、回転ナデ、薄い当て具痕	90-1	未掲載
69 125	須恵器杯	第9a層		II-1(MT15)	口径：12.2(1/5)	外：回転ナデ、回転ヘラ削り(砂：→) 内：段、回転ナデ	90-1	XII-75-33
69 126	須恵器杯	第9a層		II-1(MT15)	口径：12.8(1/6) 現高：4.2	外：回転ナデ、回転ヘラ削り(砂：→) 内：段、回転ナデ、当て具痕	90-3(A)	II-49-13
69 127	須恵器杯	第9a層		II-1(MT15)	口径：13.8(1/2)	外：回転ナデ、回転ヘラ削り(砂：→) 内：段、回転ナデ	90-3(A)	II-49-15
69 128	須恵器杯	第9a層		II-1(MT15)	口径：13.4(若干)	外：回転ナデ、回転ヘラ削り(砂：→) 内：段、回転ナデ	90-1	未掲載
69 129	須恵器杯	第9a層		II-1(MT15)	口径：11.8(1/3)	外：回転ナデ、回転ヘラ削り(砂：→) 内：段、回転ナデ、当て具痕	90-1	XII-75-22
69 130	須恵器杯	第9a層		II-1(MT15)	口径：13.2(1/8) 現高：5.8	外：回転ナデ、回転ヘラ削り(砂：→) 内：回転ナデ、ナデ	90-3	II-49-10
69 131	須恵器杯	第9a層		II-1(MT15)	口径：14.1(1/3)	外：回転ナデ、回転ヘラ削り(砂：→) 内：回転ナデ、ナデ、当て具痕	90-1	未掲載
69 132	須恵器杯	第9a層		II-1(MT15)	口径：10.8(1/2) 器高：4.8	外：回転ナデ、回転ヘラ削り、自然袖付蓋、滑溝 内：回転ナデ、当て具痕	90-1	未掲載
69 133	須恵器杯	第9a層		II-1(MT15)	口径：12.2(2/5)	外：回転ナデ、回転ヘラ削り、一部赤色顔料付蓋 内：回転ナデ、赤色顔料付蓋	90-3	II-49-5
69 134	須恵器杯	第9a層		II-1(MT15)	受部径：12.8(1/3)	外：回転ナデ、回転ヘラ削り(砂：→) 内：回転ナデ	92-7	未掲載
69 135	須恵器杯	第9a層		I-5~II-1	口径：11.4(1/8) 現高：5.0	外：回転ナデ、回転ヘラ削り(砂：→)、自然袖付蓋 内：段、回転ナデ	90-1	未掲載
69 136	須恵器杯	第9a層		須恵器ならは I-5~II-1	口径：10.8(若干)	外：回転ナデ、回転ヘラ削り(砂：→)、スズ付蓋 内：段、回転ナデ	90-1	未掲載
69 137	須恵器杯	第9a層		II-1	口径：10.3(1/2) 器高：4.8	外：回転ナデ、回転ヘラ削り(砂：→) 内：段、回転ナデ	90-1	未掲載
69 138	須恵器杯	第9a層		I-5(TK47)	口径：10.4(1/7)	外：回転ナデ、回転ヘラ削り(砂：→) 内：段、回転ナデ	90-1	XII-75-20
69 139	須恵器杯	第9a層		I-5(TK47)	口径：11.0(1/4)	外：回転ナデ、回転ヘラ削り(砂：→) 内：段、回転ナデ	90-1	XII-75-25
69 140	須恵器杯	第9a層		I-5(TK47)	口径：10.6(1/4) 現高：4.2	外：回転ナデ、回転ヘラ削り(砂：→) 内：段、回転ナデ	90-1	XII-75-29
69 141	須恵器杯	第9a層		I-5(TK47)	口径：10.6(1/4) 現高：4.2	外：回転ナデ、回転ヘラ削り、滑溝 内：段、回転ナデ	90-3(B)	未掲載
69 142	須恵器杯	第9a層		I-5(TK47)	口径：11.8(1/8)	外：ヘラ記号、回転ナデ、回転ヘラ削り(砂：→) 内：段、回転ナデ	90-1	未掲載
69 143	須恵器杯	第9a層		I-5(TK47)	口径：11.6(1/7)	外：ヘラ記号、回転ナデ、回転ヘラ削り(砂：→)、自然袖付蓋 内：段、回転ナデ	90-1	XII-75-19
70 144	須恵器杯	第9a層		I-5(TK47)	口径：11.3(1/7)	外：ヘラ記号、回転ナデ、回転ヘラ削り、自然袖付蓋 内：段、回転ナデ	90-1	未掲載
70 145	須恵器杯	第9a層		I-5(TK47)	口径：10.0(1/2) 器高：5.0	外：回転ナデ、回転ヘラ削り(砂：→) 内：段、回転ナデ	90-1	XII-75-24
70 146	須恵器杯	第9a層		I-5(TK47)	口径：10.2(1/6) 器高：4.7	外：回転ナデ、回転ヘラ削り 内：段、回転ナデ	90-1	XII-75-21
70 147	須恵器杯	第9a層		I-4~5	口径：9.7(1/4) 器高：4.7	外：回転ナデ、回転ヘラ削り(砂：→) 内：段、回転ナデ	90-1	XII-75-30
70 148	須恵器杯	第9a層		I-5(TK47)	口径：10.6(1/4)	外：回転ナデ、回転ヘラ削り 内：段、回転ナデ	90-1	未掲載
70 149	須恵器杯	第9a層		I-5(TK47)	口径：10.6(1/4)	外：回転ナデ、回転ヘラ削り 内：段、回転ナデ	92-7	XIV-49-7
70 150	須恵器杯	第9a層		I-5(TK47)	口径：10.8(1/2) 現高：4.8	外：回転ナデ、回転ヘラ削り 内：段、回転ナデ	92-7	XIV-49-8
70 151	須恵器杯	第9a層		I-4(TK23)	口径：11.6(1/5)	外：回転ナデ、カキ目、回転ヘラ削り(砂：→)、自然袖付蓋、滑溝 内：回転ナデ	90-1	未掲載
70 152	須恵器高杯	第9a層		II-2(TK10)	口径：10.0(1/3) 現高：4.9	外：凸線、刺突立、回転ナデ、カキ目、透かし3方向、自然袖付蓋、滑溝 内：回転ナデ	90-1	未掲載
70 153	須恵器高杯	第9a層		II-2(TK10)	脚柱径：4.6(完)	外：凸線、回転ナデ、カキ目、透かし3方向、自然袖付蓋 内：回転ナデ、滑溝	90-3(A)	II-49-20
70 154	須恵器高杯	第9a層		II-2(TK10)	口径：13.2(1/2) 現高：4.7	外：凸線、回転ナデ、回転ヘラ削り、透かし4方向 内：段、回転ナデ	90-1	未掲載
70 155	須恵器高杯	第9a層		II-1(MT15)	口径：11.8(1/8)	外：波状文(1条) カキ目、回転ヘラ削り 内：回転ナデ	90-1	未掲載
70 156	須恵器高杯	第9a層		II-1(MT15)	口径：15.9(若干)	外：波状文(1条) カキ目、回転ヘラ削り(砂：→) 透かし4方向 内：回転ナデ、ナデ	90-1	未掲載
70 157	須恵器高杯	第9a層		I-5(TK47)	口径：16.6(1/5)	外：凸線2、波状文(10条?) 回転ナデ、回転ヘラ削り(砂：→) 内：回転ナデ、ナデ	90-1	XII-75-35



図版番号	写真番号	器種	層序	遺構	時期	法量 (cm)	特徴	調査年度	概要掲載番号
70 158	—	須恵器高杯	第9a層	II-1(MT15)	口径: 13.0(1.3)	外: 回転ナデ、回転ヘラ削り (砂: →) 内: 段、回転ナデ、ナデ	90-1	X II - 75 - 34	
70 159	—	須恵器高杯	第9a層	II-1(MT15)	受部径: 13.0(1.4)	外: 回転ナデ、回転ヘラ削り (砂: →) 内: 回転ナデ	90-1	未掲載	
70 160	—	須恵器高杯	第9a層	I-5(TK47)	口径: 10.2(3.10)	外: 回転ナデ、回転ヘラ削り、透かし4方向 内: 段、回転ナデ	89-2	未掲載	
70 161	—	須恵器高杯脚	第9a層	II-2(TK10)	脚注径: 5.1(2.3)	外: カキ目、透かし3方向 内: 回転ナデ	89-2	I - 59 - 1	
70 162	—	須恵器高杯脚	第9a層	II-4~5	脚注径: 3.0(1.3)	外: 凹線2条、回転ナデ、2段3方向透かし (内1未貫通)	90-1	未掲載	
70 163	—	須恵器高杯脚	第9a層	I-5(TK47)	脚注径: 8.3(7.8)	外: 凸線1、カキ目、透かし3方向、内: 回転ナデ	90-1	X II - 68 - 21	
70 164	—	須恵器高杯脚	第9a層	I-5(TK47)	脚注径: 9.3(一部欠)	外: 凸線1、カキ目、透かし3方向、自然袖付着 内: 回転ナデ、自然袖付着	90-1	未掲載	
70 165	—	須恵器高杯脚	第9a層	I-4(TK23)	脚注径: 8.2(1.7)	外: 凸線1、回転ナデ、透かし4方向 内: 回転ナデ	92-7	X IV - 49 - 10	
70 166	—	須恵器高杯脚	第9a層	I-5(TK47)	脚注径: 8.3(1.4)	外: 回転ナデ、透かし3方向 内: 回転ナデ	92-7	未掲載	
70 167	—	須恵器高杯脚	第9a層	I-5(TK47)	脚注径: 8.0(1.4)	外: 凸線1、回転ナデ、透かしあり 内: 回転ナデ	90-1	X II - 75 - 37	
70 168	—	須恵器高杯? 脚	第9a層	I-5(TK47)	脚注径: 13.6(1.8)	外: 凸線1、回転ナデ、透かしあり 内: 回転ナデ	90-1	未掲載	
70 169	—	須恵器高杯	第9a層	II-4~5	口径: 12.6(1.5)	外: 凸線1、回転ナデ、内: 回転ナデ	90-1	X II - 76 - 49	
70 170	—	須恵器高杯	第9a層	II-4(TK43)	最大腹径: 9.5(1.3)	外: 回転ナデ、カキ目、回転ヘラ削り (砂: →) 内: 回転ナデ	90-1	未掲載	
70 171	—	須恵器高杯	第9a層	II-2(TK10)	最大腹径: 9.8(完)	外: 回転ナデ、カキ目、回転ヘラ削り 内: 回転ナデ	90-1	未掲載	
70 172	63	須恵器高杯	第9a層	II-2(TK10)	頸部径: 5.3(完)	外: 刺突文 (16条) (9条)、凹線文 (2、1条) 内: 回転ナデ、ヘラ削り 内:	90-1	X II - 76 - 52	
70 173	63	須恵器高杯	第9a層	II型式前半か	頸部径: 5.5(2.3)	回転ナデ、当て具痕	90-1	未掲載	
70 174	63	須恵器高杯	第9a層	I-4~5	頸部径: 5.5(完)	外: 刺突文 (7条)、凹線文 (1、1条)、回転ナデ、回転ヘラ削り (砂: →) 内:	90-3(A)	II - 49 - 160	
70 175	—	須恵器高杯	第9a層	I-5(TK47)	最大腹径: 9.2(1.4)	外: 刺突文、回転ナデ、回転ヘラ削り (砂: →) 内: 回転ナデ	90-1	未掲載	
70 176	—	須恵器高杯	第9a層	I-4(TK23)	最大腹径: 10.0(1.4)	外: 波状文 (8条)、凹線文 (1、1条) 内: 回転ナデ	92-7	未掲載	
70 177	63	須恵器高杯	第9a層	I-5(TK47)	頸部径: 21.1(1.2)	外: 波状文 (? 10~11条) 凸線 (1、1条)、回転ナデ、平行タタキの後カキ目	90-3(A)	II - 49 - 22	
71 178	—	須恵器高杯	第9a層	7Cか	最大腹径: 23.8(2.3)	外: 波状文 (4~5条、10条?)、凸線1、回転ナデ、平行タタキのちハケ	90-1	X II - 76 - 42	
71 179	—	須恵器高杯	第9a層	III型式か	口径: 6.6(1.2)	外: 凹線文、回転ナデ 内: 回転ナデ	90-1	未掲載	
71 180	63	須恵器高杯	第9a層	I-5(TK47)	口径: 16.3(1.3) 現高33.4	外: 波状文 (4~5条、10条?)、凸線1、回転ナデ、平行タタキのちハケ	90-1	未掲載	
71 181	—	須恵器短頸壺	第9a層	8C	口径: 6.8(1.4) 現高: 9.5	外: 回転ナデ、自然袖付着 内: 回転ナデ	92-7	X IV - 49 - 13	
71 182	—	須恵器短頸壺	第9a層	II型式後半か	最大腹径: 12.4(1.4)	外: 回転ナデ、自然袖付着 内: 回転ナデ	90-1	未掲載	
71 183	—	須恵器短頸壺	第9a層	II型式後半	脚注径: 7.4(1.4)	外: 回転ナデ、自然袖付着 内: 回転ナデ	90-1	未掲載	
71 184	—	須恵器短頸壺	第9a層	6C後半か	口径: 13.0(1.5)	外: 回転ナデ、平行タタキ、自然袖付着 内: 回転ナデ、当て具痕、自然袖付着	90-1	未掲載	
71 185	—	須恵器短頸壺	第9a層	6C中頃か	口径: 9.0(1.7)	外: 回転ナデ、カキ目、ナデ? 内: 回転ナデ、ナデ?	90-1	未掲載	
71 186	—	須恵器短頸壺	第9a層	II-2~3(TK10~)	口径: 8.8(1.5)	外: 回転ナデ、重ねつき痕? 内: 回転ナデ	92-7	X IV - 49 - 12	
71 187	—	須恵器短頸壺	第9a層	6C前半か	口径: 9.6(1.4)	外: カキ目、回転ナデ、自然袖付着 内: 回転ナデ	90-1	未掲載	
71 188	—	須恵器短頸壺	第9a層	II-3	口径: 14.8(1.6)	外: 回転ナデ、カキ目 内: 回転ナデ	90-3(A)	未掲載	
71 189	63	須恵器短頸壺	第9a層	6C前半か	口径: 11.3(5.6) 器高: 13.1	外: 凸線1、回転ナデ、タタキ後ナデ、自然袖付着 内: 回転ナデ、指押さえナデ、自然袖付着	90-3(A)	II - 49 - 21	
71 190	—	須恵器短頸壺	第9a層	I-5~II-1	口径: 14.6(1.8)	外: 凸線1、回転ナデ、カキ目 内: 回転ナデ	90-1	未掲載	
71 191	—	須恵器短頸壺	第9a層	I-5(TK47)	口径: 16.4(1.10)	外: 竹管文1、回転ナデ 内: 回転ナデ	90-1	X II - 76 - 45	
71 192	—	須恵器短頸壺	第9a層	I-4~5	口径: 15.0(1.6)	外: 凸線1、波状文 (7条)、凹線文1条、回転ナデ、平行タタキ後カキ目	90-1	未掲載	
71 193	—	須恵器短頸壺	第9a層	I-5(TK47)	口径: 13.6(1.4)	内: 回転ナデ、当て具痕後ナデ	92-7	X IV - 49 - 11	
71 194	—	須恵器短頸壺	第9a層	II-2~3	口径: 14.7(若干のみ) 現高: 18.7	外: カキ目、平行タタキの後カキ目、回転ヘラ削り (砂: →) 内: 回転ナデ、指押さえの後ナデ、ヘラナデ	90-1	未掲載	
71 195	—	須恵器短頸壺	第9a層	II-2(TK10)	口径: 17.2(1.6)	外: ヘラ記号、回転ナデ、平行タタキ後カキ目 内: 回転ナデ、当て具痕のちナデ	90-3(A)	未掲載	
71 196	—	須恵器短頸壺	第9a層	II-1~2	口径: 19.4(1.8)	外: 凸線1、回転ナデ 内: 回転ナデ	90-1	X II - 76 - 46	
71 197	—	須恵器短頸壺	第9a層	II-1(MT15)	口径: 21.0(1.8)	外: 回転ナデ、カキ目 内: 回転ナデ	90-1	未掲載	
71 198	—	須恵器短頸壺	第9a層	I-5(TK47)	口径: 20.2(1.6)	外: 回転ナデ、自然袖付着 内: 回転ナデ	90-1	X II - 76 - 47	
71 199	—	須恵器短頸壺	第9a層	I-5(TK47)	口径: 18.1(1.4) 脚	外: 回転ナデ 内: 回転ナデ	90-1	未掲載	
71 200	63	須恵器短頸壺	第9a層	II-1(MT15)	口径: 28.5(1.4+1.3)	外: ヘラ記号、回転ナデ、平行タタキ 内: 回転ナデ、当て具痕、自然袖付着	90-3(A)	II - 49 - 19	
72 201	—	須恵器短頸壺	第9a層	I-4(TK23)	口径: 42.0(2.5)	外: 凸線 (1、2)、波状文 (7条、α)、凹線文 (14~15、13、13条) 内: 回転ナデ、自然袖付着	90-3(A)	未掲載	
72 202	—	須恵器短頸壺	第9a層	I-3~4	口径: 47.0(1.4)	外: 凸線 (1、2、2)、波状文 (14~15、13、13条) 内: 回転ナデ、指押さえ、自然袖付着	92-7	未掲載	
72 203	64	須恵器短頸壺	第9a層	I-1~2	口径: 51.0(3.7)	外: 凸線1、回転ナデ、平行タタキ 内: 指押さえ後ナデ、ズリ消し	90-1	X II - 77 - 54	
72 204	—	須恵器短頸壺	第9a層	I-4(TK23)	口径: 19.8(1.5)	外: 凸線1、波状文 (9条)、自然袖付着 内: 回転ナデ、自然袖付着	90-1	未掲載	
72 205	—	須恵器短頸壺	第9a層	I-4(TK23)	口径: 24.2(1.1)	外: 凸線1、凹線文1、波状文 (12条) 内: 回転ナデ、自然袖付着	92-7	未掲載	
72 206	64	須恵器短頸壺	第9a層	I-4~5	脚注径: 13.5(1.3)	外: 波状文 (14、15+α、13、14、13、7条)、凹線文 (2、2条)、透かし、長方形4方向、三角形4方向2段、波状文 (17、13、16、13条)、凹線文 (2、2、2条) 透かし: 三角形4方向、半円形4方向、ハケム 内: 当て具痕、回転ナデ	90-1	未掲載	
72 207	64	須恵器子持器台	第9a層	6C中~6C末か	最大腹径: 27.6(1.2) 脚	外: ヘラ記号、子持推定6個、穿孔1、回転ナデ、当て具痕	90-1	X II - 77 - 53	
72 208	64	土製粉砕車	第9a層	?	径: 4.45×4.2 厚さ: 2.4 孔径: 0.45 重さ: 58.0g	生	90-1	未掲載	
72 209	—	鈿澤	第9a層	?	長さ: 4.4 短径: 3.0 最大厚: 1.7 重さ: 20g	?	90-1	未掲載	
73 210	64	碓石	第9a層	?	現長: 10.2 最大幅: 5.0 最大厚: 3.2 重さ: 250.7g	流紋岩 1面使用か?	90-1	X II - 178 - 2	
73 211	65	碓石	第9a層	?	現長: 6.7 最大幅: 3.5 最大厚: 3.0 重さ: 85.0g	流紋岩 4面使用か	90-1	未掲載	

図版番号 図版番号	写真番号 図版	器種	層序	遺構	時期	法量 (cm)	特徴	調査年度	概要掲載番号
73	212	砥石	第9a層	7	現長: 8.9 最大幅: 6.5 最大厚: 5.9 重さ: 380.6g	流紋岩 4面使用か	90-1	X II - 79 - 10	未掲載
73	213	砥石	第9a層	7	現長: 10.0 最大幅: 5.6 最大厚: 3.7 重さ: 207.6g	流紋岩 4面使用か、一部スス付着	90-1	X II - 79 - 14	未掲載
73	214	砥石	第9a層	7	現長: 6.4 最大幅: 4.1 最大厚: 3.5 重さ: 104.1g	流紋岩 4面使用か	90-1	X II - 79 - 6	未掲載
73	215	砥石	第9a層	7	現長: 5.3 最大幅: 3.6 最大厚: 3.3 重さ: 84.8g	流紋岩 4面使用	92-7	X II - 78 - 6	未掲載
73	216	砥石	第9a層	7	現長: 3.3 最大幅: 2.8 最大厚: 2.7 重さ: 38.0g	流紋岩 4面使用	92-7	X II - 78 - 6	未掲載
73	217	砥石	第9a層	7	現長: 20.1 最大幅: 5.7 最大厚: 5.0 重さ: 626.3g	流紋岩 4~5面使用	90-1	X II - 79 - 9	未掲載
73	218	砥石	第9a層	7	現長: 5.8 最大幅: 2.1 最大厚: 2.0 重さ: 24.7g	流紋岩質凝灰岩 5面使用	90-1	X II - 79 - 9	未掲載
74	219	砥石	第9a層	7	現長: 6.0 最大幅: 3.5 最大厚: 3.6 重さ: 159.7g	流紋岩質凝灰岩 4~5面使用	90-1	X II - 78 - 3	未掲載
74	220	砥石	第9a層	7	現長: 12.2 最大幅: 5.0 最大厚: 3.9 重さ: 29.8g	流紋岩質凝灰岩 4面使用	90-1	X II - 78 - 7	未掲載
74	221	砥石	第9a層	7	現長: 3.6 最大幅: 3.9 最大厚: 2.9 重さ: 29.8g	流紋岩質凝灰岩 破石か不明	90-1	X II - 79 - 7	未掲載
74	222	砥石	第9a層	7	現長: 8.0 最大幅: 8.8 最大厚: 3.3 重さ: 299.1g	砂岩 2面使用	90-1	X II - 79 - 13	未掲載
79	1	土師器杯	第9b面	7C第4前半期	ピット12	口径: 19.2(1/2) 器高: 4.8	外: ヘラミガキ、ヘラ削り 内: 2重斜放射状暗文、ラセン状暗文、見込みラセン状暗文	92-7	未掲載
79	2	土師器杯C	第9b面	8C初	ピット21	口径: 12.6(1/8)	外: ヨコナデ、指押さえナデ 内: ヨコナデ、ナデ	90-1	未掲載
79	3	土師器杯A	第9b面	8C初	ピット21	口径: 18.6(1/5弱)	外: ヨコナデ、ナデ 内: 斜放射状暗文	90-1	未掲載
79	4	土師器杯A	第9b面	8C末~9C初	ピット22	口径: 12.2(1/5) 器高: 3.5	外: 内カギ 内: 斜放射状暗文	90-1	未掲載
79	5	土師器杯B?	第9b面	8C前半	ピット23	高台径: 14.4(1/6)	外: ヘラミガキ、底面にも暗文状ヘラミガキ 内: 斜放射状暗文 見込みラセン状暗文	90-1	未掲載
79	6	土師器杯B蓋	第9b面	8C初	ピット25	口径: 15.4(1/3)	外: 回転ナデ、回転ヘラ削り (砂: →) 内: 回転ナデ	92-7	未掲載
79	7	土師器片口鉢	第9b面	8C中~後半	ピット26	口径: 27.3(1/4)	外: 指押さえ後部ヘラミガキ 内: ナデ、ハケ	92-7	未掲載
79	8	土師器杯	第9b面	8C初	土器埋納遺構65	口径: 13.8~14.1(2/3) 器高: 3.9	外: ヨコナデ、指押さえナデ 内: 端段、ヨコナデ、ナデ、ヘラ痕	90-1	X II - 71 - 12
79	9	土師器鉢	第9b面	8C初	土器埋納遺構66	口径: 30.8(1/5) 器高: 6.3	外: 指押さえ後部ヘラミガキ、ヘラ削り 内: 運気暗文、斜放射状暗文、見込みラセン状暗文	90-1	X II - 71 - 8
79	10	須臾器杯	第9b面	8C前半	土器埋納遺構67	口径: 14.5(5/6) 高台径: 9.8~10.0(半) 器高: 3.1	外底面に黒書記号「0」 外: 回転ナデ、ヘラ削り? 内: 回転ナデ、ナデ	90-1	未掲載
79	11	土師器杯A	第9b面	8C中	土器埋納遺構67	口径: 18.2(2/5) 器高: 4.1~4.4	外: ヘラ記号?、ヨコナデ、ヘラ削り 内: 斜放射状暗文、見込みラセン状暗文	90-1	X II - 71 - 3A
79	12	土師器杯A	第9b面	8C前半	土器埋納遺構67	口径: 19.2(1/3)	外: ヘラミガキ、ヘラ削りの後ヘラミガキ 内: ラセン状暗文、斜放射状暗文	90-1	X II - 71 - 4
79	13	土師器鉢B	第9b面	8C中	土器埋納遺構67	口径: 19.2(5/6) 器高: 6.0	外: ヨコナデ、指押さえの後ヘラ削り、ヘラミガキ、スス付着 内: ヨコナデ、ナデ、スス付着	90-1	X II - 71 - 5
79	14	土師器羽釜	第9b面	8C前半	土器埋納遺構67	口径: 22.6(1/3)	外: ヨコナデ、タテハケ、スス付着 内: 粗いハケ、板ナデ? 指押さえ (生)	90-1	X II - 71 - 6
79	15	土師器羽釜	第9b面	8C後半	土器埋納遺構68	口径: 25.6(3/4)	外: ヨコナデ、タテハケ 内: ヨコナデ、指押さえ、ナデ (生)	89-3	I - 76 - 9
79	16	土師器杯	第9b面	8C初	土器埋納遺構69	口径: 14.2(2/3) 器高: 3.4	外底面に黒書記号「0」 外: ヨコナデ、指押さえナデ 内: ヨコナデ、ナデ	90-2(H3)	未掲載
79	17	土師器杯	第9b面	8C前半	土器埋納遺構69	口径: 16.3(弱部1/2) 器高: 5.2	外: ヘラミガキ、回転ヘラ削り (砂: →) 内: 雑々暗文	90-1	X II - 41 - 10
79	18	土師器杯A	第9b面	8C前半	土器埋納遺構70	口径: 14.2(半) 器高: 3.7	外: 底面にヘラ書き、ヨコナデ後部ヘラミガキ、ヘラ削り? の後ヘラミガキ	92-7	X IV - 48 - 6
79	19	土師器杯A	第9b面	8C前半	土器埋納遺構71	口径: 24.3(1/4強)	外: ラセン状暗文、斜放射状暗文、見込みラセン状暗文	90-1	X II - 71 - 7
79	20	土師器鉢A	第9b面	8C後半	土器埋納遺構72	口径: 20.1(3/4弱)	外: ヨコナデ、タテハケ、スス付着 内: ヨコナデ、指押さえナデ (生)	92-7	X IV - 48 - 1
79	21	土師器杯X	第9b面	8C初	土器埋納遺構88	口径: 13.8~14.0(3/4) 器高: 4.2	外: ヨコナデ、指押さえナデ 内: 端段、ヨコナデ、ナデ	90-1	未掲載
79	22	土師器杯A	第9b面	8C前半	土器埋納遺構90	口径: 12.1~12.4(半) 器高: 3.2	外: ヨコナデの後部ヘラミガキ、ナデ 内: 2段の斜放射状暗文	89-3	未掲載
80	1	須臾器杯蓋	第9b面	II - 6	土坑8	口径: 9.8(1/4強) 器高: 3.4	外: 回転ナデ、ヘラ削り未調整 内: 回転ナデ、ナデ	X II - 69 - 3	未掲載
80	2	須臾器杯蓋	第9b面	II - 3~4 (~TK43)	土坑8	口径: 13.0(1/7)	外: ヘラ記号、回転ナデ、回転ヘラ削り (砂: →) 内: 回転ナデ、ナデ	90-1	X II - 69 - 2
80	3	須臾器杯蓋	第9b面	II - 2~3 (TK10~)	土坑8	口径: 16.2(1/4) 現高: 5.1 つまみ径: 2.4	外: 回転ナデ、回転ヘラ削り (砂: →) 内: 回転ナデ、端目のような痕跡	90-1	X II - 69 - 1
80	4	須臾器杯	第9b面	II - 6	土坑8	口径: 9.4~9.8(一部欠) 器高: 3.4	外: 回転ナデ、回転ヘラ削り 内: 回転ナデ、ナデ	90-1	X II - 69 - 4
80	5	須臾器杯	第9b面	II - 6	土坑8	口径: 9.5(一部欠) 器高: 3.1	外: ヘラ記号、回転ナデ、回転ヘラ削り (砂: →) 内: 回転ナデ、ナデ	90-1	X II - 69 - 5
80	6	土師器杯C	第9b面	7C中	土坑8	口径: 10.1(一部欠) 器高: 3.5	外: ヨコナデ、指押さえナデ 内: 端段、放射状暗文、見込みラセン状暗文	90-1	X II - 69 - 6
80	7	土師器杯C	第9b面	7C中	土坑8	頸部径: 12.4(1/4)	外: ヨコナデ、指押さえ一部ヘラミガキ 内: 放射状暗文、見込みラセン状暗文	90-1	X II - 69 - 7
80	8	土師器高杯	第9b面	7C初	土坑8	口径: 15.8(1/6)	外: ヨコナデ、指押さえナデ 内: 端段、放射状暗文	90-1	X II - 69 - 8
80	9	土師器杯C	第9b面	7C後半	土器埋納遺構41	口径: 12.1(半) 器高: 3.4	外: ヨコナデ、指押さえナデ 内: 放射状暗文、見込み1重円暗文	90-3(A)	II - 54 - 1
80	10	須臾器杯	第9b面	II - 5	土器埋納遺構42	口径: 11.0(半) 器高: 4.0	外: ヨコナデ、回転ナデ、回転ヘラ削り (砂: →) 内: 回転ナデ、ナデ	90-3(A)	II - 54 - 2
80	11	土師器杯C	第9b面	7C後半	土器埋納遺構43	口径: 12.6~13.1(一部欠) 器高: 3.1	外: ヘラ記号、回転ナデ、ナデ 内: 端段、放射状暗文、見込み1重円暗文	90-2(H3)	VI - 35
80	12	須臾器杯	第9b面	7C後半	土器埋納遺構44	口径: 13.2(半) 器高: 3.8	外: 回転ナデ、ヘラ削り 内: 回転ナデ、ナデ	90-3(B)	VI - 28 - 3
80	13	須臾器杯蓋	第9b面	II - 5~6 (TK209~)	土器埋納遺構45	口径: 12.2~12.4(一部欠) 器高: 4.4	外: 回転ナデ、ヘラ削り未調整 内: 回転ナデ	90-3(B)	VI - 28 - 2
80	14	須臾器杯	第9b面	II - 6	土器埋納遺構46	口径: 10.0~10.2(一部欠) 器高: 4.3	外: 回転ナデ、ヘラ削り未調整、自然指付着 内: 回転ナデ	90-3(B)	VI - 28 - 2
80	15	須臾器杯	第9b面	7C後半	土器埋納遺構47	口径: 15.6~15.8(5/6) 器高: 3.6	外: 口縁打ち欠き?、回転ナデ、未調整 内: 回転ナデ、ナデ	90-3(B)	VI - 28 - 5
80	16	土師器羹	第9b面	7C後半	土器埋納遺構48	口径: 12.2(半) 器高: 10.7	外: ヨコナデ、ハケ、スス付着 内: ヨコナデ、指押さえナデ、スス付着 (生)	90-3(B)	VI - 28 - 9
80	17	須臾器杯	第9b面	III - 3	土器埋納遺構49	口径: 14.2~14.8(7/8) 器高: 4.1	外: 回転ナデ、未調整 内: 回転ナデ	90-3(B)	VI - 28 - 4
80	18	土師器杯C	第9b面	7C後半	土器埋納遺構50	口径: 11.6(2/3) 器高: 3.2	外: ヨコナデ、ナデ 内: ヘラ書き? 放射状暗文	89-1	I - 58 - 1
80	19	土師器杯C	第9b面	7C中	土器埋納遺構51	口径: 16.2(一部欠) 器高: 5.5	外: ヨコナデ、指押さえナデ 内: 端段、斜放射状暗文、見込みラセン状暗文	90-1	X II - 43 - 3
80	20	土師器杯C	第9b面	7C中	土器埋納遺構52	口径: 12.8~13.1(一部欠) 器高: 3.1	外: ヨコナデ、指押さえナデ 内: 端段、斜放射状暗文	90-1	X II - 71 - 2
80	21	須臾器杯蓋	第9b面	II - 6	土器埋納遺構53	口径: 9.4~9.6(一部欠) 器高: 3.3	外: 口縁打ち欠き、ヘラ記号、回転ナデ、ヘラ削り未調整 内: 回転ナデ、ナデ	89-3	I - 76 - 12

図版番号 80 22	写真番号 原	器種	層序	遺構	時期	法量 (cm)	特徴	調査年度	概要掲載番号
80 22	74	須恵器杯	第9b面	土器埋納遺構54	II-6	口径：8.1~8.8(一部欠) 器高：3.0	外：回転ナデ、回転ヘラ削り(砂：→)、ヘラ切り未調整 内：回転ナデ、ナデ	89-3	I-76-13
80 23	74	土師器杯C	第9b面	土器埋納遺構55	7C後半	口径：10.4~10.8(突) 器高：3.0	外：ヨコナデ、指押さえナデ 内：ヘラ書き？放射状暗文	90-1	XII-71-1
80 24	75	土師器杯	第9b面	土器埋納遺構60	7C中	口径：16.6~16.8(5/7) 器高：6.5	外：ヨコナデ後ヘラミカキ、ヘラ削り 内：ヘラ書き、斜放射状暗文	90-6(D)	II-68-1
80 25	75	土師器杯	第9b面	土器埋納遺構61	8C初	口径：12.0(1/2) 器高：4.5	外：ヘラ書き？、ヨコナデ、指押さえナデ 内：ヨコナデ	93-1	XV-66-2
80 26	75	土師器杯C	第9b面	土器埋納遺構62	7C中	口径：12.5(5/6) 器高：3.9	外：ヨコナデ、指押さえナデ 内：ヘラ書き、放射状暗文	92-7	XIV-48-7
80 27	75	土師器把手付椀	第9b面	土器埋納遺構63	7C第1/4中期	口径：14.1(一部欠) 器高：8.7	外：ヨコナデ、指押さえ後ヘラミカキ、ヘラ削り 内：ヨコナデ、放射状暗文	92-7	XIV-48-2
80 28	75	土師器杯C	第9b面	土器埋納遺構64	7C後半	口径：13.~13.5(突) 器高：3.6	外：ヨコナデ、指押さえナデ 内：斜放射状暗文、ラセン状暗文	90-1	II-71-11
81 1	75	弥生土器 鉢	第7面	水路12	V~VI様式	口径：7.1(一部欠) 器高：8.9~9.2	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ (生)	93-2(B)	未掲載
81 2	75	弥生土器 鉢	第7面	水路12	I様式	小片	外：木書文、ナデ 内：ナデ (生)	93-1	XV-53-47
81 3	75	弥生土器 蓋	第8a層	V様式	VI-2様式	口径：7.8(一部欠)	外：捺書文、ハケメ後タテヘラミカキ 内：ハケメ、ナデ	89-3	未掲載
81 4	75	弥生土器 蓋	第8a面以上	V-3様式	V-3様式	口径：13.9~14.3(5/6)	外：ヨコナデ、ハケメ後タテヘラミカキ 内：ヘラミカキ	89-3	未掲載
81 5	75	弥生土器 蓋	第8a面以上	V-3様式	V-3様式	口径：13.9~14.3(5/6)	外：ヨコナデ、ハケメ後タテヘラミカキ 内：ヘラミカキ	89-3	未掲載
81 6	75	弥生土器 蓋	第9a層	第9a層	V~VI様式	口径：14.8(1/3)	外：捺書文(7条)、凹線文1条、刻目、刺突文、ハケメ後ヘラミカキ 内：捺書文(7条)、ヘラミカキ、ナデ	93-2(D)	XVI-35-4
81 7	75	弥生土器 蓋	第9a層	第9a層	V様式	口径：13.4(1/7)	外：ヨコナデ、浮文？ 内：ヨコナデ (生)	93-2(D)	未掲載
81 8	75	弥生土器 蓋	第9a層	第9a層	I-3~4様式	口径：18.6(1/4)	外：沈線文3条、ヨコナデ 内：ヨコナデ、指押さえ (生)	90-1	XII-77-57
81 9	75	弥生土器 蓋	第9a層	第9a層	V様式	口径：17.7(1/2)	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、指押さえナデ	90-1	未掲載
81 10	75	弥生土器 蓋	第9a層	第9a層	V様式	口径：17.0(1/4)	外：ヨコナデ、平行タタキ 内：ヨコナデ、一部ハケメ、ハケメ	90-1	未掲載
81 11	75	弥生土器 蓋	第9a層	第9a層	V~VI様式	口径：15.0(1/4)	外：ヨコナデ、ハケメ後平行タタキ (2条/cm) 内：ヨコナデ、ハケメ (生)	90-1	未掲載
81 12	75	弥生土器 蓋	第9a層	第9a層	V~VI様式	口径：16.0(1/2弱)	外：ヨコナデ、平行タタキ (4条/cm) スス付蓋 内：ヨコナデ、指押さえナデ (生)？	89-3	未掲載
81 13	75	弥生土器 底部 (有孔)	第9a層	第9a層	V~VI様式	底部径：3.6(突) 穿孔径：0.9	外：一 内：一 (生)？	90-1	未掲載
81 14	75	弥生土器 蓋	第9a層	第9a層	V~VI様式	底部径：4.8(突)	外：平行タタキ 内：ハケメ (生)？	93-2(D)	未掲載
81 15	75	弥生土器 蓋	第9a層	第9a層	V~VI様式	底部径：4.0(突)	外：ナデ 内：ハケメ、ナデ、未穿孔	90-1	未掲載
81 16	75	弥生土器 蓋	第9a層	第9a層	V~VI様式	底部径：3.4(突)	外：平行タタキ 内：ハケメ (生)	90-1	未掲載
81 17	75	弥生土器 蓋	第9a層	第9a層	V様式	底部径：5.4(1/2)	外：ナデ 内：工真痕 (生)？	93-2(D)	未掲載
81 18	75	弥生土器 蓋	第9a層	第9a層	V~VI様式	底部径：8.1(突)	外：透かし4方向 内：指ナデ？ (生)	90-1	未掲載
81 19	75	弥生土器 高杯器	第9a層	第9a層	V~VI様式	口径：3.9(1/2) 底部：2.6(突) 現高：3.3	外：指ナデ、口縁部部：粘土のまらかひ時に何かを兼ねた痕跡あり。内：指ナデ (生)	90-2(H3)	未掲載
81 20	76	石鏡	第9a層	第9a層	弥生時代	現長：4.4 現最大幅：2.55 最大厚：0.7 重さ：5.6g	サマカイト 凸基有基式、両面に主要刻線残す	90-2(A)	VI-39-5
82 21	76	銅鏡	第9a層	第9a層	弥生時代	現最大長：1.6 最大厚：0.35 重さ：6.3g	逆刻左右非対称、有基、両面に刻線を通る	XVI-35-2	未掲載
82 22	76	石鏡	第9a層	第9a層	弥生時代	現長：4.6 現最大幅：1.8 現最大厚：0.3 重さ：0.7g	サマカイト 凹基有基式、基部の部分のみ残	93-2(D)	未掲載
82 23	76	石鏡	第8b~第12-1a層	第8b~第12-1a層	弥生時代	最大長：5.4 現最大幅：4.95 最大厚：1.55 重さ：32.7g	サマカイト 凹基の再利用か？ 片面からの調整剥離痕	93-2(C)	未掲載
82 24	76	楕円形石器	第2-1a層	第2-1a層	弥生時代	最大長：3.9 最大幅：4.6 最大厚：1.15 重さ：19.7g	サマカイト 上縁と基部に磨打痕跡残る	93-1	XV-18-2
82 25	76	不定形刃器	第7面	水路12	弥生時代	最大長：6.7 幅：10.0 厚：0.9 重さ：67.3g	サマカイト 板状剥離の下端に向面から調整剥離、打点に近い横面に磨打痕あり	93-2(D)	未掲載
82 26	76	剥片	第2-1a層	第2-1a層	弥生時代	最大長：3.1 最大幅：1.35 最大厚：0.25 重さ：1.3g	サマカイト 打点残る	93-2(A)	未掲載
82 27	76	剥片	第2-2a層	第2-2a層	弥生時代	現最大長：4.3 最大幅：1.9 最大厚：0.5 重さ：14.8g	サマカイト 板状剥片、下端欠損	90-6(D)	未掲載
82 28	76	剥片	第2-2a層	第2-2a層	弥生時代	最大長：5.4 最大幅：4.3 最大厚：1.1 重さ：14.7g	サマカイト 縁辺に微小剥離？	93-1	未掲載
82 29	76	剥片	第2-2a層	第2-2a層	弥生時代	最大長：3.65 最大幅：5.6 最大厚：1.1 重さ：24.8g	サマカイト	93-2(B)	未掲載
82 30	76	石包丁未製品	第10b面	建物1	弥生時代	現長：6.85 現幅：4.0 現厚0.5 重さ：14.6g	結晶片岩(未鑑定) 部分的に研磨痕あり	93-2(A)	未掲載
92 1	76	須恵器 蓋	第10b面	建物2	II-5(TRK209)	口径：14.8(1/3)	外：平行タタキのあとナデ 内：回転ナデ、内外面一部自然剥離	90-3(A)	II-37-3
92 2	76	須恵器 蓋	第10b面	建物2	II-2(TRK10)	口径：15.0(1/4) 現高5.2	外：回転ナデ、回転ヘラ削り(砂：→) 内：段、回転ナデ	90-3(A)	II-37-1
92 3	76	須恵器 蓋	第10b面	建物2	II-2(TRK10)	口径：14.4(1/4)	外：回転ナデ、回転ヘラ削り(砂：→) 内：段、回転ナデ	90-3(A)	II-37-2
92 4	76	須恵器 蓋	第10b面	建物2	II-2(TRK10)	口径：14.8(1/8)	外：回転ナデ、回転ヘラ削り(砂：→) 内：段、回転ナデ	90-3(A)	II-37-2
92 5	76	須恵器 蓋	第10b面	建物2	II-2-3	口径：11.8(1/14)	外：回転ナデ、回転ヘラ削り(砂：→) 内：段、回転ナデ	90-3(A)	未掲載
92 6	76	須恵器 蓋	第10b面	建物2	II-2(TRK10)	口径：9.6(若干のみ)	外：捺書文(4条以上) 回転ナデ 内：回転ナデ	90-3(A)	未掲載
92 7	76	須恵器 蓋	第10b面	建物2	II-1(MT15)	口径：14.0(1/5)	外：ヘラ記号、回転ナデ、カキ目、透かし3方向 内：段、回転ナデ、当て具痕	90-3(A)	II-37-4
92 8	77	土師器 蓋	第10b面	建物2	5C中~	小片	外：同心円文スタンプ(生)	90-3(A)	II-46-6
92 22	77	須恵器 蓋	第10b面	建物4	II-1(MT15)	口径：15.4(1/2) 器高：4.8	外：回転ナデ、回転ヘラ削り(砂：→) 内：段、回転ナデ、当て具痕	90-3(A)	II-34-3
92 23	77	須恵器 蓋	第10b面	建物4	II-2(TRK10)	口径：13.8(1/4)	外：回転ナデ、回転ヘラ削り(砂：→) 内：段、回転ナデ、当て具痕	90-3(A)	II-34-2
92 24	77	須恵器 蓋	第10b面	建物4	II-2-3	口径：14.2(1/2) 器高：3.4	外：回転ナデ、回転ヘラ削り(砂：→) 内：段、回転ナデ、当て具痕	90-3(A)	II-34-1
92 25	77	須恵器 蓋	第10b面	建物4	II-2(TRK10)	口径：14.0(1/3) 現高：3.3	外：回転ナデ、回転ヘラ削り(砂：→) 内：段、回転ナデ、ナデ	90-3(A)	II-34-4
92 26	77	土師器 蓋	第10b面	建物4	6C	口径：18.6(1/3)	外：ヨコナデ、粗いハケメ、スス一部付蓋 内：ハケメ、ナデ？一部スス付蓋	90-3(A)	II-46-3
92 27	77	土師器 蓋	第10b面	建物4	6C?	長さ：7.6 幅：4.8 厚さ：2.1 重さ：139.0g	外：ハケメ、スス付蓋 内：ヘラ削り？指押さえ	90-3(A)	未掲載
92 28	77	土師器 蓋	第10b面	建物4	6C	長さ：7.6 幅：4.8 厚さ：2.1 重さ：139.0g	外：ハケメ、スス付蓋 内：ヘラ削り？指押さえ	90-3(A)	未掲載
93 29	77	須恵器 蓋	第10b面	建物8	II-2(TRK10)	口径：14.7(1/4) 現高：4.9	外：回転ナデ、回転ヘラ削り(砂：→) 内：段、回転ナデ	89-2	I-63-9
93 30	77	須恵器 蓋	第10b面	建物8	II-1(MT15)	口径：14.7(1/6)	外：回転ナデ、回転ヘラ削り(砂：→) 内：段、回転ナデ、ナデ	89-2	I-62
93 31	77	須恵器 蓋	第10b面	建物8	II-2(TRK10)	口径：14.3(1/6)	外：回転ナデ、回転ヘラ削り(砂：→) 内：段、回転ナデ	89-2	I-63-8
93 32	77	須恵器 蓋	第10b面	建物8	II-1(MT15)	口径：13.0(若干のみ) 現高：5.0	外：回転ナデ、回転ヘラ削り(砂：→)、自然剥離付蓋、透蓋 内：段、回転ナデ	89-2	I-63-10
93 33	77	須恵器 蓋	第10b面	建物8	II-1(MT15)	口径：13.6(若干のみ)	外：回転ナデ、回転ヘラ削り(砂：→) 内：段、回転ナデ	89-2	I-63-11
93 34	77	須恵器 蓋	第10b面	建物8	II-1~2	口径：20.6(1/4)	外：回転ナデ、平行タタキ後カキ目 内：回転ナデ、ナデ、当て具痕	89-2	I-63-12



図版番号 93 35	写真番号 77	器種	層序	遺構	時期	法量 (cm)	特徴	調査年度	概要掲載番号
93 36	—	須恵器壺	第10b面	建物8	II-1~2	口径: 22.3(2/3)	外: 凸縁、カキ目、平行タタキのあとカキ目、自然袖付着 内: 回転ナ デ、当て具痕	89-2	I-63-13
93 83	78	土師器高杯残部	第10b面	建物8	6C?	胴径: 2.6(完)	外: 面取り? 内: しぼり目	89-2	未掲載
93 84	78	サユカイト割片	第10b面	建物8	?			89-2	未掲載
93 85	—	須恵器杯蓋	第10b面	建物9	?	現長: 11.9 現幅: 7.5 現最大厚: 2.6	外: 回転ナデ、回転ヘラ削り (砂: →) 内: 段、回転ナデ	90-1	未掲載
93 86	—	須恵器杯蓋	第10b面	建物11	I-5(TK47)	口径: 13.2(1/4)	外: 回転ナデ、回転ヘラ削り (砂: →) 内: 段、回転ナデ	90-1	未掲載
93 87	—	須恵器杯蓋	第10b面	建物11	I-5~II-1	口径: 11.6(1/3) 現高: 5.0	外: 回転ナデ、回転ヘラ削り (砂: →) 内: 段、回転ナデ	90-1	XII-34-5
93 88	—	須恵器杯蓋	第10b面	建物11	II-2(TK10)	口径: 13.0(1/4) 現高: 5.0	外: 回転ナデ、回転ヘラ削り (砂: →) 内: 段、回転ナデ	90-1	XII-34-6
93 89	—	須恵器杯蓋	第10b面	建物11	I-5(TK47)	口径: 11.0(1/4) 現高: 5.0	外: 回転ナデ、回転ヘラ削り (砂: →) 内: 段、回転ナデ	90-1	未掲載
93 90	—	須恵器杯蓋	第10b面	建物11	II-2(TK10)	口径: 13.8(1/5)	外: 回転ナデ、回転ヘラ削り (砂: →) 内: 段、回転ナデ	90-1	XII-34-7
93 91	—	須恵器高杯	第10b面	建物11	I-4(TK23)	口径: 15.2(1/2) 現高: 5.0	外: 凸縁、波状文(5条)、透かし4方向 内: 回転ナデ	90-1	未掲載
93 92	—	須恵器壺	第10b面	建物12	I-4(TK23)	頸部径: 7.4(完)	外: 波状文(1+1条)、刺突文、回転ナデ、ヘラ削り、自然袖付着 内: 回 転ナデ、ナデ、指押さえ	90-1	XII-34-2
94 93	78	須恵器器台	第10b面	建物12	I-4(TK23)	口径: 40.6(1/9)	外: 凸縁2、波状文(8.12条)、波状文(12.12? 9条)、凸縁2、波状文 (10.7.9条)、凸縁2、回転ナデ、カキ目、平行タタキの後カキ目、透かし6 方向の段 内: 回転ナデ、当て具痕 内: 回転ナデ、ナデ、当て具痕	90-1	XII-34-3
94 94	—	土師器器台	第10b面	建物12	?	口径: 7.2(1/4) 現高: 8.2	外: 指ナデ、内: 指ナデ、2枚換取受け付 (生)	90-1	XII-34-4
94 96	78	弥生式土器高杯残部	第10b面	建物15	弥生VI~庄内	口径: 3.8(完)	外: ヨコナデ、ヘラミカキ、ハケム、透かし3方向 内: しぼり目、ナデ	90-1	XII-43-1
94 97	78	土師器壺	第10b面	建物15	6C	口径: 16.4(2/3)	外: ヨコナデ、ハケム、スス付着 内: ハケム、指押さえ後ナデ、スス付 着 (生)	90-1	未掲載
94 98	78	柱根	第10b面	建物15	?	現長: 31.5 最大厚: 6.4	片端片化	90-1	未掲載
94 99	78	板状木製品	第10b面	建物15	?	現長: 30.2 最大幅: 12.3 最大厚: 3.8		90-1	未掲載
94 100	78	柱根	第10b面	建物15	?	現長: 60.8 最大幅: 13.0		90-1	未掲載
94 101	—	須恵器杯蓋	第10b面	建物16	II-1(MT15)	口径: 12.6(完) 器高: 4.6	外: 回転ナデ、回転ヘラ削り (砂: →) 内: 段、回転ナデ、当て具痕	90-1	XII-43-2
94 102	—	須恵器杯蓋	第10b面	建物16	II-2(TK10)	口径: 10.6(1/4)	外: 回転ナデ、回転ヘラ削り (砂: →) 内: 段、回転ナデ、ナデ	90-1	未掲載
94 103	78	須恵器器台	第10b面	建物16	II-2(TK10)	口径: 7.2(1/6)	外: 回転ナデ、自然袖付着 内: 回転ナデ、自然袖付着	90-1	未掲載
94 104	79	須恵器杯蓋	第9b-10b面	建物17	?	現長: 15.9 最大幅: 16.2 最大厚: 2.5		90-1	XII-39
94 105	—	須恵器杯蓋	第9b-10b面	建物19	?	現長: 38.6 最大幅: 13.1		90-1	未掲載
94 106	—	須恵器杯蓋	第9b-10b面	建物20	II-2(TK10)	口径: 16.2(1/9)	外: 回転ナデ 内: 段、回転ナデ	90-1	未掲載
94 107	79	須恵器杯蓋	第10b面	建物23	6C	口径: 12.6(1/2) 現高: 4.8	外: タテハケム 内: ヨコハケム、ナデ (生)	90-1	未掲載
94 109	79	須恵器杯蓋	第10b面	建物24	II-2(TK10)	口径: 14.9(3/4) 器高: 4.7~4.9	外: 回転ナデ、回転ヘラ削り (砂: →) 内: 回転ナデ、ナデ	90-1	XII-43-4
94 110	—	須恵器器台	第10b面	建物24	I-4(TK23)	口径: 8.3(1/4)	外: 凹縁文(1、1条)、刺突文、回転ナデ、回転ヘラ削り (砂: →) 滑着 内: 段、回転ナデ	90-1	未掲載
95 145	—	須恵器壺	第9b-10b面	建物29	I-5~II-1	口径: 17.2(1/7)	外: 凸縁、平行タタキの後カキ目 内: 回転ナデ	90-1	未掲載
95 146	—	土師器小形複合口縁壺	第10b面	建物29	布留	小片	山縁、北陸地方系か 外: ヨコナデ、ハケム 内: ヨコナデ、ヘラ削り	90-1	未掲載
95 147	79	柱根	第10b面	建物29	?	現長: 50.3 最大幅: 9.9		90-1	未掲載
95 148	79	柱根	第10b面	建物29	?	現長: 31.1 最大幅: 5.9		90-1	未掲載
95 149	79	須恵器杯蓋	第10b面	建物30	II-1(MT15)	口径: 11.5(4/5) 器高: 4.3	外: 回転ナデ、回転ヘラ削り (砂: →) 内: 段、回転ナデ、ナデ	90-1	XII-52-1
95 150	—	須恵器杯蓋	第10b面	建物30	II-1(MT15)	口径: 11.4(1/4)	外: 回転ナデ、回転ヘラ削り (砂: →) 内: 段、回転ナデ	90-1	未掲載
95 151	—	須恵器杯蓋	第10b面	建物30	II-1(MT15)	口径: 12.4(1/3)	外: 回転ナデ、回転ヘラ削り (砂: →) 内: 段、回転ナデ	90-1	未掲載
95 152	—	須恵器杯蓋	第10b面	建物30	II-1(MT15)	口径: 14.6(1/4) 器高: 4.8	外: 回転ナデ、回転ヘラ削り (砂: →) 内: 段、回転ナデ	90-1	未掲載
95 153	—	須恵器杯蓋	第10b面	建物30	II-1(MT15)	口径: 12.6(1/4)	外: 回転ナデ、回転ヘラ削り (砂: →) 内: 段、回転ナデ	90-1	XII-52-2
95 154	—	須恵器杯蓋	第10b面	建物30	II-1(MT15)	口径: 10.8(1/4)	外: 回転ナデ、回転ヘラ削り (砂: →) 内: 段、回転ナデ	90-1	XII-52-3
95 155	—	須恵器杯蓋	第10b面	建物30	II-1(MT15)	口径: 12.6(1/4)	外: カキ目、透かし3方向? 内: 回転ナデ	90-1	XII-52-4
95 156	—	須恵器高杯	第10b面	建物30	II-1~2	胴径: 4.7(完)	外: 凹縁文(1、1条)、刺突文、ナデ 内: ナデ	90-1	未掲載
95 157	—	須恵器壺	第10b面	建物30	II-1~2	最大口径: 9.7(1/3)	外: ヨコナデ、指押さえナデ 内: 凹縁文、ヨコナデ、指押さえナデ、ヘラ 削り?、割れ口すっぽうな痕跡あり (生)	90-1	未掲載
95 158	—	土師器壺	第10b面	建物30	6C未~7C初	口径: 11.4(1/4) 器高: 4.8	外: ヨコナデ、ハケム 内: ハケム、指押さえナデ (生)	90-1	未掲載
95 159	—	土師器壺	第10b面	建物30	6Cか	頸部径: 15.8(1/3)	外: 指押さえナデ 内: 指ナデ? 指押さえナデ、ヘラ削り?	90-1	XII-52-5
95 160	—	土師器壺	第10b面	建物30	6Cか	口径: 24.2(1/3)	外: ヨコナデ、タテハケム、乳(1+4?) 内: ヨコハケム、裾ナデ、 ヘラナデ (生)	90-1	未掲載
95 161	79	土師器壺	第10b面	建物30	6Cか	小片	外: タテハケム 内: ナデ、スス付着 (生)	90-1	未掲載
95 162	—	土師器壺	第10b面	建物30	6Cか	口径: 21.0(1/6)	外: ヨコナデ、ハケム 内: ヨコハケム、指押さえナデ (生)	90-1	未掲載
95 163	—	土師器羽釜	第10b面	建物30	6Cか	頸径: 29.5(2/5)	外: ヨコナデ 内: ヨコハケム、指ナデ (生)	90-1	未掲載
95 164	80	柱根	第10b面	建物31	?	現長: 27.6 最大幅: 6.4		90-1	未掲載
95 165	80	柱根	第10b面	建物31	?	現長: 26.6 最大幅: 9.7		90-1	未掲載
95 166	80	柱根	第10b面	建物31	?	現長: 58.5 最大幅: 9.7		90-1	未掲載
95 167	80	柱根	第10b面	建物31	?	現長: 31.7 最大幅: 8.9		90-1	未掲載
95 168	80	柱根	第10b面	建物31	?	現長: 22.5 最大幅: 4.8		90-1	未掲載
95 169	80	柱根	第10b面	建物31	?	現長: 22.1 最大幅: 6.6		90-1	未掲載
95 170	80	柱根	第10b面	建物31	?	現長: 19.4 最大幅: 6.6		90-1	未掲載
95 171	80	柱根	第10b面	建物32	?	現長: 51.5 最大幅: 13.4		90-1	未掲載
95 172	80	柱根	第10b面	建物33	?	現長: 61.1 最大幅: 10.5		90-1	未掲載
95 173	80	柱根	第10b面	建物36	?	現長: 66.2 最大幅: 11.6		92-7	XIV-44-1
96 174	80	柱根	第10b面	建物36	?	現長: 66.2 最大幅: 11.6		92-7	XIV-44-2
97 1	—	須恵器口蓋	第10b面	ピット2	II-1(MT15)	頸部径: 13.2(1/2) 器高: 5.0	外: 回転ナデ、回転ヘラ削り 内: 段、回転ナデ	90-3(A)	未掲載
97 2	—	土師器直口蓋	第10b面	ピット2	6Cか	頸部径: 8.8(1/2)	外: 一 内: 指押さえ、ヘラ削り	90-3(A)	未掲載
97 3	80	須恵器杯	第10b面	ピット3	I-5(TK47)	口径: 10.1(-部欠) 器高: 4.9	外: ヘラ削り、ヨコナデ、回転ヘラ削り (砂: →) 内: 段、ヨコナデ	90-1	未掲載

図版番号	写真番号	器種	層序	遺構	時期	法量 (cm)	特徴	調査年度	概要掲載番号
97 4	—	須恵器杯蓋	第106面	ピット4	I-4-5	口径：13.0(1/3)	外：回転ナデ、回転ヘラ削り 内：段、回転ナデ	90-1	未掲載
97 5	—	須恵器杯	第106面	ピット5	II-1(MT15)	口径：10.9(1/4)	外：回転ナデ、回転ヘラ削り(砂：→) 内：回転ナデ	90-1	未掲載
97 6	—	須恵器杯蓋	第106面	ピット6	5C中～	小片	外：回転ナデ、回転ヘラ削り(砂：→) 内：ナデ	90-1	未掲載
97 7	—	須恵器杯蓋	第106面	ピット7	II-1(MT15)	口径：13.8(1/4弱)	外：回転ナデ、回転ヘラ削り(砂：→) 内：段、回転ナデ	90-1	未掲載
97 8	81	全銅製耳環	第106面	ピット8	7	径：2.5×2.275 厚さ：0.6 重さ：11.5g	外：回転ナデ、回転ヘラ削り(砂：→) 内：段、回転ナデ	90-1	X II-73-20
97 9	81	須恵器杯	第106面	ピット9	I-5-II-1	口径：12.1(3/4) 器高：5.2	外：回転ナデ、回転ヘラ削り(砂：→) 内：段、回転ナデ	92-7	未掲載
97 10	81	須恵器蓋	第106面	ピット10	5C中～	小片	外：同心円スタンプ、ヘラ削り?ヨコナデ 内：スス付蓋(生)	92-7	未掲載
97 11	81	破片?	第106面	ピット11	7	現長：28.5 最大幅：16.9 最大厚：2.6	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ(生)	90-1	未掲載
97 12	81	弥生土器長頸壺	第106面	ピット12	弥生VI-2様式	口径：11.7(1/4)		92-7	未掲載
97 14	81	柱根	第106面	ピット14	7	現長：31.6 最大幅：6.2		90-1	未掲載
97 15	81	須恵器杯	第106面	ピット15	7	現長：37.0 最大幅：9.7		92-7	未掲載
97 16	—	須恵器杯	第106面	ピット15	5C後半～6C初	口径：13.8(1/6) 現高：5.8	外：ヨコナデ、スス付蓋 内：→(生)	92-7	未掲載
97 17	—	須恵器杯	第106面	ピット28	II-1-2	受部径：10.1(1/2)	外：回転ナデ、回転ヘラ削り(砂：→) 内：回転ナデ 当て具痕?	92-7	未掲載
99 1	—	須恵器杯蓋	第106面	井戸45	II-1(MT15)	口径：11.6(1/5)	外：回転ナデ、回転ヘラ削り(砂：→) 内：段、回転ナデ	90-1	X II-61-3
99 2	—	須恵器杯蓋	第106面	井戸45	II-1(MT15)	口径：12.6(1/6) 現高：4.6	外：回転ナデ、回転ヘラ削り、自然袖付蓋 内：段、回転ナデ、ナデ	90-1	未掲載
99 3	—	須恵器杯蓋	第106面	井戸45	II-2(TK10)	口径：14.2(1/4弱)	外：回転ナデ、回転ヘラ削り 内：名残りの段、回転ナデ	90-1	未掲載
99 4	—	須恵器杯蓋	第106面	井戸45	II-2(TK10)	口径：14.4(2/5) 現高：4.7	外：回転ナデ、回転ヘラ削り(砂：→) 内：段、回転ナデ	90-1	未掲載
99 5	—	須恵器杯蓋	第106面	井戸45	II-2(TK10)	口径：14.5(1/4)	外：回転ナデ、回転ヘラ削り(砂：→)、擦鉢工真痕 内：名残りの段、回転ナデ	90-1	未掲載
99 6	—	須恵器杯蓋	第106面	井戸45	II-2(TK10)	口径：15.0(1/4)	外：回転ナデ 内：名残りの段、回転ナデ	90-1	未掲載
99 7	—	須恵器杯蓋	第106面	井戸45	II-2(TK10)	口径：15.1(1/6)	外：回転ナデ、回転ヘラ削り(砂：→) 内：回転ナデ、スス付蓋	90-1	未掲載
99 8	—	須恵器杯	第106面	井戸45	II-1-1	口径：11.3(1/5)	外：回転ナデ、回転ヘラ削り 内：段、回転ナデ	90-1	未掲載
99 9	—	須恵器杯	第106面	井戸45	I-5-II-1	口径：12.4(1/4)	外：回転ナデ、回転ヘラ削り(砂：→) 内：段、回転ナデ	90-1	未掲載
99 10	—	須恵器杯	第106面	井戸45	II-1(MT15)	口径：13.2(1/8)	外：回転ナデ、回転ヘラ削り(砂：→) 内：段、回転ナデ	90-1	未掲載
99 11	—	須恵器杯	第106面	井戸45	II-2-3	口径：13.2(1/4弱)	外：回転ナデ、回転ヘラ削り(砂：→) 内：回転ナデ	90-1	未掲載
99 12	—	須恵器杯	第106面	井戸45	II-2-3	口径：14.4(1/8)	外：回転ナデ、回転ヘラ削り(砂：→)、一部赤色顔料?付蓋 内：回転ナデ	90-1	未掲載
99 13	81	須恵器平埴	第106面	井戸45	II型式後半	最大腹径：18.5(完)	外：回転ナデ、回転ヘラ削り(砂：→) 内：ナデ	90-1	X II-61-1
99 14	—	土師器高杯	第106面	井戸45	5C末～6Cか	口径：19.6(1/8)	外：ヨコナデ、指押さえナデ 内：ヨコナデ、粗いハケメ?	90-1	X II-61-2
99 18	81	骨製品	第106面	井戸45	7	現長：2.4 最大幅：2.05 最大厚：1.65	孔のあき方が自然でない	90-1	X II-61-4
99 19	81	板状木製品	第106面	井戸45	7	現長：16.6 最大幅：2.9 最大厚：0.9	高剛硬部状	90-1	未掲載
99 20	81	板状木製品	第106面	井戸45	7	現長：10.3 最大幅：7.9 最大厚：2.6		90-1	未掲載
99 21	82	須恵器杯蓋	第106面	井戸46	II-2(TK10)	口径：15.6(2/3) 器高：5.1	外：回転ナデ、回転ヘラ削り(砂：→) 内：段、回転ナデ	90-1	X II-62-1
99 22	82	須恵器杯	第106面	井戸46	II-1(MT15)	口径：12.2(1/2) 器高：5.1	外：回転ナデ、平形タタキ 内：回転ナデ	90-1	X II-62-3
99 23	82	須恵器蓋	第106面	井戸46	II型式前半	口径：11.1(4/5) 器高：14.0	外：カキ目 内：回転ナデ 内外面スス付蓋	90-1	未掲載
99 24	82	須恵器蓋	第106面	井戸46	6Cか	頸部径：8.5	外：ヨコナデ、板ナデ、ナデ 内：ヨコナデ ナデ	90-1	X II-62-7
99 25	82	土師器直口壺	第106面	井戸46	6C	口径：9.2(完) 器高：11.4	外：ヨコナデ、ハケメ、タテハケメ 内：ヨコナデ、指押さえナデ、内外面スス付蓋(生)?	90-1	X II-62-4
99 26	82	土師器壺	第106面	井戸46	6C	口径：11.6(2/3) 器高：12.3	外：ヨコナデ、ハケメ、赤色顔料塗布か 内：ヨコナデ、指押さえナデ	90-1	X II-62-5
99 27	82	土師器壺	第106面	井戸46	6C	口径：10.4(3/5)	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、指押さえナデ 内外面赤色顔料付蓋(生)	90-1	未掲載
99 28	—	土師器壺	第106面	井戸46	6C	口径：9.0(一部欠) 器高：12.8	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、指押さえナデ(生)	90-1	X II-62-6
99 29	82	土師器壺	第106面	井戸46	6C	口径：12.7～12.8(完) 器高5.2	外：回転ヨコナデ、回転ヘラ削り(砂：→) 内：回転ヨコナデ、当て具痕	90-1	X II-60-2
100 30	82	須恵器杯	第106面	井戸47	II-2(TK10)	口径：13.3～13.6(一部欠) 器高：5.6	外：回転ヨコナデ、回転ヘラ削り(砂：→) 内：回転ヨコナデ、当て具痕	90-1	X II-60-1
100 31	82	須恵器杯	第106面	井戸47	II-2(TK10)	受部径：14.9(1/3)	外：回転ヨコナデ、回転ヘラ削り(砂：→) 内：回転ナデ	90-1	未掲載
100 32	82	須恵器有脚短頸壺	第106面	井戸47	II型式前半	口径：7.0(1/2)	外：回転ナデ、カキ目、ナデの後ハケメ、自然袖付蓋 内：回転ナデ、自然袖付蓋	90-1	X II-21-2
100 34	82	土師器壺	第106面	井戸47	6C	口径：10.6(3/4) 器高：13.5	外：ヨコナデ、ナデ後ハケメ 内：ヨコナデ、指押さえナデ(生)	90-1	X II-60-5
100 35	—	土師器壺	第106面	井戸47	6C	口径：14.4(1/8)	外：ヨコナデ、ナデ後ハケメ 内：ヨコナデ、指押さえナデ(生)	90-1	X II-60-4
100 36	—	土師器鍋	第106面	井戸47	6C	口径：35.6(1/8) 現高：22.6	外：ヨコナデ、ハケメ、2次焼成受ける 内：粗いハケメ、指押さえ後ハケメ	90-1	X II-60-6
100 38	83	須恵器杯	第106面	井戸48	I-5(TK47)	口径：9.9～10.2(一部欠) 器高：4.4	外：回転ヨコナデ、回転ヘラ削り(砂：→) 内：段、回転ナデ	89-3	I-76-10
100 39	83	土師器壺	第106面	井戸48	6C	口径：14.8(2/3) 器高：17.9	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ハケメ、指押さえナデ	89-3	I-76-11
101 1	83	須恵器	第106面	土坑9	I-5-II-1	頸部径：6.0(完) 最大腹径：10.7(完)	外：刺穿文(7条)、回転ナデ、回転ヘラ削り(砂：→) 内：回転ナデ	90-3(A)	II-41
101 2	—	須恵器壺	第106面	土坑9	I-5(TK47)	口径：16.8(1/6+α)	外：凸線1、波状文(12～3条、12～3条)、回転ナデ、自然袖付蓋	90-3(A)	未掲載
101 3	83	土師器壺	第106面	土坑9	5C中～	小片	外：端部同心円スタンプ? 粗いハケメ 内：ヨコナデ(生)	90-3(A)	II-46-5
101 4	83	須恵器	第106面	土坑10	II型式前半	最大腹径：10.9(完)	外：ナデ、カキ目、ハケメ 内：回転ナデ	89-3	未掲載
101 30	—	土師器壺	第106面	土坑11	6C	口径：15.4(1/2)	外：ヨコナデ、ヘラ痕、ヘラ削り、スス付蓋 内：ヨコナデ、指押さえ後ナデ、板ナデ(生)	1-76-16	未掲載
101 31	—	土師器小形壺	第106面	土坑12	6C	口径：9.4(2/3)	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ハケメ	90-1	未掲載
101 33	83	須恵器小形壺	第106面	土坑13?	I-1-2	受部径：16.4(1/8)	外：波状文(7、7)、回転ナデ、自然袖付蓋 内：回転ナデ、自然袖付蓋	92-7	未掲載
101 34	—	弥生式土器壺	第106面	土坑13	V様式	口径：12.8(1/5) 底部径：4.0(完) 現高：14.6	外：ヨコナデ、平形タタキ(2条/cm) 内：→(生)	92-7	未掲載
101 35	—	土師器高杯	第106面	土坑13	6Cか	口径：17.8(1/7)	外：→ 内：→	90-3(A)	未掲載
103 1	—	須恵器杯	第106面	溝4	II-1(MT15)	口径：12.4(1/5)	外：回転ナデ、回転ヘラ削り(砂：→) 内：段、回転ナデ	90-3(A)	未掲載
103 2	—	土師器壺	第106面	溝5	6Cか	底径：13.4(1/10)	外：孔：1+4、小孔：底面に4、側面に4(どちらも推定)	90-3(A)	II-47-2

図版番号 図版	写真番号 図版	器種	層序	遺構	時期	法量 (cm)	特徴	調査年度	概要掲載番号
103 3	—	須恵器杯蓋	第10b面	溝6	II-2(TK10)	口径：14.2(1/4) 現高：4.0	外：へろ記号、回転ナデ、回転へら削り (砂：→) 内：段、回転ナデ、当て具痕	90-3(A)	II-49-7
103 4	—	須恵器杯	第10b面	溝7	II-2(TK10)	口径：13.8(1/10) 現高：5.2	外：回転ナデ、回転へら削り (砂：→) スス付着 内：回転ナデ、当て具痕、スス付着	90-3(A)	II-49-8
103 5	—	須恵器杯	第10b面	溝8	II-2(TK10)	口径：11.6(1/5) 現高：4.6	外：回転ナデ、回転へら削り (砂：→) 内：回転ナデ	90-3(A)	II-49-4
103 6	—	弥生土器器台	第10b面	溝9	V様式	底径：16.0(1/8)	外：—、透かし6方向 内：(生)	90-3(A)	未掲載
103 7	85	須恵器	第10b面	溝10	II-2(TK10)	頸部径：6.5(2/3)	外：回転ナデ、ナデ 内：回転ナデ	90-1	未掲載
103 8	—	須恵器杯蓋	第10b面	溝11	I-5(TK47)	口径：11.8(1/2) 器高：5.2	外：へろ記号、回転ナデ、回転へら削り (砂：→) 内：段、回転ナデ	90-1	未掲載
103 9	—	須恵器杯蓋	第10b面	溝11	II-1(MT15)	口径：14.2(3/8)	外：回転ナデ、回転へら削り (砂：→) 内：段、回転ナデ	90-1	未掲載
103 10	—	須恵器杯蓋	第10b面	溝11	II-2(TK10)	口径：13.9(1/3) 現高：4.9	外：回転ナデ、回転へら削り (砂：→) 内：段、回転ナデ	90-1	未掲載
103 11	—	須恵器杯蓋	第10b面	溝11	II-2(TK10)	口径：14.4(1/3) 現高：4.8	外：回転ナデ、回転へら削り (砂：→) 内：段、回転ナデ	90-1	未掲載
103 12	—	須恵器杯蓋	第10b面	溝11	II-2(TK10)	口径：15.0(3/4) 現高：3.9	外：回転ナデ、回転へら削り (砂：→) 内：段、回転ナデ	90-1	未掲載
103 13	84	須恵器杯蓋	第10b面	溝11	II-2(TK10)	口径：15.2(1/6) 器高：4.9	外：回転ナデ、回転へら削り (砂：→) 内：段、回転ナデ、当て具痕	90-1	未掲載
103 14	—	須恵器杯蓋	第10b面	溝11	II-2(TK10)	口径：15.2(1/6) 器高：4.9	外：回転ナデ、回転へら削り (砂：→) 内：段、回転ナデ	90-1	未掲載
103 15	—	須恵器杯蓋	第10b面	溝11	II-2(TK10)	口径：15.4(1/2) 器高：5.2	外：回転ナデ、回転へら削り (砂：→) 内：段、回転ナデ	90-1	未掲載
103 16	84	須恵器杯蓋	第10b面	溝11	II-2(TK10)	口径：16.2(一部欠)	外：回転ナデ、回転へら削り (砂：→) 内：段、回転ナデ	90-1	未掲載
103 17	84	須恵器杯蓋	第10b面	溝11	I-5(TK47)	口径：11.2(1/6)	外：回転ナデ、回転へら削り (砂：→) 内：段、回転ナデ	90-1	未掲載
103 18	—	須恵器杯	第10b面	溝11	II-1(MT15)	口径：12.4~12.8(一部欠) 器高：5.4	外：回転ナデ、回転へら削り (砂：→) 内：段、回転ナデ	90-1	未掲載
103 19	84	須恵器杯	第10b面	溝11	II-2(TK10)	口径：12.6(1/4)	外：回転ナデ、回転へら削り (砂：→) 内：段、回転ナデ	90-1	未掲載
103 20	—	須恵器杯	第10b面	溝11	II-2(TK10)	口径：12.8(1/4)	外：回転ナデ、回転へら削り (砂：→) 一部スス付着 内：回転ナデ、一部スス付着	90-1	未掲載
103 21	—	須恵器杯	第10b面	溝11	II-2(TK10)	口径：13.2(1/2) 器高：4.5	外：回転ナデ、回転へら削り (砂：→) 内：回転ナデ、当て具痕	90-1	未掲載
103 22	84	須恵器杯	第10b面	溝11	II-2~3	口径：13.0(2/3) 器高：4.5	外：凸線、波状文 (5条以上)、回転ナデ、回転へら削り (砂：→)、カキ目、自然釉付着	90-1	未掲載
103 23	84	須恵器杯	第10b面	溝11	II-1(MT15)	口径：14.4(5/12) 胴径：9.4(1/8) 現高：12.9	外：凸線、波状文 (5条以上)、回転ナデ、回転へら削り (砂：→)、カキ目、自然釉付着	90-1	未掲載
103 24	84	須恵器高杯	第10b面	溝11	II-1(MT15)	口径：14.4(5/12) 胴径：9.4(1/8) 現高：12.9	外：凸線、波状文 (5条以上)、回転ナデ、回転へら削り (砂：→)、カキ目、自然釉付着	90-1	未掲載
103 25	84	須恵器	第10b面	溝11	II-1~2	頸部径：5.2(完)	外：回転ナデ、ナデ、部分的にへら削り 内：回転ナデ	90-1	未掲載
103 26	—	須恵器	第10b面	溝11	II-2(TK10)	口径：19.1(1/4)	外：凸線、カキ目 内：回転ナデ	90-1	未掲載
103 27	—	土師器高杯脚	第10b面	溝11	6C	口径：19.1(1/4)	外：— 内：しぼり目、指押さえナデ、布目痕	90-1	未掲載
103 28	—	土師器高杯脚	第10b面	溝11	6C?	口径：28.2(1/4)	外：ヨコナデ、ハケメ、指押さえナデ (生)	90-1	未掲載
103 29	—	土師器羽釜片	第10b面	溝11	6C?	口径：18.8(1/4)	外：凸線、カキ目、透かし3方向 内：回転ナデ	90-1	未掲載
103 30	—	土師器高杯脚	第10b面	溝12	II-2(TK10)	口径：8.2(1/4)	外：回転ナデ、回転へら削り (砂：→) 内：回転ナデ	90-1	未掲載
103 31	—	須恵器杯	第10b面	溝13	II-2~3	口径：13.1~13.4(1/2) 現高：4.9	外：回転ナデ、回転へら削り (砂：→) 内：回転ナデ	90-1	未掲載
103 32	—	須恵器杯	第10b面	溝13	II-2(TK10)	口径：12.5(1/3) 器高：5.3	外：へろ記号、回転ナデ、回転へら削り (砂：→) 内：段、回転ナデ、ナデ	90-1	未掲載
103 33	85	須恵器杯	第10b面	溝14	I-4(TK23)	口径：10.0~10.5(一部欠) 器高：4.7	外：凸線、波状文、波状文 (8条、10条)、回転ナデ 内：回転ナデ	90-1	未掲載
103 34	—	須恵器	第10b面	溝14	I-5(TK47)	口径：14.2(1/4)	外：凸線、波状文、波状文 (8条、10条)、回転ナデ 内：回転ナデ	90-1	未掲載
103 35	85	弥生土器器	第10b面	溝14	V様式	口径：13.9~14.1(完)	外：凸線、波状文、波状文 (8条、10条)、回転ナデ 内：回転ナデ	90-1	未掲載
104 36	85	弥生土器鉢	第10b面	溝14	V様式	口径：12.6~12.9(端部欠損多し) 底径：4.8 器高：8.1	外：ハケメの後ナデ 内：ハケメ (生)	90-1	未掲載
104 37	—	弥生土器鉢	第10b面	溝14	V様式	口径：14.8(1/8)	外：— 内：ヨコナデ	90-1	未掲載
104 38	—	須恵器杯蓋	第10b面	溝15	II-1(MT15)	口径：11.8(1/4) 器高：4.6	外：回転ナデ 内：段、回転ナデ	90-1	未掲載
104 39	—	須恵器杯蓋	第10b面	溝15	II-2(TK10)	口径：14.2(1/3)	外：回転ナデ、回転へら削り (砂：→) 内：段、回転ナデ、当て具痕	90-1	未掲載
104 40	—	須恵器杯蓋	第10b面	溝15	II-2(TK10)	口径：15.2(1/4) 器高：4.6	外：回転ナデ、回転へら削り (砂：→) 内：段、回転ナデ	90-1	未掲載
104 41	86	須恵器杯	第10b面	溝15	II-2(TK10)	口径：9.7~10.2(一部欠) 器高：4.6	外：回転ナデ、回転へら削り (砂：→) 内：段、回転ナデ	90-1	未掲載
104 42	86	須恵器杯	第10b面	溝15	I-5(TK47)	口径：10.4(5/6) 器高：4.3	外：へろ記号、回転ナデ、回転へら削り (砂：→) 内：段、回転ナデ	90-1	未掲載
104 43	86	須恵器杯	第10b面	溝15	I-5(TK47)	口径：10.4(1/2) 器高：4.8	外：へろ記号、回転ナデ、回転へら削り (砂：→) 内：段、回転ナデ	90-1	未掲載
104 44	—	須恵器杯	第10b面	溝15	II-1(MT15)	口径：10.6(1/5)	外：回転ナデ、回転へら削り (砂：→) 内：段、回転ナデ	90-1	未掲載
104 45	—	須恵器杯	第10b面	溝15	II-2(TK10)	口径：11.6(1/4) 現高：5.0	外：回転ナデ、回転へら削り (砂：→) 内：段、回転ナデ	90-1	未掲載
104 46	—	須恵器杯	第10b面	溝15	II-2(TK10)	口径：13.0(1/2) 器高：4.7	外：回転ナデ 内：回転ナデ	90-1	未掲載
104 47	—	須恵器杯	第10b面	溝15	II-2(TK10)	口径：13.8(1/6)	外：回転ナデ 内：回転ナデ	90-1	未掲載
104 48	—	須恵器杯	第10b面	溝15	II型式前半	口径：14.0(2/5)	外：回転ナデ、回転へら削り (砂：→) 内：回転ナデ、当て具痕	90-1	未掲載
104 49	86	須恵器杯	第10b面	溝15	II-2(TK10)	口径：14.2(1/2) 器高：4.7	外：回転ナデ、回転へら削り (砂：→) 内：回転ナデ、当て具痕	90-1	未掲載
104 50	86	須恵器杯	第10b面	溝15	II-3	口径：12.7~13.0(1/2) 器高：4.5	外：回転ナデ、へら削り 内：回転ナデ	90-1	未掲載
104 51	—	須恵器高杯脚	第10b面	溝15	II-1(MT15)	口径：11.6(1/4) 器高：4.5	外：回転ナデ、回転へら削り (砂：→) 内：段、回転ナデ	90-1	未掲載
104 52	—	須恵器	第10b面	溝15	II-1(MT15)	口径：13.6(若干のみ)	外：凹線文、波状文 (8条、6条、18条、13条) 内：回転ナデ	90-1	未掲載
104 53	86	須恵器	第10b面	溝15	I-4(TK23)	最大口径：12.2(1/2)	外：へろ記号?、カキ目、ナデ後へら削り、平行タタキ、底部：平行タタキ	90-1	未掲載
104 54	85	須恵器	第10b面	溝15	I-1~2	口径：11.3(若干) 底径：6.5(完) 現高：9.0	後へら削り 内：回転ナデ	90-1	未掲載
104 55	86	土師器小型丸底蓋	第10b面	溝15	布留V期	口径：9.4(1/6) 現高：7.9	外：ヨコナデ、指押さえ後ナデ 内：ヨコナデ、楊ナデ	90-1	未掲載
104 56	86	土師器高杯脚	第10b面	溝15	6Cか?	口径：9.9(1/2)	外：— 内：しぼり目、指ナデ	90-1	未掲載
104 57	86	土師器	第10b面	溝15	?	口径：10.0(1/4) 器高：5.9	外：ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ、ナデ (生)	90-1	未掲載
104 58	85	土師器羽釜	第10b面	溝15	6C少	口径：21.5(2/5)	外：ヨコナデ、ハケメ、スス付着 内：ハケメ、工具痕 (生)	90-1	未掲載
105 59	—	須恵器杯蓋	第10b面	溝16	II-1(MT15)	口径：12.0(1/3) 現高：4.2	外：回転ナデ、回転へら削り (砂：→) 内：段、回転ナデ、ナデ	90-1	未掲載
105 60	—	須恵器杯蓋	第10b面	溝16	II-1(MT15)	口径：12.7(1/4) 現高：5.2	外：回転ナデ、回転へら削り (砂：→) 内：段、回転ナデ	90-1	未掲載
105 61	—	須恵器杯蓋	第10b面	溝16	II-1(MT15)	口径：14.1(若干のみ) 現高：5.6 つまみ径：3.7	外：回転ナデ、回転へら削り (砂：→) 内：自然釉付着 内：段、回転ナデ	90-1	未掲載
105 62	—	須恵器高杯脚	第10b面	溝16	I-5(TK47)	口径：12.8(1/4)	外：カキ目、回転ヨコナデ、透かし3~4方向 内：回転ナデ	90-1	未掲載



図版番号	写真番号	器種	層序	遺構	時期	法量 (cm)	特徴	調査年度	概要掲載番号
105 63	—	弥生土器壺	第10b面	溝16	Ⅱ様式	口径：14.4(1/5)	外：回転ナデ 内：回転ナデ (生)	90-1	未掲載
105 64	—	弥生土器壺底蓋(有孔)	第10b面	溝16	Ⅱ様式	底径：3.5(完) 孔径：0.7×0.55	外：平行タタキ 内：ハケメ? (生)	90-1	未掲載
105 65	—	須恵器杯蓋	第10b面	溝17	Ⅱ-1(MT15)	口径：15.2(2/3) 器高：4.8	外：回転ナデ、回転ヘラ削り (砂：→) 内：回転ナデ	90-1	未掲載
105 66	—	須恵器杯蓋	第10b面	溝17	Ⅱ-2(TK10)	口径：14.4(2/5) 現高：4.2	外：回転ナデ、回転ヘラ削り (砂：→) 内：段、回転ナデ、ナデ	90-1	未掲載
105 67	—	須恵器杯蓋	第10b面	溝17	Ⅱ-2(TK10)	口径：14.4(1/4) 現高：3.9	外：回転ナデ、回転ヘラ削り (砂：→) 内：段、回転ナデ、ナデ	90-1	未掲載
105 68	—	須恵器杯蓋	第10b面	溝17	Ⅱ-2(TK10)	口径：14.6(2/5) 現高：4.9	外：ヘラ記号、回転ナデ、回転ヘラ削り (砂：→) 内：段、回転ナデ	90-1	未掲載
105 69	86	須恵器杯蓋	第10b面	溝17	Ⅱ-2(TK10)	口径：14.8(3/4) 器高：4.4	外：ヘラ記号、回転ナデ、自然抽付着 内：段、回転ナデ、当て具痕	90-1	未掲載
105 70	86	須恵器杯蓋	第10b面	溝17	Ⅱ-2(TK10)	口径：15.3(4/5) 器高：4.8	外：回転ナデ、回転ヘラ削り (砂：→) 内：段、回転ナデ、当て具痕	90-1	未掲載
105 71	86	須恵器杯蓋	第10b面	溝17	Ⅱ-2(TK10)	口径：15.4(1/11) 器高：4.4	外：回転ナデ、回転ヘラ削り (砂：→) 内：段、回転ナデ	90-1	未掲載
105 72	—	須恵器杯蓋	第10b面	溝17	Ⅱ-2(TK10)	口径：15.5(1/8)	外：回転ナデ、回転ヘラ削り (砂：→) 内：段、回転ナデ	90-1	未掲載
105 73	—	須恵器杯蓋	第10b面	溝17	Ⅱ-2(TK10)	口径：13.6(1/3) 器高：4.3	外：回転ナデ、回転ヘラ削り (砂：→) 内：段、回転ナデ	90-1	未掲載
105 74	—	須恵器杯蓋	第10b面	溝17	Ⅱ-2(TK10)	口径：13.2(1/2) 器高：5.4	外：ヘラ記号、回転ナデ、回転ヘラ削り (砂：→) 内：段、回転ナデ	90-1	未掲載
105 75	—	須恵器杯	第10b面	溝17	Ⅱ-1(MT15)	口径：12.0(1/2) 器高：5.4	外：ヘラ記号、回転ナデ、回転ヘラ削り (砂：→) 内：段、回転ナデ	90-1	未掲載
105 76	—	須恵器杯	第10b面	溝17	Ⅱ-1(MT15)	口径：12.3(3/8) 現高：5.4	外：ヘラ記号、回転ナデ、回転ヘラ削り (砂：→) 内：段、回転ナデ	90-1	未掲載
105 77	86	須恵器杯	第10b面	溝17	Ⅱ-1(MT15)	口径：13.3(1/2) 器高：5.6	外：ヘラ記号、回転ナデ、回転ヘラ削り (砂：→) 内：段、回転ナデ	90-1	未掲載
105 78	—	須恵器杯	第10b面	溝17	Ⅱ-1(MT15)	口径：13.5(1/8)	外：ヘラ記号、回転ナデ、回転ヘラ削り (砂：→) 内：段、回転ナデ	90-1	未掲載
105 79	86	須恵器杯	第10b面	溝17	Ⅱ-1(MT15)	口径：14.0(一部欠) 器高：5.2	外：ヨコナデ、回転ヘラ削り (砂：→) 内：段、回転ナデ	90-1	未掲載
105 80	—	須恵器杯	第10b面	溝17	Ⅱ-1(MT15)	口径：14.0(1/4) 器高：5.5	外：ヘラ記号、ヨコナデ、回転ヘラ削り (砂：→) 内：段、回転ナデ	90-1	未掲載
105 81	—	須恵器杯	第10b面	溝17	Ⅱ-2(TK10)	口径：11.0(1/2) 現高：4.2	外：回転ナデ、回転ヘラ削り (砂：→) 内：段、回転ナデ	90-1	未掲載
105 82	—	須恵器杯	第10b面	溝17	Ⅱ-2(TK10)	口径：12.2(1/4) 器高：4.2	外：回転ナデ、回転ヘラ削り (砂：→) 内：段、回転ナデ	90-1	未掲載
105 83	—	須恵器杯	第10b面	溝17	Ⅱ-2(TK10)	口径：12.6(2/3) 器高：5.2	外：回転ナデ、回転ヘラ削り、部分的に赤色顔料付着 内：回転ナデ、ナデ	90-1	未掲載
105 84	—	須恵器杯	第10b面	溝17	Ⅱ-2	口径：13.0(1/2) 器高：4.7	外：回転ナデ、回転ヘラ削り (砂：→) 内：段、回転ナデ	90-1	未掲載
105 85	—	須恵器杯	第10b面	溝17	Ⅱ-2(TK10)	口径：13.1(1/5) 現高：4.8	外：回転ナデ、回転ヘラ削り (砂：→) 内：回転ナデ	90-1	未掲載
105 86	—	須恵器杯	第10b面	溝17	Ⅱ-2(TK10)	口径：13.1(2/5) 現高：5.1	外：回転ナデ、回転ヘラ削り (砂：→) 内：回転ナデ	90-1	未掲載
105 87	—	須恵器杯	第10b面	溝17	Ⅱ-2(TK10)	口径：13.2(1/3) 現高：3.9	外：回転ナデ、回転ヘラ削り (砂：→) 内：段、回転ナデ	90-1	未掲載
105 88	86	須恵器杯	第10b面	溝17	Ⅱ-1(MT15)	口径：13.4~13.7(一部欠) 器高5.0	外：回転ナデ、回転ヘラ削り (砂：→) 内：段、回転ナデ	90-1	未掲載
105 89	—	須恵器杯	第10b面	溝17	Ⅱ-2(TK10)	口径：13.8(若干のみ) 現高：4.6	外：回転ナデ、回転ヘラ削り (砂：→) 内：段、回転ナデ、当て具痕	90-1	未掲載
105 90	—	須恵器杯	第10b面	溝17	Ⅱ-2(TK10)	口径：14.1(1/3)	外：回転ナデ、回転ヘラ削り (砂：→) 内：回転ナデ	90-1	未掲載
105 91	—	須恵器杯	第10b面	溝17	Ⅱ-2(TK10)	口径：15.3(2/5)	外：回転ナデ、回転ヘラ削り (砂：→) 内：段、回転ナデ、当て具痕	90-1	未掲載
105 92	—	須恵器杯	第10b面	溝17	Ⅱ-2(TK10)	口径：12.6(1/4) 現高：4.7	外：回転ナデ、回転ヘラ削り (砂：→) 内：回転ナデ	90-1	未掲載
105 93	—	須恵器杯	第10b面	溝17	Ⅱ-2-3	口径：12.6(1/4) 現高：4.3	外：回転ナデ、回転ヘラ削り (砂：→) 内：自然抽付着、滑溝 内：回転ナ	90-1	未掲載
105 94	—	須恵器杯	第10b面	溝17	Ⅱ-2-3	口径：13.0(1/4) 現高：4.3	外：回転ナデ、回転ヘラ削り (砂：→) 内：回転ナデ、ナデ	90-1	未掲載
105 95	—	須恵器杯	第10b面	溝17	Ⅱ-3	口径：11.4(3/8) 現高：3.6	外：ヘラ記号、回転ナデ、回転ヘラ削り (砂：→) 内：回転ナデ、ナデ	90-1	未掲載
106 96	86	須恵器高杯	第10b面	溝17	Ⅱ-5~Ⅱ-1	口径：13.1(1/2) 脚径：7.3(完) 器高：8.8	外：凸線1、回転ナデ、回転ヘラ削り (砂：→) 内：回転ナデ、透かし3方向	90-1	未掲載
106 97	87	須恵器器台	第10b面	溝17	Ⅱ型式前半	脚径：11.5(4/5)	外：凸線1、凹線文(1.1.2.2.1.1条)、透かし(方形2段3方向、三角形3段3方向)、回転ナ	90-1	未掲載
106 98	—	土師器高杯	第10b面	溝17	6C	口径：16.5(1/4) 脚径：11.4(一部欠) 現高：15.6	外：指押さえるナデ、ナデ 内：しぼり目、指押さえるナデ	90-1	未掲載
106 99	—	土師器壺	第10b面	溝17	6C	口径：11.4(若干のみ) 現高：12.2	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ハケメ(生)	90-1	未掲載
106 100	—	土師器瓶	第10b面	溝17	6C?	口径：33.7(1/4) 現高：12.2	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ヘラ削り	90-1	未掲載
106 101	87	紙石	第10b面	溝17	?	現長：13.55 現幅：5.6 最大厚：5.3 重さ：455.0g	材質：流紋岩 4面使用	90-1	X II-78-4
106 102	—	灰滓	第10b面	溝17	?	直径：5.0 短径：4.7 最大厚：3.9 重さ：72.5g	外：回転ナデ、回転ヘラ削り 内：段、回転ナデ、当て具痕	90-1	X II-68-23
106 103	—	須恵器杯蓋	第10b面	溝18	Ⅱ-1(MT15)	口径：14.3(1/5)	外：回転ナデ、回転ヘラ削り (砂：→) 内：段、回転ナデ	90-1	未掲載
106 104	—	須恵器杯蓋	第10b面	溝18	Ⅱ-1(MT15)	口径：14.8(1/7)	外：回転ナデ、回転ヘラ削り (砂：→) 内：段、回転ナデ	90-1	未掲載
106 105	—	須恵器杯蓋	第10b面	溝18	Ⅱ-1(MT15)	口径：15.2(1/4)	外：回転ナデ、回転ヘラ削り (砂：→) 内：段、回転ナデ	90-1	未掲載
106 106	—	須恵器杯蓋	第10b面	溝18	Ⅱ-2(TK10)	口径：14.2(1/4)	外：回転ナデ、回転ヘラ削り (砂：→) 内：段、回転ナデ	90-1	未掲載
106 107	—	須恵器杯蓋	第10b面	溝18	Ⅱ-2(TK10)	口径：14.4(3/8)	外：回転ナデ、回転ヘラ削り (砂：→) 内：段、回転ナデ、当て具痕	90-1	未掲載
106 108	—	須恵器杯蓋	第10b面	溝18	Ⅱ-2(TK10)	口径：14.6(1/3)	外：回転ナデ、回転ヘラ削り (砂：→) 内：段、回転ナデ	90-1	未掲載
106 109	87	須恵器杯蓋	第10b面	溝18	Ⅱ-2-3	口径：15.2~15.4(完) 器高：4.4	外：回転ナデ、回転ヘラ削り (砂：→) 内：回転ナデ	90-1	未掲載
106 110	87	須恵器杯蓋	第10b面	溝18	Ⅱ-5(TK4/7)	口径：9.3~9.9(完) 器高：5.1	外：回転ナデ、回転ヘラ削り (砂：→) 内：段、回転ナデ	90-1	未掲載
106 111	—	須恵器杯	第10b面	溝18	Ⅱ-1(MT15)	口径：12.8(1/4) 器高：5.1	外：回転ナデ、回転ヘラ削り (砂：→) 内：段、回転ナデ	90-1	未掲載
106 112	—	須恵器杯	第10b面	溝18	Ⅱ-2(TK10)	口径：14.0(1/4)	外：回転ナデ、回転ヘラ削り (砂：→) 内：自然抽付着、滑溝 内：段、回	90-1	未掲載
106 113	—	須恵器杯	第10b面	溝18	Ⅱ-2-3	口径：12.0(1/6)	外：回転ナデ、回転ヘラ削り (砂：→) 内：回転ナデ	90-1	未掲載
106 114	—	須恵器壺	第10b面	溝18	Ⅱ型式前半	口径：15.0(3/8)	外：凸線1、平行タタキ後カキ目 内：回転ナデ、当て具痕	90-1	未掲載
106 115	—	須恵器壺	第10b面	溝18	Ⅱ-4(TK23)	口径：19.0(1/4)	外：凸線(1.1)、波状文(7.30条)、回転ナデ 内：回転ナデ	92-7	未掲載
107 116	—	土師器直口壺	第10b面	溝20	布留Ⅰ~布留Ⅱ	口径：11.0(1/4)	外：ハケメ後細かいへらミカキ 内：細かいへらミカキ	92-7	X IV-49-15
107 117	—	土師器高杯胴	第10b面	溝20	布留Ⅲ~布留Ⅳ	脚径：16.4(1/7)	外：透かし4方向 内：ハケメ	92-7	X IV-49-14
107 118	—	土師器高杯胴	第10b面	溝20	布留Ⅳ?	脚径：8.9~8.7(完)	外：ヘラ削り、指押さえるナデ	92-7	未掲載
107 119	—	弥生土器壺	第10b面	溝20	弥生V~庄内	口径：14.2(1/11)	外：ヨコナデ、平行タタキ、スズ付着 内：ヨコナデ、ハケメ(生)	92-7	未掲載
107 120	—	庄内式壺	第10b面	溝20	布留Ⅰ~Ⅱ	口径：16.0(1/7)	布留式影響 外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ヘラ削り(生)	92-7	未掲載

図版番号 図版番号	写真番号 図版	器種	層序	遺構	時期	法量 (cm)	特徴	調査年度	掲載掲載番号
107 121	—	第10b面	溝20	布留II~III	口径：13.8(1/4)	外：ヨコナテ、ハケメ 内：ヨコナテ、ヘラ削り	92-7	未掲載	
107 122	—	第10b面	溝21	VII様式	口径：6.5(一部欠)	外：沈黙文口縁、ヘラミガキ 内：ヨコナテ、ヘラ削り (生)	93-1	XV-67-5	
107 123	—	第10b面	溝21	庄内式	口径：16.6(1/8)	外：ヨコナテ、スス付蓋 内：ヨコナテ	93-1	XV-67-4	
107 124	—	第10b面	溝22	VI様式	口径：8.0(1/16)	外：ハケメ後ヘラミガキ、一部スス付蓋 内：指ナテ一部ヘラミガキ、一部スス付蓋	93-1	未掲載	
107 125	—	第10b面	溝22	布留II	口径：若干のみ	外：ヨコナテ 内：ヨコナテ、ヘラ削り	93-1	XV-67-1	
107 126	—	第10b面	溝22	布留III	口径：14.8(1/6)	外：刺突文ヨコナテ、ハケメ、スス付蓋 内：ヨコナテ、ヘラ削り	93-1	XV-67-2	
107 127	87	第10b面	溝40	II-4(TK43)	口径：13.4(4/5)	外：ヘラ削り、回転ヘラ削り (砂：→) 内：回転ナテ	90-3(A)	XV-31-1	
107 128	—	第10b面	溝40	6Cカ	口径：11.4(1/4)	外：回転ナテ、回転ヘラ削り (砂：→) 内：回転ナテ	90-1	XII-66-13	
110 1	88	第10b面	土器集積遺構1	I-5(TK47)	口径：11.8(1/4) 現高：4.1	外：回転ナテ、回転ヘラ削り (砂：→) 内：段、回転ナテ	90-1	XII-66-7	
110 2	—	第10b面	土器集積遺構1	I-5(TK47)	口径：12.1(2/3) 器高：4.4	外：回転ナテ、回転ヘラ削り (砂：→) 内：段、回転ナテ	90-1	XII-66-15	
110 3	88	第10b面	土器集積遺構1	II-1(MT15)	口径：9.6(一部欠) 器高：4.8	外：回転ナテ、回転ヘラ削り (砂：→) 内：段、回転ナテ	90-1	XII-66-10	
110 4	88	第10b面	土器集積遺構1	I-4~5	口径：9.3~9.4(一部欠) 器高：4.7	外：回転ナテ、回転ヘラ削り (砂：→) 内：段、回転ナテ	90-1	XII-66-4	
110 5	88	第10b面	土器集積遺構1	I-5(TK47)	口径：9.3~9.4(一部欠) 器高：4.7	外：回転ナテ、回転ヘラ削り (砂：→) 内：段、回転ナテ	90-1	XII-66-16	
110 6	88	第10b面	土器集積遺構1	I-5(TK47)	口径：9.9(5/6) 器高：4.5	外：回転ナテ、回転ヘラ削り (砂：→) 内：段、回転ナテ	90-1	XII-66-8	
110 7	88	第10b面	土器集積遺構1	I-5(TK47)	口径：10.2(5/6) 器高：5.0	外：回転ナテ、回転ヘラ削り (砂：→) 内：段、回転ナテ	90-1	XII-66-9	
110 8	—	第10b面	土器集積遺構1	I-5(TK47)	口径：10.1~10.2(一部欠) 器高：4.9	外：ヘラ削り、回転ナテ、回転ヘラ削り (砂：→) 内：段、回転ナテ	90-1	XII-66-17	
110 9	88	第10b面	土器集積遺構1	I-5(TK47)	口径：10.3~10.5(一部欠) 器高：4.8	外：回転ナテ、回転ヘラ削り (砂：→) 内：段、回転ナテ、ナテ	90-1	XII-66-2	
110 10	88	第10b面	土器集積遺構1	II-1(MT15)	口径：10.3(1/2強) 器高：4.6	外：回転ナテ、回転ヘラ削り (砂：→) 内：段、回転ナテ	90-1	XII-66-3	
110 11	—	第10b面	土器集積遺構1	II-1(MT15)	口径：10.4(3/4) 器高：5.3	外：回転ナテ、回転ヘラ削り (砂：→) 内：段、回転ナテ	90-1	XII-66-14	
110 12	88	第10b面	土器集積遺構1	II-1(MT15)	口径：12.3(1/2) 器高：4.9	外：回転ナテ、回転ヘラ削り (砂：→) 内：段、回転ナテ	90-1	XII-66-18	
110 13	—	第10b面	土器集積遺構1	II-1(MT15)	口径：14.0(1/7)	外：回転ナテ、回転ヘラ削り (砂：→) 内：段、回転ナテ	90-1	XII-66-6	
110 14	—	第10b面	土器集積遺構1	II-1(MT15)	口径：9.8(一部欠) 器高：8.6	外：回転ナテ、回転ヘラ削り (砂：→) 内：段、回転ナテ	90-1	XII-66-6	
110 15	88	第10b面	土器集積遺構1	I-4(TK23)	口径：9.9(1/2) 器高：8.2	外：回転ナテ、回転ヘラ削り (砂：→) 内：段、回転ナテ、透かし3方向	90-1	XII-66-5	
110 16	—	第10b面	土器集積遺構1	I-4~5	口径：10.2(2/3) 器高：8.9	外：回転ナテ、回転ヘラ削り (砂：→) 内：段、回転ナテ	90-1	XII-66-12	
110 17	88	第10b面	土器集積遺構1	I-5(TK47)	口径：10.3~10.7(一部欠) 器高：7.0~7.8(一部欠)	外：回転ナテ、回転ヘラ削り (砂：→) 内：段、回転ナテ	90-1	XII-66-11	
110 18	88	第10b面	土器集積遺構1	I-5(TK47)	口径：10.3~10.7(一部欠) 器高：7.0~7.8(一部欠)	外：回転ナテ、回転ヘラ削り (砂：→) 内：段、回転ナテ	90-1	XII-66-11	
111 1	—	第10b面	土器埋納遺構75	6C	口径：約11cm	外：接合面にハケメ、ナテ、ヘラ削り 内：ヘラ削りナテ (生)	90-3(A)	未掲載	
111 2	87	第10b面	土器埋納遺構76	II-1~2	口径：12.4(完) 器高5.0	外：回転ナテ、回転ヘラ削り (砂：→) 内：回転ナテ	90-3(B)	未掲載	
111 3	87	第10b面	土器埋納遺構77	6C	口径：10.2(1/4強) 現高：12.8	外：ヨコナテ、粗いハケメ、細いハケメ 内：ハケナテ、ヘラ削り？	90-1	XII-72-17	
111 4	—	第10b面	土器埋納遺構78	6C	口径：19.8(2/5)	外：ヨコナテ、ハケメ、スス付蓋 内：ヨコナテ、一部ハケメ、指押しさへ	90-1	XII-72-19	
111 5	88	第10b面	土器埋納遺構79	6C	口径：14.8(一部欠) 器高：18.1	外：ヨコナテ、ハケメ 内：ハケメ、指押しさへナテ後ハケメ (生)	90-1	XII-72-18	
111 6	88	第10b面	土器埋納遺構80	布留I	口径：18.3~18.7(完) 器高：28.5	外：ヨコナテ、平行タタキ (6条/cm)の後ハケメ、スス付蓋 内：ハケメ、ヘラ削り、ハケメ後ナテ、ヘラ削り、一部スス付蓋	90-1	XII-72-20	
111 7	89	第10b面	土器埋納遺構81	布留I	口径：18.3~19.2(一部欠)	山陰・北陸地方系 外：裾裏に口縁欠か？一部平行タタキ、ヨコナテ、ハケメ後ヘラミガキ、頸部以下に赤色顔料塗布 内：ヘラ削り、指押しさへ後ハケメ、ヨコナテ、ヘラ削り、口縁部赤色顔料塗布 (生)	90-1	XII-72-15	
111 8	—	第10b面	土器埋納遺構81	布留I	口径：14.2(完)	外：ヨコナテ、平行タタキ (6条/0.8cm)の後ハケメ、スス付蓋 内：ヨコナテ、ヘラ削り (生)	90-1	XII-72-13	
111 9	—	第10b面	土器埋納遺構81	布留I	口径：16.8(4/5)	外：ヨコナテ、平行タタキ (7条/cm)後ハケメ、スス付蓋 内：ハケメ、ヘラ削り (生)	90-1	XII-72-14	
111 20	89	第10b面	土器埋納遺構81	布留I	口径：23.5~24.5(一部欠) 器高：33.3	外：ヨコナテ、平行タタキ (6条/cm)の後ハケメ、スス付蓋 内：ハケメ、ヘラ削り (生)	90-1	XII-72-16	
112 21	89	第10b面	土器埋納遺構82	布留I	口径：15.6(完) 器高：22.5	外：ヨコナテ、平行タタキ (6条/cm)の後ハケメ、スス付蓋 内：ヨコナテ、ヘラ削り、指押しさへ (生)	92-7	XIV-50-7	
112 22	89	第10b面	土器埋納遺構82	布留I	口径：15.4(3/4) 器高：22.0	外：ヨコナテ、平行タタキ (6条/cm)の後ハケメ、スス付蓋 内：ヨコナテ、ヘラ削り、指押しさへ (生)	92-7	XIV-50-6	
112 23	—	第10b面	土器埋納遺構82	布留I	口径：17.0(1/4) 器高：15.8(2/3) 現高：13.0	外：ヨコナテ、平行タタキ (6条/cm)の後ハケメ、スス付蓋 内：ヨコナテ、ヘラ削り、指押しさへ後ハケメ、ヘラ削り、指押しさへ、一部スス付蓋	92-7	XIV-50-5	
112 24	—	第10b面	土器埋納遺構83	VI様式~VII様式	口径：15.0(1/3)	外：頸部沈殿文？砂、透かし4方向 内：しぼり織、ハケメ	92-7	未掲載	
112 25	89	第10b面	土器埋納遺構83	布留I~II	口径：13.6~14.0(完)	外：ヨコナテ、平行タタキ 内：ヨコナテ、指押しさへナテ (生)	92-7	XIV-50-8	
112 26	89	第10b面	土器埋納遺構83	布留II	口径：14.6(完) 器高：22.9	外：ヨコナテ、ヨコハケメ、ハケメ、スス付蓋 内：ヨコナテ、ヘラ削り、指押しさへ、スス付蓋	92-7	XIV-50-9	
112 27	90	第10b面	土器埋納遺構84	庄内？	口径：9.7(完) 器高：10.3	外：ハケメ、指押しさへナテ、工具痕、スス付蓋 内：ヨコナテ、ヘラ削り (生)	92-7	XIV-50-2	
112 28	—	第10b面	土器埋納遺構84	布留I	口径：13.2(1/5)	布留式影響 外：ヨコナテ、ハケメ、スス付蓋 内：ハケメ、ヘラ削り (生)	92-7	XIV-50-4	
112 29	90	第10b面	土器埋納遺構84	庄内III	口径：13.3(1/2弱) 器高：15.2	外：ヨコナテ、平行タタキ (4~5条/cm)後ハケメ、スス付蓋 内：ハケメ、ヘラ削り (生)	92-7	XIV-50-3	
112 30	—	第10b面	土器埋納遺構84	庄内I	口径：11.0~12.0(1/3)	外：ヨコナテ、ナテ、ヘラ削り 内：ヨコナテ、ナテ	92-7	XIV-50-1	
113 1	—	第10b面	須恵器杯蓋	II-1(MT15)	口径：11.3(1/4) 現高：4.5	外：回転ナテ、回転ヘラ削り (砂：→) 内：段、回転ナテ	90-1	未掲載	
113 2	—	第10b面	須恵器杯蓋	II-2(TK10)	口径：12.0(1/5)	外：回転ナテ、回転ヘラ削り (砂：→) 内：段、回転ナテ	90-1	未掲載	
113 3	90	第10b面	須恵器杯蓋	I-4~5	口径：10.4(完) 器高：5.1	外：回転ナテ、回転ヘラ削り (砂：→) 内：回転ナテ	90-1	XII-63-12	
113 4	90	第10b面	須恵器杯蓋	I-5(TK47)	口径：9.0(2/3) 器高：4.1	外：回転ナテ、回転ヘラ削り (砂：→) 内：段、回転ナテ	90-1	XII-63-13	

図版番号	写真番号	器種	層序	遺構	時期	法量 (cm)	特徴	調査年度	概要掲載番号
113 5	90	須恵器杯	第10b面	落ち込み	I-5(TK47)	口径: 9.8(一部欠) 器高: 4.9	外: 回転ナデ、回転へら削り(砂: →) 内: 段、回転ナデ	90-1	X II-63-11
113 6	—	須恵器杯	第10b面	落ち込み	I-5(TK47)	口径: 10.2(1/2強) 現高: 5.1	外: 回転ナデ、回転へら削り(砂: →) 内: 段、回転ナデ	90-1	X II-63-10
113 7	—	須恵器杯	第10b面	落ち込み	I-5(TK47)	口径: 10.7(1/2)	外: 回転ナデ、回転へら削り(砂: →) 内: 段、回転ナデ	90-1	未掲載
113 8	—	須恵器杯	第10b面	落ち込み	II-1(MT15)	口径: 10.0(1/4強)	外: 回転ナデ、回転へら削り(砂: →) 内: 回転ナデ	90-1	未掲載
113 9	—	須恵器杯	第10b面	落ち込み	II-2(TK10)	口径: 14.5(1/4)	外: 回転ナデ、回転へら削り(砂: →) 内: 回転ナデ、当て具痕	90-1	未掲載
113 10	—	須恵器高杯	第10b面	落ち込み	I-5(TK47)	口径: 10.6(1/2強) 胴径: 7.4(1/6) 器高: 8.3	外: 回転ナデ、回転へら削り(砂: →) カキ目、回転ナデ、遠かし3方向 内: 回転ナデ、ナデ、回転ナデ	90-1	未掲載
113 11	90	土師器高杯	第10b面	落ち込み	6Cか	口径: 8.8(3/4) 器高: 5.6	外: ヨコナデ、指押さえるの後へら削り 内: ヨコナデ、板ナデ	90-1	X II-63-17
113 12	—	土師器高杯	第10b面	落ち込み	5C末~6Cか	胴径: 12.0(1/10)	外: 回転ナデ、指押さえるの後へら削り 内: 回転ナデ	90-1	未掲載
113 13	—	土師器ミニチュア土器	第10b面	落ち込み	?	口径: 5.2(1/4強)	外: 指押さえるナデ 内: 粗ナデ	90-1	X II-63-19
113 14	—	土師器	第10b面	落ち込み	6C	口径: 20.4(1/8)	外: ヨコナデ、ハケメ、内: ハケメ(生)	90-1	未掲載
113 15	—	土師器	第10b面	落ち込み	6C?	口径: 13.4(1/4)	外: ハケメ 内: ナデ、指押さえる(生)	90-1	未掲載
113 16	—	土師器	第10b面	落ち込み	6C前半	小片	外: ヨコナデ、ハケメ 内: ハケメ?指押さえるナデ(生)	90-1	未掲載
113 17	—	土師器	第10b面	落ち込み	6C前半	小片	外: ハケメ 内: ヨコナデ、ナデ(生)	90-1	未掲載
113 18	—	土師器	第10b面	落ち込み	6Cか	口径: 29.9(1/5)	外: ハケメ 内: ハケメ、板ナデ(生)	90-1	未掲載
115 1	—	須恵器高杯	第10b面	耕作痕1	II-2(TK10)	口径: 18.3(1/4強)	外: 回転ナデ、回転へら削り(砂: →) 内: 段、回転ナデ	90-3(A)	未掲載
115 2	—	須恵器高杯	第10b面	耕作痕1	6Cか	口径: 15.2(1/6)	外: ハケメ 内: ヨコナデ、指押さえるナデ(生)	90-3(A)	未掲載
115 3	90	須恵器高杯	第10b面	耕作痕2	II-1(MT15)	口径: 23.2(1/6)	外: 回転ナデ、回転へら削り(砂: →) 内: 段、回転ナデ、当て具痕	90-3(A)	未掲載
115 4	—	須恵器高杯	第10b面	耕作痕2	II-1(MT15)	口径: 14.4(1/2) 器高: 4.4	外: 回転ナデ、回転へら削り(砂: →) 内: 段、回転ナデ	90-3(A)	未掲載
115 5	90	土師器	第10b面	耕作痕2	5C中~	口径: 14.6(1/6) 現高: 4.9	外: 同心円状スタンプ、粗いハケメ 内: ヨコナデ(生)	90-3(A)	未掲載
115 6	—	須恵器高杯	第10b面	耕作痕2	5C中~	小片	外: ハケメ 内: 板ナデ(生)	90-3(A)	未掲載
115 9	—	須恵器高杯	第10b面	耕作痕2	II-2(TK10)	胴径: 10.2(2/3)	外: 回転ナデ、遠かし3方向 自然袖少し付着 内: 回転ナデ	90-3(A)	未掲載
122 1	—	弥生土器	第10b層	弥生土器	V様式	口径: 15.3(1/4強)	外: ヨコナデ、平行タタキ(3条/cm)、スス付着 内: 一(生)	89-3	1-77-3
122 2	—	弥生土器	第10b層	弥生土器	V~VI様式	口径: 17.8(1/4)	外: ヨコナデ、平行タタキ 内: ハケメ(生)	89-3	1-77-8
122 3	—	弥生土器	第10b層	弥生土器	V~VI様式	口径: 12.1~12.9(一部欠) 底径: 4.3 器高: 6.1~6.3	外: ヨコナデ、指押さえるナデ 内: ハケメ(生)	89-3	1-77-5
122 4	91	弥生土器	第10b層	弥生土器	V~VI様式	口径: 10.6(1/4)	外: 凹形竹管浮文(面欠) 現存2対 内: ヨコナデ(生)	90-1	X II-96-7
122 5	—	弥生土器	第10b層	弥生土器	IV-4様式	口径: 11.6(1/5)	外: 刺突文? ハケメ痕? 内: 一	89-1	1-79-2
122 6	—	弥生土器	第10b層	弥生土器	V様式	口径: 14.6(1/4強)	外: 凹形竹管浮文(現存8個) 内: 一(生)	89-1	1-79-1
122 7	—	弥生土器	第10b層	弥生土器	V~VI様式	口径: 16.0(1/4強)	外: 凹形竹管浮文、裏面凹線3条(現存4個) 内: 一(生)	89-1	1-80-18
122 8	—	弥生土器	第10b層	弥生土器	V-1様式	口径: 23.0(1/8)	外: 凹形竹管浮文(現存5、内面現存4)、ナデ 内: ハケメ? (生)	89-1	1-80-17
122 9	—	弥生土器	第10b層	弥生土器	V様式	口径: 13.9(1/5)	外: 波状文(3~4条) 内: 粗いハケメ	89-1	1-81-6
122 10	—	弥生土器	第10b層	弥生土器	V様式	口径: 16.4(1/7)	外: 竹管文 内: 一(生)	93-1	XV-73-2
122 11	—	弥生土器	第10b層	弥生土器	V様式	口径: 26.9(1/8)	外: 類似凹線文5条、凹形竹管浮文(現存7)、ヨコナデ 内: ヨコナデ(生)	89-1	1-80-16
122 12	—	弥生土器	第10b層	弥生土器	V様式	口径: 31.6(1/8)	外: 連続凹文 内: 一(生)	90-1	X II-96-11
122 13	—	弥生土器	第10b層	弥生土器	V様式	口径: 14.3(1/5)	外: ヨコナデ 内: ヨコナデ	89-2	未掲載
122 14	91	弥生土器	第10b層	弥生土器	V様式	口径: 16.5~17.3(完) 底径: 4.5	外: ヨコナデ、ハケメ、ハケメ後タテヘラミラガキ 内: ヘラミガキ?、ハケメ、ハケメ後ヘラミガキ(生)	89-3	1-95-4
122 15	—	弥生土器	第10b層	弥生土器	V様式	底径: 4.65(完)	外: 波状文、ナデ、ハケメ 内: ナデ、指押さえる(生)	92-7	未掲載
122 16	—	弥生土器	第10b層	弥生土器	V様式	胴径: 9.0(1/4)	外: ヨコナデ、ハケメ 内: ヨコナデ、ナデ、ハケメ	90-1	X II-96-8
122 17	—	弥生土器	第10b層	弥生土器	V様式	口径: 14.0(1/5)	外: ヨコナデ、ナデ、ハケメ 内: ヨコナデ、ナデ、ハケメ	89-3	未掲載
122 18	91	弥生土器	第10b層	弥生土器	V-2様式	口径: 8.8~9.1(完)	外: ヨコナデ、ナデ、ハケメ、工具痕 内: ヨコナデ、指押さえるナデ	89-2	未掲載
122 19	91	弥生土器	第10b層	弥生土器	V-2様式	口径: 10.3~10.9(一部欠)	外: ヨコナデ、ナデ、ヘラミラガキ、ハケメ後ヘラミラガキ 内: ヨコナデ、ハケメ後ナデ、ナデ、ハケメ(生)	93-1	XV-73-1
122 20	91	弥生土器	第10b層	弥生土器	V-3様式	口径: 10.6~11.4(2/3)	外: ヨコナデ、ハケメ、ハケメ後一部ヘラミラガキ 内: ヨコナデ、ハケメ、指押さえる後ハケメ(生)	89-2	1-86-2
122 21	—	弥生土器	第10b層	弥生土器	V~VI様式	口径: 9.8(2/3)	外: 波状文、ヘラミラガキ? 内: 粗いハケメ	89-2	1-86-1
122 22	—	弥生土器	第10b層	弥生土器	V~VI様式	口径: 13.4(1/4強)	外: ヨコナデ、ハケメ 内: ヨコナデ、ナデ(生)	89-1	1-79-20
122 23	—	弥生土器	第10b層	弥生土器	V~VI様式	口径: 15.1(1/4)	外: ヨコナデ、ハケメ、スス付着 内: ヨコナデ、ヘラ削り? (生)	89-2	未掲載
122 24	—	弥生土器	第10b層	弥生土器	V様式	口径: 14.7(1/3)	外: ヨコナデ、平行タタキ(3条/cm)、一部スス付着 内: ヨコナデ	89-1	1-79-6
122 25	—	弥生土器	第10b層	弥生土器	V様式	口径: 19.8(1/8)	外: 指押さえるナデ、平行タタキ 内: ヨコナデ?ヘラ削り(生)	89-2	1-86-4
122 26	—	弥生土器	第10b層	弥生土器	V様式	口径: 14.0(1/7)	外: 板ナデ、平行タタキ(2~3条/cm)の後板ナデ、一部スス付着 内: 板ナデ	89-3	1-96-5
122 27	91	弥生土器	第10b層	弥生土器	V様式	口径: 14.5(1/2強)	外: ヨコナデ、平行タタキ(2条/cm) 内: ヨコナデ、粗いハケメ、ハケメ後ナデ	90-1	X II-96-2
122 28	91	弥生土器	第10b層	弥生土器	V様式	口径: 15.4(2/5) 底径: 4.2 現高: 21.0	外: ヨコナデ、平行タタキ(3条/cm)、スス付着 内: 一、工具痕(生)	90-1	未掲載
122 29	—	弥生土器	第10b層	弥生土器	V様式	口径: 13.6(1/4)	外: ヨコナデ、平行タタキ(2条/cm) 内: ヨコナデ、指押さえるナデ、ヘラ削り? (生)	89-1	1-79-17
123 30	—	弥生土器	第10b層	弥生土器	V様式	口径: 15.0(1/4)	外: ヨコナデ、平行タタキ(2条/cm) 内: ヨコナデ、ハケメ	90-1	X II-96-1
123 31	—	弥生土器	第10b層	弥生土器	V~VI様式	口径: 15.8(1/4)	外: ヨコナデ、平行タタキ 内: ヨコナデ、板ナデ? (生)	89-1	1-79-19
123 32	—	弥生土器	第10b層	弥生土器	V様式	口径: 17.4(2/5)	外: ヨコナデ、平行タタキ、スス付着 内: ヨコナデ、ハケメ後板ナデ(生)	89-3	1-96-6
123 33	—	弥生土器	第10b層	弥生土器	V-3様式	口径: 13.8(1/9)	外: ヨコナデ、平行タタキ 内: ヨコナデ、粗いハケメ(生)	89-2	未掲載
123 34	—	弥生土器	第10b層	弥生土器	V-3様式	口径: 14.2(1/9)	外: ハケメ、スス付着 内: ヨコナデ、ヘラ削り(生)	89-3	1-96-10
123 35	—	弥生土器	第10b層	弥生土器	V-3様式	口径: 15.4(1/4)	外: ヨコナデ、ハケメ、平行タタキ(2条/cm) 内: ヨコナデ、ヘラ削り(生)	89-1	1-79-14
123 36	92	弥生土器	第10b層	弥生土器	V-3~VI様式	口径: 14.8~14.9(完)	外: ヨコナデ、平行タタキ(2条/cm)、スス付着 内: ヨコナデ、指押さえるナデの後ハケメ(生)	89-1	1-79-15



図版番号 図版番号	学号 学号	器種	層序	遺構	時期	法量 (cm)	特徴	調査年度	概要掲載番号
123 37	—	弥生土器甕	第10b層		V1様式	口径：17.2(11/10)	外：ヨコナデ、平行タタキ (2条/cm) の後ハケメ 内：ヨコナデ、板ナデ (生)	89-3	I-96-11
123 38	—	弥生土器甕	第10b層		V-3様式	口径：13.4(1/3)	外：ヨコナデ、平行タタキ (2条/cm) の後ハケメ 内：ヨコナデ、粗いハケメ	89-3	I-96-9
123 39	—	弥生土器甕	第10b層		V-3様式	口径：17.2(11/7)	外：ヨコナデ、スス付蓋 内：ヨコナデ、ハケメ (生)	89-2	I-96-6
123 40	92	弥生土器甕	第10b層		V様式	底径：4.6(実)	外：平行タタキ (3~4cm) 内：粗いハケメ	90-1	未掲載
123 41	—	弥生土器甕	第10b層		V様式	底径：4.8(実)	外：平行タタキ後一部ヘラナデ?、一部スス付蓋、底部にもタタキハケメ	89-2	未掲載
123 42	—	弥生土器甕	第10b層		V~V1様式	底径：4.1(実)	外：平行タタキ、スス付蓋 内：ハケメ	89-2	未掲載
123 43	—	弥生土器底部	第10b層		V~V1様式	底径：4.1(実)	外：平行タタキ、スス付蓋 内：ハケメ (生)	89-1	I-79-10
123 44	—	弥生土器底部	第10b層		V~V1様式	底径：3.5(実)	外：平行タタキ、指押さえナデ 内：工具痕 (生)	89-1	I-79-9
123 45	—	弥生土器底部	第10b層		V~V1様式	底径：3.8(実)	縦削口縁 外：平行タタキ (2条/cm) 内：ハケメ	89-1	I-79-12
123 46	—	弥生土器底部	第10b層		V~V1様式	底径：4.2(一部欠)	外：平行タタキ 内：ハケメ	89-1	I-96-10
123 47	—	弥生土器蓋	第10b層		V様式	脚径：4.2(実)	外：ヘラミカキ、工具痕 内：粗いハケメ (生)	89-1	未掲載
123 48	—	弥生土器蓋	第10b層		V様式	脚径：4.7(1/2)	外：ヘラミカキ、ヨコナデ 内：粗いハケメ (生)	90-1	未掲載
123 49	—	弥生土器蓋	第10b層		V~1様式	口径：11.0(一(命がみ) 脚径：6.9~7.3(2/3) 現高：8.5	外：ヨコナデ、ヘラミカキ 内：ナデ、ヨコナデ (生)	XII-96-9	
124 50	—	弥生土器高林脚	第10b層		V-1様式	脚径：7.0(若干のみ)	外：透かし3方向、ハケメ? 内：ヘラ削り (砂：一) (生)	I-95-3	
124 51	—	弥生土器高林脚	第10b層		V様式	脚径：7.9(一部欠)	外：透かし4方向、ナデ 内：ナデ (生)	I-80-11	
124 52	—	弥生土器高林脚	第10b層		V様式	脚径：8.8(一部欠)	外：ナデ、ヘラミカキ 内：ハケメ、ヘラナデ (生)	I-80-11	
124 53	—	弥生土器高林脚	第10b層		V様式	脚径：7.6(実)	外：ナデ、ヘラミカキ 内：ハケメ	93-1	XV-73-5
124 54	—	弥生土器高林脚	第10b層		V様式	脚径：8.8(2/3)	外：一 内：ハケメ? (生)	89-2	I-86-12
124 55	—	弥生土器高林脚	第10b層		V様式	脚径：10.8(5/6)	外：指押さえナデ、ハケメ?ヨコナデ 内：ハケメ	89-3	未掲載
124 56	—	弥生土器高林脚	第10b層		V様式	脚径：13.8(1/6)	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ、板ナデ	89-2	I-86-7
124 57	—	弥生土器鉢	第10b層		V1様式	口径：23.2(1/5)	外：ヨコナデ、ヘラミカキ 内：ハケメ	90-1	XII-96-12
124 58	92	弥生土器鉢	第10b層		V-3-V1様式	口径：14.9(一部欠) 底径：4.8(実) 器高：8.9	外：ヨコナデ、ハケメ後ナデ 内：ヨコナデ、粗いハケメ	89-3	I-90-14
124 59	—	弥生土器鉢	第10b層		V-3-V1様式	口径：16.5(1/3) 底径：4.1(実) 現高：8.2	外：タタキ 内：ヘラミカキ	89-1	未掲載
124 60	92	弥生土器鉢	第10b層		V-3-V1様式	口径：15.9(1/3) 底径：3.9(実) 器高：~8.3	外：ヨコナデ、指押さえナデ? 内：ヨコナデ、粗いハケメ	92-7	未掲載
124 61	—	弥生土器鉢	第10b層		V様式	口径：12.2(1/2) 底径：3.8~4.1(実) 器高：5.9	外：一 内：ハケメ (生)	93-1	XV-73-3
124 62	—	弥生土器鉢	第10b層		V様式	口径：13.4(1/4) 底径：3.4~3.7(実) 器高：6.5~6.7	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ハケメ (生)	89-3	I-96-3
124 63	92	弥生土器鉢	第10b層		V様式	口径：12.3(1/2) 底径：4.4(一部欠) 器高：7.4	外：一 内：ヘラミカキ (生)	89-1	I-80-15
124 64	—	弥生土器鉢	第10b層		V~V1様式	口径：12.7(実)? 底径：4.3(一部欠) 器高：7.6	外：指押さえ 内：板ナデ	89-3	I-96-2
124 65	92	弥生土器鉢	第10b層		V1様式	口径：14.6~14.8(5/6) 底径：4.5(実) 器高：9.8	外：ヨコナデ、一部平行タタキ残る 内：ヨコナデ、ハケメ後ナデ (生)	89-3	I-96-4
124 66	92	弥生土器鉢	第10b層		V1様式	口径：14.4~14.6(一部欠) 底径：3.8~3.9(実) 器高：~7.6	外：ハケメ 内：ハケメ (生)?	89-2	未掲載
124 67	92	弥生土器鉢	第10b層		V~V1様式	口径：15.7~16.7(5/6) 底径：4.6(一部欠) 器高：7.7~8.9	外：指押さえ 内：ヨコナデ、ヘラナデ	89-2	I-86-9
124 68	—	弥生土器鉢	第10b層		V~V1様式	口径：11.9~12.3(2/3) 底径：4.5(実) 器高：7.0	外：指押さえ 内：ナデ 内：ハケメ (生)	89-3	I-95-6
124 69	92	弥生土器鉢	第10b層		V1様式	口径：12.9~13.0(実) 底径：4.2(実) 器高：6.7	外：ヨコナデ、指押さえナデ 内：ヨコナデ、ハケメ (生)	89-3	I-96-1
124 70	—	弥生土器有孔鉢	第10b層		V1様式	口径：12.9(1/6) 底径：4.1(実) 現高：~6.6	外：一部平行タタキ、穿孔は両側から 内：板ナデ	89-3	未掲載
124 71	93	弥生土器鉢	第10b層		V1様式	口径：11.7(一部欠) 底径：4.0(一部欠) 器高：6.2	外：平行タタキ 内：ハケメ	89-2	未掲載
124 72	—	弥生土器鉢	第10b層		V1様式	口径：3.5(実)	外：指押さえナデ 内：ハケメ	89-1	I-79-13
124 73	—	弥生土器有孔鉢	第10b層		V~V1様式	口径：14.2(一(1/4) 底径：4.0(一部欠) 現高：10.4	外：指押さえナデ 内：ハケメ	89-1	I-80-13
124 74	93	弥生土器有孔鉢	第10b層		V~V1様式	口径：13.4~14.2(一部欠) 底径：3.9(実) 器高：8.0~9.3	外：指押さえナデ、底部小穿孔10個 内：ナデ、ハケメ (生)	93-1	XV-93-4
124 75	93	弥生土器鉢	第10b層		V-3様式	口径：10.0(1/4)	近江系 外：刻目、櫛歯縞線文 (5条)、列点文 (4条?) 内：ヨコナデ、ナデ	89-3	I-95-5
124 76	—	弥生土器鉢	第10b層		V1~庄内内か	口径：7.6(1/2) 器高：4.9	外：一 内：一 (生)	89-3	I-77-4
125 77	93	弥生土器手焙形土器	第10b層		V1様式	口径：17.7(1/2) 底径：4.0(実) 現高：19.5	外：覆いに穿孔3個現存、刻目凸帯、ハケメ、ハケメの後ナデ、ハケメ、指押さえナデ、スス付蓋 内：ハケメ、一部ヘラナデ?スス付蓋	89-3	I-95-1
125 78	93	弥生土器手焙形土器	第10b層		V1様式	口径：18.6(一部欠) 底径：4.0(実)	外：貼付凸帯、ハケメ、ナデ、ヘラ削り 内：指押さえ、板ナデ、ハケメ	90-1	未掲載
125 79	94	弥生土器蓋台	第10b層		V1様式	口径：9.9(実) 底径：8.7 器高：8.3~8.6	外：ヘラミカキ 内：ヘラミカキ (生)	90-1	未掲載
125 80	—	弥生土器蓋台	第10b層		V~V1様式	最小脚径：8.3(1/2)	外：ヘラミカキ、透かし6方向 内：ヨコハラミカキ、指押さえの後板ナデ、指押さえナデ	89-2	未掲載
125 81	93	弥生土器ミニチュア鉢	第10b層		V~V1様式	口径：3.8(実) 底径：2.9~3.3(実) 器高：2.7	外：指押さえナデ 内：指押さえナデ	89-3	I-95-7
125 82	93	弥生土器ミニチュア鉢	第10b層		V~V1様式	口径：4.2(実) 底径：3.2~3.6(実) 器高：3.2	外：指押さえナデ 内：指押さえナデ (生)	89-3	I-95-8
125 83	93	弥生土器ミニチュア鉢	第10b層		V~V1様式	口径：4.9(1/2) 底径：3.3 器高：4.6	外：指押さえナデ 内：ナデ (生)	89-3	I-95-9
125 84	94	縄文土器漆鉢	第10b層		長原式	小片	外：凸帯 内：一 (生)	XV-73-7	
125 85	94	縄文土器漆鉢	第10b層		長原式	小片	外：刻目凸帯 内：一 (生)	XV-73-6	
125 86	—	弥生土器蓋	第10b層		V1様式	口径：11.4(1/5)	外：刻目凸帯 内：ヨコナデ?	89-1	I-81-3
125 87	—	弥生土器蓋	第10b層		I-3様式	口径：12.6(1/4) 脚径：12.6(1/4) 脚径：12.6(1/4) 脚径：12.6(1/4) 脚径：12.6(1/4)	外：漆縞文 (2+α条)、ヨコナデ? 内：ヨコナデ? (生)	89-1	I-81-4
125 88	—	弥生土器蓋	第10b層		I-2様式	口径：18.2(1/9)	外：漆縞刻目 漆縞文 (2+α条)、ヨコナデ 内：ヨコナデ (生)	89-1	I-81-8
125 89	—	弥生土器蓋	第10b層		I-2様式	口径：21.0(1/7)	外：漆縞刻目 漆縞文 (2+α条)、ヨコナデ 内：ヨコナデ (生)	89-1	I-81-10
125 90	—	弥生土器蓋	第10b層		I-2様式	口径：23.5(1/9)	外：漆縞刻目、縁上漆縞文6条漆縞文4条、ヨコナデ 内：ヨコナデ (生)	89-1	I-91-9
125 91	—	弥生土器蓋	第10b層		I-2様式	口径：18.0(1/9)	外：刻目凸帯、漆縞文2条 内：ヨコナデ、板ナデ、ナデ (生)	90-1	XII-96-10
125 92	94	弥生土器鉢	第10b層		I-1様式	口径：11.3(3/5) 底径：3.1~3.5 器高：8.0	外：ヨコナデ、ナデ、ヘラミカキ 内：ナデ、ナデ (生)	89-1	I-81-12
125 93	—	弥生土器蓋	第10b層		II-1様式?	小片	外：一部漆縞文上刻目、ヨコナデ 内：竹管文、ヨコナデ (生)	89-1	XV-73-8
125 94	—	弥生土器蓋	第10b層		II-1様式?	小片	外：一 内：漆縞刻目凸帯	90-1	XII-96-14
125 95	94	サヌカイト剥片	第10b層		弥生時代	径：4.2 最大厚：2.1 孔径：0.7 重さ：38.4g	?	89-1	I-82-3
125 96	94	サヌカイト剥片	第10b層		弥生時代	長：3.75 最大幅：2.4 最大厚：0.6 重さ：4.2g	?	89-1	I-82-3
125 97	94	サヌカイト剥片	第10b層		弥生時代	長：4.25 最大幅：1.6 最大厚：0.4 重さ：3.0g	?	89-1	I-82-2

図版番号	写真番号	器種	層序	遺構	時期	法量 (cm)	特徴	調査年度	概要掲載番号
125 98	94	サヌカイノ削片	第10b層		弥生時代	長：2.4 最大幅：6.2 最大厚：1.5 重さ：16.7g	未製品、樹種：マツクワ	89-1	I-82-1
125 99	94	木製杓子	第10b層		弥生時代	現長：16.7 最大幅：12.2	赤漆塗、結節状、櫛の歯の穴10個	90-1	未掲載
126 100	94	木製盛椀	第10b層		弥生時代	現長：2.25 最大幅：5.6	赤漆塗、結節状、櫛の歯の穴10個	90-2(H4)	X-27-3
126 101	—	木製盛椀	第10b層		弥生時代	長：約100 最大幅：約12	木作り、自然乾燥	89-3	I-97-1
126 102	—	木製瓶	第10b層		弥生時代	長：54 最大幅：9	遺物不明	89-3	I-97-2
126 103	94	弥生土器長頸壺	第10b層	流路周辺の微高地か	弥生時代	現最大幅：41 高さ：11	外：タテハケ後一部ナデ、スス付着 内：ヨコハケメ、指押さえナデ	89-3	未掲載
127 1	—	弥生土器壺	第10b層	流路周辺の微高地か	V様式	口径：14.2(一部欠)	外：ヨコナデ、平行的後一部ヘラミガキ、ヘラミガキ 内：ヘラミガキ	90-1	未掲載
127 2	—	弥生土器小形長頸壺	第10b層	流路周辺の微高地か	V-2様式	口径：54.9(一部欠) 底径：4.4~4.8(一部欠) 器高：10.6~11.1	外：ヨコナデ、指押さえナデ 内：ヨコナデ、指押さえナデ、ハケメ?	90-1	未掲載
127 3	—	弥生土器壺	第10b層	流路周辺の微高地か	V様式	底径：4.0(完)	外：タテヘラミガキ 内：ハケメ (生)	90-1	未掲載
127 4	—	弥生土器壺	第10b層	流路周辺の微高地か	V様式	口径：4.7(完)	外：ヘラミガキ 内：ハケメの後ヘラミガキ	90-1	未掲載
127 5	—	弥生土器壺	第10b層	流路周辺の微高地か	V様式	口径：15.6(1/8)	外：ヨコナデ、平行タタキ (2条/cm) 内：ヨコナデ、ハケメ	90-1	未掲載
127 6	—	弥生土器壺	第10b層	流路周辺の微高地か	V-2様式	口径：18.2(1/4)	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ハケメ	90-1	未掲載
127 7	—	弥生土器壺	第10b層	流路周辺の微高地か	V-2様式	最大腹径：17.0(2/5)	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ハケメ	90-1	未掲載
127 8	—	弥生土器手形形土器	第10b層	流路周辺の微高地か	V様式	口径：11.1(2/3) 底径：3.7~3.9(完) 器高：6.0~6.4	外：指押さえ 内：ハケメ (生)?	90-1	未掲載
127 9	—	弥生土器壺	第10b層	流路周辺の微高地か	V様式	頸部径：7.6(1/2)	外：ヘラ記号、ハケメ 内：ハケメ、指押さえナデ (生)	90-1	未掲載
127 10	—	弥生土器長頸壺	第10層~第11-2a層		V様式	口径：8.3(若干のみ) 底径：2.8(完) 器高：8.7	外：ヨコナデ、平行的後一部ヘラミガキ、ヘラミガキ 内：ヘラミガキ	90-1	未掲載
127 11	—	弥生土器壺	第10層~第11-2a層		V様式	口径：14.8(1/6)	外：ナデ、口縁即き出し、平行タタキ (2条/cm) 内：ハケメ、板ナデ	90-1	未掲載
127 12	—	弥生土器壺	第10層~第11-2a層		V様式	口径：15.0(1/4)	外：ヨコナデ、平行タタキ後ハケメ 内：ヨコナデ、ヘラ削り (生)	90-1	未掲載
127 13	—	弥生土器壺	第10層~第11-2a層		V-3様式	口径：16.0(1/6)	外：縁刻、ヨコハケ後タテハケメ、ハケメ後ナデ 内：ヨコナデ、ハケメ後ナデ	90-1	未掲載
127 14	—	弥生土器壺	第10層~第11-2a層		V-3様式	口径：9.0(1/16)	外：ナデ? 平行タタキ 内：ナデ? (生)?	92-7	XIV-51-4
127 15	95	弥生土器長頸壺	第10層?	不明	V様式	口径：8.7(1/2) 底径：3.4~3.6(完) 器高：9.4	外：ヨコナデ、平行タタキ (2~3条/cm) の後一部ハケメ 内：ヨコナデ、ナデ (生)	92-7	XIV-51-3
128 1	96	弥生土器小形壺	第11-1面直上	土器群	V-V様式	口径：13.5(2/3)	外：ヨコナデ、平行タタキ (3条/cm) 内：ヨコナデ、ヘラナデ	92-7	XIV-51-1
128 2	95	弥生土器壺	第11-1面直上	土器群	V-3~V様式	口径：13.6(完)	外：ヨコナデ、平行タタキ (3条/cm) 内：ヨコナデ、ヘラナデ	92-7	XIV-51-1
128 3	—	弥生土器壺	第11-1面直上	土器群	V-3~V様式	口径：14.4(3/4) 底径：3.5(1/3) 器高：15.4	外：ヨコナデ、平行タタキ (3条/cm)、スス付着 内：ヨコナデ、ナデ (生)	92-7	XIV-51-5
128 4	95	弥生土器壺	第11-1面直上	土器群	V-3~V様式	口径：13.8(3/4)	外：ヨコナデ、平行タタキ (2~3条/cm)、スス付着 内：ヨコナデ、ナデ (生)	92-7	XIV-51-2
128 5	—	弥生土器壺	第11-1面直上	土器群	V-3~V様式	口径：14.4(2/5)	外：ヨコナデ、平行タタキの後一部ハケメ、スス付着 内：ヨコナデ、指押さえナデ	92-7	XIV-51-6
128 6	95	弥生土器壺	第11-1面直上	土器群	V-3~V様式	口径：15.4(1/3) 底径：3.9~4.2(完) 器高：23.0	外：ヨコナデ、平行タタキ (3条/cm)、スス付着 内：ヨコナデ、ナデ (生)	92-7	XIV-51-9
128 7	95	弥生土器壺	第11-1面直上	土器群	V-3~V様式	口径：15.5(若干のみ) 最大腹径：18.4(2/3)	外：ヨコナデ、平行タタキ (3条/cm)、スス付着 内：ヨコナデ、ナデ (生)	92-7	XIV-51-7
128 8	—	弥生土器壺	第11-1面直上	土器群	V-3~V様式	口径：16.4(2/3) 底径：4.2(一部欠) 器高：25.5	外：ヨコナデ、平行タタキ (2~3条/cm)、スス付着 内：ヨコナデ、ハケメ (生)?	92-7	XIV-51-8
128 9	95	弥生土器壺	第11-1面直上	土器群	V-3~V様式	底径：5.2(一部欠)	外：平行タタキ (2~3条/cm)、スス付着 内：ハケメ (粗、細) (生)?	90-1	未掲載
128 10	—	弥生土器壺	第11-1面		V-3~V様式	底径：5.4(完)	外：平行タタキ 内：— (生)	90-1	未掲載
128 11	—	弥生土器壺	第11-1面		V様式	口径：13.0~13.2(完) 底径：3.6(完) 器高：6.9~7.1	外：ナデ 内：ハケメ (生)	90-3	未掲載
128 12	96	弥生土器壺	第11-1面		V~V様式	口径：12.2(若干のみ) 底径：3.5~3.8(一部欠) 器高：7.0	外：指押さえナデ 内：ハケメ (生)	92-7	未掲載
128 13	—	弥生土器壺	第11-1面		V~V様式	口径：17.3~17.6(1/2) 底径：4.5~4.7(完) 器高：22.3	外：刻目凸帯、ハケメ 内：ハケメ、指押さえナデ、ヘラナデ、ハケメ、スス付着 (生)	90-1	未掲載
128 14	96	弥生土器手形形土器	第11-1面		V様式	口径：11.5(1/3)	外：ハケメ後タテヘラミガキ 内：ナデ (生)	90-1	未掲載
129 1	—	弥生土器長頸壺	第11-1層		V-2様式	口径：14.2(1/2)	外：ヨコナデ、平行タタキ (3条/cm)、スス付着 内：ヨコナデ、ナデ、スス付着	90-1	未掲載
129 2	—	弥生土器壺	第11-1層		V様式	口径：15.8(1/7)	外：ヨコナデ、平行タタキの後一部ヘラ削り 内：ヨコナデ、指押さえナデの後、ヘラ削り	90-1	未掲載
129 3	—	弥生土器壺	第11-1層		V-3~V様式	口径：17.0(1/2弱)	外：ヨコナデ、ヘラミガキ、スス付着 内：ヨコナデ、ヘラナデ (生)	93-2(D)	未掲載
129 4	—	弥生土器壺	第11-1層		V-0様式	口径：16.4(1/2) 底径：4.7~4.9(完) 器高：25.8	外：ヨコナデ、平行タタキ (2条/cm) の後一部ハケメ、ハケメ 内：ヨコナデ、ナデ、ハケメ (生)	89-2	I-88-2
143 1	—	弥生土器壺	第11-2a面	微高地	V-3様式	口径：16.5(1/2) 底径：4.6~5.0(一部欠) 器高：15.3~15.9	外：ヨコナデ、平行タタキ (2~3条/cm) 内：ヨコナデ、ナデ、ハケメ	89-2	I-88-1
143 2	96	弥生土器壺	第11-2a面	微高地	V様式	口径：26.6(1/3) 底径：3.9~4.1(完) 器高：11.5~12.8	外：— 内：ハケメ (生)?	89-2	I-88-3
143 3	—	弥生土器壺	第11-2a面	微高地	V様式	口径：3.45(1/2)	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、指押さえナデ、一部ハケメ (生)	89-2	I-88-4
143 4	—	弥生土器壺	第11-2a面	微高地	V様式	口径：14.7(一部欠)	外：端部絞文1条、ヨコナデ、平行タタキ (3条/cm) の後一部ハケメ	89-2	I-91-3
143 5	—	弥生土器壺	第11-2a面	微高地	V-3~V様式	口径：14.8(一部欠)	内：ヨコナデ、指押さえナデ	89-2	I-91-1
143 6	—	弥生土器壺	第11-2a面	微高地	V-3~V様式	口径：14.8(一部欠)	外：端部絞文1条、ヨコナデ、平行タタキ 内：ナデ (生)?	89-2	未掲載
143 7	—	弥生土器壺	第11-2a面	微高地	V-3~V様式	口径：16.8(1/4弱)	外：平行タタキ 内：ナデ	89-2	未掲載
143 8	—	弥生土器壺	第11-2a面	微高地	V様式	口径：4.5~4.7(一部欠)	外：ナデ? 平行タタキ 内：ハケメ後ヘラミガキ (生)	89-2	未掲載
143 9	—	弥生土器壺	第11-2a面	微高地	V-3~V様式	口径：4.3(完)	外：端部絞文、平行タタキ、指押さえナデ、スス付着 内：ハケメ、指押さえナデ	89-2	未掲載
143 10	—	弥生土器小形壺	第11-2a面	微高地	V~V様式	口径：11.2~11.3(一部欠)	外：— 内：— (生)	89-2	未掲載
143 11	—	弥生土器壺	第11-2a面	微高地	V-V様式	口径：4.0~4.2(2/3) 孔径：1.0	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ハケメ、指押さえナデ	89-2	I-77-6
143 12	—	弥生土器長頸壺	第11-2a面	微高地	V-2様式	口径：10.7(1/9)	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ハケメ、指押さえナデ	89-3	

図版番号	写真番号	器種	層序	遺構	時期	法量 (cm)	特徴	調査年度	概要掲載番号
143 13	96	弥生土器壺	第11-2a面	微高地	V-3~VI様式	口径:15.2(一部欠) 底径:5.3(完) 器高:22.7	外:口縁印出し、ヨコナデ、平行タタキ(3条/cm)、スス付着 内:ヨコナデ、ハケメ、ナデ、スス付着	89-3	未掲載
143 14	—	弥生土器壺	第11-2a面	微高地	V-3~VI様式	口径:16.6(1/8+1/8)	外:ヨコナデ、平行タタキ(3条/cm)、スス付着 内:ヨコナデ、ハケメ、ナデ、スス付着	89-3	1-77-1
143 15	—	弥生土器高杯	第11-2a面	微高地	VI様式	口径:16.2~16.3(3/4)	外:ヘラミガキ、透かし4方向 内:ヘラミガキ、しぼり目(生)?	89-3	1-77-7
143 16	97	弥生土器鉢	第11-2a面	微高地	VI様式	口径:14.9(2/3) 底径:5.8~5.9(完) 器高:7.6	外:ヨコナデ、平行タタキ(2条/cm) 内:ハケメ(生)	89-3	1-77-2
144 17	97	弥生土器長頸壺	第11-2a面	微高地	V-2様式	口径:12.2~12.3(一部欠) 底径:5.9~6.0(完) 器高:28.8	外:ヘラ記号、ヨコナデ、粗いハケメ後ヘラミガキ 底面:ヨコナデ、粗いハケメ、指押しさなデ、撥ナデ(生)	90-1	XII-90-11
144 18	97	弥生土器長頸壺	第11-2a面	微高地	VI-2様式	口径:9.2~9.5(3/4) 底径:3.9(完) 器高:16.4~16.9	外:ヨコナデ、ヘラミガキ 内:ハケメ(生)?	90-1	XII-89-7
144 19	97	弥生土器長頸壺	第11-2a面	微高地	VI-2様式	口径:9.2~9.4(一部欠) 底径:4.1~4.2(完) 器高:17.1~17.3	外:ヨコナデ、ヘラミガキ 内:ハケメ(生)?	90-1	XII-89-8
144 20	—	弥生土器長頸壺	第11-2a面	微高地	VI-2様式	底径:4.0~4.3(一部欠)	外:粗いハケメ、指押しさなデ一部ハケメ、工具痕? 内:ハケメ? ナデ、一部ハケメ(生)?	90-1	XII-89-9
144 21	97	弥生土器壺	第11-2a面	微高地	V-3様式	口径:11.5~11.6(一部欠)	外:ヨコナデ、ハケメ後ヘラミガキ 内:ヨコナデ、ハケメ後ヘラミガキ	90-1	XII-90-14
144 22	98	弥生土器壺	第11-2a面	微高地	V-3様式	口径:18.2~18.6(3/4) 底径:4.7~4.8(完) 器高:24.7	外:ヨコナデ、平行タタキ(3条/cm)の後ハケメ、スス付着 内:ヨコナデ、ハケメ、一部スス付着(生)?	90-1	XII-89-3
144 23	98	弥生土器壺	第11-2a面	微高地	V-2様式	口径:15.8~16.1(一部欠) 底径:4.2~4.3(一部欠) 器高:23.2	外:端部2段2条ヨコナデ、平行タタキ(3条/cm)後ハケメ、ナデ	90-1	XII-89-2
144 24	—	弥生土器壺	第11-2a面	微高地	VI様式	口径:15.6(1/2)	外:ヨコナデ、粗いハケメ後ナデ(生)	90-1	未掲載
144 25	—	弥生土器壺	第11-2a面	微高地	VI様式	口径:17.3(1/2強)	外:ヨコナデ、平行タタキ(2条/cm)、スス付着 内:ヨコナデ、ハケメ、ヘラミガキ、スス付着(生)	90-1	未掲載
144 26	—	弥生土器壺	第11-2a面	微高地	V-3~VI様式	口径:14.0(1/3) 底径:4.5(完) 現高:15.2~15.9	外:ヨコナデ、粗いハケメ、平行タタキの後ナデ、スス付着 内:ハケメ、ヘラミガキ、スス付着(生)	90-1	XII-89-4
144 27	—	弥生土器壺	第11-2a面	微高地	V-2様式	口径:16.4(1/3+1/4)	外:ヨコナデ、ハケメ、スス付着 内:ヨコナデ、ハケメ、ナデ、スス付着(生)?	90-1	未掲載
144 28	98	弥生土器壺	第11-2a面	微高地	V-3~VI様式	口径:14.5~14.9(一部欠) 底径:4.6(完) 器高:27.0~27.7	外:ヨコナデ、平行タタキ(2~3条/cm)後部分的にハケメ、スス付着 内:ヨコナデ、ハケメ、スス付着(生)	90-1	XII-89-1
145 29	98	弥生土器高杯	第11-2a面	微高地	V-2~3様式	口径:24.7~25.2(5/6) 脚径:13.0(4/5) 器高:15.4~16.0	外:ヘラミガキ、ヘラナデ、ハケメ後一部ヘラミガキ、透かし3方向 内:ヘラミガキ、しぼり目、ナデ	90-1	XII-90-13
145 30	—	弥生土器杯脚	第11-2a面	微高地	VI様式	口径:8.2~8.7(1/2強) 底径:3.9~4.2(一部欠) 器高:6.7~7.1	外:ヘラナデ、ヘラミガキ、透かし4方向 内:ナデ、ハケメ(生)	90-1	未掲載
145 31	—	弥生土器鉢	第11-2a面	微高地	VI様式	口径:14.4(一部欠) 底径:4.2(完) 器高:6.0~6.6	外:指押しさなデ、モミ痕 内:ハケメ	90-1	XII-89-6
145 32	97	弥生土器鉢	第11-2a面	微高地	VI様式	底径:3.5~3.6(完)	外:沈線上刻目凸帯、ハケメの後ナデ、指押しさなデ 内:ハケメ	90-1	XII-89-10
145 33	98	弥生土器半信形土器	第11-2a面	微高地	VI様式	口径:9.1~9.8(2/3) 底径:4.0~4.3(完) 器高:18.1	外:ハケメ後ナデ、ナデ 内:ハケメ、ナデ、ハケメ	90-1	XII-90-17
145 34	98	弥生土器長頸壺	第11-2a面	微高地	VI様式	口径:10.8~11.0(一部欠) 底径:4.4~4.6(完) 器高:17.8~18.1	外:ヨコナデ、平行タタキ(2条/cm)後一部ハケメ、スス付着 内:ハケメ後ナデ	90-1	XII-90-16
145 35	98	弥生土器壺	第11-2a面	微高地	V~VI様式	底径:3.8~3.9(完)	外:平行タタキの後粗いハケメ 内:ハケメ、ヘラナデ(生)?	90-1	未掲載
145 36	—	弥生土器壺	第11-2a面	微高地	V-3~VI様式	口径:16.3(2/3) 底径:4.1~4.3(完) 器高:17.0~17.2	外:ヨコナデ、平行タタキ、スス付着 内:ハケメ後ナデ、ハケメ	90-1	未掲載
145 37	99	弥生土器壺	第11-2a面	微高地	VI様式	口径:14.0(1/3+1/4) 現高:19.5	外:ヨコナデ、平行タタキ後一部ハケメ 内:ヨコナデ、指押しさなデ、ナデ、ハケメ	90-1	未掲載
145 38	—	弥生土器壺	第11-2a面	微高地	V-3~VI様式	口径:15.8~15.9(3/4) 底径:4.3~4.4(完) 器高:23.6~23.9	外:ヨコナデ、平行タタキ(3条/cm) スス一部付着 内:ヨコナデ、ハケメ、ヘラナデ、ヘラミガキ	90-1	未掲載
145 39	99	弥生土器壺	第11-2a面	微高地	V-3~VI様式	口径:17.0(1/4) 底径:3.9~4.2(完)、現高:24.4	外:ヨコナデ、平行タタキ(3条/cm)の後一部ハケメ、スス付着 内:ヨコナデ、ヘラミガキ、スス付着	90-1	未掲載
145 40	—	弥生土器壺	第11-2a面	微高地	V-3~VI様式	口径:14.9(4/5) 底径:4.5(一部欠) 器高:24.2~24.8	外:ヨコナデ、平行タタキ(3条/cm) 一部ハケメ、スス付着 内:ヨコナデ、ヘラミガキ、スス付着	90-1	未掲載
145 41	99	弥生土器壺	第11-2a面	微高地	V-3~VI様式	口径:12.9~13.5(一部欠) 底径:4.9~5.1(一部欠)	上下接合せず 外:ヨコナデ、平行タタキ後一部ハケメ、スス付着 内:ハケメ、ヘラナデ	90-1	XII-90-18
145 42	—	弥生土器壺	第11-2a面	微高地	V-3~VI様式	口径:17.2~18.1(一部欠) 底径:4.7(完) 器高:8.3~8.8	外:ヨコナデ、平行タタキ後ヘラミガキ(生)	90-1	XII-90-15
146 43	97	弥生土器片口鉢	第11-2a面	微高地	V様式	口径:35.9(4/5) 底径:5.5(完) 器高:19.0~19.5	外:ヨコナデ、平行タタキ後ヘラミガキ 内:ヨコナデ、ハケメ	90-1	XII-95
146 44	99	弥生土器鉢	第11-2a面	微高地	V様式	頸部径:9.8(1/6)	外:粗いハケミガキ(生)	90-1	未掲載
146 45	—	弥生土器蓋頸部	第11-2a面	微高地	V様式	口径:4.6~4.8(完)	外:平行タタキ(3条/cm) 内:—	90-1	未掲載
146 46	—	弥生土器蓋底部	第11-2a面	微高地	VI様式	口径:8.1(若干のみ)	外:指押しさなデ、ハケメ 内:ナデ	90-1	未掲載
146 47	—	弥生土器鉢	第11-2a面	微高地	V~VI様式	口径:4.6~4.8(一部欠)	外:— 内:—(生)	93-1	XV-71-5
146 48	—	弥生土器底部	第11-2a面	微高地	V~VI様式	口径:4.9~5.0(完)	外:— 内:工具痕(生)	93-1	XV-71-4
146 49	—	弥生土器底部	第11-2a面	微高地	V~VI様式	口径:20.6(1/2)	外:ヘラミガキ、破損後スス付着 内:—(生)	93-1	XV-71-1
146 50	—	弥生土器高杯	第11-2a面	微高地	V様式	口径:3.9(完)	外:ヘラミガキ、透かし5方向 内:しぼり目、ナデ?(生)	93-1	XV-71-2
146 51	—	弥生土器杯脚	第11-2a面	微高地	V様式	口径:11.0(1/4)	外:ハケメ、ナデヘラミガキ 内:—(生)	90-2(H4)	X-35-1
147 1	100	弥生土器長頸壺	第11-2a面	水路42西側大畦畔	V-2~3様式	口径:10.8(1/5) 底径:4.5(端部若干)	3部分接合せず 外:ヘラ記号、ナデヘラミガキ? 内:ハケメ、指押しさなデ	90-2(H4)	X-35-2
147 2	—	弥生土器長頸壺	第11-2a面	水路42西側大畦畔	V様式	口径:18.6(1/6)	外:ヨコナデ、ヘラナデ、スス付着 内:ヨコナデ、ハケメ、ヘラナデ? ナデ、一部ハケメ(生)?	93-2(A)	XVI-42-2
147 3	—	弥生土器壺	第11-2a面	水路42西側大畦畔盛土中	V-1様式	口径:19.6(1/5)	外:ヨコナデ、ヘラナデの後一部ヘラナデ、スス付着 内:ヨコナデ、ヘラナデ	93-2(A)	XVI-42-1
147 4	—	弥生土器壺	第11-2a面	水路42西側大畦畔盛土中	V-1様式	口径:9.2(1/2) 底径:若干のみ 器高:18.1	外:ヘラナデ、ヨコナデ? ハケメ 内:ハケメ、指押しさなデ(生)	92-6	XIV-17
147 5	100	弥生土器長頸壺	第11-2a面	水路38西側(盛土内カ)	V~VI様式	口径:8.1(1/3) 底径:4.4(完) 現高:23.8	外:— 内:—(生)	90-2(H2)	III-29

図版番号	写真番号	器種	層序	遺構	時期	法量 (cm)	特徴	調査年度	概要掲載番号
147 7	100	弥生土器鉢	第11-2a面	水路38北面大甍群	V様式?	口径: 11.5~12.3(3/4) 底径: 3.9~4.0 器高: 8.0~8.3	外: ヨコナデ、ナデ?、ヘラ痕?、ハケメ?、スス付着 内: ヨコナデ、ナデ?、一部スス付着 (生)	90-3(C)	X I - 42-2
147 8	—	弥生土器鉢	第11-2a面	水路38新内大甍群	V~VI様式	底径: 4.0(実)	外: 指押さえナデ 内: ハケメナデ (生)	90-3(C)	X I - 42-3
147 9	—	弥生土器器底	第11-2a面	水路38新内大甍群盛土中	V~VI様式	底径: 5.0(実)	外: 平行タタキ (2条/cm) 内: 一	90-3(C)	X I - 42-8
147 10	—	弥生土器器底	第11-2a面	水路38新内大甍群盛土中	VI-1様式	脚径: 3.6(実)	外: ヘラミガキ?、透かし4方向 内: 一	90-3(C)	X I - 42-5
147 11	—	弥生土器器底	第11-2a面	水路38新内大甍群盛土中	V-3様式	脚径: 2.7(実)	外: 透かし? 内: しぼり目	90-3(C)	X I - 42-6
147 12	100	弥生土器有孔鉢	第11-2a面	水路39北面盛土中	VI様式	口径: 13.6~14.0(一部欠) 底径: 4.3(1/2) 器高: 6.7~7.9 孔径: 0.85	外: 指押さえ 内: ハケメ (生)	90-3(B)	VI - 34-7
147 13	100	弥生土器高杯	第11-2a面	水路40南盛土中	V様式	口径: 16.7(1/2) 脚径: 9.4(実) 器高: 10.3~11.0	外: ヨコナデ、ナデハケメ後タテヘラミガキ、ハケメ、ヘラ痕、透かし4方向 内: しぼり目 (生)	90-3(B)	VI - 34-2
147 14	—	弥生土器手形形土器	第11-2a面	水路40南盛土中	VI様式	小片	外: 刻目凸帯 内: 一	90-3(B)	VI - 34-3
147 15	—	弥生土器鉢	第11-2a面	プロックH・間大甍群盛土中	VI様式	底径: 5.0(一部欠)	外: 平行タタキ、一部スス付着 内: 一	90-3(B)	VI - 34-4
147 16	—	弥生土器器底	第11-2a面	プロックH・間大甍群盛土中	VI様式	口径: 4.0(実)	外: 沈積文(条、刻目凸帯) 内: ヨコナデ? 横ナデ、ハケメ (生)	90-3(B)	VI - 34-6
147 17	101	弥生土器手形形土器	第11-2a面	壘15底層1土	VI様式	口径: 18.2(1/5) 底径: 5.0(実)	外: 指押さえ 内: ハケメ	90-3(B)	VI - 34-8
147 18	—	弥生土器鉢	第11-2a面	壘15底層1土	VI様式	口径: 12.2(1/5) 底径: 4.0(1/4強) 現高: 7.2	外: 指押さえ 内: 工具痕 (生)	90-3(C)	X I - 42-7
147 19	—	弥生土器鉢	第11-2a面	水路45段高地上	VI様式	口径: 8.4(一部欠)	外: タテヘラミガキ 内: 指押さえナデ (生)	93-1	X V - 71-3
147 20	—	弥生土器器底	第11-2a面	水路45段高地上	VI-1~2様式	口径: 8.4(一部欠)	外: ハケメ後ヘラナデ 内: 指押さえナデ (生)	93-1	X V - 71-6
147 21	—	弥生土器器底	第11-2a面	水路46東側大甍群盛土中	II様式?	口径: 2.3(1/2)	外: 淵部波状文(4条)、ナデ 内: 横なヘラミガキ	89-1	I - 83-3
147 22	—	弥生土器器底	第11-2a面	水路47南側大甍群盛土中	V様式	口径: 13.0(1/4+1/4+1/6)	外: 淵部波状文(4条)、ナデ 内: 横なヘラミガキ	89-1	I - 83-3
148 22	—	弥生土器器底	第11-2a面	水路47南側大甍群盛土中	V様式	口径: 15.1(3/4) 底径: 5.4(一部欠) 器高: 18.5~19.0	内: ヨコナデ、指押さえナデ	90-3(A)	II - 61-4
148 23	101	弥生土器鉢	第11-2a面	水路47南側大甍群盛土中	VI様式	口径: 16.8(1/4)	外: ヨコナデ、平行タタキ (3条/cm)、スス付着 内: ヨコナデ	89-1	I - 83-1
148 24	—	弥生土器鉢	第11-2a面	水路47南側大甍群盛土中	VI様式	口径: 27.6(1/8)	外: ヨコナデ、ハケメ 内: ヨコヘラミガキ	89-1	I - 83-2
148 25	—	弥生土器高杯	第11-2a面	水路47東側大甍群盛土中	VI様式	口径: 15.6(1/3) 底径: 4.1(実) 現高: 9.6	外: 一部ハケメ 内: ヨコナデ? へラミガキ (生)	90-3(B)	VI - 34-1
148 26	101	弥生土器鉢	第11-2a面	水路47南側大甍群盛土中	VI様式	口径: 5.2(実)	外: 指押さえナデ 内: ハケメ	89-1	I - 83-6
148 27	—	弥生土器器底	第11-2a面	水路47南側大甍群盛土中	V-2様式	口径: 14.8(1/8)	外: ヨコナデ 内: ヨコナデ (生)	89-1	I - 83-5
148 28	—	弥生土器器底	第11-2a面	水路47南側大甍群盛土中	IV-2様式	脚径: 10.4(1/5)	外: 凹線文(5条)、ヘラミガキ、透かし5方向 内: ヨコナデ、接合のためハケメ (生)	90-3(A)	II - 64-3
148 29	—	弥生土器合符鉢	第11-2a面	水路47南側大甍群盛土中	IV-2様式	口径: 17.8(1/4) 底径: 4.5(一部欠) 現高: 16.9	外: ヨコナデ、平行タタキ (2条/cm) スス付着 内: ヨコナデ、横ナデ、ハケメ (生)	89-3	I - 99-1
148 30	101	弥生土器鉢	第11-2a面	プロックH・間大甍群盛土中	V~VI様式	口径: 33.6(1/10)	外: ヨコナデ、ヨコヘラミガキ、タテヘラミガキ 内: ヨコナデ、タテヘラミガキ (生)?	89-2	I - 91-4
148 31	—	弥生土器鉢	第11-2a面	大甍群2直上	VI-2様式	口径: 14.9(1/4) 底径: 4.5 現高: 13.7	外: ハケメ 内: ハケメ、太いハケメ (生)	90-1	未掲載
149 1	—	弥生土器鉢	第11-2a面	壘9	V様式	口径: 16.0(1/4強)	外: ヨコナデ、平行タタキ、スス付着 内: ヨコナデ、ハケメ	90-1	未掲載
149 2	—	弥生土器鉢	第11-2a面	壘9	V様式	口径: 17.0(1/5)	外: ヨコナデ、平行タタキ後ハケメ、スス付着 内: ヨコナデ、指押さえナデ、ヘラ削り	90-1	未掲載
149 3	—	弥生土器鉢	第11-2a面	壘9	V-0様式	口径: 4.1~4.4(実)	外: ハケメ、スス付着 内: ヘラ削り、スス付着	90-1	未掲載
149 4	—	弥生土器器底	第11-2a面	壘9	IV-4様式	口径: 13.2(1/4強)	外: 指押さえナデ、ハケメ、ヘラミガキ、スス付着 内: ハケメ (生)	90-1	未掲載
149 5	—	弥生土器高杯	第11-2a面	壘9	V-3~VI様式	口径: 25.2(1/3)	外: ヨコナデ後凹線文状ヘラミガキ、ヨコヘラミガキ (生)	90-1	未掲載
149 6	—	弥生土器高杯	第11-2a面	壘9	VI様式	底径: 6.0~6.1(一部欠)	外: ヨコヘラミガキ、工具痕 内: ハケメ後ヘラミガキ (生)	90-1	未掲載
149 7	—	弥生土器鉢	第11-2a面	壘9	VI様式	底径: 6.1~6.3(一部欠)	外: 一、指押さえ 内: ハケメ後ヘラナデ (生)	90-1	未掲載
149 8	—	弥生土器鉢	第11-2a面	壘9	VI様式	底径: 6.1~6.3(一部欠)	外: 一、指押さえ 内: ハケメ後ヘラナデ (生)	90-1	未掲載
149 9	101	櫛状木製品	第11-2a面	壘9	弥生時代	現長: 50.9 最大幅: 3.4 最大厚: 2.0	掛軸: エノキ 加工痕不明	90-1	未掲載
149 10	101	木製有頭棹	第11-2a面	壘9	弥生時代	現長: 19.7 最大幅: 3.3 最大厚: 3.9	掛軸: ヤブツバキ くびれ部8面加工	90-1	未掲載
149 11	101	木製有頭棹	第11-2a面	壘9	弥生時代	現長: 79.2 最大幅: 4.1 最大厚: 3.9	掛軸: オニグルミ くびれ部7面加工	90-1	未掲載
150 12	102	弥生土器鉢	第11-2a面	壘10	V様式	口径: 14.0(2/3) 底径: 4.8(実) 器高: 23.7~24.4	外: ヨコナデ、粗ハケメ、スス付着 内: 粗いハケメ、スス付着	90-1	X II - 91-6
150 13	—	弥生土器器底	第11-2a面	壘10	V~VI様式	口径: 4.0(実)	外: 平行タタキ (3条/cm) 内: ナデ	90-1	未掲載
150 14	101	弥生土器把形付鉢	第11-2a面	壘10	V-0様式	口径: 3(一部欠) 底径: 4.1(実) 器高: 6.8	外: ヨコナデ、ナデ 内: ヨコナデ、ヘラナデ (生)	90-1	X II - 91-3
150 15	101	弥生土器鉢	第11-2a面	壘10	VI様式	口径: 12.9~13.4(一部欠) 底径: 4.1~4.5(実) 器高: 6.0~6.6	外: 平行タタキ (3条/cm) 内: ハケメ (生)?	90-1	未掲載
150 16	102	木製有頭棹	第11-2a面	壘10	弥生時代	現長: 14.5 最大幅: 19.6 最大厚: 3.5	柄付 炭化著しい	90-1	X II - 94-4
150 17	102	木製有頭棹	第11-2a面	壘10	弥生時代	現長: 62.1 最大幅: 4.6 最大厚: 4.2	柄付: スダジイ くびれ部9面加工	90-1	未掲載
150 18	102	木製有頭棹	第11-2a面	壘11	弥生時代	最大幅: 17.4	上半部乾乾縮	90-1	X II - 94-3
151 19	—	弥生土器長登	第11-2a面	壘11	弥生時代	口径: 10.1~10.6(実)	外: ハケメ 内: ハケメ、指押さえナデ	90-1	未掲載
151 20	—	弥生土器器底	第11-2a面	壘12	VI様式	口径: 13.0(1/2強)	外: ヘラミガキ 内: ヨコナデ、指押さえ後ハケメ (生)	90-1	未掲載
151 21	—	弥生土器器底	第11-2a面	壘12	VI様式	口径: 15.2(1/4)	外: 凹線文、ヨコナデ、ハケメ 内: ヨコナデ、横ナデ (生)	90-1	未掲載
151 22	—	弥生土器小形把形付鉢	第11-2a面	壘12	V-0様式	口径: 若年の女 底径: 3.5(実) 現高: 5.7	外: ヘラミガキ 内: ヘラミガキ	90-1	未掲載
151 23	102	木製有頭棹	第11-2a面	壘12	弥生時代	現長: 41.5 最大幅: 6.5 最大厚: 0.8	掛軸: スギ 上下約1.3cm間隔に、ケビキ線に沿って小孔が並ぶ (一部密になることあり)	90-1	X II - 94-6
151 24	103	不明木製品	第11-2a面	壘12	弥生時代	現長: 38.0 最大幅: 8.6 最大厚: 4.0	掛軸: アノカガ少曲 穿孔(2内)未貫通、上、下方凹	90-1	未掲載
151 25	103	木製有頭棹	第11-2a面	壘12	弥生時代	現長: 13.5 現高: 23.2 最大厚: 3.3	加工痕一方向、部分的に炭化	90-1	X II - 94-5
152 26	103	木製有頭棹	第11-2a面	壘12	弥生時代	現長: 66.2-55.4 最大幅: 9.0 最大厚: 7.5	掛軸: アノカガ少曲 上側に2重に穿孔	90-1	未掲載
152 27	103	木製有頭棹	第11-2a面	壘16盛	弥生時代	現長: 28.0 最大幅: 13.2 最大厚: 2.4	一部炭化	90-3(C)	X I - 45-1
152 28	—	木製有頭棹	第11-2a面	壘16盛	弥生時代	現長: 8.0 最大幅: 21.2 最大厚: 1.9	一部炭化	90-3(C)	X I - 45-2
152 29	—	木製有頭棹	第11-2a面	壘16盛	弥生時代	現長: 10.5 最大幅: 2.1 最大厚: 2.6	一部炭化	90-3(C)	X I - 45-3
152 30	—	木製有頭棹	第11-2a面	壘16盛	弥生時代	口径: 7.4~7.7(一部欠) 底径: 2.8~2.9(実) 器高: 11.3~11.7	図IV-152: 27-28-29の合成図	90-3(C)	X I - 44
153 1	103	弥生土器小形登	第11-2a面	水路38	VI様式	口径: 7.4~7.7(一部欠) 底径: 2.8~2.9(実) 器高: 11.3~11.7	外: 淵部刻目、ヨコナデ、指押さえナデ、ヘラミガキ 内: ヨコナデ、ハケメ (生)	90-3(B)	VI - 34-10
153 2	—	弥生土器器底	第11-2a面	水路38	V~VI様式	口径: 4.8(実)	外: 平行タタキ (3条/cm)、スス付着 内: ハケメ、スス付着	90-3(B)	VI - 34-9



図原番号 図原番号	写真番号 図原	器種	層序	遺構	時期	法量 (cm)	特徴	調査年度	概要掲載番号
153 3	103	弥生土器鉢	第11-2a面	水路38	V~VI様式	口径:11.6(2/5) 底径:3.6~3.9(完) 現高:6.3~6.6	外:指押さえずナデ 一部ハケメ、スス付着 内:ハケメ、ハケナデ (生)	90-3(C)	X I-42-4
153 4	—	弥生土器鉢底面	第11-2a面	水路38	V~VI様式	底径:4.4(2/3)	外:指押さえず 内:ハケメ、スス付着 内:ハケメ (粗、細) (生)	90-3(B)	VI-34-11
153 5	—	弥生土器底面	第11-2a面	水路38	V~VI様式	底径:5.0(完)	外:平行タタキ後ハケメ、一部スス付着 内:ハケメ (粗、細) (生)	90-3(C)	X I-42-11
153 6	103	不明土器底面	第11-2a面	水路38	弥生時代	長:19.1 最大厚:2.5 孔径:0.35	附帯:ハケナデ 穿孔孔、底部内側に加工痕?	90-3(B)	未掲載
153 7	103	木製木製品	第11-2a面	水路38	弥生時代	現長:16.0 最大幅:2.8 最大厚:1.7 孔径:0.3	附帯:コナデ 穿孔孔	90-3(B)	未掲載
153 8	—	木製木製品	第11-2a面	水路38	弥生時代	現長:6.32 最大幅:2.2 最大厚:1.5 孔径:0.6	附帯:サカキ 穿孔孔?	90-3(B)	未掲載
153 9	104	弥生土器長頸壺	第11-2a面	水路42	V-3様式	口径:若干のみ 胴部最大径:13.2(1/3) 底径:3.2~3.4(完) 現高:19.5	外:ハケの後ヘラミガキ 内:ハケ後ナデ (生)	93-2(A)	X VI-42-4
153 10	—	弥生土器壺	第11-2a面	水路42	V様式	口径:13.8(1/4)	外:ヨコナデ、スス付着 内:ヨコナデ、ヘラ削り? (生)	90-2(H4)	未掲載
153 11	—	弥生土器壺	第11-2a面	水路42	V-3様式	口径:14.6(1/4強)	外:ヨコナデ、平行タタキ 内:ヨコナデ、ハケメ? (生)	90-3(H4)	X-33-1
153 12	104	弥生土器壺	第11-2a面	水路42	V-3様式	口径:15.2(1/2)	外:頸部凹線文1条、平行タタキ (3条/cm)、スス付着 内:ヨコナデ、ハケメ (生)	90-2(H4)	X-33-2
153 13	—	弥生土器壺	第11-2a面	水路42	V様式	口径:18.6(1/4)	外:ヨコナデ、指ナデ、スス付着 内:ヨコナデ、ヘラ削り (生)	90-2(H4)	X-33-3
153 14	—	弥生土器壺底面	第11-2a面	水路42	VI様式	底径:3.2~3.3(完)	外:平行タタキ 内:ハケメ (生)	90-2(H4)	X-33-8
153 15	—	弥生土器壺底面	第11-2a面	水路42	V~VI様式	底径:4.6(1/4)	外:ナデ、スス付着 内:ナデ、ヘラ痕 (生)	90-2(H4)	X-33-6
153 16	—	弥生土器高杯	第11-2a面	水路42	V-1様式	口径:25.0(1/7)	外:— 内:—	90-2(H4)	X-33-5
154 17	—	木製木製品	第11-2a面	水路44	弥生時代	現長:4.90 最大幅:5.3 最大厚:0.6	上:彫文(竹管文2中に赤色顔料付着) 1、ヨコナデ、ハケメ後ヘラミガキ、ヘラナデ 内:ヨコナデ、ハケメ、ナデ (生)	90-6(D)	II-91
154 18	104	弥生土器長頸壺	第11-2a面	水路47	V-3様式	口径:13.2~13.5(5/6)	外:ハケの後ヘラミガキ、ヘラナデ (生)	90-1	未掲載
154 19	104	弥生土器壺	第11-2a面	水路47	V-3様式	口径:12.0~12.2(完) 底径:4.4(完) 器高:17.3~17.7	外:沈線文1条、ヨコナデ、ハケメ、ヘラ痕 内:ヨコナデ、ハケメ、指ナデ、ハケメ	90-1	X II-92-10
154 20	104	弥生土器壺	第11-2a面	水路47	V-2様式	口径:13.2(1/6) 底径:5.3~5.7(一部欠) 現高:21.0	外:ヘラミガキ 内:— (生)	90-1	X II-92-9
154 21	—	弥生土器壺底面	第11-2a面	水路47	V様式	底径:5.3~5.5(完)	外:ヘラミガキ 内:— (生)	90-1	未掲載
154 22	—	弥生土器壺底面	第11-2a面	水路47	V様式	底径:4.0(2/3)	外:平行タタキ後ハケメ 内:ハケメ	90-2(H2)	未掲載
154 23	—	弥生土器壺	第11-2a面	水路47	V-3様式	口径:16.4(1/6+1/7) 底径:4.6~4.7(一部欠) 現高:20.0	外:ヨコナデ、平行タタキ (2条/cm)、スス付着 内:ヨコナデ、ハケメ	90-3(A)	II-61-2
154 24	—	弥生土器壺	第11-2a面	水路47	VI様式	口径:15.7(1/4)	外:ヨコナデ、平行タタキ (2条/cm) の後一部ハケメ、スス付着 内:ヨコナデ、ハケメ、スス付着 (生)	90-3(A)	II-61-1
154 25	—	弥生土器壺底面	第11-2a面	水路47	V様式	底径:4.8~5.2(完)	外:平行タタキ (2~3条/cm) の後ハケメ、スス付着 内:ナデ、ヘラ痕 (生)	90-3(A)	II-61-3
154 26	—	弥生土器高杯胴	第11-2a面	水路47	IV様式後半	胴径:14.5(1/2)	外:ヘラミガキ 内:ヘラ削り? 指押さえず後ナデナデ (生)	90-1	未掲載
154 27	104	木製木製品	第11-2a面	水路47	弥生時代	現長:10.5 最大幅:5.1 最大厚:0.8	附帯:アカガキ 穿孔孔(2箇)	90-3(A)	II-62-1
154 28	—	木製木製品	第11-2a面	水路47	弥生時代	現長:8.2 最大幅:4.6	附帯:オニグルミ 先端面加工	90-3(A)	II-62-2
154 29	105	木製木製品	第11-2a面	水路47	弥生時代	現長:33.5 最大幅:6.4 最大厚:4.2	附帯:アカガキ 穿孔孔、先端面加工、方形球孔18	90-3(A)	II-62-3
155 30	105	弥生土器壺	第11-2a面	水路48	V-3様式	口径:13.2~13.8(一部欠) 底径:4.0 現高:18.5	外:ヨコナデ、平行タタキ (3~4条/cm)、スス付着 内:ヨコナデ、ハケメ	90-1	X II-93-4
155 31	105	弥生土器壺	第11-2a面	水路48	備前V-4様式	口径:14.4(1/6) 底径:7.1(一部欠) 現高:19.5	外:頸部凹線文2条、ヨコナデ、ハケメ、スス付着 内:ヨコナデ、ヘラ削りの後一部指押さえず	90-1	X II-90-12
155 32	—	弥生土器壺	第11-2a面	水路54	V様式	口径:14.2(1/4強)	外:ハケメ 内:ハケメ (生)	90-1	未掲載
155 33	—	弥生土器小形長頸壺	第11-2a面	水路56	VI様式	口径:10.5(1/4強)	外:タテヘラミガキ、ハケメ後ヨコナデミガキ、一部タテヘラミガキ	90-1	未掲載
155 34	105	弥生土器壺	第11-2a面	水路56	V-3~VI様式	口径:16.0~16.5(完)	内:ヨコナデ、ヘラ痕 (生)	90-1	未掲載
155 35	105	弥生土器壺	第11-2a面	水路56	V-1様式	口径:12.0~12.3(4/5) 底径:3.6 器高:28.4~29.3	外:ヘラミガキ、外底面もヘラミガキ、スス付着 内:ハケメ、ハケメ、スス付着 (生)	90-1	X II-93-3
155 36	106	弥生土器壺	第11-2a面	水路57	V-1様式	口径:12.0(一部欠) 底径:4.3~4.6(一部欠)	外:ヘラミガキ、外底面もヘラミガキ、スス付着 内:ハケメの後ヘラミガキ、指押さえず、ハケメ (生)	90-1	X II-93-2
155 37	106	弥生土器壺	第11-2a面	水路57	V-1様式	口径:9.4(2/3) 底径:3.9~4.0(完) 器高:16.7	上下接合せず 外:ヘラ記号、ヘラミガキ、スス付着 内:ハケメ後ヘラミガキ、指押さえず、ハケメ (生)	90-1	X II-93-1
155 38	106	弥生土器壺	第11-2a面	水路57	VI-1様式	口径:13.5(3/4)	外:ヨコナデ、ハケメ後ヘラミガキ、スス付着 内:ヨコナデ、ハケメ	92-7	X IV-57
155 39	—	弥生土器壺	第11-2a面	水路58	V様式	口径:13.8(1/4)	外:ヨコナデ、ヘラミガキ、スス付着 内:ヨコナデ、指押さえずナデ (生)	90-1	未掲載
155 40	106	有蓋式石鉢	第11-2a面	水路57・58を埋める砂層中	弥生時代中期	長:6.85 最大市:2.05 最大厚:0.8 重さ7.9g	外:サカイト 両面一部と柄部表面に自然面残る	92-7	X IV-56
156 1	—	弥生土器壺	第11-2a面	流路1	VI様式	口径:11.5~12.3(完)	外:ヨコナデ、ハケメ 内:ヨコナデ、ナデ	89-3	未掲載
156 2	—	弥生土器壺	第11-2a面	流路1	V様式	口径:19.6(1/4)	外:頸部凹線文3条、ナデ 内:ハケメ (生)	89-3	未掲載
156 3	107	弥生土器長頸壺	第11-2a面	流路1	V様式	口径:10.4(1/4) 底径:4.3~4.6(完) 現高:18.9	外:ハケの後一部ヘラミガキ、平行タタキの後ヘラミガキ、ハケメ後ヘラミガキ 内:ヨコナデ、ナデ? ハケメ後ナデ? (生)	89-3	I-98-1
156 4	—	弥生土器短頸壺	第11-2a面	流路1	VI様式	口径:12.0(2/3)	外:ヨコナデ、指押さえずナデ後ハケメ、後ナデ	89-3	I-98-5
156 5	—	弥生土器小形壺	第11-2a面	流路1	V~VI様式	口径:11.8(1/4強) 底径:3.5~3.8(完) 現高:11.3	外:ハケメ、平行タタキ (2~3条/cm)、部分的にスス付着 内:ハケメ、指押さえずナデ (生)	89-3	I-98-3
156 6	—	弥生土器壺	第11-2a面	流路1	V~VI様式	口径:14.6(1/2強)	外:ヨコナデ、平行タタキの上にハケメ、スス付着 内:ヨコナデ、ハケメ	89-3	I-98-6
156 7	—	弥生土器壺	第11-2a面	流路1	V-3様式	口径:17.2(1/4)	外:ヨコナデ、平行タタキ (2~3条/cm) 内:ヨコナデ、工具痕 (生)	89-3	未掲載
156 8	106	弥生土器壺	第11-2a面	流路1	近江V-2様式	口径:17.8(1/4強)	外:列点文 (5条、直線文 (6条)、ヨコナデ、ハケメ、一部スス付着 内:ヨコナデ、粗いハケメ、ハケメ後ナデ (生)?	89-3	I-98-7
156 9	—	弥生土器高杯胴	第11-2a面	流路1	VI-2様式	胴径:13.4(1/3)	外:ハケメの後まばらなヘラミガキ、ヨコナデ、内:指押さえずナデ (生)	89-3	I-98-4

図版番号	写真番号	器種	層序	遺構	時期	法量 (cm)	特徴	調査年度	概要掲載番号
156 10	—	弥生土器高杯脚	第11-2a面	流路1	V様式	脚径: 14.9(2/3)	外: ヘラミガキ?、透かし方向 内: 指押さえナデ、一部ハケメ (生)	89-3	未掲載
156 11	106	弥生土器鉢	第11-2a面	流路1	VI様式	口径: 14.2(1/4) 底径: 4.4(一部欠) 現高: 7.0-7.7	外: 指押さえ 内: ハケメ (生)	89-3	1-98-2
156 12	—	弥生土器鉢	第11-2a面	流路1	V様式	口径: 16.0(若干) 底径: 4.4(完) 現高: 8.5	外: ヨコナデ、ハケメ 内: ヨコナデ、ハケメ	89-3	未掲載
156 13	—	弥生土器蓋	第11-2a面	流路1	V様式	口径: 15.0(1/4強)	外: 端部沈線1条、ヘラミガキ、穿孔1 内: 指押さえナデ、一部ヘラミガキ (生)	89-3	1-98-8
156 14	—	弥生土器蓋	第11-2a面	流路1	I-3様式	口径: 21.4(1/10)	外: 端部刻目、沈線4条 内: — (生)	89-3	1-98-9
156 15	—	弥生土器蓋	第11-2a面	流路1	VI様式	口径: 14.0(1/2)	外: ヨコナデ 内: ヨコナデ、ハケメ (生)	90-1	未掲載
156 16	—	弥生土器蓋	第11-2a面	流路1	V様式	口径: 11.4(1/4)	外: 端部沈線1条、ハケメ後ヨコナデ、ハケメ 内: ヨコナデ、ハケメ	90-1	未掲載
156 17	—	弥生土器蓋	第11-2a面	流路1	V様式	口径: 11.8(1/4)	外: 端部一部刻目、ヨコナデ、ヘラミガキ (生)	90-1	未掲載
156 18	—	弥生土器蓋	第11-2a面	流路1	VI様式	口径: 12.2(1/4)	外: ハケメ、ヘラミガキ、ヘラミガキ、ヘラミガキ、ヘラミガキ (生)	90-1	X II-96-6
156 19	—	弥生土器蓋	第11-2a面	流路1	VI様式	口径: 13.6(1/5)	外: — 内: —	90-1	未掲載
156 20	—	弥生土器蓋	第11-2a面	流路1	VI様式	口径: 13.3(1/4)	外: ヨコナデ、ハケメ 内: ヘラミガキ、ハケメ (生) ?	90-1	未掲載
156 21	—	弥生土器蓋	第11-2a面	流路1	VI様式	口径: 14.0(1/3)	外: ヨコナデ、ハケメ後ヘラミガキ 内: ハケメ後ヘラミガキ	90-1	未掲載
156 22	—	弥生土器蓋	第11-2a面	流路1	VI様式	口径: 15.0(1/3)	外: ヨコナデ、ヘラ削り 内: ハケメ、指押さえナデ (生)	90-1	未掲載
156 23	107	弥生土器蓋	第11-2a面	流路1	V様式	口径: 16.8(1/3) 底径: (外) 4.5-5.0(完) 現高: 33.7-34.3	外: ヨコナデ、ハケメ、ハケメ後ヘラミガキ 内: ヨコナデ、指押さえナデ、ハケメ (生)	90-1	未掲載
156 24	—	弥生土器蓋	第11-2a面	流路1	V-M様式	口径: 14.2(1/7)	外: ヨコナデ、ハケメ 内: ヨコナデ、ハケメ	90-1	未掲載
156 25	—	弥生土器蓋	第11-2a面	流路1	V様式	口径: 12.2(1/6)	外: 端部波状文 (4条)、赤彩?、列点文?、ヨコナデ、一部スス付蓋 内: 赤彩? ヨコナデ、ナデ (生)	90-1	未掲載
156 26	—	弥生土器蓋	第11-2a面	流路1	V様式	口径: 12.9(1/3)	外: ヨコナデ 内: ヨコナデ、ハケメ (生)	90-1	未掲載
156 27	—	弥生土器蓋	第11-2a面	流路1	V様式	口径: 14.0(1/7)	外: 端部凹線1条、ハケメ 内: ヨコナデ (生)	90-1	未掲載
156 28	—	弥生土器蓋	第11-2a面	流路1	V様式	口径: 15.4(1/7)	外: 端部凹線2条、凹線文、沈線1条、ハケメ、スス?付蓋 内: ハケメ	90-1	未掲載
157 29	107	弥生土器蓋	第11-2a面	流路1	VI-1様式	口径: 13.2-13.4(3/4)	外: 端部直線文 (3条) 十竹管文、直線文 (4条)、部分的に海抜文 (4条)、ハケメ後ヘラミガキ 内: ヘラミガキ、指押さえナデ、一部ハケメ、ヘラミガキ (生)	90-1	未掲載
157 30	—	弥生土器蓋	第11-2a面	流路1	V様式	口径: 11.7-12.0(一部欠)	外: ヨコナデ、ハケメ、ヘラミガキ 内: ヨコナデ、ハケメ (生)	90-1	未掲載
157 31	—	弥生土器蓋	第11-2a面	流路1	VI-1様式	口径: 11.6(1/6)	外: ヨコナデ 内: ヨコナデ (生)	90-1	未掲載
157 32	—	弥生土器蓋	第11-2a面	流路1	VI-1様式	口径: 12.8(1/2)	外: ヨコナデ、ハケメ 内: ヨコナデ、ハケメ、指ナデ (生) ?	90-1	未掲載
157 33	—	弥生土器蓋	第11-2a面	流路1	VI-2様式	口径: 11.3(3/4)	外: ヨコナデ、ヘラミガキ 内: ヨコナデ後一部ヘラミガキ (生) ?	90-1	未掲載
157 34	107	弥生土器複合口縁蓋	第11-2a面	流路1	V-M様式	口径: 11.6(1/4)	外: 竹管文1現存、ヨコナデ、ハケメ、ナデ 内: ヨコナデ、しぼり目、ナデ (生)	90-1	未掲載
157 35	—	弥生土器細頸蓋	第11-2a面	流路1	V-3-M様式	口径: 8.4(1/7)	外: ヨコナデ、ヘラミガキ 内: ヨコナデ、ナデ (生)	90-1	未掲載
157 36	107	弥生土器長頸蓋	第11-2a面	流路1	V-3様式	口径: 12.0(1/4) 底径: 4.7-4.8(完) 現高: 21.6-22.1	外: ヨコナデ、ハケメ後ナデ、指押さえナデ、ハケメ 内: ヨコナデ、指押さえナデ、ハケメ	90-1	未掲載
157 37	—	弥生土器長頸蓋	第11-2a面	流路1	V-1様式	口径: 10.5(2/5)	外: 凸部、ヘラミガキ 内: — (生)	90-1	未掲載
157 38	—	弥生土器短頸蓋	第11-2a面	流路1	V様式	口径: 9.8(1/3)	外: ヘラミガキ 内: ハケメ、しぼり目、ナデ (生)	90-1	未掲載
157 39	—	弥生土器長頸蓋	第11-2a面	流路1	VI-2様式	口径: 10.6(1/4)	外: ヘラ削り、ハケメ 内: ハケメ、被ナデ ?	90-1	未掲載
157 40	—	弥生土器長頸蓋	第11-2a面	流路1	VI-2様式	口径: 10.2(1/2弱)	外: ヨコナデ、平行タタキ後ハケメ 内: 指押さえ後ハケメ後ナデ、指押さえ後ナデ (生)	90-1	未掲載
157 41	—	弥生土器長頸蓋	第11-2a面	流路1	VI-2様式	口径: 11.8(1/7)	外: — 内: — (生) ?	90-1	未掲載
157 42	—	弥生土器長頸蓋	第11-2a面	流路1	VI-2様式	口径: 10.8(1/5)	外: ヨコナデ、ハケメ 内: ヨコナデ、ハケメ	90-1	X II-96-4
157 43	—	弥生土器底部	第11-2a面	流路1	V様式	底径: 5.4(完)	外: ナデ、一部ハケメ、ヘラミガキ 内: ナデ、ハケメ、指ナデ (生)	90-1	未掲載
157 44	—	弥生土器底部	第11-2a面	流路1	V-M様式	底径: 4.0(一部欠)	外: 平行タタキ (3条/cm) 内: ハケメ	90-1	未掲載
157 45	107	弥生土器底部	第11-2a面	流路1	V様式	耐木径: 15.4(1/8)	外: 沈線1条、凸部2条、海抜文 内: ハケメ (生)	90-1	未掲載
157 46	107	弥生土器底部	第11-2a面	流路1	V様式	口径: 6.5(1/3)	外: 凸部1条、段、ナデ、ヘラミガキ 内: ナデ	90-1	未掲載
157 47	108	弥生土器蓋	第11-2a面	流路1	I-2様式	口径: 15.8cm (1/8)	外: 前出凸部1条、前出凸部上沈線3条 内: —	90-1	未掲載
157 48	—	弥生土器蓋	第11-2a面	流路1	I-2?様式	小片	外: 端部沈線1条、前出凸部上沈線3条 内: —	90-1	未掲載
157 49	—	弥生土器蓋	第11-2a面	流路1	I-2?様式	小片	外: 沈線4条、竹管文+重圈文、ナデ 内: ナデ	90-1	未掲載
157 50	—	弥生土器蓋	第11-2a面	流路1	IV-1様式	口径: 8.0(完)	外: 端部波状文 (8条)、直線文 (9.9条)、ヨコナデ 内: ヨコナデ、ナデ (生)	90-1	未掲載
157 51	—	弥生土器蓋	第11-2a面	流路1	IV-1様式	口径: 13.6(1/4弱)	外: ヨコナデ、ハケメ 内: ヨコナデ、ハケメ	90-1	未掲載
157 52	108	弥生土器蓋	第11-2a面	流路1	IV-4様式	口径: 17.4(1/9)	外: ヨコナデ、ハケメ 内: ヨコナデ、ハケメ	90-1	未掲載
157 53	—	弥生土器無頸蓋	第11-2a面	流路1	IV様式	口径: 13.6(1/4弱)	外: ナデ、2部、直線文 (4条)、2部、穿孔2個1対2対、ヨコナデ 内: ヨコナデ、ハケメ (生)	90-1	未掲載
157 54	—	弥生土器小形蓋 (腹)	第11-2a面	流路1	IV-4?様式	口径: 21.0(1/8)	外: 端部凹線2条 内: ハケメ、ナデ (生)	90-1	未掲載
158 55	108	弥生土器小形蓋	第11-2a面	流路1	IV様式	口径: 9.0(一部欠) 底径: 4.0-4.3(完) 器高: 10.2 孔径: 0.8-0.9	外: ヨコナデ、平行タタキ、一部スス付蓋 内: ヨコナデ (生) ?	90-1	未掲載
158 56	108	弥生土器小形蓋	第11-2a面	流路1	IV様式	口径: 11.5-11.7(3/4) 底径: 4.5(完) 器高: 12.4-12.8	外: ヨコナデ、平行タタキ、スス付蓋 内: ハケメ、指押さえナデ、ハケメ、スス付蓋 (生)	90-1	X II-91-2
158 57	108	弥生土器蓋	第11-2a面	流路1	V様式	口径: 12.5(1/2) 底径: 3.8-3.9(完) 器高: 15.8	外: 平行タタキ後ナデ、平行タタキ、スス付蓋 内: ハケメ、指押さえナデ、ハケメ、スス付蓋 (生)	90-1	未掲載
158 58	—	弥生土器蓋	第11-2a面	流路1	V様式	口径: 13.4(1/5) 底径: 3.5-3.6(完) 現高: 15.0	外: 粗いハケメ、平行タタキ (3条/cm) の後、一部ハケメ、スス付蓋 内: ヨコナデ、ハケメ、ナデ、スス付蓋 (生)	90-1	未掲載
158 59	108	弥生土器小形蓋	第11-2a面	流路1	V様式	口径: 9.9- (1/4) 底径: 4.0(完) 現高: 11.0	外: ヨコナデ、ハケメ、平行タタキ、スス付蓋 内: ヨコナデ、板ナデ、粗いハケメの後板ナデ (生)	90-1	未掲載
158 60	108	弥生土器蓋	第11-2a面	流路1	V様式	口径: 13.9(3/7+1/7) 底径: 4.4(完) 器高: 12.6	外: ヨコナデ、粗いハケメ、平行タタキ (3条/cm) の後ハケメ、スス付蓋 内: ハケメ、板ナデ (生)	90-1	未掲載



図版番号 図版番号	写真番号 図版	器種	層序	遺構	時期	法量 (cm)	特徴	調査年度	概要掲載番号
158 61	—	弥生土器壺	第11-2a面	流路1	V様式	口径：14.6(17) 底径：4.5~4.6(完) 現高：15.8	外：ヨコナデ、格子状タタキの後ハケメ (生) 内：ハケメ、板ナデ、ナデ	90-1	未掲載
158 62	—	弥生土器壺	第11-2a面	流路1	V様式	口径：12.4(16)	外：ヨコナデ、平行タタキの後ハケメ (生) 内：ヨコナデ、ナデ、一部ハケメ	90-1	未掲載
158 63	—	弥生土器壺	第11-2a面	流路1	W様式	口径：12.4(17)	外：ヨコナデ、平行タタキ (3条/cm)、スス付着 内：ヨコナデ、板ナデ、スス付着 (生)	90-1	未掲載
158 64	—	弥生土器壺	第11-2a面	流路1	V様式	口径：12.8(14)	外：ヨコナデ、ナデ、スス付着 内：ヨコナデ、ナデ、一部スス付着 (生)	90-1	未掲載
158 65	—	弥生土器壺	第11-2a面	流路1	V様式	口径：13.0(14)	外：ヨコナデ、平行タタキの後ハケメ 内：ヨコナデ、ハケメ (生)	90-1	未掲載
158 66	—	弥生土器壺	第11-2a面	流路1	V様式	口径：13.2(18)	外：ヨコナデ、平行タタキ (2条/cm) の後ハケメナデ、スス一部付着 内：ヨコナデ、ハケメ	90-1	未掲載
158 67	—	弥生土器壺	第11-2a面	流路1	V様式	口径：13.6(25)	外：ヨコナデ、平行タタキ 内：ヨコナデ、工具痕、粗いハケメ	90-1	未掲載
158 68	—	弥生土器壺	第11-2a面	流路1	V様式	口径：13.6~13.8(9/10)	外：ヨコナデ、平行タタキ、スス付着 内：ヨコナデ、板ナデ	90-1	未掲載
158 69	—	弥生土器壺	第11-2a面	流路1	V~W様式	口径：13.6(6/7)	外：ハケメ、スス付着 内：指押さえナデ	90-1	未掲載
158 70	—	弥生土器壺	第11-2a面	流路1	V~W様式	口径：13.6(1/4)	外：ヨコナデ、平行タタキ (2条/cm)、スス付着 内：ヨコナデ、板ナデ	90-1	未掲載
158 71	—	弥生土器壺	第11-2a面	流路1	V~W様式	口径：13.8(1/4弱)	外：ヨコナデ、平行タタキ (2条/cm)、スス付着 (生)	90-1	未掲載
158 72	—	弥生土器壺	第11-2a面	流路1	V様式	口径：14.0(1/4)	外：ヨコナデ、ハケメor板ナデ 内：ヨコナデ、ハケメ後板ナデ	90-1	未掲載
158 73	—	弥生土器壺	第11-2a面	流路1	V~W様式	口径：14.0(1/6)	外：ヨコナデ、平行タタキ 内：ヨコナデ、ナデ	90-1	未掲載
158 74	—	弥生土器壺	第11-2a面	流路1	V~W様式	口径：14.8(1/4)	外：ヨコナデ、平行タタキ (3条/cm)、スス付着 内：ヨコナデ、一部ハケメ	90-1	未掲載
158 75	—	弥生土器壺	第11-2a面	流路1	V~W様式	口径：14.9(1/4)	外：ヨコナデ、平行タタキ、スス付着 内：ヨコナデ、ハケメ	90-1	未掲載
158 76	—	弥生土器壺	第11-2a面	流路1	V~W様式	口径：15.4(1/3)	外：ヨコナデ、平行タタキ (2条/cm) 後ハケメ 内：ヨコナデ、板ナデ (生)	90-1	未掲載
158 77	—	弥生土器壺	第11-2a面	流路1	V様式	口径：15.0(1/5)	外：ヨコナデ、平行タタキ (2条/cm) 内：ハケメ	90-1	未掲載
158 78	—	弥生土器壺	第11-2a面	流路1	V様式	口径：15.4(1/4強)	外：ヨコナデ、平行タタキ、スス付着 内：ヨコナデ、ヘラ削り (生)	90-1	未掲載
158 79	—	弥生土器壺	第11-2a面	流路1	V様式	口径：15.6(1/4)	外：ヨコナデ、平行タタキ 内：ヨコナデ、指押さえナデ、一部ハケメ (生)	90-1	未掲載
158 80	—	弥生土器壺	第11-2a面	流路1	V様式	口径：16.4(1/8)	外：ヨコナデ、スス付着 内：ヨコナデ、ヘラ削り	90-1	未掲載
158 81	—	弥生土器壺	第11-2a面	流路1	V~W様式	口径：16.6(1/4弱)	外：ヨコナデ、平行タタキ、スス付着 内：ハケメ、ナデ?	90-1	未掲載
158 82	—	弥生土器壺	第11-2a面	流路1	V様式	口径：17.0(1/4弱)	外：ヨコナデ、ハケメ、平行タタキ (2条/cm)、スス付着 内：ヨコナデ、ナデ? (生)	90-1	未掲載
158 83	—	弥生土器壺	第11-2a面	流路1	V~W様式	口径：17.6(1/4)	外：ヨコナデ、平行タタキ (2条/cm)、スス付着 内：ヨコナデ、ハケメ	90-1	未掲載
158 84	—	弥生土器壺	第11-2a面	流路1	V様式	口径：17.8(1/6)	外：ヨコナデ、ハケメ、スス付着 内：ヨコナデ、指押さえ、板ナデ (生)	90-1	未掲載
158 85	—	弥生土器壺	第11-2a面	流路1	V様式	口径：17.8(1/4弱)	外：ヨコナデ、平行タタキの後ハケメ、スス付着 内：ヨコナデ、指ナデの後ヘラ削り	90-1	未掲載
158 86	—	弥生土器壺	第11-2a面	流路1	V~W様式	口径：19.6(1/4弱)	外：ヨコナデ、平行タタキ 内：ヨコナデ、指ナデ	90-1	未掲載
158 87	109	弥生土器壺	第11-2a面	流路1	V様式	口径：14.8(2/3) 底径：4.4~4.5(完) 器高：21.6~22.0	外：ハケメ、平行タタキ後ハケメ、スス付着 内：ハケメ、スス付着 (生)	90-1	X II - 91 - 5
158 88	109	弥生土器壺	第11-2a面	流路1	V-3様式	口径：16.7(2/5) 底径：4.7(完) 現高：18.9	外：ヨコナデ、平行タタキ (3条/cm)、ハケメ、スス付着 内：ハケメ後ヨコナデ、ハケメ、炭化物付着 (生)	90-1	未掲載
158 89	109	弥生土器壺	第11-2a面	流路1	V-3様式	口径：15.3(2/3) 底径：4.0(完) 器高：22.2	外：ヨコナデ、平行タタキの後ハケメ、板ナデ、スス付着 内：ヨコナデ、ハケメ後ナデ、炭化物付着 (生)	90-1	X II - 91 - 8
158 90	—	弥生土器壺	第11-2a面	流路1	W様式	口径：16.2(1/6) 底径：4.9(1/3) 現高：24.1	外：ヨコナデ、平行タタキ (2条/cm) の後ハケメ、スス付着 内：ヨコナデ、ハケメ、指ナデ、一部スス付着	90-1	未掲載
158 91	109	弥生土器壺	第11-2a面	流路1	V-3~V様式	口径：16.8~17.2(完) 底径：4.6~4.8(一部欠) 器高：26.8	外：ヨコナデ、平行タタキ (3条/cm) 後ハケメ、スス付着 内：ヨコナデ、格子ナデ、一部スス付着	90-1	X II - 91 - 7
158 92	—	弥生土器壺	第11-2a面	流路1	V-3様式	口径：15.1(2/5)	外：ヨコナデ、平行タタキ (4条/cm) 後ハケメ 内：ヨコナデ、ナデ (生)	90-1	未掲載
158 93	—	弥生土器壺	第11-2a面	流路1	V-3様式	口径：16.7(1/6)	外：ヨコナデ、平行タタキ後ハケメ、一部スス付着 内：ヨコナデ、ナデ (生)?	90-1	未掲載
158 94	—	弥生土器壺	第11-2a面	流路1	V-3~V様式	口径：13.6(1/4)	外：ヨコナデ、平行タタキ後一部ハケメ 内：ヨコナデ、ハケメ (生)	90-1	未掲載
158 95	—	弥生土器壺	第11-2a面	流路1	V-3~V様式	口径：16.3(1/8)	外：ヨコナデ、ハケメ、平行タタキ (3条/cm) 内：ヨコナデ、ナデ、一部ハケメ (生)	90-1	未掲載
158 96	—	弥生土器壺	第11-2a面	流路1	V-3~V様式	口径：15.2(1/9)	外：ヨコナデ、ナデ、平行タタキ (3条/cm)、スス付着 内：ヨコナデ、ハケメ (生)	90-1	未掲載
158 97	—	弥生土器壺	第11-2a面	流路1	V様式	口径：13.5(1/6)	外：ヨコナデ、粗いハケメ、ナデ、スス付着 内：ヨコナデ、ナデ (生)	90-1	未掲載
158 98	—	弥生土器壺	第11-2a面	流路1	V~W様式	口径：12.9(1/3)	外：ヨコナデ、ナデ、スス付着 内：ヨコナデ、ナデ (生)	90-1	未掲載
158 99	—	弥生土器壺	第11-2a面	流路1	V~W様式	口径：16.0(1/4弱)	外：ヨコナデ、スス付着 内：ヨコナデ (生)	90-1	未掲載
158 100	110	弥生土器壺	第11-2a面	流路1	V様式	口径：13.6(一部欠) 底径：4.9~5.0(一部欠) 器高：20.0~20.5	外：ヨコナデ、粗いハケメ、平行タタキ? のハケメ、スス付着 内：ヨコナデ、ヘラナデ、ハケメ (生)	90-1	X II - 91 - 1
158 101	—	弥生土器壺	第11-2a面	流路1	V~W様式	口径：14.6(1/4)	外：ヨコナデ、平行タタキ (2条/cm)、スス一部付着 内：ヨコナデ、一部ハケメ、ナデ (生)	90-1	未掲載
158 102	—	弥生土器壺	第11-2a面	流路1	W様式	口径：13.6(1/8)	外：ヨコナデ、一部ハケメ、平行タタキ (3条/cm) 内：ヨコナデ、指押さえナデ (生)	90-1	未掲載
158 103	—	弥生土器壺	第11-2a面	流路1	V-0様式	口径：12.8(1/4)	外：ヨコナデ、ナデ後ハケメ、スス付着 内：太いヘラミガキ (生)	90-1	未掲載
158 104	—	弥生土器壺	第11-2a面	流路1	V-0様式	口径：16.6(1/7)	中部瀬戸内系 外：端部凹縁2条、ヨコナデ 内：ヨコナデ、ヘラ削り? or ナデ? (生)	90-1	未掲載
158 105	—	弥生土器壺	第11-2a面	流路1	V-0様式	口径：16.2(1/4)	中部瀬戸内系 外：端部凹縁又3条、ハケメ、ヨコナデ 内：ヨコナデ、ヘラ削り (生)	90-1	未掲載

図版番号 図版番号	写真番号 図版	器種	層序	遺構	時期	法量 (cm)	特徴	調査年度	概要掲載番号
160 106	—	弥生土器甕	第11-2a面	流路1	V-0様式	口径：16.0(1/4)	中部瀬戸内系 外：頸部回線文2条、ハケメ 内：ヨコナデ、ヘラ削り(生)	90-1	X II-96-3
160 107	—	弥生土器小形甕底部	第11-2a面	流路1	V様式	底径：3.6~3.8(宗)	外：ハケメor板ナデ、指押さえ後ハケメ 内：ハケメ	90-1	未掲載
160 108	—	弥生土器甕底部	第11-2a面	流路1	V様式	底径：3.6~3.9(宗)	外：ナデ、指押さえ、スス付着 内：相いハケメ(生)	90-1	未掲載
160 109	—	弥生土器甕底部	第11-2a面	流路1	V-1様式	底径：4.3~4.4(宗)	外：平行タタキ (4条/cm) 内：ハケメ(生)	90-1	未掲載
160 110	—	弥生土器甕底部	第11-2a面	流路1	V様式	底径：4.6~5.0(宗)	外：平行タタキ (2~3条/cm)の後ヘラ削り?、スス付着 内：板ナデ、スス付着	90-1	未掲載
160 111	—	弥生土器甕底部	第11-2a面	流路1	V様式	底径：4.0(宗)	外：板ナデ、スス付着 内：ヘラナデ、工具痕、スス付着	90-1	未掲載
160 112	—	弥生土器甕底部	第11-2a面	流路1	V様式	底径：5.4(一部欠)	外：ナデ、スス付着 内：板ナデ?工具痕(生)	90-1	未掲載
160 113	—	弥生土器甕底部	第11-2a面	流路1	V様式	底径：4.3~4.8(一部欠)	外：平行タタキ (2条/cm)の後ハケメ スス付着 内：ハケメ	90-1	未掲載
160 114	—	弥生土器甕底部	第11-2a面	流路1	V様式	底径：4.5~4.6(宗)	外：板ナデ、スス付着、腹口縁かすっている 内：板ナデorハケメ 一部スス付着	90-1	未掲載
160 115	—	弥生土器甕	第11-2a面	流路1	I-2様式	口径：23.8(1/9)	外：頸部刻目、沈線文2条、ヨコナデ、ナデ 内：ヨコナデ(生)	90-1	未掲載
160 116	—	弥生土器甕	第11-2a面	流路1	I-2様式	口径：26.6(1/10)	外：頸部刻目、沈線文3条 内：一(生)	90-1	未掲載
160 117	—	弥生土器甕	第11-2a面	流路1	II様式	小片	大和形 外：頸部刻目、相いハケメ、スス一部付着 内：ハケメ、指押さえ	90-1	未掲載
160 118	—	弥生土器甕	第11-2a面	流路1	II様式	口径：21.4(1/4)	大和形 外：ハケメ 内：頸部刻目、ハケメ	90-1	未掲載
160 119	—	弥生土器甕	第11-2a面	流路1	III~IV様式	口径：12.9(1/4)	外：ヨコナデ、ハケメ、スス付着 内：ヨコナデ、ナデ(生)	90-1	未掲載
160 120	—	弥生土器甕	第11-2a面	流路1	III~IV様式	口径：16.0(1/6)	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ、ヘラミガキ(生)	90-1	未掲載
160 121	—	弥生土器甕	第11-2a面	流路1	IV様式	口径：16.4(1/5)	外：ヨコナデ、ナデ、スス付着 内：ヨコナデ、指押さえ後板ナデ?(生)	90-1	未掲載
160 122	—	弥生土器甕	第11-2a面	流路1	V様式	口径：14.0(1/7)	外：ヨコナデ、スス付着 内：ヨコナデ、指押さえナデ(生)	90-1	未掲載
160 123	—	弥生土器甕	第11-2a面	流路1	III~IV様式	口径：21.0(1/8)	外：ヨコナデ、ヘラミガキ 内：ヨコナデ、ヘラミガキ	90-1	未掲載
160 124	—	弥生土器甕	第11-2a面	流路1	V様式	口径：11.6(1/4弱)	外：ヨコナデ、スス付着 内：一(生)	90-1	未掲載
160 125	—	弥生土器甕	第11-2a面	流路1	V様式	口径：20.8(1/10)	中部瀬戸内系 外：列点文、ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、指押さえナデ(生)?	90-1	未掲載
160 126	—	弥生土器甕底部	第11-2a面	流路1	II~III様式	底径：6.4~6.8(宗)	外：ヘラミガキ、ナデ 内：ヘラ削り(生)	90-1	未掲載
160 127	—	弥生土器高杯	第11-2a面	流路1	II?様式	口径：8.9(1/4)	外：一 内：ナデ	90-1	未掲載
160 128	—	弥生土器高杯片	第11-2a面	流路1	V 様式	小片	外：刻目凸部、板ナデ?後ヘラミガキ 内：ヘラミガキ	90-1	未掲載
160 129	—	弥生土器高杯片	第11-2a面	流路1	V 様式	脚径：5.0(宗)	外：ヘラミガキ 内：ヘラミガキ(生)	90-1	未掲載
160 130	—	弥生土器高杯脚	第11-2a面	流路1	V-0様式	脚径：4.2(宗)	外：ハケメの後ヘラミガキ? 内：ヘラ削り(生)	90-1	未掲載
160 131	—	弥生土器高杯脚	第11-2a面	流路1	V様式	脚径：3.8(宗)	外：刺線文、直線文 (4+α条) 内：しぼり目	90-1	未掲載
160 132	—	弥生土器高杯脚	第11-2a面	流路1	M様式	脚径：3.5(宗)	外：ヘラミガキ、透かし3方向 内：ナデ、しぼり目、工具痕	90-1	未掲載
160 133	—	弥生土器高杯脚	第11-2a面	流路1	VI-2様式	脚径：3.3(宗)	外：平行タタキ?ナデ、ヘラミガキ、透かし3方向 内：ハケメ、指ナデ(生)	90-1	未掲載
160 134	—	弥生土器高杯脚	第11-2a面	流路1	M様式	脚径：3.7(宗)	外：ヘラミガキ、透かし3方向 内：ヘラミガキ、板ナデ、ナデ(生)	90-1	未掲載
160 135	—	弥生土器高杯脚	第11-2a面	流路1	V様式	脚径：3.9(宗)	外：ヘラミガキ、透かし4方向 内：ヘラミガキ、しぼり目、ナデ(生)	90-1	未掲載
160 136	—	弥生土器高杯脚	第11-2a面	流路1	V様式	脚径：4.7(宗)	外：沈線文(後)、ヘラミガキ、透かし5方向下4方向 内：接合面ハケメ、しぼり目、ハケメ(生)?	90-1	未掲載
160 137	—	弥生土器高杯脚	第11-2a面	流路1	V様式	脚径：7.7~7.9(45)	外：ハケメ、ヨコナデ 内：ナデ	90-1	未掲載
160 138	—	弥生土器高杯脚	第11-2a面	流路1	V様式	脚径：9.0(1/5)	外：ハケメ、ヨコナデ、透かし4方向 内：ナデ、ハケメ、ナデ	90-1	未掲載
160 139	—	弥生土器高杯脚	第11-2a面	流路1	III-2様式	脚径：4.0(宗)	外：ヘラミガキ、ハケメ 内：ヘラミガキ?ナデ(生)	90-1	未掲載
161 140	109	弥生土器鉢	第11-2a面	流路1	V様式	口径：16.3(1/4) 底径：4.2(宗) 現高：9.5	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ヘラミガキ、相いハケメ後ヘラミガキ	90-1	未掲載
161 141	—	弥生土器鉢	第11-2a面	流路1	M様式	口径：23.2(1/8)	外：ヨコナデ、平行タタキ後ナデ 内：一	90-1	未掲載
161 142	—	弥生土器鉢	第11-2a面	流路1	M様式	口径：25.0(1/5)	外：ヨコナデ、ハケメ、指押さえ 内：指押さえナデ	90-1	未掲載
161 143	109	弥生土器鉢	第11-2a面	流路1	V~VI様式	口径：13.6~14.3(2/3) 底径：5.2~6.0(一部欠) 器高：7.7~8.2	外：ナデ後ハケメ、指押さえ 内：指押さえナデ	90-1	X II-91-4
161 144	—	弥生土器鉢	第11-2a面	流路1	M様式	口径：13.6(1/6) 底径：4.4(宗) 現高：7.8	外：指押さえナデ 内：ハケメ(生)	90-1	未掲載
161 145	—	弥生土器鉢	第11-2a面	流路1	M様式	口径：13.4(1/3) 底径：4.2~4.5(宗) 現高：7.6	外：ナデ、指押さえ 内：ハケメ(生)	90-1	未掲載
161 146	—	弥生土器鉢	第11-2a面	流路1	M様式	口径：14.4(扁平のみ) 底径：3.7~4.0(宗) 現高：8.3	外：指押さえ、ハケメ、平行タタキ 内：ハケメ(生)	90-1	未掲載
161 147	—	弥生土器鉢	第11-2a面	流路1	M様式	口径：13.5~13.6(3/4) 底径：3.8~4.2(宗) 器高：6.1~6.6	外：ハケメ 内：ハケメ	90-1	X II-96-5
161 148	110	弥生土器有孔鉢	第11-2a面	流路1	M様式	口径：13.3(3/4) 底径：3.9~4.1(宗) 器高：6.3~6.8 孔径：0.6~0.8	外：指押さえナデ 内：ハケメ(生)?	90-1	未掲載
161 149	—	弥生土器鉢底部	第11-2a面	流路1	V~VI様式	底径：3.9(宗)	外：ハケメ 内：ハケメ(生)?	90-1	未掲載
161 150	—	弥生土器鉢底部	第11-2a面	流路1	V~VI様式	底径：3.2~4.3(一部欠)	外：ハケメ、指ナデ 内：ハケメ(生)	90-1	未掲載
161 151	—	弥生土器脚	第11-2a面	流路1	M様式	脚径：8.4(1/2強)	外：凹線文(後)ハケメ、ヘラ痕 内：ナデ、ハケメ、ヨコナデ	90-1	未掲載
161 152	—	弥生土器脚	第11-2a面	流路1	M様式	脚径：8.5(4/5)	外：ナデ、ハケメ後ナデ、ヨコナデ 内：ナデ、工具痕、ヨコナデ(生)?	90-1	未掲載
161 153	110	弥生土器二重アツ鉢	第11-2a面	流路1	V~VI様式	口径：4.7(一部欠) 底径：3.0~3.1(宗) 器高：3.0~3.4	外：ナデ 内：指ナデ(生)	90-1	未掲載
161 154	110	弥生土器二重アツ鉢	第11-2a面	流路1	V~VI様式	口径：5.4(宗) 底径：1.8~1.9(宗) 器高：3.1~3.3	外：指押さえナデ 内：指押さえナデ(生)	90-1	未掲載
161 155	110	弥生土器二重アツ鉢	第11-2a面	流路1	V~VI様式	口径：8.1(一部欠) 底径：4.3(2/3) 器高：4.3~5.0	外：指押さえナデ 内：指ナデ 工具痕	90-1	未掲載
161 156	110	弥生土器二重アツ鉢	第11-2a面	流路1	V~VI様式	口径：9.5~10.3(2/3) 底径：3.7~3.9(宗) 器高：5.2~6.1	外：指押さえナデ後板ナデ 内：板ナデ	90-1	未掲載
161 157	—	弥生土器二重アツ鉢	第11-2a面	流路1	V~VI様式	脚径：3.5~3.7(宗) 現高：5.3	外：板ナデ 内：ナデ、ナデ一部ハケメ(生)	90-1	未掲載
161 158	—	弥生土器器台片	第11-2a面	流路1	V様式	小片	外：波状文(4条)、内形竹管浮文、刻目 内：一(生)	90-1	未掲載
161 159	—	弥生土器器台片	第11-2a面	流路1	IV-3様式	小片	外：頸部凹線文4条、凹形浮文 内：一(生)?	90-1	未掲載
161 160	—	弥生土器器台	第11-2a面	流路1	V様式	口径：17.0(1/4)	外：頸部上下刻目、相いハケメ 内：ヘラミガキ(生)?	90-1	未掲載
161 161	—	弥生土器器台	第11-2a面	流路1	V様式	口径：17.0(1/5)	外：頸部文、ハケメ 内：ハケメ(生)?	90-1	未掲載

図版番号	写真番号	器種	層序	遺構	時期	法量 (cm)	特徴	調査年度	標取地番号
161	162	弥生土器器台?	第11-2a面	流路1	V~VI様式	口径:17.5(1/5)	外:ヨコナデ 内:ナデ	90-1	未掲載
161	163	弥生土器器台?	第11-2a面	流路1	弥生時代	現長:31.2-26.5 最大幅:14.7 最大厚:9.8	樹種:アカガシ 裏面凹みか使用痕か	90-1	未掲載
161	164	木製榫	第11-2a面	流路1	弥生時代	長さ:83.8 短辺:26.1 現高:3.2	樹種:ヒノキ 頭は欠失して痕跡のみ	90-1	XII-94-1
162	1	弥生土器器台	第11-2a面	流路2	VI-2様式	口径:11.1~11.3(一部欠) 底径:若干のみ 現高:21.6	外:ヨコナデ、ハケメ、平行タタキ 内:ヨコナデ、ハケメ、ヘラナデ、ハケメ(生)	92-7	XIV-59-2
162	2	弥生土器器台	第11-2a面	流路2	V-3~VI様式	底径:5.1(一部欠)	外:ハケメ、粗いハケメ、平行タタキ後細いハケメ 内:指押さえナ	92-7	XIV-59-1
162	3	弥生土器器台	第11-2a面	流路2	VI-1様式	口径:12.1(一部欠) 底径:4.0~4.7(劣) 器高:17.5	外:ヨコナデ、ハケメ 内:ヨコナデ(生)	90-1	XII-92-12
162	4	弥生土器器台	第11-2a面	流路2	VI-1様式	口径:12.9(1/7) 底径:4.3(劣) 現高:19.1	外:彌部弥文2条、凹形竹管浮文、ナデ、ヘラミカキ、底面もヘラミカキ	90-1	XII-92-11
162	5	弥生土器器台	第11-2a面	流路2	V-2様式	口径:15.6(2/5)	内:ナデ、ヘラミカキ、底ナデ? (生)?	90-1	未掲載
162	6	弥生土器器台	第11-2a面	流路2	V様式?	口径:16.0(1/4)	外:彌部凹形浮文、ヨコナデ、ハケメ後ヘラミカキ 内:ヘラミカキ、一次的磨成を受ける(生)	90-1	未掲載
162	7	弥生土器器台	第11-2a面	流路2	V~VI様式	口径:9.6(1/3)	外:ヨコナデ、ナデ? 内:ヨコナデ、ヘラ削り	92-7	未掲載
162	8	弥生土器器台	第11-2a面	流路2	V様式	口径:12.2(1/7)	外:ヨコナデ、平行タタキの後ハケメ 内:ヨコナデ、ヘラナデ(生)	92-7	未掲載
162	9	弥生土器器台	第11-2a面	流路2	V様式	口径:12.0(1/5)	外:ヨコナデ、ハケメ 内:ハケメ	90-1	未掲載
162	10	弥生土器器台	第11-2a面	流路2	V~VI様式	口径:14.0(1/4)	外:ヨコナデ、平行タタキ(3条/cm) 内:ヨコナデ、指押さえナデ、ス	92-7	未掲載
162	11	弥生土器器台	第11-2a面	流路2	V~VI様式	口径:14.4(1/7)	外:ヨコナデ、平行タタキ(3条/cm)、スス付着 内:ヨコナデ、指押さ	92-7	未掲載
162	12	弥生土器器台	第11-2a面	流路2	VI様式	口径:14.8(1/4)	外:ヨコナデ、平行タタキ(2条/cm)の後縁ナデ、スス付着 内:ヨコ	92-7	XIV-59-3
162	13	弥生土器器台	第11-2a面	流路2	V-3様式	口径:16.0(1/6弱)	外:ヨコナデ、スス付着 内:ヨコナデ、指押さえナデ、ヘラ削り?(生)	92-7	未掲載
162	14	弥生土器器台	第11-2a面	流路2	V-3様式	口径:16.5(1/5)	外:ヨコナデ、スス付着 内:ヨコナデ、スス付着	92-7	未掲載
162	15	弥生土器器台	第11-2a面	流路2	IV-3様式	口径:18.5(3/4)	外:列点文、ヘラミカキ、スス付着 内:ヨコナデ、放射状ヘラミカキ、	90-1	未掲載
162	16	弥生土器器台	第11-2a面	流路2	V-3様式	口径:26.0(1/7) 踏径:14.4(2/5) 現高:17.5	外:ヨコナデ後ヨコヘラミカキ、ヘラミカキ、ハケメ後ヘラミカキ、透か	90-1	未掲載
162	17	弥生土器器台	第11-2a面	流路2	V様式	口径:16.6(1/4) 底径:4.7(1/2) 現高:10.9	外:ヘラ削り 内:ヨコナデ、ヘラミカキ(生)	92-7	XIV-59-4
162	18	弥生土器器台	第11-2a面	流路2	V~VI様式	口径:14.8(6/7) 底径:2.6(劣) 器高:9.5 孔径:0.8~	外:平行タタキ(3条/cm)、ヘラナデ 内:ヨコナデ、ヘラミカキ(生)	90-1	未掲載
162	19	弥生土器器台	第11-2a面	流路2	VI様式	踏径:7.9~8.0(一部欠)	外:ヨコナデ、ナデ 内:ナデ、ヨコナデ、スス付着(生)	90-1	未掲載
162	20	弥生土器器台	第11-2a面	流路2	VI様式	踏径:6.2~6.9(一部欠)	外:ナデ、指押さえ 内:底ナデ、指押さえ(生)	90-1	未掲載
163	22	木製直柄高杯	第11-2a面	流路2	V様式	現長:11.8 現高:28.0 最大厚:0.85	樹種:アカガシ 加工痕不明、一部炭化している	90-1	未掲載
163	23	木製高杯	第11-2a面	流路2	弥生時代	現長:68.4 最大幅:8.4 最大厚:1.8	樹種:アカガシ 加工痕不明、一部炭化している	90-1	未掲載
163	24	木製高杯	第11-2a面	流路2	弥生時代	現長:43.2 最大幅:3.4 最大厚:3.3	樹種:ヒノキ 加工痕不明、先端炭化	90-1	未掲載
164	1	弥生土器器台	第11-2a層	流路2	V-3様式	口径:12.9(1/4弱)	外:ヨコナデ、ハケメ後ヘラミカキ 内:ヨコナデ、指押さえナデ	93-1	未掲載
164	2	弥生土器器台	第11-2a層	流路2	V-3様式	口径:14.0(1/4弱)	外:平行タタキ後ヘラミカキ 内:ヨコナデ、指押さえナデ(生)	93-1	未掲載
164	3	弥生土器器台	第11-2a層	流路2	V-2様式	口径:13.0(1/3)	外:ヨコナデ、ハケメ 内:一部ハケメ、板ナデ?	93-1	未掲載
164	4	弥生土器器台	第11-2a層	流路2	V様式	底径:4.8~5.0(劣)	外:ヘラミカキ 内:ナデの後ヘラミカキ	90-5	III-59
164	5	弥生土器器台	第11-2a層	流路2	V~VI様式	口径:14.4(1/10)	外:ヨコナデ、平行タタキ(2条/cm)、スス付着 内:ヨコナデ、板ナデ	93-1	XV-92-3
164	6	弥生土器器台	第11-2a層	流路2	V様式	口径:15.0(1/8)	外:ヨコナデ、平行タタキ後一部ハケメ 内:ヨコナデ、ヘラ削り(生)	89-1	I-85-2
164	7	弥生土器器台	第11-2a層	流路2	VI様式	口径:17.0(1/2)	外:ヨコナデ、平行タタキ後一部ハケメ 内:ヨコナデ(生)	90-5	未掲載
164	8	弥生土器器台	第11-2a層	流路2	V様式	底径:5.7(一部欠)	外:平行タタキ 内:—(生)	90-2(H2)	未掲載
164	9	弥生土器器台	第11-2a層	流路2	V-O様式	口径:14.6(1/5)	中部瀬戸内系? 外:刺突文、端部ハケメ、ヨコナデ、ナデ、スス付着	92-6	未掲載
164	10	弥生土器器台	第11-2a層	流路2	IV-1様式	口径:10.8(1/4)	外:ヨコナデ、スス付着 内:ヨコナデ、ヘラミカキ、ハケメ、ナデ、一	92-6	XIV-19-2
164	11	弥生土器器台	第11-2a層	流路2	IV-2様式	口径:14.9(1/3)	外:ヨコナデ、粗いハケメ、ヘラ削りの後ヘラミカキ、スス付着 内:ヨ	89-3	I-99-2
164	12	弥生土器器台	第11-2a層	流路2	IV様式	底径:4.8(劣)	外:ヨコナデ、スス付着 内:指押さえ、ヘラ削り?(生)	92-6(D)	未掲載
164	13	弥生土器器台	第11-2a層	流路2	I-3様式	口径:25.3(若干のみ)	外:ハケメ、スス付着 内:指押さえ、ヘラ削り?(生)	90-6	未掲載
164	14	弥生土器器台	第11-2a層	流路2	V-O様式	口径:17.6(1/5)	外:凹線5条、ヘラミカキ 内:ヘラミカキ、ヘラ削り(生)	90-3(A)	未掲載
164	15	弥生土器器台	第11-2a層	流路2	V-2様式	口径:21.6(1/8)	外:ヘラミカキ 内:ヘラミカキ(生)	93-1(B)	未掲載
164	16	弥生土器器台	第11-2a層	流路2	V-2様式	口径:29.0(1/6)	外:ヘラミカキ 内:ヘラミカキ(生)	XV-92-4	未掲載
164	17	弥生土器器台	第11-2a層	流路2	V-O様式	脚径:4.8(劣)	外:ヘラミカキ 内:しぼり目(生)	XV-92-6	未掲載
164	18	弥生土器器台	第11-2a層	流路2	V-O様式	脚径:4.6(劣)	外:ヘラミカキ、透かし3方向、スス付着 内:指押さえ、ナデ(生)	93-1	XV-92-5
164	19	弥生土器器台	第11-2a層	流路2	V-2様式	脚径:4.2(劣)	外:ヘラミカキ、透かし3方向、スス付着 内:指押さえ、ナデ(生)	93-1	XV-92-7
164	20	弥生土器器台	第11-2a層	流路2	V-2様式	脚径:9.6(1/2弱)	外:ヘラミカキ、ヨコナデ、透かし4方向 内:ナデ、工具痕、しぼり目	93-1	XV-92-8
164	21	弥生土器器台	第11-2a層	流路2	VI様式	口径:11.5~11.7(2/3) 底径:3.6(2/3) 器高:6.4	外:指押さえ 内:ハケメ後ナデ	89-3	I-99-3
164	22	弥生土器器台	第11-2a層	流路2	VI様式	底径:4.4(2/3)	外:ナデ 内:指押さえナデ	89-1	I-85-3
164	23	弥生土器器台	第11-2a層	流路2	VI様式	底径:4.6(劣)	外:— 内:ハケメ(生)	X-35-3	未掲載
165	24	凹式石皿	第11-2a層	流路2	弥生時代中期	長さ:3.6 幅:1.8 厚さ:0.4 重さ:2.0g	外:ヤカイト b面大側面が残る。	93-2(B)	XVI-43-1
165	25	凹式石皿	第11-2a層	流路2	弥生時代中期	現長:5.65 幅:2.4 厚さ:0.6 重さ:5.4g	外:ヤカイト	93-2(C)	XVI-43-2
165	26	石皿	第11-2a層	流路2	弥生時代	現長:4.8 幅:1.9 厚さ:0.8 重さ:7.1g	外:ヤカイト 鐘部の断面はかまぼこ状	93-2(C)	XVI-43-2

図版番号	写真番号	器種	層序	遺構	時期	法量 (cm)	特徴	調査年度	概要掲載番号
165 27	113	スクレイパー	第11-2a層	弥生時代	長：5.25 幅：7.35 厚さ：0.7 重さ：24.4g 口径：12.0(3/4) 底径：5.9~6.4(完) 器高：18.3~19.4	サスカイト 剥片の一端を微細割削したもの、a面に自然面残る 外：ヨコナテ、ハケム、ヘラ削り 内：ヨコナテ、指押さえ後ハケム 内：(生)	93-1 93-2(D) 93-2(O) 93-1(B) 93-1(B) 93-1(B) 93-1(B)	XV-92-9 XVI-45-1 XVI-45-2 XV-83-25 XV-83-26 XV-85-46	
165 28	113	弥生土器壺	第11-2a層下部	V様式	口径：13.5(1/8) 底径：5.4(1/2) 器高：35.6	外：ヘラミガキ 内：ヘラ削り後ヘラミガキ (生)	93-1(B)	XV-83-25	
165 29	113	弥生土器壺	第11b面	V-1様式	口径：12.8(1/2) 底径：4.7~4.8(完) 器高：26.9~27.6	外：記号文(竹管文3)、ヨコナテ、ハケム後ヘラミガキ 内：ヨコナテ、指押さえの後ヘラミガキ、ハケム	93-1(B)	XV-83-26	
168 1	113	弥生土器長頸壺	第11b面	V-2様式	口径：11.7(2/3) 底径：5.1(2/3)	外：記号文(竹管文3)、ヨコナテ、ハケム後ヘラミガキ 内：ヨコナテ、指押さえの後ナテ、ハケム	93-1(B)	XV-85-46	
168 3	113	弥生土器長頸壺	第11b面	V-2様式	口径：12.7(1/4)	外：記号文(竹管文3)、ヨコナテ、ハケム後ヘラミガキ 内：ヨコナテ、指押さえの後ナテ、ハケム	93-1(B)	XV-90-88	
168 4	113	弥生土器長頸壺	第11b面	V-1様式	口径：12.4~12.5(一部欠)	外：ヘラ削り後ナテ、ハケム後ヘラミガキ、指押さえ後ナテ、ハケム	93-1(B)	XV-83-29	
168 5	114	弥生土器長頸壺	第11b面	V-1~2様式	口径：14.0(1/6)	外：ヨコナテ、ハケム後ヘラミガキ 内：ヨコナテ、ハケム、指押さえ後ヘラミガキ (生)	93-1(B)	未掲載	
168 6	114	弥生土器長頸壺	第11b面	V-1~2様式	口径：12.0(1/4)	外：ハケム後ヘラミガキ 内：ヨコナテ、指押さえ後ヘラミガキ (生)	93-1(B)	未掲載	
168 7	114	弥生土器長頸壺	第11b面	V-1様式	口径：11.7(1/3)	外：平行タタキ後ナテ、ヘラミガキ 内：ヨコナテ、ヘラ削り (生) ?	93-1(B)	未掲載	
168 8	114	弥生土器長頸壺	第11b面	V-2様式	口径：12.6(2/3)	外：ヨコナテ、ハケム後ヘラミガキ 内：ヨコナテ、指押さえ後ヘラミガキ	93-1(B)	XV-83-28	
168 9	114	弥生土器長頸壺	第11b面	V-2様式	底径：5.5(一部欠)	外：一部ハケム、ヘラミガキ、底部工具痕 内：指押さえ、ハケム、ナテ (生)	93-1(B)	XV-85-47	
168 10	114	弥生土器長頸壺	第11b面	V-1様式	頸部径：9.5(完) 底径：5.3~5.6(完)	外：斜目、股付凸帯、ハケム後ヘラミガキ、頸部に赤色顔料塗布、底面にヘラ削り 内：指押さえ後ナテ、ハケム	93-1(B)	XV-83-27	
168 11	114	弥生土器長頸壺	第11b面	V-2様式	頸部径：11.3(完)	外：ヘラミガキ	93-1(B)	XV-88-65	
168 12	114	弥生土器長頸壺	第11b面	V-2様式	頸部径：9.4(完)	外：ヘラミガキ 内：一、いびつ (生)	93-1(B)	XV-85-48	
169 1	114	弥生土器長頸壺	第11b面	V-2~3様式	底径：5.2(完)	外：ヘラミガキ、指押さえ、一部ハケム 内：ヘラミガキ (生) ?	93-1(B)	XV-80-4	
169 15	114	弥生土器長頸壺 ?	第11b面	V-3様式	口径：16.4(1/7)	外：ヨコナテ後ヘラミガキ 内：ヨコナテ一部ヘラミガキ (生)	93-1(B)	未掲載	
169 16	114	弥生土器壺	第11b面	V様式	口径：14.1~14.2(完)	外：ヘラミガキ、ハケム後ヘラミガキ 内：ハケム、ナテ、指押さえ後ナテ	93-1(B)	XV-88-66	
169 17	114	弥生土器壺	第11b面	V-2様式	口径：11.3(1/2) 底径：5.7(完) 器高：23.7	外：ヘラミガキ、ハケム 内：(生)	93-1(B)	XV-86-49	
169 18	114	弥生土器壺	第11b面	V様式	口径：14.3(1/4)	外：ヨコナテ、ハケム 内：ヨコナテ、ハケム、ナテ	93-1(B)	未掲載	
169 19	114	弥生土器壺	第11b面	V様式	口径：11.2~11.4(3/4) 底径：5.2~5.7(完) 器高：28.3~28.9	外：ヨコナテ、ヘラミガキ、ヘラ削り後のヘラミガキ、スス付蓋 内：ヨコナテ、ナテ、短ナテ、ナテ (生)	93-1(B)	XV-90-89	
169 20	115	弥生土器壺	第11b面	V-0様式	口径：19.5(1/2)	外：ハケム、指押さえ後ナテ、指押さえ後ヘラ削り後ヘラミガキ	93-1(B)	XV-84-31	
169 21	115	弥生土器壺	第11b面	V様式	底径：4.4(一部欠)	外：ハケム ? 内：工具痕 (生)	93-1(B)	XV-81-15	
169 22	115	弥生土器壺	第11b面	V様式	底径：5.8(一部欠)	外：ヘラ削り、ナテ ? スス付蓋 内：短ナテ (生)	93-1(B)	XV-91-96	
169 23	115	弥生土器壺	第11b面	V様式	底径：4.3~4.4(完)	吉備系の影響 外：凹線文2条、ヘラミガキ ?、ヘラミガキ 内：指押さえナテ (生)	93-1(B)	XV-82-22	
169 24	115	弥生土器壺	第11b面	V様式	口径：7.7(1/2) 底径：4.5~4.6 器高：12.5~12.7	外：ヨコナテ、ハケム 内：ナテ、ヘラ削り ? (生)	93-1(B)	XV-90-90	
169 25	117	弥生土器壺	第11b面	V様式	口径：8.3~8.5(1/3) 底径：5.1~5.3(一部欠) 現高：12.4~13.6	外：ヨコナテ、ヘラミガキ、スス付蓋 内：ヘラミガキ、ヘラ削り	93-1(B)	XV-90-91	
169 26	117	弥生土器壺	第11b面	皿様式	口径：6.6(若干のみ)	外：凹線文(7、7条)、直線文(7条)、ヘラミガキ ?、ヘラミガキ 内：指押さえナテ、短いハケム	93-1(B)	XV-82-23-24	
170 27	116	弥生土器壺	第11b面	V-0様式	口径：12.2(1/4)	外：ヨコナテ、ハケム、スス付蓋 内：ヨコナテ、指押さえ、ヘラ削り (生)	93-1(B)	XV-81-6	
170 28	116	弥生土器壺	第11b面	V-0様式	口径：13.4(1/4)	外：ヨコナテ、ハケム ?、スス付蓋 内：ヨコナテ、ヘラ削り	93-1(B)	XV-81-7	
170 29	116	弥生土器壺	第11b面	V-1様式	口径：15.0(1/4) 底径：5.1(完) 現高：14.2~15.0	外：ヨコナテ、ナテ、スス付蓋 内：ヨコナテ、指押さえナテ、ヘラ削り、スス付蓋 (生)	93-1(B)	XV-85-40	
170 30	116	弥生土器壺	第11b面	V-0様式	口径：11.4(1/2脚) 底径：4.6(1/4) 推高：17.0	外：ヨコナテ、ハケム、スス付蓋 内：ヨコナテ、ヘラ削り (生)	93-1(B)	XV-87-60	
170 31	116	弥生土器壺	第11b面	V-0様式	口径：15.6(1/5)	外：ヨコナテ、ハケム、スス付蓋 内：ヨコナテ、ヘラ削り	93-1(B)	XV-87-59	
170 32	116	弥生土器壺	第11b面	V様式	口径：15.2(1/2)	外：ヨコナテ、ハケム、スス付蓋 内：ハケム、ヘラ削り (生)	93-1(B)	XV-89-75	
170 33	116	弥生土器壺	第11b面	V様式	口径：16.2(1/10)	外：ヨコナテ、ハケム、スス付蓋 内：ハケム、ヘラ削り (生)	93-1(B)	XV-89-76	
170 34	116	弥生土器壺	第11b面	V様式	口径：15.0(1/5)	外：ヨコナテ、ナテ、ハケム ?、ヘラ削り、スス付蓋 内：ヨコナテ、ヘラ削り (生)	93-1(B)	XV-89-77	
170 35	116	弥生土器壺	第11b面	V-0様式	口径：16.8(1/2脚)	外：ヨコナテ、ヘラ削り後一部ハケム、スス付蓋 内：ヨコナテ、ハケム、短ナテ (生)	93-1(B)	XV-89-79	
170 36	116	弥生土器壺	第11b面	V-1様式	口径：12.5~13.1(完) 底径：5.0~5.2(完) 器高：18.5~18.8	外：ヨコナテ、ハケム、スス付蓋 内：ヨコナテ、ヘラ削り (生)	93-1(B)	XV-81-8	
170 37	116	弥生土器壺	第11b面	V-0様式	口径：15.3(1/2) 底径：4.9(1/2) 器高：21.7~22.5	外：ヨコナテ、短いハケムか板ナテ、スス付蓋 内：ヨコナテ、指押さえ、ヘラ削り、スス付蓋 (生)	93-1(B)	XV-81-12	
170 38	116	弥生土器壺	第11b面	V-0様式	口径：17.0(1/4脚~2/5) 底径：5.2(一部欠) 器高：23.5	外：ヨコナテ、工具痕 ?、ハケム、スス付蓋 内：ヨコナテ、ヘラ削り (生)	93-1(B)	XV-81-13	
170 39	116	弥生土器壺	第11b面	V-0様式	底径：7.5(3/5)	外：ハケム、部分的にスス付蓋 内：ヘラ削り	93-1(B)	XV-89-82	
170 40	116	弥生土器壺	第11b面	V様式	底径：5.0(1/2)	外：平行タタキ(2条cm)の後一部ハケムか板ナテ、焼成後穿孔1ナテ、ヘラ削り	93-1(B)	XV-81-11	
170 41	116	弥生土器壺	第11b面	V-3様式	口径：17.2(1/3+1/4)	外：ヨコナテ、平行タタキ(2条cm)の後ハケム、スス付蓋 内：ヨコナテ、ヘラ削り (生)	93-1(B)	XV-85-41-42	
170 42	116	弥生土器壺	第11b面	V様式	底径：4.5(完)	外：平行タタキ後ハケム、スス付蓋 内：一 (生)	93-1(B)	XV-87-62	
171 43	116	弥生土器壺	第11b面	V-3様式	口径：16.3(若干のみ)	外：ヨコナテ、平行タタキ後ハケム後平行タタキ、スス付蓋 内：ヨコナテ、ヘラ削り	93-1(B)	XV-87-63	



図版番号	写真番号	器種	層序	遺構	時期	法量 (cm)	特徴	調査年度	概要掲載番号	
171 44	115	弥生土器甕	第11b面	溝30	V-3様式	口径：17.0(1/2) 底径：5.3~5.5(一部欠) 器高：23.0~23.3	外：ヨコナテ、平行タタキ後ナデまたはハケメ、スス付着 内：ヨコナテ、ヘラ削り、ナデ (生)	93-1(B)	XV-82-21	
171 45	115	弥生土器甕	第11b面	溝30	V-3様式	口径：17.8(端部欠) 底径：5.7~5.8(一部欠) 現高：29.5~30.1	外：端部凹線文2条、平行タタキ (2条/cm) 後一部ハケメ、スス付着 内：ヨコナテ、ナデ、スス付着	93-1(B)	XV-82-18	
171 46	—	弥生土器甕	第11b面	溝30	V様式	口径：13.5(1/3)	口径：16.1~16.3(一部欠)	93-1(B)	XV-81-5	
171 47	—	弥生土器甕	第11b面	溝30	V様式	口径：14.2~14.5(突)	口径：16.1~16.3(一部欠)	93-1(B)	XV-80-1	
171 48	—	弥生土器甕	第11b面	溝30	V-1様式	口径：14.0(4/5) 底径：4.9~5.0(突) 器高：16.9	外：ヨコナテ、ハケメ、スス付着 内：ヨコナテ、指押さえナデ (生)	93-1(B)	XV-87-58	
171 49	115	弥生土器甕	第11b面	溝30	V様式?	口径：4.3(突)	口径：14.0(4/5) 底径：4.9~5.0(突) 器高：16.9	外：指押さえ後ヨコナテ、スス付着 内：ヨコナテ、指押さえナデ (生)	93-1(B)	XV-85-39
171 50	—	弥生土器甕底部	第11b面	溝30	V様式?	底径：4.3~5.1(突)	口径：4.3(突)	外：底部ヘラ削り、スス付着 内：— (生)	93-1(B)	XV-81-9
171 51	—	弥生土器甕底部	第11b面	溝30	V様式?	底径：4.8(1/2)	口径：4.3~5.1(突)	外：ハケメ、内：ハケメ、後ナデ (生)	93-1(B)	XV-85-43
171 52	—	弥生土器甕底部	第11b面	溝30	V様式?	底径：10.9~10.7(4/5)	口径：4.8(1/2)	外：ハケメ、ヘラ削り、スス付着 内：板ナデ (生)	93-1(B)	XV-87-61
171 53	—	弥生土器甕底部	第11b面	溝30	IV様式?	口径：15.6(1/3)	底径：10.9~10.7(4/5)	外：ハケメ、底面工具ナデ、スス付着 内：指押さえ (生)	93-1(B)	XV-89-81
171 54	—	弥生土器甕底部	第11b面	溝30	IV様式?	口径：4.9(突)	口径：15.6(1/3)	外：ヘラ削り、ナデ、スス付着 内：ハケメ、ナデ (生)	93-1(B)	XV-87-57
171 55	—	弥生土器甕底部	第11b面	溝30	IV様式?	口径：8.4(若干のみ) 底径：4.1(2/3) 現高：11.0	口径：4.9(突)	外：ハケメ後ヘラ削り、スス付着 内：ヘラ削り、ナデ、スス付着	93-1(B)	XV-81-10
171 56	—	弥生土器小形甕	第11b面	溝30	IV様式?	口径：8.4(若干のみ) 底径：4.1(2/3) 現高：11.0	口径：8.4(若干のみ) 底径：4.1(2/3) 現高：11.0	外：ヨコナテ、平行タタキ?の後ヘラ削り、スス一部付着 内：ヘラ削り、ナデ、スス付着	93-1(B)	XV-89-73
171 57	—	弥生土器甕	第11b面	溝30	IV様式?	口径：5.0(1/2強)	口径：5.0(1/2強)	外：ハケメ後ヘラ削り、スス付着 内：ハケメ後ヘラ削り、スス付着 (生)	93-1(B)	XV-85-38
171 58	116	弥生土器鉢	第11b面	溝30	V様式	口径：12.3~12.8(5/6) 底径：6.5~6.7(一部欠) 器高：14.2	中部瀬戸内系 外：ヨコナテ、ハケメ、ヘラ削り、ハケメ、ヘラ削りの後部分的ヘラ削り、スス付着 内：ヨコナテ、ヘラ削り	93-1(B)	XV-89-74	
171 59	—	弥生土器甕	第11b面	溝30	V-3~VI様式	口径：15.2(一部欠)	口径：15.2(一部欠)	近江系? 外：端部凹線文2条、肩部に刺突文、ヨコナテ、ハケメ、スス付着 内：ヨコナテ、ヘラ削り (生)	93-1(B)	XV-80-2
171 60	116	弥生土器甕	第11b面	溝30	V-3~VI様式	口径：14.5(1/3) 底径：5.0(2/3) 現高：19.8~20.2	口径：14.5(1/3) 底径：5.0(2/3) 現高：19.8~20.2	近江系? 外：ヨコナテ、肩部刺突文、平行タタキの後ハケメ、スス付着 内：ヨコナテ、指押さえナデ、ヘラ削りの後ナデ (生)	93-1(B)	XV-82-20
171 61	—	弥生土器甕	第11b面	溝30	V-3~VI様式	口径：17.3(4/5)	口径：17.3(4/5)	近江系 外：端部と肩部に刺突文、ヨコナテ、ハケメ、スス付着 内：ヨコナテ、ハケメ (生)	93-1(B)	XV-82-19
171 62	—	弥生土器甕	第11b面	溝30	V-3~VI様式	口径：15.6(3/4)	口径：15.6(3/4)	近江系 外：端部刺突文、ヨコナテ、ハケメ、スス付着 内：ヨコナテ、指押さえナデ、スス付着 (生)?	93-1(B)	XV-89-80
172 63	116	弥生土器甕	第11b面	溝30	V様式	口径：33.0(1/2) 底径：7.5(一部欠) 器高：45.9	口径：33.0(1/2) 底径：7.5(一部欠) 器高：45.9	外：ヘラ削り、ヨコナテ、指押さえナデ、ハケメ、スス付着 (生)	93-1(B)	XV-87-64
172 64	—	弥生土器高杯	第11b面	溝30	V-0様式	口径：34.4(1/6+1/10)	口径：34.4(1/6+1/10)	外：端部凹線文(推定60)、ハケメ後ヘラ削り、ヨコナテ、ヘラ削り、ハケメ後ヘラ削り、ナデ (生)?	93-1(B)	XV-88-71
172 65	—	弥生土器高杯脚	第11b面	溝30	V-0様式	脚径：4.5(突)	脚径：4.5(突)	外：凹線文(6、5条)、ヘラミガキ、スス付着 内：しぼり目、ハケメ、スス付着	93-1(B)	XV-90-85
172 66	—	弥生土器高杯脚	第11b面	溝30	V-0様式	脚径：4.2(突)	脚径：4.2(突)	外：凹線文(5、3条)、ヘラミガキ、ハケメ後ヘラミガキ 内：ナデ	93-1(B)	XV-86-51
172 67	—	弥生土器高杯脚	第11b面	溝30	V-0様式	脚径：5.2(突)	脚径：5.2(突)	外：ヘラミガキ 内：しぼり目、ナデ (生)	93-1(B)	XV-90-86
172 68	—	弥生土器高杯脚	第11b面	溝30	V-0様式	脚径：4.7(突)	脚径：4.7(突)	外：— 内：ナデ?、ヘラ削り?、工具痕 (生)	93-1(B)	XV-84-32
172 69	—	弥生土器高杯脚	第11b面	溝30	V-0様式	脚径：14.8	脚径：14.8	外：ヘラミガキ、ハケメ?、ヨコナテ、透かし上下とも4方向 内：しぼり目、ヘラ削り、ハケメ、ヨコナテ	93-1(B)	XV-88-72
172 70	117	弥生土器高杯	第11b面	溝30	V-1様式	口径：26.6~26.8(一部欠) 脚径：14.4(1/2) 器高：17.7~18.3	口径：26.6~26.8(一部欠) 脚径：14.4(1/2) 器高：17.7~18.3	外：凹線文(5、5条)、刺突文、ヨコナテ、ヘラミガキ、ハケメヘラミガキ、透かし上下とも3方向 内：ヨコナテ、ハケメ、しぼり目 (生)	93-1(B)	XV-88-70・90-84
173 71	117	弥生土器高杯	第11b面	溝30	V-1様式	口径：33.7~34.7(7/8) 脚径：14.2(1/2強) 器高：20.7~23.0	口径：33.7~34.7(7/8) 脚径：14.2(1/2強) 器高：20.7~23.0	外：凹線文4条、ハケメ後ヘラミガキ?、タテヘラミガキ?、ハケメ、ハケメ?、ハケメヨコナテ、透かし4方向 内：ヨコナテ、ヘラミガキ、ヘラ削り?ヘラ削り? (生)	93-1(B)	XV-86-55
173 72	—	弥生土器高杯脚	第11b面	溝30	V-1様式	脚径：9.6~9.7(一部欠)	脚径：9.6~9.7(一部欠)	外：凹線文8条、ヘラミガキ、透かし4方向 内：しぼり目、ヨコナテ (生)	93-1(B)	XV-88-69
173 73	—	弥生土器高杯脚	第11b面	溝30	V-1様式	脚径：13.4(4/5)	脚径：13.4(4/5)	外：凹線文(5、7、10条)、刺突文、ヘラミガキ、透かし3方向 内：しぼり目、ヨコナテ (生)	93-1(B)	XV-86-52
173 74	—	弥生土器高杯脚	第11b面	溝30	V-1様式	脚径：15.9(突)	脚径：15.9(突)	外：脚部に凹線文2条、ヘラミガキ、透かし3段3方向 内：ヘラミガキ、しぼり目ナデ、ヨコナテ	93-1(B)	XV-86-56
173 75	—	弥生土器高杯	第11b面	溝30	V-2様式	口径：21.0(1/2) 脚径：12.8(1/7) 現高：12.5~13.5	口径：21.0(1/2) 脚径：12.8(1/7) 現高：12.5~13.5	外：ヨコナテ、ヘラミガキ、透かし4方向 内：ヨコナテ、ハケメ後ヘラミガキ?、指押さえナデ? (生)	93-1(B)	XV-84-36
173 76	—	弥生土器高杯	第11b面	溝30	V-1様式	口径：28.0(5/6)	口径：28.0(5/6)	外：ヨコナテ、ハケメ後ヘラミガキ 内：ヨコナテ、ヘラミガキ (生)	93-1(B)	XV-90-83
173 77	—	弥生土器高杯	第11b面	溝30	V-2様式	口径：27.0(1/7)	口径：27.0(1/7)	外：ヨコナテ、ハケメ後ヘラミガキ 内：ヘラミガキ (生)	93-1(B)	未掲載
173 78	117	弥生土器高杯	第11b面	溝30	V-2様式	口径：30.0(1/3) 脚径：14.6(一部欠) 現高：15.9~16.6	口径：30.0(1/3) 脚径：14.6(一部欠) 現高：15.9~16.6	外：ヘラミガキ、ハケメ後ヘラミガキ、透かし4方向 内：ヘラミガキ、ハケメ後ヘラミガキ、しぼり目、ナデ、ヨコナテ (生)	93-1(B)	XV-84-34
173 79	—	弥生土器高杯脚	第11b面	溝30	V-2様式	脚径：13.8(1/2)	脚径：13.8(1/2)	外：ハケメ、ヘラミガキ、ハケメ、透かし5方向 内：しぼり目、ナデ (生)	93-1(B)	XV-84-35
173 80	—	弥生土器高杯脚	第11b面	溝30	V-2様式	脚径：4.2(突)	脚径：4.2(突)	外：ヘラミガキ、透かし2段5方向 内：指ハケメ (生)	93-1(B)	XV-91-103
173 81	—	弥生土器高杯脚	第11b面	溝30	V-2様式	脚径：4.0(突)	脚径：4.0(突)	外：ハケメ、工具痕、2次焼成色、透かし現存1 内：しぼり目、ヨコナテ (生)	93-1(B)	XV-84-33
173 82	117	弥生土器高杯	第11b面	溝30	V-0様式	口径：16.8(1/4) 脚径：7.8(一部欠) 現高：12.2	口径：16.8(1/4) 脚径：7.8(一部欠) 現高：12.2	外：ヘラミガキ、透かし3方向 内：ヘラミガキ、しぼり目、ナデ	93-1(B)	XV-86-53
173 83	—	弥生土器高杯脚	第11b面	溝30	V-2様式	脚径：3.1~3.2(突)	脚径：3.1~3.2(突)	外：ヘラミガキ、透かし4方向 内：ヘラミガキ、ナデ (生)	93-1(B)	XV-84-37
173 84	—	弥生土器高杯脚	第11b面	溝30	V-3様式	脚径：4.0(突)	脚径：4.0(突)	外：ヘラミガキ、ナデ、ヘラミガキ 内：しぼり目、ハケメ (生)	93-1(B)	XV-91-102
173 85	—	弥生土器高杯脚	第11b面	溝30	V-1~2様式	脚径：3.4(突)	脚径：3.4(突)	外：ヘラミガキ?、透かし現存1 内：しぼり目、ナデ (生)	93-1(B)	XV-91-101
173 86	—	弥生土器高杯脚	第11b面	溝30	V-1様式	脚径：3.2(突)	脚径：3.2(突)	外：ヘラミガキ?、透かし現存1 内：しぼり目、ヘラ削り (生)	93-1(B)	XV-86-54
173 87	—	弥生土器高杯?	第11b面	溝30	V様式	脚径：8.0(1/3)	脚径：8.0(1/3)	外：ナデ、ヘラナデ 内：ヘラミガキ?、ヘラ削り	93-1(B)	XV-80-3

図版番号	写真番号	器種	層序	遺構	時期	法量 (cm)	特徴	調査年度	概要掲載番号
173 88	117	弥生土器高林脚	第11b面	溝30	備前 V-3様式	脚径径：19.6(1/8)	中部瀬戸内系 外：縄目文(7-8条斜線)2帯、貼付凸帯1条、透かし4-5方向、ヘラミカキ、ナデ、内：ナデ(生) ?	93-1(B)	XV-90-87
173 89	—	弥生土器高林脚	第11b面	溝30	備前 V-2様式	脚径径：17.0(1/12)	中部瀬戸内系 外：斜目貼付凸帯1条、裾端部斜目、ハケメ後ヘラミカキ、ハケメ、透かし5方向か 内：ハケメ	93-1(B)	XV-91-99
173 90	117	弥生土器高林脚	第11b面	溝30	備前 V-3様式	脚径径：19.0~19.5(実)	中部瀬戸内系 外：貼付凸帯、ヘラミカキ、ヨコナデ、部分的に赤色顔料塗布 ?、透かし5方向、スス付着 内：ハケメ、ヨコナデ(生)	93-1(B)	XV-86-50
174 91	117	弥生土器鉢	第11b面	溝30	V様式	口径：17.9~18.2(3/4) 底径：4.9~5.1(実) 器高：8.1~8.6	外：ヨコナデ、ナデ、指押さえ 内：ヨコナデ、板ナデ(生)	93-1(B)	XV-81-17
174 92	—	弥生土器鉢底部	第11b面	溝30	V様式	口径：4.0(1/2)	外：ハケメ後ヘラミカキ 内：工具痕(生)	93-1(B)	XV-91-98
174 93	117	弥生土器鉢	第11b面	溝30	V-O様式	口径：9.6(実) 底径：3.2~3.4(実) 器高：4.9	外：ヨコヘラミカキ、タテヘラミカキ 内：ヨコヘラミカキ、タテヘラミカキ(生)	93-1(B)	XV-81-16
174 94	—	弥生土器鉢	第11b面	溝30	V-O様式	口径：9.0(2/5)	外：ヨコナデ、ヘラ削りの後ヘラミカキ、一部赤色顔料塗布 ? 内：ヨコナデ、ヘラミカキ、ナデorヘラ削り	93-1(B)	XV-91-97
174 95	118	弥生土器鉢	第11b面	溝30	V様式	口径：10.3~11.2(1/2) 底径：1.8(実) 器高：8.6~9.6	外：ナデ、ヘラミカキ、一部スス付着、口縁部打ち欠きか ? 内：ナデ(生)	93-1(B)	XV-88-67
174 96	—	弥生土器有孔鉢	第11b面	溝30	V様式	口径：12.8(2/3) 底器部欠、現高：7.8	外：ハケメ、指押さえ、隆成後内外から穿孔(中からの糸穿孔もあり) 内：ナデ(生)	93-1(B)	XV-85-44
174 97	118	弥生土器有孔鉢	第11b面	溝30	V-2~3様式	口径：15.8(1/2) 底径：5.0(実) 器高：9.3~11.0 孔：0.8~1.3(実)	外：ヨコナデ、平行タタキ ?、ヘラ痕 ?、焼成前穿孔 内：ヨコナデ、板ナデ ?(生)	93-1(B)	XV-88-68
174 98	118	弥生土器有孔鉢	第11b面	溝30	V-2~3様式	口径：12.8~13.0(1/3) 底径：4.7~4.9(実) 現高：10.0~10.6	外：ハケメ、工具痕、穿孔(大1、小8) 内：指押さえ、粗いハケメ(生)	93-1(B)	XV-85-45
174 99	118	弥生土器蓋	第11b面	溝30	V様式	口径：10.5(1/2) 器高：3.4	外：ハケメ後ヘラミカキ ?、2個対2弱穿孔 内：ヘラミカキ ?(生)	93-1(B)	XV-83-30
174 100	118	不明木製品	第11b面	溝30	弥生時代	現長：43.8 現幅：7.9 現厚：2.3	材質：アカカシ(硬木、腐朽あり)	93-1(B)	未掲載
175 1	—	弥生土器蓋底部	第11b面	溝26	V様式	底径：4.4(実)	外：指押さえナデ、一部スス付着 内：指押さえナデ ?(生)	93-1(A)	XV-78-1
175 2	—	弥生土器高林	第11b面	溝28	V様式	脚径 ? 径：4.7(1/3)	外：ハケメ後ヘラミカキ 内：ヘラミカキ(生)	93-1(A)	XV-78-2
175 3	—	弥生土器高林脚	第11b面	溝28	V-O様式	脚径径：5.2(1/2)	外：ヘラミカキ 内：ナデ(生)	93-1(A)	XV-78-3
175 4	118	弥生土器高林脚	第11b面	溝35	V様式	口径：5.8~6.2(3/5) 底径：6.2(5/6) 器高：23.6	外：ヘラミカキ ?、ハケメ、ヘラミカキ ?、胴底部に焼成後故意の穿孔、赤色顔料塗布 内：ヨコナデ、ナデ、一部赤色顔料塗布	90-3(A)	11-64-1
175 5	—	弥生土器高林脚	第11b面	溝36	V-1~2様式	脚径径：11.0(5/6)	外：一部ハケメ後ヘラミカキ、透かし4方向 内：指押さえ、ハケメ、ヨコナデ	90-1	未掲載
175 6	118	弥生土器蓋	第11b面	土器埋納遺構85	V様式	口径：13.6(2/5)	中部瀬戸内系 外：ヨコナデ一部ハケメ、ハケメ後板ナデ、スス付着 内：ヨコナデ、ヘラ削り、ヘラナデ、スス付着	93-1(A)	XV-78-4
175 7	—	弥生土器鉢	第11b面	ピット17	V-M様式	口径：13.0(1/5) 底径：4.2(1/3) 現高：5.8~6.1	外：— 内：(生)	93-2(D)	XV-42-3
176 1	—	弥生土器蓋	第11b面	溝30	IV-4様式	口径：12.0(1/9)	外：端部指押さえ、穿孔現存1 内：ナデ(生)	90-2(H4)	X-39-3
176 2	—	弥生土器蓋	第11b面	溝30	IV-3様式	口径：11.4(1/4)	外：端部指押さえ、穿孔現存1 内：ナデ(生)	90-2(H4)	X-39-4
176 3	—	弥生土器蓋	第11b面	溝30	IV-4様式	口径：12.0(1/4)	外：ナデ、ヘラミカキ、スス付着、穿孔2個対 内：ヨコナデ、ハケメ後一部ナデ、ナデ(生)	90-2(H4)	X-39-5
176 4	—	弥生土器蓋	第11b面	溝30	IV-2様式	小片	外：簾状文(11、10、α条)、ヨコナデ、内：ヨコナデ、指押さえナデ(生)	93-2(A)	未掲載
176 5	—	弥生土器蓋	第11b面	溝30	III~IV様式	小片	外：直線文(8条)、ナデ 内：指押さえ(生) 107-6と同一か ?	93-2(A)	未掲載
176 6	—	弥生土器蓋	第11b面	溝30	III~IV様式	小片	外：直線文(8条)、ハケメ 内：指押さえナデ(生) 107-5と同一か ?	93-2(A)	未掲載
176 7	—	弥生土器蓋	第11b面	溝30	I-3~4様式	口径：16.2(2/5)	外：直線文(1+α条) 内：ヨコナデ、ヘラミカキ(生)	93-1(A)	未掲載
176 8	119	弥生土器蓋	第11b面	溝30	IV様式 ?	口径：11.6(1/2弱) 器高：2.1	外：ナデ、ヘラミカキ、ヨコナデ、穿孔2個対 内：ヨコナデ、ハケメ(生)	90-2(H4)	X-39-6
176 9	—	弥生土器蓋	第11b面	溝30	IV-2様式	口径：13.2(1/5)	外：ヨコナデ、ハケメ、一部スス付着 内：ヨコナデ、ハケメ	90-2(H4)	X-39-1
176 10	—	弥生土器蓋	第11b面	溝30	IV-2様式	口径：13.4(2/5)	外：ヨコナデ、ハケメ、ヘラミカキ、スス付着 内：ヨコナデ、ハケメ(生)	90-2(H4)	X-39-2
176 11	—	弥生土器蓋	第11b面	溝30	IV-1~2様式	口径：14.0(1/6)	外：端部凹線文(条)、ヨコナデ、平行タタキ(5条(1.2cm)の後ハケメ、ハケメ後ヘラミカキ、ヘラ削りの後ヘラミカキ 内：ヨコナデ、ナデ、指押さえ、ハケメ(生)	90-1	未掲載
176 12	—	弥生土器蓋	第11b面	溝30	IV-2様式	底径：4.6(実)	外：ヘラミカキ、底面もヘラミカキ 内：指押さえナデ(生)	93-2(A)	XVI-46-1
176 13	—	弥生土器蓋	第11b面	溝30	IV様式	口径：13.9(1/6)	外：ヨコナデ、ナデ ? 内：ヨコナデ、指押さえナデ	93-1	未掲載
176 14	119	弥生土器蓋	第11b面	溝30	IV-3様式	口径：13.9(3/4)	中部瀬戸内系 外：胴部に指押さえ、ヨコナデ、ナデ、ヘラ削り後ヘラミカキ 内：ヨコナデ、指押さえ後一部にハケメ(生)	93-1(A)	XV-99-3
176 15	—	弥生土器蓋	第11b面	溝30	IV-3様式	口径：30.0(1/11)	外：端部凹線文(条)、ヨコナデ 内：ヨコナデ	90-2(H3)	VI-50-1
176 16	—	弥生土器蓋	第11b面	溝30	IV様式 ?	底径：5.9(1/4)	外：ナデ ? 内：ナデ	90-2(H3)	VI-50-3
176 17	—	弥生土器蓋	第11b面	溝30	IV様式	底径：5.4(一部欠)	外：ヘラミカキ、底面もヘラミカキ 内：ナデ一部ヘラミカキ(生)	90-2(H4)	X-39-7
176 18	—	弥生土器蓋	第11b面	溝30	IV様式	底径：5.4~5.5(一部欠)	外：ヘラミカキ、スス付着 内：工具ナデ	90-2(H4)	X-39-8
176 19	—	弥生土器蓋	第11b面	溝30	IV様式	底径：6.5~6.7(実)	外：ヘラミカキ、底面もヘラミカキ、スス付着 内：ナデ、一部スス付着(生)	93-1(A)	XV-99-4
176 20	—	弥生土器蓋	第11b面	溝30	IV様式	底径：10.2~10.5(一部欠)	外：ヘラ削り後ナデ 内：ヘラナデ ? 指ナデ(生)	90-2(H3)	VI-50-2
176 21	—	弥生土器蓋	第11b面	溝30	IV-4~V様式	脚径径：7.0(1/2)	外：ハケメ、ナデ ?(生)	93-2(A)	未掲載
176 22	—	弥生土器蓋	第11b面	溝30	IV-4~V様式	脚径径：3.2(実)	外：ハケメ、ナデ ?、スス付着、透かし4方向 内：ナデ ? しぼり目、ナデ	93-1(B)	XV-99-5
176 23	119	弥生土器蓋	第11b面	溝30	IV-4~V-O様式	口径：12.7~13.4(1/2) 底径：3.8~4.2(実) 器高：7.8~8.3	外：ヨコナデ、ヘラ削りの後ヘラミカキ、底面もヘラ削り、スス付着 内：ナデ、一部スス付着	93-1	XV-99-6
176 24	119	弥生土器鉢	第11b面	溝30	IV-4~V-O様式	口径：19.1(1/2) 底径：6.5(一部欠) 器高：9.9~11.5	外：ヨコヘラミカキ、ヘラ削り ? 後ヘラミカキ 内：—	93-1	XV-99-7
177 25	119	弥生土器鉢	第11b面	溝30	V様式	底径：5.1~5.3(実)	外：工具痕 内：—	93-2	1-104-2
177 26	119	弥生土器鉢	第11b面	溝30	弥生時代中期	長：3.75 幅：1.4 厚：0.4 重さ：1.9g	サスカイト a面には大割面、b面には自然面が残る	90-2(H4)	X-39-10
177 27	119	弥生土器鉢	第11b面	溝30	弥生時代中期	長：4.35 幅：1.25 厚：0.65 重さ：2.95g	サスカイト b面に大割面が残る	90-2(H4)	X-39-11



図原番号	写真番号	器種	層序	遺構	時期	法量 (cm)	特徴	調査年度	概要掲載番号
177 28	119	凸首式石鉢	第11b層	弥生時代中期	長:3.8 幅:1.8 厚:0.6 重さ:3.3g	サヌカイト a、b面とも頸身部分に錆が通る	93-2(C)	XVI-46-2	
177 29	119	不定形刀鏝?	第11b層	弥生時代	長:3.5 厚:0.3 重さ:6.6g	サヌカイト もともとは楕長の長方形に近いものが割れたもの、刃部とは反対側に破面を残し、破面には敲打痕が残る	93-2(D)	未掲載	
177 30	119	不定形刀鏝	第11b層	弥生時代	長:5.5 幅:4.5 厚:2.0 重さ:19.7g	サヌカイト 自然面が残る	93-2(H3)	VI-50-5	
177 31	119	石鉢	第11b層	弥生時代中期	長:8.0 幅:6.3 厚:5.2 重さ:242.9g	緑色片岩 (緑泥石片岩) 杏仁形、背に削痕	90-2(H3)	VI-50-4	
177 32	120	石灯丁	第11b層	弥生時代中期	長:5.2 幅:3.95 厚:0.5	緑色片岩 (緑泥石片岩)	93-1(A)	未掲載	
177 33	121	木製ヤス	第11b層	弥生時代	現長:18.7 幅:1.1 厚:0.7	樹種:ヒノキ	93-1(A)	XV-99-1	
177 34	120	木製ヤス	第11b層	弥生時代	現長:9.6 幅:6.0 厚:5.6	約半分が欠失、輪郭部分に加工痕あり、現在自然乾燥状態	93-1	XV-99-2	
177 35	121	木製甲冑	第11b層	弥生時代	現長:46.9 現幅:8.1 厚:2.0	外:ヘラミガキ 内:ハケメ	90-2(H3)	VI-55-5	
178 36	—	弥生土器蓋底部	第11b層	III~IV様式	口径:7.2(1/6)	外: 磁器(焼粘土) 内: ヨコナテ、ハケメ後ナデ (生)	90-2(H3)	VI-55-5	
178 37	—	弥生土器蓋底部	第11b層	IV~4様式	口径:10.6(1/6)	外: 磁器(焼粘土) 内: ヨコナテ、ハケメ後ナデ (生)	90-2(H4)	X-43-6	
178 38	—	弥生土器蓋底部	第11b層	IV様式	口径:11.0(1/4)	外: 磁器(焼粘土) 内: ヨコナテ、ハケメ後ナデ (生)	90-2(H2)	III-33-1	
178 39	—	弥生土器蓋底部	第11b層	IV様式	口径:37.0	外: ヲコナテ、ハケメ後ナデ (生)	90-3(A)	III-71-2	
178 40	120	石灯丁	第11b層	弥生時代中期	長:12.6 幅:4.6 厚:0.7 重さ:57.4g	緑色片岩 (緑泥石片岩) 直縁刃半月形	90-3(A)	III-71-1	
178 41	120	石灯丁	第11b層	弥生時代中期	長:11.1 幅:4.8 厚:0.8 内孔径:0.7 重さ:59.1g	緑色片岩 (緑泥石片岩) 直縁刃半月形	90-2(H2)	III-33-2	
185 1	—	弥生土器蓋	第12-1a面	弥生時代中期	口径:14.2(1/5)	外: ヲコナテ、ハケメ後ナデ (生)	90-3(C)	XI-50-2	
185 2	—	弥生土器蓋付無頸蓋	第12-1a面	IV様式	口径:13.4(1/4) 銅板径:10.4(1/6) 現高:5.7+9.8	外: 磁器(焼粘土) 内: ヲコナテ、ハケメ後ナデ (生)	90-3(C)	XI-50-1	
185 3	—	弥生土器蓋底部	第12-1a面	IV様式	口径:5.2(2/5)	外: ヘラミガキ 内: 一 (生)	90-3(C)	XI-50-4	
185 4	—	弥生土器蓋底部	第12-1a面	III~IV様式	口径:5.6(一部欠)	外: スス?付蓋 内: 一 (生)	90-3(C)	XI-50-3	
185 5	—	弥生土器蓋底部	第12-1a面	III様式	口径:6.7(1/2)	外: 工具痕 内: 指押さえナデ (生)	90-3(C)	XI-50-5	
185 6	—	弥生土器蓋底部	第12-1a面	III~IV様式	口径:7.4(1/6)	外: ナデ 内: 工具痕 (生)	90-2(H4)	未掲載	
186 1	121	弥生土器蓋	第12-1a層	IV-1様式?	口径:21.2(完)	外: 磁器(焼粘土) 内: 麻状文5段+α (24条) 内: 指押さえナデ (生)	90-1	XII-100-1	
186 2	121	弥生土器蓋	第12-1a層	IV-1様式?	口径:10.2~10.5(2/3) 底径:5.0(完) 器高:12.3	外: 穿孔2個(対) 内: ヲコナテ、ハケメ後ナデ (生)	93-2	XVI-94-3	
186 3	—	弥生土器蓋	第12-1a層	IV-4様式	口径:10.8(1/7)	外: ヲコナテ、ハケメ後ナデ (生)	90-3(A)	未掲載	
186 4	—	弥生土器蓋	第12-1a層	IV-4様式	口径:14.8(1/10) 底径:6.5~6.7(5/6)	外: 磁器(焼粘土) 内: ヲコナテ、ハケメ後ナデ (生)	90-1	XII-100-2	
186 5	—	弥生土器蓋	第12-1a層	IV-4様式	口径:19.8(1/8)	外: 磁器(焼粘土) 内: ヲコナテ、ハケメ後ナデ (生)	90-5	III-59-1	
186 6	—	弥生土器蓋底部	第12-1a層	II様式?	口径:7.4(1/2)	外: ヘラミガキ 内: ハケメ	93-2	未掲載	
186 7	—	弥生土器蓋底部	第12-1a層	II様式?	口径:7.9(一部欠)	外: ヘラミガキ 内: 指押さえ後ハケメ (生)	90-2(H4)	未掲載	
186 8	—	弥生土器蓋底部	第12-1a層	III様式	口径:6.9~7.1(完)	外: ヘラミガキ 内: ナデ? (生)	90-3(C)	XI-50-6	
186 9	—	弥生土器蓋底部	第12-1a層	IV様式	口径:7.4(2/3)	外: ヘラミガキ 内: ナデ	90-5	III-59-4	
186 10	—	弥生土器蓋底部	第12-1a層	IV様式	口径:4.2~4.3(完)	外: ヘラミガキ 内: ハケメ	89-2	I-104-1	
186 11	—	弥生土器蓋無頸蓋	第12-1a層	IV-2様式	口径:10.7(1/7)	外: 磁器(焼粘土) 内: ヲコナテ、ハケメ後ナデ (生)	89-1	I-108	
186 12	—	弥生土器蓋無頸蓋	第12-1a層	IV-3様式	口径:11.2(1/7) 底径:5.0(完) 推定高:12.1(図上復元)	外: 磁器(焼粘土) 内: ヲコナテ、ハケメ後ナデ (生)	90-3(A)	II-69-2	
186 13	—	弥生土器蓋無頸蓋	第12-1a層	IV-3様式	口径:13.0(1/5)	外: 穿孔現存1、麻状文2段 (21条?) 文様間ヘラミガキ 内: ナデ、ハケメ?	90-2(H4)	X-43-4	
186 14	—	弥生土器蓋無頸蓋	第12-1a層	IV-4様式	口径:10.6(1/11)	外: 穿孔2個(対) 内: ヲコナテ、ハケメ後ナデ (生)	90-2(H3)	VI-55-3	
186 15	121	弥生土器蓋ニチュア無頸蓋	第12-1a層	IV様式	口径:4.6(完) 底径:3.2(完) 器高:5.2~5.4	外: 穿孔2個(対) 内: ナデ	90-1	未掲載	
186 16	—	弥生土器蓋無頸蓋	第12-1a層	II-1様式	口径: 器高: 4.5~4.7(完)	外: 一 内: ナデ?	90-2(H3)	VI-55-8	
186 17	—	弥生土器蓋無頸蓋	第12-1a層	II-1様式	口径:26.8(1/8)	外: ハケメ後ナデ 内: ハケミガキ (生)	90-2(H4)	未掲載	
186 18	—	弥生土器蓋	第12-1a層	II-1様式	小片	外: 磁器(焼粘土) 内: ハケミガキ (生)	93-2	未掲載	
186 19	—	弥生土器蓋底部	第12-1a層	I様式	口径:12.8(1/4弱)	外: ハケミガキ 内: ハケミガキ (生)	90-2(H3)	VI-55-6	
186 20	—	弥生土器蓋	第12-1a層	IV-1様式	口径:11.0(1/4)	外: ヲコナテ、ヘラミガキ、スス付蓋 内: ヲコナテ、指押さえナデ (生)	90-5	III-59-2	
186 21	—	弥生土器蓋	第12-1a層	IV-1様式	口径:16.0(1/7)	外: ヲコナテ、ヘラミガキ、スス付蓋 内: ハケメ、指押さえナデ (生)	92-6	XIV-19-3	
186 22	—	弥生土器蓋	第12-1a層	IV-4様式	口径:12.2(1/5)	外: ヲコナテ、スス付蓋 内: ヲコナテ、指押さえナデ、スス付蓋 (生)	90-2(H4)	X-43-5	
186 23	—	弥生土器蓋	第12-1a層	IV-1様式?	口径:14.3(1/7)	外: ヲコナテ、指押さえナデ? (生)	90-2(H3)	VI-55-4	
186 24	—	弥生土器蓋	第12-1a層	IV-4様式	口径:14.8(1/6+1/7)	外: ヲコナテ、ハケメ、スス付蓋 内: ヲコナテ、指押さえナデ? (生)	89-1	I-101-1	
186 25	—	弥生土器蓋	第12-1a層	IV-4様式	口径:15.0(1/2)	外: ヲコナテ、指押さえナデ、スス付蓋 内: ヲコナテ、指押さえナデ	90-3(A)	II-69-1	
187 26	—	弥生土器蓋	第12-1a層	IV-2様式	口径:36.8(1/8)	外: ヲコナテ、指押さえ後ハケメ (生)	90-2(H3)	未掲載	
187 27	—	弥生土器蓋底部	第12-1a層	II-III様式	口径:7.3(1/2)	外: 一 内: 指押さえ後ハケメ (生)	90-3(C)	未掲載	
187 28	—	弥生土器蓋底部	第12-1a層	II-III様式	口径:5.0~5.2(完)	外: ナデ 内: ハケミガキ (生)	93-2	未掲載	
187 29	—	弥生土器蓋底部	第12-1a層	II-III様式	口径:3.9(一部欠)	外: ハケミガキ、スス付蓋 内: ナデ (生)	90-5	III-89-3	
187 30	—	弥生土器蓋底部	第12-1a層	III様式	口径:5.6(4/5)	外: ハケミガキ、スス付蓋 内: 指押さえナデ	93-2	XVI-54-2	
187 31	—	弥生土器蓋底部	第12-1a層	IV様式	口径:5.4(1/2)	外: ハケミガキ、スス付蓋 内: 指押さえナデ	89-2	I-104-3	
187 32	—	弥生土器蓋底部	第12-1a層	III様式	口径:5.0~5.3(完)	外: ハケミガキ、スス付蓋 内: 指押さえナデ	90-3(A)	未掲載	
187 33	—	弥生土器蓋底部(破)	第12-1a層	IV様式	口径:4.5(1/2)	外: ハケミガキ、スス付蓋 内: ナデ (生)	90-2(H3)	VI-55-7	
187 34	—	弥生土器蓋底部(破)	第12-1a層	IV様式	口径:6.2(一部欠) 孔径:0.8×0.9	外: ハケミガキ、焼成後穿孔 (スス付蓋) 内: 指押さえナデ、スス付蓋	90-3(B)	VI-38-1	
187 35	—	弥生土器蓋底部	第12-1a層	IV様式	口径:11.0~11.4(一部欠)	外: ハケミガキ 内: ヲコナテ、ナデ	93-2	XVI-54-1	
187 36	—	弥生土器蓋	第12-1a層	IV様式?	口径:13.2(1/8)	外: 磁器(焼粘土) 内: ヲコナテ、ナデ	90-3(B)	未掲載	
187 37	—	弥生土器蓋?	第12-1a層	IV様式?	口径:8.2(1/5)	外: 磁器(焼粘土) 内: ヲコナテ、ナデ	90-3(A)	未掲載	

図版番号	写真番号	図版番号	器種	層序	遺構	時期	法量 (cm)	特徴	調査年度	概要掲載番号
187 38	—	187 38	粘土器底部	第12-1a層	?	?	底径: 2.26(実) 5.1×5.0×4.5	外: ナテ、スス? 付着 内: ナテ (生)	93-2	未掲載
187 39	120	187 39	粘土器	第12-1a層	弥生時代	弥生時代	現長: 3.35 幅: 2.0 厚: 0.9 重さ: 4.6g	サヌカイト a面は錆が通るがb面は入らない	93-2 (B)	XVI-98-1
187 40	121	187 40	明基式石鏝	第12-1a層	弥生時代	弥生時代	現長: 2.28 幅: 1.2 厚: 0.35 重さ: 1.1g	サヌカイト 面は錆が通るがb面は入らない	93-2 (H4)	未掲載
187 41	121	187 41	凸縁式石鏝	第12-1a層	弥生時代	弥生時代	長: 3.2 幅: 1.3 厚: 0.4 重さ: 1.5g	サヌカイト 面は錆が通るがb面は入らない	93-2	XVI-98-2
187 42	121	187 42	凸縁式石鏝	第12-1a層	弥生時代	弥生時代	現長: 4.2 幅: 1.5 厚: 0.5 重さ: 3.0g	サヌカイト a面は錆が通るがb面は入らない	93-2	XVI-54-13
187 43	121	187 43	凸縁式石鏝	第12-1a層	弥生時代	弥生時代	現長: 4.4 幅: 1.6 厚: 0.6 重さ: 3.2g	サヌカイト a面は錆が通るがb面は入らない	89-1	I-107-1
187 44	121	187 44	凸縁式石鏝	第12-1a層	弥生時代	弥生時代	現長: 3.15 幅: 1.8 厚: 0.4 重さ: 2.6g	サヌカイト a、b面とも周縁部にみに細部調整	93-2	XVI-54-11
187 45	121	187 45	凸縁式石鏝	第12-1a層	弥生時代	弥生時代	現長: 3.5 幅: 1.9 厚: 0.5 重さ: 3.6g	サヌカイト a、b面とも周縁部にみに細部調整	93-2	XVI-54-12
187 46	121	187 46	凸縁有蓋式石鏝	第12-1a層	弥生時代	弥生時代	長: 7.6 幅: 2.3 厚: 0.4 重さ: 7.2g	サヌカイト a、b面とも錆が通り、周縁部調整を施す	93-2	XVI-54-9
187 47	121	187 47	石鏝	第12-1a層	弥生時代	弥生時代	現長: 2.95 幅: 2.45 厚: 0.5 重さ: 2.9g	サヌカイト 鏝部ヶ所、3辺は丁寧調整調整を施す	93-2	XVI-54-8
187 48	121	187 48	石鏝	第12-1a層	弥生時代	弥生時代	現長: 2.7 幅: 2.85 厚: 0.4 重さ: 1.7g	サヌカイト 下部自然面が残る、側縁はすり落としている?	90-3(A)	I-107-2
187 49	121	187 49	石鏝	第12-1a層	弥生時代	弥生時代	現長: 8.0 幅: 2.15 厚: 0.1 重さ: 34.2g	サヌカイト 上部、下辺に細い刻線面を残す	93-2	未掲載
188 50	121	188 50	石鏝	第12-1a層	弥生時代	弥生時代	現長: 5.9 幅: 2.25 厚: 0.9 重さ: 10.7g	サヌカイト 上部、下辺に細い刻線面を残す	93-2	XVI-54-10
188 51	122	188 51	不定形刃器	第12-1a層	弥生時代	弥生時代	長: 4.45 幅: 6.1 厚: 0.4 重さ: 23.8g	サヌカイト 長辺に調整調整を施す、刃部に押しつぶされたような使用痕	93-2	未掲載
188 52	122	188 52	不定形刃器	第12-1a層	弥生時代	弥生時代	長: 3.5 幅: 7.6 厚: 1.1 重さ: 37.5g	サヌカイト 長辺に調整調整を施す、刃部に押しつぶされたような使用痕	93-2 (B)	未掲載
188 53	122	188 53	不定形刃器	第12-1a層	弥生時代	弥生時代	長: 7.6 幅: 6.2 厚: 0.6 重さ: 50.4g	サヌカイト 下辺に使用に伴うと思われる微細調整	93-2 (B)	未掲載
188 54	122	188 54	剥片	第12-1a層	弥生時代	弥生時代	長: 2.2 幅: 3.15 厚: 0.4 重さ: 4.2g	サヌカイト 自然面に打撃を加えている	93-2 (A)	未掲載
188 55	122	188 55	剥片	第12-1a層	弥生時代	弥生時代	長: 2.7 幅: 3.25 厚: 0.4 重さ: 3.4g	サヌカイト 上部調整調整	93-2 (A)	未掲載
188 56	122	188 56	剥片	第12-1a層	弥生時代	弥生時代	長: 2.8 幅: 4.4 厚: 0.7 重さ: 6.8g	サヌカイト b面打点除去している	89-1	I-107-3
188 57	122	188 57	剥片	第12-1a層	弥生時代	弥生時代	長: 3.5 幅: 3.9 厚: 0.75 重さ: 11.2g	サヌカイト	93-2 (C)	未掲載
188 58	122	188 58	剥片	第12-1a層	弥生時代	弥生時代	長: 3.4 幅: 3.3 厚: 0.9 重さ: 10.6g	サヌカイト	93-2 (B)	未掲載
188 59	122	188 59	剥片	第12-1a層	弥生時代	弥生時代	長: 3.5 幅: 4.6 厚: 0.8 重さ: 15.3g	サヌカイト	93-2 (A)	未掲載
188 60	122	188 60	剥片	第12-1a層	弥生時代	弥生時代	長: 3.2 幅: 6.0 厚: 0.5 重さ: 15.3g	サヌカイト	93-2 (A)	未掲載
189 61	122	189 61	剥片	第12-1a層	弥生時代	弥生時代	現長: 8.1 幅: 5.3 厚: 0.5 孔径: 0.55 重さ: 28.4g	緑色片岩 (緑泥石片岩) 外湾刃半月形?	93-2 (A)	XVI-54-6
189 62	123 124	189 62	石砲丁	第12-1a層	弥生時代	弥生時代	現長: 9.3 幅: 5.5 厚: 0.8 孔径: 0.55 重さ: 56.5g	緑色片岩 (高緑石片岩) 直線刃半月形、磨打で孔あけ	90-3 (B)	未掲載
189 63	123 124	189 63	石砲丁	第12-1a層	弥生時代	弥生時代	現長: 9.95 幅: 5.8 厚: 0.8 孔径: 0.65 重さ: 60.7g	緑色片岩 (高緑石片岩) 直線刃半月形、磨打で孔あけ	93-2	XVI-54-4
189 64	123 124	189 64	石砲丁	第12-1a層	弥生時代	弥生時代	現長: 13.25 幅: 5.0 厚: 0.6 孔径: 0.55 重さ: 63.9g	緑色片岩 (高緑石片岩) 直線刃半月形	90-1	XII-106-1・5
189 65	123 124	189 65	石砲丁	第12-1a層	弥生時代	弥生時代	現長: 6.9 幅: 4.1 厚: 0.8 孔径: 0.65 重さ: 44.1g	緑色片岩 (高緑石片岩) 直線刃半月形	93-2	XVI-54-5
189 66	123 124	189 66	石砲丁	第12-1a層	弥生時代	弥生時代	現長: 8.9 幅: 4.15 厚: 0.5 重さ: 19.2g	緑色片岩 (高緑石片岩) 直線刃半月形	93-2	XVI-54-7
189 67	123 124	189 67	石砲丁	第12-1a層	弥生時代	弥生時代	現長: 6.1 幅: 4.9 厚: 0.65 孔径: 0.5 重さ: 33.6g	緑色片岩 (アケチノ岡石緑泥石片岩) 直線刃半月形	90-3 (A)	未掲載
189 68	123 124	189 68	石砲丁	第12-1a層	弥生時代	弥生時代	現長: 7.0 幅: 3.9 厚: 0.8 孔径: 0.6 重さ: 29.0g	緑色片岩 (高緑石片岩) 直線刃半月形、刃部に直打痕あり	90-1	XII-106-3
190 69	123 124	190 69	石砲丁	第12-1a層	弥生時代	弥生時代	現長: 2.6 幅: 2.5 厚: 0.5 重さ: 5.1g	緑色片岩 下辺に刃部が残る、刃部に直打痕あり	93-2	未掲載
190 70	123 124	190 70	石砲丁	第12-1a層	弥生時代	弥生時代	現長: 16.0 幅: 3.9 厚: 0.85 孔径: 0.6 重さ: 67.1g	高緑石片岩 (高緑石片岩) 直線刃半月形、背面一部加工痕あり	92-6	XVI-19-1
190 71	123 124	190 71	石砲丁	第12-1a層	弥生時代	弥生時代	現長: 20.25 幅: 6.5 厚: 1.4 重さ: 215.4g	緑色片岩 (高緑石片岩) 直線刃半月形	90-2 (H4)	XVI-40
190 72	123 124	190 72	石砲丁	第12-1a層	弥生時代	弥生時代	現長: 3.6 幅: 7.1 厚: 0.6 重さ: 9.5g	緑色片岩 (アケチノ岡石緑泥石片岩) 直線刃半月形?	92-7	XIV-61
190 73	123 124	190 73	大型石砲丁	第12-1a層	弥生時代	弥生時代	現長: 6.6 幅: 8.8 厚: 1.0 重さ: 87.3g	緑色片岩 (高緑石片岩) 直線刃半月形	92-7	XIV-62
190 74	123 124	190 74	大型石砲丁	第12-1a層	弥生時代	弥生時代	現長: 9.2 幅: 10.9 厚: 0.7 重さ: 10.9g	樹種不明 茎を作り出す	90-3 (B)	XVI-38-3
190 75	125	190 75	不明木製品	第12-1a層	弥生時代	弥生時代	現長: 17.5 幅: 3.4 厚: 3.2 孔径: 0.9 1.0	樹種: サカキ 上部加工?、穿孔2	93-2	未掲載
190 76	125	190 76	不明木製品	第12-1a層	弥生時代	弥生時代	長: 3.6 幅: 2.1 厚: 0.35 重さ: 2.8g	サヌカイト b面は周縁の細部調整のみで大部分面が残る	93-2	XVI-57-3
198 1	—	198 1	弥生土器蓋	第12b層?	?	?	口径: 28.0(18)	板ナテ一部スス付着 (生)	92-6	未掲載
198 2	—	198 2	弥生土器蓋	第12b層?	?	?	口径: 28.0(18)	外: ハラミガキ 底面へハラミガキ、スス一部付着 内: 桐ナテ (生)	92-7	未掲載
198 3	—	198 3	弥生土器蓋底部	第13a面	弥生時代中期	弥生時代中期	底径: 5.8(実)	外: ハラミガキ 加工痕がある	89-1	I-110
198 4	125	198 4	木製杓子木製品	第13a面	弥生時代	弥生時代	現長: 44.0 幅: 14.8 厚: 10.0	樹種: カナキ 加工痕がある	90-2 (H3)	VI-58-4
198 5	—	198 5	弥生土器蓋	第13a面	弥生時代	弥生時代	口径: 若干 頸部径: 11.4(14)	内: ハラミガキ、指押さえナテ (生)	90-2 (H3)	VI-58-6
198 6	125	198 6	石鏝状石器	第13a面	弥生時代	弥生時代	長: 17.4 幅: 3.0 厚: 1.4 重さ: 88.2g	サヌカイト 下部自然面が残る、下半部の周縁のタツチが変わり、柄部を作り出している	90-2 (H3)	VI-58-1
198 7	—	198 7	弥生土器蓋	第13a面	II-1様式	II-1様式	小片	外: 周縁沈線文(条 ナテ、一部ハケメ 内: ハラミガキ (生)	90-2 (H3)	VI-58-1
198 8	125	198 8	木製直柄文鋸	第13a面	弥生時代	弥生時代	現長: 20.7 現幅: 9.1 現厚: 1.8	樹種: 加工痕若干残る	90-3 (B)	VI-42-3
198 9	126	198 9	弥生土器蓋	第13a面	II-1様式	II-1様式	口径: 20.2(13) 底径: 9.0(一部欠) 推高: 39.1	外: ヨコナテ、ハケメ後ハラミガキ 内: ナテ (生)	90-3 (B)	VI-42-1・2
199 9	—	199 9	弥生土器蓋	第13a面	II-1様式	II-1様式	底径: 6.5(一部欠)	外: ハラミガキ 内: 粗ハケメ	未掲載	未掲載
199 10	—	199 10	弥生土器蓋底部	第13a面	II-2様式	II-2様式	口径: 13.2(一部欠)	外: 直線文(6条) 3溝、漆文(6条) 2溝、ヨコナテ、ハラミガキ	90-3 (C)	XI-61-1(199-12)と別個体
199 11	—	199 11	弥生土器蓋	第13a面	II-2様式	II-2様式	口径: 13.2(一部欠)	内: 指押さえナテ (生)	90-3 (C)	XI-61-1(199-12)と別個体
199 12	—	199 12	弥生土器蓋底部	第13a面	II様式?	II様式?	底径: 10.1(実)	外: 内: スス付着	90-3 (C)	XI-61-1(199-11)と別個体
199 13	—	199 13	弥生土器蓋底部	第13a面	II-1様式	II-1様式	底径: 6.2~6.4(実)	外: 一部スス付着 内: 生?	90-3 (C)	XI-61-2
199 14	—	199 14	弥生土器蓋口縁片	第13a面	II-1様式	II-1様式	小片	外: 周縁沈線文(条、ヨコナテ 内: 生)	92-7	未掲載
199 15	—	199 15	弥生土器蓋片	第13a面	II-3様式?	II-3様式?	小片	外: 直線文(4条) 4溝に直交して直線文(4条) 内: 生)	92-7	未掲載
199 16	—	199 16	弥生土器蓋口縁部	第13a面	II-2様式	II-2様式	頸部径: 9.0(1/2強)	外: 直線文(9条) 6溝間にハラミガキ、スス溝付着 内: ハケメ後ハラミガキ、指押さえ (生)	90-1	未掲載
199 17	—	199 17	弥生土器蓋口縁片	第13a面	II-3様式	II-3様式	小片	外: (細・木) ハラミガキ 内: 生)	92-7	未掲載
199 18	—	199 18	弥生土器蓋底部	第13a面	III-1様式?	III-1様式?	底径: 5.4(一部欠)	外: 指押さえ後ハケメ、底面へハケメ 内: 生)	92-7	未掲載
199 19	126	199 19	木製給刃石斧	第13a面	弥生時代中期	弥生時代中期	長: 13.9 幅: 6.4 厚: 4.5 重さ: 614.6g	外: 凸部、漆文 内: 生)	92-7	未掲載
199 20	126	199 20	木製給刃石斧	第13a面	弥生時代中期	弥生時代中期	長: 13.9 幅: 6.4 厚: 4.5 重さ: 614.6g	外: 凸部、漆文 内: 生)	92-7	未掲載
199 21	125	199 21	木製容器	第13a面	弥生時代	弥生時代	現長: 5.9 幅: 4.0 最大厚: 1.0 高さ: 3.3	班レイ岩 風化進む、研磨された面が残る	90-1	XII-106-8
199 22	125	199 22	木製容器	第13a面	弥生時代	弥生時代	現長: 5.9 幅: 4.0 最大厚: 1.0 高さ: 3.3	樹種: ヤマブク	90-1	XII-94-2

図版番号 図版番号	写真番号 図版	器種	層序	遺構	時期	法量 (cm)	特徴	調査年度	標要掲載番号
199 22	125	不明木製品	第12b層	流路5 塚21	弥生時代	現長：22.2 幅：8.5 最大厚：6.4 孔径：0.8~1.1	樹種：コナラ亜属 穿孔3未貫通	92-7	未掲載
200 1	—	弥生土器蓋	第13a面直上		I-3様式	口径：19.0(1/2)	外：沈線文3条、指押さえ後へラミガキ 内：へラミガキ (生)	90-2(H3)	WI-58-2
200 2	—	弥生土器蓋	第13a面直上		I-4様式	最大径：40.0(1/5+1/5)	外：斜型屈凸部2条、ハケメ後へラミガキ 内：指押さえ後へラミガキ、ナデ (生)	90-1	XI-104-4・5
200 3	—	弥生土器蓋口縁片	第13a面直上		I-3様式	小片	外：沈線文2条+α、ハケメ 内：ヨコナデ (生)	90-3(C)	未掲載
200 4	—	弥生土器蓋	第13a面直上		II様式	口径：7.5~7.7(2/3)	外：直線文(9条)2帯以上、へラミガキ、ハケメ後ナデ 内：— (生)	93-2	XW-57-1
200 5	—	弥生土器蓋	第13a面直上		II-1様式	口径：若干のみ、底径：7.5(2/5)	外：直線文(9条)2帯以上、へラミガキ、ハケメ後ナデ 内：— (生)	90-2(H4)	X-46
200 6	126	サヌカイト剥片	第13a面直上		弥生時代中期	長：4.5 幅：5.2 厚：1.6 重さ：26.2g	結晶石片 面縁刃半月形、片刃、刃の部分にも横方向の研磨	90-3(C)	XI-60-12
200 7	126	石片	第13a面直上		弥生時代中期	長：15.7 幅：4.3 厚：0.6 重さ：61.08g	結晶石片 基部にも研磨が施される。磨きが届かない凹みあり	93-2	XW-57-2
200 8	126	扁平片刃石斧	第13a面直上		弥生時代	長：4.9 幅：4.0 厚：0.8 重さ：37.8g	外：基部刻目 沈線文(7・6条)、ハケメ後ナデ、ハケメ後	90-1	XW-106-7
201 9	—	弥生土器蓋	第13a層	微高地遺物群	I-4様式	口径：15.0(1/4)	外：直線文(12、11条)、へラミガキ? 内：ナデ、指押さえ	93-2	XW-58-2
201 10	—	弥生土器蓋	第13a層	微高地遺物群	I-2~3様式	口径：18.8(1/5)	外：沈線文5条、ハケメ後ナデ、指押さえ	93-2	XW-58-1
201 11	—	弥生土器蓋	第13a層	微高地遺物群	I-4様式	口径：13.8(若干)	外：沈線文(12、11条)、へラミガキ? 内：ナデ、へラミガキ	93-2	XW-58-3
201 12	—	弥生土器蓋	第13a層	微高地遺物群	II様式	口径：7.6(若)	外：— 内：—	93-2	未掲載
201 13	—	弥生土器蓋	第13a層	微高地遺物群	III様式	口径：8.8(1/5)	外：へラミガキ、底面もへラミガキ 内：スス付着 (生)	90-3(C)	XI-58-3
201 14	—	弥生土器蓋	第13a層	微高地遺物群	II-3様式?	口径：22.0(1/4)	外：ヨコナデ、へラミガキ 内：ヨコナデ、へラミガキ (生)	93-2	未掲載
201 15	—	弥生土器蓋	第13a層	微高地遺物群	III様式	口径：6.0(1/4)	外：へラミガキ 内：ナデ (生)	90-3(C)	XI-58-2
201 16	—	弥生土器蓋	第13a層	微高地遺物群	III様式	口径：8.2(1/3)	外：へラミガキ 内：ナデ (生)	90-3(C)	XI-58-1
201 17	—	弥生土器蓋	第13a層	微高地遺物群	III様式	口径：6.4~6.7(若) 孔径：0.7	外：へラミガキ、スス付着、穿孔1 内：ハケメ、スス付着 (生)	90-3(C)	XI-58-4
201 18	—	弥生土器蓋	第13a層	微高地遺物群	II-1様式	口径：6.8~7.6(一部欠) 孔径：0.6	外：ハケメ後ナデ、スス付着、穿孔1 内：板ナデ、スス付着 (生)	93-2	XW-58-4
201 19	127	弥生土器蓋	第13a層	微高地遺物群	II様式?	小片	外：へラミガキ 内：朱付着、ハケメ後へラミガキ (生)	90-3(C)	XI-58-8
201 20	—	弥生土器蓋	第13a層	微高地遺物群	II-4様式	口径：25.0(1/6)	外：基部刻目、ハケメ、スス付着 内：ヨコナデ、指押さえナデ (生)	93-2	XW-58-8
201 21	127	石楕状石器	第13a層	微高地遺物群	弥生時代	現長：9.35 幅：3.1 厚：3.1 重さ：35.4g	サヌカイト、下半側のすり落し研磨、両側縁微細刻目	90-3(C)	XI-60-11
201 22	127	石胞丁	第13a層	微高地遺物群	弥生時代中期	現長：10.45 幅：5.55 厚：0.7 重さ：70.3g	ナイフ型 質礫灰岩、杏仁形、基部に粗すれあり	90-3(C)	XI-59-2
201 23	127	石胞丁	第13a層	微高地遺物群	弥生時代中期	現長：13.3 幅：2.8 厚：0.6 重さ：35.9g	流紋岩 杏仁形?、全体に研磨	90-3(C)	XI-59-1
202 24	—	弥生土器蓋	第13a層	微高地遺物群	I-2様式	口径：15.8(1/6)	外：基部沈線文1条、削出凸部1条、穿孔残存1、へラミガキ 内：へラミガキ、ナデ	90-2(H2)	III-35-3
202 25	—	弥生土器蓋	第13a層	微高地遺物群	II-1様式	口径：26.8(1/2)	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ハケメ後ナデ	93-2	未掲載
202 26	—	弥生土器蓋	第13a層	微高地遺物群	II-4様式	小片	外：基部刻目凸部3条、へラミガキ 内：—	93-2	XW-58-5
202 27	—	弥生土器蓋	第13a層	微高地遺物群	I-4~II-1様式	口径：5.8~5.9(若)	外：指押さえナデ? 内：板ナデ?、追加粘土盛り上がり (生)	93-2	XW-63-2
202 28	—	弥生土器蓋	第13a層	微高地遺物群	III様式	口径：6.8(1/2)	外：へラミガキ 内：ナデ、工具痕 (生)	90-2(H2)	未掲載
202 29	—	弥生土器蓋	第13a層	微高地遺物群	II様式	口径：8.0(2/5)	外：へラミガキ 底面もへラミガキ 内：へラミガキ (生)	90-2(H3)	WI-58-5
202 30	—	弥生土器蓋	第13a層	微高地遺物群	II様式	口径：9.9~9.5(若)	外：— 内：指押さえ (生)	90-2(H3)	未掲載
202 31	—	弥生土器蓋	第13a層	微高地遺物群	II様式	口径：9.4(1/2)	外：へラミガキ、ナデ、底面に工具痕あり 内：ナデ	93-2	XW-63-1
202 32	—	弥生土器蓋	第13a層	微高地遺物群	I-2様式	口径：25.8(1/2)	外：沈線文2条間刻突文、へラミガキ? 内：—	90-2(H2)	III-38-2
202 33	—	弥生土器蓋	第13a層	微高地遺物群	I-3~4様式	小片	外：基部刻目、沈線文4条、ヨコナデ、スス付着 内：ヨコナデ、ハケメ (生)	93-2	未掲載
202 34	—	弥生土器蓋	第13a層	微高地遺物群	I-3様式	口径：20.6(1/2)	外：基部刻目、沈線文3条、スス付着 内：ヨコナデ、指押さえナデ	93-2	未掲載
202 35	—	弥生土器蓋	第13a層	微高地遺物群	I-3~4様式	口径：23.6(1/2)	外：基部刻目、沈線文4条、ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ナデ (生)	93-2	XW-58-7
202 36	—	弥生土器蓋	第13a層	微高地遺物群	II様式	口径：18.0(1/7)	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ナデ (生)	93-2	未掲載
202 37	—	弥生土器蓋	第13a層	微高地遺物群	II様式	口径：25.6(1/10)	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ナデ (生)	93-2	XW-58-6
202 38	—	弥生土器蓋	第13a層	微高地遺物群	I-4~II様式	口径：22.0(1/6)	外：指押さえナデ、一部スス付着 内：指押さえナデ、工具痕、へラミガキ? (生)?	90-3(C)	未掲載
202 39	—	弥生土器蓋(腹)	第13a層	微高地遺物群	II様式	口径：7.2(1/2) 孔径：0.6	外：指押さえの後板ナデ?、後縁部側から穿孔 内：指押さえ (生)	93-2	未掲載
202 40	128	弥生土器鉢(片口)	第13a層	微高地遺物群	II様式	口径：21.2(1/7) 底径：6.6(1/2)	外：ハケナデ、ナデ、スス一部付着 内：ナデ、ハケナデ、ナデ (生)?	93-2	XW-63-3・4
203 41	128	凹基式石楕	第13a層	微高地遺物群	弥生時代	現長：3.4 現幅：1.4 最大厚：0.4 重さ：1.4g	サヌカイト a面とも縁辺部に通る 向中央部に主要・大剛	93-2	XW-59-1
203 42	128	凹基式石楕	第13a層	微高地遺物群	弥生時代	現長：2.8 現幅：1.7 最大厚：0.35 重さ：1.5g	サヌカイト a、b面とも縁身半ばまで縁が通るがやや不明瞭	93-2	XW-59-2
203 43	128	凸基式石楕	第13a層	微高地遺物群	弥生時代	現長：3.05 最大幅：1.6 最大厚：0.5 重さ：2.0g	サヌカイト a面とも大・主要剥離面が残る	93-2	XW-59-3
203 44	128	凸基式石楕	第13a層	微高地遺物群	弥生時代	最大長：3.3 最大幅：1.3 最大厚：0.35 重さ：1.6g	サヌカイト a面とも縁辺部に通る 向中央部に主要・大剛	93-2	XW-59-4
203 45	128	凸基式石楕	第13a層	微高地遺物群	弥生時代	現長：4.9 最大幅：1.45 最大厚：0.6 重さ：3.0g	サヌカイト a、b面とも縁辺部に通る 向中央部に主要・大剛	90-1	XI-106-6
203 46	128	石楕	第13a層	微高地遺物群	弥生時代	長：3.1 最大幅：1.3 最大厚：0.45 重さ：1.9g	サヌカイト a面とも縁辺部に通る 向中央部に主要・大剛	90-2(H3)	WI-58-7
203 47	128	石楕	第13a層	微高地遺物群	弥生時代	現長：3.8 最大幅：2.05 最大厚：0.6 重さ：1.87g	サヌカイト 縁部変形	93-2	XW-59-5
203 48	127	石楕状石器	第13a層	微高地遺物群	弥生時代	現長：12.65 最大幅：2.92 最大厚：1.09 重さ：42.1g	サヌカイト 先端部両面調整で縁部を作り出している、基部は側縁を	93-1	XV-105-2
203 49	128	不定形刃器	第13a層	微高地遺物群	弥生時代	長：5.6 最大幅：4.7 最大厚：1.3 重さ：37.1g	サヌカイト 刃部はほぼ全体原状態で部分的に敲打痕が残る、一辺に刃部	93-2	XW-59-4
203 50	128	不定形刃器	第13a層	微高地遺物群	弥生時代	長：4.6 最大幅：5.1 最大厚：2.2 重さ：49.7g	サヌカイト b面はほぼ全体原状態で部分的に敲打痕が残る、一辺に刃部	93-2	未掲載
203 51	128	サヌカイト剥片	第13a層	微高地遺物群	弥生時代	長：3.7 最大幅：3.7 最大厚：0.6 重さ：8.7g	サヌカイト b面はほぼ全体原状態で部分的に敲打痕が残る、一辺に刃部	93-2	未掲載
203 52	128	サヌカイト剥片	第13a層	微高地遺物群	弥生時代	長：10.3 最大幅：6.55 最大厚：0.8 重さ：49.4g	サヌカイト b面はほぼ全体原状態で部分的に敲打痕が残る、一辺に刃部	93-1	XW-105-1
204 53	129	石胞丁	第13a層	微高地遺物群	弥生時代	現長：4.8 現幅：5.4 現厚：0.55 重さ：13.5g	シルト岩 外湾刃半月形か、a面に穿孔の残存あり、全面研磨痕、b面表	90-1	XI-106-4



図版番号 図版番号 204 54	写真番号 図版 129	器種	層序	遺構	時期	法量 (cm)	特徴	調査年度	標本掲載番号
204 54	129	石彫丁	第13a層		弥生時代中期	現長：9.0 最大幅：6.2 最大厚：0.7 孔径：0.35 重さ：48.2g	緑色片岩 (緑泥石片岩) 直線刃半月形、背部丁寧に研磨	90-1	X II - 106-2
204 55	129	石彫丁	第13a層		弥生時代中期	長：12.5 最大幅：4.7 最大厚：0.65 孔径：0.5 重さ：63.7g	緑色片岩 (緑泥石片岩) 直線刃半月形、3孔、背部に刃溝し痕あり	93-1	X V - 104
204 56	129	石彫丁	第13a層		弥生時代中期	現長：13.25 最大幅：3.8 最大厚：0.65 孔径：0.6 重さ：52.5g	緑色片岩 (緑泥石片岩) 杏仁形、2孔に紐すれ痕と工具痕あり、背部に刃溝し痕あり	90-5	III - 63-3
204 57	129	石彫丁	第13a層		弥生時代中期	現長：15.55 最大幅：4.0 最大厚：0.6 孔径：0.65 重さ：65.2g	緑色片岩 (緑泥石片岩) 杏仁形、2孔に紐すれ痕と工具痕あり、背部に刃溝し痕あり	93-1	X V - 105-3
204 58	127	木製ヤス	第13a層?		弥生時代	長：15.7 最大幅：0.75 最大厚：0.7 小片	樹種：イヌカヤ、ヤス、スス付着 内：ヨコナデ、ナデ?	92-6	未掲載
209 1	—	弥生土器壺片	第13b面	土坑15	1-4様式	口径：42.6(1/7)	外：指押さえナデ、スス付着 内：ヨコナデ、ナデ? (生)	90-3(C)	未掲載
209 2	—	弥生土器鉢	第13b面	土坑15	1-4様式	長：2.5 最大幅：1.95 最大厚：0.35 重さ：1.2g	外：指押さえ、ハケメ、スス付着 内：ヨコナデ、ナデ? (生)	90-3(C)	X I - 57-9
209 3	130	凹式石鏡	第13b面	土坑15	弥生時代	現長：3.1 最大幅：1.4 最大厚：1.0 重さ：4.7g 口径：20.0(1/2)	サズカイト b面に大割面残存	90-3(C)	X I - 60-1
209 4	130	石鏡	第13b面	土坑15	弥生時代	口径：20.0(1/2)	サズカイト	90-3(C)	X I - 60-2
209 5	—	弥生土器壺	第13b面	土坑46	1-3~4様式	小片	外：端部刻目、沈線文(2条+α条)、ヨコナデ 内：ヨコナデ、ナデ (生)	90-3(C)	未掲載
209 6	—	弥生土器壺片	第13b面	土坑46	1-3~4様式	小片	外：端部刻目、沈線文(3条+α条)、ヨコナデ 内：ヨコナデ、ナデ (生)?	90-3(C)	X I - 58-5
209 7	—	弥生土器壺片	第13b面	土坑46	1-3~4様式	小片	外：端部刻目、沈線文(4条+α条)、スス付着 内：ヨコナデ、ナデ (生)?	90-3(C)	未掲載
209 8	—	弥生土器壺片	第13b面	土坑46	1-3~4様式	小片	外：端部刻目、沈線文(6条)、指押さえナデ、スス付着 内：ヨコナデ、ナデ (生)?	90-3(C)	X I - 58-6
209 9	—	弥生土器壺片	第13b面	土坑46	11様式?	小片	外：ヨコナデ、ハケメ 内：ヨコナデ、ナデ (生)	90-3(C)	未掲載
209 10	—	凹式石鏡	第13b面	土坑46	弥生時代	現長：4.7 最大幅：1.8 最大厚：0.5 重さ：3.5g 頸部径：16.4(1/8)	サズカイト b面大割面残存	90-3(C)	X I - 60-3
209 11	—	弥生土器壺	第13b面	土器埋納遺構86	弥生時代	口径：21~23.1(1/2) 底径：7.5~7.7(一部欠)	外：端部刻目、沈線文2条、ハケメ、一部スス付着、穿孔(径後後に表から穿孔) 内：ヨコナデ、ナデ、スス付着 (生)	90-3(C)	未掲載
209 12	130	弥生土器壺 (腹)	第13b面	土器埋納遺構86	1-4~11様式	口径：22.5~23.2 孔径：0.9	サズカイト 内：ヨコナデ、ナデ、スス付着 (生)	90-3(C)	X I - 57-8
209 13	130	凹式石鏡	第13b面	土器埋納遺構86	弥生時代	現長：2.05 最大幅：1.3 最大厚：0.2 重さ：0.6g 小片	サズカイト a、b面主要、大割面残存	90-3(C)	X I - 60-4
209 14	—	弥生土器壺片	第13b面	落ち込み3	1-3~4様式	口径：18.0(1/5+1/8)	外：端部刻目、沈線文6条、スス付着 内：ヨコナデ、ナデ (生)	90-3(C)	X I - 58-7
209 15	—	弥生土器鉢?	第13b面	落ち込み3	11様式?	口径：19.5(1/4) 底径：7.2(1/2)	外：ナデ 内：指押さえ後ハケメ、ナデ、一部スス付着	90-3(C)	未掲載
209 16	130	石鏡	第13b面	落ち込み3	弥生時代	底径：5.9(2/3)	サズカイト 先端摩滅	90-3(C)	X I - 60-6
209 17	130	石鏡?	第13b面	落ち込み3	弥生時代	長：2.6 最大幅：1.0 最大厚：0.65 重さ：1.9g	サズカイト 先端部	90-3(C)	X I - 60-8
209 18	130	石鏡?	第13b面	落ち込み3	弥生時代	長：2.2 最大幅：0.7 最大厚：0.4 重さ：1.9g	サズカイト 先端部	90-3(C)	X I - 60-8
209 19	130	不定形刃器?	第13b面	落ち込み3	弥生時代	現長：4.2 最大幅：7.1 最大厚：1.5 重さ：29.2g	サズカイト 横長剥片の辺を微細割削して刃部に?	90-3(C)	X I - 60-10
209 20	130	不定形刃器?	第13b面	落ち込み3	弥生時代	長：2.45 最大幅：2.5 最大厚：1.07 重さ：2.8g	サズカイト 凹みを刃部に加工?	90-3(C)	X I - 60-5
209 21	130	不定形刃器?	第13b面	落ち込み3	弥生時代	長：3.1 最大幅：1.9 最大厚：0.4 重さ：2.2g	サズカイト 縦方向の辺を微細割削?	90-3(C)	X I - 60-9
209 22	130	サズカイト剥片	第13b面	落ち込み3	弥生時代	長：2.6 最大幅：3.0 最大厚：1.1 重さ：4.8g 小片	サズカイト 二次加工あり	90-3(C)	X I - 60-7
210 23	—	弥生土器壺片	第13b面	土器群	11-1様式	口径：18.0(1/5+1/8)	外：ヨコナデ、ハケメ、スス付着 内：ヨコナデ、ナデ、工具痕 (生)	90-3(C)	未掲載
210 24	—	弥生土器壺	第13b面	土器群	11-1様式	口径：19.6(1/6)	外：指押さえナデ、ナデ、スス付着 内：ヨコナデ、板ナデ、工具痕 (生)	90-3(C)	未掲載
210 25	—	弥生土器壺	第13b面	土器群	11-1様式	口径：19.5(1/4) 底径：7.2(1/2)	外：指押さえナデ、ハケメ、スス付着 内：ヨコナデ、ハケメ (生)	90-3(C)	X I - 57-2
210 26	131	弥生土器壺	第13b面	土器群	11-1様式	口径：19.4~19.8(2/3) 底径：7.7~7.8(一部欠) 器高：23.6~23.8	外：指押さえナデ、ハケメ、スス付着 内：ヨコナデ、ナデ、一部スス付着	90-3(C)	X I - 57-1-4
210 27	—	弥生土器壺	第13b面	土器群	11-1様式	口径：25.1(1/9)	外：ハケメ、スス付着 内：ナデ、工具痕	90-3(C)	X I - 57-7
210 28	—	弥生土器壺底部	第13b面	土器群	11-1様式	口径：7.4(2/3)	外：指押さえナデ、ハケメ 内：指押さえナデ 図IV-210:28と同一片か?	90-3(C)	X I - 57-3
210 29	—	弥生土器壺底部	第13b面	土器群	11-1様式	口径：6.8~7.2(完)	外：ハケメか、底面へラ削り 内：— 図IV-210:27と同一片か?	90-3(C)	X I - 57-6
212 1	130	弥生土器壺	第13b層上部	土器群	11-4様式	口径：6.4~6.8(完)	外：ハケメ 内：— (生)?	90-3(C)	X I - 57-5
212 2	—	弥生土器壺	第13b層上部	土器群	11-3様式	頸部径：11.1~11.8(完) 底径：7.3~7.5(完)	外：沈線文10条+α、へらミガキ、黒色物質塗布 内：ナデ後へらミガキ (生)	90-5	III - 63-1
212 3	130	弥生土器壺	第13b層	土器群	11-2様式	口径：19.6(1/7)	中部瀬戸内系 外：割目貼付凸帯付、へらミガキ 内：へらミガキ	90-1	X II - 104-3
212 4	—	弥生土器壺	第13b層	土器群	11-2様式	口径：10.6(1/4) 最大頸径：26.4(1/4)	外：段、段、へらミガキ、へらミガキ、猪尻後穿孔1 内：へらミガキ	90-3(B)	VI - 43-1
212 5	—	弥生土器壺	第13b層	土器群	11-2様式	口径：15.6(1/4)	外：段 内：指押さえ後へらミガキ	90-3(B)	VI - 43-2
212 6	—	弥生土器壺	第13b層	土器群	11-2様式	口径：10.5(1/3)	外：割出凸帯上沈線文1条、穿孔1個、へらミガキ 内：へらミガキ	90-3(A)	II - 77-1
212 7	—	弥生土器壺	第13b層	土器群	11-2様式	口径：15.6(1/2弱)	外：段上沈線文2条、へらミガキ 内：へらミガキ、モミ痕	90-3(A)	II - 77-2
212 8	—	弥生土器壺	第13b層	土器群	11-2様式	口径：14.0(1/8)	外：沈線文1条(沈線内に赤色顔料付着)、へらミガキ 内：へらミガキ	90-2(H3)	VI - 58-3
212 9	—	弥生土器壺	第13b層	土器群	11-2様式	口径：14.4(2/5)	外：沈線文2条、穿孔1個、へらミガキ、黒色物質塗布 内：へらミガキ	90-3(B)	VI - 43-3
212 10	—	弥生土器壺	第13b層	土器群	11-2様式	口径：19.8(1/8) 底径：8.2(完)	外：段上沈線文1条、沈線文4条+α、へらミガキ 内：へらミガキ	89-1	I - 112-1
212 11	—	弥生土器壺	第13b層	土器群	11-3様式	口径：21.0(1/5+1/6)	外：沈線文(6、7、4、4条)、穿孔2個(対)のみ残存、へらミガキ	93-2	X VI - 64-1
212 12	130	弥生土器壺	第13b層	土器群	11-3様式	口径：17.0(1/6)	外：へらミガキ (生)	90-3(A)	II - 77-3
213 13	—	弥生土器壺	第13b層	土器群	11-4様式	口径：22.0(1/9)	外：ヨコナデ、へらミガキ? 内：へらミガキ	90-1	X II - 104-2
213 14	131	弥生土器壺底部	第13b層	土器群	11-2様式	口径：10.5~10.8(一部欠)	外：斜輪のある木葉文 内：—	90-3(A)	II - 77-5
213 15	131	弥生土器壺底部	第13b層	土器群	11-4様式少	口径：7.6~8.0(完)	外：ハケメ後へらミガキ 内：へらミガキ 内外面黒色物質塗布 (生)	90-5	III - 66
213 16	—	弥生土器壺底部	第13b層	土器群	11-4様式少	口径：7.6~8.0(完)	外：ハケメ、底面へラ削り、黒色物質塗布 内：へらミガキ?	89-1	I - 112-4

図版番号 図版番号	写真番号 図版	器種	層序	遺構	時期	法量 (cm)	特徴	調査年度	概要掲載番号
213 18	—	弥生土器蓋底部	第13b層		I-4様式か	底径: 8.1(実)	外: ヘラミガキ、ハケメ 内: ハケメの後ヘラミガキ 内外面黒色物質 塗布 (生)	89-3	I-116-1
213 19	—	弥生土器蓋底部	第13b層		I-4様式か	底径: 9.4(1/4)	外: ヘラミガキ 内: ナテ、スス付着	90-2(H4)	X-47
213 20	—	弥生土器蓋底部	第13b層		I-4~II様式	底径: 9.3~9.4(一部欠)	外: ヘラミガキ、ハケメ 内: ヘラミガキ、ナテ (生)	93-2	未掲載
213 21	—	弥生土器蓋底部?	第13b層		II様式	底径: 5.0(2/5)	外: 指押さへナテ 内: 指押さへナテ	90-5	III-63-2
213 22	—	弥生土器蓋	第13b層		I-2様式	口径: 22.5(1/10)	外: 端部刻目、沈線文、ナテ 内: ココナデ	93-2	未掲載
213 23	—	弥生土器蓋	第13b層		I-2様式	口径: 22.0(1/9)	外: 沈線文2条 内: —	93-2	未掲載
213 24	—	弥生土器蓋底部	第13b層		I-4様式	底径: 7.6(1/2弱)	外: ハケメ、一部スス付着 内: スス付着 (生)	89-1	I-112-5
213 25	—	弥生土器蓋底部	第13b層		II様式か	底径: 8.4(1/4)	外: 沈線文3条、ハケメ後ヘラミガキ (生)	90-3(C)	未掲載
213 26	—	弥生土器蓋	第13b層		I-2様式か	口径: 42.2(1/8)	外: 逆段、ココナテ、楕円字後ヘラミガキ (生)	90-1	XII-104-1
213 27	—	弥生土器蓋	第13b層		I-2様式か	口径: 33.0(1/6)	外: 逆段、ココナテ、楕円字後ヘラミガキ (生)	89-3	I-116-2
213 28	—	弥生土器鉢? 底部 (有孔)	第13b層		I-3~4様式か	底径: 8.8(実) 孔径: 1.4~1.8	外: ヘラミガキ、焼成後表から穿孔1 内: ナテ、ヘラミガキ、工具痕 (生)	90-3(B)	VI-43-4
213 29	131	彌文土器深鉢	第13b層		銘様~長原式	小片	外: 凸部1、糸痕 内: —	90-3(A)	II-77-4
213 30	131	彌文土器深鉢	第13b層		銘様~長原式	小片	外: 刻目凸部1(刻目D字) 内: — (生)	XV-108-1	XVI-64-4
214 31	131	土製投擲	第13b層		弥生時代	長: 3.1 幅: 2.6 厚: 2.3 重さ: 17.2g	一部欠ける、爪跡残る	93-2	未掲載
214 32	131	土製投擲	第13b層		弥生時代	長: 3.9 幅: 2.8 重さ: 19.4g	サマサイト a, b面、上下辺はステップ状剥離、a, b面に主要・大割面面残る	90-2(H3)	VI-58-8
214 33	131	椀形石器	第13b層		弥生時代	長: 4.7 幅: 3.3 厚: 1.0 重さ: 17.5g	頭部2ヶ所に押しつぶされたような細かい割面	93-2	未掲載
214 34	131	サマサイト剥片	第13b層		弥生時代	長: 4.5 幅: 4.5 厚: 1.2 重さ: 31.0g	下辺に微細割面	93-1	XV-108-4
214 35	131	サマサイト剥片	第13b層		弥生時代	長: 3.3 幅: 5.8 厚: 1.0 重さ: 17.2g	緑色片岩 (緑泥石片岩) 外湾半円形	89-1	I-111-1
214 36	132	石砲丁	第13b層		弥生時代	現長: 7.2 現幅: 4.5 厚: 0.65 重さ: 23.1g	頁岩	93-2	未掲載
214 37	132	扁平片刃石斧	第13b層		弥生時代	長: 5.1 幅: 3.0 厚: 1.2 重さ: 40.5g		89-1	I-111-2
214 38	131	石製投擲	第13b層		弥生時代	長: 4.2 幅: 3.1 厚: 2.65 重さ: 44.8g		93-2	未掲載
214 39	131	石製投擲	第13b層		弥生時代	長: 4.4 幅: 2.7 厚: 2.5 重さ: 38.6g		93-2	未掲載
215 40	132	木製容器	第13b層		弥生時代	口径: 6.2~(1/2弱) 底径: 6.8~ 現高: 7.4	樹種: ヤマグル 外: 竹筒状工具で凹みをつける、小孔 (未露通)	93-1	XV-108-2
215 41	—	木製把手付槽	第13b層		弥生時代	現長: 30.3 最大幅: 10.5 高さ: 5.6	現在自然乾燥状態で埋没出来ず	90-3(B)	VI-43-5
215 42	132	木製鉢	第13b層		弥生時代	口径: 23.8(1/5) 底径: 10.2(実) 現高: 13.5	樹種: ヤマグル 穿孔? 5個あり	92-7	未掲載
215 43	132	不明木製品	第13b層		弥生時代	現長: 60.9 現幅: 9.3 厚: 2.4(柄)	樹種: ヤマグル 片削を欠失した一木平鋸か、先端部に両面から挟り、 全面炭化	93-1	XV-109
216 44	132	不明木製品	第13b層?		弥生時代	現長: 31.0 現幅: 5.0 厚: 1.5	樹種: アカガシ面 曲柄又鋸の刃か	93-1	XV-105-4
216 45	133	組合せ銅	第13b層		弥生時代	(銅身) 現長: 14.9 現幅: 10.7 厚: 1.9	柄付 蓄積に起る痕が残る	93-1	XV-108-3
217 46	—	木製直柄平鉢	第13b層		弥生時代	現長: 22.5 現幅: 10.0 厚: 4.5	側縁に挟り (溝柄のためものか)、遺物不明	90-3(A)	II-78-2
217 47	133	不明木製品	第13b層		弥生時代	現長: 29.9 現幅: 14.5 厚: 4.0	三角形の穿孔1残る (底縁に糸痕のためか)、隆起の片側に7~8本の幅1mmの溝 あり溝柄のためものか、遺物不明	90-3(A)	II-78-1
217 48	133	不明木製品	第13b層		弥生時代	現長: 29.6 現幅: 4.0 厚: 2.5	樹種: サカキ 裏面に小孔が1個つあるが、貫通しているか不明	93-1(B)	未掲載
217 49	134	不明木製品	第13b層		弥生時代	現長: 9.1 現幅: 3.5 厚: 0.95	樹種: アカガシ面 上方2/3の高さは生きている、穿孔あり	93-1(B)	未掲載
217 50	134	不明木製品	第13b層		弥生時代	長: 4.0 幅: 2.7 厚: 1.9	樹種: ヒノキ	90-3(A)	未掲載
217 51	134	不明木製品	第13b層		弥生時代	長: 6.35 幅: 3.5 厚: 3.25	樹種: スギ	93-1	未掲載
217 52	134	不明木製品	第13b層		弥生時代	長: 7.65 幅: 4.1 厚: 1.2	樹種: 不明	90-2(H2)	未掲載
217 53	134	不明木製品	第13b層		弥生時代	長: 7.6 幅: 5.1 厚: 2.9	樹種: サカキ	93-1	未掲載
217 54	134	不明木製品	第13b層		弥生時代	長: 5.0 幅: 4.9 厚: 2.3	樹種: 不明	90-3(A)	未掲載
217 55	134	不明木製品	第13b層		弥生時代	長: 9.1 幅: 7.1 厚: 1.4	樹種: 不明	90-3(A)	未掲載
217 56	134	不明木製品	第13b層		弥生時代	長: 9.9 幅: 9.5 厚: 5.3	樹種: 不明	90-3(A)	未掲載
217 57	134	不明木製品	第13b層		弥生時代	長: 10.0 幅: 6.3 厚: 5.6	樹種: アツノキ	90-3(A)	未掲載
218 58	134	不明木製品	第13b層		弥生時代	長: 10.8 幅: 5.6 厚: 3.5	樹種: ヤブツバキ	90-3(A)	未掲載
218 59	134	不明木製品	第13b層		弥生時代	長: 11.0 幅: 8.3 厚: 2.3	樹種: 不明 未露通穿孔2	90-3(A)	未掲載
218 60	134	不明木製品	第13b層		弥生時代	長: 11.4 幅: 6.8 厚: 2.5	樹種: スギ 未露通小孔26	90-3(A)	未掲載
218 61	134	不明木製品	第13b層		弥生時代	長: 11.5 幅: 9.9 厚: 2.6	樹種: 不明	90-3(A)	未掲載
218 62	134	不明木製品	第13b層		弥生時代	長: 13.7 幅: 3.2 厚: 2.7	樹種: エノキ	90-3(A)	未掲載
218 63	134	不明木製品	第13b層		弥生時代	長: 13.7 幅: 4.4 厚: 3.0	樹種: 不明 未露通小孔16	90-3(A)	未掲載
218 64	135	不明木製品	第13b層		弥生時代	長: 14.6 幅: 6.8 厚: 4.4	樹種: コナラ面	90-3(A)	未掲載
218 65	135	不明木製品	第13b層		弥生時代	長: 14.7 幅: 5.3 厚: 3.8	樹種: 不明 穿孔1(「く」の字に貫通)、線刻	90-3(A)	未掲載
218 66	135	不明木製品	第13b層		弥生時代	長: 18.0 現幅: 8.5 厚: 4.9	樹種: ケヤキ 未露通3	90-3(A)	未掲載
219 67	135	不明木製品	第13b層		弥生時代	長: 22.9 幅: 8.8 厚: ~2.2	樹種: コナラ面	90-3(A)	未掲載
219 68	135	不明木製品	第13b層		弥生時代	長: 22.5 幅: 8.5 厚: 4.9	樹種: コナラ面	90-3(A)	未掲載
219 69	135	不明木製品	第13b層		弥生時代	長: 23.3 幅: 5.9 厚: 4.95	樹種: ヤブツバキ	90-3(A)	未掲載
219 70	135	不明木製品	第13b層		弥生時代	長: 25.1 幅: 8.3 厚: 2.9	樹種: 不明 穿孔1、裏面炭化	90-3(A)	未掲載
219 71	135	不明木製品	第13b層		弥生時代	長: 43.0 幅: 13.2 厚: 5.6	樹種: 不明 穿孔1、未露通孔(5、2)	90-2(H4)	未掲載
220 72	136	木製高杯	第13b層		弥生時代	口径: 23.9(1/2) 胴径: 22.8(1/2) 器高: 15.2	樹種: ヤマグル 積木取り、一木取り、杯部と脚部に低い削出凸帯、杯部 内面に凸帯、杯部内面と外面全体に黒漆を塗った後、凸帯を除く外面全体 に赤彩で3種類の木葉文と双脚立で6つの文様帯を描く	89-2	I-113・114
225 1	136	木製蓋	第14-1面	溝39	弥生時代	口径: 37.0(蓋干のみ) 現高: 6.4	外: 段上沈線文5条、ヘラミガキ、ハケメ後ヘラミガキ 内: ナテ、板ナ デ、ヘラミガキ 内外面黒色物質塗布 (生)	93-1	XV-107-4
225 2	—	弥生土器蓋体部	第14-1面直上		I-2様式	最大直径: 30.6(1/4+1/4)	外: 段上沈線文5条、ヘラミガキ、ハケメ後ヘラミガキ 内: ナテ、板ナ デ、ヘラミガキ 内外面黒色物質塗布 (生)	93-1	XV-107-1
225 3	—	弥生土器蓋	第14-1面直上		I-3様式か	口径: 19.2(1/4)	外: 端部刻目、スス付着 内: コナデ、ハケメ (生)	92-7	未掲載
225 4	—	弥生土器蓋底部	第14-1層		I-3~4様式	底径: 10.4(1/4)	外: ハケメ、ハツナテ、工具痕 内: ヘラミガキ (生)	93-2	未掲載
225 5	136	弥生土器蓋蓋	第14-1層		I-2~3様式	口径: 10.7(2/3) 孔径: 0.35 器高: 3.1	外: ヘラミガキ、穿孔1個 内: ヘラミガキ、スス付着 内外面黒色物質 塗布 (生)	93-1	XV-107-2

図版番号	写真番号	器種	層序	遺構	時期	法量 (cm)	特徴	調査年度	概要掲載番号
225 6	136	弥生土器壺蓋	第14-1層		1-2~3様式	口径:10.8~10.9(一部欠) 孔径:0.5 器高:4.5	外:ヘラミガキ、穿孔1 内:ヘラミガキ、指押さえ 内外面黒色物質塗布	93-1	XV-107-3
225 7	136	凹基式石鏡	第14-1層		弥生時代	長:2.3 幅:1.6 厚:0.4 重さ:0.8g	サヌカイト 逆剃去非材料 ｂ面は鏡が通る	93-2	XVI-63-6
225 8	136	凹基式石鏡	第14-1層		弥生時代	長:3.6 幅:2.3 厚:0.3 重さ:2.1g	サヌカイト 刃縁に鋸歯状の細かい凹凸、b面には大割断面が残る	93-2	XVI-63-7
225 9	136	サヌカイト削片	第14-1層		弥生時代	長:4.5 幅:1.8 厚:0.5 重さ:3.5g	サヌカイト 2次加工あり	90-5	III-67
225 10	136	紡錘状木製品	第14-1層		弥生時代	現長:4.35 幅:1.25 厚:0.3	樹種不明	93-1	未掲載
225 11	136	凹基式石鏡	第14-2層		弥生時代	現長:3.1 幅:1.7 厚:0.35 重さ:1.1g	サヌカイト	93-2	XVI-63-5
225 12	136	凹基式石鏡	第14-2層		弥生時代	長:2.5 幅:2.0 厚:0.4 重さ:1.1g	サヌカイト	93-2	XVI-63-8
225 13	136	不明木製品	第14-2層		弥生時代	長:11.2 幅:2.0 厚:1.0	樹種:コナラ亜属	90-3	XVI-63-8
226 1	—	不明木製品	第14-2面		弥生時代	現長:49.9 幅:7.5 厚:6.9	遺物不明 樹種:クリ 加工で胴部作り出している、下部炭化	93-2	XVI-67-1
226 2	—	不明木製品	第14-2面		弥生時代	現長:31.0 幅:6.5 厚:6.5	遺物不明 樹種:クリ 加工で胴部作り出している、下部炭化	93-2	XVI-67-2



滑石製品・玉類一覽表

図版番号	種類	出土層位	出土遺構	計測値			特徴				整理段階玉番号	備考	
				径(直径・長軸×短軸)	厚さ	穿孔径	形態	研磨	穿孔	側面			端面
57-119	水晶製切子玉	第8a層		28.0×18.0									
57-120	子持勾玉	第8a層		104.0×46.0	40								
57-121	劍形模造品	第8a層		30.0×27.0	2.5								
57-122	双孔円板	第8a層		15.54×17.89	3.68	2.04・1.82					0934		
57-123	双孔円板	第8a層		21.56×33.67	5.26	2.3・2.12					2589		
57-124	双孔円板	第8a層		17.04×15.6	4.62	2.44					0723		
57-125	双孔円板	第8a層		18.64×14.82	4.36	2.19					0722		
57-126	有孔円板	第8a層		26.27×14.14	4.46	2.27					0721		
57-127	有孔円板	第8a層		19.88×30.3	5.19	2.53					3230		
57-128	有孔円板	第8a層		16.65×17.29	4.27	2.24					2599		
57-129	有孔円板	第8a層		15.78×16.69	3.6	2.44					2698/2699		
57-130	有孔円板	第8a層		15.8×22.53	3.68	2.16					3177		
57-131	双孔円板	第8a層		12.36	4.99	2.15					0725		
57-132	有孔円板	第8a層		17.7×19.91	3.39	2.23					0719		
57-133	有孔円板	第8a層		21.35×14.23	5.19	2.45					0720		
75-223	5	第9a層		4.08	2.47	1.68	1	0	1	0	0620		
75-224	4	第9a層		4.69	2.71	1.65	1	0	1	0	0610		
75-225	6	第9a層		4.66	2.22	1.6	1	0	0	0	0603		
75-226	5	第9a層		4.82	1.71	2.11	1	0	1	1	0608		
75-227	4	第9a層		6.58	2.63	2.25	1	0	1	0	0616		
75-228	4	第9a層		6.13	2.19	2.08	1	0	2	0	0604		
75-229	4	第9a層		5.31	2.77	2.49	1	0	2	2	0615		
75-230	4	第9a層		5.34	3.21	2.05	1	0	2	2	0607		
75-231	4	第9a層		5.62	3.16	2.29	1	0	2	2	0601		
75-232	4	第9a層		5.67	2.3	2.29	1	0	2	2	0609		
75-233	3	第9a層		5.87	2.82	2.1	1	0	1	2	0602		
75-234	4	第9a層		5.85	2.98	1.94	1	0	2	2	0606		
75-235	4	第9a層		5.92	4.37	2.41	1	1	2	2	0611		
75-236	4	第9a層		5.94	3.48	2.29	1	0	2	2	0618		
75-237	4	第9a層		5.04	3.17	2.52	1	0	1	2	0613		
75-238	5	第9a層		6.65	3.35	2.05	1	0	1	1	0619		
75-239	5	第9a層		8.01	3.03	1.65	1	0	1	1	0612		
75-240	6	第9a層		6.89	1.76	2.36					0605		
75-241	4	第9a層		4.95	2.27	2.15	1	0	0	0	0617		
75-242	4	第9a層		5.3	3.54	2.04	2	0	1	2	0677		
75-243	4	第9a層		6.85	3.61	2.35					0953		
75-244	3	第9a層		7.9	3.95	2.27					0614		
75-245	4	第9a層		5.14	1.58	1.93					0784		
75-246	3	第9a層		7.18×6.64	2.7	2.17					0570		
75-247	2	第9a層		7.39	3.33	2.41					0814		
75-248	3	第9a層		6.88×5.93	2.99	2.06					0587		
75-249	2	第9a層		7.6	3.98	2.37					0748		

図版番号	種類	出土層位	出土遺構	計測値			特徴				概要掲載番号	整理段階玉番号	備考	
				径(直径・長軸×短軸)	厚さ	穿孔径	形態		研磨					穿孔
							側面	端面	側面	端面				
75-250	管玉	第9a層		-6.96	6.23		3		1			0621		
75-251	滑石原石	第9a層		63.5×21.0×52.8							XII-73-7			
75-252	紡錘車	第9a層		上径19.0下径36.0	18						XII-73-8			
75-253	紡錘車	第9a層		上径28.0×下径39.0	16						XII-73-5			
75-254	紡錘車	第9a層		上径14.0×下径29.0	14						XII-73-6			
75-255	紡錘車	第9a層		上径16.0×下径38.0	13						XIV-47-3			
75-256	紡錘車	第9a層		上径25.0×下径46.0	8.5						XII-73-4			
75-257	ガラス玉	第9a層		3.3	2.2						XII-73-3			
75-258	ガラス玉	第9a層		4	2.3						XII-73-2			
75-259	ガラス玉	第9a層		4.5	2.1						XII-73-1			
75-260	ガラス玉	第9a層		5	3						XII-73-9			
75-261	切子玉	第9a層		10.5	15						XII-73-14			
75-262	管玉	第9a層		4.4	8.0以上						XII-73-12			
75-263	管玉	第9a層		7.5	16						XII-73-13			
75-264	管玉	第9a層		0.8	14.8						XII-73-10			
75-265	管玉	第9a層		0.63	18.5						XII-73-11			
75-266	管玉	第9a層		7	15.5							0785		
75-267	双孔円板	第9a層		23.28×25.44	3.9	2・1.82						2575		
76-268	双孔円板	第9a層		18.5×20.68	3.63	1.97・2						0777		
76-269	双孔円板	第9a層		18.87×26.88	5.33	2.13・2.19						2586		
76-270	双孔円板	第9a層		18.84×20.36	3.72	2.08・2.06						0756		
76-271	双孔円板	第9a層		18.45×27.48	4.53	2.29・2.29						2592		
76-272	双孔円板	第9a層		24.89×24.43	5.03	1.94・1.95						0787		
76-273	双孔円板	第9a層		13.07	3.54	2.0						0628		
76-274	双孔円板	第9a層		25.4×26.6	5.54	2.34・1.99						0630		
76-275	双孔円板	第9a層		20.43×16.85	3.01	2.04・1.99						0631		
76-276	双孔円板	第9a層		23.71×21.45	5.63	2.18・2.2						0734		
76-277	双孔円板	第9a層		20.48×22.78	4.73	2・2.11・2.02						0629		
76-278	双孔円板	第9a層		23.65×18.5	4.14	2.22・2.3						2585		
76-279	双孔円板	第9a層		13.86×19.43	4.48	2.47・						2236		
76-280	双孔円板	第9a層		16.82×18.1	4	2.56・2.57						2237		
76-281	双孔円板	第9a層		17.66×27.13	4.37	1.74・1.73						0495		
76-282	有孔円板	第9a層		21.05×28.18	4.58	1.98						0681		
76-283	双孔円板	第9a層		17.23×17.56	3.56							0425		
76-284	双孔円板	第9a層		10.76×18.24	3.26	2.37						3231		
76-285	有孔円板	第9a層		17.51×18.14	5.21	1.89						2231		
76-286	有孔円板	第9a層		16.47×16.63	3.52	2.18						2238		
76-287	双孔円板	第9a層		23.83×27.54	4.74	2.3・2.37						3234		
77-288	有孔円板	第9a層		30.47×41.16	7.05	2.56						2285		
77-289	有孔円板	第9a層		20.9×22.48	7.44	2.57						3178		
77-290	有孔円板	第9a層		9.03×14.66	4.12	2.33						2267		
77-291	有孔円板	第9a層		16.33×20.35	4.1	2.27						2232		
77-292	有孔円板	第9a層		21.35×25.57	5.71	2.4								

図版番号	種類	出土層位	出土遺構	計測値			特徴				概要掲載番号	整理段階玉番号	備考	
				径(直径・長軸×短軸)	厚さ	穿孔径	形態		研磨					穿孔
							側面	端面	側面	端面				
77-293	有孔円板	第9a層		24.8×17.46	7.07	2.55						0626		
77-294	有孔円板	第9a層		16.69×24.76	5.02	2.18						0625		
77-295	0	第9a層		17.58×19.38	5.69							3195		
77-296	有孔円板	第9a層		16.01×23.33	4.48	2.19						2234		
77-297	有孔円板	第9a層		20.66×19.21	6.05	2.52						0778		
77-298	有孔円板	第9a層		15.29×21.49	5.01	2.38						0740		
77-299	有孔円板	第9a層		13.4×19.15	2.99	2.23						0786		
77-300	有孔円板	第9a層		17.06×13.89	4.06	2.18						0426		
77-301	有孔円板	第9a層		17.02×23.4	5.71	1.90・1.97						3200		
77-302	有孔円板	第9a層		8.88×13.96	3.54	2.01						2226		
77-303	有孔円板	第9a層		13.97×19.44	4.59	2.23						2224		
77-304	有孔円板	第9a層		12.52×24.25	4.7	2.27						0883		
77-305	有孔円板	第9a層		12.0×21.16	4.73	2.15						2569		
77-306	有孔円板	第9a層		13.47×21.33	4.6	2.46						2230		
77-307	有孔円板	第9a層		16.52×12.48	3.58	2.31						0623		
77-308	有孔円板	第9a層		9.56	3.36							0683		
77-309	有孔円板?	第9a層		10.05×10.90	3.85	2.2						0622		
77-310	有孔円板	第9a層		15.97×14.12	4.69	2.13						2311		
77-311	有孔円板	第9a層		14.49×21.91	5.09	2.21						2228		
77-312	有孔円板	第9a層		18.23×18.48	5.07	2.14						2593		
78-313	有孔円板	第9a層		21.82	4.24	2.2						0757		
78-314	有孔円板	第9a層		10.9	2.84							0758		
78-315	有孔円板	第9a層		14.69×24.94	5.73							2594		
78-316	有孔円板	第9a層		17.24×18.67	3.44	2.52						2235		
78-317	有孔円板	第9a層		15.35×20.47	3.99	1.86						2571		
78-318	有孔円板?	第9a層		16.1×23.81	5.25							0779		
78-319	有孔円板	第9a層		13.3×19.63	4.94	2.28						2227		
78-320	有孔円板	第9a層		23.75×15.2	5.23	2.54						0652		
78-321	有孔円板	第9a層		14.05	3.86	1.89						0739		
78-322	有孔円板	第9a層	導水管横断硅	14.71×16.32	4.87	1.85						2329		
78-323	有孔円板	第9a層		17.4×24.1	5.19	2.03						2574		
78-324	有孔円板	第9a層		14.26×29.23	6.78	2.28						0755		
78-325	有孔円板	第9a層		19.24×25.8	3.13	2.0						3193		
78-326	有孔円板?	第9a層		17.66×22.04	4.69							0427		
78-327	有孔円板	第9a層		2.20×2.20								登録なし		
78-328	有孔円板	第9a層		20.86×23.78	7.8	2.52						2570		
78-329	有孔円板	第9a層		23.96×18.42	5.05	2.25						0494		
78-330	有孔円板	第9a層		24.67×23.67	5.44	2.32						0493		
78-331	有孔円板	第9a層		13.93×16.36	4.36	1.91						2225		
78-332	有孔円板	第9a層		13.52×14.13	3.43	1.89						0590		
78-333	有孔円板	第9a層		15.03×15.47	2.44	2.6						2229		
78-334	0	第9a層		12.41×17.28	2.98							0496		
78-335	有孔円板	第9a層		6.3	3.3							0682		

図版番号	種類	出土層位	出土遺構	計測値			特徴				概要掲載番号	整理段階玉番号	備考	
				径(直径・長軸×短軸)	厚さ	穿孔径	形態		研磨					穿孔
							側面	端面	側面	端面				
78-336	有孔円板	第9a層		11.06×18.18	3	2.4						2266		
78-337	有孔円板	第9a層		16.8×11.31	3.72	1.93						0526		
78-338	有孔円板	第9a層		13.32×16.37	3.86	2.35						2233		
78-339	有孔円板	第9a層		43.14×32.65	4.86	1.69								
92-9	4	第10b面	建物2	6.26	4.18	2.3	1	1	1	2	片	3224		
92-10	4	第10b面	建物2	6.5	4.04	2.38	1	1	1	2	片	3219		
92-11	4	第10b面	建物2	6.53	3.18	2.34	1	0	1	2	片	3228		
92-12	4	第10b面	建物2	6.76	2.83	2.31	1	0	1	2	片	3225		
92-13	4	第10b面	建物2	6.15	3.34	2.26	1	1	1	2	片	3223		
92-14	4	第10b面	建物2	6.28	2.51	2.28	1	0	1	2	片	3222		
92-15	4	第10b面	建物2	6.49	3.11	2.28	1	1	1	2	片	3220		
92-16	4	第10b面	建物2	6.54	2.92	2.32	1	1	1	2	片	3226		
92-17	4	第10b面	建物2	6.62	2.77	2.28	1	1	1	2	片	3218		
92-18	5	第10b面	建物2	6.55	2.82	2.29	1	0	1	1	片	3221		
92-19	4	第10b面	建物2	6.59	3.24	2.27	1	1	1	2	片	3227		
92-20	4	第10b面	建物2	6.46	3.28	2.26	1	0	1	2	片	3217		
92-21	5	第10b面	建物2	8.4	4.9	2.24	1	2	1	1	片	3229		
93-37	4	第10b面	建物8内	4.35	3.02	1.7	2	2	1	0	片	0272		
93-38	4	第10b面	建物8内	3.97	2.67	1.64	1	0	1	0	片	0245		
93-39	4	第10b面	建物8内	4.08	2.57	1.86	1	0	1	0	片?	0062		
93-40	4	第10b面	建物8内	4.34	3.42	1.76	1	0	2	0	片	0154		
93-41	5	第10b面	建物8内	4.95	2.1	1.65	1	0	1	1	片	0208		
93-42	4	第10b面	建物8内	6.33	5.25	2.51	1	0	1	2	片	0198		
93-43	5	第10b面	建物8内	5.19	2.74	1.77	1	0	1	1	片	0207		
93-44	5	第10b面	建物8内	6.42	2.35	1.15	1	0	1	1	片	0040		
93-45	4	第10b面	建物8内	6.3	2.47	1.36	1	0	1	0	片	0061		
93-46	4	第10b面	建物8内	6.37	3	2.46	1	0	1	0	片	0038		
93-47	4	第10b面	建物8内	6.88	3.5	2.07	1	0	1	0	片	0096		
93-48	4	第10b面	建物8内	6.28	2.9	2.11	1	0	1	2	片	0186		
93-49	4	第10b面	建物8内	6.31	3.81	2.28	1	0	1	2	片	0220		
93-50	4	第10b面	建物8内	6.37	4.48	1.9	1	0	1	2	片	0015		
93-51	4	第10b面	建物8内	6.81	3.4	2.28	1	0	1	2	片	0187		
93-52	4	第10b面	建物8内	6.89	3.26	2.23	1	0	1	2	片	0277		
93-53	3	第10b面	建物8内	7.18	3.98	2.21	0	2	2	2	片	0044		
93-54	4	第10b面	建物8内	7.53	3.87	2.07	1	0	2	2	片	0276		
93-55	4	第10b面	建物8内	7.83	2.9	2.78	1	0	1	2	片	0036		
93-56	3	第10b面	建物8内	7.92	3.78	2.34	2	0	1	0	片	0003		
93-57	4	第10b面	建物8内	7.95	2.63	2.49	4	0	1	2	片	0037		
93-58	4	第10b面	建物8内	7.99	3.82	2.43	1	0	1	2	片	0106		
93-59	4	第10b面	建物8内	5.9	3.96	2.33	1	0	1	2	片	0260		
93-60	4	第10b面	建物8内	6.45	3.94	2.73	1	0	2	0	片	0095		
93-61	4	第10b面	建物8内	6.55	4.07	2.04	1	0	2	2	片	0108		
93-62	3	第10b面	建物8内	8.11	4.1	2.35	1	0	1	0	片	0248		



図版番号	種類	出土層位	出土遺構	計測値			特徴				概要掲載番号	整理段階玉番号	備考	
				径(直径・長軸×短軸)	厚さ	穿孔径	形態		研磨					穿孔
							側面	端面	側面	端面				
93-63	5	第10b面	建物8内	8.33	4.59	2.5	2	0	2	1	片	0020		
93-64	5	第10b面	建物8内	6.82	5.5	2.08	3	0	1	1	片	0046		
93-65	4	第10b面	建物8内	5.84	2.82	2.25	1	1	1	2	片	0016		
93-66	4	第10b面	建物8内	6.11	4.66	2.39	1	1	1	2	片	0222		
93-67	4	第10b面	建物8内	6.46	5.03	2.1	1	1	1	2	片	0105		
93-68	4	第10b面	建物8内	6.53	4.13	2.16	1	1	1	2	片	0223		
93-69	4	第10b面	建物8内	7.32	5.28	2.63	1	1	1	2	片	0107		
93-70	3	第10b面	建物8内	7.56	4	2.36	0	1	1	2	片	0304		
93-71	3	第10b面	建物8内	7.89	4.3	2.34	1	0	1	2	片	0232		
93-72	3	第10b面	建物8内	8.11	3.22	2.08	1	1	1	2	片	0273		
93-73	4	第10b面	建物8内	8.73	4.34	2.65	1	1	1	2	片	0094		
93-74	4	第10b面	建物8内	6.9	3.96	2.69	1	1	1	0	片	0224		
93-75	3	第10b面	建物8内	7.91	3.82	2.33	1	0	1	2	片	0261		
93-76	4	第10b面	建物8内	6.85	2.7	2.21	1	0	1	2	片	0056		
93-77	4	第10b面	建物8内	7.62	4.27	2.1	1	0	1	2	片	0109		
93-78	5	第10b面	建物8内	6.26	3.29	2.27	1	1	1	1	片	0014		
93-79	4	第10b面	建物8内	5.95	3.1	2.4	0	0	1	2	片	0221		
93-80	4	第10b面	建物8内	6.18	3.38	2.18	2	1	1	1	片	0193		
93-81	0	第10b面	建物8内	8.02	4.24	2.06	1	0	0	0	片	0189		
93-82	4	第10b面	建物8内	6.37	3.59	2.59	1	1	1	1	片	2538		
94-95	4	第10b面	建物12	5.52	3.06	2	1	1	1	2	片			
94-108	有孔円板	第10b面	建物15	3.4×2.0	0.5							XII-108-73-17		
95-111	5	第10b面	建物25	4.38	2.42	1.5	1	0	2	1	片	2523		
95-112	4	第10b面	建物25	4.88	2.69	1.71	1	0	2	0	片	2524		
95-113	5	第10b面	建物25	5.01	4.02	1.85	1	0	1	1	片	2438		
95-114	5	第10b面	建物25	5.53	2.62	1.26	1	0	1	1	片	2444		
95-115	5	第10b面	建物25	5.55	2.84	2.45	1	0	1	1	片	2437		
95-116	5	第10b面	建物25	6.88	5.01	2.54	1	0	1	1	片	2467		
95-117	4	第10b面	建物25	6.41	4.76	2.05	1	0	1	0	片	2449		
95-118	5	第10b面	建物25	4.4	3.4	1.42	1	0	2	1	片	2431		
95-119	5	第10b面	建物25	6.09	3.12	1.85	1	0	2	1	片	2430		
95-120	5	第10b面	建物25	5.83	4.14	2.41	1	0	2	1	片	2445		
95-121	5	第10b面	建物25	6.14	5.25	2.48	1	0	2	1	片	2522		
95-122	4	第10b面	建物25	5.39	3.11	2.16	1	0	1	2	片	2435		
95-123	4	第10b面	建物25	6.34	3.91	1.97	1	0	1	2	片	2441		
95-124	4	第10b面	建物25	6.87	4.36	1.96	1	0	1	2	片	2531		
95-125	4	第10b面	建物25	5.51	3.09	2.04	1	0	2	2	片	2440		
95-126	4	第10b面	建物25	6.09	2.73	2.21	1	0	2	2	片	2447		
95-127	5	第10b面	建物25	5.99	3.41	1.89	1	1	1	1	片	2429		
95-128	4	第10b面	建物25	6.09	2.14	2.51	1	1	1	0	片	2448		
95-129	4	第10b面	建物25	6.46	2.21	2.22	1	1	1	0	片	2434		
95-130	5	第10b面	建物25	5.92	4.32	2.2	1	1	2	1	片	2428		
95-131	5	第10b面	建物25	6.11	3.36	2.12	1	1	2	1	片	2436		



図版番号	種類	出土層位	出土遺構	計測値			特徴				概要掲載番号	整理段階玉番号	備考	
				径(直径・長軸×短軸)	厚さ	穿孔径	形態		研磨					穿孔
							側面	端面	側面	端面				
95-132	5	第10b面	建物25	7.02	3.38	2.41	1	1	2	1	片	2443		
95-133	4	第10b面	建物15		3.93	2.44	1	1	1	2	片	2530		
95-134	4	第10b面	建物25	5.79	2.12	1.9	1	1	1	2	片	2439		
95-135	4	第10b面	建物25	6.35	4.41	2.41	1	1	1	2	片	2446		
95-136	4	第10b面	建物25	7.39	4.47	2.58	1	1	1	2	片	2484		
95-137	4	第10b面	建物25	5.85	4.22	2.1	1	1	2	2	片	2433		
95-138	4	第10b面	建物25	5.96	3.62	2.39	1	1	2	2	片	2432		
95-139	5	第10b面	建物25	4.28	2.59	1.14	2	0	1	0		2442		
95-140	有孔円板	第10b面	建物25	15.99×21.48	6.23	2.06						2330		
95-141	有孔円板	第10b面	建物25	17.79×21.5	5.85	2.56						2456		
95-142	有孔円板	第10b面	建物25	17.2×19.56	4.92	2.13						2352		
95-143	有孔円板	第10b面	建物25	15.45×20.7	5.92	2.18						2455		
95-144	双孔円板	第10b面	建物25	14.8×21.21	4.82	2.28						2516		
97-13	3	第10b面	ピット3	7.52	2.96	2.55	4	0	1	2	片	0004		
99-15	有孔円板	第10b面	井戸45	19.8×24.32	5.85	2.03						2319		
99-16	有孔円板	第10b面	井戸45	15.84×14.4	5.05	2.06						2318		
99-17	有孔円板	第10b面	井戸45	13.74×21.82	5.87	1.91						2322		
100-37	子持勾玉	第10b面	井戸47	9.1×4.8	2.5						IV-p35-図21-1			
101-5	5	第10b面	土坑10	4.86	2.63	1.48	1	0	2	1	片	2706		
101-6	4	第10b面	土坑10	5.23	2.64	1.63	1	0	1	0	片	2694		
101-7	5	第10b面	土坑10	4.65	2.73	2.27	1	1	2	1	片	2620		
101-8	5	第10b面	土坑10	5.05	2.23	1.84	1	0	2	1	片	2623		
101-9	5	第10b面	土坑10	6.41	3.8	1.87	1	0	2	1	片	2624		
101-10	5	第10b面	土坑10	6.61	3.37	2.27	1	0	2	1	片	2627		
101-11	4	第10b面	土坑10	6.01	3.02	1.97	1	0	1	0	片	2649		
101-12	4	第10b面	土坑10	5.34	2.34	1.87	1	0	1	2	片	2646		
101-13	4	第10b面	土坑10	5.78	3.31	2.12	1	0	1	2	片	2647		
101-14	4	第10b面	土坑10	6.61	3.11	2.5	1	0	1	2	片	2737		
101-15	4	第10b面	土坑10	6.3	3.83	1.96	1	0	2	2	片	2743		
101-16	5	第10b面	土坑10	5.73	3.62	1.87	1	1	1	1	片	2626		
101-17	5	第10b面	土坑10	6.01	4.15	1.59	1	1	1	1	片	2622		
101-18	5	第10b面	土坑10	5.46	3.06	2.1	1	1	2	1	片	2648		
101-19	4	第10b面	土坑10	5.12	3.01	2.14	1	1	1	2	片	2625		
101-20	3	第10b面	土坑10	7.23	4.23	2.25	1	1	1	2	片	2742		
101-21	4	第10b面	土坑10	5.5	3.76	2.3	1	1	2	2	片	2621		
101-22	有孔円板	第10b面	土坑10	16.63×22.55	3.11	2.08						3236		
101-23	有孔円板	第10b面	土坑10	19.16×21.73	5.41	2.19						3232		
101-24	有孔円板	第10b面	土坑10	19.54×11.85	3.42	1.92						3233		
101-25	有孔円板	第10b面	土坑10	19.9×26.09	4.75	2.27						3235		
101-26	有孔円板	第10b面	土坑10	13.91×18.79	3.73	2.19						2556		
101-27	双孔円板	第10b面	土坑10	23.3×17.56	4.64	2.68・2.63						2734		
101-28	双孔円板	第10b面	土坑10	14.79×23.86	5.39	2.71						2566		
101-29	双孔円板	第10b面	土坑10	19.58×23.11	3.04	2.15・2.11						2535		

図版番号	種類	出土層位	出土遺構	計測値				特徴				概要掲載番号	整理段階玉番号	備考
				径(直径・長軸×短軸)	厚さ	穿孔径	形態		研磨		穿孔			
							側面	端面	側面	端面				
101-32	4	第10b面	土坑12	5.97	3.07	2.41	1	0	2	2	片	1268		
102-36	5	第10b面	建物25	5.26	4.38	2.11	1	0	1	1	片	2423		
102-37	4	第10b面	建物25	6.62	3.62	2.06	1	0	1	0	片	2415		
102-38	4	第10b面	建物25	5.17	2.06	2.16	1	0	1	2	片	2403		
102-39	4	第10b面	建物25	5.42	3.87	2.06	1	0	1	2	片	2407		
102-40	4	第10b面	建物25	5.53	3.24	2.07	1	0	1	2	片	2405		
102-41	4	第10b面	建物25	6.01	5.64	2.4	1	0	1	2	片	2421		
102-42	4	第10b面	建物25	6.31	3.5	2.14	1	0	1	2	片	2411		
102-43	4	第10b面	建物25	6.84	3.45	2.36	1	0	1	2	片	2419		
102-44	4	第10b面	建物25	7.03	4.33	2.65	1	0	1	2	片	2422		
102-45	4	第10b面	建物25	7.19	3.93	2.2	1	0	1	2	片	2414		
102-46	4	第10b面	建物25	4.5	2.73	1.4	1	0	2	0	片	2404		
102-47	4	第10b面	建物25	4.75	2.68	1.87	1	0	2	0	片	2426		
102-48	4	第10b面	建物25	4.79	3.1	1.51	1	0	2	1	片	2424		
102-49	4	第10b面	建物25	5.31	3.18	2.16	1	0	2	2	片	2408		
102-50	4	第10b面	建物25	6.38	3.68	2.68	1	0	2	2	片	2418		
102-51	4	第10b面	建物25	4.97	4.08	2.09	1	1	1	0	片	2409		
102-52	4	第10b面	建物25	5.36	3.78	1.88	1	1	1	2	片	2410		
102-53	4	第10b面	建物25	5.38	2.34	2.4	1	1	1	2	片	2401		
102-54	4	第10b面	建物25	5.39	3.28	2.16	1	1	1	2	片	2402		
102-55	5	第10b面	建物25	5.64	2.69	2.14	1	1	2	1	片	2406		
102-56	4	第10b面	建物25	5.8	4.82	2.38	1	1	1	2	片	2412		
102-57	4	第10b面	建物25	6.04	4.13	2.11	1	1	1	2	片	2417		
102-58	4	第10b面	建物25	6.06	3.41	2.23	1	1	1	2	片	2400		
102-59	4	第10b面	建物25	6.63	3.67	2	1	1	1	2	片	2413		
102-60	5	第10b面	建物25	5.57	3.78	1.7	2	0	1	1	片	2420		
102-61	3	第10b面	建物25	7.28	3.4	1.65		0	4	2	両	2425		
102-62	0	第10b面	建物25	(7.63)	3.36	2.36		0			片	2372		
102-63	有孔円板	第10b面	土坑14	12.33×13.66	3.42	2.19						3176		
102-64	双孔円板	第10b面	建物25	18.97×21.61	5.29	2.23・2.27						2380		
102-65	有孔円板	第10b面	建物25	(10.07・17.79)	5.22					1	片	2427		
102-66	5	第10b面	土坑43	6.53	3.5	2.3	1	0	2	1	片	0049		
102-67	4	第10b面	土坑43	7.45	5.09	2.31	1	1	1	2	片	0194		
107-129	4	第10b面	溝42	5.35	2.98	2.44	1	0	1	2	片	2568		
107-130	4	第10b面	溝42	5.51	2.63	2.25	1	0	1	2	片	2567		
107-131	4	第10b面	溝42	6.8	3.18	1.99	1	0	1	2	片	2310		
110-19	5	第10b面	溝42	4.51	3.4	1.62	1	0	1	1	片	2590		
111-6	有孔円板	第10b面	土器集積遺構1	23.27×29.4	6.57	2.91・3.12						3192		
111-7	5	第10b面	土器埋納遺構79	6.3	3.35	2.07	1	0	1	1	片	3185		
111-8	5	第10b面	土器埋納遺構79	6.38	3.53	2.2	1	0	1	1	片	3191		
111-9	5	第10b面	土器埋納遺構79	6.42	3.49	2.02	1	0	1	1	片	3183		
111-10	4	第10b面	土器埋納遺構79	6.05	2.97	2.08	1	0	1	2	片	3184		
111-11	4	第10b面	土器埋納遺構79	6.1	3.06	2.12	1	0	1	2	片	3187		

図版番号	種類	出土層位	出土遺構	計測値			特徴						整理段階玉番号	備考
				径(直径・長軸×短軸)	厚さ	穿孔径	形態		研磨		穿孔			
							側面	端面	側面	端面		側面	端面	
111-12	4	第10b面	土器埋納遺構79	6.22	3.42	2.19	1	0	1	1	2	片	3188	
111-13	4	第10b面	土器埋納遺構79	6.24	3.76	2.13	1	1	1	1	0	片	3189	
111-14	4	第10b面	土器埋納遺構79	6.09	3.92	2.14	1	1	1	1	2	片	3186	
111-15	4	第10b面	土器埋納遺構79	6.28	3.59	2.09	1	1	1	1	2	片	3190	
114-20	5	第10b面	落ち込み1	5.62	3.26	1.95	1	0	2	2	1	片	2995	
114-21	4	第10b面	落ち込み1	4.65	2.59	1.33	1	0	2	2	0	片	2885	
114-22	4	第10b面	落ち込み1	7.1	3.83	2.34							2942	
114-23	3	第10b面	落ち込み1	7.25	5.18	2.26							2909	
114-24	4	第10b面	落ち込み1	6.75	3.47	2.1							2840	
114-25	4	第10b面	落ち込み1	4.92	3.55	2.15	1	0	2	2	2	片	2990	
114-26	4	第10b面	落ち込み1	5.79	3.18	2.4	1	0	2	2	2	片	2996	
114-27	4	第10b面	落ち込み1	6.35	3.64	2.54	1	0	2	2	2	片	2991	
114-28	5	第10b面	落ち込み1	6.52	3.47	2.51	1	1	2	1	2	片	2993	
114-29	4	第10b面	落ち込み1	5.22	3.78	2.02	1	1	2	2	2	片	2994	
114-30	4	第10b面	落ち込み1	5.43	3.95	2.15	1	1	2	2	2	片	2992	
114-31	双孔円板	第10b面	落ち込み1	13.5×18.21	5.5	2.12							3025	
114-32	有孔円板	第10b面	落ち込み1	13.59×15.66	6.77	2.26							2968	
114-33	有孔円板	第10b面	落ち込み1	15.95×16.25	6.73	2.1							3034	
114-34	有孔円板	第10b面	落ち込み1	16.76×15.94	7.79	2.14							2969	
114-35	有孔円板	第10b面	落ち込み1	13.41×12.16	3.53	1.9							2906	
114-36	有孔円板	第10b面	落ち込み1	15.19×18.06	4.13	2.33							3012	
114-37	有孔円板	第10b面	落ち込み1	14.95×19.74	4.11	2.2							3018	
114-38	有孔円板	第10b面	落ち込み1	23.64×25.27	7.02	3.39							2907	
114-39	有孔円板	第10b面	落ち込み1	28.02×27.81	6.48	2.18							2790	
115-7	4	第10b面	耕作痕2	5.26	2.85	2.03	1	0	1	1	1	片	3197	
115-8	4	第10b面	耕作痕2	4.47	4.28	2.14	3	0	2	0	0	片	3198	

\* 特徴の項目については第VI章3の臼玉の分類基準を参照のこと

\*\* 有孔円板の径については最も長い辺を横にしてそれと直角の方向を短辺として計測した。

(財)大阪府文化財センター調査報告書 第79集

八尾市・東大阪市所在

池島・福万寺遺跡 2 遺構・遺物編

---

発行 2002年 8月30日  
財団法人 大阪府文化財センター  
〒590-0105 大阪府堺市竹城台 3-21-4

印刷 明新印刷株式会社

